

# 新保田中村前遺跡Ⅱ

一級河川染谷川河川改修工事に伴う  
埋蔵文化財発掘調査報告書第2分冊

住居・竪穴状遺構の調査

〈本文編〉

1992

財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団





しん ぼ た なかむらまえ  
**新保田中村前遺跡Ⅱ**

一級河川染谷川河川改修工事に伴う  
埋蔵文化財発掘調査報告書第2分冊

住居・竪穴状遺構の調査

〈本文編〉

1992

財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団





101号住居全景



101号住居出土羽釜



重複する住居群 第4次(昭和62年度)調査区I・II面全景(北から)





住居出土の磨製石鏃



154号・169号住居の遺物出土状況



弥生～古墳時代前期の住居群  
第5次(昭和63年度)調査区Ⅳ面全景  
(北から)



## 序

高崎市新保田中町の地域を流れる染谷川の河川改修工事は昭和59年度より始まりました。ご承知のようにこの地域は、関越自動車道の建設工事に伴い発掘調査された新保遺跡に隣接しており、工事着工前から埋蔵文化財発掘調査の必要性がさげばれていました。関係機関の努力により昭和63年度まで、自然の恵みである水との戦いの中で、工事と併行して調査が行われました。古墳時代前期の前方後方形周溝墓をはじめ、同時代の木製品、水田跡、住居跡等貴重な遺構・遺物が記録保存されました。

記録保存された遺構・遺物等は、平成元年度より3年計画で報告書刊行のための整理作業を行い、既に成果のまとまった木製品等については、平成元年度に「新保田中村前遺跡Ⅰ」として報告書を刊行しました。これに次いで今回、住居跡等の成果がまとまりましたので「新保田中村前遺跡Ⅱ」の報告書を刊行することにしました。

発掘調査から報告書刊行まで県土木部河川課、高崎土木事務所、高崎市教育委員会、県教育委員会文化財保護課、新保田中町区長等には本事業遂行に多大なご尽力をいただき、また、5年間にわたる調査を担当した職員には、酷暑・酷寒の中、水との戦いの中で、労苦を強いました。これら調査関係者の皆様に衷心より感謝申し上げたく存じます。

本報告書を上梓するにあたり、本書が本県の歴史を解明する上での資料として、広く活用されることを願い序とします。

平成4年3月

財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団  
理事長 小寺 弘 之





# 例 言

1. 本書は、一級河川染谷川河川改修工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書の第2分冊「新保田中村前遺跡Ⅱ」である。第1分冊では、溝や水田・畠といった生産跡を中心として、他に河川跡・井戸を報告した。本書、第2分冊では住居を報告する。続いて、第3分冊では墓跡を中心に報告し、最後には調査のまとめとして成果と今後の課題を述べる予定である。
2. 新保田中村前遺跡は、群馬県高崎市新保田中町字村東42,43番地他、村前233-1,233-2,235番地他、田中565,566,563-1番地他、稲荷265,267-1,268-1番地他、下り柳1-1,20-1番地他、村北602-1番地他に所在する。遺跡名は、大字に相当する「新保田中」に、当初の発掘区内で最も広い小字である「村前」を付した。事業は5年間継続しており、繁雑を避けるため遺跡名は一種で通した。
3. 発掘調査は、群馬県土木部河川課の委託により、(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団が実施した。
4. 調査を実施した期間は次の通りである。

発掘調査	第1次調査	昭和59年10月1日～昭和60年12月28日
	第2次調査	昭和60年9月2日～昭和61年3月31日
	第3次調査	昭和61年7月1日～昭和62年3月31日
	第4次調査	昭和62年5月20日～昭和63年3月26日
	第5次調査	昭和63年4月7日～昭和63年12月28日
整理作業	第1年次	平成元年6月1日～平成2年3月31日
	第2年次	平成2年6月7日～平成3年3月31日
	第3年次	平成3年5月1日～平成3年9月31日

5. 調査の体制は次の通りである。

事務担当 白石保三郎、邊見長雄、井上唯雄、松本浩一、大沢秋良、上原啓己、神保侑史、定方隆史、住谷進、徳江紀、巾隆之、国定均、笠原秀樹、須田朋子、小林昌嗣、吉田有光、柳岡良宏、「野鳥のふ江、吉田恵子、吉田笑子、並木綾子、今井もと子、松井美智子、大沢美佐保、大島敬子、小野沢春美、石田智子、龍崎めぐみ、角田みづほ」(カッコ内事務補助員)

調査担当	第1次調査	石坂 茂((財)群馬県埋蔵文化財調査事業団調査研究員)	
		徳江秀夫( 同 上 )	
		大西雅広( 同 上 )	
	第2次調査	友廣哲也( 同 上 )	
		徳江秀夫( 同 上 )	
		小林裕二( 同 上 )	
	第3次調査	相京建史( 同 上 )	主任調査研究員)
		小島敦子( 同 上 )	調査研究員)
		松村和男( 同 上 )	)
	第4次調査	相京建史( 同 上 )	主任調査研究員)
		麻生敏隆( 同 上 )	調査研究員)

	松村和男(	同	上	)
第5次調査	相京建史(	同	上	主任調査研究員)
	中山茂樹(	同	上	)
	小島敦子(	同	上	)

6. 本書作成の担当は次の通りである。

編 集	相京建史、小島敦子			
本文執筆	石坂茂、徳江秀夫、友廣哲也、小林裕二、松村和男、麻生敏隆、相京建史、小島敦子(なお、文責は文末に記した。)			
遺構写真	石坂茂、徳江秀夫、友廣哲也、小林裕二、松村和男、麻生敏隆、中山茂樹、相京建史、小島敦子			
遺物写真	佐藤元彦((財)群馬県埋蔵文化財調査事業団技師)			
金属器・動物遺存体保存処理	関邦一((財)群馬県埋蔵文化財調査事業団技師)、小村浩一((財)群馬県埋蔵文化財調査事業団整理補助員)			
木器・植物遺存体保存処理および実測・樹種同定プレバート作成	北爪健二((財)群馬県埋蔵文化財調査事業団嘱託)、高橋真樹子、五十嵐由美子、小池緑、関口加津枝((財)群馬県埋蔵文化財調査事業団整理補助員)			
土器・石器・金属器等実測	浅井良子((財)群馬県埋蔵文化財調査事業団嘱託)、山崎由紀枝、富永セン、新谷さか江、岩淵フミ子、岸トキ子、萩原光枝、伊東博子、笹尾ヨシ子、立見美代子、宇佐美征子、((財)群馬県埋蔵文化財調査事業団整理補助員)			
遺構図面整理	高橋とし子、阿部和子、田中富子、山口淳子、金子ミツ子、狩野芳子、須田育美(同上)			
遺構測量・図面トレース	株式会社測研			
遺物観察	土器	大西雅広、相京建史、小島敦子		
	石器	麻生敏隆		
	瓦	大江正行		
	木器	相京建史		
	金属器	相京建史		

7. 発掘調査および本書の作成にあたり、下記の諸氏よりご助言、ご協力を得た。記して感謝の意を表したい。(敬称略・五十音順)

新井房夫、鈴木三男、山崎一、新保田中町区長

8. 出土遺物は一括して(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団・群馬県埋蔵文化財調査センターが保管している。

9. 以下の方々には、発掘および整理作業に従事していただいた。記して感謝いたします。(敬称略、順不同)

白石典之、赤堀徹(筑波大学大学院生)、松内賢二郎、石鍋敏夫、山田康弘、杉山辰郎(筑波大学学生)、内木真琴(立正大学卒業生)

青木幹昌、阿部イチエ、阿部キヨ、阿部光喜、阿部多加子、阿部忠治、阿部俊治、阿部裕子、阿部広子、飯田五郎、入江由美、内田サダ子、岡田有彦、岡田イソ江、岡田和亥、岡田トシ子、岡田ふじ子、岡田美智子、岡田ヤスノ、萩野佳子、小野里昇久、金井カネ、小柴マツ子、小林千枝子、斎藤文子、桜井裕子、猿谷林造、反町裕雄、反町ハナ、反町正子、高橋旭、高橋サダエ、高橋たか、高橋トモエ、高橋英敏、高橋マス

ミ、高橋由太郎、田島靖美、田島礼子、堤圭子、富沢喜久司、富沢豊、富所恵子、中村キヌエ、中村銀平、中村スミエ、中村浩子、中村ふじの、中村義雄、野沢定雄、原口忠治、原沢昭子、原沢純子、原沢伝十郎、原沢正江、原沢ラク子、深沢玉、深沢ハルミ、深沢ヨシ子、松岡英子、松本玲子、矢島キクエ、矢島幸一、矢島サダ子、矢野利子、矢畑清美、湯浅京子、湯浅作次郎、湯浅千鶴子、湯浅ヤス子、湯浅義雄、横沢あさ子、横沢早苗、横沢テル子、横沢房江、横沢美枝子、吉井信夫、吉田和代（敬称略・五十音順）

## 凡 例

1. 本書の挿図中の北方位は座標北を示す。
2. 本書では新保田中村前遺跡を村前地区と下り柳地区に分けて報告しているが遺構番号は地区毎に付している。したがって両地区に同じ遺構番号がある。遺構を検索する際は地区を柱等で確認のうえ行なう必要がある。
3. 本書における遺構番号は、調査時に付されたものをそのまま使用しているため欠番が生じている。
4. 本調査の記録に用いたグリッドは5m四方で、北東交点をその呼称としている。
5. 遺構断面図で使用したスクリーントーンは以下のとおりである。部分的に異なる場合があるが、その際はその旨凡例を示した。



なお、テフラについては本文中でも略称を用いた。正式名称と給源および現段階での降下年代は以下の通りである。

As-B	浅間Bテフラ	浅間山	1108年
Hr-FA	榛名二ツ岳降下火山灰	榛名山	6世紀初頭
As-C	浅間C軽石	浅間山	4世紀中葉

### 参考文献

町田洋、新井房夫、小田静夫他「テフラと日本考古学—考古学研究と関係するテフラのカatalog」『古文化財に関する保存科学と人文・自然科学』1984

能登 健 1983 群馬県における埋没田畠調査の現状と課題 『群馬県史研究』第17号

坂口 一 1986 榛名山ニツ岳起源FA・FP層下の土師器と須恵器 『荒砥北原遺跡』（財）群馬文

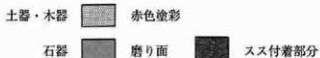
6. 本書で使用した遺物の番号は、種類毎の通し番号であり、種類の略号は以下の通りである。平面図に付した番号は、遺物実測図に付した番号に対応している。

石器 S 木器 W 金属器 ◆ 土器(略号無し)

7. 遺物実測図中で縮尺の異なるものが併載される場合は、それぞれにスケールを付した。混乱を来すと考えられるものについては、それを避けるために以下のマークをスケールと遺物に対応するように付している。なお、1:4の縮尺は最も多いため繁雑になるのをさけるために以下のマークは最小限にとどめている。

1:1 ■ 1:2 ▲ 1:3 ● 1:4 無印か△ 1:6 ○ 1:8 □

8. 遺物実測図中で使用したスクリーントーンは以下のとおりである。



9. 木器は、整理上出土遺構に関係無く、自然木材も含めて通し番号を付している。遺物実測図中で番号の欠落しているものは、自然木材が図化のできなかったものである。

木器実測図中の断面図の表現は、形状を良好に留められた部分を測定し、年輪は木口や割れ口で観察できたものを投影した。側面図は原則として平面図の右側に展開したが、遺存状態の良い方を表現するように心がけたため、左側に表現されたものも多い。

10. 遺物写真図版の倍率は、土器・木器は原則として1/3、大型品は1/6に近づけるようにした。石器は、原則として確は1/3、剥片石器は1/2、石鏃などの小型のものは1/1に近づけるようにした。また、部分的に特徴のある遺物については、近接写真を撮影した。
11. 本文は以下のような点に留意して記述した。

住居 位置はその遺構が含まれるグリッドをすべて記載した。規模はカマド付設住居では、カマドを上にして縦・横を、炉付設住居では炉を奥にして縦・横を設定し、確認面での上場で計測した。深さは確認面からの計測である。形状は、方形・長方形・隅丸方形・隅丸長方形には分類して記載した。重複は重複する遺構とその新旧関係を述べた。主軸方位は規模の計測と同様の設定で、ほぼ中心軸を想定し、方位を測定した。埋没土は埋没土の全体的傾向と、特徴的な埋没土について記載した。詳細は挿図中の各遺構の土層注記を参照されたい。床面は傾斜や凹凸の有無、硬化面の残存状況を記述した。貯蔵穴・周溝・柱穴・入口施設等の住居施設については、検出された位置・規模・遺存状態を記述した。遺物出土状態は、住居全体の遺物の出土状態の傾向を記述した。カマドおよび炉はそれぞれの位置と規模を記述し、遺存状態を述べた。規模の計測は下図の通りである。また、カマドおよび炉に特徴的な遺物の出土状態は、それを記述した。調査所見では各住居の調査から考えられることがらについて記述した。また、調査方法や手順についても記述した。

なお、平面図は住居全体およびカマドとも、床面（使用面）と掘り方面の両方を掲載するよう努めた。図中上位あるいは左側にあるのが、床面の平面図である。

竪穴状遺構 住居とはほぼ同様の視点で記述したが、明確に付属施設が確認できたものはなく、記述項目は少ない。

# 目 次

口絵

例言

凡例

## 第8章 住居の調査

1. 概 要 ..... 1
2. カマド付設住居 ..... 2
  - (1) 村前地区の重複する住居 ..... 2
  - (2) 村前地区の重複しない住居 ..... 141
  - (3) 下り柳地区の住居 ..... 243
3. 炉付設住居 ..... 248
4. 竪穴状遺構の調査 ..... 376
  - (1) 村前地区の竪穴状遺構 ..... 376
  - (2) 下り柳地区の竪穴状遺構 ..... 378
5. 焼 土 跡 ..... 381

写真図版

- 付図 1. 村前地区のカマド付設住居全体図  
2. 村前地区の炉付設住居全体図

## 第1分冊『新保田中村前遺跡Ⅰ』（既刊）目次

- 第1章 発掘調査の経過
- 第2章 遺跡の環境
- 第3章 溝の調査
- 第4章 井戸の調査
- 第5章 河川跡の調査
- 第6章 水田の調査
- 第7章 島の調査

写真図版

付 図

## 第3分冊『新保田中村前遺跡Ⅲ』（未刊）目次

- 第9章 掘立柱建物・ピット群の調査
- 第10章 土坑の調査
- 第11章 墓の調査
- 第12章 遺構外の出土遺物
- 第13章 第1分冊補遺
- 第14章 分析と成果

写真図版

付 図

# 挿 図 目 次

図 1	重複群A	2	図 57	83号住居	57
図 2	重複群Aの土層断面	3	図 58	84号住居	58
図 3	30号住居	5	図 59	84号住居出土遺物	59
図 4	30号住居および須恵器焼窯出土遺物	6	図 60	88号住居と出土遺物	60
図 5	31号住居	7	図 61	88号住居カマド	61
図 6	31号住居出土遺物(1)	7	図 62	90号住居出土遺物	62
図 7	31号住居カマド	8	図 63	90号住居	63
図 8	31号住居出土遺物(2)	8	図 64	90号住居廻り方	64
図 9	35号住居と出土遺物(1)	9	図 65	91号住居と出土遺物	65
図 10	35号住居カマドと出土遺物(2)	10	図 66	91号住居カマド	66
図 11	63号住居出土遺物	11	図 67	92号住居	67
図 12	63号住居	12	図 68	重複群D	67
図 13	64号住居と出土遺物(1)	14	図 69	75号住居と出土遺物	69
図 14	64号住居出土遺物(2)	15	図 70	75号住居カマド	70
図 15	64号住居出土遺物(3)	16	図 71	76号住居	71
図 16	64号住居出土遺物(4)	17	図 72	76号住居カマド	72
図 17	66号住居	18	図 73	76号住居出土遺物(1)	73
図 18	66号住居カマド	19	図 74	76号住居出土遺物(2)	74
図 19	66号住居出土遺物	19	図 75	77号住居と出土遺物	75
図 20	重複群N	20	図 76	重複群H	75
図 21	36号・39号住居	21	図 77	重複群Hの土層断面	76
図 22	36号住居出土遺物	22	図 78	24号住居とカマド	77
図 23	36号・39号住居廻り方	24	図 79	24号住居出土遺物	78
図 24	39号住居出土遺物	25	図 80	103号住居出土遺物	79
図 25	37号住居出土遺物	25	図 81	103号住居	80
図 26	37号住居	26	図 82	104号住居出土遺物	81
図 27	38号住居	27	図 83	104号住居	82
図 28	重複群B	28	図 84	重複群F	84
図 29	重複群Bの土層断面	29	図 85	重複群Fの土層断面(1)	85
図 30	55号住居と出土遺物	30	図 86	重複群Fの土層断面(2)	86
図 31	56号住居出土遺物	31	図 87	重複群Fの土層断面(3)	87
図 32	56号住居	32	図 88	重複群Fの土層断面(4)	88
図 33	56号住居カマド廻り方	33	図 89	101号・126号住居	89
図 34	57号住居出土遺物	33	図 90	101号住居出土遺物	90
図 35	57号住居	34	図 91	101号住居カマド	91
図 36	57号住居廻り方	35	図 92	126号住居カマド	92
図 37	143号住居	36	図 93	111号・134号住居	93
図 38	143号住居出土遺物	37	図 94	111号住居出土遺物とカマド	94
図 39	145号住居出土遺物	38	図 95	134号住居出土遺物とカマド	95
図 40	145号住居とカマド	39	図 96	105号住居と出土遺物	96
図 41	146号住居	40	図 97	105号住居カマド	97
図 42	重複群C	41	図 98	112号住居と出土遺物(1)	98
図 43	重複群Cの土層断面	42	図 99	112号住居出土遺物(2)	99
図 44	68号住居	45	図100	113号住居出土遺物	99
図 45	68号住居カマド	46	図101	113号住居	100
図 46	68号住居出土遺物	47	図102	114号住居	101
図 47	68号住居廻り方	48	図103	114号住居出土遺物	102
図 48	71号・72号住居と出土遺物	49	図104	129号住居カマド	102
図 49	71号・72号住居廻り方	50	図105	129号住居と出土遺物	103
図 50	73号住居	51	図106	106号住居	104
図 51	73号住居カマド	52	図107	106号住居出土遺物	105
図 52	73号住居出土遺物	52	図108	128号住居	105
図 53	74号住居	53	図109	128号住居カマドと出土遺物(1)	106
図 54	74号住居カマド	54	図110	128号住居出土遺物(2)	107
図 55	74号住居出土遺物	54	図111	135号住居出土遺物	107
図 56	83号住居出土遺物	56	図112	135号住居	108

図113	136号住居出土遺物	109	図175	13号住居出土遺物	166
図114	136号住居	110	図176	14号住居	167
図115	137号住居出土遺物	111	図177	14号住居出土遺物	168
図116	137号住居	112	図178	14号住居カマド	169
図117	137号住居カマド	113	図179	15号住居	170
図118	138号住居と出土遺物	114	図180	15号住居出土遺物	171
図119	100号住居と出土遺物	115	図181	16号住居出土遺物	171
図120	115号住居	116	図182	16号住居	172
図121	115号住居カマドと出土遺物	117	図183	17号住居	173
図122	119号住居	118	図184	17号住居出土遺物	174
図123	119号住居出土遺物	119	図185	18号住居	175
図124	120号住居	120	図186	18号住居出土遺物	176
図125	120号住居出土遺物	121	図187	21号住居出土遺物(1)	177
図126	130号・131号住居と出土遺物	122	図188	21号住居	178
図127	132号住居と出土遺物	123	図189	21号住居出土遺物(2)	179
図128	重複群Gと土層断面	124	図190	21号住居出土遺物(3)	180
図129	102号住居	125	図191	23号住居	181
図130	102号住居出土遺物	126	図192	23号住居廻り方とカマド	182
図131	102号住居カマド	127	図193	23号住居出土遺物	183
図132	107号住居	128	図194	26号住居	184
図133	107号住居出土遺物	129	図195	26号住居廻り方・カマドと出土遺物	185
図134	109号住居と出土遺物	130	図196	32号住居出土遺物	186
図135	109号住居カマド	131	図197	32号・33号住居	187
図136	110号住居	132	図198	32号・33号住居廻り方	188
図137	110号住居出土遺物(1)	133	図199	32号住居カマド廻り方	188
図138	110号住居出土遺物(2)	134	図200	33号住居出土遺物	188
図139	127号住居出土遺物	134	図201	40号・41号住居	190
図140	127号住居	135	図202	40号住居出土遺物(1)	190
図141	重複群J	135	図203	40号住居出土遺物(2)	191
図142	121号住居と出土遺物	136	図204	41号住居カマド	191
図143	124号住居カマド	137	図205	41号住居出土遺物	192
図144	124号住居と出土遺物	138	図206	42号住居	193
図145	125号住居	139	図207	42号住居廻り方	194
図146	125号住居出土遺物	140	図208	42号住居出土遺物	195
図147	1号住居出土遺物(1)	141	図209	42号住居カマド	196
図148	1号住居	142	図210	43号・44号住居と43号住居出土遺物	197
図149	1号住居出土遺物(2)	143	図211	43号・44号住居廻り方と44号住居出土遺物	198
図150	1号住居出土遺物(3)	144	図212	45号・46号住居	200
図151	3号住居出土遺物(1)	145	図213	45号・46号住居出土遺物	201
図152	3号住居	146	図214	47号住居と出土遺物	202
図153	3号住居出土遺物(2)	147	図215	47号住居カマド	203
図154	4号住居	148	図216	48号住居と出土遺物	204
図155	4号住居出土遺物(1)	149	図217	49号住居と出土遺物	205
図156	4号住居出土遺物(2)	150	図218	49号住居カマド	206
図157	5号住居	151	図219	50号住居	206
図158	5号住居出土遺物	152	図220	50号住居廻り方	207
図159	6号・7号・8号住居	153	図221	50号住居カマド	207
図160	6号住居カマドと出土遺物	154	図222	50号住居出土遺物	208
図161	7号住居出土遺物	155	図223	51号住居	209
図162	8号住居出土遺物(1)	156	図224	51号住居カマド	210
図163	8号住居出土遺物(2)	157	図225	51号住居出土遺物	210
図164	8号住居カマド	157	図226	52号住居	211
図165	9号住居	158	図227	52号住居出土遺物	212
図166	9号住居廻り方・カマドと出土遺物	159	図228	52号住居カマド	213
図167	9号住居出土遺物(1)	160	図229	53号住居	214
図168	9号住居出土遺物(2)	161	図230	53号住居出土遺物(1)	214
図169	10号住居	162	図231	53号住居出土遺物(2)	215
図170	10号住居出土遺物	163	図232	58号住居	215
図171	12号住居	164	図233	59号住居	216
図172	12号住居カマド	165	図234	60号住居と出土遺物	217
図173	12号住居出土遺物	165	図235	61号住居出土遺物	218
図174	13号住居	166	図236	61号住居カマド	218

図237	61号・62号住居	219	図299	148号住居出土遺物	272
図238	62号住居カマドと出土遺物	220	図300	148号住居上層遺物出土状態・礎土	273
図239	65号住居	221	図301	148号住居の床面	274
図240	65号住居出土遺物	221	図302	148号住居の廻り方	275
図241	67号住居出土遺物	222	図303	149号住居出土遺物(1)	276
図242	67号住居	222	図304	149号住居	277
図243	78号住居	223	図305	149号住居出土遺物(2)と柱穴・炉	278
図244	78号住居カマド	224	図306	149号住居廻り方	279
図245	78号住居出土遺物	224	図307	150号住居	280
図246	79号住居カマド	225	図308	150号住居出土遺物	280
図247	79号住居出土遺物	226	図309	151号住居出土遺物	281
図248	80号住居	227	図310	151号住居の炉	281
図249	80号住居出土遺物	228	図311	151号住居	282
図250	86号住居	228	図312	152号住居出土遺物	283
図251	86号住居出土遺物	229	図313	152号住居	284
図252	81号・82号住居	231	図314	153号住居上層遺物出土状態	286
図253	81号住居カマドと出土遺物	232	図315	153号住居の炉	286
図254	82号住居出土遺物	232	図316	153号住居の床面	287
図255	89号住居出土遺物	232	図317	153号住居廻り方	288
図256	89号住居	233	図318	153号住居出土遺物(1)	289
図257	108号住居	234	図319	153号住居出土遺物(2)	290
図258	116号住居出土遺物	234	図320	154号住居の炉と貯蔵穴	291
図259	116号・118号住居	235	図321	154号住居出土遺物(1)	292
図260	118号住居出土遺物	235	図322	154号住居出土遺物(2)	293
図261	133号住居	236	図323	154号住居出土遺物(3)	294
図262	141号住居	237	図324	154号住居の柱穴	294
図263	141号住居カマド	238	図325	169号住居炉と貯蔵穴	296
図264	141号住居出土遺物	238	図326	169号住居出土遺物(1)	296
図265	142号住居出土遺物	239	図327	169号住居出土遺物(2)	297
図266	142号住居	240	図328	154号・169号住居上層遺物出土状態	298
図267	144号住居	241	図329	154号・169号住居	299
図268	144号住居カマド	242	図330	169号住居出土遺物(3)	301
図269	144号住居出土遺物	242	図331	155号住居上層遺物	302
図270	1号住居出土遺物	243	図332	155号住居の炉・貯蔵穴・柱穴	303
図271	1号住居	244	図333	155号住居出土遺物	304
図272	1号住居カマド	245	図334	156号住居出土遺物	305
図273	2号住居と出土遺物	246	図335	156号住居	306
図274	2号住居カマド	247	図336	156号住居廻り方	307
図275	2号住居	248	図337	157号・165号住居	309
図276	2号住居出土遺物	249	図338	157号・165号住居の断面と157号住居の炉	310
図277	19号住居と出土遺物	250	図339	157号住居出土遺物	311
図278	20号住居出土遺物(1)	251	図340	165号住居出土遺物	312
図279	20号住居出土遺物(2)	252	図341	158号住居遺物出土状態	312
図280	20号住居	253	図342	158号住居	313
図281	93号住居	255	図343	158号住居出土遺物(1)	314
図282	93号住居断面と炉	256	図344	158号住居出土遺物(2)	315
図283	93号住居柱穴・貯蔵穴断面	257	図345	158号住居出土遺物(3)	316
図284	93号住居出土遺物(1)	257	図346	159号住居	317
図285	93号住居出土遺物(2)	258	図347	159号住居断面	318
図286	94号住居の炉	259	図348	159号住居出土遺物	319
図287	94号住居と柱穴	260	図349	160号住居上層遺物出土状態	320
図288	94号住居断面	261	図350	160号住居	321
図289	94号住居出土遺物	262	図351	160号住居炉と出土遺物	322
図290	96号住居	263	図352	161号住居と出土遺物	323
図291	99号住居	264	図353	162号住居	324
図292	99号住居断面	265	図354	162号住居出土遺物	325
図293	99号住居の炉と柱穴	266	図355	163号住居と出土遺物	326
図294	99号住居出土遺物(1)	267	図356	164号住居と出土遺物	327
図295	99号住居出土遺物(2)	268	図357	166号住居	329
図296	147号住居遺物出土状態	269	図358	166号・167号住居上層断面	330
図297	147号住居	270	図359	166号住居の断面と炉・礎土	330
図298	147号住居出土遺物	271	図360	166号住居の柱穴	331



03361	166号住居出土遺物(1)	331
03362	166号住居出土遺物(2)	332
03363	167号住居	334
03364	167号住居の炉・焼土	335
03365	167号住居出土遺物(1)	335
03366	167号住居出土遺物(2)	336
03367	168号住居	337
03368	168号住居出土遺物	338
03369	168号住居の炉と柱穴	339
03370	171A号住居出土遺物(1)	340
03371	171A号住居	341
03372	171A号住居出土遺物(2)	342
03373	171A号住居出土遺物(3)	373
03374	171B号住居	345
03375	171B号住居の断面	346
03376	171B号住居の炉と柱穴	347
03377	171B号住居出土遺物(1)	348
03378	171B号住居出土遺物(2)	349
03379	172号住居上層遺物出土状態	350
03380	172号住居	351
03381	172号住居の断面と柱穴	352
03382	172号住居の炉	353
03383	172号住居出土遺物(1)	354
03384	172号住居出土遺物(2)	355
03385	173A号住居出土遺物	356
03386	173A号・173B号住居遺物出土状態	357
03387	173A号・173B号住居	358
03388	173B号住居出土遺物(1)	359
03389	173B号住居出土遺物(2)	360
03390	174号住居	361
03391	174号住居出土遺物	362
03392	175号住居	364
03393	175号住居断面と柱穴	365
03394	175号住居出土遺物	366
03395	175号住居の炉	367
03396	176号住居	368
03397	176号住居出土遺物	369
03398	177号住居	370
03399	177号住居出土遺物(1)	371
03400	177号住居出土遺物(2)	372
03401	177号住居出土遺物(3)	372
03402	177号住居の炉・柱穴・貯蔵穴	373
03403	178号住居	374
03404	178号住居出土遺物	375
03405	1号型穴状遺構	376
03406	2号型穴状遺構と出土遺物	377
03407	3号・4号型穴状遺構	377
03408	3号型穴状遺構の出土遺物	378
03409	4号型穴状遺構の出土遺物	378
03410	1号型穴状遺構と出土遺物	379
03411	2号型穴状遺構	380
03412	3号型穴状遺構	381
03413	焼土跡の確認図模式図と分布	382

## 写真図版目次

PL. 1	1. 重複群A全景 2. 重複群A全景 3. 30号住居全景 (南から) 4. 30号住居土層断面 (南から) 5. 30号住居土層断面 (南から)	
PL. 2	1. 30号住居内須置器陳列坑 2. 30号住居掘り方 3. 31号住居全景 (西から) 4. 31号住居土層断面 5. 31号住居カマド掘り方土層断面	
PL. 3	1. 31号住居カマド土層断面 2. 31号住居貯蔵穴 (西から) 3. 31号住居貯蔵穴土層断面 4. 31号住居掘り方全景 (西から) 5. 31号住居カマド掘り方全景 (西から) 6. 35号住居全景 (南から) 7. 35号住居カマド掘り方全景 (南から) 8. 35号住居掘り方全景 (南から)	
PL. 4	1. 63号住居全景 (北から) 2. 63号住居カマド遺物出土状態 (北から)	
PL. 5	1. 63号住居掘り方全景 (北から) 2. 63号住居カマド全景 3. 63号住居カマド掘り方土層断面 4. 63号住居カマド掘り方全景 (北から) 5. 64号住居全景 (西から)	
PL. 6	1. 64号住居土層断面 2. 64号住居こもり石出土状態 3. 64号住居土層断面 4. 66号住居掘り方全景 (西から) 5. 66号住居全景 (西から) 6. 66号住居カマド全景 (西から) 7. 66号住居カマド掘り方全景 8. 56号・57号住居全景 (西から)	
PL. 7	1. 55号・56号・57号住居掘り方全景 (西から) 2. 56号住居カマド掘り方全景 (北から) 3. 56号住居カマド全景 (北から) 4. 55号・56号・57号住居全景 (北から) 5. 57号住居カマド全景 6. 57号住居全景 (西から) 7. 141号~145号住居全景 (西から) 8. 143号住居全景 (西から)	
PL. 8	1. 143号住居掘り方全景 (西から) 2. 143号住居掘り方土層断面 (西から) 3. 143号住居カマド全景 (西から) 4. 143号住居カマド全景 (西から) 5. 143号住居カマド掘り方全景 (西から) 6. 149号住居全景 (西から) 7. 145号住居全景 (西から) 8. 145号住居掘り方土層断面 (西から)	
PL. 9	1. 145号住居カマド全景 (西から) 2. 145号住居カマド掘り方全景 (西から) 3. 146号住居掘り方全景 (西から) 4. 68号住居全景 (西から) 5. 68号住居全景 (南から) 6. 68号住居掘り方全景 (南から)	
PL. 10	1. 68号住居掘り方全景 (南から) 2. 68号住居掘り方全景 (西から)	
		3. 68号住居カマド全景 (東から) 4. 68号住居カマド遺物出土状態 (東から) 5. 68号住居カマド土層断面 (南から) PL. 11
		1. 68号住居カマド土層断面 (北から) 2. 68号住居カマド土層断面 (北東から) 3. 68号住居カマド土層断面 (南西から) 4. 68号住居カマド掘り方全景 (東から) 5. 71号住居全景 (西から) 6. 71号住居土層断面 (西から) 7. 71号住居掘り方全景 (西から) 8. 72号住居全景 (西から)
		PL. 12
		1. 72号住居・70号南北土層断面 (東から) 2. 72号住居掘り方全景 (西から) 3. 73号住居南北土層断面 (南東から) 4. 73号住居掘り方全景 (西から) 5. 73号住居カマド掘り方 (西から) 6. 73号住居カマド袖たら割り土層断面 (西から) 7. 74号住居全景 (西から) 8. 74号住居全景 (西から)
		PL. 13
		1. 74号住居掘り方全景 (西から) 2. 74号住居掘り方全景 (西から) 3. 74号住居カマド全景 (西から) 4. 74号住居カマド掘り方全景 (西から) 5. 83号住居全景 (西から) 6. 83号住居A-A'土層断面 (南から) 7. 83号住居土層断面 (南から) 8. 84号住居全景 (西から)
		PL. 14
		1. 84号住居東西土層断面 (南から) 2. 84号住居掘り方全景 (西から) 3. 88号住居全景 (西から) 4. 88号住居全景 (西から) 5. 88号住居カマド全景 (西から) 6. 88号住居掘り方全景 (西から) 7. 88号住居掘り方全景 (西から) 8. 88号住居貯蔵穴全景 (西から)
		PL. 15
		1. 90号住居全景 (西から) 2. 90号住居土層断面 (東から) 3. 90号住居土層断面 (南から) 4. 90号住居掘り方全景 (西から) 5. 90号住居掘り方土層断面 (東北から) 6. 91号住居全景 (西から) 7. 91号住居カマド全景 (西から) 8. 91号住居カマド土層断面
		PL. 16
		1. 91号住居カマド土層断面 (西北から) 2. 91号住居掘り方全景 (西から) 3. 91号住居掘り方全景 (西から) 4. 91号住居カマド掘り方土層断面 (北西から) 5. 92号住居全景 (西から) 6. 92号住居掘り方全景 (西から) 7. 75号住居全景 (西から) 8. 75号住居カマド全景 (西から)
		PL. 17
		1. 75号住居カマド土層断面 (南から) 2. 75号住居掘り方全景 (西から) 3. 75号住居掘り方土層断面 (西から) 4. 75号住居カマド掘り方全景 (西から) 5. 78号住居カマド全景 (西から)

	6. 76号住居全景 (西から)	2. 100号住居全景 (東から)
	7. 76号住居土層断面 (西から)	3. 100号住居掘り方全景 (東から)
	8. 76号住居土層断面 (南から)	4. 115号住居全景 (西から)
P.L. 18	1. 76号住居カマド土層断面 (北東から)	5. 115号住居カマド全景 (西から)
	2. 76号住居カマド土層断面 (南西から)	6. 115号住居カマド掘り方全景 (西から)
	3. 76号住居掘り方全景 (西から)	7. 115号住居掘り方全景 (西から)
	4. 76号住居カマド掘り方全景 (西から)	8. 115号住居カマド掘り方土層断面 (西から)
	5. 76号住居カマド掘り方土層断面 (東カマド)	P.L. 27
	6. 76号住居貯蔵穴土層断面 (西から)	1. 115号住居カマド土層断面 (西から)
	7. 76号・75号・77号住居掘り方全景 (西から)	2. 119号住居全景 (西から)
	8. 77号住居掘り方全景 (西から)	3. 119号住居カマド土層断面 (西から)
P.L. 19	1. 77号住居掘り方土層断面 (西から)	4. 119号住居カマド土層断面 (南から)
	2. 77号住居掘り方土層断面 (南から)	5. 120号住居全景 (西から)
	3. C区、I・II面住居群全景	6. 120号住居カマド全景 (西から)
	4. 101号住居遺物出土状態全景 (西から)	7. 120号住居掘り方全景 (西から)
	5. 101号住居カマド全景 (西から)	8. 120号住居カマド掘り方全景 (西から)
P.L. 20	1. 101号・126号住居掘り方全景 (西から)	P.L. 28
	2. 101号住居カマド掘り方全景 (西から)	1. 130号住居全景 (南から)
	3. 101号住居土層断面 (西から)	2. 132号住居掘り方全景 (東から)
	4. 111号住居全景 (西から)	3. 132号住居カマド掘り方全景 (南東から)
	5. 111号住居カマド全景 (南から)	4. 132号住居カマド掘り方土層断面 (南から)
	6. 111号・134号住居掘り方全景 (西から)	5. 132号住居カマド掘り方土層断面 (西から)
	7. 111号住居カマド掘り方全景 (南から)	6. 102号住居掘り方全景
	8. 111号・134号住居全景 (西から)	7. 102号住居カマド全景 (西から)
P.L. 21	1. 126号住居全景 (北から)	8. 102号住居掘り方全景 (西から)
	2. 126号住居カマド全景 (西から)	P.L. 29
	3. 126号住居カマド掘り方全景 (西から)	1. 102号住居カマド掘り方全景 (西から)
	4. 134号住居全景 (西から)	2. 107号住居全景 (西から)
	5. 134号住居カマド掘り方全景 (西から)	3. 107号住居カマド全景 (西から)
	6. 134号住居掘り方全景 (西から)	4. 107号住居カマド掘り方全景 (西から)
	7. 105号住居カマド掘り方全景 (西から)	5. 107号住居カマド土層断面 (北西から)
	8. 105号・114号・117号・112号住居全景 (西から)	6. 107号住居カマド土層断面 (南東から)
P.L. 22	1. 105号・114号・117号・112号住居全景 (北から)	7. 107号・109号住居掘り方全景 (西から)
	2. 112号住居全景 (北から)	8. 109号住居全景 (西から)
	3. 112号住居カマド土層断面 (西から)	P.L. 30
	4. 112号住居カマド掘り方全景 (西から)	1. 109号住居坪出土状態 (西から)
	5. 112号住居掘り方全景 (西から)	2. 109号住居カマド全景 (西から)
P.L. 23	1. 112号住居掘り方全景 (西から)	3. 109号住居貯蔵穴全景
	2. 113号住居全景 (西から)	4. 109号住居カマド掘り方全景
	3. 113号住居掘り方全景 (西から)	5. 110号住居全景 (西から)
	4. 113号住居カマド全景 (西から)	6. 110号住居カマド遺物出土状態 (西から)
	5. 113号住居カマド掘り方 (西から)	7. 110号住居カマド全景 (西から)
	6. 114号住居カマド全景 (西から)	8. 110号住居カマド全景 (西から)
	7. 114号住居カマド掘り方全景 (西から)	P.L. 31
	8. 129号住居全景 (西から)	1. 110号住居掘り方全景 (西から)
P.L. 24	1. 129号住居掘り方全景 (西から)	2. 110号住居カマド掘り方全景 (西から)
	2. 129号住居カマド掘り方全景 (西から)	3. 110号住居カマド掘り方・土層断面 (西から)
	3. 106号住居全景 (西から)	4. 127号住居掘り方全景 (西から)
	4. 106号住居カマド全景 (西から)	5. 127号住居全景 (西から)
	5. 106号住居掘り方全景 (西から)	6. 127号住居土層断面
	6. 106号住居カマド掘り方全景 (西から)	7. 127号住居掘り方土層断面
	7. 106号住居カマド土層断面 (南から)	8. 24号住居全景 (西から)
	8. 128号住居全景 (西から)	P.L. 32
P.L. 25	1. 128号住居カマド掘り方全景 (西から)	1. 24号住居貯蔵穴遺物出土状態 (南西から)
	2. 128号住居カマド掘り方全景 (西から)	2. 24号住居貯蔵穴全景 (西から)
	3. 135号住居カマド全景 (西から)	3. 103号・104号住居土層断面 (北から)
	4. 135号住居カマド掘り方全景 (西から)	4. 103号・104号住居掘り方全景 (西から)
	5. 135号住居遺物出土状態 (北から)	5. 103号住居カマド全景 (西から)
	6. 136号・137号・135号住居全景 (西から)	6. 103号住居カマド掘り方全景
	7. 138号・136号住居カマド全景 (北から)	7. 103号住居遺物出土状態 (南から)
	8. 137号住居カマド掘り方全景 (西から)	8. 104号住居全景 (西から)
P.L. 26	1. 138号・136号住居カマド掘り方全景 (139号も同じ)	P.L. 33
		1. 121号住居カマド全景 (西から)
		2. 121号住居掘り方全景 (西から)
		3. 121号住居カマド掘り方全景 (西から)
		4. 121号住居全景 (東から)
		5. 121号住居掘り方土層断面 (東から)
		6. 121号住居掘り方全景 (西から)
		7. 124号住居カマド全景 (西から)

PL. 34	8. 124号住居カマド遺物出土状態 (西から)	5. 16号住居遺物出土状態
	1. 124号住居カマド遺物出土状態 (西から)	6. 16号住居カマド全景
	2. 124号住居掘り方全景 (西から)	7. 17号住居全景
	3. 124号住居掘り方遺物出土状態 (西から)	8. 17号住居カマド掘り方全景
	4. 124号住居カマド掘り方全景 (西から)	PL. 44
	5. 124号住居カマド土層断面 (南西から)	1. 18号住居全景
	6. 125号住居全景 (西から)	2. 18号住居カマド掘り方全景
	7. 125号住居カマド全景 (西から)	3. 21号住居全景
	8. 125号住居掘り方全景 (西から)	4. 21号住居カマド全景
PL. 35	1. 125号住居カマド掘り方土層断面 (西から)	5. 21号住居遺物出土状態
	2. 36号・37号住居全景 (東から)	PL. 45
	3. 36号・37号住居掘り方全景 (東から)	1. 21号住居遺物出土状態
	4. 1号住居土層断面 (南から)	2. 21号住居遺物出土状態
PL. 36	5. 1号住居遺物出土状態 (南から)	PL. 46
	1. 1号住居全景 (西から)	1. 23号住居土層断面 (南から)
	2. 1号住居遺物出土状態 (西から)	2. 23号住居土層断面 (東から)
	3. 1号住居掘り方全景 (西から)	3. 23号住居全景 (西から)
	4. 1号住居カマド掘り方全景 (西から)	4. 23号住居遺物出土状態
	5. 1号住居貯蔵穴全景	5. 23号住居カマド全景 (西から)
PL. 37	1. 3号住居全景 (西から)	PL. 47
	2. 3号住居貯蔵穴全景 (西から)	1. 23号住居カマド掘り方全景 (西から)
	3. 3号住居遺物出土状態 (南西から)	2. 23号住居掘り方全景 (西から)
	4. 3号住居カマド全景 (西から)	3. 26号住居全景 (西から)
	5. 3号住居カマド掘り方全景 (西から)	4. 26号住居土層断面 (東から)
	6. 4号住居全景 (西から)	5. 26号住居カマド全景 (西から)
	7. 4号住居全景 (東から)	6. 26号住居掘り方全景
PL. 38	8. 4号住居カマド全景 (西から)	PL. 48
	1. 4号住居南土器群出土状態	1. 32号住居カマド全景 (南から)
	2. 4号住居南土器群	2. 32号住居掘り方全景 (南から)
	3. 4号住居遺物出土状態	3. 32号住居カマド掘り方全景
	4. 4号住居カマド遺物出土状態	4. 33号住居全景 (西から)
	5. 4号住居南土器群下土坑	5. 33号住居掘り方全景 (南から)
	6. 4号住居全景 (西から)	6. 40号住居全景 (西から)
	7. 5号住居カマド全景 (南から)	7. 40号・41号住居全景 (西から)
	8. 5号住居カマド掘り方全景 (南から)	8. 41号住居掘り方全景 (西から)
PL. 39	1. 5号住居全景 (南から)	PL. 49
	2. 6号住居全景 (東から)	1. 40号住居カマド全景 (西から)
	3. 6号・7号・8号住居全景 (南から)	2. 40号住居カマド掘り方全景
	4. 6号住居カマド全景 (西から)	3. 41号住居カマド掘り方全景 (西から)
	5. 8号住居カマド全景 (西から)	4. 41号住居カマド土層断面 (北から)
PL. 40	1. 8号住居全景 (東から)	5. 41号住居カマド土層断面
	2. 8号住居カマド掘り方全景 (西から)	6. 41号住居カマド土層断面
	3. 8号住居遺物出土状態	7. 41号住居掘り方全景 (西から)
	4. 9号住居全景 (西から)	8. 41号住居カマド掘り方全景 (西から)
	5. 9号住居カマド全景 (西から)	PL. 50
	1. 9号住居土層断面	1. 42号住居全景 (東から)
PL. 41	2. 9号住居カマド掘り方全景 (西から)	2. D区住居群全景
	3. 10号住居全景 (西から)	PL. 51
	4. 10号住居カマド全景 (西から)	1. 42号住居・66号遺土層断面 (東から)
	5. 12号住居全景	2. 42号住居・66号遺土層断面 (南から)
	6. 12号住居カマド全景	3. 42号住居カマド遺物全景 (南から)
	7. 12号住居カマド掘り方全景	4. 42号住居カマド土層断面 (南西から)
	8. 13号住居全景 (西から)	5. 42号住居カマド遺物出土状態
PL. 42	1. 13号住居遺物出土状態	6. 42号住居貯蔵穴土層断面 (南から)
	2. 14号住居全景	7. 42号住居貯蔵穴遺物出土状態
	3. 14号住居遺物出土状態	8. 42号住居貯蔵穴遺物出土状態 (東から)
	4. 14号住居遺物出土状態	PL. 52
	5. 14号住居遺物出土状態	1. 42号住居掘り方全景 (東から)
PL. 43	1. 14号住居カマド掘り方全景	2. 42号住居カマド掘り方全景 (南から)
	2. 15号住居全景	3. 42号住居カマド掘り方全景 (南から)
	3. 15号住居カマド全景	4. 42号住居カマド掘り方土層断面 (南から)
	4. 16号住居全景	5. 43号・44号住居土層断面
		PL. 53
		1. 43号・44号住居全景 (西から)
		2. 44号住居北土層落ち込み
		3. 44号住居土層断面
		4. 45号・46号住居東西土層断面 (南から)
		5. 45号住居南北土層断面 (西から)
		6. 45号住居全景 (南から)
		7. 45号住居刀子出土状態全景 (南から)

P.L. 54	8. 45号住居廻り方全景 (南から)	P.L. 63	7. 65号住居カマド全景 (西から)
	1. 46号住居全景 (南から)		8. 65号住居全景 (西から)
	2. 46号住居廻り方全景 (南から)		1. 78号住居廻り方全景 (西から)
	3. 46号住居南北土層断面 (西から)		2. 78号住居土層断面 (西から)
P.L. 55	4. 47号住居南北土層断面 (西から)	P.L. 64	3. 78号住居カマド土層断面 (南から)
	5. 47号住居全景 (西から)		4. 78号住居遺物出土状態 (東壁付近)
	1. 47号住居カマド全景		5. 78号住居貯蔵穴全景
	2. 47号住居カマド廻り方土層断面		6. 78号住居カマド廻り方全景 (西から)
P.L. 56	3. 47号住居カマド廻り方全景 (西から)	P.L. 65	7. 79号住居土層断面 (西から)
	4. 47号住居床下土坑土層断面 (南から)		8. 79号住居東カマド土層断面
	5. 47号住居廻り方全景 (西から)		1. 79号住居カマド土層断面
	1. 47号住居廻り方土層断面		2. 79号住居カマド廻り方全景 (西から)
P.L. 57	2. 48号住居全景 (東から)	P.L. 66	3. 80号住居全景 (西から)
	3. 48号住居土層断面		4. 80号住居土層断面 (南西から)
	4. 48号住居廻り方全景 (西から)		5. 80号住居カマド全景 (西から)
	5. 49号住居全景 (西から)		6. 80号住居廻り方全景 (西から)
P.L. 58	6. 48号・49号住居全景 (東から)	P.L. 67	7. 80号住居カマド廻り方全景 (西から)
	7. 49号住居全景		8. 81号住居廻り方全景 (西から)
	8. 49号住居土層断面 (南から)		1. 81号住居カマド全景 (北から)
	1. 49号住居土層断面		2. 81号・82号住居全景 (西から)
P.L. 59	2. 49号住居全景	P.L. 68	3. 82号住居廻り方全景 (西から)
	3. 49号住居遺物出土状態 (西から)		4. 86号住居全景 (西から)
	4. 49号住居遺物出土状態		5. 86号住居カマド付遺物出土状態 (西から)
	5. 49号住居カマド全景 (西から)		6. 86号住居廻り方全景 (西から)
P.L. 60	6. 49号住居カマド土層断面	P.L. 69	7. 89号住居全景
	7. 49号住居カマド土層断面		8. 89号住居廻り方全景 (西から)
	8. 49号住居廻り方全景		1. 133号住居カマド廻り方全景
	1. 49号住居カマド廻り方全景		2. 108号住居全景
P.L. 61	2. 49号住居廻り方土層断面 (東西から)	P.L. 70	3. 108号住居全景
	3. 49号住居廻り方土層断面 (南北から)		4. 116号住居全景
	4. 50号住居南北土層断面 (西から)		5. 118号住居全景 (西から)
	5. 50号住居東西土層断面 (南から)		6. 141号住居廻り方全景 (西から)
P.L. 62	6. 50号住居全景 (西から)	P.L. 71	7. 141号住居カマド全景 (西から)
	7. 50号住居カマド全景 (西から)		8. 141号住居廻り方全景 (西から)
	8. 50号住居貯蔵穴土層断面 (西から)		1. 141号住居全景 (西から)
	1. 50号住居廻り方全景 (西から)		2. 142号住居全景 (西から)
P.L. 63	2. 50号住居カマド廻り方全景 (西から)	P.L. 72	3. 142号住居カマド全景 (西から)
	3. 51号住居全景 (西から)		4. 142号住居カマド廻り方全景 (西から)
	4. 51号住居南北土層断面 (西から)		5. 144号住居カマド廻り方全景 (西から)
	5. 51号住居東西土層断面 (南から)		1. 144号住居カマド廻り方全景 (西から)
P.L. 64	6. 51号住居遺物出土状態 (西から)	P.L. 73	2. 144号住居全景 (西から)
	7. 51号住居遺物出土状態 (西北から)		3. 141号～145号住居全景 (西から)
	8. 51号住居廻り方全景 (西から)		4. 下り柳地区1号住居全景 (西から)
	1. 51号住居カマド廻り方全景 (西から)		5. 下り柳地区1号住居遺物出土状態 (西から)
P.L. 65	2. 52号住居土層断面 (南から)	P.L. 74	1. 下り柳地区1号住居遺物出土状態 (西から)
	3. 52号住居全景 (西から)		2. 下り柳地区1号住居カマド土層断面 (南西から)
	4. 52号住居土層断面 (西から)		3. 下り柳地区1号住居カマド土層断面 (北東から)
	5. 52号住居耳環出土状態 (北西から)		4. 下り柳地区1号住居廻り方全景 (西から)
P.L. 66	6. 53号住居カマド全景 (西から)	P.L. 75	5. 下り柳地区1号住居貯蔵穴土層断面 (南から)
	7. 53号住居南北土層断面 (東から)		6. 下り柳地区1号住居貯蔵穴土層断面 (西から)
	8. 53号住居全景 (東から)		7. 下り柳地区1号住居カマド全景 (西から)
	9. 58号住居全景 (西から)		8. 下り柳地区1号住居カマド廻り方全景 (西から)
P.L. 67	6. 58号住居全景 (南から)	P.L. 76	1. 下り柳地区1号住居廻り方及び西側ピット (西から)
	7. 59号住居全景 (南から)		2. 下り柳地区2号住居全景 (北西から)
	8. 60号住居全景 (西から)		3. 下り柳地区2号住居カマド廻り方全景
	1. 60号住居土層断面 (東から)		4. 下り柳地区2号住居全景 (北から)
P.L. 68	2. 61号住居全景 (東から)	P.L. 77	5. 2号住居全景
	3. 61号住居廻り方全景 (北から)		1. 2号住居遺物出土状態
	4. 62号住居全景 (西から)		2. 2号住居遺物出土状態
	5. 62号住居カマド全景 (西から)		3. 2号住居貯蔵穴
P.L. 69	6. 62号住居カマド廻り方全景 (西から)	P.L. 78	4. 2号住居貯蔵穴
			5. 19号住居全景 (南から)

PL. 72	1. 19号住居遺物出土状態 2. 19号住居遺物出土状態 3. 19号住居遺物出土状態 4. 19号住居遺物出土状態 5. 20号住居全景 (西から)		5. 154号住居遺物出土状態 6. 154号住居遺物出土状態 7. 154号住居ビッド16遺物出土状態 8. 154号住居貯蔵穴土層断面
PL. 73	1. 20号住居全景 (西から) 2. 20号住居遺物出土状態 3. 20号住居遺物出土状態 4. 20号住居遺物出土状態 5. 20号住居炭化材出土状態	P.L. 85	1. 154号・160号住居全景 2. 160号住居全景 1. 160号住居全景 2. 160号住居遺物出土状態 3. 160号住居遺物出土状態 4. 160号住居伊1土層断面 5. 160号住居伊1全景
PL. 74	1. 20号住居炭化材出土状態 2. 20号住居遺物出土状態 3. 20号住居炭化材出土状態 4. 20号住居遺物出土状態 5. 93号住居全景 (東から)	P.L. 86	1. 160号住居伊2土層断面 2. 160号住居伊2全景 3. 160号住居伊3土層断面 4. 160号住居伊3全景 5. 155号住居全景 6. 155号住居全景 7. 155号住居遺物出土状態 8. 155号住居伊全景
PL. 75	1. 93号・94号住居全景 (東から) 2. 93号住居伊全景 (東から) 3. 94号住居伊全景 (東から) 4. 93号・94号住居全景 (西から) 5. 98号住居全景 (南東から)	P.L. 87	1. 160号住居伊2土層断面 2. 160号住居伊2全景 3. 160号住居伊3土層断面 4. 160号住居伊3全景 5. 155号住居全景 6. 155号住居全景 7. 155号住居遺物出土状態 8. 155号住居伊全景
PL. 76	1. 99号住居全景 (西から) 2. 99号住居遺物出土状態 (西から)	P.L. 88	1. 155号住居貯蔵穴土層断面 2. 156号住居全景 3. 156号住居全景 4. 156号住居遺物出土状態 5. 156号住居ビッド 礎石出土状態 6. 157号住居東西土層断面 7. 157号住居伊土層断面 8. 157号住居伊全景
PL. 77	1. 99号住居全景 (西から) 2. 99号住居遺物出土状態 3. 99号住居伊全景 (北から) 4. 99号住居貯蔵穴1遺物出土状態 5. 99号住居貯蔵穴2遺物出土状態	P.L. 89	1. 157号住居全景 (西から) 2. 157号住居全景 (西から) 1. 157号住居貯蔵穴全景 2. 157号住居遺物出土状態 3. 157号住居遺物出土状態 4. 165号住居全景 5. 165号住居全景 6. 158号住居全景 (南から) 7. 158号住居全景 (東から) 8. 158号住居遺物出土状態
PL. 78	1. 147号住居土層断面(手前)148号住居土層断面出土状態 (西から) 3. 148号住居全景 (西から) 4. 148号住居貯蔵穴土層断面 (東から) 5. 148号住居台付型土器出土状態 (東から)	P.L. 90	1. 157号住居貯蔵穴全景 2. 157号住居遺物出土状態 3. 157号住居遺物出土状態 4. 165号住居全景 5. 165号住居全景 6. 158号住居全景 (南から) 7. 158号住居全景 (東から) 8. 158号住居遺物出土状態
PL. 79	1. 147号・148号住居全景 (西から) 2. 148号住居掘り方全景 (西から)	P.L. 91	1. 158号住居伊全景 2. 158号住居伊土層断面 3. 158号住居伊土層断面 4. 159号住居全景 5. 159号住居土層断面 6. 159号住居全景 7. 159号住居遺物出土状態 8. 160号住居床下土層断面 (南から)
PL. 80	1. 149号住居全景 2. 149号住居掘り方全景	P.L. 92	1. 160号住居全景 (南西から) 2. 160号住居伊土層断面 (南西から) 3. 160号住居伊土層断面 (西から) 4. 161号住居全景 (西から) 5. 162号・163号住居土層断面 1. 162号・163号・164号住居全景 (西から) 2. 162号・163号・164号住居全景 (西から) 3. 166号住居全景 (西から) 4. 166号住居勾玉出土状態 (南から) 5. 166号住居遺物出土状態 (西から)
PL. 81	1. 149号住居掘り方全景 2. 149号住居伊土層断面 3. 150号住居全景及び南北土層断面 4. 151号住居全景 5. 151号住居全景 6. 151号住居明道遺物検出作業 7. 151号住居焼土1 8. 151号住居焼土2	P.L. 93	1. 166号住居伊土層断面 (南東から) 2. 166号住居伊1土層断面 (北西から) 5. 166号住居伊2全景 (南から) 1. 166号住居伊2土層断面 (南西から) 2. 166号住居伊2土層断面
PL. 82	1. 151号住居焼土1 2. 152号住居全景 (東から) 3. 152号住居全景 (西から) 4. 152号住居土層断面 (東から) 5. 152号住居土層断面 (南から) 6. 153号住居全景 (西から) 7. 153号住居全景 (西から) 8. 153号住居遺物出土状態	P.L. 94	1. 166号住居伊2土層断面 (南西から) 2. 166号住居伊2土層断面
PL. 83	1. 153号住居掘り方全景 2. 153号住居遺物出土状態 3. 153号住居白土出土状態 4. 153号住居伊全景 5. 153号住居伊土層断面 1. 153号住居南壁寄り 2. 153号住居貯蔵穴遺物出土状態 3. 154号住居東西土層断面 4. 154号住居全景	P.L. 95	1. 166号住居伊2土層断面 (南西から) 2. 166号住居伊2土層断面

	3. 166号住居跡3 全景 (南から)		3. 172号住居跡全景 (西から)
	4. 166号住居跡3 土層断面 (南西から)		4. 172号住居跡炭化材出土状態 (西から)
	5. 166号住居跡3 土層断面 (北東から)		5. 173A号住居跡全景 (北から)
	6. 166号住居跡4 全景 (南から)	P L .106	1. 173A号・B号住居跡全景 (南から)
	7. 166号住居跡4 土層断面 (南西から)		2. 弥生時代住居跡の調査
P L . 96	8. 166号住居跡4 土層断面 (北東から)	P L .107	1. 173A号・B号住居跡全景 (南から)
	1. 166号住居跡5 土層断面 (南西から)		2. 173B号住居跡遺物出土状態
	2. 166号住居跡5 土層断面 (北東から)		3. 173B号住居跡ビット7 礎板出土状態
	3. 166号住居跡5 土層断面 (南西から)		4. 173B号住居跡ビット7 土層断面
	4. 166号住居跡6 土層断面 (北東から)		5. 173A号住居跡跡全景
	5. 166号住居跡6 全景 (南から)		6. 173A号住居跡土層断面
	6. 166号住居跡6 全景 (南から)		7. 173B号住居跡跡土層断面
	7. 166号住居跡跡土層断面 (南から)		8. 174号住居跡全景
P L . 97	8. 166号・167号住居跡土層断面 (西から)	P L .108	1. 174号住居跡跡土層断面
	1. 166号・167号住居跡土層断面 (南から)		2. 174号住居跡貯蔵穴土層断面
	2. 167号住居跡床下自然埋積谷断面 (南東から)		3. 175号住居跡南北土層断面 (東から)
	3. 166号・167号・177号住居跡周辺の住居分布		4. 175号住居跡東西土層断面 (南西から)
	4. 168号住居跡遺物出土状態 (南から)		5. 175号住居跡全景 (西から)
	5. 168号住居跡跡全景 (南から)	P L .109	1. 175号住居跡跡1土層断面 (南から)
P L . 98	1. 168号住居跡全景 (西から)		2. 175号住居跡跡1土層断面 (西から)
	2. 168号住居跡全景 (西から)		3. 175号住居跡跡2土層断面 (北東から)
P L . 99	1. 168号住居跡跡土層断面 (北から)		4. 175号住居跡跡2土層断面 (南西から)
	2. 171号住居跡東西土層断面 (南から)		5. 175号住居跡ビット1土層断面 (南から)
	3. 171号住居跡全景 (西から)		6. 175号住居跡ビット2土層断面 (南から)
	4. 171A号住居跡遺物出土状態 (西から)		7. 175号住居跡ビット3土層断面 (南から)
	5. 171A号住居跡遺物出土状態 (西から)		8. 175号住居跡ビット4土層断面 (南から)
P L .100	1. 171A号住居跡遺物出土状態 (西から)	P L .110	1. 175号住居跡ビット6土層断面 (南から)
	2. 171A号住居跡遺物出土状態 (西から)		2. 175号住居跡ビット10土層断面 (南から)
	3. 171A号住居跡南北土層断面 (西から)		3. 175号住居跡ビット11土層断面 (南から)
	4. 171A号住居跡ビット5柱礎		4. 175号住居跡ビット12土層断面 (南から)
	5. 171A号住居跡ビット4 礎板出土状態 (南西から)		5. 176号住居跡全景 (西から)
	6. 171A号住居跡ビット4 礎板出土状態		6. 176号住居跡ビット1土層断面
	7. 171B号住居跡跡1全景 (西から)		7. 177号住居跡南北土層断面 (西から)
P L .101	8. 171B号住居跡跡1土層断面 (南西から)	P L .111	8. 177号住居跡遺物出土状態 (南から)
	1. 171B号住居跡全景 (西から)		1. 177号住居跡全景 (西から)
	2. 171B号住居跡跡全景 (西から)		2. 177号住居跡跡全景 (南から)
P L .102	1. 171B号住居跡跡1土層断面		3. 177号住居跡跡全景 (北東から)
	2. 171B号住居跡跡2土層断面 (南西から)		4. 177号住居跡跡全景 (西から)
	3. 171B号住居跡跡2土層断面 (北東から)		5. 177号住居跡跡土層断面 (北から)
	4. 171B号住居跡跡方全景 (北から)	P L .112	1. 177号住居跡跡土層断面
	5. 171B号住居跡 ビット土層断面 (西から)		2. 177号住居跡跡方全景 (西から)
	6. 171B号住居跡ビット10礎板出土状態 (南西から)		3. 177号住居跡ビット1土層断面 (南から)
	7. 172号住居跡全景 (西から)		4. 177号住居跡ビット2土層断面 (南から)
P L .103	8. 172号住居跡東西土層断面 (南から)		5. 177号住居跡ビット3土層断面 (南から)
	1. 172号住居跡南北土層断面 (西から)		6. 177号住居跡貯蔵穴土層断面 (北から)
	2. 172号住居跡全景 (西から)		7. 177号住居跡貯蔵穴全景 (南から)
	3. 172号住居跡遺物出土状態 (北から)		8. 178号住居跡土層断面 (南から)
	4. 172号住居跡遺物出土状態 (北から)	P L .113	1. 178号住居跡全景 (西から)
	5. 172号住居跡遺物出土状態 (南東から)		2. 178号住居跡全景 (西から)
	6. 172号住居跡遺物出土状態 (南から)	P L .114	1. 1号竪穴状遺構跡全景 (東から)
	7. 172号住居跡遺物出土状態 (南東から)		2. 1号竪穴状遺構跡土層断面 (南から)
	8. 172号住居跡ビット1土層断面 (南から)		3. 1号竪穴状遺構跡土層断面 (西から)
P L .104	1. 172号住居跡ビット2・3土層断面 (南から)		4. 2号竪穴状遺構跡全景 (東から)
	2. 172号住居跡ビット4・17土層断面 (南から)		5. 3号・4号竪穴状遺構跡土層断面 (東から)
	3. 172号住居跡ビット4土層断面 (南から)		6. 3号・4号竪穴状遺構跡全景 (西から)
	4. 172号住居跡ビット3土層断面 (南から)		7. 下り跡地区1号竪穴状遺構跡全景 (西から)
	5. 172号住居跡ビット7土層断面 (南から)		8. 下り跡地区2号竪穴状遺構跡全景 (西から)
	6. 172号住居跡ビット8土層断面 (南から)	P L .115	30・31・35号住居跡の出土遺物
	7. 172号住居跡ビット9土層断面 (南から)	P L .116	35・63・64号住居跡の出土遺物
	8. 172号住居跡跡土層断面 (北西から)	P L .117	64号住居跡の出土遺物
P L .105	1. 172号住居跡跡土層断面 (北東から)	P L .118	64・66・68・65・39・57・56号住居跡の出土遺物
	2. 172号住居跡跡ビット12土層断面 (北から)	P L .119	143・145・68号住居跡の出土遺物

P.L.120	68・71・73・74号住居の出土遺物
P.L.121	74・83・88・84・90号住居の出土遺物
P.L.122	90・75・76・77号住居の出土遺物
P.L.123	76・24・103号住居の出土遺物
P.L.124	103・104・101・134・105・112・113号住居の出土遺物
P.L.125	114・112・129・128号住居の出土遺物
P.L.126	112・128・106・136・135号住居の出土遺物
P.L.127	136・137・138・100・115号住居の出土遺物
P.L.128	115・119・132・120・102・107号住居の出土遺物
P.L.129	102・107・109・110号住居の出土遺物
P.L.130	107・110・127号住居の出土遺物
P.L.131	110・121・124・125号住居の出土遺物
P.L.132	1・3号住居の出土遺物
P.L.133	3・4号住居の出土遺物
P.L.134	4・5・6号住居の出土遺物
P.L.135	6・7・8号住居の出土遺物
P.L.136	8・9号住居の出土遺物
P.L.137	9号住居の出土遺物
P.L.138	10・13・14号住居の出土遺物
P.L.139	14・16・15・17・18号住居の出土遺物
P.L.140	18・21号住居の出土遺物
P.L.141	21・23号住居の出土遺物
P.L.142	23・26・40・32・41号住居の出土遺物
P.L.143	41・42号住居の出土遺物
P.L.144	44・45・47・48・49・50号住居の出土遺物
P.L.145	50・51・52号住居の出土遺物
P.L.146	59・53・52・61・62・65・67・78・79・80号住居の出土遺物
P.L.147	79・81・82・86号住居の出土遺物
P.L.148	116・118・141・142・下り柳1・2号住居の出土遺物
P.L.149	2・19・20号住居の出土遺物
P.L.150	20・83号住居の出土遺物
P.L.151	93・94・99号住居の出土遺物
P.L.152	99・147・148・149号住居の出土遺物
P.L.153	149・151・152・153号住居の出土遺物
P.L.154	153・154号住居の出土遺物
P.L.155	154号住居の出土遺物
P.L.156	154・169号住居の出土遺物
P.L.157	189・195・196号住居の出土遺物
P.L.158	156・157号住居の出土遺物
P.L.159	157・185・158号住居の出土遺物
P.L.160	158・159・160・161・162・163号住居の出土遺物
P.L.161	162・163・164・166・167号住居の出土遺物
P.L.162	167・168・171A号住居の出土遺物
P.L.163	171A・171B号住居の出土遺物
P.L.164	171A・171B号住居の出土遺物
P.L.165	171B・172号住居の出土遺物
P.L.166	173A・173B・174・175号住居の出土遺物
P.L.167	175・176・177号住居の出土遺物
P.L.168	177・178号住居の出土遺物 整穴状遺構・ビットの出土遺物



## 第8章 住居の調査

### 1. 概要

本遺跡では、居住に関わると考えられる遺構として竪穴住居・竪穴状遺構・焼土跡が検出された。

竪穴住居は、村前地区で158軒、下り柳地区で2軒、合計160軒が検出されたが、これらの住居の時期は出土土器から弥生時代から平安時代にわたると考えられる。このうち、下り柳地区の2軒の住居は平安時代のもので、浅間B経石下の水田が検出されなかった、やや高まった地点(L・M-26-28グリッド)に単独で位置していた。両者とも規模や施設が近似し、時間的にも同様の住居である。

村前地区では、弥生時代中期後半から平安時代中期にかけての住居が、間に榛名山の火山堆積物を挟んで重層的に検出された。6世紀の榛名山の火山災害を含む多様な地形変化と土地利用の変遷の中で、住居がつけられていく様子が看取できた。調査では、6世紀に厚く堆積した洪水堆積物の上面(Ⅱ面)で112軒、その上層の風成暗褐色土中位(I面)で7軒の住居を検出した。これらはすべてカマド付設住居である。I面を確認できたのはQ-V-49-54グリッド周辺の限られた地区で、その他の地区ではⅡ面まで耕作が及んでおり、Ⅱ面で遺構確認をおこなった。Ⅱ面では、第2次調査区I区を除く発掘区のほぼ全域で住居が分布していた。住居の分布は第1次調査区では1号住居のみであったが、第4・5次調査区では著しく重複した状態で検出された。調査は困難ではあったが、住居の床面の把握や、出土遺物の帰属などに留意して調査を進めた。本章では、この重複関係を示すため、重複住居群を設定し、個別報告の前に重複遺構の全体像を説明する形を採った。

カマド付設住居のなかで古いのは21号・36号・42号住居等で、今回の調査範囲の中で火山災害後最も早く掘り込まれた竪穴住居である。災害以前に水田

であった地点が、大量の洪水堆積物により自然堤防化し、少なくとも6世紀後半頃には居住域に変化していたことがわかる。その後、カマド付設住居は継続してつくり、調査でも平安時代を中心に多くの小型住居が検出された。101号住居からは、完形の須恵器羽釜形土器も出土している。

洪水堆積物とその下層に薄く積もった榛名二ヶ岳降下火山灰の直下面(Ⅲ面)では、住居は検出されなかったが、火山灰下の水田耕作土を掘り下げると、古墳時代前期の土器が出土し始め、耕作土下の砂層上面(Ⅳ面)で弥生時代中期後半から古墳時代前期の住居が検出された。これらはすべて炉が付設された住居である。この時期の住居の分布は大きくI・J-22-28グリッド周辺と、Q・2B-52-65グリッド周辺の二カ所に分かれる。その間には同時期の周溝墓群や農具が出土した水路(77号・86号溝等)があり、墓域をともなった農耕集落の景観を推定させる。

弥生時代中期後半の住居は6軒で、多くは隅丸長方形を呈する。弥生住居後期の住居は19軒で、小判形あるいは隅丸長方形を呈する。長軸8~9mの大型の住居を3軒検出した。また、3軒の住居の柱穴から柱根や礎板が出土した。古墳時代前期の住居は14軒で、ほぼ隅丸正方形を呈し、一隅に方形の貯蔵穴を施設した住居が多い。

竪穴状遺構は、カマドや炉が付設されておらず積極的に竪穴住居といえないが、方形の掘り込みがみられるもので、村前地区で4基、下り柳地区で3基検出された。

焼土跡は焼土のみが検出されるもので、村前地区のⅣ面(古墳時代前期)上層で、19カ所が点在していた。これらはⅢ面(Hr-FA直下・6世紀初頭)で検出された水田造成にともなって破壊された住居の炉の可能性もあり、本章で報告した。(小島)

## 2. カマド付設住居

### (1) 村前地区の重複する住居

#### 重複群A

重複群Aは、P-R-50~52グリッドに展開する。30号・31号・35号・63号・64号・66号の6軒の住居と57号・61号溝が重複している。

61号溝は、64号住居以外の住居の床面を壊して掘り込まれており、これらの遺構の中では最も新しい遺構である。

30号住居は、この61号溝に南東隅を破壊されている。本住居の硬化した床面は57号溝の西側と東側の南壁付近のみが顕著に残っていたのみで、大半は住居埋没途中に床面下まで掘り込まれており、須恵器が一括して廃棄されていた。この掘り込みは57号溝より後出する。また、57号溝と30号住居の直接の新旧関係は土層堆積からは読み取ることができなかつ

た。出土遺物からは57号溝が30号住居より先行すると考えられる。

63号住居は土層断面から、31号・35号住居に後出する住居である。63号住居のカマドはちょうど31号住居のカマドに重なって検出された。31号・63号住居の下層には古墳時代前期のものと考えられる77号溝があり、間には1~2m程の土層の堆積があるにもかかわらず、本住居の床面にも溝の埋没土の圧縮によると考えられる凹地が形成されていた。31号・35号住居の新旧関係は土層観察からは不明である。

66号住居は確認できた壁高は浅い。その北東隅の床面を破壊して31号住居が掘り込まれており、66号住居は31号住居に先行する住居である。

64号住居は、その西南部の床面を壊して31号・63号住居のカマドが作られている。また、土層断面からも63号住居に先行することが確認できた。64号住居の床面も77号溝の影響を受けた凹地ができており、土層堆積は湾曲している。(小島)

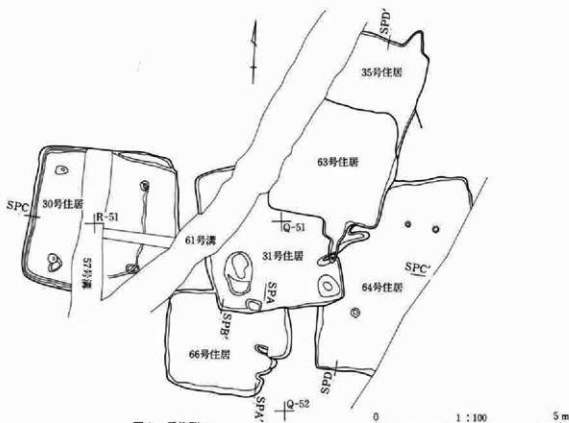


図1 重複群A

- 66号住居 1層 茶褐色土 直徑1～3mmの榛名山起源の軽石を少量、直徑1mmの榛名山起源の軽石をやや多く含む。直徑1～5mmの黒色土粒子を多く含む。やや砂質。
- 2層 灰茶褐色土 粗石・白色の火山灰ブロックを部分的に含む。
- 3層 灰白色ブロック H<sub>2</sub>O<sub>2</sub>のブロックである。
- 4層 暗黒褐色土 灰化物が主である。断面には白色に近い火山灰土の侵入がある。
- 5層 灰白色ブロック 黄褐色土ブロックに、若干の黒色土ブロックが混じる。白色軽石を多量に含む。しよりは良い。全体としては灰褐色を呈する。

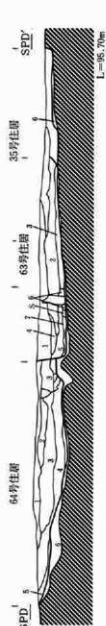
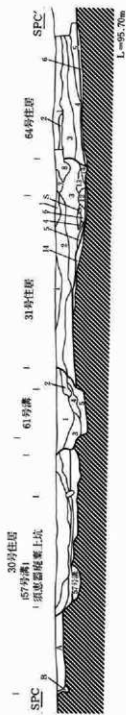
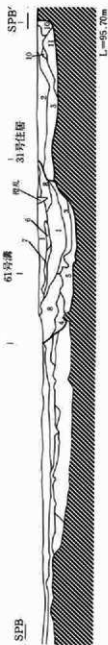
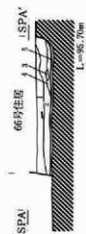


図2 集積群Aの土層断面

## 第8章 住居の調査

### 30号住居

- A層 細白色軽石・焼土粒・黄色土粒・幼黒色土粒を含む茶褐色土。  
B層 黒褐色土粒と黄褐色土粒の混土。

### 31号住居

- 1層 焼土粒・黄色シルト・細白色軽石を少量を含む、やや砂質の黄褐色土。  
2層 焼土粒・炭化物粒を含む茶褐色土。やや砂質。  
3層 直径3～5cmの黄色砂礫土(地山)小ブロック及び同粒子を含み、焼土粒・炭化物粒を混じる茶褐色土。  
4層 黄灰色砂礫土ブロック  
5層 黄褐色シルト  
6層 焼土粒・炭化物粒を多く含む茶褐色土。  
7層 白色軽石・焼土粒・炭化物粒を多く含む茶褐色土。  
8層 直径2～3cmの焼土小ブロックを多量に含む茶褐色土。  
10層 黒褐色土粒を層状に混じる灰褐色シルト質土。  
11層 焼土粒・炭化物粒を含む10層。  
12層 灰白色砂礫土  
13層 黄白色土粒・黒色土粒を多量に含む黄褐色土。  
14層 黄白色土。

### 61号溝

- 1層 白色軽石・炭化物粒・黄色土粒を多く含む灰褐色土。  
2層 直径1～2cmの黄色土小ブロックを含む黄褐色土。  
3層 直径1～2cmの地山の幼黒色粘質土小ブロックと黄色土粒を含む茶褐色土。  
4層 直径3～5cmの地山の幼黒色粘質土小ブロックと直径1～2cmの黄色土小ブロックと茶褐色土の混土。  
5層 黄褐色土粒・(地山)の直径1～2cmの幼黒色土小ブロックを多量に含む黄褐色土。やや粘質。  
6層 細白色軽石と黒色土ブロックを多量に含む灰褐色土。  
7層 細白色軽石を含む白色土。  
8層 1層に似るが、軽石・黄色土粒の量が多い。

### 63号住居

- 1層 細白色軽石を多量に含み、焼土粒を混じる。水田土壌にみられるマンガン集積のような、黒褐色の証状集積がある。  
2層 炭化物粒・焼土粒・白色軽石を含み、直径2～3cmの黄色土ブロックを混じる灰褐色土。  
3層 白色軽石を少量混じる灰色シルト質土。  
4層 炭化物・灰をブロック状に含む。焼土粒を含む灰褐色土。  
5層 炭化物粒・白色軽石を含む灰褐色土。  
6層 黄色砂礫土ブロック  
7層 炭化物を含む灰色シルト質土。

### 64号住居

- 1層 黄灰白色土 直径2cmほどの角閃石安山岩をわずかに含み、小粒子を全体に含む。固い。  
2層 褐色土 直径0.5mm以下の角閃石安山岩を全体に含む。  
3層 暗褐色土 角閃石安山岩を全体に含む。直径0.5mmの小粒が主で、10cm当たり1個混入する。  
4層 暗褐色土  
5層 黄白色土 灰白色砂質土。  
6層 灰白色砂質土層 灰を少量、白色粘土を若干含む。しまりは悪い。

### 30号住居 図3-4、PL1-2-115、表P.3

位置 Q・R-50・51グリッド

規模 縦3.72m 横3.94m 深0.12m

形状 隅丸方形

重複 16号住居・61号溝に先行し、57号溝に後出する。本住居埋設途中に、須恵器の大形破片が廃棄された土坑が掘り込まれている。

西壁方位 N-7°-E

埋没土 細かい白色軽石・焼土粒・黄色土粒・黒色土粒で埋まっている。

床面 57号溝の東側は床面が残存しており、掘り込んだ面をそのまま床面としている。57号溝以東は住居廃絶後の土器廃棄坑が床面まで達しており、床面は南壁付近の一部を除いて残存していない。57号溝の西側に残存していた床面は硬化していた。

貯蔵穴 検出されていない。

周溝 57号溝の西側には北・西・南壁ともに周溝が検出されたが、東側は土器廃棄坑によって壊されたものとみられ検出されなかった。

柱穴 57号溝以西では床面で2本、以東では土器廃棄坑を掘りきった段階で2本、計4本の主柱穴が検出された。

柱穴No	長径	短径	深さ	備考
P 1	0.24m	0.22m	0.24m	
P 2	0.32m	0.22m	0.18m	
P 3	0.26m	0.24m	0.52m	
P 4	0.34m	0.22m	0.4 m	
P 5	0.34m	0.22m	0.03m	
P 6	0.34m	0.3 m	0.06m	

掘り方 住居の構造としての掘り方はない。

遺物出土状態 住居に伴うと考えられる床面直上出土の遺物はない。910の土師器杯形土器は埋没土中の出土である。911・916・917は本住居廃絶後に掘り込まれたと考えられる掘り込みに廃棄された須恵器であり、912・913・914の土師器は須恵器が出土した地点からは離れているが、土層からは須恵器に伴うと考えられる。なお、915の須恵器高杯形土器は他の須恵器と同様に遺物取り上げをおこなった

が、出土層位は、住居や土器廃棄坑に先行する57号溝に含まれると考えている。

カマド 検出されなかった。

調査所見 調査時には、57号溝の西側と東側は床面の状況の違いから、別の住居と考えていた。しかし、地山面まで下げたところ、57号溝西側で検出できた2本の柱穴に対応する主柱穴だけが東側に検出され

た。また、遺構の平面形も2軒の住居とするには整っていることから、1軒の住居と考えることとした。しかし、東西の床面の状況は著しく異なっている。また、須恵器の大形破片の集中も他の住居の遺物出土状態に比べて際立っており、東側は住居廃絶後、埋没途中で土器廃棄坑が掘り込まれ、床面まで破壊されたものと考えたい。(小島)

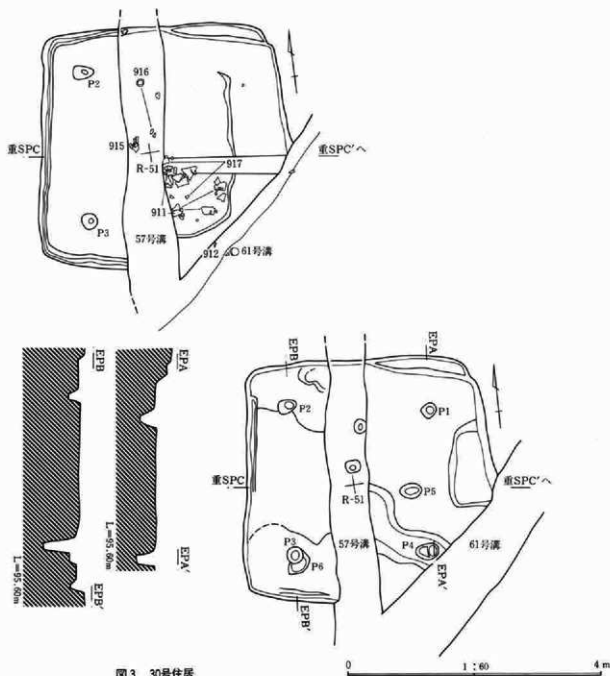


図3 30号住居

第8章 住居の調査

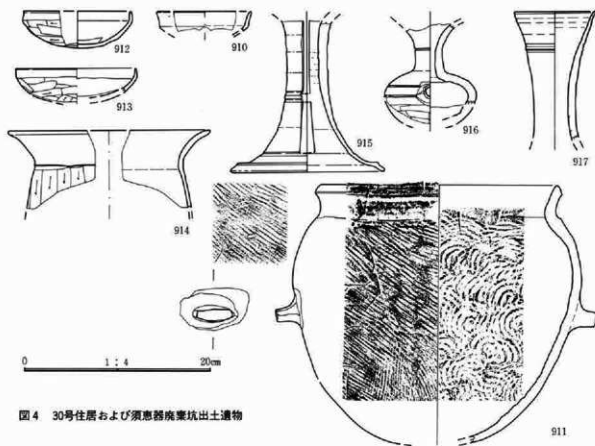


図4 30号住居および須恵器廃棄坑出土遺物

31号住居 図5-8、Pl.2-3-115、表P.3

位置 P・Q-50・51グリッド

規模 縦3.58m 横3.85m 深0.24m

形状 長方形

重複 63号住居・61号溝に先行し、66号住居に後出する。

主軸方位 N-80°-E

埋没土 大部分は、焼土粒・炭化物粒などの混入する砂質の褐色土で埋まっているが、壁付近には灰褐色でシルト質の土が堆積している。

床面 住居内の東部分の床面は硬化していた。特にカマドの周辺は固くしまっていた。南西部は硬化した床面は検出できず、貯蔵穴とも考えられる楕円形の落ち込みが検出された。また、本住居の北半部は下層に掘られている77号溝の埋没土が沈下した凹地にあたり、床面もその影響を受けて北方向に沈んでいる。

貯蔵穴 カマド右脇に直径0.6m、深さ0.25mのほぼ円形を呈する貯蔵穴が検出された。内部からはカマドの土製支脚(923)と土師器甕形土器(919)が出土し、西側の床面にも土師器甕形土器(918)が出土している。また、床面の精査時に、住居南西隅から長径1.2m、短径0.7m、深さ0.12mの楕円形の落ち込みを検出した。性格は不明である。

溝溝 検出されていない。

柱穴 床面でも掘り方底面でも柱穴と考えられるビットは検出されなかった。

掘り方 カマドを除いて顕著な掘り方は検出されなかった。

遺物出土状態 カマド右脇の貯蔵穴から土製支脚(923)、土師器甕形土器(919)が底面から数cm浮いた状態で出土した。土師器甕形土器(918)はカマド右袖前からはほぼ床面直上で出土した。図示した920、921の土師器杯形土器は床面から7-11cm浮いて出

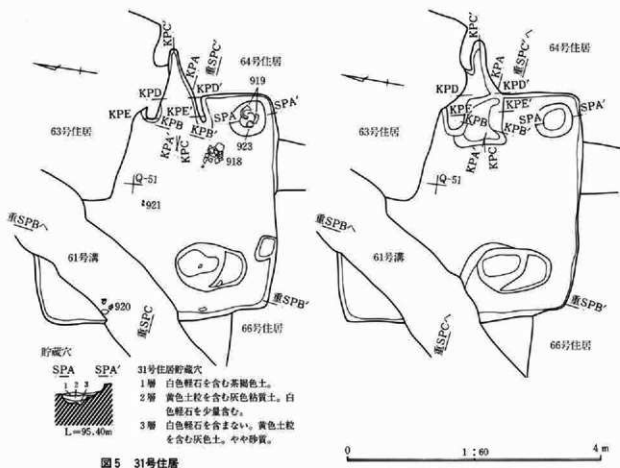


図5 31号住居

土した。922の土師器杯形土器は埋没土中からの出土である。その他破片の出土はあまり多くない。

#### カマド

位置 東壁ほぼ中央

規模 全長1.35m 屋外長0.8m

最大幅1.1m 焚き口幅0.65m

遺存状態 燃焼面は灰が残り、焼土化した崩落土が堆積していた。燃焼部の壁は部分的に赤化しているが、63号住居のカマドの堆積を地山としているため、不明確な部分も多い。

遺物出土状態 カマド内の遺物の出土はほとんど無いが、煙道部の先端に土師器甕形土器の破片が出土している。

調査所見 本住居の床面は、下層の77号溝の影響を受けて沈んでおり、床面の検出は2度にわたっている。写真も2度に分けて撮影しており、合成した床面の平面図とは異なっている。また、カマドは、先

行する63号住居のカマドとはほぼ90度の方向で重複しており、カマド検出作業も困難であった。当初、カマドの長軸がややずれた形で燃焼部の検出を開始したのでカマドの土層断面図は最良の位置で実測することができなかった。

(小島)

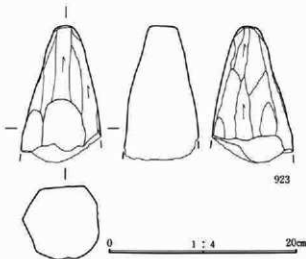
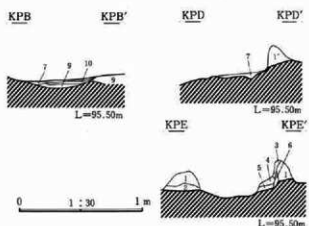
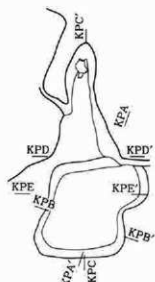
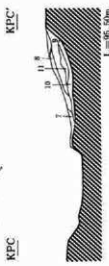
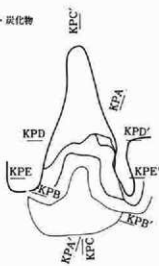
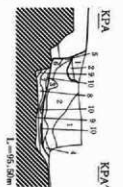


図6 31号住居出土遺物(1)

## 第8章 住居の調査

### 63号住居カマド

- 1層 焼土を多量に含み、灰色軽石・炭化物粒を混じる茶褐色土。  
2層 灰層



### 31号住居カマド廻り方

- 1層 灰褐色砂質土(地山)層と灰白色粘性土ブロックを多く含む茶褐色土。  
1'層 1層に近いが、焼土の粒子・極少量の炭を含む。  
2層 黒色土を少量含む灰白色粘土層。  
3層 黒色土粒子・焼土粒子を含む暗茶褐色土。若干、全体に赤みを帯びる。  
4層 灰・焼土粒子を多量に含む暗茶褐色土。しまりは悪い。  
5層 灰層。炭を多く含む。  
6層 灰白色砂質土を含む暗茶褐色土。しまりは悪い。  
7層 灰と焼土を多量に含む青灰色土。  
8層 焼土ブロックを少量含む茶褐色土。  
9層 灰を多く、焼土を極少量含む暗褐色土。  
10層 灰をかなり多量に含み、焼土ブロックを少量含む青灰色土。  
11層 青灰色を呈する灰層。灰・焼土粒子を含む。

- 31号住居カマド 1層 炭化物粒・白色軽石を含む茶褐色土。やや砂質。  
2層 白色軽石・黄色土粒を含む黄褐色土。  
3層 焼土と炭化物。  
4層 灰白色粘土  
5層 焼土  
6層 焼土粒を含む黄褐色土。  
7層 灰層  
8層 炭化物粒を多く含む灰褐色土。  
9層 焼土粒・炭化物粒を含む灰褐色粘土。  
10層 焼土

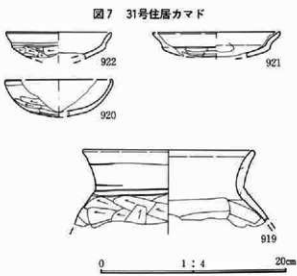
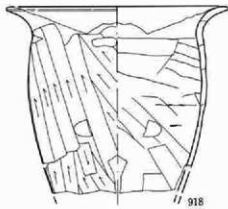


図8 31号住居出土遺物(2)



## 35号住居 図9-10, PL3-115-116, 表P.4

位置 P-50グリッド

規模 縦2.8+αm 横2.3+αm 深0.12m

形状 方形を呈すると考えられるが、後出する遺物によって破壊されている部分が多く、詳細は不明である。

重複 61号溝・63号住居に先行し、32号住居に後出する。

主軸方位 N-17°-E

埋没土 下層は白色軽石・焼土粒を含む灰色砂質土、上層は細かい白色軽石を含む黄灰褐色砂質土で埋まっている。

床面 顕著な硬化面は検出されなかった。後出する63号住居との境は明瞭な段差はない。

貯蔵穴 検出されなかった。

周溝 検出されなかった。

柱穴 検出されなかった。

掘り方 カマドを中心に床面から2~5cmほど掘り込んでいる。

遺物出土状態 遺物の出土は少ない。カマド内から

土師器杯形土器(928)、敲石(S383)、カマド構築材と考えられる切り石(S382)が出土している。

カマド

位置 北壁東端

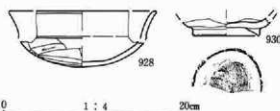
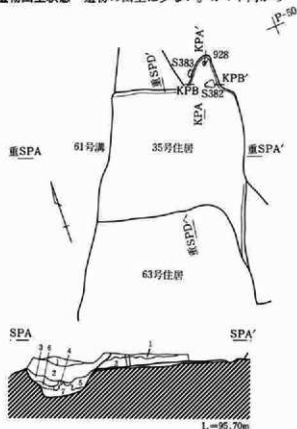
規模 全長0.53m 屋外長0.51m

最大幅0.52m 焚き口幅0.52m

遺存状態 使用面の深さは確認面から6~8cmほど焼けて硬化した熱焼部の壁はほとんど検出されなかった。掘り方は使用面から10~15cmほど掘り込んでおり、焚き口部には3個の小ピットがある。また、右袖部にはS382が掘えられていたピットが検出され、カマドの構造の一部と考えられる。

遺物出土状態 前述したS382の他に、928の土師器杯形土器がカマドの先端部使用面直上で出土している。埋没土中の土器もあまり多くなく、瓦(929)と須恵器椀形土器(930)が図示し得たにすぎない。

調査所見 本住居の残存状態は、あまり良好ではない。遺物も、確実に住居に伴うものはカマドから出土したのもののみである。(小島)



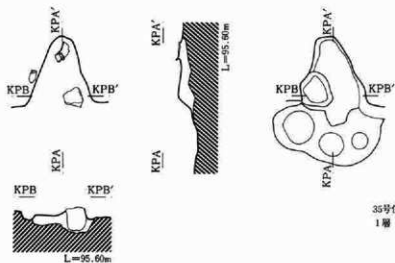
- 35号住居1層 細かい白色軽石を含む黄灰褐色砂質土。  
2層 白色軽石・焼土粒・炭化物粒を含む灰色砂質土。

- 61号溝1層 細かい白色軽石・黄色土粒・直径1cmの黒色小ブロックを含む灰褐色土。しまりがあり、固い。  
2層 白色軽石・黄色土粒を多量に含む灰色砂質土。  
3層 炭化物をほとんど含まない灰色砂質土。  
4層 白色軽石を少量含む灰白色砂質土。  
5層 白色軽石・直径3~8cmの黄色砂質土ブロックを含む灰色砂質土。  
6層 鉄分凝集の強い茶灰色砂質土。  
7層 黄色砂質土粒・直径3~5cmのHr-FA層ブロック・白色軽石・直径1cmの黒色粘質土小ブロックと、灰褐色砂質土の混土。

0 1:60 2m

図9 35号住居と出土遺物(1)

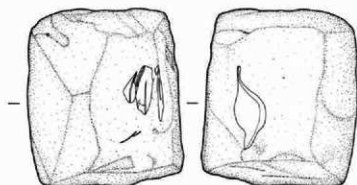
第8章 住居の調査



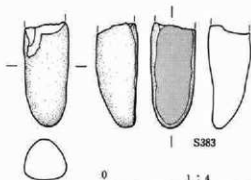
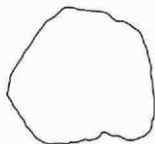
35号住居カマド

1層 白色軽石・炭化物粒・少量の焼土粒を含む  
茶褐色土。しまりがあり、固い。

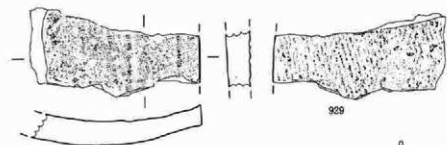
0 1 : 30 1 m



S382



0 1 : 4 20mm



929

0 1 : 30 10cm

図10 35号住居カマドと出土遺物(2)

63号住居 図11-12, PL4-5-116, 表P.4

位置 P・Q-50・P-51グリッド

規模 縦3.05m 横3.0m 深0.13m

形状 方形

重複 61号溝に先行し、31号・35号・64号住居に後出する。

主軸方位 N-163°-W

埋没土 上層は白色軽石・炭化物粒・焼土粒を含む黒褐色土や灰褐色土で埋没しており、下層の床面上には白色軽石や焼土粒を含む灰色シルト質土が堆積している。

床面 カマド付近を中心に硬化面が形成されている。本住居の床面も下層の77号溝の影響によって、南半分が20cmほど沈降している。

貯蔵穴 検出されなかった。

周溝 検出されなかった。

柱穴 検出されなかった。

掘り方 顕著な掘り方は検出されていない。

遺物出土状態 カマド燃焼部やカマド前の床面直上で多量の土器が出土している。また、東壁中央の壁隙で床面から、1044の土師器杯形土器が1.5cmほど浮いた状態で出土している。

カマド

位置 南壁中央やや西側

規模 全長1.2m 屋外長1.15m

最大幅0.9m 焚き口幅0.39m

遺存状態 本住居のカマドは遺存状態が良く、使用面の灰層も5~10cmほどの厚さで残っている。崩落

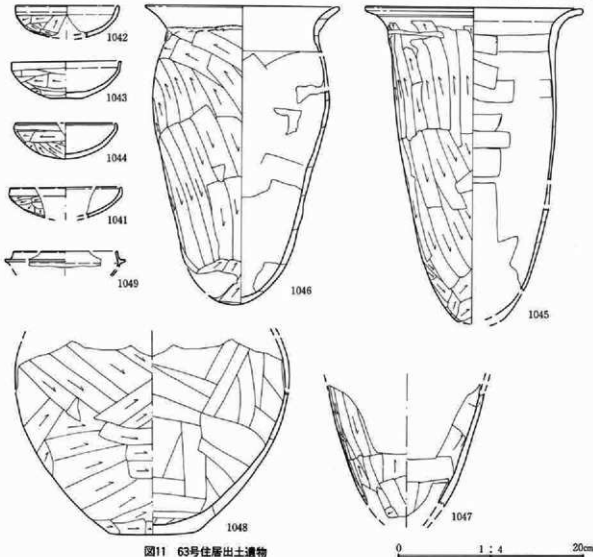


図11 63号住居出土遺物

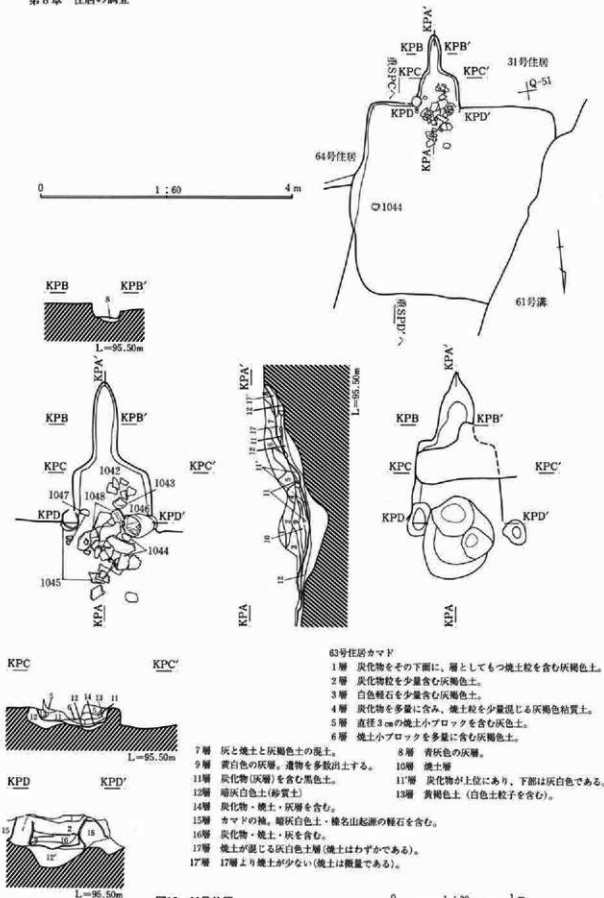


図12 63号住居

した天井部や壁部の焼土も、燃焼部に5～8cmの厚さで堆積していた。焚き口部には燃焼面から37cmほど掘り込まれたほぼ円形の掘り方が検出された。また袖の基部には土師器甕形土器が倒立状態で施設されていたが、その下部にも直径30cmほどのピットが掘り込まれていた。

**遺物出土状態** カマドの燃焼部には多くの土器が出土したが、ほとんどは袖に施設された土師器甕形土器(1045・1046)の破片である。また、燃焼部前面中央付近からは1048の土師器甕形土器が使用面直上で出土している。また、1042・1043の土師器杯形土器は燃焼部上方の右壁際で使用面から数cm浮いた形で出土している。これらの土器は出土状態から確実に本住居に伴うものと判断できる。

**調査所見** 本住居も下層の77号溝の影響によって床面が水平でなく、床面の検出は困難であった。また本住居のカマドは、先行する31号住居のカマドとほとんど重複していたが、確認面ではその重複関係が認識できずに先行する31号住居のカマドを掘り始めてしまった。したがって本住居のカマドの燃焼部右壁を背面から掘ることになったが、辛うじて残すことができた。(小島)

#### 64号住居 図13-16、PL5-6・116-118、表P.5-6

**位置** O・P-50・51グリッド

**規模** 縦(4.2m) 横(5.1m) 深0.4m

**形状** 長方形

**重複** 31号・63号住居に先行する。

**北壁方位** N-5°-W

**埋没土** 榛名山起源の軽石を含む褐色土・暗褐色土で埋没している。床面直上には黄白色の砂質土が数cm堆積していた。

**床面** あまり顕著な硬化面は検出されなかった。本住居も下層の77号溝の影響で、南半分の床面が15～20cm沈降している。

**貯蔵穴** 検出されなかった。

**周溝** 床面では検出されなかったが、掘り方面で北東隅、南西隅に不定形な周溝が検出された。幅は下場で4～11cm、深さは床面から2cm程度である。

**柱穴** 主柱穴は検出されなかったが、北壁から1mほどのところに壁に平行して2個の小ピットが検出された。

柱穴No	長径	短径	深さ	備考
P 1	0.14m	0.12m	0.14m	
P 2	0.18m	0.12m	0.20m	
P 3	0.24m	0.20m	0.06m	掘り方検出

**掘り方** 顕著な掘り方は検出されなかった。掘り方面で住居南西部に直径25cm、深さ6cmの小ピットが検出された。

**遺物出土状態** 遺物は、図示した須恵器蓋形土器(1050)を除いて破片がほとんどである。この須恵器は住居北東部の床面直上で出土した。また、本住居の床面には長さ15cmほどの細長い礫が24個出土しているのが特徴的である。これらの礫は住居南西部に集中して出土している。

**カマド** 確認し得た住居壁には検出されなかった。

**調査所見** 本住居も下層の77号溝の影響によって床面が沈降しており、床面の検出は困難であった。特に南壁付近の埋没土の堆積が乱れており直立した通有の壁ではなく、図13A-A'土層断面のように斜めに立ち上がる状態であった。また、本住居では24個の棒状礫が集中して出土している。従来このような出土状態の礫は編み物の重りに使われていたと考えられていることが多い。しかし、本住居出土の礫には敲打痕や磨り面のあるものがあり、用途を1つに限定できないと思われる。(小島)

第8章 住居の調査

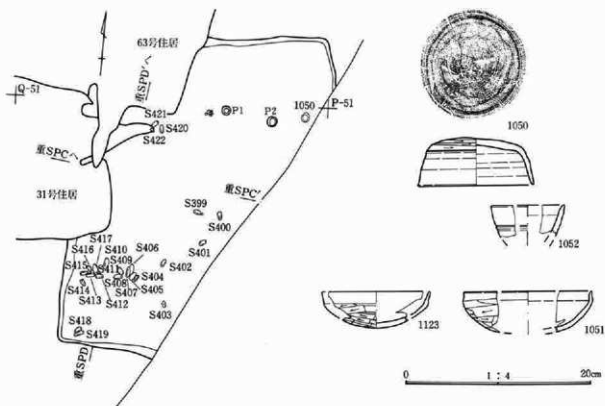


図13 64号住居と出土遺物(1)

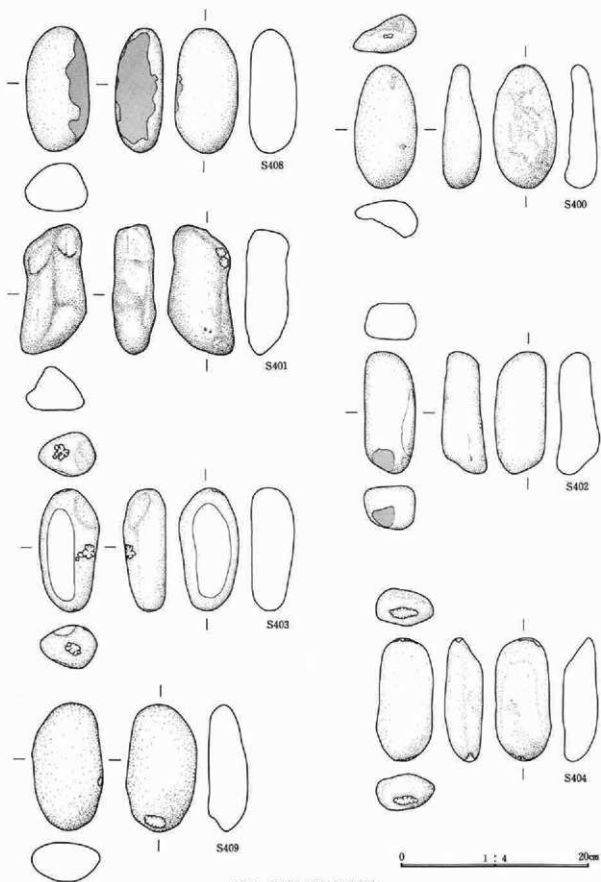


図14 64号住居出土遺物(2)

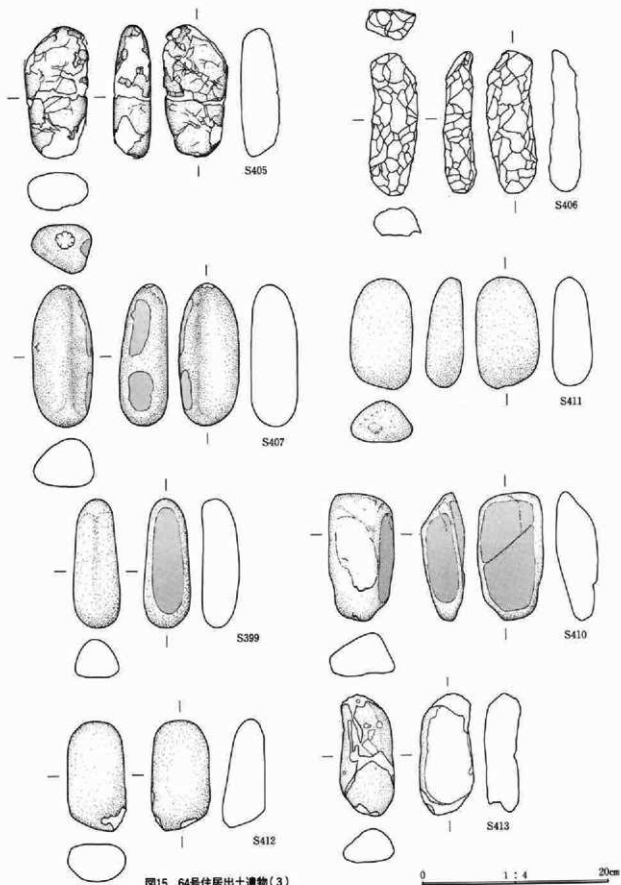


図15 64号住居出土遺物(3)



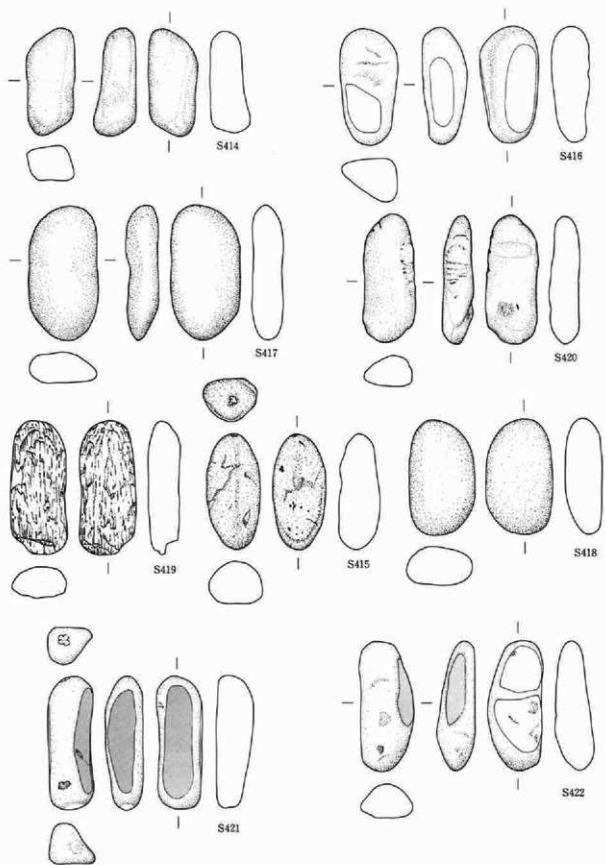


図16 64号住居出土遺物(4)

第8章 住居の調査

66号住居 図17-19, PL6-118, 表P.6

位置 P・Q-51グリッド

規模 縦3.35m 横2.70m 深0.25m

形状 隅丸方形。東壁やや南側にあるカマドの北側は、南側より0.8mほど外側に掘られており、壁が張り出した状態になっている。

主軸方位 W-95°-N

重複 31号住居に先行する。

埋没土 榛名山起源の軽石を含む茶褐色土・灰茶褐色土で埋没している。壁寄りの床面上層には炭化物を主とする暗黒褐色土が堆積している。

床面 北側を中心にやや硬化した面が確認された。

貯蔵穴 検出されなかった。

周溝 検出されなかった。

柱穴 検出されなかった。

掘り方 全体には1~2cmの厚さで黒色土ブロックや軽石を含む灰褐色土が、掘り方を埋めて床面をつくっている。また、住居南西部には長さ1.8m、幅1.2m、深さ3~6cmの不定楕円形の掘り込みがあり土師器杯形土器が出土している。

遺物出土状態 床面に近い遺物は20片ほどが全体に

散在する。図示した土師器杯形土器(1058・1059)は、それぞれ床面および床下(掘り方)土坑出土遺物の破片が接合したものである。

カマド

位置 東壁南端

規模 全長0.63m 屋外長0.50m

最大幅0.96m 焚き口幅0.46m

遺存状態 本住居のカマドの遺存状態は良くない。

焼けた燃焼部の壁や灰層の明確な残存は見られなかった。またカマド右袖右側には灰と焼土粒を含む茶褐色土が堆積しており、掘り方面には直径18cmほどの小ピットも検出された。これは旧カマドの痕跡と考えられる。新しいカマドは掘り方に黒色土ブロックを含む黄褐色粘質土の袖を置き、灰褐色土で埋めて燃焼面をつくっている。右袖は崩落が激しく、高さ5cmほどしか残っていない。

遺物出土状態 カマド内では破片が若干出土しているが、図示できるものはなかった。右袖上層には燻が出土しているが、住居に伴うとは考えられない。

調査所見 カマド北側の張り出しは、拡張によるものか当初のものは明らかにできなかった。(小島)

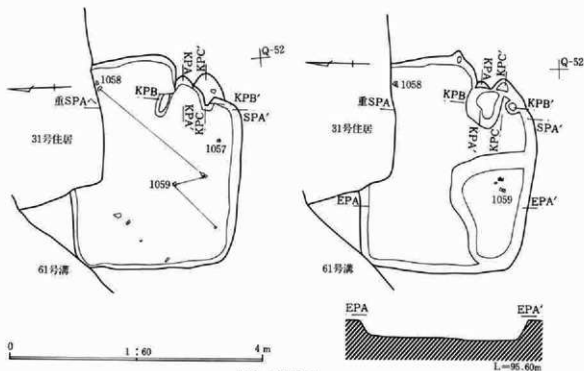


図17 66号住居

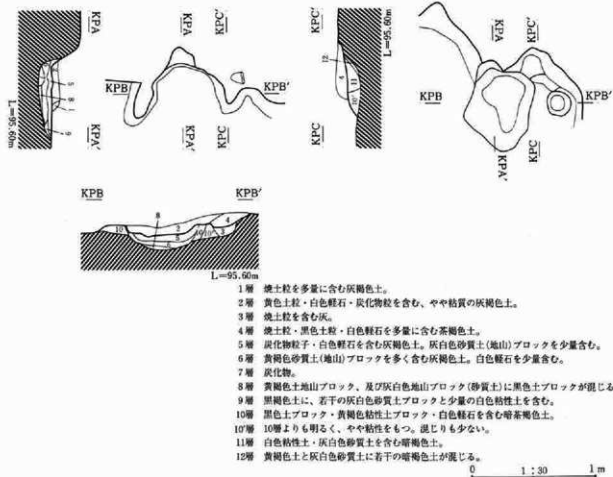


図18 66号住居カマド

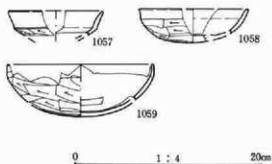


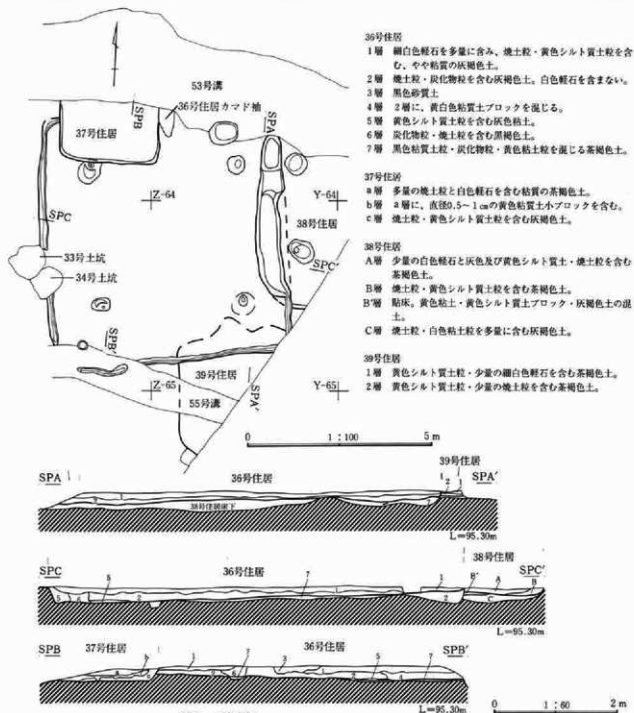
図19 66号住居出土遺物

重複群N

X-Z-63・64グリッドに展開する。36号・37号・38号・39号の4軒の住居と、55号・53号溝、31号井戸、33号・34号土坑が重複する。住居群は55号・53号溝・31号井戸に先行する遺構で、床面や壁が一部確認できていないところがある。

土層断面A-A'およびC-C'から、36号住居は

39号・38号住居に後出することがわかる。また、土層断面B-B'から37号住居は36号住居に後出する。また、33号・34号土坑のうち、34号土坑は36号住居に先行することが土層断面から確認できている。33号土坑は未確認であるが、遺構の形態や規模が33号土坑と酷似していることから同様の新旧関係と考えられる。(小島)



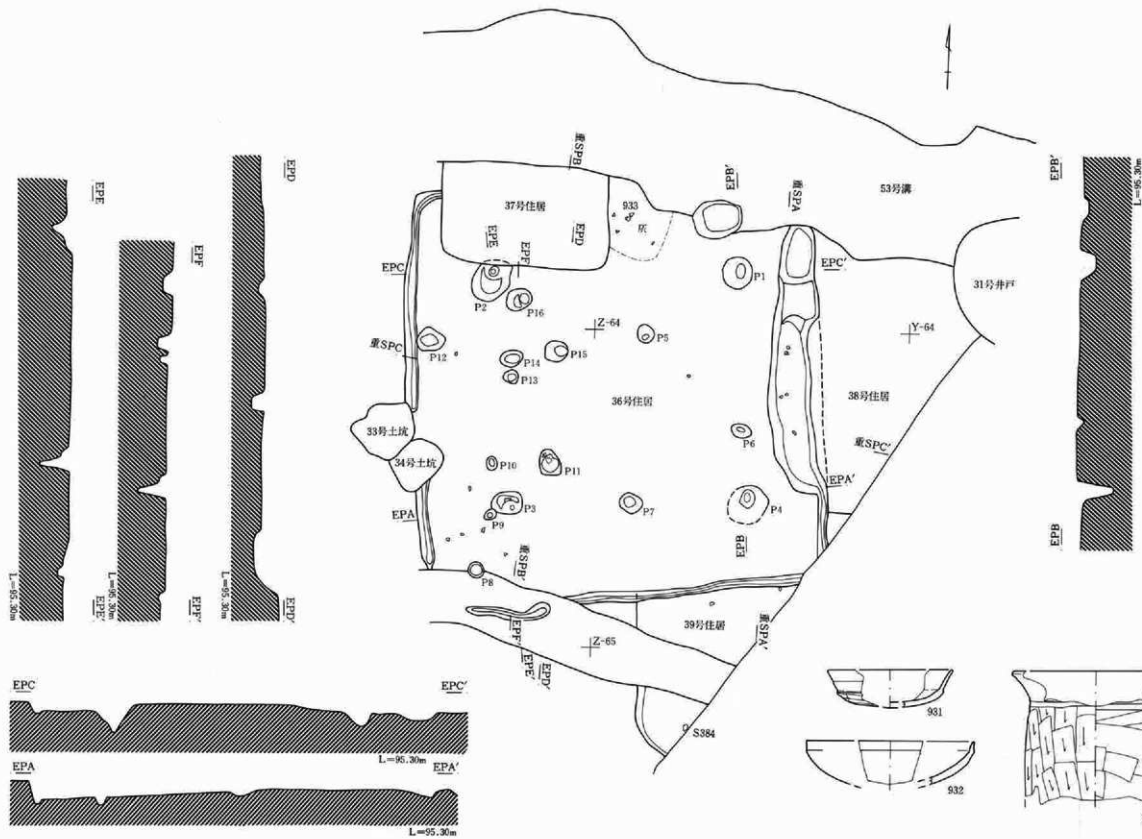


图21 36号・39号住居

0 1:60 2m

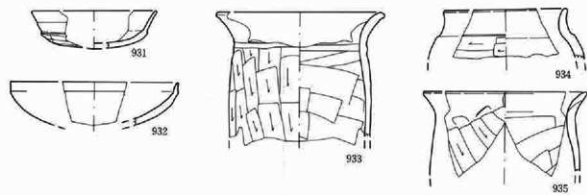


图22 36号住居出土遺物

0 1:4 20cm



## 36号住居 図21-23, PL35-118, 表P.6

位置 Y・Z-63・64グリッド

規模 縦6.50m 横6.50m 深0.20m

形状 隅丸正方形

重複 37号住居・53号・55号溝に先行し、38号・39号住居・33号・34号土坑に後出する。

主軸方位 N-0°-E

埋没土 上層は細かい白色軽石を多量に含み、焼土粒・黄色シルト質土粒を含むやや粘質の灰褐色土で埋まっていた。下層は焼土粒・炭化物粒を含む灰褐色土で埋没していた。

床面 床面全体に硬化面が検出された。東壁沿いには幅0.6~0.7m、深さ15~18cmの帯状の落ち込みが2.2mほど検出され、西側の床面は途切れていた。

貯蔵穴 北壁中央やや東側に長径0.77m、短径0.6m、深さ0.1mの楕円形の土坑が検出されている。

貯蔵穴とするにはやや小規模であるが、カマドの右脇という位置からすると貯蔵穴の可能性があらう。

周溝 53号溝に壊されていた北壁と、先行する38号住居と重複する東壁の一部を除いて、周溝が検出された。周溝の規模は下幅15~18cm、床面からの深さ3~8cmほどである。55号溝に壊されていた南西壁では55号溝の法面に周溝下部を検出している。

柱穴 床面ではP5~P15の小ピットを検出し、主柱穴P1~P4と小ピットP16~P19は掘り方面で確認した。このうちP19は39号住居カマドの掘り方のピットとも考えられる。

柱穴No	長径	短径	深さ	備考
P 1	0.49m	0.45m	0.23m	
P 2	0.70m	0.55m	0.37m	
P 3	0.48m	0.35m	0.47m	
P 4	0.28m	0.25m	0.47m	柱痕の規模
P 5	0.31m	0.24m	0.16m	
P 6	0.35m	0.29m	0.10m	
P 7	0.38m	0.31m	0.09m	
P 8	0.26m	0.25m	0.24m	
P 9	0.21m	0.15m	0.12m	
P 10	0.22m	0.17m	0.15m	

P 11	0.45m	0.32m	0.28m
P 12	0.45m	0.38m	0.05m
P 13	0.22m	0.20m	0.23m
P 14	0.39m	0.26m	0.21m
P 15	0.35m	0.33m	0.20m
P 16	0.42m	0.33m	0.30m
P 17	0.19m	0.18m	0.10m
P 18	0.44m	0.42m	0.05m
P 19	0.64m	0.41m	0.15m

掘り方 住居北東部・南西部が3~5cm掘り込まれている他、住居中央部から南東隅にかけて土坑状に数箇所掘り込まれている。このうち定形的な床下土坑1は、長径1.39m、短径1.20mの楕円形で、床面からの深さは0.10mである。

遺物出土状態 遺物の量は比較的多かったが、床面直上から出土している遺物は少ない。北壁中央のカマドと考えられる部分や、南西隅周辺に集中傾向がある。図示した土器のうち土師器甕形土器(933)は後述するカマドの灰面上で出土している。他はいずれも埋没土中の出土である。

カマド 北壁はほぼ中央部の壁際に、焼土粒を含んだ褐色土塊と灰が床面に堆積している地点が検出された。53号溝に壊されており、全体の構造は明確に確認できなかったが、カマドの痕跡と考えられる。

調査所見 東壁沿いの帯状の落ち込みは、本住居の床面の顕著な硬化面が途切れていたことや平面形から考えると、先行する38号住居の西壁から南西隅を掘ってしまった可能性が大きい。なお、この落ち込み内に分布する遺物はいずれも本住居床面レベルよりも高い遺物であり、本住居に帰属する。(小島)

## 39号住居 図21-23-24, PL118, 表P.6

位置 Y-64・65グリッド

規模 縦(3.3)+ $\alpha$ m 横(2.36)+ $\alpha$ m 深0.07m

形状 隅丸方形と推定されるが、西壁の一部と南西隅が確認できたためであるので詳細は不明である。

重複 36号住居に先行する。

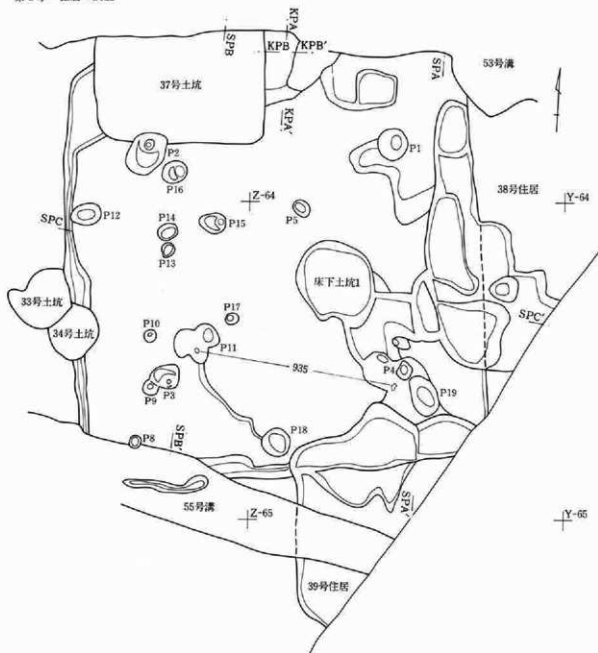


図23 36号・39号住居掘り方



**主軸方位** N-3°-W

**埋没土** 上層は細かい白色軽石・黄色シルト質土粒を含む茶褐色土、下層は少量の焼土粒・黄色シルト質土粒を含む茶褐色土で埋まっていた。

**床面** 顕著な硬化面は検出されなかった。

**貯蔵穴** 調査できた範囲の中では検出されなかった。

**周溝** 調査できた範囲の中では検出されなかった。

**柱穴** 調査できた範囲の中では検出されなかった。

**掘り方** 本住居の掘り方は36号住居の掘り方よりも深く掘られており、北壁の周辺を中心に床面から8~10cm掘り下げられている。この北壁中央部に凸部があり、カマドの掘り方と考えられる。

**遺物出土状態** 出土遺物は多くない。土師器杯形土器の破片等が出土しているが、ほとんど床面から浮いて出土している。また、北東壁際床面直上で敲石(S384)が出土している。

**カマド** 調査できた範囲では燃焼面は検出されなかった。前述したように掘り方の北壁中央の凸部がカマド掘り方の可能性がある。

**調査所見** 重複部分が多く、住居の詳細は明確でない。(小島)

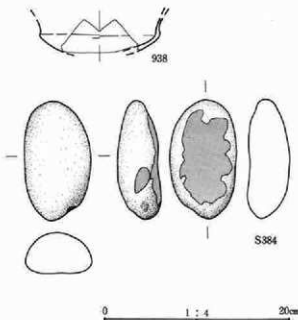


図24 39号住居出土遺物

**37号住居** 図25-26, PL35, 表F.7

**位置** Y・Z-63グリッド

**規模** 縦1.64+αm 横2.66m 深Q.18m

**形状** 隅丸方形と推定されるが、北半分を53号溝に壊されているため、全体像は不明である。

**重複** 53号溝に先行し、36号住居に後出する。

**主軸方位** N-2°-W

**埋没土** 上層は多量の焼土粒と白色軽石・黄色粘土小ブロックを含む茶褐色土で埋まっていた。下層には焼土粒と黄色シルト質土粒を含む灰褐色土が堆積していた。

**床面** あまり顕著な硬化面は検出できなかった。

**貯蔵穴** 検出されなかった。

**周溝** 検出されなかった。

**柱穴** 床面精査時に南壁中央部の壁際でP1を検出したが、柱穴かどうかは確定的ではない。

柱穴No	長径	短径	深さ	備考
P1	0.28m	0.15m	0.11m	

**掘り方** 掘り方はない。掘り込んだ面を直接床面としている。

**遺物出土状態** 遺物の出土はあまり多くない。土師器破片が中心である。図示した2点はいずれも床面から浮いて出土したものである。

**カマド** 調査できた範囲の中では検出されなかった。

**調査所見** 小型の住居である。重複遺構によって壊されている部分が多く、得られた情報は少ない。

(小島)

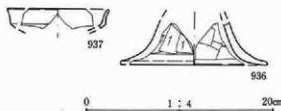


図25 37号住居出土遺物



図26 37号住居

38号住居 附27

位置 X・Y-63・64グリッド

規模 縦4.15+αm 横3.25+αm 深0.13m

形状 隅丸方形と推定される。平面形が確実にとらえられたのは南壁の一部のみであり、推定の域を出ないが、後述するように36号住居東壁沿いの床面で検出したラインを本住居の西壁としたい。

重複 36号住居・53号溝・31号井戸に先行する。

推定西壁方位 N-3°-W

埋没土 上層は少量の白色軽石と、灰黄色シルト質土・焼土粒を含む茶褐色土で埋まっていた。壁際には焼土粒・黄色シルト質土粒を含む茶褐色土が堆積していた。

床面 住居中央部を中心に貼床が施されている。貼床は黄色粘土・黄色シルトのブロックと灰褐色土の混土で作られていた。

貯蔵穴 調査できた範囲の中では検出されなかった。

周溝 調査できた範囲の中では検出されなかった。

柱穴 床面で2本の主柱穴 (P1・P2) と3本の小ピットが検出された。

柱穴No	長径	短径	深さ	備考
P1	0.75m	0.54m	0.21m	
P2	0.58m	0.58m	0.48m	

P3 0.33m 0.28m 0.13m

P4 0.33m 0.29m 0.08m

P5 0.49m 0.38m 0.07m

掘り方 西壁から南西隅にかけての壁際が床面から5~8cm掘り込まれている。

遺物出土状態 出土遺物はきわめて少ない。図示可能な遺物は無かった。

カマド 調査できた範囲の中では検出されなかった。

調査所見 本住居の西壁は36号住居で壊されており、検出できなかった。しかし、36号住居に重複している部分の掘り方で、36号住居の東壁沿いに帯状の落ち込みが確認できており、これが本住居の西壁周辺の平面形である可能性が高い。なお、この落ち込み内に分布する遺物はいずれも36号住居床面レベルよりも高い遺物であり、本住居のみではない。

(小島)

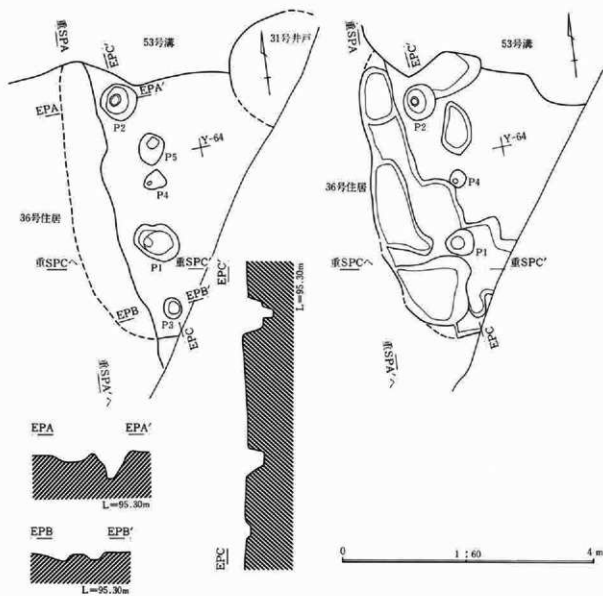


図27 38号住居

重複群B

重複群Bは、V・W-59-61、X-60グリッドに展開する。6軒の住居と、8基の土坑が存在する。

住居は重複関係の新しい順に145号住居→146号住居→143号住居→56号住居、同一地点において重複関係の新しい順に55号住居→56号住居→57号住居と、平面形および土層の観察による各住居の切り合いに基づいて判断された結果である。56号住居は143号住居と55号住居により切られているが、55号住居と143号住居の直接の重複関係はない。145号住居は4軒の住居を切っている。北壁に146号住居、東壁に143号住居、東壁および南壁に56号住居、南壁および西壁の一部に57号住居が切られている。V

～X-59・60、Y-58～2 Aグリッドには幅約4 mの現農道がある。農道部分は工事工程や耕作の関係から、期間を運らせて調査を行った。この付近の土層堆積状況は、遺構確認面までが浅く、特に東と北が浅く、西の低地に向かい徐々に深くなる。このため農道の下ではかえって遺構が保護されており、道路をはずれ、畑地になる146号住居と143号住居の北壁側と65号土坑では、遺構の一部分が耕作による攪乱などにより未検出であった。道路部分により56号住居と57号住居は同一年度に調査を行うことができず、複数年かけて調査を行ったため住居の遺構全景写真は撮影できず、年度ごとの部分写真となり、理解しにくい写真となった。(小島)

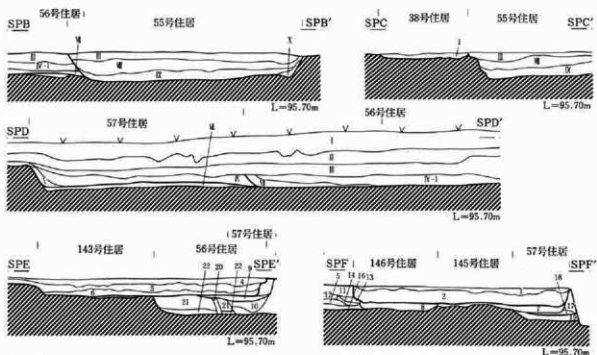


- 55-57号住居
- I層 表土層(耕作土)
  - II層 黄褐色土 直径1cm前後の軽石・角四石が、10cmあたり3-5個混入しているが、一定した混入率はない。直径2-3mmの小さな軽石は全体的に混入する。水分を早く蒸発する。
  - III層 褐色土 III層と同様に軽石を含む。水分を含んでいる。
  - IV層 暗褐色土 水分を含み、粘性がある。軽石は希に入り込む程度であり、直径1cmほどのものが主である。所々にHr-Faブロックが入る。
  - V層 暗灰白色土 砂質である。鉄分を含み、斑点状の酸化バクテリアの痕跡がある。住居跡層の流入土と考えられる。
  - VI層 暗褐色土 床面の上である。わずかに凹凸と堅さが観察できる。Hr-Fa期の洪水堆積物のブロックが混入している。
  - VII層 暗褐色土 IV層よりも茶色が濃く、Hr-Faブロックが混入する。
  - VIII層 茶褐色土 Hr-Faブロックが流れ込むように入っている。わずかに粘性がある。
  - IX層 暗茶褐色土 直径0.5cmの軽石を全体に含み、直径10cmの軽石を10個位含む。
  - X層 暗茶褐色土 直径1-2cmの軽石がまばらに入る。Hr-Faブロックが不均一に混入する。砂質。
  - X層 暗黄褐色土 Fa期の洪水堆積物の流入土。

38号土坑  
茶褐色土層(軽石を含む) 砂質である。住居跡を切る。

図28 重複群B

0 1:100 5m



- 143号住居
- 4層 暗褐色土 標名山起源の軽石を多量に含む。黄褐色土を少量含む。2層に比べて暗く、黄褐色土の含まれる量も少ない。焼土粒子・炭化物粒子を少量含む。
- 5層 暗灰褐色土 黄褐色土ブロックを少量含む(4層よりやや多いが、2層より少ない)。焼土ブロックを少量含む。標名山起源の軽石をやや多く含む。
- 6層 暗灰色土 焼土粒子・炭化物粒子を微量含む。粘性が強く、しまりも良い。
- 9層 暗褐色土 白色軽石(標名山起源の軽石)をわずかに含む。焼土粒をわずかに含む。

- 57号住居
- 10層 暗褐色土 白色軽石(標名山起源の軽石)をわずかに含む。焼土粒を少量含む。黒色灰・黒色炭化物をわずかに含む。暗黄褐色土ブロックをわずかに含む。

- 56号住居
- 20層 暗赤褐色土 焼土粒子を少量含む。(9層に近い)
- 21層 暗褐色土 Hr-FA ブロックをわずかに含む。白色軽石を少量含む。
- 22層 暗褐色砂質土 暗黄褐色砂を少量含む。

- 145号住居
- 1層 暗褐色土 標名山起源の軽石を多量に含む。黄褐色土ブロック及び同粒子を少量含む。炭化物粒子・焼土粒子を微量含む。やや砂質。
- 2層 暗灰褐色土 黄褐色土ブロック及び同粒子を多量に含む。焼土粒子・炭化物粒子をやや多めに含む。標名山起源の軽石を多く含む。1層よりも粘性は強い。
- 7層 暗褐色砂質土 白色軽石(標名山起源の軽石)を少量含む。3層に類似する。
- 8層 暗褐色土 白色軽石(標名山起源の軽石)をわずかに含む。暗黄褐色土ブロックを少量含む。

- 146号住居
- 11層 暗灰褐色土 黄褐色土ブロックをわずかに含む。灰褐色土を多量に含む。
- 12層 暗灰褐色土 白色軽石をわずかに含む。灰褐色粘性土ブロックを少量含む。
- 13層 暗灰褐色土 白色軽石をわずかに含む(12層より多め)。灰褐色粘性土ブロックを少量含む(12層より少なめ)。
- 14層 暗褐色土 白色土粒子を少量含む。やや砂質。
- 15層 暗褐色土 白色軽石(標名山起源の軽石)・灰褐色粘性土ブロックを少量含む。
- 16層 暗灰褐色土 黄褐色砂質土・灰褐色粘性土ブロックを少量含む。

- 57号住居
- 19層 暗灰褐色土 Hr-FA ブロックを少量含む。FA 期の洪水堆積物(暗灰色粘性土)を少量含む。

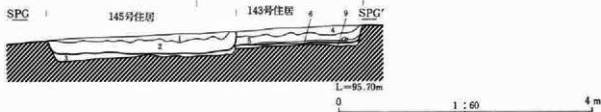


図29 重複群Bの土層断面

第8章 住居の調査

55号住居 図30、PL7-118、表P.7

位置 V・W-60・61グリッド

規模 縦3.6m 横2.3+αm 深0.45m

形状 隅丸方形と考えられる。

重複 38号土坑に先行する。56号・57号住居に後出する。

北壁方位 N-102°-E

埋没土 上層は褐色土層、中層から下層にかけては暗茶褐色土層である。いずれの土層にも角閃石安山岩が含まれている。

床面 貼床が施されている。南壁に沿い、東西方向に約1mの幅で床面が高い。床面の高さは4~6cmである。

貯蔵穴 検出されなかった。

周溝 検出されなかった。

柱穴 検出されなかった。

掘り方 床面は平坦な状況を示すが、北壁下の一部はわずかに床下に掘り方をもつ。深さは約5cmである。掘り方の落ち込みは東側の調査区外へ伸びている。

遺物出土状態 出土遺物は少ない。本住居床面上15cmほどのところから出土した土師器杯形土器は形状を保っている。

カマド 調査できた範囲の中では検出されなかった。

調査所見 南北方向の土層観察用のベルトでは、明瞭に56号住居の埋没土を本住居の埋没土が切っていることから、56号住居との重複関係は本住居が新しいことを証明している。(相京)

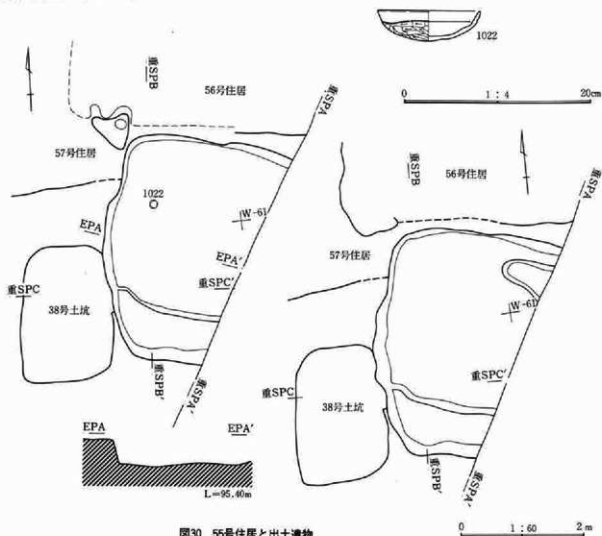


図30 55号住居と出土遺物

## 56号住居 図31-53, PL7-118, 表P.7

位置 V・W-60グリッド

規模 縦4.90m 横3.10m 深0.6m

形状 隅丸長方形

重複 55号・57号・143号・145号住居と切り合っており、55号・143号・145号住居に先行する。

主軸方位 N-175°-E

埋没土 暗褐色土が流れ込むように堆積している。西壁は57号住居の東部分を切り込んでいることから、57号住居よりも新しいことがわかる。また、東側は調査区外となるが、土層によると新しい落ち込みにより掘り込み面が壊されている可能性が高い。床面 貼床が施されている。全体に均一化した固さであるが、しっかりした床面である。西に向かいわずかに傾斜している。

貯蔵穴 北東隅に長軸0.7m、短軸0.53m、深さ0.08mの不定形な落ち込みが検出された。貯蔵穴と考えられる。

周溝 検出されなかった。

柱穴 掘り方で柱穴が検出された。

柱穴No 長径 短径 深さ 備考

P1 0.25m 0.18m 0.08m

掘り方 床面にもぐるような出土位置の土器もあるが、掘り方を明瞭にとらえられる状態ではない。

遺物出土状態 カマド付近のピット内より土師器杯形土器が床面から出土している他、埋没土中からも数点の遺物の出土がある。

カマド

位置 南壁東隅付近

規模 全長1.0m 屋外長0.32m

最大幅0.95m 焚き口幅0.6m

遺存状態 カマドは全体につぶれて崩壊状態で検出された。カマド左袖付近は55号住居によって切られている。カマド本来の形状はとどめていない。

遺物出土状態 カマド内から土師器の壺形土器が出土している。

調査所見 重複が激しく、不明瞭な部分が多い。

56号住居北東部は掘り込み面部分が二段になっており、遺物の出土があることから、使用時にテラス状にしていたか、崩れ始めていたかのどちらかと考えられる。(相京)

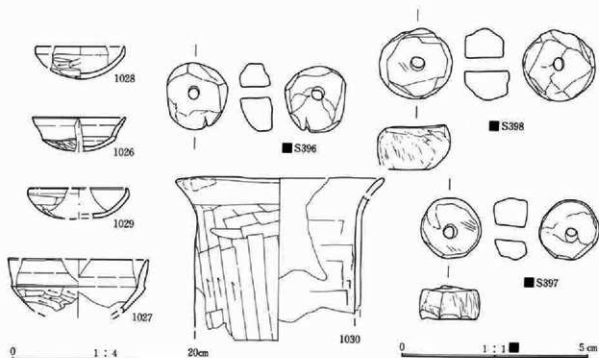


図31 56号住居出土遺物

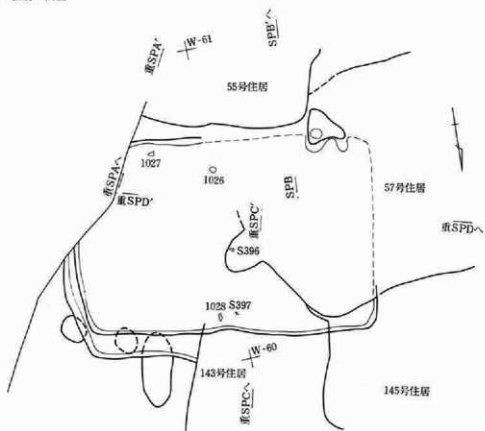


図32 56号住居

0 1 : 60 4 m



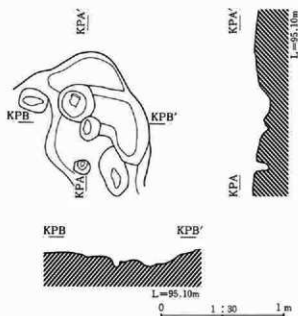


図33 56号住居カマド掘り方

## 57号住居 図34-36、PI.7-18、表P.7-8

位置 V・W・X-60グリッド

規模 縦4.6m 横3.65m 深0.32m

形状 不定形

重複 4軒の住居と重複しており、55号・56号・143号・145号住居に先行する。

南壁方位 N-88°-E

埋没土 暗褐色土層である。直径1cmほどの榛名山起源の軽石がまれに入り込む。住居の東側は56号住居によって切られていることがわかった。

床面 貼床が施されている。暗褐色土であり、榛名山起源の軽石や灰が混入している。床面はわずかに凹凸がある。南壁下西部分は幅約0.5m、長さ2m、高さ5~10cmの平坦な高まりがある。

貯蔵穴 検出されなかった。

周溝 検出されなかった。

柱穴 配列は不規則である。

柱穴No	長径	短径	深さ	備考
P 1	0.6 m	0.36m	0.245m	
P 2	0.26m	0.26m	0.12 m	
P 3	0.45m	0.40m	0.15 m	
P 4	0.20m	0.15m	0.60 m	掘り方検出

掘り方 貼床を取り除くと、径20cm、深さ6cmのピット(P4)が確認された。

遺物出土状態 埋没土中より土師器甕形土器の口縁部付近の破片が出土している。

## カマド

位置 東壁中央部

規模 全長0.6m 屋外長0.5m

最大幅0.7m 焚き口幅0.5m

遺存状態 重複が激しく、全体の形状をとどめていない。カマドの下半部分のみを残しているが、上に重なる56号住居の土層断面C-C'では、本住居の上位にあたる部分で土層堆積状況が複雑であり、落ち込んだ状況を呈していると考えられる。

遺物出土状態 少量が全体に散在して出土した。

調査所見 北側の2/3にあたる道路下部分と、南側1/3は、調査年度を異にしているため、写真では全景状態に不足が生じている。(相京)

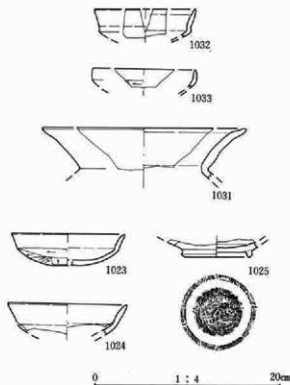


図34 57号住居出土遺物

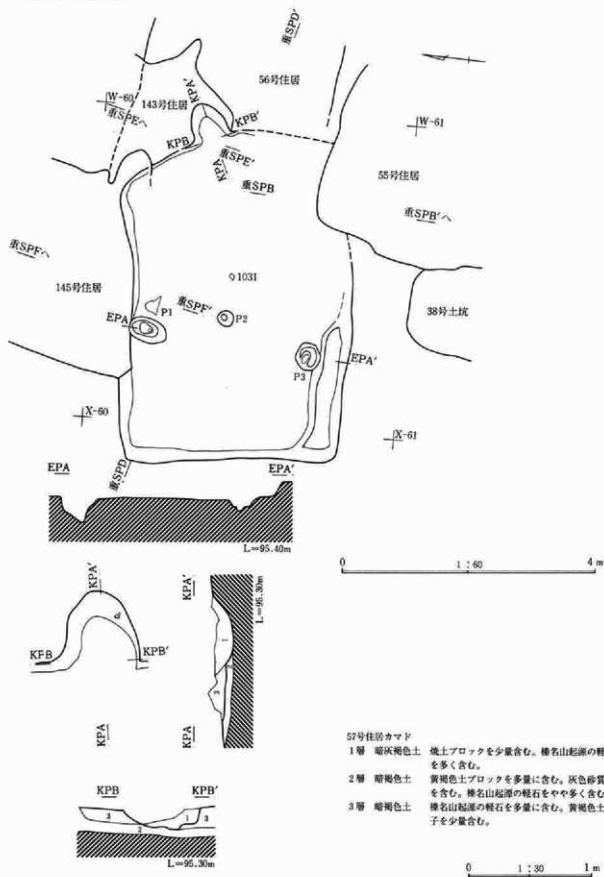


図35 57号住居

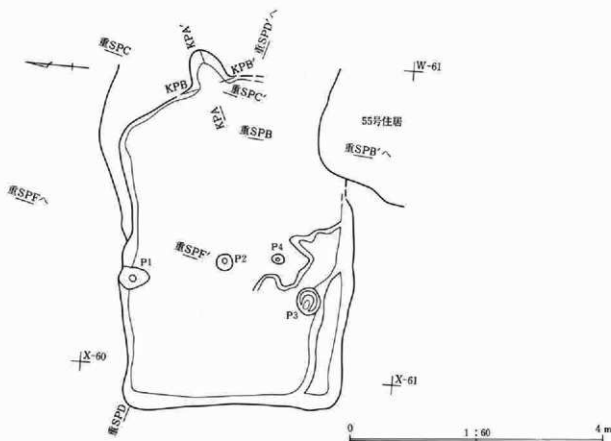


図36 57号住居掘り方

## 143号住居 図37-38, PL7-8-119, 表P.9

位置 V・W-59・60グリッド

規模 縦0.37m 横0.26m 深0.31m

形状 隅丸方形

重複 145号住居に先行し、56号住居に後出する。

主軸方位 N-115°-E

埋没土 褐色土の埋没土であり、黄褐色土ブロック、焼土粒、炭化物粒、榛名山起源の軽石を含んでいる。床面 貼床が施されている。厚さ2cmの床面であり、硬く締まっている。焼土粒や炭化物粒を少量含んでいる。

貯蔵穴 検出されなかった。

周溝 検出されなかった。

柱穴 検出されなかった。

掘り方 住居床面下約8cmほどの掘り方をもつ。多少の凹凸はあるものの底面はほぼ平坦である。掘り方の充填土は暗褐色土で、榛名山起源の軽石粒・焼

土粒をわずかに含んでいる。

遺物出土状態 カマドおよびカマド周辺は密集しているが破片は全体から出土している。カマド床面とカマド右袖前方からは羽釜が多く出土している。他には高台付碗形土器や杯形土器・壺形土器が出土し、須恵質、土師質の遺物が見られる。その他に特徴的な遺物として砥石が住居のほぼ中央床面直上から出土している。

カマド

位置 東壁中央よりやや南

規模 全長0.7m 屋外長0.55m

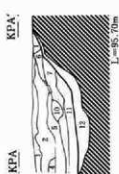
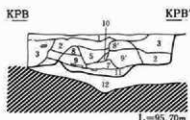
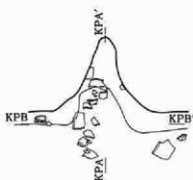
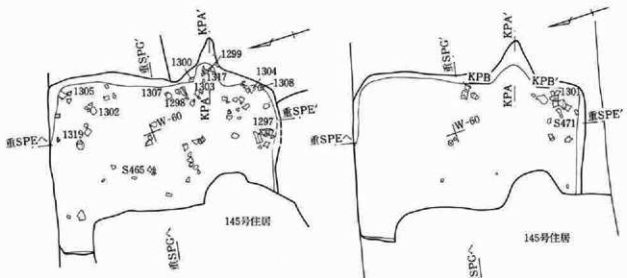
最大幅1.45m 焚き口幅0.47m

遺存状態 崩れてはいるものの両袖の残りは良い。カマドの埋没土層の8・9層にあるように黄褐色土ブロックをベースにした暗灰褐色土により構築している。壁際の確認できる袖の高さは約20cmである。遺物出土状態 カマド内および周辺から接合関係を

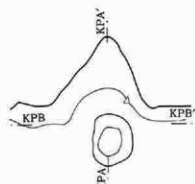
もつ羽釜が出土している。

調査所見 重複群Bに位置する本住居は、西壁部分

の多くを145号住居によって切られてはいるものの、形状は隅丸方形と考えられる。(相京)



0 1:60 4m



- 1層 暗褐色土 標名山起源の軽石をやや多く含む。しまりは良い。2層に比べてやや砂質。
- 2層 暗灰色土 暗黄褐色土ブロックを多く、標名山起源の軽石・焼土粒子及び同ブロックをやや多く含む。粘性があり、しまりも良い。
- 3層 暗褐色土 焼土粒子及び同ブロックを少量含む。しまりは良いが、2層よりも粘性は弱い。
- 4層 暗黄褐色土 標名山起源の軽石・炭化物粒子を少量含む。しまりが良く、非常に堅緻。
- 5層 暗灰色土 焼土粒子・炭化物粒子を多く含む。暗黄褐色土ブロックをやや多く含む。2層よりもやや暗い。

- 6層 暗灰色土 焼土ブロックを多く含む。標名山起源の軽石を少量含む。しまりは良く、粘性が強い。
- 7層 暗灰色土 焼土粒子を多めに含む。炭化物粒子を少量含む。粘性がある。
- 8層 暗灰色土 黄褐色土ブロックを多く含む。標名山起源の軽石・焼土ブロックを少量含む。
- 8'層 8層とはほぼ同じであるが、8層よりもやや多くの標名山起源の軽石を含み、焼土はほとんど含まれない。
- 9層 暗灰色土 黄褐色土ブロック・焼土ブロックを多く含む。標名山起源の軽石を少量含む。粘性が強く、しまりも良い。
- 9'層 9層とはほぼ同じであるが、9層よりもやや多くの標名山起源の軽石を含み、焼土はほとんど含まれない。
- 10層 暗黄褐色土 黄褐色土ブロックを少量含む。 11層 暗赤灰色土 灰を多量に含む。焼土粒を少量含む。
- 12層 暗褐色土 焼土粒を少量含む。暗黄褐色土ブロックをわずかに含む。

図37 143号住居

0 1:30 1m

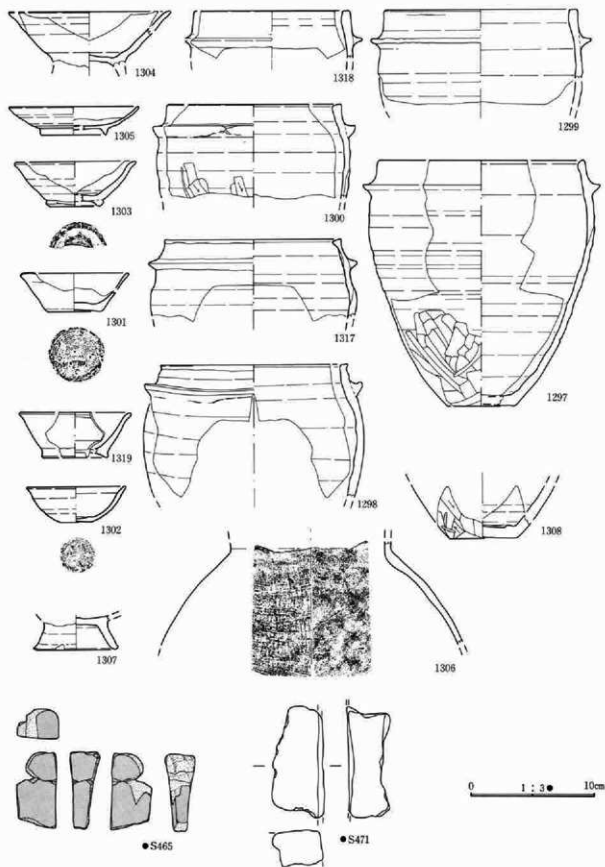


図38 143号住居出土遺物

145号住居 図39-40, PL8-9, 表P.9

位置 W-59・60グリッド

規模 縦3.4m 横2.96m 深0.3m

形状 隅丸方形

重複 56号・143号・146号住居に後出する。

主軸方位 N-98°-E

埋没土 暗褐色土の中に榛名山起源の軽石を多量に含む他に、黄褐色土ブロックや焼土粒、炭化物粒を含む。下層になるにつれて砂を含むようになる。

床面 床面は埋没土最下層の暗褐色砂質土を除去した段階で現れ、炭化物粒や焼土粒が混ざるほぼ平坦な形状を呈す。

貯蔵穴 北東隅に、長径0.66m、短径0.50m、深さ0.7mの楕円形を呈する貯蔵穴が明瞭に検出された。

周溝 検出されなかった。

柱穴 西壁下中央付近から楕円形の小ピットが2本検出された。

柱穴No	長径	短径	深さ	備考
P 1	0.15m	0.10m	0.13m	
P 2	0.24m	0.22m	0.10m	

掘り方 全体的に床面より8~15cmほどの深さで掘り方が確認された。底面には小さな凹凸がある。

遺物出土状態 住居内全体に散在するが、比較的カマドの前面と南壁寄りからの遺物の出土が多い。床

面直上出土の土器は少なく、埋没土中からの出土が多い。土師器および須恵器の羽釜・甕形土器・杯形土器・椀形土器などの破片が多く出土している。

カマド

位置 東壁中央よりやや南側

規模 全長1.25m 屋外長0.5m

最大幅0.82m 焚き口幅0.5m

遺存状態 カマドの底面は住居の床面より約0.15m掘り凹められて、袖の下に暗黒色土を薄く敷き、袖を構築している。確認できたカマド最終使用面は床面とはほぼ同じ高さにある。カマドの掘り方には2つのピットが検出された。

柱穴No	長径	短径	深さ	備考
P 3	0.28m	0.2 m	0.04m	
P 4	0.2 m	0.15m	0.08m	

遺物出土状態 カマドの埋没土中からは羽釜や、小片ではあるが、カマドの構築に使用したと考えられる瓦片の出土もある。カマド前面では椀形土器が出土している。

調査所見 重複群Bにおいては新しい住居である。カマドは東壁の中央やや南にある。貯蔵穴は北東隅にあり明瞭である。カマド・貯蔵穴は比較的残存状況は良い。遺物は少ないが接合関係からみると同時に散らばった感が強い。(相京)

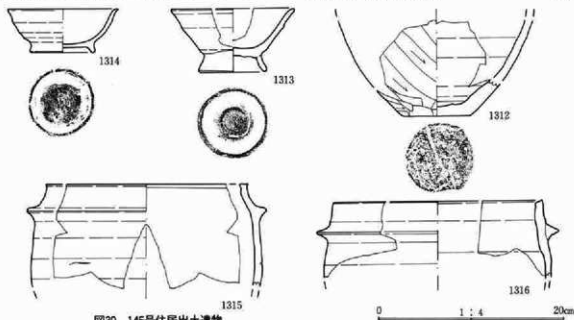
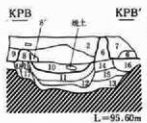
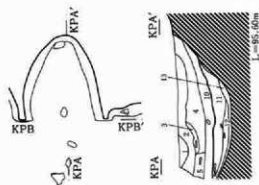
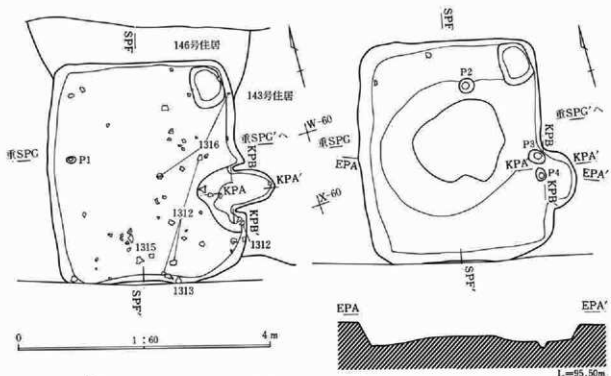


図39 145号住居出土遺物



- 1層 暗褐色土 黄褐色土ブロック・標名山起源の軽石をやや多く含む。焼土粒子を微量含む。
- 2層 暗灰褐色土 1層よりも黒みが強い。黄褐色土ブロックを少量含む。標名山起源の軽石をやや多く含む。
- 3層 暗灰色土と黄褐色土ブロックの混合土。(黄褐色土ブロックの間を埋めている感じ)
- 4層 暗灰白褐色土 黄灰白色粘性土ブロック・標名山起源の軽石を少量、焼土粒子及び同ブロックをやや多く含む。粘性があり、しまりも良い。
- 5層 暗灰褐色土 2・4層に比べて黒みが強い。灰・炭化物粒子を多く含む。焼土ブロックを少量含む。4層よりもしまりは弱い。
- 6層 暗褐色土 黄褐色土ブロック・標名山起源の軽石を多量に含む。しまりは2・7層に比べて良い。
- 7層 暗灰褐色土 黄褐色土を含まない。標名山起源の軽石をやや多く含む。炭化物粒子・焼土粒子を微量含む。やや砂質。
- 8層 暗灰褐色土 黄白褐色土ブロック・焼土ブロックを含み、粘性が同層の層に比べて強い。しまりも良い。
- 8'層 暗灰褐色土 袖のくずれ。
- 9層 7層に近いが、7層よりもやや黄色みを帯びる。
- 10層 暗褐色土 焼土ブロック・炭化ブロックを含み、しまっている。焼土塊は支障である。
- 11層 暗褐色土 焼土ブロックを含み、白色土粒子が混入する。
- 12層 暗黒褐色土 焼土粒・炭化物をわずかに含む。
- 13層 暗黒褐色土 Hr-FAブロックを含む。
- 14層 6層と同じ。6層と14層の間は縫はない。
- 15層 焼土粒・炭化粒を含む暗褐色土。
- 16層 暗褐色土 住居除覆土の最下層。標名山起源の軽石ブロックを少量含む。
- 17層 19層と同じだが、焼けていない。 18層 17層と同じ。 19層 8層と同じ。

図40 145号住居とカマド

0 1:30 1m

第8章 住居の調査

146号住居 8541

位置 W-59グリッド

規模 縦1.8+ $\alpha$ m 横3.5m 深0.3m

形状 不定形

重複 143号住居に後出し、145号住居に先行する。

南壁方位 N-88°-E

埋没土 暗灰褐色土を主に榛名山起源の軽石を少量含む。下層には砂質土が堆積している。

床面 貼床が施されている。

貯蔵穴 検出されなかった。

周溝 検出されなかった。

柱穴 ビットが2本検出された。P1をP2が切っているが、P2は不定形で浅く、柱穴の可能性はほとんどない。

柱穴No 長径 短径 深さ 備考

P1 0.4 m 0.27+ $\alpha$ m 0.21m

P2 0.5+ $\alpha$ m 0.28+ $\alpha$ m 0.05m

掘り方 145号住居に切られ、ほぼ同様の高さの掘り方底面である。146号住居の掘り方は明瞭ではなく、床面と同じ面であり、平坦である。

遺物出土状態 埋没土中から1点の破片が出土したが、甕形土器か羽釜の一部と考えられる。

カマド 調査できた範囲の中では検出されなかった。

調査所見 145号住居に南部分が切られている。北側は調査年度が違い、表土面からの耕作による攪乱等により未検出であった。報告する部分は農道下に残ったところである。(相京)

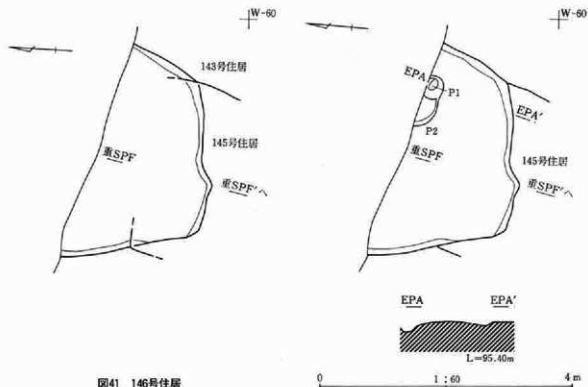


図41 146号住居



## 重複群C

N-O-46-49グリッドに展開する。68号・71号・72号・73号・74号・83号・84号・88号・90号・91号・92号住居が重複し、68号・70号・71号・78号・82号溝が関係している。Oラインのやや東側のラインを境にして、東側と西側は用地の都合で調査を一緒に行うことができなかった。さらにこの周辺は遺構確認面まで浅く、住居の平面形がしっかりと把握できない地点があって、同時に調査できなかったところでは、住居の平面形が連続しなかったり、確認できなかったりしたところがあった。

68号住居は土層断面B-B'から71号溝に後出し、83号住居に先行する。83号住居は土層断面ラインの西側では検出することができなかった。88号住居は、91・92号住居に後出し、83号住居に先行する。92号住居は土層断面B-B'上では71号溝と重なり、表現されていないが、68号・88号住居ともに92号住居の床面を壊しており、92号住居が先行することが判断できる。

71号住居は土層断面C-C'から72号・73号住居に先行する。72号住居は、中央部に70号溝、南側に71号溝が後出して掘られており、特に南壁は明確にとらえられていない。73号住居は土層断面C-C'にみられるように71号・74号住居に後出する。74号住居は土層断面C-C'の観察から73号住居に先行することがわかっているが北西隅の平面形は明確ではない。

84号・90号住居は、83号住居と同様に用地の関係で分断されたラインの東側の発掘調査区のみで確認できた住居である。重複群Cの北西部は住居確認面までが浅くなり、住居平面形の把握が困難であった。これらは床面の切り合いから90号・84号・74号住居の順に掘られたことがわかる。(小島)

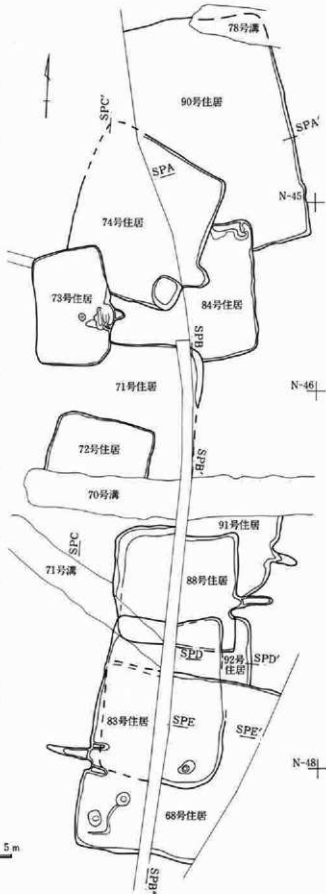


図42 重複群C

90号住居 1層 灰化燐灰・白色輝石・灰化燐灰を含む黄褐色砂質土。

1層 1層に類似するが、灰化燐灰を含まない。

2層 1層のプロックと褐色土プロックの混成土。

3層 黄褐色土・白色輝石を含む砂質土。

74号住居 1層 輝石・焼土粒・灰化燐灰を含む茶褐色土。

2層 地山の輝石を多量に含んだ直径3~8cmの灰褐色砂礫土プロックと、灰化燐灰を含む灰褐色土。

68号住居 1層 灰化燐灰・白色輝石を多量に含む茶褐色砂質土。

2層 黄褐色砂土・灰色土粒を含む黄褐色土。

3層 灰褐色土・焼土粒・輝石を含む黄褐色土。

4層 黄褐色砂質土

4層 灰化燐灰・茶褐色土粒を含む灰色シルト質土。

83号住居 1層 輝石・焼土粒を含む灰色土。

2層 輝石・焼土粒・黄色土粒を含む灰褐色土。

3層 少量の輝石と砂粒を含む灰色シルト質土。

4層 焼土粒・灰化燐灰を含む灰色シルト。

5層 白色輝石・灰化燐灰を含む茶褐色土。

6層 白色輝石・灰化燐灰を含む茶褐色土。

92号住居 1層 黄色シルトの厚くしまった層上、灰色シルトのラミナ層。大きなFA層の流木遺物の輝石を多く含む。

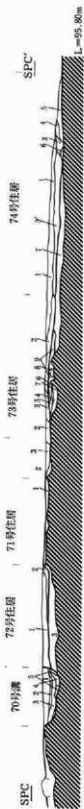
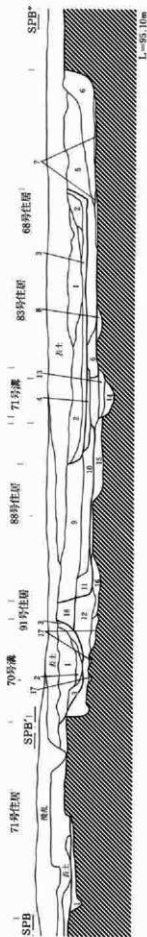
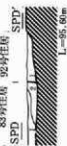
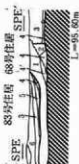
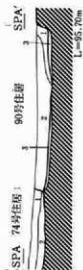


図43 重複計Cの土層断面

## 68号住居

- 5層 軽石・炭化物粒・焼土粒を含む灰褐色土。  
 6層 軽石・炭化物粒を含む黄褐色砂質土。  
 7層 灰色シルト質土  
 8層 灰褐色シルト質土(地山)小ブロック・軽石・黒褐色土ブロックの混土。

## 71号住居

- 1層 茶褐色土

## 88号住居

- 9層 焼土粒・直径1～1.5cmの大粒の軽石を多量に含む暗褐色土。  
 10層 軽石・黄灰色粘質土(地山)小ブロック・炭化物・焼土粒を含む茶褐色土。  
 11層 軽石・黄色砂壤土粒・灰色シルト質土粒を含む灰褐色土。  
 15層 暗褐色土 黄灰白褐色地山ブロックを少量含む。灰をわずかに含む。直径1cmの榛名山起源の軽石の小塊をわずかに含む。

## 91号住居

- 12層 灰色シルト質土ブロック・黄色砂壤土小ブロック・少量の軽石を含む褐色土。  
 16層 暗褐色土 黄白色砂質土(地山)ブロック・榛名山起源の軽石の円礫を多く含む。炭化物粒子を微量含む。  
 17層 褐色土 16層よりも明るい。灰褐色砂質土ブロック・極めて多量の黄褐色砂質土(地山)ブロックを含む。  
 18層 茶褐色土

## 70号溝

- 1層 軽石を多量に含む暗褐色土。やや砂質。  
 2層 灰色シルト質土  
 3層 軽石・炭化物粒・黄色土粒を含む灰褐色土。

## 71号溝

- 13層 暗灰褐色砂質土 黄灰白褐色土(地山)ブロック・榛名山起源の軽石を少量含む。  
 14層 暗灰褐色砂質土

## 72号住居

- 1層 灰茶褐色土 直径1cmほどの灰褐色土ブロック・直径1mm前後の白色軽石を多量に含む。黄白褐色土粒子・炭化物粒子を少量含む。しまりは良い。  
 2層 暗灰褐色土 1層よりも暗い。軽石をほとんど含まない点は、1層と相違する。  
 3層 茶褐色土 直径1cmの榛名山起源の軽石が混じり、上位にある。

## 73号住居

- 1層 灰茶褐色土 白色軽石(榛名山起源の軽石)を多く含む。黄白褐色土粒子及び同ブロックを少量含む。  
 2層 暗灰褐色土 ややしまりは悪い。1層よりも暗い。  
 3層 暗赤褐色土 焼土粒子を多く含む。全体に赤い。地は1層に近い。  
 4層 カマドセクションの8層と同じ。焼土層。赤褐色を呈する。灰が混じる。直径1mm未満の白色軽石を極少量含む。  
 5層 カマドセクションの2層と同じ。灰土層。直径1～3mmの炭化物粒子を多く含む。直径1mmほどの焼土粒子を少量含む。  
 6層 カマドセクションの3層と同じ。褐色土層。黄白褐色土(地山)ブロックを多量に含む。しまりは良い。  
 7層 カマドセクションの6層と同じ。紫色がかる褐色土。黄白色土(地山)ブロックを多く含む。焼土粒子を少量含む。  
 8層 黒褐色土ブロック  
 9層 褐色土 黄白褐色土(地山)ブロックをやや多く含む。直径1mm未満の白色軽石をごく少量含む。しまりは良い。

## 74号住居

- 1層 暗青灰褐色土 直径1mmほどの榛名山起源の軽石を多量に含む。直径1cmほどの榛名山起源の軽石は数点認められる。黄白褐色土粒子を極少量含む。しまりは良い。  
 2層 暗青灰褐色土 1層よりも若干明るく、黄白褐色土ブロック・紫がかる褐色粘性土ブロックを含む。  
 2層 暗青灰褐色土 2層よりも暗く、青灰色がかるのが強くなる。榛名山起源の軽石は1層よりも若干少ない。黄褐色土ブロックを少量含む。しまりは良い。  
 3層 暗褐色土 黄褐色砂質土を多く含む。若干紫がかる粘性土ブロックを含む。白色軽石を極少量含む。しまりは良い。  
 4層 褐色土 黄白褐色砂質土が多く混入する。白色軽石を少量含む。4層よりもかなり明るい。  
 5層 明褐色土 黄白褐色砂質土・青灰褐色土が多く含まれる。榛名山起源の軽石は極少量含まれる。しまりは悪い。  
 6層 青灰色粘性土 しまりは良い。単一的。  
 7層 掘り方(床面下) 直径0.1～1cmの榛名山起源の軽石を含む茶褐色土。一部に炭化物を含む。固い。

## 70号溝

- 1層 暗褐色土 若干暗灰色を帯びる。直径1～2mmの白色軽石を多く含む。黄褐色軽石が極少量混じる。しまりは良い。72号住の1層に比べてかなり黒い。  
 2層 暗灰色土 粘性有り。ほとんど軽石を含まない。  
 3層 暗灰褐色土 直径1cmの榛名山起源の軽石の円礫を少量、直径1mm以下の榛名山起源の軽石を多く含む。  
 4層 若干黄色みを帯びる褐色土。地山(灰白色砂質土・黄褐色砂質土)ブロックを多く含む。榛名山起源の軽石は直径1mm以下のものをやや多く含む。  
 5層 暗灰褐色土と地山(灰白色砂質土・黄褐色砂質土)のブロックとの混土。やや後者の方が多い。しまりは非常に強い。

## 第8章 住居の調査

68号住居 四44-47, PL9-10-119-120, 表P.9-10

位置 N・O-47・48グリッド

規模 縦4.6+ $\alpha$ m 横5.0m 深0.25m

形状 方形と考えられる。東壁は調査区外のため確認できず、全体の形状は不明である。北西隅は83号住居および71号溝との重複で土層が乱れており、平面形を明確にとらえることができなかった。

重複 83号住居に先行し、92号住居・71号溝に後出する。

主軸方位 N-81°-W

埋没土 上層は榛名山起源の軽石・焼土粒・炭化物粒を含む茶褐色土で埋まっている。下層は榛名山起源の軽石と炭化物粒を含む黄褐色土砂質土で埋まっている。最下層の床面直上には灰色シルト質土が堆積している。

床面 住居内ほぼ全域に硬化面が形成されている。カマド付近と北東部は10cmほど高くなっており、中央部はなだらかにへこんでいる。

貯蔵穴 南西隅に長径0.4m、短径0.35m、深さ0.16mの楕円形の小ピット(P4)が検出されたが、規模からして貯蔵穴とは考えにくい。

周溝 掘り方面の調査で南壁西端にのみ、下端幅0.12m、床面からの深さ2cmほどの周溝を確認した。

柱穴 床面で南西の主柱穴(P2)を確認した。また、掘り方面の調査で北西と北東の主柱穴(P1・P3)を検出した。P1・P3は、抜き取り痕とも考えられる平面形の乱れがあり、ピット内には礫が多く落ち込んでいた。この3本の主柱穴の他に、床面でP4・P5、掘り方面でP6・P7を検出した。P5は住居ほぼ中央にあり特異であるが、住居にともなう施設かどうかは判断できない。各ピットの規模については以下のとおりである。

柱穴No	長径	短径	深さ	備考
P1	0.43m	0.35m	0.16m	礫・抜取痕
P2	0.4 m	0.34m	0.18m	
P3	0.57m	(0.45m)	0.16+ $\alpha$ m	礫・抜取痕
P4	0.4 m	0.35m	0.16m	
P5	0.43m	0.28m	0.32m	

P6 0.28m 0.24m 0.27m

P7 0.31m 0.26m 0.34m

P8 0.3 m 0.24m 0.30m

掘り方 顕著な掘り方はなく、掘り込んだ面を直接床面としている。北西部には一部に不定形な掘り方の掘り込みがあり、灰褐色シルト質土や黒褐色粘質土のブロック、榛名山起源の軽石の混土で埋まっている。

遺物出土状態 遺物はかなり多く出土しているが、カマド周辺に特に集中して出土している。カマド前面の床面直上には土師器壺形土器(1065・1069・1070)が出土している。カマド左脇の壁際には1061の土師器杯形土器が床面から4.5cmほど浮いた状態で出土した。また1062の土師器杯形土器は住居北東部の床面直上で出土している。また、住居内の東側の周縁部には、棒状の礫がほとんど床面直上で出土している。本住居の棒状礫にも敲打痕や磨り面のあるものがある。

カマド

位置 西壁中央

規模 全長1.71m 屋外長1.09m

最大幅0.89m 焚き口幅0.55m

遺存状態 本住居のカマドは壁を外に掘り込まずに燃焼部をつくり、屋外はすべて煙道部としている形態のものである。壁の立ち上がりがそのまま燃焼部の立ち上がりになっており、燃焼部奥は直立している。遺存状態は極めて良好で、燃焼部の灰面が良く残り、燃焼部から煙道部への立ち上がり部分にまで、壁に沿うように灰面が形成されていた。その上層には燃焼部壁の崩落焼土が壁体の粘質土と混ざって堆積していた。袖は黄褐色粘土によって付設されており、最も良く残っていたB-B'ラインで右は床面から15cm、左は10cmほど残存していた。

燃焼部の奥や右側には、長さ18cmほどの棒状礫が掘り方に立てて埋め込まれており、支脚として使用されていたものと考えられる。その支脚の左側には灰面の確認できない範囲があった。

遺物出土状態 前述した支脚の他に、カマド燃焼部

内には土師器甕形土器 (1068) が23cm浮いた状態で出土している。底部のみが残存しており、支脚にかけられていた位置で埋没した可能性もあろう。

調査所見 住居の調査が東西に分けて行われたため、写真や図面の記録も分けて取らざるを得なかった。(小島)

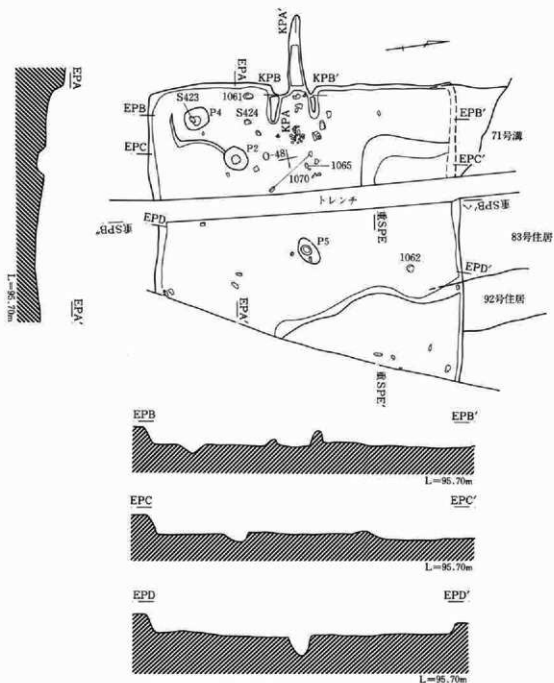


図44 68号住居

第8章 住居の調査

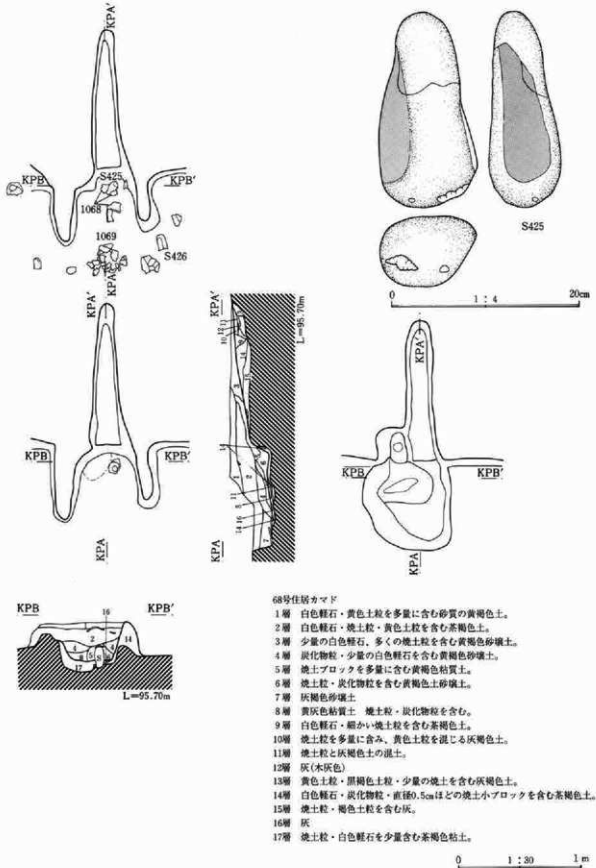


図45 68号住居カマド

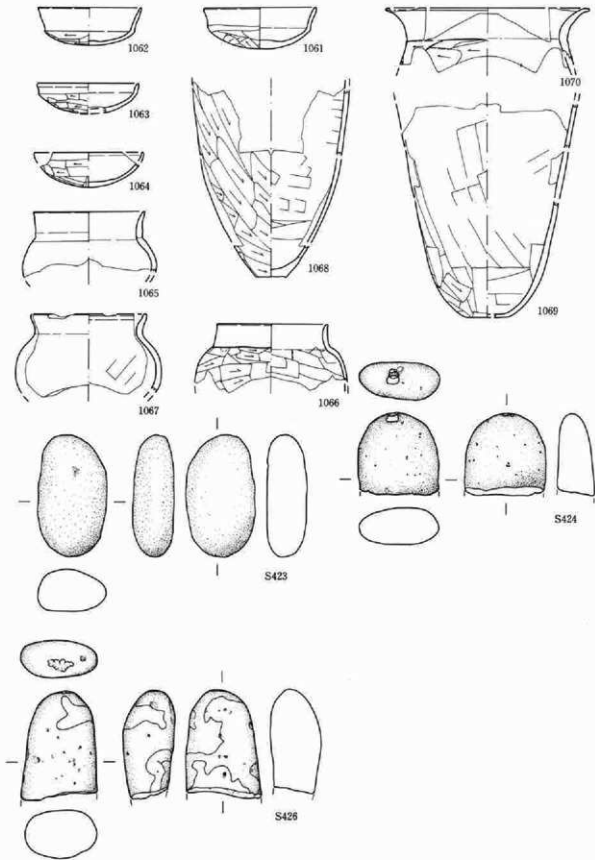


図46 68号住居出土遺物

0 1 : 4 20cm

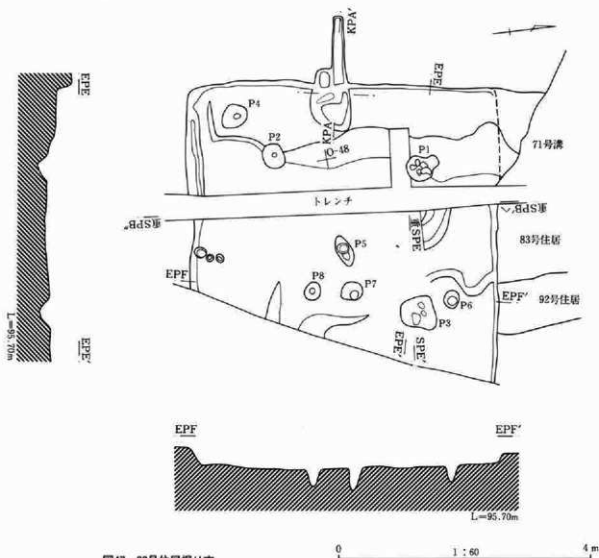


図47 68号住居掘り方

71号住居 図48-49, PL11-120, 表P.10

位置 N・O-45・46グリッド

規模 縦3.57m 横4.50+ $\alpha$ m 深0.09m

形状 方形と考えられるが、平面形は北壁の一部と北東隅が検出されただけであるので、確定できない。

重複 72号・73号住居に先行し、84号住居に後出する。

北壁方位 N-0°-E

埋没土 上層は榛名山起源の軽石を含む褐色土で、下層は粒子の粗い暗褐色砂質土で埋まっている。

床面 東部を中心にやや硬化した面が検出されたが、西側部分は確認面が徐々に西へ下がっており、床面の本来の範囲は確認できなかった。

貯蔵穴 検出されていない。

周溝 検出されていない。

柱穴 掘り方面で北東部にP1を検出した。確認した面では上端が広がり、抜き取られていることも考えられる。位置的には本住居の北東隅の主柱穴と考えられるが、対応する他の3本は検出できなかった。

柱穴No 長径 短径 深さ 備考

P1 0.48m 0.35m 0.24m

掘り方 掘り方はない。掘り込んだ面をそのまま床面としている。一部北壁寄りに床下土坑が1基確認されている。長径0.7+ $\alpha$ m、短径0.45mの不定楕円形で北端は北壁に接している。深さは0.04mほどですり鉢状になだらかな断面形を呈している。



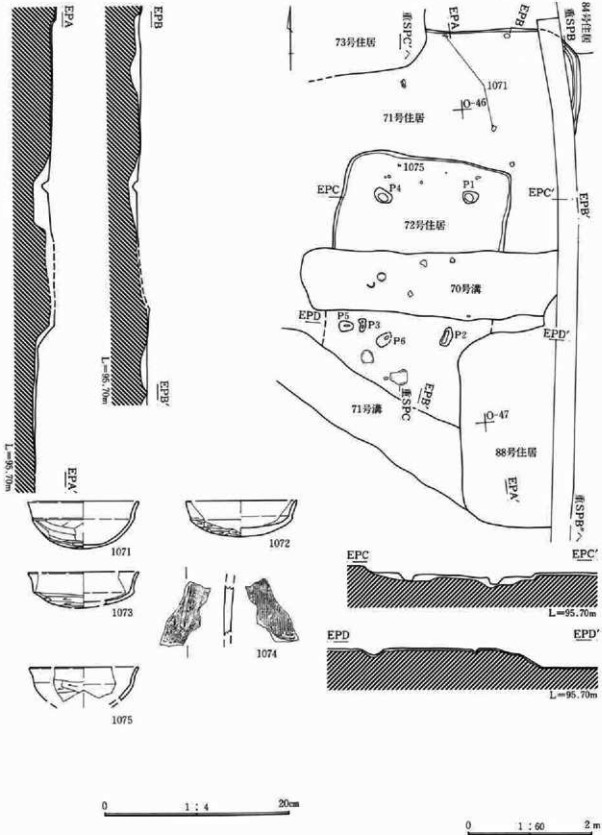


図48 71号・72号住居と出土遺物

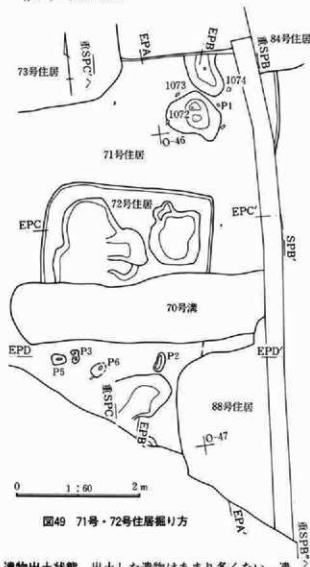


図49 71号・72号住居掘り方

**遺物出土状態** 出土した遺物はあまり多くない。遺物が集中して出土する地点もない。床面直上のやや離れた位置で出土した土師器杯形土器(1071)が接合している。図示した1072の土師器杯形土器はP1の底面に接して出土した。1073・1074は床面の精査の時に出土した。

**カマド** 調査できた範囲の中では検出されていない。

**調査所見** 平面形のうち、確認できたのは北壁の一部と北東隅だけであり、住居の全体像は把握し難い。特に東壁は第一次の調査区の東端に設定した重複関係観察用のトレンチにあたってしまい、検出できなかった。西側は現象谷川河道に向って傾斜しており、西壁は後の地形変化によって削りとられたものと考えられる。(小島)

**72号住居** 図48・49、PL11・12、表P.11

位置 N・O-46グリッド

規模 縦3.4+αm 横2.74m 深0.09m

形状 70号溝よりも南側は西・東・南壁とも確認できず、やや隅丸の長方形を呈すると推定される。したがって縦方向の規模も、柱穴位置から考えた推定値である。

重複 70号溝に先行し、71号住居に後出する。

主軸方位 N-13°-E

埋没土 上層は多量の灰褐色土ブロック・白色軽石と少量の黄白褐色粒・炭化物粒を含む灰茶褐色土で、下層は軽石をほとんど含まない暗灰褐色土で埋まっていた。

床面 やや硬化した面が検出された。

貯蔵穴 検出されなかった。

周溝 検出されなかった。

柱穴 床面で北側のP1・P2・P4が、掘り方面で南側のP3・P5・P6が検出された。このうち位置的にはP1-P4が主柱穴と考えられるが、P3は極端に小さく2連の穴で測定できないが深い方で計測した。

柱穴No 長径 短径 深さ 備考

P1	0.25m	0.19m	0.10m	
P2	0.30m	0.13m	0.04m	
P3	0.13m	0.10m	0.04m	掘り方検出
P4	0.3m	0.19m	0.12m	
P5	0.23m	0.15m	0.11m	掘り方検出
P6	0.21+αm	0.15m	0.06m	掘り方検出

**掘り方** 床面より5-10cmほど掘り込まれている。掘り方底面は凹凸が顕著であるが、2基の床下土坑が検出された。東側のいずれも深さ5cmほどの不定形な皿状の掘り込みである。東側の土坑は長径0.95m、短径0.85mの不定形な楕円形を呈している。西側の土坑は南北1.35+αm、東西1.5mの範囲に掘り込まれており、東縁はやや凹凸がある。掘り方や床下土坑は、直径1cmほどの標山起源の軽石を含む茶褐色土で埋まっていた。

**遺物出土状態** 出土遺物の量は少なく、破片が多い。

図示できたのは、床面から2.5cmほど浮いて出土した土師器杯形土器(1075)のみであった。また、南壁があると推定できる地点に直径が25cmと20cmほどの礫2つが床面近くで出土している。使用痕等がなく、石器との確認はできなかった。

カマド 調査できた範囲の中では検出できなかった。

調査所見 住居中央部を70号溝が横断し、破壊されている。また、70号溝の南側はいずれの壁も確認できず、住居の全体像は把握しきれなかった。(小島)

### 73号住居 図50-52、PL12-130、表P.11

位置 O-45グリッド

規模 縦2.0m 横3.2m 深0.09m

形状 隅丸長方形

重複 71号・74号・84号住居に後出する。

主軸方位 N-89°-E

埋没土 上層は軽石や黄褐色土粒を含む灰茶褐色土で、下層は焼土粒を含む暗褐色土で埋没している。

床面 カマド周辺には貼り床が施設されていた。

貯蔵穴 検出されなかった。

周溝 検出されなかった。

柱穴 検出されなかった。

掘り方 カマド周辺には直径90cmほどの不定円形を呈する床下土坑が検出された。底面は凹凸が激しく不定形である。

遺物出土状態 カマド周辺の床面近くで土師器の甕形土器の破片が出土している。図示した1077の土師器甕形土器は、胴部下半部が倒立していた。

カマド

位置 東壁中央やや南寄り

規模 全長0.80m 屋外長0.35m

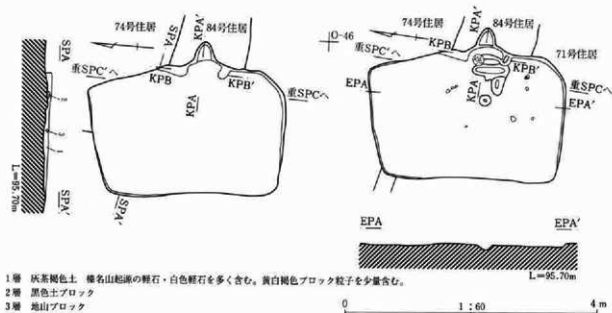
最大幅0.83m 焚き口幅0.55m

遺存状態 住居全体が削平を受けており、確認できた部分が少なかったため、最終使用面と考えられる1層下面での平面的な調査はできなかった。袖は地山を掘り残して作っている。

遺物出土状態 焼焼部中央やや左寄りで土師器甕形土器(1077)が倒立して埋め込まれた状態で出土した。支脚として使用されたものと考えられる。

調査所見 周辺では、最も後出する小型・横長の住居である。1076の土師器杯形土器は埋没土中の出土である。壁周辺の床面の硬化は確認できなかった。

(小島)

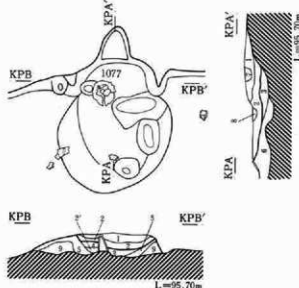


1層 灰茶褐色土 権名山起源の軽石・白色軽石を多く含む。黄白褐色ブロック粒子を少量含む。

2層 黒色土ブロック

3層 地山ブロック

図50 73号住居



- 1層 茶褐色土 直径2〜3mmの焼土粒子を少量含む。直径1〜2mmの炭化物粒子を微量含む。直径1mm未満の榛名山起源の軽石を少量含む。
- 2層 青灰色土 直径1〜5mmの炭化物粒子を多く含む。灰層。
- 2層 青灰色土 直径1〜3mmの炭化物粒子を多く含む。直径1mmほどの焼土粒子を少量含む。灰層。
- 3層 褐色土 黄白褐色土(地山)ブロックを少量含む。しまりは良い。
- 4層 褐色土 灰白色粘牲土ブロック・黄褐色粘牲土ブロックを多く含む。直径3mmほどの焼土粒子を少量含む。若干、灰が見える。
- 5層 明褐色土 若干、黄色みを帯びる。焼土粒子・炭化物粒子を微量含む。茶褐色土(地山)の粒子が混入する。
- 6層 紫色がかる褐色土 黄白色土(地山)ブロックを多く含む。焼土粒子を少量含む。
- 7層 褐色 焼土ブロック及び同粒子を多く含む。全体に赤みが強い。直径1mm以下の白色軽石をやや多く含む。
- 8層 焼土 赤褐色を呈する。灰が混じる。直径1mm未満の白色軽石(軽石)を微量含む。
- 9層 灰白褐色土 白色軽石を多く含む。しまりは良い。(地山)

0 1:30 1m

図51 73号住居カマド

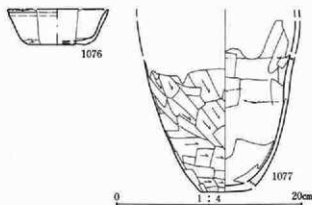


図52 73号住居出土遺物

74号住居 図53-55, PL12-13-120-121, 表P.11-12

位置 N・O-44・45グリッド

規模 縦3.63m 横4.12m 深0.11m

形状 隅丸長方形を呈すると推定される。西壁は削平されたとみられ、確認できなかった。

重複 73号住居に先行する。84号・90号住居に後出する。

主軸方位 N-110°-S

埋没土 多量の榛名山起源の軽石と少量の黄白褐色土粒を含む灰茶褐色土で埋まっていた。

床面 カマド周辺を中心に硬化した床面が検出された。西部の中央部には直径0.95m、深さ5cmの不定円形の皿状の凹みが検出された。この凹みの底面には南西部に偏って直径0.57mの円形の範囲に灰が分布していた。

貯蔵穴 掘り方面の調査時に、住居南隅、カマド右脇で貯蔵穴と考えられる掘り込みが検出された。北側は壁に接しており、長径0.9m、短径0.73m、床面からの深さ0.10mの楕円形を呈する。出土遺物はほとんど底面から浮いた状態で出土した破片である。

周溝 検出されなかった。

柱穴 主柱穴と考えられるピットは検出されなかったが、掘り方面の南壁付近に小ピットが2本検出された。

柱穴No	長径	短径	深さ	備考
P 1	0.19m	0.11m	0.08m	
P 2	0.33m	0.23m	0.03m	

掘り方 床面から8〜10cm掘り込んでいる。特に東半分は円形の床下土坑が並び底面は不定形になっていた。また、北東隅には北壁に接して長径0.90m、短径0.84m、深さ3〜4cmの皿状の落ち込みが検出された。

遺物出土状態 遺物はカマドの周辺に集中して出土する傾向があった。須恵器蓋形土器(1087)、土師器小型甕形土器(1083)が、床面・使用面の直上で出土している。図示した1086の須恵器碗形土器、1082・1084・1089の土師器甕形土器は床面から数cm

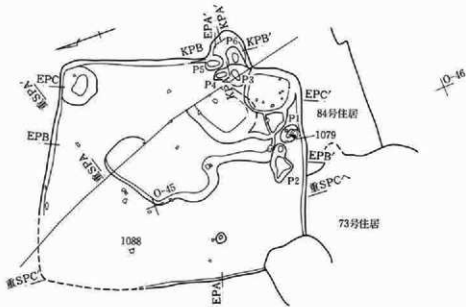
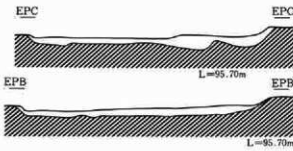
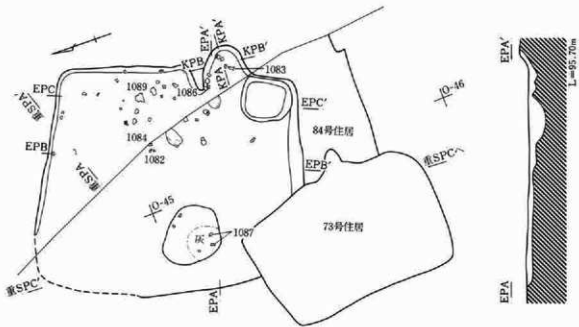
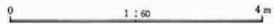


図53 74号住居



第8章 住居の調査

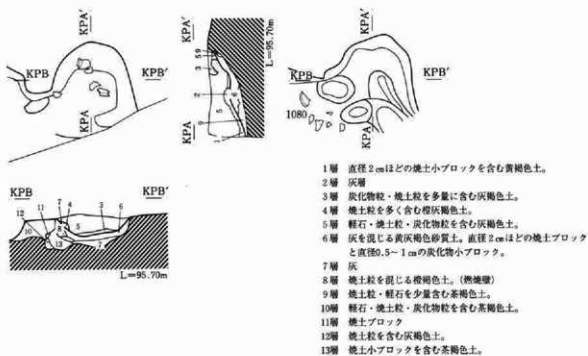


図54 74号住居カマド

0 1:30 1m

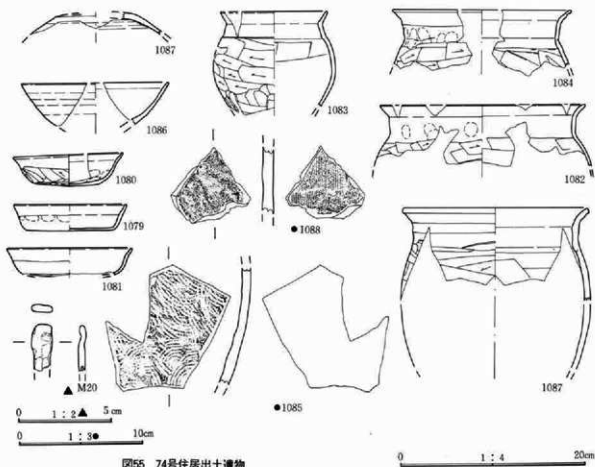


図55 74号住居出土遺物

浮いた地点で出土した。1079・1080・1081の土師器杯形土器は埋没土中から出土した。

#### カマド

位置 東壁中央やや南寄り

規模 全長0.5m 屋外長0.25m

最大幅1.0+ $\alpha$ m 焚き口幅0.6m

遺存状態 カマドの右袖部分は二次にわたる調査の境にあたり、うまく検出できなかった。使用面には焼土と灰が残っていたが、燃焼部の壁は赤化していない。掘り方面には小ピットが4基掘り込まれている。各ピットの規模は次の通りである。

柱穴No	長径	短径	深さ	備考
P 3	0.35m	0.35m	0.06m	
P 4	0.25m	0.15m	不計測	
P 5	0.30m	0.22m	0.02m	
P 6	0.27m	0.22m	0.06m	

袖は、基部が地山であることや、炭化物粒・焼土粒を含む褐色土が燃焼部壁を形成していることが土層断面観察から確認された。

遺物出土状態 カマド内の遺物は左袖周辺および燃焼部に集中している。燃焼部からは使用面について1083の土師器甕形土器が出土している。

調査所見 調査時には認識していなかったが、住居西部の床面に検出された不定円形の皿状の落ち込みには灰が遺存しており、その位置や形状などからも小鍛冶の可能性も考えられる。しかし、鉄滓・羽口などの出土はない。関係するとすれば、床面下から出土した鉄製品 (M20) があるが、これのみをもって小鍛冶遺構とするには問題が残る。(小島)

83号住居 図56-57, PL13-121, 表P.12

位置 N-47・48グリッド

規模 縦4.5m 横(3.0m) 深0.16m

形状 隅丸方形と推定されるが、東壁と周辺の床面・縦断する土層断面・北西隅の掘り方しか検出できなかったために詳細は不明である。

重複 68号・88号・92号住居に後出する。

東壁方位 N-3°-W

埋没土 上層は黒色土ブロック・白色軽石・焼土粒を含む灰褐色土で、中層は炭化物粒・焼土粒・白色軽石を含む灰褐色土で、下層は少量の軽石と砂粒を含む灰色シルト質土で埋まっている。

床面 顕著な硬化面は確認できなかった。

貯蔵穴 検出できなかった。

周溝 検出できなかった。

柱穴 検出できなかった。

掘り方 土層断面からは一部に掘り方が観察できるが、平面的には検出できなかった。掘り方は白色軽石・褐色土粒・少量の焼土粒を含む灰色土で埋まっている。

遺物出土状態 遺物の出土は少なく、図示し得たのも土師器杯形土器破片(1146)のみである。また、北西隅で棒状礫が集中して出土している。敲打痕や磨り面の残るものもある。

カマド 調査できた範囲の中では検出できなかった。

調査所見 西側の一次調査で、下層の68号住居を確認する際に、上層に本住居が認識できず、68号住居の調査を開始してしまった。したがって、遺憾ながら西側の本住居については記録をとることができなかった。東側の調査に移った際に断面上層に床面が確認でき、急遽平面形と床面の調査をおこなったものである。(小島)

第8章 住居の調査

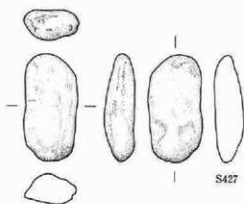
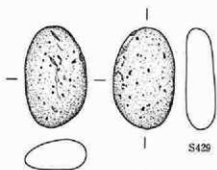
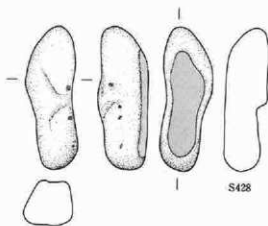
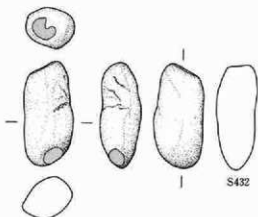
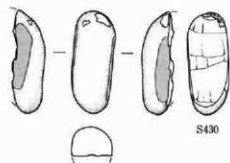
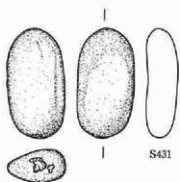


図56 83号住居出土遺物

0 1 : 4 20cm



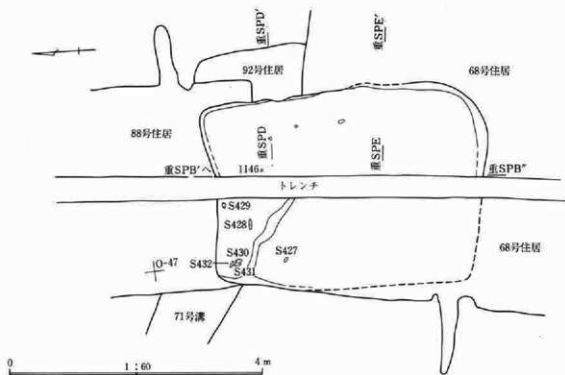


図57 83号住居

## 84号住居 図58・59, PL13・14・121, 表P.12

位置 N-45グリッド

規模 縦3.50m 横1.9+αm 深0.12m

形状 隅丸方形と推定されるが、一次調査の際に西側半分が確認できなかったため西壁は不明である。

74号・71号住居の間に西壁は想定できる。

重複 71号・74号住居に先行し、90号住居に後出。

主軸方位 N-6°-W

埋没土 白色軽石を含む黄褐色土で埋まっている。

壁際には軽石を含む褐色土が堆積していた。

床面 顕著な硬化面は検出されなかった。

貯蔵穴 検出されなかった。掘り方調査時に住居南東隅に掘り込みが検出されたが、不定形な形状から考えれば、貯蔵穴とは判断できない。

周溝 検出されなかった。

柱穴 主柱穴らしいピットは床面でも掘り方面でも確認できなかった。掘り方面調査時に東壁中央よりやや南寄りに、壁に接して小ピットが検出されている。また、東壁中央やや北寄りに楕円形の落ち込みが検出されたが深さが3cm程度であり、柱穴とは考

え難い。

柱穴No	長径	短径	深さ	備考
P1	0.41m	0.3m	0.19m	

掘り方 住居全体が床面から3~5cm掘り込まれていた。南東隅には深さ3cmほどの不定形な床下土坑が検出されている。北東隅には一部に掘り残されて要るところがあった。

遺物出土状態 遺物は東壁沿いに集中して出土している。破片が多く図示し得る土器はなかった。図示した砥石(S472)は住居中央部、床面直上で出土している。

カマド 調査できた範囲の中では確認できなかった。

調査所見 西側の一次調査で、重複する71号・74号住居の副を遺構と認識できず、本住居を検出することができなかった。したがって、遺憾ながら西側の本住居の床面や壁については記録をとることができなかった。東側の調査に移った際に断面で本住居の床面が確認でき、急造平面形と床面の調査をおこなったものである。(小島)

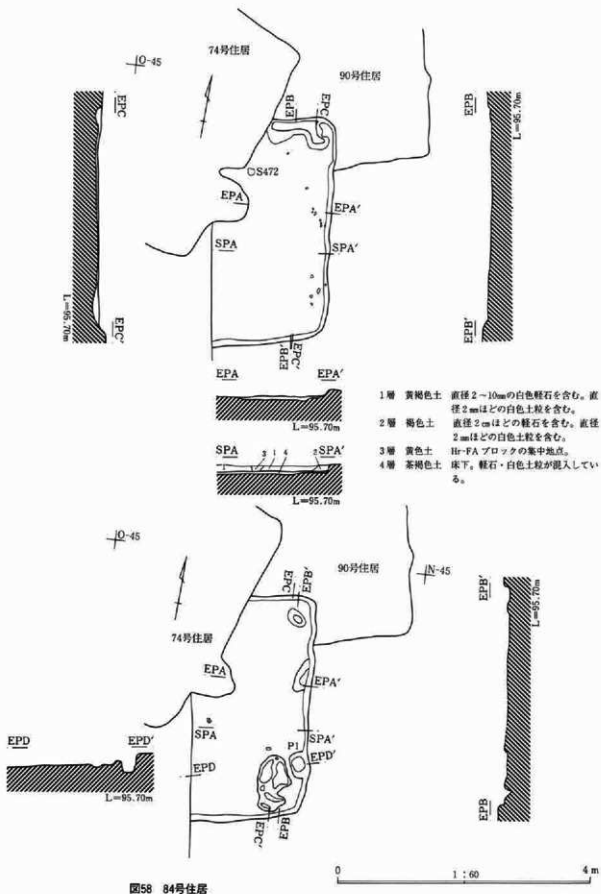


図58 84号住居

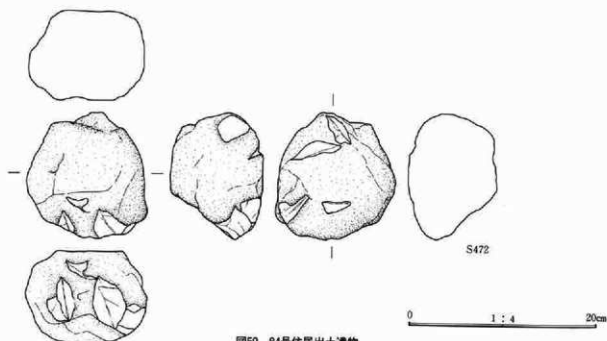


図59 84号住居出土遺物

## 88号住居 Ⅷ60-61, FL14-121, 表P.12

位置 N・O-46・47グリッド

規模 縦3.24m 横3.1m 深0.32m

形状 隅丸正方形

重複 83号住居に先行し、91号・92号住居に後出する。南西隅は83号住居・71号溝と重複している。これらの遺構の床面は最も深い71号溝を除いてみな同じくらいの高さであったので、平面形や遺構面を確実にとらえて調査することができなかった。南東部の平面形も部分的に把握できたものである。

主軸方位 N-92°-E

埋没土 上層は直径1~1.5cmの軽石・焼土粒を多量に含む暗褐色土で、下層は軽石・黄灰色粘質土小ブロック・炭化物粒・焼土粒を含む茶褐色土で埋まっている。北壁際には軽石・黄色砂壤土粒・灰色シルト質土粒を含む灰褐色土が堆積している。

床面 顕著な硬化面は検出されていない。

貯蔵穴 掘り方調査時に、住居南東隅長径0.55m、短径0.30m、床面からの深さ0.24mの楕円形の土坑が検出された。位置的には貯蔵穴と考えられるが、規模が小さく、確定的でない。底面から1.5cm浮い

て1132の土師器杯形土器が完形で出土している。

周溝 検出されなかった。

柱穴 掘り方調査時に北東部に2本の柱穴を検出した。P1は位置的に主柱穴と考えられるが、P2より浅い。他の主柱穴は確認できなかった。

柱穴No	長径	短径	深さ	備考
P1	0.30m	0.30m	0.05m	
P2	0.40m	0.30m	0.10m	

掘り方 住居全体に床面から8~15cmほど掘り下げている。特にカマドの前面はまるく帯状に掘り込まれている。掘り方は黄灰褐色土ブロック・軽石・灰を少量含む暗褐色土で埋まっている。

遺物出土状態 埋没土中からの遺物の出土は多い。床面近くからの遺物は東部に多い。1137の土師器杯形土器は北壁際から出土したが床面から22cmほど浮いている。1136の土師器杯形土器は2点の床面直上の遺物が接合したものである。1134・1135の土師器杯形土器はカマド左脇の床面直上に並んで出土した。

カマド

位置 東壁中央やや南寄り

第8章 住居の調査

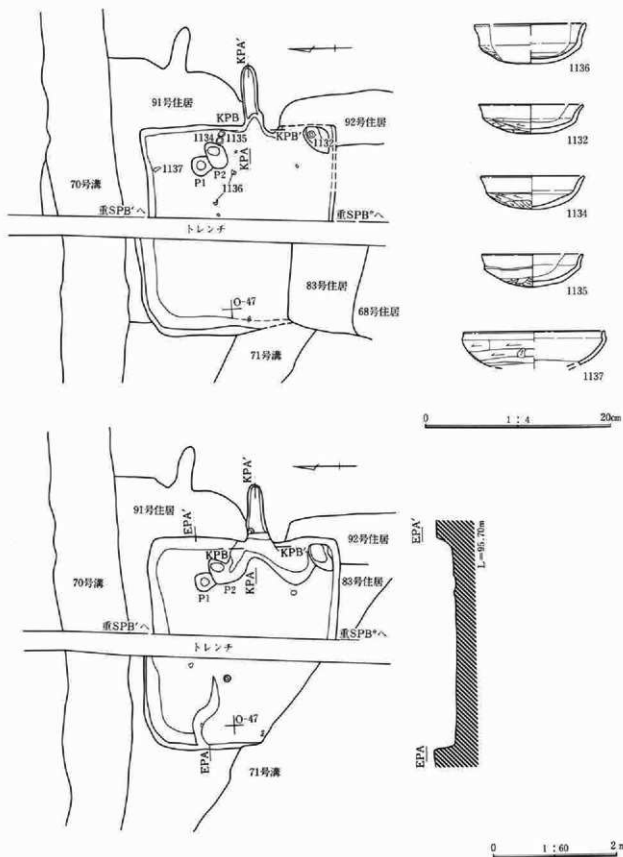


図60 88号住居と出土遺物

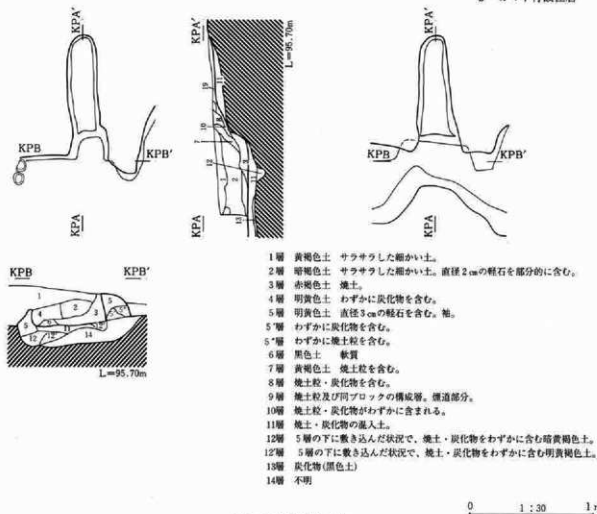


図61 88号住居カマド

規模 全長1.16m 屋外長0.96m 煙道部0.76m

最大幅0.62m 焚き口幅0.43m

遺存状態 本住居は屋外に燃焼部の奥を掘り込むタイプのカマドであり、さらに外へ向かってほぼ水平な煙道部がつくられている。燃焼部の奥や側面の壁の焼土は崩落していた。袖は明黄色土を積んで作っている。左袖の遺存状況はあまり良くなかった。燃焼部前面には15cmほど掘り下げた掘り方があり、焼土や炭化物の粒が含まれた土で埋められていた。

遺物出土状態 燃焼部での遺物の出土はほとんど無い。左袖脇には土師器杯形土器2個体(1134・1135)が並んで出土している。

調査所見 本住居も東西を分断して二回にわたって調査している。したがって北壁等の平面形が中央部で合致しなくなったりしている。(小島)

90号住居 図62-64, PL15-121-122, 表P.13

位置 N-44・45グリッド

規模 縦6.3m 横3.55+αm 深0.16m

形状 方形を呈すると推定されるが、西側の一次調査で74号住居より北側を遺構としてとらえることができなかったため、本住居の西半分についての詳細は不明である。

重複 74号・84号住居・78号溝に先行する。

東壁方位 N-14°-W

埋没土 黄灰褐色砂質土ブロックと褐色土ブロックの混土で埋まっている。壁際には炭化物粒や白色軽石・焼土粒を含む黄灰褐色砂質土が堆積している。床面 中央部にはやや硬化面が形成されていた。北壁付近には炭が分布する地点があった。

貯蔵穴 検出されなかった。

第8章 住居の調査

周溝 検出されなかった。

柱穴 床面では検出されなかったが、掘り方面で南東隅の支柱穴(P1)を検出した。また中央部にピット(P2)を検出しているが、位置から考えると柱穴とは断定できない。また、南壁東寄りの屋外にピットが検出されたが、性格は不明である。規模は長径0.45m、短径0.32m、深さ0.25mであり、楕円形を呈す。

柱穴No	長径	短径	深さ	備考
P1	0.60m	0.33m	0.47m	
P2	0.35m	0.35m	0.15m	

掘り方 北壁際を中心に床面から5~10cmほど掘り込んでいるところがある。底面はやや凹凸がある。北壁の中央と推定される地点に接して不定形の床下土坑が検出された。長径1.0m、短径0.75mほどの

楕円三角形で内部には4本の小ピットが掘り込まれている。位置や形状から考えると、カマドの掘り方の底面が残存している可能性が高い。この床下土坑の上層の床面上には灰の分布があり、このことを補強すると考えられる。

遺物出土状態 床面での遺物は、床面上で破砕したと考えられるような遺物が数点出土している。1140の土師器甕形土器や、1142・1144の土師器杯形土器は床面直上で出土した。また、敲打痕や磨り面のある棒状礫が出土している。S446は東壁際で出土した。他の2点は埋没土中の出土である。

カマド 掘り方面で北壁に接して検出された床下土坑がカマド掘り方の可能性があるが、床面での規模や形状については不明である。この床下土坑付近にやや集中して遺物が出土している。土師器杯形土器

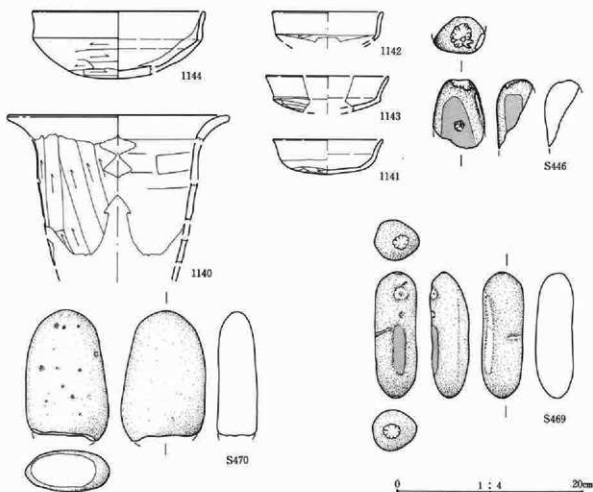


図62 90号住居出土遺物

(1143) を図示した。

調査所見 西側の一次調査で、重複する74号住居の北側を遺構と認識できず、本住居の西半を検出することができなかった。したがって、遺憾ながら西側

の本住居の床面や壁については記録をとることができていない。東側の調査に移った際に本住居の平面形が確認でき、調査をおこなったものである。

(小島)

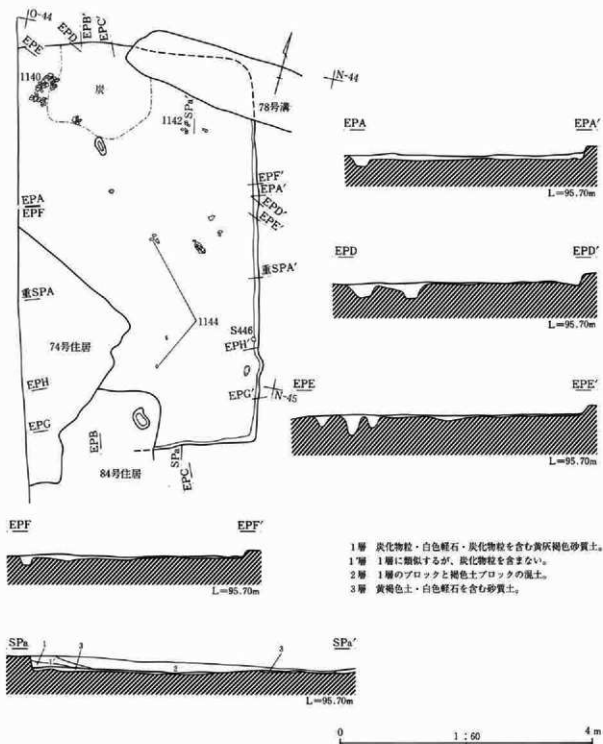


図63 90号住居

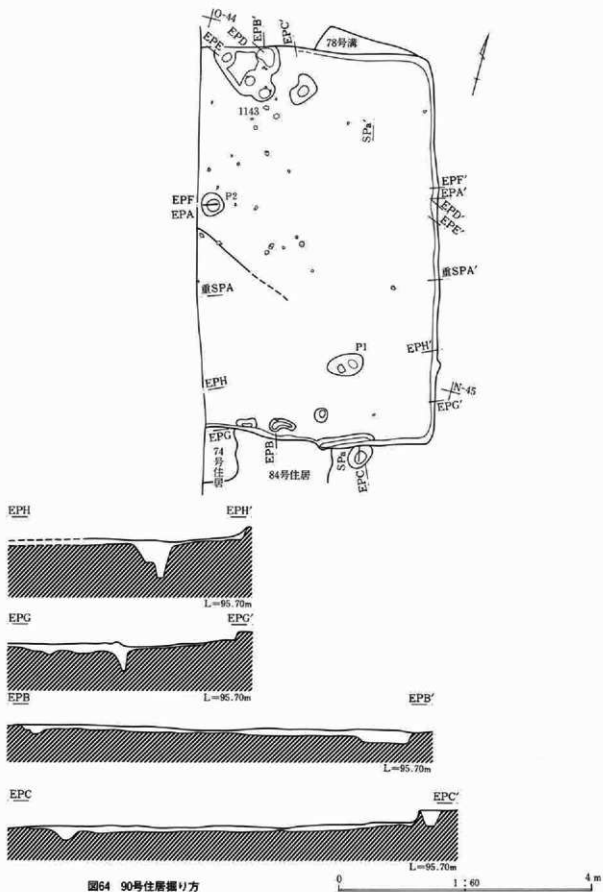


図64 90号住居掘り方



91号住居 図65-66, PL15-16, 表P.13

位置 N-46・47グリッド

規模 縦2.8+ $\alpha$ m 横2.3+ $\alpha$ m 深0.30m

形状 隅丸方形を呈すると考えられるが、北壁と東壁を検出できただけであるので、全体の規模・形状は不明である。

重複 88号住居・70号溝に先行する。

主軸方位 N-12°-E

埋没土 北壁付近は焼土粒や炭化物粒を含む茶褐色土で埋まっている。

床面 顕著な硬化面は検出されていない。

貯蔵穴 検出されなかった。

周溝 掘り方面で北壁の一部に幅10cm、床面からの深さ2cmの周溝が1.7mにわたって検出された。

柱穴 掘り方面の調査で3本の小ピットが検出された。位置・形状共に柱穴と断定することは難しい。

柱穴No 長径 短径 深さ 備考

P 1 0.23m 0.2 m 0.15m

P 2 0.25m 0.17m 0.05m

P 3 0.26m 0.24m 0.07m

掘り方 住居全体に掘り方が施設されている。カマ

ド周辺は一段高く残されている。南西隅には不定形の床下土坑が検出されている。西側の最も深いところで床面から0.2mのところまで掘り込まれている。

遺物出土状態 遺物の出土は少ない。カマド内から土師器杯形土器の破片(1145)が出土している。

カマド

位置 東壁中央

規模 全長0.82m 屋外長0.7m

最大幅0.8m 焚き口幅0.52m

遺存状態 壁から屋外へ斜方向に煙道部が掘られているタイプのカマドである。袖は直径2~3cmの軽石を含む明黄白色土でつくられ、壁から10数cm張り出している。燃焼部はあまり焼けていないが部分的に灰や焼土が残っている。

遺物出土状態 遺物はほとんど出土していない。燃焼面下層で拳大の軽石が2個出土している。

調査所見 西側の一次調査では、ほとんど70号溝と重なってしまい、本住居の床面や西壁を確認することができなかった。北壁付近では東西に走る70号溝により本住居の壁は崩れ、床面が残る状態で検出された。(小島)

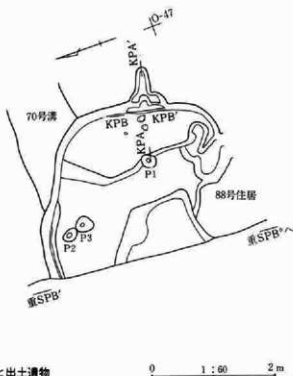
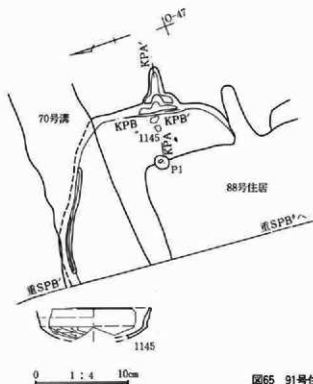


図65 91号住居と出土遺物

第8章 住居の調査

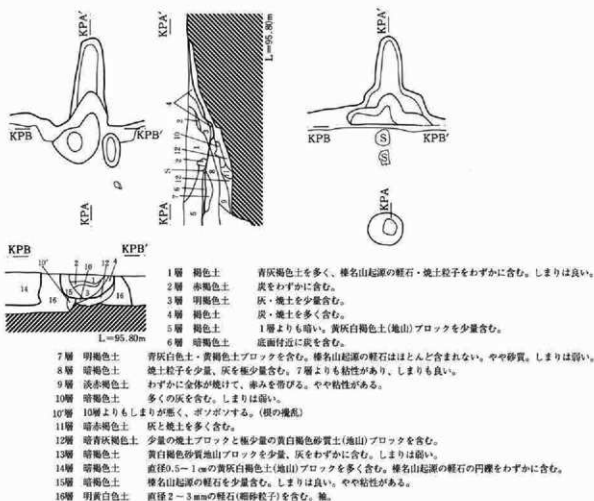


図66 91号住居カマド

0 1:30 1m

92号住居 図67

位置 N-47グリッド

規模 北東隅のみしか確認できず、不明である。

形状 北東隅の形状からは、隅丸方形を呈すると推定される。

重複 68号・83号・88号住居に先行する。

東壁方位 N-3°-W

埋没土 埋没土は黄色シルトの固くしまった層と灰色シルトのラミナ層で、軽石を多量に含んでいる。

床面 硬化面は形成されていない。

貯蔵穴 検出されなかった。

周溝 検出されなかった。

柱穴 柱穴とは断定できないが、床面の精査時に床

面の1~3cm下層の面でビットが3本検出された。

柱穴No	長径	短径	深さ	備考
P 1	0.47m	0.23m	0.29m	
P 2	0.32m	0.24m	0.24m	
P 3	0.33m	0.24m	0.26m	

掘り方 顕著な掘り方は施設されていない。

遺物出土状態 遺物の出土は少ない。土器の杯形土器の破片等が出土している。

カマド 調査できた範囲の中では検出されなかった。

調査所見 埋没土がラミナ堆積をしており、特徴的である。地山の洪水堆積物の小単位である可能性があるかもしれない。(小島)

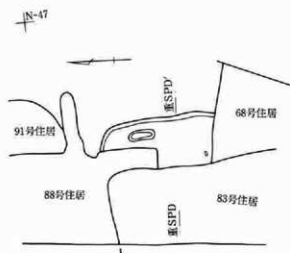
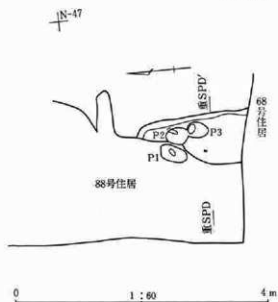


図67 92号住居



## 重複群D

重複群DはT-U-56-58グリッドに展開する。75号・76号・77号の3軒の住居が重複する。土層断面A-A'からみると75号住居が76号・77号住居に後出する。76号・77号住居の新旧関係は重複がないので土層断面からは不明である。なお、これらの住居群は、56号溝の埋没土を掘り込んでおり、床面は埋没土に貼り床を施設している。(小島)

- 76号住居1層 明褐色土 黄褐色土・灰白色土ブロックを極めて多量に含む。直径1-5mmの白色軽石を少量含む。しまりは良く、粘性がある。
- 2層 暗茶褐色土 灰白色土ブロックを多く含む。黄褐色土ブロックはほとんど含まれない。直径5mmほどの殻を少量含む。1層よりも粘性は弱く、砂質である。

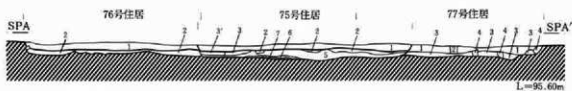
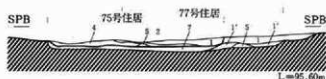
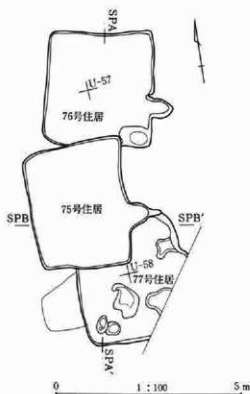


図68 重複群D

## 第8章 住居の調査

### 75号住居

- 1層 明褐色土 黄褐色土・灰白色土ブロックの溶混を多く含む。長さ1～3mmの炭化物粒子をやや多めに含む。直径1～2mmの白色軽石を少量含む。焼土粗粒を極少量含む。床面に灰を含む。しまりは良い、やや粘性がある。
- 2層 黄褐色土と灰白色粘性土の混合土。少量の褐色土が混じる。炭・灰を多く含む。
- 3層 褐色土 直径1～2cmの黄褐色土ブロックを多量に含む。直径1mm以下の白色軽石を少量含む。やや粘性がある。
- 3'層 暗褐色土 3層よりも黄褐色土ブロックを少なく含む。色調も暗い。
- 4層 褐色土 黄褐色土ブロックと灰白色粘性土ブロックを多く含む。やや粘性がある。
- 5層 暗茶褐色土 標名山起源の軽石をやや多めに含む。黄褐色粘性土ブロック・灰白色粘性土ブロック・焼土粒子・炭化物を少量含む。
- 6層 灰褐色土 標名山起源の軽石を少量含む。やや粘性がある。
- 7層 茶褐色土 黄褐色土粘性土ブロック・標名山起源の軽石を少量含む。炭化物を微量含む。

### 77号住居

- 1層 暗茶褐色土 直径1cmほどの黄褐色土ブロック・直径1～5cmの灰白色粘性土ブロックを多量に含む。焼土ブロック及び同粒子を少量含む。炭・灰を含む。しまりは良く、粘性がある。
- 1'層 1に近いが色調は1より暗く、黄褐色・灰白色ブロックの量は少ない。焼土粒子は極わずかに含まれる。
- 2層 暗青灰色土 ブロックをほとんど含まず、焼土がわずかに認められる。炭の塊状と思われる。
- 3層 茶褐色土 やや砂質。灰褐色土を含む。白色軽石を少量含む。
- 3'層 茶褐色土 3層とはほぼ同じであるが、3層よりもさらに白色軽石の含まれる量は少ない。
- 4層 灰褐色土 しまりは、3層よりも若干弱い。白色軽石はあまり含まれず、3層よりも粘性はある。
- 5層 暗灰褐色土 炭化物を少量含む。黄褐色土粒子・白色軽石をわずかに含む。
- 6層 暗茶褐色土 白色軽石を少量含む。粘性はない。しまりは悪い。(塊状)

### 75号住居 H669-70, PL16-17-122, 表P.13

位置 T・U-57グリッド

規模 縦2.46m 横3.40m 深0.08m

形状 隅丸長方形

重複 56号溝・76号・77号住居に後出する。

主軸方位 N-83°-E

埋没土 黄褐色土・灰白色土ブロックの混土で埋まっている。埋没土中には炭化物粒・焼土粒・白色軽石を含んでいる。

床面 顕著な硬化面は検出されなかったが、一部床面に灰層が広がっている。

貯蔵穴 検出されなかった。

周溝 検出されなかった。

柱穴 主柱穴と断定できる遺構は検出されなかったが、掘り方調査時に北西隅にピットが検出されている。

柱穴No 長径 短径 深さ 備考

P1 0.36m 0.32m 0.07m

掘り方 西半部は床面から5～6cm下がった位置に掘り方が検出された。東半部はさらに掘り下げられており、床面から18cm下に掘り方が検出された。また、東南部には長軸1.17m、短軸0.95m、深さ2～8cmの隅丸長方形の掘り込みが確認されている。貯蔵穴底面とも考えられるが床面では確認できなかった。

遺物出土状態 カマド周辺で破片が出土した程度である。

カマド

位置 東壁中央やや南側

規模 全長0.9m 屋外長0.9m

最大幅0.75m 焚き口幅0.75m

遺存状態 削平によって住居の確認面が下がっており、カマドの遺存状態も燃焼面の下部のみであった。天井部の崩落と考えられる焼土ブロックの下層に燃焼面の灰の層が残っていた。燃焼部の壁はあまり焼けていない。

遺物出土状態 カマド内からは1090・1091の瓦が燃焼面直上で出土している。土師器壺形土師の破片が燃焼部から出土しているが、図示はできなかった。埴輪片(1092)は掘り方中央の底面直上で出土している。

調査所見 本住居は56号溝の埋没土中につくられた住居であり、重複する住居もあった。したがって地山の認定が困難であったので土層観察用のトレンチを深く入れて調査をおこなった。床の硬化面は確認できなかったが、カマドからの灰面の広がりからすると、報告した面を床面としたい。(小島)

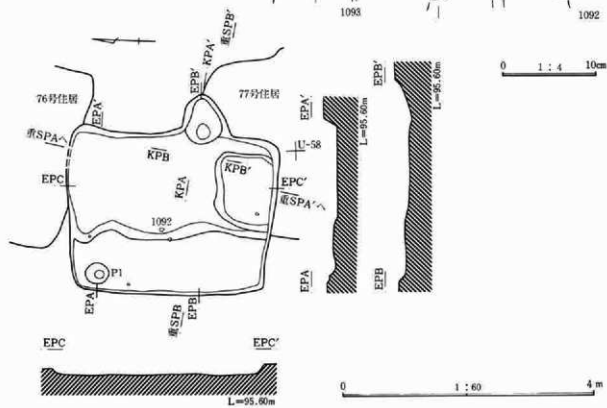
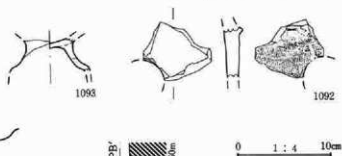
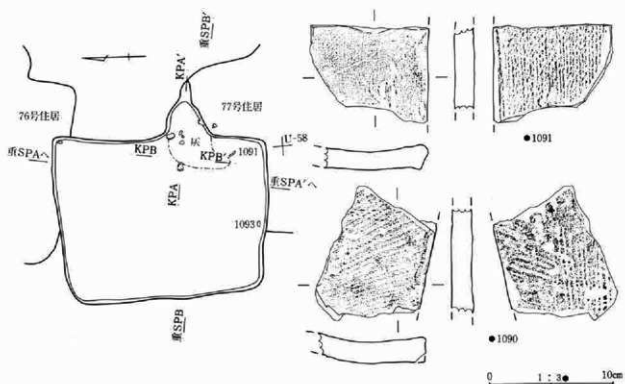
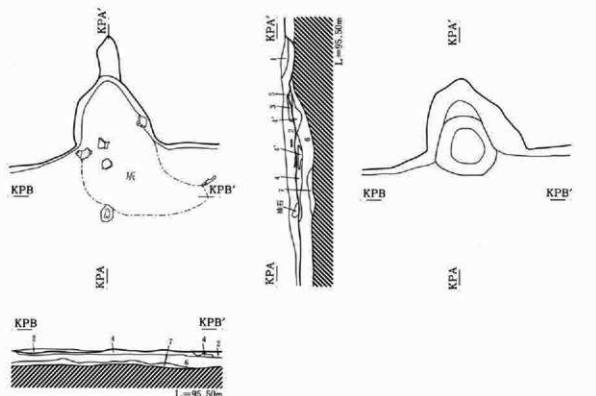


図69 75号住居と出土遺物



- 1層 焼土ブロックと黄褐色粘性土ブロックの混合土。青灰褐色土を少量含む。
- 2層 灰褐色土 直径1mm以下の白色軽石・直径1～3mmの炭化物片を少量含む。直径5mmほどの黄褐色土小ブロックを少量含む。
- 3層 灰褐色土 焼土ブロックの間を、若干の灰褐色土が埋める。炭化物粒子を少量含む。しまりは良く、粘性がある。
- 4層 黒褐色土 焼土ブロック・灰を多く含む。極めて多量の灰を含む。
- 4層 黒褐色土と焼土の混合土。やや焼土粒子及び同ブロックの方が多。
- 5層 灰褐色土 焼土ブロックを含まない。灰が混じる。
- 6層 灰白褐色粘性土ブロックと茶褐色土(地山＝漆の覆土)の混合土。後者の方が多。焼土粒子及び同ブロック・炭化物片・黄褐色粘性土ブロックを少量含む。
- 7層 灰褐色土 茶褐色土を含む。77号住居の床面か。

図70 75号住居カマド

0 1:30 1m

76号住居 0571-74.FL17-18・122-123,表F.14

位置 T・U-56・57グリッド

規模 縦2.85m 横2.92m 深0.08m

形状 ほぼ正方形を呈する。平面図では南西隅がやや隅丸になっているが、他の三隅を見ればこれほど丸くはないと思われる。

重複 75号住居に先行し、56号溝に後出する。

主軸方位 N-97°-E

埋没土 少量の白色軽石と、多量の灰白色土ブロックを含む黄褐色土で埋まっていた。

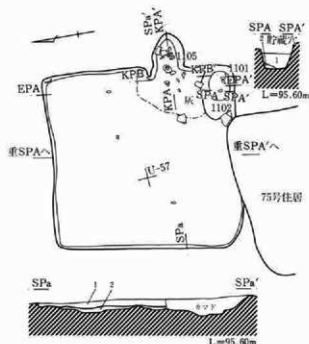
床面 75号住居同様、カマド付近を除いて顕著な床面は検出されなかった。

貯蔵穴 カマド右脇の住居隅の壁に接して、長径0.84m、短径0.53m、深さ0.24mの楕円形の貯蔵穴が検出された。

周溝 検出されなかった。

柱穴 掘り方面で4本の主柱穴と考えられるピットが検出された。P1とP3の位置は、壁の方向からややずれている。

柱穴No	長径	短径	深さ	備考
P 1	0.30m	0.20m	0.09m	
P 2	0.39m	0.28m	0.07m	
P 3	0.37m	0.37m	0.04m	柱痕2本
P 4	0.27m	0.19m	0.10m	



- 1層 明褐色土 黄褐色土・灰白色土ブロックを極めて多量に含む。直径1～5mmの白色軽石を少量含む。しまりは良く、粘性がある。
- 2層 暗茶褐色土 灰白色土ブロックを多く含む。黄褐色土ブロックはほとんど含まれない。直径5mmほどの炭を少量含む。1層よりも粘性は弱く、砂質である。

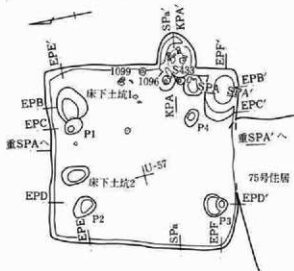


図71 76号住居

**掘り方** 床面から5～9cm掘り込んだところで掘り方面を検出した。掘り方面では上記のピットの他に、床下土坑を2基検出した。いずれも北壁に沿って掘られている。東側の床下土坑1は長径0.54m、短径0.48m、深さ0.07mの楕円形で、主柱穴P1に接していた。西側の床下土坑2は長径0.43m、短径

- 1層 明褐色土に、灰褐色粘性土ブロック・直径1～3cmの黄褐色粘性土ブロックが極めて多量に混じる。白色軽石を少量含む。粘性が強い。
- 2層 暗褐色土 炭を少量含む。粘性土ブロックは含まれず、やや砂質。



0 1:60 4m

0.27m、深さ0.02mの重状の掘り込みである。

**遺物出土状態** カマドと貯蔵穴を中心として遺物は出土している。カマドからは破片の出土も多かったが、1094・1095・1096・1097・1100の須恵器椀形土器が燃焼部から出土している。また、1103・1104・1106の瓦片もカマド出土である。1101の須恵器椀形

## 第8章 住居の調査

土器は貯蔵穴底面から4cmほど浮いた位置で出土した。また、蔽石(S433)がカマド燃焼面に接して出土した。

### カマド

位置 東壁中央やや南側

規模 全長0.75m 屋外長0.52m

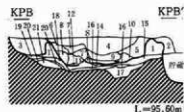
最大幅0.77m 焚き口幅0.33m

遺存状態 燃焼部底面には灰層がよく残っていたが、燃焼部壁はあまり赤化していない。右袖は壁に接するところでは残っていたが、屋内へ張り出す部分は遺存していない。左袖は壁から0.24mほど張り

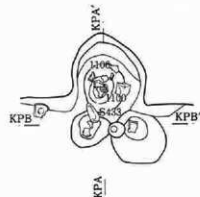
出して残っていた。袖はいずれも黄白色のやや砂質の土でつくられている。掘り方面には、燃焼部中央と焚き口部の両端に直径30~40cmのピットが掘り込まれており、焼土粒・炭化物粒を含む黒褐色土で埋まっている。

遺物出土状態 燃焼面・掘り方面ともに遺物が出土している。須恵器椀形土器が多い。

調査所見 56号溝埋没土中に掘り込まれた住居で、床面・壁ともに検出が困難であったので、土層観察用のトレンチを深くいれて調査した。(小島)



- 1層 黄白色土 砂質である。カマドの袖になる。
- 2層 黄白色土 酸化鉄を多く含む。カマドの袖になる。
- 3層 黄白色土 焼土粒を含む。
- 4層 暗黄白色土 雄山山起層の軽石の小粒を全体に含む。わずかに炭化物を含む。
- 5層 暗灰色土 FA 層の洪水堆積物のブロックが入る。袖の崩れがある。
- 6層 灰白色土 火山灰の二次堆積以後の流入土。細かい砂質土。
- 7層 明灰白色土 火山灰の二次堆積以後の流入土。
- 8層 明灰白色土 火山灰の二次堆積以後の流入土。細かい砂質土。わずかに炭化物を含む。
- 9層 暗褐色土 焼土粒・炭化物の一部を含む。
- 10層 黒灰褐色土 炭化物が多く、焼土を含む。
- 11層 炭化物と火山灰ブロックの混合層。
- 12層 炭化物層
- 13層 褐色土 焼土ブロック・炭化ブロックを含む。固くしまった土。
- 14層 灰褐色土 炭化物を多く含む。



- 15層 黒色土 ほとんど炭化物によって構成されるが、灰も多く含まれる。
- 16層 褐色土 灰白色粘性土ブロック・黄褐色土粒子を少量含む。
- 17層 暗褐色土 焼土粒子をやや多く、黒色土粒子・灰白色粘性土ブロックをわずかに含む。
- 18層 褐色土 焼土粒子・黄褐色土粒子を少量含む。全体に薄く灰を含む。色調は茶色が強い。
- 19層 褐色土 焼土粒子の量は、18層よりかなり少ない。
- 20層 暗褐色土 灰を多く含む。焼土粒子を少量含む。
- 21層 褐色土 黄褐色土粒子を多く、炭化物粗粒を少量含む。色調は茶色が強い。非常にしまりが良く、硬質である。
- 22層 焼土粗粒子の層。灰白色粘性土が埋める。しまりは良い。
- 23層 黒褐色土 灰・炭を多く含む。焼土ブロックをわずかに含む。
- 24層 黒褐色土 23層より多くの焼土粗粒子及び同ブロックを含む。灰・炭を多く含む。
- 25層 炭化物層 若干の暗褐色土が混入している。
- 26層 黒褐色土・黄褐色土・灰白色粘性土の混合土。焼土粒子を少量含む。灰白色粘性土・黄褐色土・黒褐色土 焼土粒子
- 27層 26層に近いが、焼土粒子はほとんど含まれない。
- 28層 暗褐色土 黄褐色土粒子を少量含む。黒色土をわずかに含む。
- 29層 暗褐色土 焼土ブロックを多く含む。黒色土・炭化物をやや多く含む。

図72 76号住居カマド

0 1:30 1m



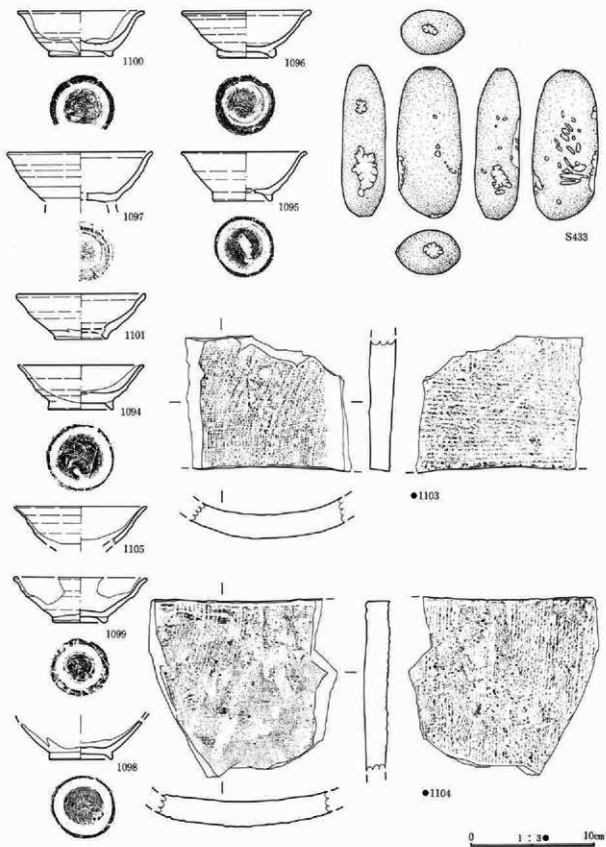


図73 76号住居出土遺物(1)

0 1 : 4 20cm

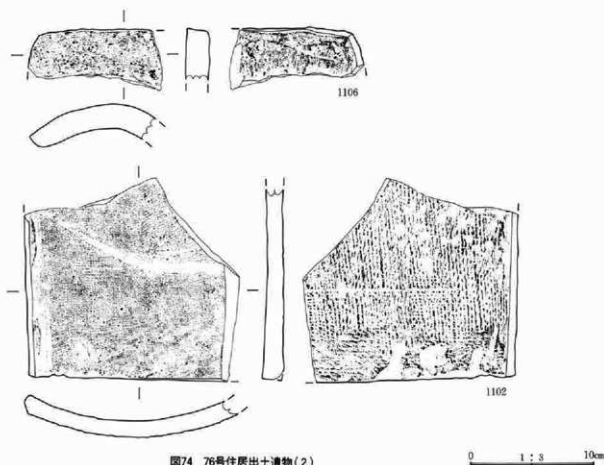


図74 76号住居出土遺物(2)

77号住居 図75, PL18-19-122, 表P.15

位置 T・U-57・58グリッド

規模 縦(2.76m) 横3.10m 深0.14m

形状 隅丸方形と推定されるが、南東隅は発掘区外であるので断定できない。北壁の一部は壁高の遺存が極めて低く、明確にとらえられなかった。

重複 75号住居に先行し、56号溝に後出する。

主軸方位 N-0°-E

床面 遺構確認面より床面は高い位置にあったと考えられ、確認できたのは、掘り方埋没土の中位より下層である。

貯蔵穴 掘り方面で南東部に不定形な落ち込みが検出されたが、貯蔵穴とは断定できない。

周溝 検出されなかった。

柱穴 掘り方面で南西部で2本、東部で1本小ピットが検出されているが、南西部のP1・2の2本は柱穴と考えられる。

柱穴No	長径	短径	深さ	備考
P 1	0.36m	0.36m	0.04m	
P 2	0.49m	0.29m	0.04m	

掘り方 掘り方面で柱穴を検出した他、南中央部で不定形な床下土坑が検出されている。また、東壁に接して不定形な落ち込みが2ヶ所検出されているが、詳細は不明である。

遺物出土状態 遺物の出土量は少ない。図示した須恵器碗形土器(1107)はP1内から出土している。カマド カマドは床面が確認できていないので、詳細は不明である。

調査所見 本住居は床面が検出できなかったため、不明な点が多い。カマドについては、重複する75号・76号住居との類似性や、やや東壁が膨らむような平面形から考えると東壁に施設されていた可能性が高い。

(小島)

## 2 カマド付設住居

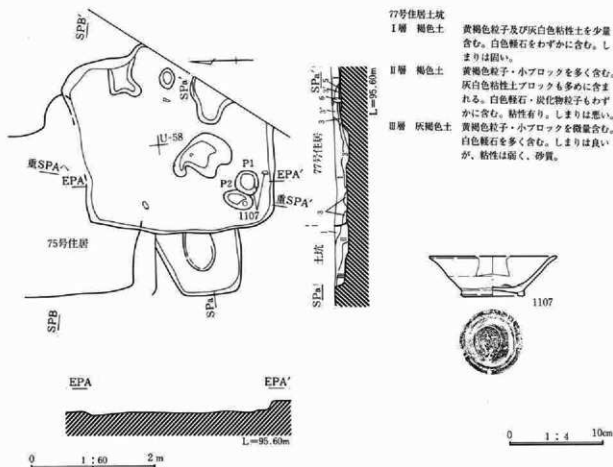


図75 77号住居と出土遺物

### 重複群H

重複群Hは、U・V-57・58グリッドに展開する。

3軒の住居が存在する。

住居は重複関係の新しい順に24号住居-104号住居-103号住居の順に平面および土層断面によって判断された。(小島)

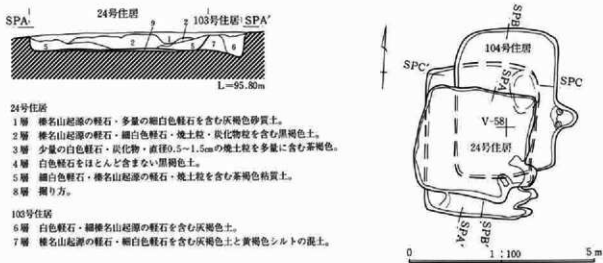
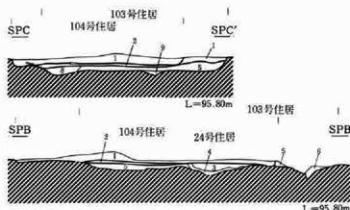


図76 重複群H

## 第8章 住居の調査



- 104号住居
- 1層 暗黄白色土 直径1cm以下の白色鉱物粒と炭化物をわずかに含む。鉄分を含む。
  - 2層 暗青灰色土 炭化物を多く含む。少量の焼土が入る部分があり、粘性が強い。
- 103号住居
- 3層 暗青灰褐色土 黄白褐色粘性土ブロックを多く含む。焼土粒子・榛名山起源の軽石を微量含む。
  - 4層 暗青灰白色土 粘性有り。3層よりも白っぽい。焼土粒子微量。
  - 5層 暗褐色土 炭化物粒子及び焼土粒子を少量、黄白色土ブロック及び榛名山起源の軽石をやや少なめに含む。
  - 6層 暗褐色土 黄白色土ブロック及び粒子を多量に含む。榛名山起源の軽石を極微量含む。
  - 7層 暗褐色土 5層よりも黒みが強く砂質。直径5mmの炭化物片を微量含む。
  - 8層 暗褐色土 灰白色土ブロックをやや多く含む。黄白褐色粒子及び榛名山起源の軽石を微量含む。
  - 9層 暗青灰色土 粘性が有り、しまりは強い。黄褐色粒子を微量含む。

図77 重複群Hの土層断面

0 1:60 4m

24号住居 図78・79、PL31-32・123、表P.15

位置 U・V-57・58グリッド

規模 縦3.0m 横2.8m 深0.3m

形状 隅丸方形

重複 103号・104号住居に後出する。

主軸方位 N-98°-E

埋没土 榛名山起源の軽石・焼土粒・炭化物粒を含む黒褐色土が埋没土の大半を占めている。埋没土の堆積状態から103号住居の灰褐色土と黄褐色シルトの混土层を切っていることが確認できる。

床面 顕著な貼床は検出されなかった。床面は平坦であるが、東壁寄りわずかに低くなる。カマド前面から貯蔵穴付近にかけて炭化物粒や焼土粒が広がっている。

貯蔵穴 南東隅に長軸0.60m、短軸0.55m、深さ0.15mの隅丸長方形を呈する貯蔵穴が検出された。

周溝 検出されなかった。

柱穴 検出されなかった。

掘り方 床面下をわずかに1~3cm掘り込めるが、

特別な施設等は検出されていない。若干の凹凸がある。

遺物出土状態 カマドを中心に遺物の集中地点がある。土師器甕形土器(941)・須恵器甕形土器(905)・羽釜(903)・高台付碗形土器(899)などの出土がある。カマド以外はまばらな出土状態である。

カマド

位置 東壁中央やや南寄り

規模 全長0.80m 屋外長0.50m

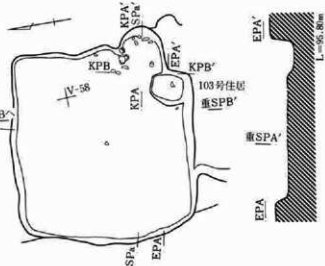
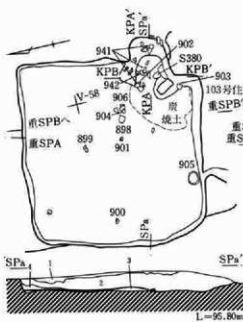
最大幅0.70m 焚き口幅0.55m

遺存状態 カマド右袖が崩れた形状で検出されている。本来の形をとどめているところとの相違が不明瞭であった。袖は住居内側へ0.50m伸びている。

遺物出土状態 カマド埋没土から土器片や石が出土している。土師器の甕形土器(942)・杯形土器、灰軸陶器碗形土器(902)などの器種である。

調査所見 カマドから貯蔵穴にかけて不明瞭であったが、掘り方を調査した段階で、貯蔵穴の大きさが明瞭となった。(相京)

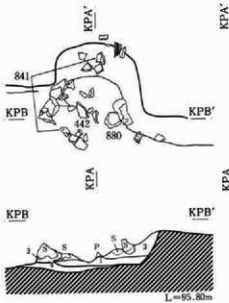
2 カマド付設住居



24号住居

- 1層 横名山起源の軽石・多量の細白色軽石を含む灰褐色砂質土。
- 2層 横名山起源の軽石・細白色軽石・焼土粒・炭化物粒を含む黒褐色土。
- 3層 少量の白色軽石・炭化物・直径0.5~1.5cmの焼土粒を多量に含む茶褐色土。
- 4層 白色軽石をほとんど含まない黒褐色土。

0 1 : 60 4m



24号住居カマド

- 1層 炭化物層(灰と炭が混入した土層)。暗黒灰色土。
- 2層 焼土ブロックを含む褐色土層。
- 3層 カマド室内に石を入れて構築しており、焼の土と考えられる灰褐色土。
- 4層 地山。FA期の洪水堆積物。

0 1 : 30 1m

図78 24号住居とカマド

第8章 住居の調査

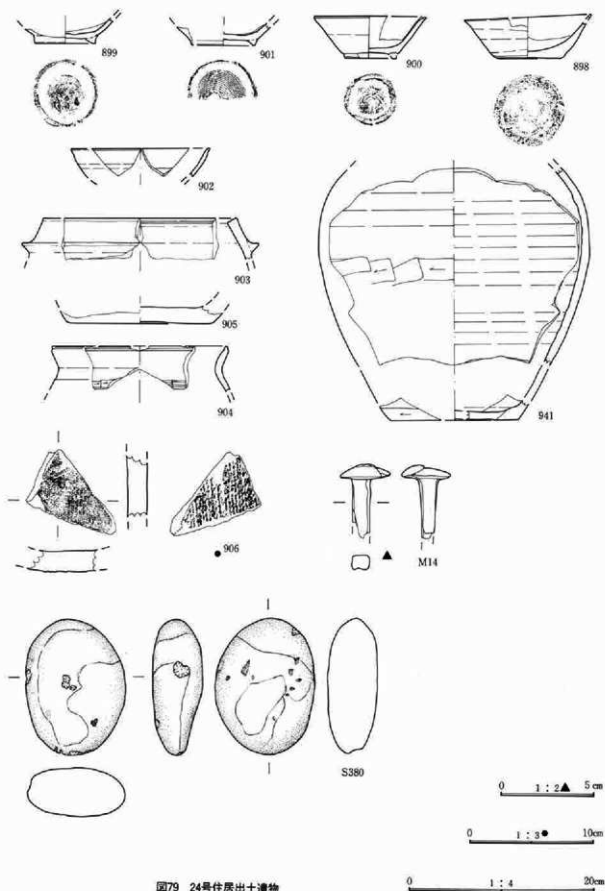


図79 24号住居出土遺物

103号住居 図80-81, PL32-123-124, 表P.16

位置 U・V-57・58グリッド

規模 縦3m 横4.1m 深0.2m

形状 隅丸方形

重複 24号・104号住居に先行する。

主軸方位 N-87°-E

埋没土 暗褐色土で、炭化物粒や焼土粒・黄白色土ブロック・榛名山起源の軽石を少量含んでいる。

104号住居床面下の土層である。

床面 貼床が施されている。104号住居跡のピットなどにより壊されている部分が多い。

貯蔵穴 北東隅に長径1.17m、短径0.70m、深さ0.14mの楕円形の貯蔵穴が検出された。

周溝 西壁下の一部に存在が確認できる。

柱穴

柱穴No	長径	短径	深さ	備考
P 1	0.52m	0.46m	0.16m	
P 2	0.60m	0.33m	0.19m	掘り方検出

掘り方 床面下は凹凸があり、不安定である。周溝は掘り方で確認された。

遺物出土状態 カマド掘り方付近から須恵器の杯形土器(1163)の出土がある。床面と掘り方底面間には土師器杯形土器(1165)と須恵器蓋形土器(1162)の出土がある。

カマド

位置 東壁南寄り

規模 全長0.55m 屋外長0.45m

最大幅0.65m 焚き口幅0.40m

遺存状態 大きく崩れている。袖は瘦せている。袖の高さは約10cmである。左袖は焼土化している。掘り方では住居外へ一部張り出していることがわかる。

遺物出土状態 カマド内からは土師器の杯形土器(1164)の他に甕形土器の破片が出土した。杯形土器は右袖の奥、甕形土器の破片は使用面中央付近からの出土である。

調査所見 24号住居、104号住居が重複し、特に後者は床面が本住居の大半を壊している。このためカ

マド出土土器以外に記載した遺物は、床面および床面に近いものを取り上げた。他に10数破片の須恵器と土師器片が出土している。小破片であるが羽釜の出土もある。(相京)

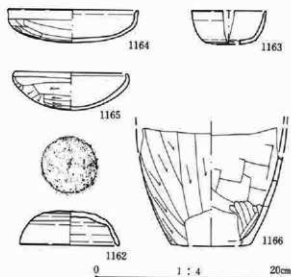


図80 103号住居出土遺物

104号住居 図82-83, PL32-124, 表P.16

位置 U・V-57・58グリッド

規模 縦2.7m 横4.0m 深0.15m

形状 隅丸方形

重複 24号住居に先行し、103号住居に後出する。

主軸方位 N-87°-E

埋没土 白色鉱物粒や炭化物粒を含む。多くの部分が重複する103号住居の床面とも近く、103号住居の焼土部分が顔を出す。

床面 貼床が施されている。暗灰褐色土であり、炭化物や焼土粒が混ざる。あまり固くはないがほぼ床面全体に同一性がある。

貯蔵穴 検出されなかった。

周溝 検出されなかった。

柱穴 柱穴か否かは不明であるが、床面で104号住居のものとは判断されたのは4本のピットである。

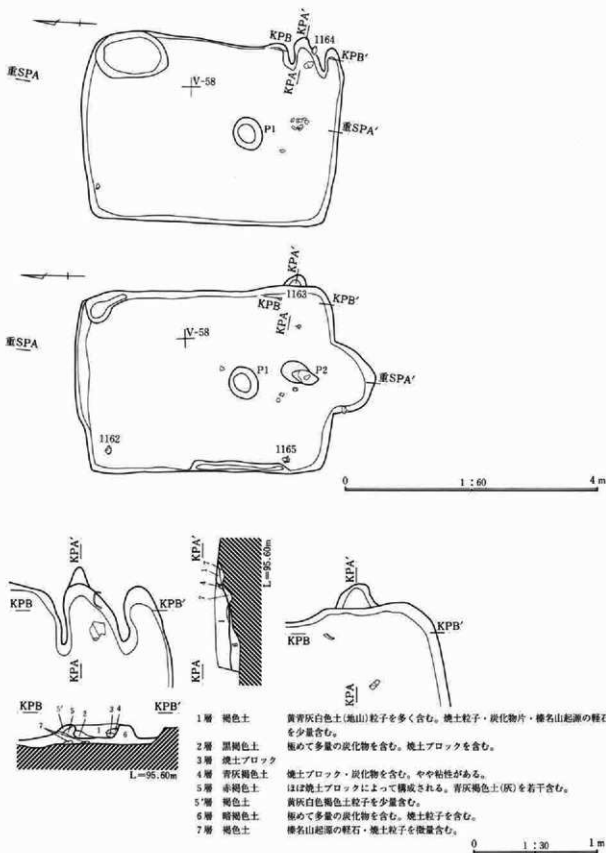


図81 103号住居



柱穴No	長径	短径	深さ	備考
P 1	0.30m	0.25m	0.07m	
P 2	0.52m	0.52m	0.19m	
P 3	0.2 m	0.17m	0.06m	
P 4	0.50m	0.45m	0.14m	

掘り方 床面下は凹凸があり、円形の土坑やカマド部分には2つのピットが検出されている。103号住居の床面が一部で重複することや、24号住居との重複関係が東南部分で多くみられる。掘り方底面で確認できたピットは次の通りである。

柱穴No	長径	短径	深さ	備考
P 5	0.45m	0.3 m	0.08m	
P 6	0.32m	0.25+*m	0.06m	
P 7	0.85m	0.6 m	0.05m	
P 8	0.45m	0.37+*m	0.09m	
P 9	0.72m	0.65m	0.04m	

遺物出土状態 埋没土中の遺物はカマド内、住居北西部では埋没土下層から羽釜(1168)と南西部では須恵器椀形土器(1167)が床面から出土した。北東

部では叢石(S451・S452)が埋没土内から出土している。

#### カマド

位置 東壁やや南寄り

規模 全長0.70m 屋外長0.50m

最大幅0.60m 焚き口幅0.40m

遺存状態 カマド焚き口部分左右にピットが対で検出された。両方も0.15mの円形に近い形状を呈し、深さは約0.12mである。これは袖石の抜けた跡と考えられる。カマド掘り方面に3ヶ所のピットがあり、位置的に中央部分のピットは、カマドの右袖と支脚の抜けた様相を呈す。長径0.2m、短径0.17m、深さ0.04mが確認時点での計測値である。掘り方の底面より2~10cm低い。

遺物出土状態 須恵器と瓦破片が出土した。

調査所見 103号住居との重複関係が複雑であり、床面の高さも差異がないためピット群の取り扱いには注意を要した。(相沢)

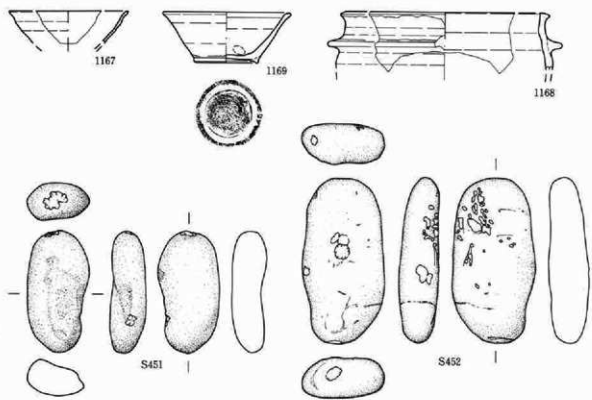


図82 104号住居出土遺物



### 重複群 F

重複群 F は、V-X-54~57 グリッドに展開する、本遺跡内において最も重複の多い重複群である。住居は古墳時代後期から平安時代にかけての集落の一部であることが、遺跡内の住居の分布状態をみても明らかである。遺跡内の重複群のありかたについては、切り合い関係から新旧の把握を明瞭にし、なおかつ合理的に報告するように努め、確認面が近似する遺構の報告をまとめることとした。しかし、重複群 F の南側に重複群 G が引き続きあり、重複関係がおよそ南北 20 m、東西 15 m の範囲にわたっているため、重複密度の薄くなるところで F-1 群~4 群と G 群に便宜上分けて報告することとした。重複群 F・G を合わせると 27 軒の住居が重複するが、重複群 F の細分は以下の通りである。

F-1 群 101号・111号・126号・134号住居

F-2 群 105号・112号・113号・114号・129号住居

F-3 群 106号・128号・135号・136号・137号・138号

F-4 群 100号・115号・119号・120号・130号・131号・132号住居

以下に各群毎の重複関係について、簡単にまとめておきたい。

F-1 群 土層断面 D・E・L によって、埋没土の観察をおこなった。101号住居は最も新しい住居で、土層断面 D・E ともに立ち上がりを確認することができた。

この 101号住居に切られている、111号・126号住居は、111号住居の床面上に 126号住居のカマドが残っていたことから、126号住居の方が新しいことが確認された。

134号住居は、土層断面 L の観察によれば、111号住居を切って掘られていることが確認できた。しかし、実際に全体を調査する段階では、134号住居の北壁の立ち上がりをとらえることはできなかった。平面図では両住居の間には復元線を描いている。なお掘り方面では先行する 111号住居の方が深く掘られていた。

F-2 群 土層断面 A・B・G によって埋没土の観

察をおこなった。112号・113号住居はこれらの住居群の中で最も新しい住居である。土層断面 A・G によって、他の住居を切って掘り込まれていることが確認された。ただ、112号住居南壁の立ち上がりは土層断面の位置では明瞭でなかったが、平面確認や壁の下部の立ち上がりから判断することができた。なお 112号住居は、F-1 群の 111号住居と重複しているが、112号住居の方が新しい。

129号住居は、土層断面 A・B によって、東側の 105号・114号住居より新しいことが確認でき、カマドも 105号住居の床面上に作られている。

105号・114号住居の関係をとらえる土層断面を設定することはできなかった。しかし、105号住居南西隅で 114号住居の床面が切られていることが確認でき、105号住居の方が新しいことが判断された。また、105号住居は、F-1 群の 134号住居と重複しているが、105号住居のカマドが、134号住居埋没土上層からつくられていることから、105号住居の方が新しいことが判断された。

F-3 群 土層断面 F・H・I・J・K によって埋没土の観察をおこなった。106号住居は F-2 群の 113号住居に切られているが、土層断面 H・J によって F-3 群中では最も新しい住居であることがわかる。

その 106号住居に切られている 128号住居は、土層断面 K によって、137号・138号・136号住居の順に作られてきた重複住居群の上層につくられていることがわかる。さらに土層断面 I をみると 137号住居の下層には 135号住居がつくられていた。

128号住居下層につくられた 136号住居の掘り込みは深く、重複する北および西の壁は残っており、全体の形状を確認することができた。

138号住居は土層断面 K で硬化した床面が 137号住居床面より上層で検出されたことと、128号住居カマドの南側に 138号住居床面に連続するカマドを検出したため、住居の存在を確認したが、平面的な形状を確認することはできなかった。平面図は推定線である。

第8章 住居の調査

135号住居は、南東隅で重複群Gの109号住居と重複しているが、109号住居に切られていることが確認されている。

F-4群 土層断面C・Jで埋没土の観察をおこなった。120号住居は土層断面Cから115号住居より新しいことが確認された。また、132号住居の床面にカマドが作られており、これよりも新しいことが判断される。

115号住居も同様に132号住居の床面にカマドがつけられていることから、これよりも新しいことが判

断された。

119号住居は、115号住居の南西隅を壊しており、115号住居より新しいことがわかる。52号溝を隔てた100号住居との関係は不明である。

130号・131号住居は、土層断面を設定して埋没土の観察をおこなったが、130号住居の方が新しいことが土層断面からわかる。しかし、同時に掘り下げているので、後出し、なおかつ床面の浅い130号住居の床面および北壁は検出できなかった。(小島)

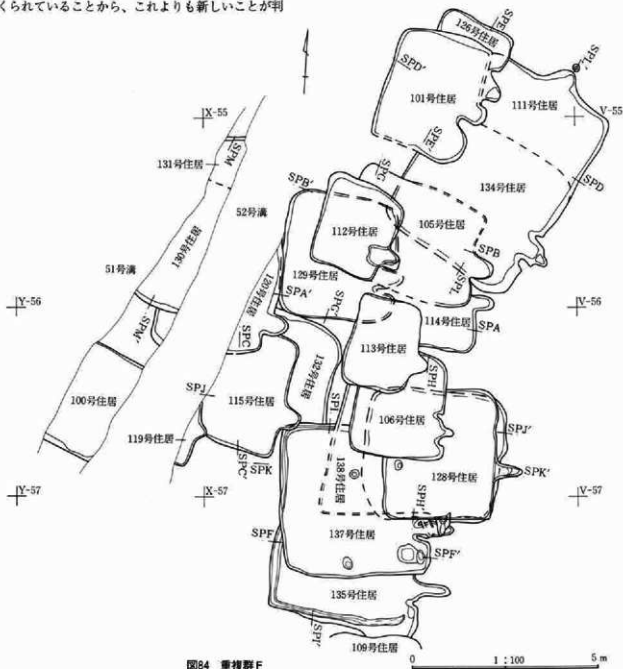
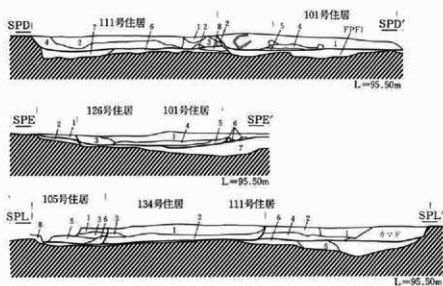


図84 重複群F



## 101号住居

- 1層 暗褐色土 白色鉱物を多量に含む。角閃石安山岩・黄白色土ブロック(通山)をわずかに含む。
- 2層 明灰褐色土ブロック
- 3層 暗灰褐色土 白色鉱物・黄白色土ブロックをわずかに含む。
- 4層 暗灰褐色土 白色鉱物・黄白色土ブロックをわずかに含む。黒色灰を少量含む。
- 5層 黒褐色土 黒色灰を含む(ツミナ状)。
- 6層 黒色灰層
- 7層 掘り方 床面下

## 105号住居

- 1層 暗褐色土 白色鉱物を少量含む。黄白色土ブロックをわずかに含む。
- 3層 黄褐色土 白色鉱物をわずかに含む。黄白色土ブロックを多量に含む。
- 5層 暗褐色土 白色鉱物をわずかに含む。黄白色土ブロックを少量含む。
- 6層 暗灰色土 黄白色土を少量含む。

## 111号住居

- 1層 暗褐色土 白色鉱物を少量含む。黄白色土ブロックをわずかに含む。
- 2層 暗褐色土 白色鉱物をわずかに含む。黄白色土ブロックを多量に含む。黒色炭化物ブロックを多量に含む。
- 3層 黄褐色土 白色鉱物をわずかに含む。黄白色土ブロックを多量に含む。
- 4層 暗褐色土 白色鉱物をわずかに含む。黄白色土ブロックを少量含む。
- 5層 暗灰褐色土 灰白色粘性土ブロック及び黒色土ブロックをやや多く含む。榛名山起源の軽石粒子を少量含む。
- 6層 明灰褐色土 暗灰色土ブロック少量。黒色土粒子少量。暗褐色土を微量含む。しまりは良く、粘性有り。
- 7層 暗褐色土と明灰褐色粘性土ブロックと黒色土ブロックの混土层。榛名山起源の軽石粒子を少量含む。8層よりもしまりは弱い。
- 8層 暗灰褐色土 黒色土ブロック及びFAブロックをやや多く含む。しまりは堅緻。

## 126号住居

- 1層 暗褐色土 白色鉱物を少量含む。
- 2層 暗灰褐色土 榛名山起源の軽石を少量含む。榛名山起源の軽石を主体とする。

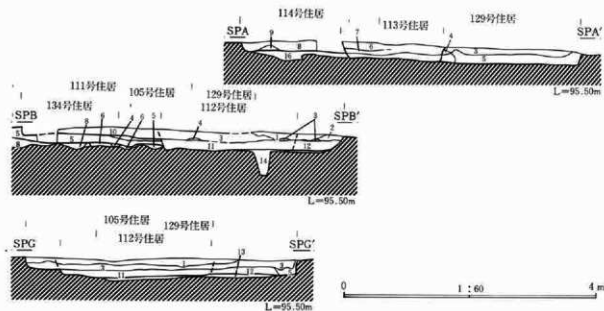
## 134号住居

- 1層 暗褐色土 白色鉱物・焼灰色粘土ブロックを少量含む。
- 2層 暗赤褐色土 焼土ブロック・黒色灰を少量含む。
- 3層 暗褐色土 焼灰色粘土ブロックを多量に含む。

0 1:60 2m

図85 重複群Fの土層断面(1)

## 第8章 住居の調査



### 105号住居

- 1層 暗褐色土 白色鉱物を少量含む。黄白色土ブロックをわずかに含む。  
3層 暗褐色土 白色鉱物をわずかに含む。黄白色土ブロックを少量含む。

### 111号住居

- 4層 暗褐色土 白色鉱物をわずかに含む。黄白色土ブロックを少量含む。  
5層 暗灰褐色土 灰白色粘性土ブロック及び黒色土ブロックをやや多く含む。標名山起源の軽石粒子を少量含む。  
6層 明灰褐色土 暗灰色土ブロック少量。黒色土粒子少量。暗褐色土を微量含む。しまりは良く、粘性有り。

### 112号住居

- 1層 暗褐色土 白色鉱物を少量含む。黄白色土ブロックをわずかに含む。  
3層 暗褐色土 白色鉱物をわずかに含む。黄白色土ブロックを少量含む。  
4層 暗灰褐色土 黄白色土ブロックをわずかに含む。  
11層 茶褐色土 白色鉱物粒を含む。

### 113号住居

- 6層 暗褐色土 白色鉱物・黄白色土ブロックをわずかに含む。  
7層 暗褐色土 黄白色土ブロックを少量含む。

### 114号住居

- 8層 暗褐色土 白色鉱物をわずかに含む。下半部に黄白色土ブロックを少量含む。  
9層 黒褐色土 黒色灰を多量に含む。  
16層 床面下

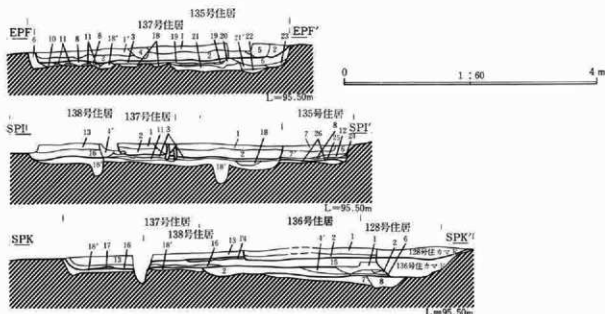
### 129号住居

- 3層 暗褐色土 白色鉱物をわずかに含む。黄白色土ブロックを少量含む。  
4層 暗灰褐色土 黄白色土ブロックをわずかに含む。  
5層 暗黄灰褐色土 黄白色土を主体とし、白色鉱物をわずかに含む。  
12層 暗黄褐色土  
13層 暗褐色土 黄色ブロックを含む。まだらな土層。  
14層 ビット

### 134号住居

- 5層 暗赤褐色土 焼土ブロック・黒色灰を少量含む。  
8層 暗灰褐色土 直径5mmほどの標名山起源の軽石を少量、焼土粒子・炭化物片を微量含む。やや粘性有り。

図86 重複群Fの土層断面(2)



## 137号住居

- 1層 暗褐色土 青灰色土粗粒子・黄白色土粗粒子・榛名山起源の軽石を多量、焼土粒子・炭化物粒子を少量含む。しまりは良い。
- 1層 1層よりもやや明るい。
- 2層 黒褐色土 黄白色土粗粒子・焼土粒子・炭化物粒子を多く含む。榛名山起源の軽石を少量、しまりは悪い。やや砂質。
- 2層 黒褐色土 2層よりもやや明るく、黄白色土粗粒子の量は2層よりも少ない。
- 3層 黒褐色土 黄白色土粗粒子・青灰色土ブロックを多く、炭化物粒子・焼土粒子をやや多く含む。粘性は2層よりも強い。
- 4層 暗青灰色土 榛名山起源の軽石・焼土粒子・炭化物粒子を微量含む。粘性を有し、しまりも良い。
- 4層 は12層に近いが、榛名山起源の軽石粒子を4層よりも多く含む。
- 5層 暗褐色土 黄白色粘性土ブロックを含む。暗青灰色土ブロックを多量に含む。榛名山起源の軽石・焼土粒子・炭化物粒子を微量含む。

## 135号住居

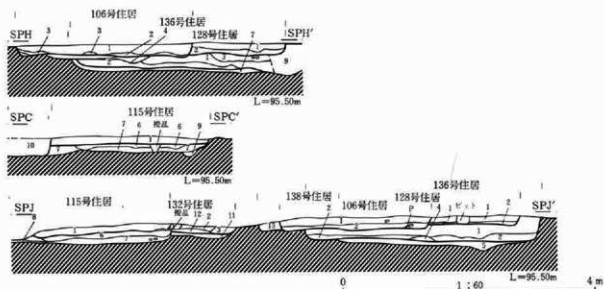
- 6層 暗褐色土 青灰色砂質土ブロックをやや多く含む。焼土粒子・炭化物粒子・榛名山起源の軽石を微量含む。しまりは悪い。全体に砂質である。
- 7層 暗褐色土 榛名山起源の軽石・焼土粒子を少量含む。黄白色土ブロックを多く含む。しまりは弱い。砂質。
- 7層 黄白色土ブロックをほとんど含まない。色調は7層よりも暗い。
- 8層 暗青灰色土 黄褐色土粒子を少量含む。7層よりも粘性がある。
- 24層 明褐色土 灰(白)色砂質土ブロックを極めて多量に含む。暗褐色土を少量含む。榛名山起源の軽石を数点含む。
- 25層 灰褐色土 黄褐色土ブロックを多く含む。一部分に、厚さ0.2~1cmの炭の層がある。粘性がある。しまりは良い。
- 26層 灰褐色土 黄褐色土ブロックを極めて多量に含む。しまりは良い。砂質。

## 138・137号住居

- 10層 青灰褐色土 8層よりも明るく、黄褐色土ブロック・青灰色土ブロックを多く含む。砂質。
- 11層 黄褐色土 青灰色土ブロックを少量含む。粘性がある。
- 12層 黄褐色土 榛名山起源の軽石を微量含む。しまりは悪い。
- 13層 暗褐色土 青灰色土粗粒子・黄褐色土粗粒子・榛名山起源の軽石を多量、焼土粒子・炭化物粒子を少量含む。しまりは良い。1層に近いが、やや明るい。
- 14層 黒灰色土 炭を含む灰層。
- 15層 暗青褐色土 青灰色土ブロックを少量、焼土粒子・榛名山起源の軽石を微量含む。しまりは良い。粘性がある。
- 16層 暗青褐色土 灰を多量に含む。焼土粒子・炭化物粒子を少量含む。直径2cmほどの榛名山起源の軽石を含む。やや粘性がある。
- 17層 灰褐色土 榛名山起源の軽石を微量、炭化物粒子を少量含む。しまりは良い。
- 18層 黒褐色土 炭・黄白色土ブロックを多量に含む。
- 18層 18層よりもやや明るく、しまりは18層よりも弱い。わずかに砂質。
- 19層 暗褐色土 炭化物・焼土粒子をほとんど含まない。
- 20層 黒色土と黄褐色土ブロック (FA期の洪水堆積物)の混合土。しまりは極硬緻。
- 21層 暗灰褐色土 炭化物を多量に含み、黒みが強い。黄褐色土ブロック・焼土ブロックを多く含む。
- 21層 暗灰褐色土 含まれるものは、ほぼ同じであるが、粒の大きさが小さい。しまりは良い。
- 22層 暗褐色土 黄褐色土粗粒子・炭化物粒子を少量含む。しまりはやや良い。
- 23層 暗褐色土 黒色土ブロック・焼土粒子・榛名山起源の軽石を極わずかに含む。ほぼ単一的。

図87 重複群Fの土層断面(3)

## 第8章 住居の調査



- 106号住居
- 1層 暗褐色土 白色鉱物・黄白色土ブロックをわずかに含む。  
 2層 暗褐色土 白色鉱物をわずかに含む。黄白色土ブロックを少量含む。  
 3層 黒色灰層  
 4層 黒色灰層 焼土粒子・炭を多量に含む。  
 5層 暗褐色土 標名山起源の軽石・黄白色土ブロックを少量含む。しまりは良い。
- 128号住居
- 1層 暗褐色土 標名山起源の軽石をやや多く、黄白色土粒子を少量含む。  
 2層 暗青灰色土 標名山起源の軽石を1層よりも多く含む。青灰色土ブロックを多量に含む。
- 115号住居
- 1層 暗褐色土 白色鉱物・黄白色土ブロックを少量含む。  
 6層 暗褐色土 白色鉱物・黄白色土ブロックを少量含む。  
 7層 暗褐色土 白色鉱物・炭化物をわずかに含む。黄白色土ブロック・桃灰色粘土ブロックを少量含む。  
 8層 明黄褐色土 黄白色土を多量に含む。(掘り過ぎ?)  
 9層 明褐色土 白色鉱物をわずかに含む。桃灰色粘土ブロックを多量に含む。炭化物を少量含む。
- 120号住居
- 10層 暗灰褐色土 白色鉱物・黄白色土ブロックを少量含む。灰、及び炭化物を多量に含む。
- 132号住居
- 2層 黒褐色土 やや砂質を帯びる。  
 3層 暗褐色土 白色鉱物・黄白色土ブロックをわずかに含む。  
 11層 褐色土 暗灰色粘性土ブロックを少量、黄白色土ブロックを多量に含む。直径2cmほどの標名山起源の軽石を含む。砂質でしまりは悪い。
- 12層 暗灰褐色土 暗灰色粘性土ブロックを少量含む。標名山起源の軽石を微量含む。しまりは良い。やや粘性がある。
- 136号住居
- 1層 暗褐色土 黄白色土ブロック・標名山起源の軽石を多く、炭化物粒子を少量含む。  
 1層 1層よりもやや明るく、多くの黄白色土粒子を含む。焼土粒子・炭化物粒子を多く含む。  
 2層 暗灰褐色土 黄白色土ブロックを極めて多量に含む。標名山起源の軽石は少量。炭化物粒子はやや多く含まれる。  
 2層 2層よりも明るく、やや黄色みを帯びる。粘性が強い。  
 3層 暗灰褐色土 2層よりも暗い。灰色土ブロック・標名山起源の軽石を多量に含む。粘性がある。  
 4層 灰色土 FA期の洪水堆積物ブロック層。標名山起源の軽石を含む。  
 4層 4層よりも暗い。暗褐色土を極めて多量に含む。  
 5層 暗灰褐色土 灰黄褐色土ブロック・黒色土ブロックを少量含む。  
 6層 黒色灰層 焼土ブロックを含む。しまりは悪い。  
 7層 灰褐色土 FA期の洪水堆積物の埋土。黄白色砂質土・淡紫色粘性土・灰白色砂質土のブロックの混合物。標名山起源の軽石をやや多く含む。  
 8層 暗灰褐色土 7層よりも暗く、灰、及び焼土粒子を多く含む。その他は7層とはほぼ同じである。

図83 重複群Fの土層断面(4)



## F-1群

101号住居 図89-91, FL19-20-124, 表P.17

位置 V-54・55グリッド

規模 縦2.25m 横3.30m 深0.25m

形状 隅丸長方形

重複 111号・126号・134号住居に後出する。

主軸方位 N-127°-E

埋没土 榛名山起源の軽石を含む暗褐色土を主体とする。

床面 明確ではない。

貯蔵穴 床面では検出されなかったが、掘り方で検出された南東隅の遺物の集中する2-3cmの浅い部分が貯蔵穴とも考えられるが断定できない。

周溝 なし

柱穴 なし

掘り方 地山を埋填土の主体としており、確認がしづらい。南東隅と南壁際に隅円形状の浅い掘り込みが2ヶ所接して存在している。遺物が集中して出土した。位置的には貯蔵穴とも考えられるが、掘り込みが浅く、形状も不明瞭であり、断定しなかった。規模は長径2.25m、短径0.8m、深さ0.02-0.03mである。

遺物出土状態 埋没土および床面や床面下から、30数点の遺物の破片が出土した。主に土器片と石である。北東部では羽釜(1153)、葎石(S448・S449)の出土がある他、床下土坑からは須恵器桶形土器(1155・1157)、土師器杯形土器(1156)、須恵器羽釜(1153)、カマド埋没土内から須恵器甕形土器(1154)の出土がある。

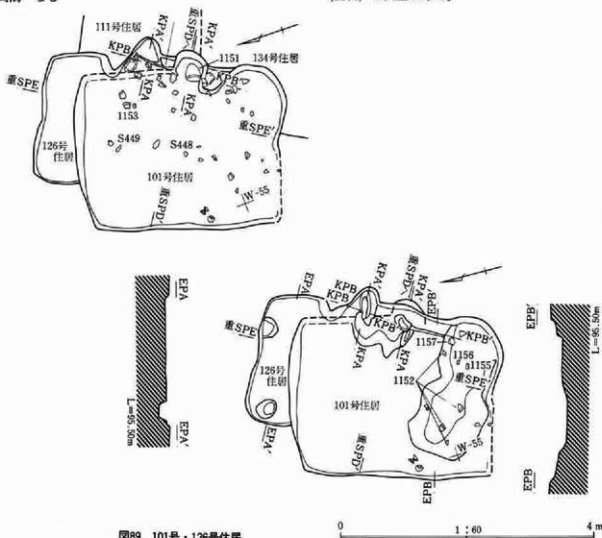


図89 101号・126号住居

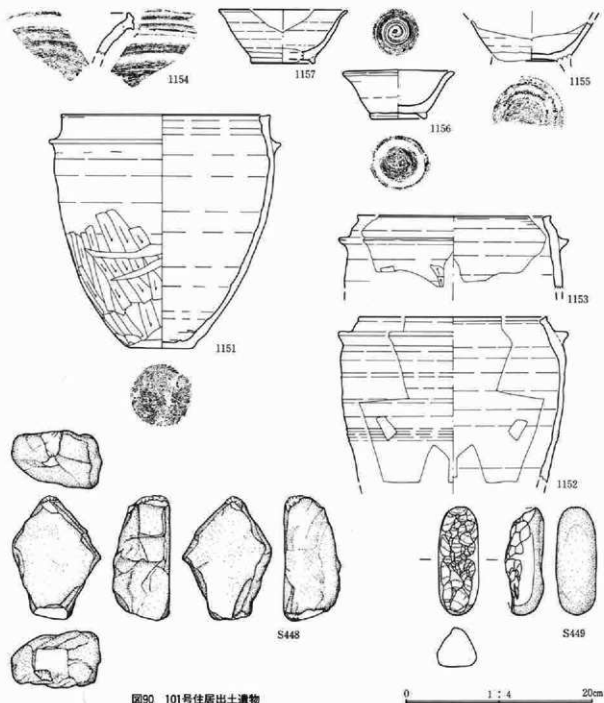


図90 101号住居出土遺物

カマド

位置 東壁ほぼ中央

規模 全長0.81m 屋外長0.23m

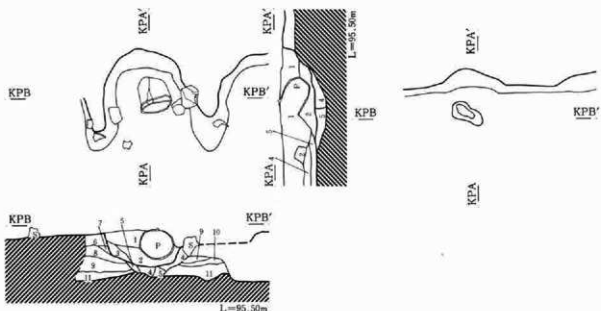
最大幅1.34m 焚き口幅0.8m

遺存状態 両袖は暗褐色土により4層以上の積み上げにより構築している。右袖は石を加えて一部とし

ている。

遺物出土状態 カマド内からは羽釜(1151)が出土している他、土器片および礫が出土している。羽釜の位置が燃焼部と考えられる。

調査所見 126号住居と重複関係がある。ほとんど重なっており、遺構検出に時間を要した。(麻生)



- 1層 暗褐色土 白色灰物を少量含む。焼土粒・灰ブロックをわずかに含む。  
 2層 暗灰褐色土 白色灰物をわずかに含む。焼土・灰ブロックを少量含む。  
 3層 明灰褐色土 黄白色土ブロックを少量含む。焼土・灰ブロックを少量含む。  
 4層 黒褐色土 黒色灰を多量に含む。  
 5層 暗茶褐色土 黄白色土ブロック・黒色灰を少量含む。  
 6層 暗褐色土 白色灰物・黄白色土ブロックをわずかに含む。  
 7層 暗褐色土 白色灰物・黒色灰をわずかに含む。  
 8層 暗褐色土 白色灰物・黄白色土ブロックをわずかに含む。桃灰色粘土ブロックを少量含む。  
 9層 暗褐色土 白色灰物を少量含む。桃灰色粘土ブロックを多量に含む。  
 10層 暗灰褐色土 白色灰物をわずかに含む。黄白色土ブロック(大まめ)を少量含む。  
 11層 111住、覆土

図91 101号住居カマド

0 1:30 1m

## 126号住居 1089-92

位置 V-54グリッド

規模 縦2.08m 横2.96m 深0.06m

形状 隅丸方形と考えられる。

重複 101号住居に先行し、111号住居に後出する。

主軸方位 N-128°-E

埋没土 榛名山起源の軽石を含む暗褐色土を主体とする。

床面 貼床が施されている。

貯蔵穴 なし

周溝 なし

柱穴 なし

掘り方 浅いが、榛名山起源の二次堆積物を主体とする灰褐色土で埋まった掘り方がある。底面には北西隅に直径0.31m、短径0.31m、深さ10cmの円形ピツ

ト、北壁に接して長径0.3m、短径0.25m、深さ4~12cmの浅いピツが検出された。

遺物出土状態 ほとんど無し。

カマド

位置 東壁

規模 全長0.75m 屋外長0.40m

最大幅0.9m 焚き口幅0.6+αm

遺存状態 101号住居に右袖を中心に壊されており、床面が浅いことから遺存状態は悪い。

遺物出土状態 カマド構築に使用されたと考えられる石材がわずかにある。また、土師器袋形土器の破片が1点出土したが図示できなかった。

調査所見 101号住居に大半を壊されており、遺構の確認できた範囲は少ない。(麻生)

第8章 住居の調査

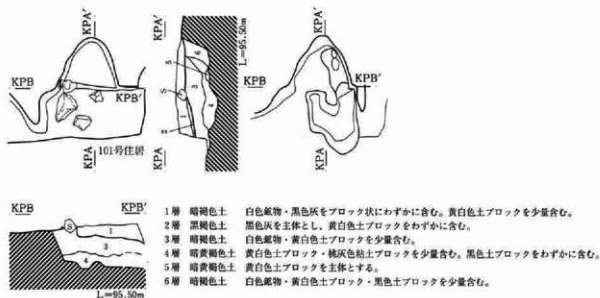


図92 126号住居カマド

111号住居 図93-94, FL20, 表P.17

位置 U・V-54・55グリッド

規模 縦1.94+αm 横3.8+αm 深0.38m

形状 隅丸方形

重複 101号・105号・126号・134号住居に先行する。

主軸方位 N-28°-E

埋没土 榛名山起源の軽石を含む暗褐色土を主体とするが、黒色炭化物を混入する。

床面 貼床が施されている。

貯蔵穴 なし

周溝 なし

柱穴 なし

掘り方 榛名山起源の軽石を主体とし、しまりが良く、粘性のある明灰褐色土を中心とする土で埋まっている。カマド周辺から西壁際にかけての底面には多数の浅い小ピットが存在している。

柱穴No	長径	短径	深さ	備考
P 1	0.20m	0.18m	0.03m	
P 2	0.27m	0.21m	0.05m	
P 3	0.27m	0.20m	0.60m	
P 4	0.26m	0.17m	0.15m	

P 5 0.45m 0.39m 0.05m

P 6 0.50m 0.37m 0.01m

P 7 0.30m 0.20m 0.01m

P 8 0.67m 0.5 m 0.02m

遺物出土状態 ほとんど出土していない。

カマド

位置 北壁中央

規模 全長1.1m 屋外長0.73m

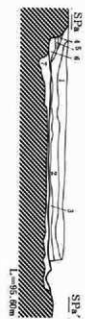
最大幅0.75m 突き口幅0.45m

遺存状態 煙道部の一部がトンネル状に残存しているものの、全体の遺存状態は悪い。

遺物出土状態 ほとんど認められない。

調査所見 本住居は134号住居と重複関係にあるが、東壁・北壁の方向・床面の高さなどが近似値を呈すため、調査は困難を極めた。また、掘り方底面には床下土坑等も多く検出した。(麻生)

土坑No	長径	短径	深さ	備考
1	3.35m	0.76m	0.12m	
2	1.10m	0.96m	0.09m	
3	1.45m	0.25m	0.06m	
4	0.89m	0.55m	0.04m	
5	2.86m	0.25m	0.05m	



- 134号住居 1層 暗褐色土 白色黏物を多量に含む。  
 2層 暗褐色土 白色黏物・焼灰色粘土ブロックを少量含む。  
 3層 暗褐色土 焼灰色粘土ブロックを多量に含む。  
 4層 暗褐色土 焼灰色粘土ブロックを主体とする。  
 5層 暗赤褐色土 焼土ブロック・黒色灰を少量含む。  
 6層 黒色灰層 焼土ブロックをわずかに含む。  
 7層 明灰褐色土 暗灰色土ブロック少量・黒色土粒子少量・暗褐色土を微量含む。しまりは良く、粘性有り。  
 (掘り方層土)

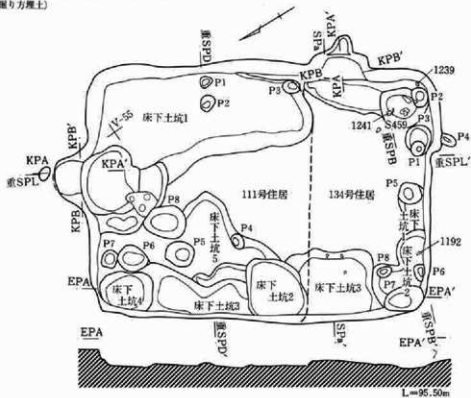


図93 111号・134号住居

0 1:60 4 m

第8章 住居の調査

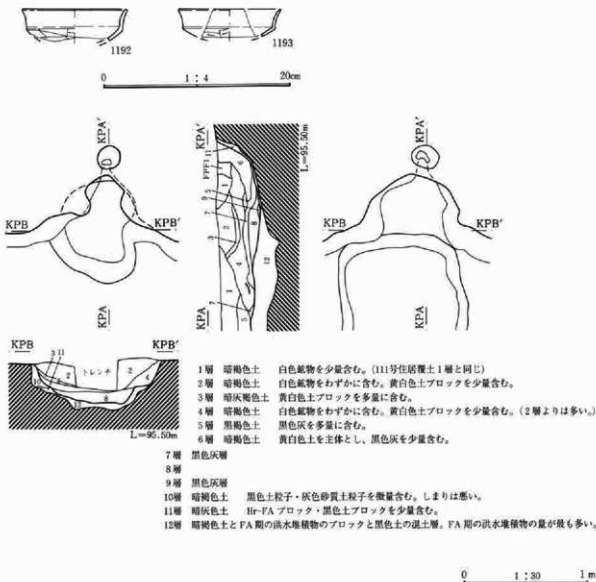


図94 111号住居出土遺物とカマド

134号住居 図93-96、PL21-124-127、表P.17

位置 V-55グリッド

規模 縦4.0m 横3.7m 深0.25m

形状 隅丸方形

重複 105号住居に先行し、111号住居に後出する。

114号住居との重複関係は不明である。

主軸方位 N-122°-E

埋没土 榛名山起源の軽石を含む暗褐色土を主体とする。

床面 掘り込んだ面をそのまま床面としている。

貯蔵穴 南東隅に長軸0.55m、短軸0.42m、深さ

0.11mの隅丸長方形を呈する床下土坑が検出されている。位置的には貯蔵穴とも考えられるが、床面下10cmで検出したもので、断定できない。

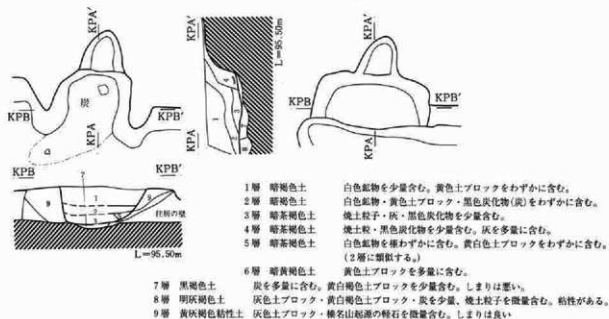
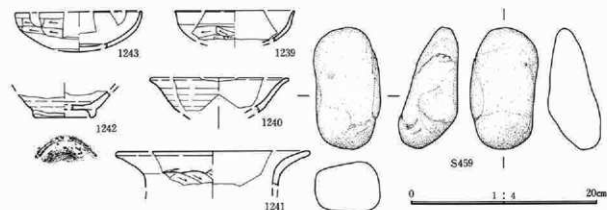
周溝 なし

柱穴 床面で1本のピットが検出されている。

柱穴No	長径	短径	深さ	備考
P 1	0.33m	0.24m	0.14m	

掘り方 榛名山起源の二次堆積物を主体とする。東・南・西壁際に大小のピットが連続して存在するが、5~10cmと浅い。

柱穴No	長径	短径	深さ	備考
------	----	----	----	----



- 1層 暗褐色土 白色鉱物を少量含む。黄色土ブロックをわずかに含む。  
 2層 暗褐色土 白色鉱物・黄色土ブロック・黒色炭化物(炭)をわずかに含む。  
 3層 暗茶褐色土 焼土粒子・灰・黒色炭化物を少量含む。  
 4層 暗茶褐色土 焼土粒・黒色炭化物を少量含む。灰を多量に含む。  
 5層 暗茶褐色土 白色鉱物をわずかに含む。黄白色土ブロックをわずかに含む。(2層に類似する。)  
 6層 暗黄褐色土 黄色土ブロックを多量に含む。  
 7層 黒褐色土 灰を多量に含む。黄褐色土ブロックを少量含む。しまりは悪い。  
 8層 明灰褐色土 灰色土ブロック・黄白色土ブロック・灰を少量。焼土粒子を微量含む。粘性がある。  
 9層 黄灰褐色粘結土 灰色土ブロック・榛名山起源の軽石を微量含む。しまりは良い

図95 134号住居出土遺物とカマド

0 1:30 1m

土坑No	長径	短径	深さ	備考
P 2	0.31m	0.24m	0.06m	
P 3	0.45m	0.38m	0.14m	
P 4	0.24m	0.22m	0.09m	
P 5	0.36m	0.35m	0.06m	
P 6	0.25m	0.16m	0.04m	
P 7	0.64m	0.38m	0.05m	
P 8	0.23m	0.16m	0.09m	
1	0.64m	0.25m	0.04m	
2	0.90m	0.36m	0.08m	
3	1.40m	0.98m	0.04m	

遺物出土状態 カマド周辺から東南隅部分にやや集中し、カマド左袖前面から土師器甕形土器 (1243)、南東隅付近堀没土中から須恵器椀形土器 (1242) の

出土がある。掘り方調査中に出土した遺物は、南東隅床下土坑から土師器甕形土器 (1241)、杯形土器 (1239)、葎石 (S459)、南西壁際から土師器杯形土器 (1192) である。

## カマド

位置 東壁やや南寄り

規模 全長0.90m 屋外長0.50m

最大幅0.80m 焚き口幅0.55m

遺存状態 比較的良好に残っている。

遺物出土状態 カマド内からは小片の遺物が少量出土したが、図示できない。

調査所見 大半が111号住居と重複する。一部南西隅部分が105号・114号住居と複雑に重複する。

(麻生)

F-2群

105号住居 図96-97, PL21-22-124, 表P.18

位置 V・W-55グリッド

規模 縦3.58m 横2.74m 深0.12+αm

形状 隅丸方形

重複 112号・129号住居に先行し、114号住居に後出する。

主軸方位 N-109°-E

埋没土 標名山起源の軽石を含む暗褐色土を主体とするが、遺構確認面から床面までが10-15cmと浅い。床面 貼床が施されている。10cmほどの厚さで、比較的良好的な状態を呈している。

貯蔵穴 なし

周溝 なし

柱穴 なし

掘り方 重複が激しいため、トレンチを入れて下部について調査したところ、貼床を含めて約10cmの深

さで掘り方底面に達する。

遺物出土状態 カマド燃焼部付近から北壁付近にかけて土器片が多数認められる。カマド前面で須恵器碗形土器(1171)、住居中央北寄りで須恵器碗形土器(1172)、住居北東寄りでは(1173)の出土がある。カマド

位置 東壁中央

規模 全長0.83m 屋外長0.64m

最大幅1.0m 焚き口幅0.78m

遺存状態 両袖は明確でないものの、支脚を埋めた痕跡とみられる20cmもの深さの長径0.38m、短径0.32mの楕円形ピットが認められる。

遺物出土状態 燃焼部に土師器甕形土器の破片(1170)がある。

調査所見 本住居は、F-2群の他の住居との切り合いの他に、F-1群の111号・134号住居との切り合い関係がある。両住居とも本住居に先行するものである。(麻生)

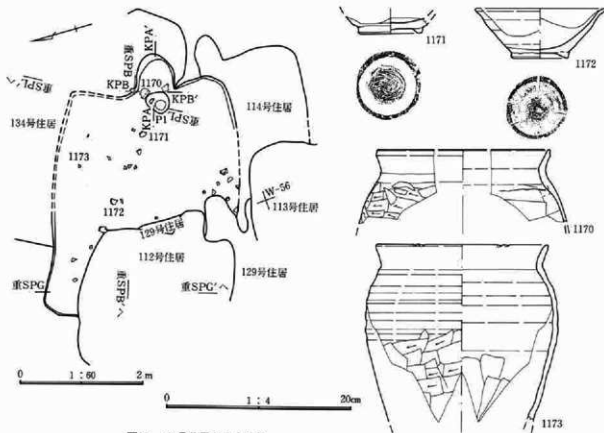


図96 105号住居と出土遺物



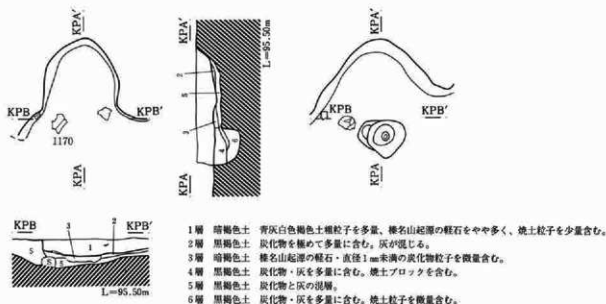


図97 105号住居カマド

0 1:30 1m

112号住居 図98-99、PL22-23-124~126、表P.18

位置 V・W-55グリッド

規模 縦2.13m 横2.43m 深0.28m

形状 隅丸方形

重複 105号・129号住居に後出する。

主軸方位 N-123°-E

埋没土 榛名山起源の白色軽石を少量含む茶褐色土を主体とする土層である。

床面 貼床が施されている。地山を固くしませた状態で検出された。

貯蔵穴 なし

周溝 なし

柱穴 カマド付近掘り方底面で4本のピットが検出された。

柱穴No	長径	短径	深さ	備考
P 1	0.21m	0.15m	0.02m	
P 2	0.18+4 m	0.14m	0.01m	
P 3	0.22m	0.18m	0.04m	
P 4	0.15m	0.10m	0.09m	

掘り方 わずかに床面より部分的に約0.06m凹む程度である。

遺物出土状態 カマド付近から北壁付近、及び南壁付近に散漫ながら遺物の出土がある。北壁下で土師器変形土器(1197)、東壁中央付近から須恵器杯形土器(1198)、南東隅では土師器変形土器(1196)がある。

カマド

位置 東壁中央やや南寄り

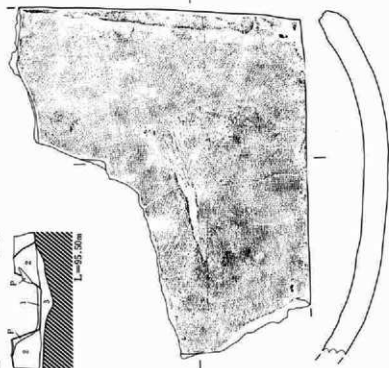
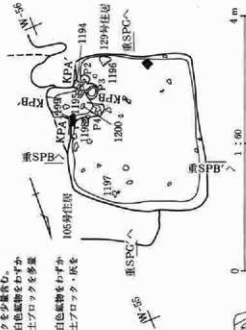
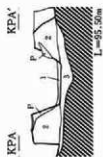
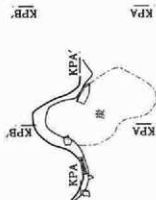
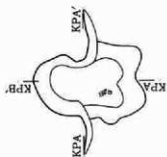
規模 全長0.93m 屋外長0.45m

最大幅1.2m 焚き口幅0.65m

遺存状態 確認時にすでに埋没土の大部分を掘削されており、灰層がわずかに確認された程度で遺存状態は良好でない。掘り方の右袖に袖の痕跡と考えられる直径20cm、深さ2~3cmのピットを検出した。遺物出土状態 土器片が数点認められ、須恵器碗形土器(1199)が埋没土中から出土した。また右袖・左袖から、それぞれ1194・1195の瓦が出土した。掘り方埋没土中に羽釜の口縁部破片(1200)が出土している。

調査所見 本住居は北側でF-1群と重複する。F-1群の111号住居の南西部と重複し、本住居より先行している。(麻生)

- 1層 黒褐色土、黒色灰を主体とし、黄白色土プロッタを少量含む。
- 2層 暗褐色土、白色磁物をわずかに含む。黄白色土プロッタを多数含む。(稀)
- 3層 暗褐色土、白色磁物をわずかに含む。黄白色土プロッタ、灰を少量含む。



1196

図98 112号住居と出土遺物(1)

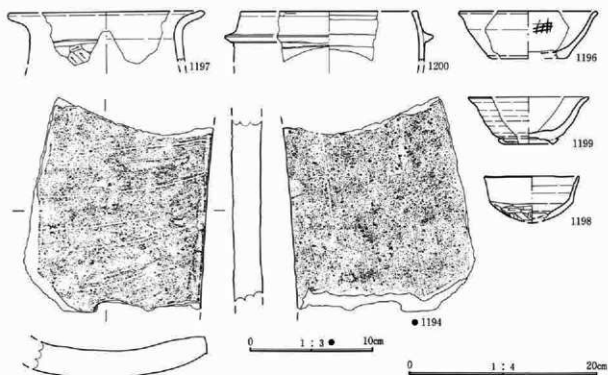


図99 112号住居出土遺物(2)

## 113号住居 図100-101, PL23-124, 表P.18

位置 V・W-55・56グリッド

規模 縦1.85m 横2.45m 深0.24m

形状 隅丸方形

重複 106号・114号・129号住居に後出する。

主軸方位 N-92°-E

埋没土 榛名山を起源とする軽石を少量含む暗褐色土を主体とする。

床面 掘り込んだ地山を硬化させて床面をつくっている。

貯蔵穴 なし 周溝 なし 柱穴 なし

掘り方 カマド付近にのみわずかに掘り方が検出された。黒色の灰と黄白色土ブロックをわずかに含む暗褐色土が床面との間にある。

遺物出土状態 ほぼ床面全域に散漫ながら遺物は分布している。中央付近で羽釜(1201)の出土がある。

## カマド

位置 東壁やや南寄り

規模 全長0.50m 屋外長0.37m

最大幅0.70m 焚き口幅0.53m

遺存状態 灰層は5cmと厚いが、平面形態が崩れており、遺存状態は良好でない。掘り方底面に左袖の痕跡とみられる直径25cm、深さ10cmのピットを検出している。

遺物出土状態 須恵器高台付碗形土器(1202)の出土がある。

調査所見 F-2群の中では南に位置し、F-3群の106号住居と重複関係がある。本住居が後出する状態で確認した。(麻生)

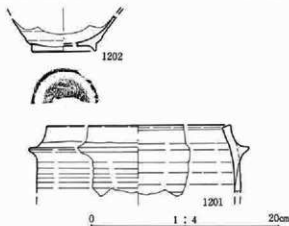


図100 113号住居出土遺物

第8章 住居の調査

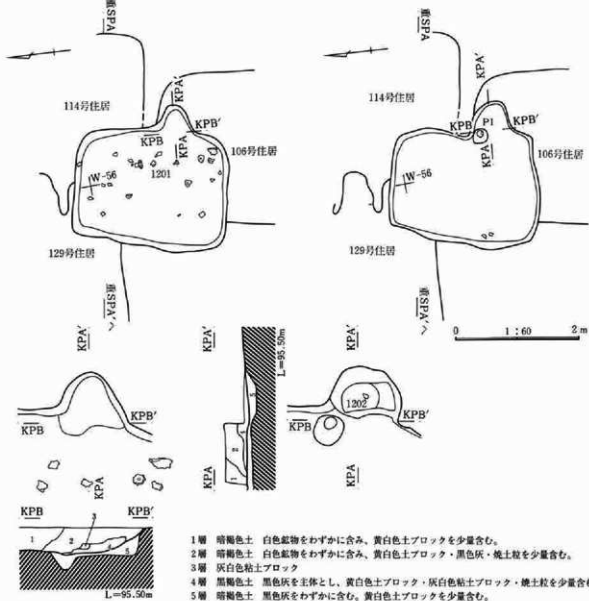


図101 113号住居

114号住居 図102-103、PL23-125、表P.18-19

位置 V-55・56グリッド

規模 縦1.3+αm 横1.17+αm 深0.16m

形状 隅丸方形と考えられる。

重複 西壁は113号・129号住居に切られており、105号・113号・129号住居に先行する。

主軸方位 N-90°-E

埋没土 榛名山起源の軽石を含む暗褐色土を主体とする。

床面 貼床が施されている。

貯蔵穴 なし

周溝 なし

柱穴 床面下で3本のピットを検出した。

柱穴No	長径	短径	深さ	備考
P 1	0.32m	0.28m	0.08m	
P 2	0.32m	0.22m	0.11m	
P 3	0.32m	0.26m	0.11m	

掘り方 カマド付近で確認できた掘り方までの深さ

は約0.04mであり、床面との間層は暗褐色土層であり、黄白色土を主体とし、灰白色粘土をわずかに含んでいる。カマド前面には2ヶ所に落ち込みがある。南側は長径0.67m、短径0.57m、深さ0.15mの隅丸方形の土坑であり、北側には不整形な形の長径0.67m、短径0.47m、深さ0.13mの土坑がある。

**遺物出土状態** カマド周辺から南東隅にかけてやや集中している。住居の南東隅からは糸切底をもつ須恵器杯形土器の出土がある。その他に埋没土中から鐔付きの飯形土器(1203)と土師器変形土器(1204)の出土がある。

**カマド**

**位置** 東壁中央

**規模** 全長0.88m 屋外長0.50m

最大幅0.66m 焚き口幅0.35m

**遺存状態** 灰層も焼土層もわずかであり、袖も遺存していない。煙道部先端には直径約0.23m、深さ0.11mの円形の落ち込みがある。

**遺物出土状態** 焼焼部内から右袖付近にかけて土器片が数点出土している。土師器変形土器(1205)、椀形土器(1207)の出土がある。

**調査所見** 本住居は南東隅とカマドのみ残存している。北壁は105号住居、西壁は113号住居に切られており、住居の全体像は不明である。(麻生)

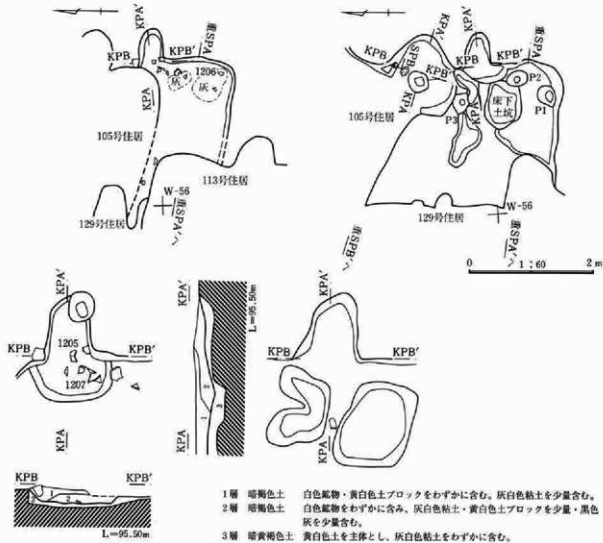


図102 114号住居

第8章 住居の調査

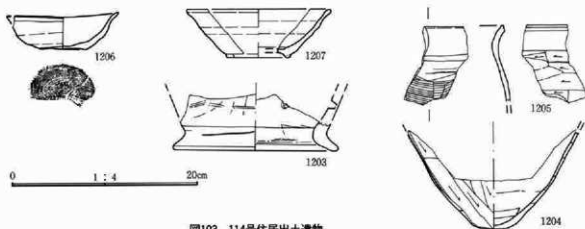


図103 114号住居出土遺物

129号住居 図104-105、PL23-24-125、表P.19

位置 V・W-55・56グリッド

規模 縦3.05m 横3.4m 深0.14m

形状 隅九方形

重複 105号・112号・114号住居に後出し、113号住居に先行する。

主軸方位 N-96°-E

埋没土 株名山起源の軽石を含む暗褐色土を主体とする。

床面 貼床が施されている。地山を固く締めている。

貯蔵穴 南東隅に、長径0.55m、短径0.45m、深さ0.16mの楕円形の貯蔵穴が検出されている。

周溝 なし

柱穴 床面で1本、床下で3本ピットが検出されている。

柱穴No	長径	短径	深さ	備考
P 1	0.25m	0.23m	0.11m	床下検出
P 2	0.30m	0.28m	0.08m	床下検出
P 3	0.27m	0.24m	0.36m	床下検出
P 4	0.45m	0.30m	0.06m	

掘り方 掘り方で3基の床下土坑を検出した。

土坑No	長径	短径	深さ	備考
1	0.67m	0.54m	0.05m	
2	1.05m	0.87m	0.03m	
3	0.84+*m	0.83m	0.06m	

遺物出土状態 南西隅から西壁際にかけて散漫に分布している。土師器杯形土器(1270)、他に石器(S454・S455・S456)がある。埋没土中から他に土

師器杯形土器(1269)と砥石(S457)が出土した。

カマド

位置 東壁中央やや南寄り

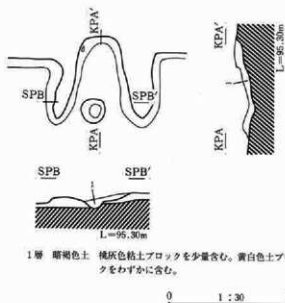
規模 全長0.77m 屋外長0.25m

最大幅0.90m 焚き口幅0.55m

遺存状態 地山を掘り残してつくられた両軸もしつかり遺存している。支脚を埋めていた直径20cm、深さ5cmのピットも検出されている。良好な遺存状態である。

遺物出土状態 ほとんど認められない。

調査所見 F-2群の中では西側に位置する。出土遺物は埋没土中のものが多いが、古墳時代後期に属する土師器杯形土器がある。(麻生)



1層 暗褐色土 桃灰色粘土ブロックを少量含む。黄白色土ブロックをわずかに含む。

図104 129号住居カマド

2 カマド付設住居

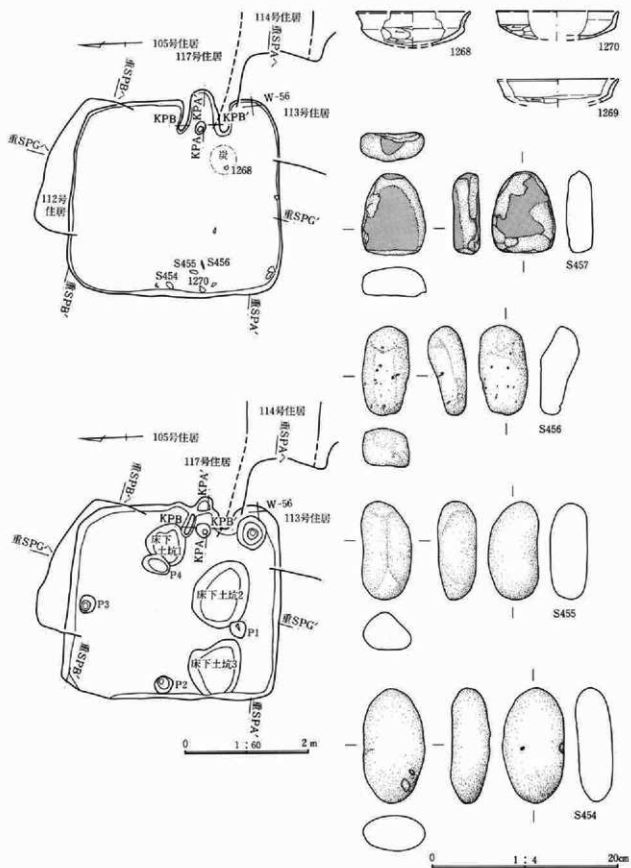


図105 129号住居と出土遺物

F-3群

106号住居 図106-107, PL24-126, 表P.19

位置 V・W-56グリッド

規模 縦2.38m 横2.85m 深0.16m

形状 隅丸方形

重複 113号住居に先行する。136号・138号住居に後出する。

主軸方位 N-99°-E

埋没土 椋名山起源の軽石を含む暗褐色土を主体としている。

床面 薄く貼床が施されている。

貯蔵穴 なし

周溝 なし

柱穴 なし

掘り方 なし

遺物出土状態 カマド付近及び西壁際に出土する須恵器高台付椀形土器 (1176) が接合関係にある。土師器変形土器 (1224) がカマド前面埋没土中から出土している。

カマド

位置 東壁中央よりやや南寄り

規模 全長0.68m 屋外長0.50m

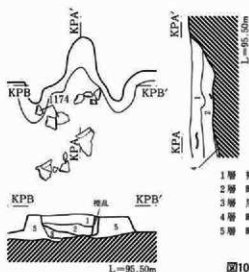
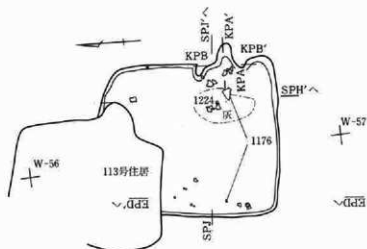
最大幅0.75m 焚き口幅0.55m

遺存状態 良好。

遺物出土状態 燃焼部から焚き口部にかけて土師器変形土器上半部破片 (1174) が一個体分出土している。

調査所見 F-2群の南端113号住居と重複する。本住居は北東隅部分を除き、多くが他の住居と重複関係にある。 (麻生)

0 1:60 2m



- |           |                                  |
|-----------|----------------------------------|
| 1層 褐色土    | 黄白褐色土ブロックを多く、焼土粒子・椋名山起源の軽石を微量含む。 |
| 2層 暗褐色土   | 炭化物・灰を含む。椋名山起源の軽石を微量含む。          |
| 3層 黒色灰層   |                                  |
| 4層 暗青灰褐色土 | 炭化物や椋名山起源の軽石は含まれない。わずかに粘性がある。    |
| 5層 暗褐色土   | 白色炭物・黄白褐色土ブロックを少量含む。             |

図106 106号住居

0 1:80 1m



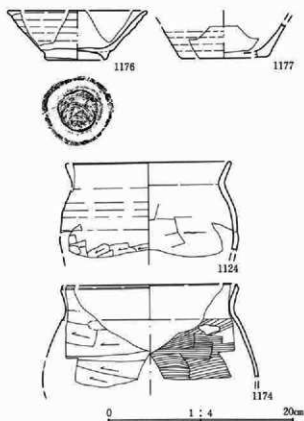


図107 106号住居出土遺物

床面 掘り込んだ地山をそのまま床面としている。

貯蔵穴 なし

周溝 なし

柱穴 なし

遺物出土状態 北壁際及び南壁際を中心に全体に散漫に分布している。床面直上から須恵器碗形土器(1235)と羽釜(1232)が出土している他に、埋没土内から須恵器碗形土器(1234)、瓦(1266・1267)の出土がある。

カマド

位置 東壁中央

規模 全長0.75m 屋外長0.60m

最大幅0.95m 焚き口幅0.40m

遺存状態 あまり良好でない。

遺物出土状態 燃焼部内からは瓦(1267)の出土があり、他に掘り方埋没土中で数点出土している。

調査所見 本住居は多くを136号住居と重複関係にある。先行する137号・138号住居の埋没土を切り込んでいるため重複関係把握に手間取った。(麻生)

### 128号住居 図108-110、PL24・25-125、表P.20

位置 V・W-56・57グリッド

規模 縦3.0m 横3.42m 深0.1m

形状 隅丸方形

重複 106号住居に先行し、136号・137号・138号住居に後出する。

主軸方位 N-90°-E

埋没土 榛名山起源の軽石を多く含む暗褐色土を主体とする。

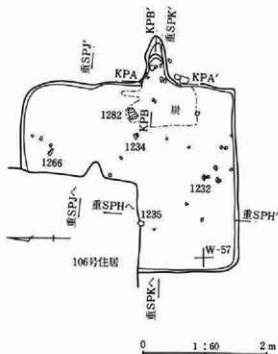


図108 128号住居

第8章 住居の調査

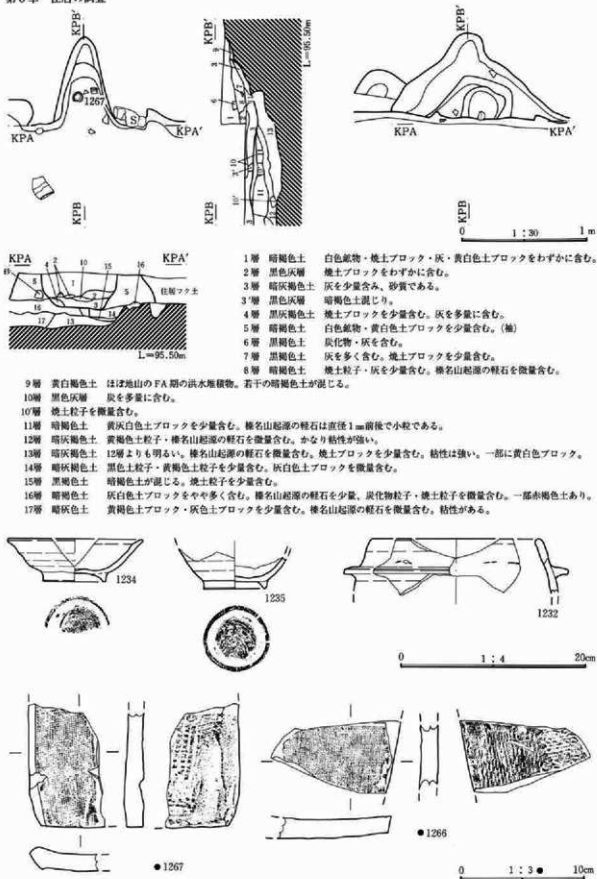


図109 128号住居カマドと出土遺物(1)

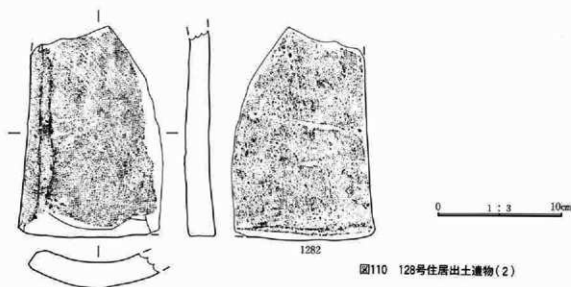


図110 128号住居出土遺物(2)

## 135号住居 図111・112, PL25・126, 表P.20

位置 V・W-57グリッド

規模 縦4.0m 横2.0+ $\alpha$ m 深0.22m

形状 不定形

重複 109号・137号住居に先行する。

主軸方位 N-95°-E

埋没土 榛名山起源の軽石と焼土粒を含む暗褐色土を主体とする。

床面 貼床が施されている。5cmの厚さに榛名山起源の二次堆積物を主体に固く貼っている。

貯蔵穴 なし

周溝 南壁沿いに幅15cm、深さ17cm、西壁沿いに幅25cm、深さ29cmの周溝が検出された。

柱穴 なし

掘り方 掘り方面でピットを3本検出した。

柱穴No	長径	短径	深さ	備考
P 1	0.40m	0.33m	0.06m	
P 2	0.23m	0.22m	0.08m	
P 3	0.22m	0.22m	0.14m	

遺物出土状態 南壁際を中心に散漫に出土している。須恵器杯形土器(1272)、土師器杯形土器(1273・1274・1275・1276)の出土がある。1273以外は壁際から出土している。

## カマド

位置 東壁中央?

規模 全長1.06m 屋外長0.93m

最大幅0.67m 吹き口幅0.25m

遺存状態 かなり良好。煙道部分の上半部が53号土坑に壊されている。

遺物出土状態 ほとんど認められない。

調査所見 F-3群の最南端に位置し、G群の中では最北端の住居である109号住居に重複する。137号住居が北半分を切り込み、床面もほぼ同一レベルである。(麻生)

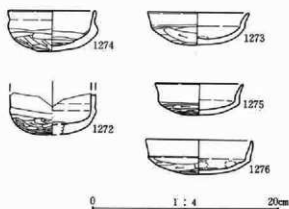
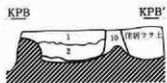
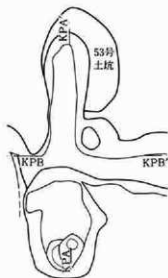
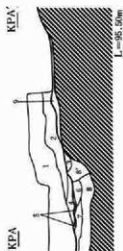
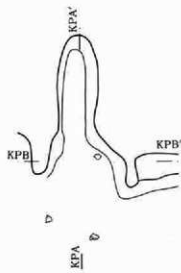
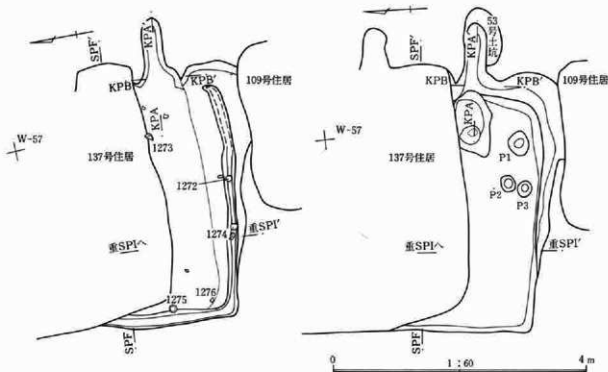


図111 135号住居出土遺物

第8章 住居の調査



- 7層 暗灰色土
- 8層 暗灰色土
- 8層 暗灰色土
- 9層 暗褐色土
- 10層 暗褐色土

- 1層 暗褐色土 白色灰物を少量含む。黄白色土ブロック・灰をわずかに含む。
- 2層 暗赤褐色土 焼土ブロック・灰を少量含む。
- 3層 暗灰褐色土 灰を多量に含む。焼土ブロックを少量含む。
- 4層 淡赤褐色土 焼土ブロックを多量に含む。灰化物を少量含む。
- 5層 黒色灰化物層 焼土を少量含む。
- 6層 灰白色土 樺名山起源の軽石・炭化物粒子を微量含む。
- 7層 灰白色土 灰白色土ブロックを多量に含む。焼土粒子・炭化物粒子を微量含む。
- 8層 黄白褐色土ブロック・灰白色土ブロックを多量に含む。灰・焼土ブロックを多めに含む。樺名山起源の軽石を微量含む。
- 8層 単一的。8層に近い。他のブロック等はほとんど含まれない。
- 9層 焼土粒子・炭化物粒子を少量含む。
- 10層 焼土粒子・樺名山起源の軽石を微量含む。

図112 135号住居



136号住居 国113-114, PL25-126-127, 表P.20-21

位置 V・W-56・57グリッド

規模 縦3.38m 横3.80m 深0.12m

形状 隅丸方形 重複 106号・128号住居に先行し、137号・138号住居に後出する。

主軸方位 N-173°-E

埋没土 上半部がほとんど128号住居に壊されている。多量の榛名山起源の軽石と炭化物を含む暗灰褐色土を主体とする。

床面 貼床が施されている。固くしまっている。

貯蔵穴 なし

周溝 なし

柱穴 床面下でビットが2本検出されている。2本とも106号住居カマド内ビットと一致する。

柱穴No 長径 短径 深さ 備考

P 1 0.13m 0.12m 0.03m 床下検出

P 2 0.25m 0.2 m 0.06m

掘り方 10cmから深いところで20cmで底面に達する。掘り方底面で3本のビットを検出した。

柱穴No 長径 短径 深さ 備考

P 3 0.50m 0.32m 0.11m

P 4 0.35m 0.25m 0.06m

P 5 0.56m 0.29m 0.22m

掘り方 P 3とP 4をつなぐように浅い落ち込みがあり、長径1.64m、短径0.45m、深さ0.12mの不整形な状態を呈する。

遺物出土状態 床面からの出土遺物は南東部から土師器甕形土器(1280)があり、埋没土内からは須恵器碗形土器(1265・1278)、杯形土器(1279)、瓦(1281)、土師器杯形土器(1284)、鉄器(M22)などの出土がある。

カマド

位置 南壁

規模 全長0.53m 屋外長0.4m

最大幅不明 焚き口幅不明

遺存状態 遺存状態が悪く、袖や煙道部はよくわからなかった。

遺物出土状態 なし

調査所見 本住居は128号住居と多くが重複し、カマド付近である東壁の一部が残るにすぎない。

(麻生)

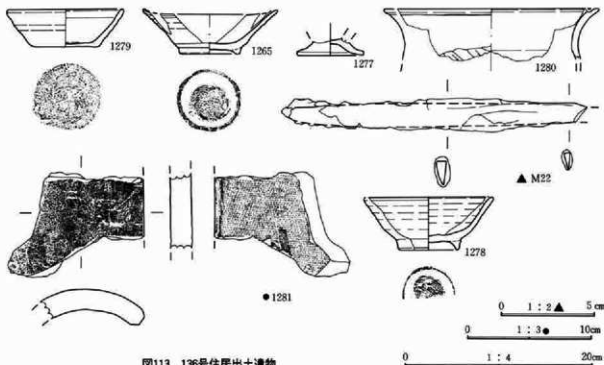
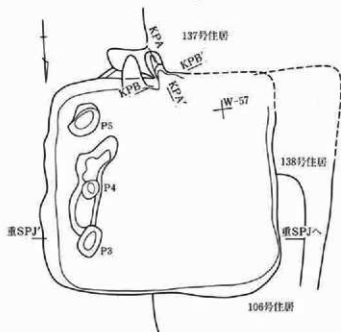
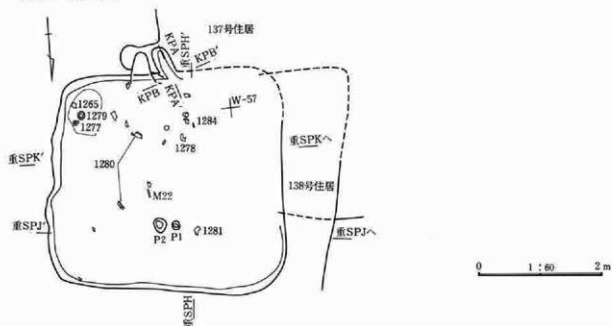


図113 136号住居出土遺物

第8章 住居の調査



- |           |   |
|-----------|---|
| 1層 暗褐色土   | 焼土粒子及び同ブロックを少量、標名山起源の軽石を微量含む。                   |
| 2層 暗褐色土   | 焼土ブロックを多量に含む。                                   |
| 3層 暗灰色土   | 灰・炭化物を多く含む。焼土ブロックを少量含む。                         |
| 4層 暗灰褐色土  | 焼土ブロックを少量含む。標名山起源の軽石を微量含む。                      |
| 5層 黑色灰層   | 炭化物を多量、焼土ブロック及び同粒子を少量含む。                        |
| 6層 赤褐色土   | 焼土、炭化物を微量含む。                                    |
| 7層 暗灰褐色土  | 黄褐色土ブロックを少量、焼土粒子・灰をやや多く含む。                      |
| 8層 暗灰色土   | 黄褐色土粒子を微量含む。                                    |
| 9層 暗灰褐色土  | 黄褐色土ブロック・焼土粒子を少量含む。標名山起源の軽石・炭化物粒子を微量含む。やや粘性がある。 |
| 10層 暗灰色土  | 灰白色土粒子・灰がやや多く含まれる。粘性が強い。                        |
| 11層 暗灰褐色土 | 灰白色土粒子を多く含む。粘性がある。                              |

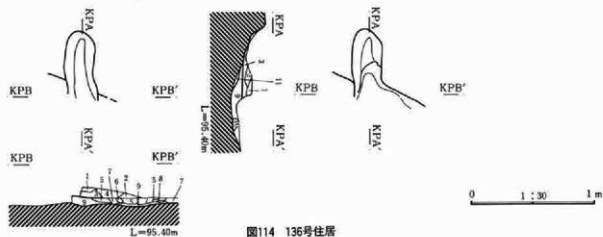


図114 136号住居

137号住居 図115-117, PL25-127, 表P.21

位置 V・W-56・57グリッド

規模 縦3.95m 横4.0m 深0.2m

形状 隅丸方形

重複 106号・128号・138号住居に先行し、135号住居に後出する。

主軸方位 N-89°-E

埋没土 榛名山起源の軽石を多く含む暗褐色土を主体とする。

床面 貼床が施されている。わずかに榛名山起源の二次堆積物を薄く貼っている。

貯蔵穴 南東隅に長径0.70m、短径0.47m、深さ0.22mの楕円形を呈する貯蔵穴が検出されている。

周溝 北壁と西壁に幅19cm、深さ9cmの周溝が検出された。

柱穴 床面で1本、床下で5本の柱穴が検出されている。

柱穴No	長径	短径	深さ	備考
P 1	0.32m	0.24m	0.15m	床面検出
P 2	0.26m	0.25m	0.28m	床下検出
P 3	0.34m	0.28m	0.34m	床下検出
P 4	0.26m	0.2 m	0.38m	床下検出
P 5	0.35m	0.25m	0.22m	床下検出
P 6	0.24m	0.22m	不計測	床下検出

掘り方 掘り方底面は大小のピット群で凹凸が激しい。各落ち込みは次の通りである。

土坑No	長径	短径	深さ	備考
1	0.87m	0.6+*m	0.12m	
2	2.1+*m	0.75m	0.07m	
3	1.32m	1.16m	0.14m	段有り
4	1.55m	1.05m	0.11m	
5	0.84m	0.7 m	0.07m	
6	0.56m	0.35m	0.08m	カマド前

遺物出土状態 ほぼ全体に出土している。埋没土内からは土師器甕形土器(1285)や杯形土器(1289)の出土があるが、この杯形土器は138号住居の埋没土内にも入り込んでいる。他に床面下で掘り方底面との間に土師器甕形土器(1287)が出土している。

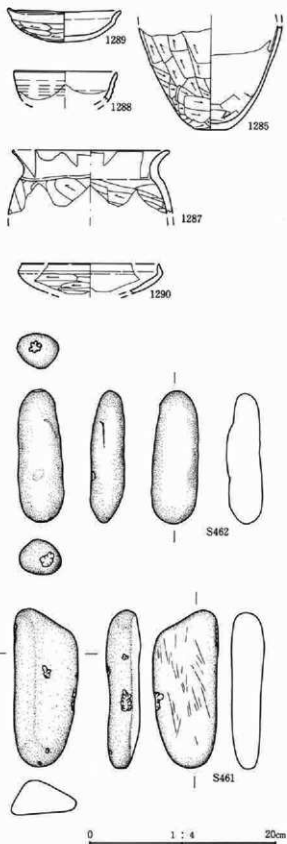


図115 137号住居出土遺物

第8章 住居の調査

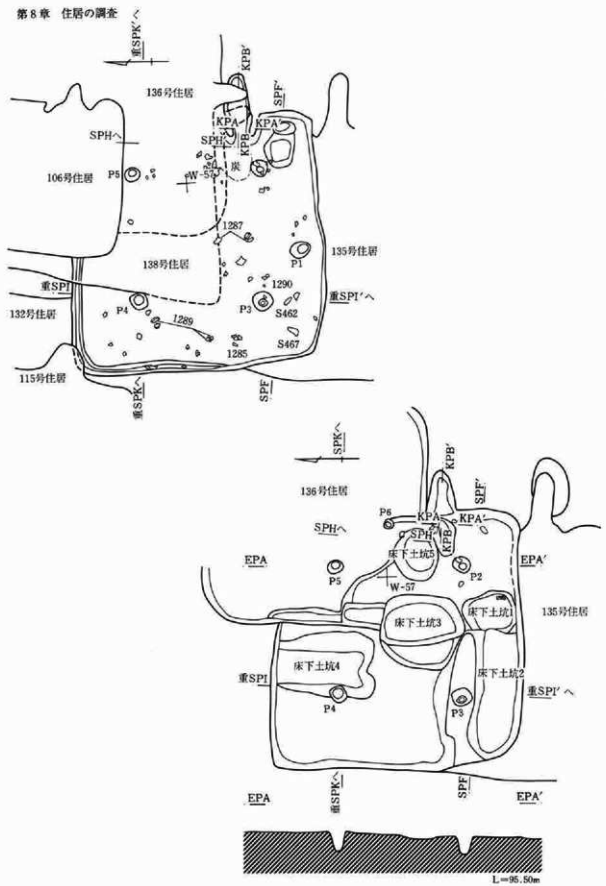


図116 137号住居

0 1 : 60 4 m



また、敲石（S462）が床面直上から、S461が埋没土中から出土している。

カマド

位置 東壁

規模 全長1.06m 屋外長0.70m  
最大幅0.70m 焚き口幅0.15m

遺存状態 煙道部を138号住居カマドに切られている。

遺物出土状態 掘り方底面から左袖付近に礎があり、右袖付近からは土器片が1点出土した。

調査所見 重複が激しく北半分は不明瞭である。

(麻生)

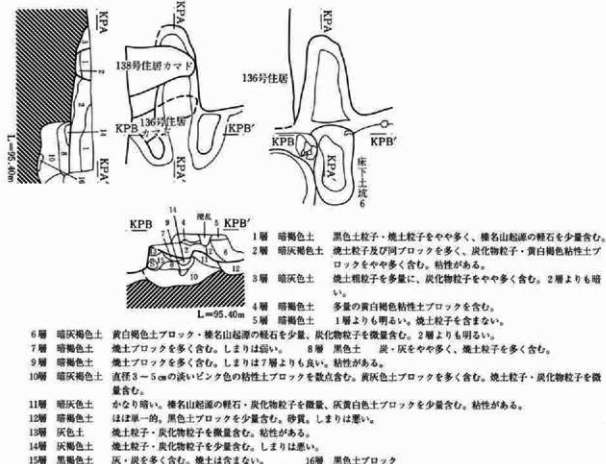


図117 137号住居カマド

0 1:30 1m

138号住居 図118、PL25-26-127、表P.21-22

位置 V・W-56・57グリッド

規模 縦3.5+αm 横3.22m 深0.09m

形状 不定形

重複 106号・128号・136号住居に先行し、137号住居に後出する。

主軸方位 N-18°-E

埋没土 標名山起源の軽石を含む暗褐色土を主体とする。

床面 貼床が施されている。標名山起源の二次堆積物をわずかに薄く貼っている。

貯蔵穴 なし

周溝 なし

柱穴 ビット1本を検出している。

柱穴No	長径	短径	深さ	備考
P1	0.34m	0.34m	0.05m	

遺物出土状態 東西隅付近は他の住居と重複はしているものの、本住居の出土と考えられる遺物に床面

第8章 住居の調査

直上出土の砥石 (S460) や、埋没土中から土師器  
 菱形土器 (1286) がある。

カマド

位置 南壁

規模 全長0.55m 屋外長不明

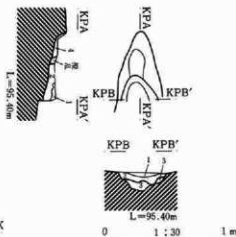
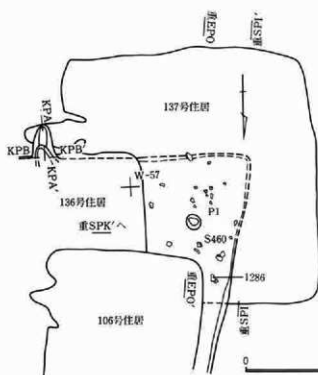
最大幅0.35m 焚き口幅0.11m

遺存状態 遺存状態が悪く、詳細は不明である。新

旧関係からは137号住居のカマドを本住居のカマド  
 が切っている状態と判断した。

遺物出土状態 南西壁寄りに出土している。

調査所見 土層により新旧関係は明らかにしたもの  
 の重複部分が多く、明瞭な形で本遺構を検出するこ  
 とが困難であった。(麻生)



重SPK

- 1層 暗褐色土 焼土を多く含む。炭化物粒子・榛名山起源の軽石を少量含む。
- 2層 暗褐色土 灰・炭を多量に含む。機土粒子を少量含む。
- 3層 暗灰褐色土 灰・炭を少量含む。粘性がある。
- 4層 暗褐色土 やや黄色みを帯びる。焼土粒子を微量含む。やや砂質。

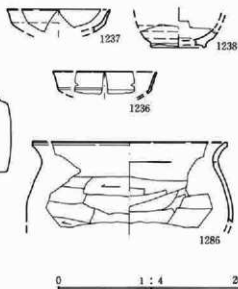
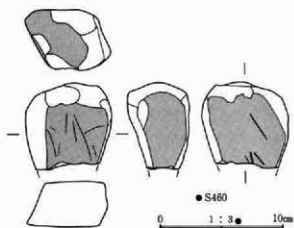


図118 136号住居と出土遺物

## F-4群

## 100号住居 図119、PL26-127、表P.22

位置 X-56グリッド

規模 縦2.98+αm 横1.52+αm 深0.13m

形状 不明

重複 51号・52号溝に先行する。52号溝を介在し、119号住居と重複関係にある。

主軸方位 N-65°-W

埋没土 株名山起源の軽石を含む暗褐色土を主体とする。床面付近では炭化物を少量検出。

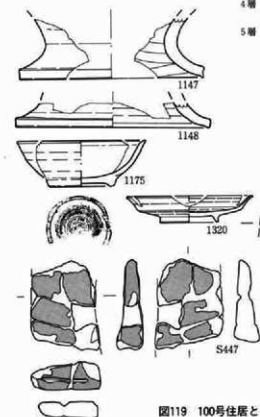
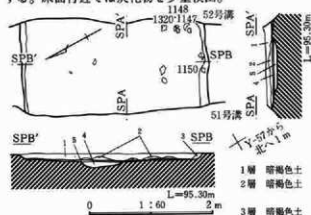


図119 100号住居と出土遺物

床面 貼床が施されている。

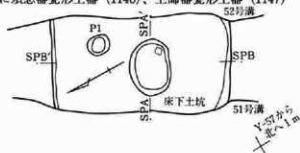
貯蔵穴 調査できた範囲の中では検出されなかった。

周溝 なし

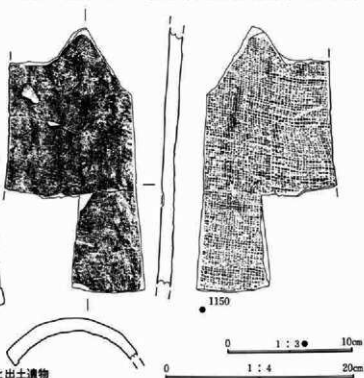
柱穴 調査できた範囲の中では検出されなかった。

掘り方 住居中央部の掘り方底面に、長径0.93m、短径0.66m、深さ0.09mの土坑と、長径0.35m、短径0.30m、深さ0.05mのビットを検出した。

遺物出土状態 南壁寄りの埋没土中で緑釉陶器の破片(1320)・羽釜の破片(1149)が出土し、その他に須恵器甕形土器(1148)、土師器甕形土器(1147)



- 1層 暗褐色土 角礫石・安山岩を少量含む。白色鉱物・黄白色土ブロックを多量に含む。白色炭化物を少量含む。
- 2層 暗褐色土 白色炭化物を少量含む。黄白色土ブロックを多量に含む。黒色炭化物を少量含む。
- 3層 暗褐色土 黄白色土ブロックを多量に含む。炭化物を少量含む。
- 4層 暗灰褐色土 炭化物・灰を多く含む。株名山起源の軽石を少量含む。粘性がある。しまりは良い。
- 5層 灰褐色土 黄褐色土ブロックを多く含む。炭化物粒子を少量含む。しまりは良い。



第8章 住居の調査

瓦 (1150) などが出土した。遺物はやや集中する。

カマド 52号溝に壊されたと考えられる。

調査所見 51号・52号溝に東西の壁を切られ、形状や規模を計測することは不可能であった。南北の壁は確認でき、小形から中形の住居になることが推測される。

(麻生)

115号住居 図120-121, PL26-27-127-128, 表P.22-23

位置 W-56グリッド

規模 縦 $2.0 + \alpha$ m 横 $3.2 + \alpha$ m 深0.13m

形状 隅丸長方形

重複 119号・120号住居に先行し、132号住居に後出する。

主軸方位 N-114°-E

埋没土 榛名山起源の軽石を少量含む暗褐色土で埋まっている。

床面 貼床が施されている。固くしっかりしている。

貯蔵穴 なし

周溝 なし

柱穴 なし

掘り方 深さ15~20cmの掘り方が検出された。主体として榛名山起源の二次堆積物を含む暗褐色土で埋

められている。

遺物出土状態 遺物はカマド内やその周辺から多数の羽釜等の土器片が出土した。他はまばらな状態での出土状況である。

カマド

位置 東壁中央より南東隅寄り

規模 全長0.53m 屋外長0.49m

最大幅0.70m 焚き口幅0.66m

遺存状態 カマドの袖は確認できない。煙道部分は床面が有段状を呈している。カマド両袖部分には石による構築の跡であると推測されるピットが各1ヶ所ずつ検出された。

柱穴No 長径 短径 深さ 備考

P 1 0.20m 0.15m 0.07m

P 2 0.24m 0.20m 0.05m

遺物出土状態 カマドとその周辺からは羽釜の破片 (1208・1212・1210・1209) と土師器杯形土器 (1214) が出土した。

調査所見 後出する120号住居は深いが、先行する132号住居は床面がほぼ同じ高さである。土層図では切り合い関係は明瞭であり、新旧関係をとらえることができた。

(麻生)

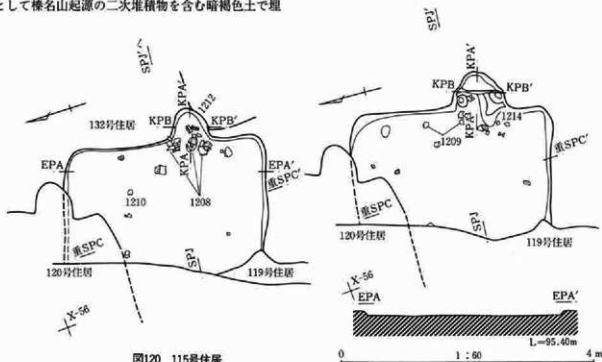
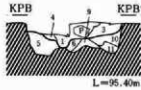
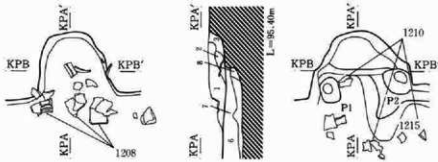


図120 115号住居



- 1層 暗褐色土 白色炭物をわずかに含む。
- 2層 暗灰褐色土 焼土粒・灰を大量に含む。
- 3層 暗灰褐色土 焼土粒・灰を少量含む。
- 4層 暗黄褐色土 黄白色土ブロックを多量に含む。(カマド囲り方?)
- 4層 暗黄褐色土 黄白色土ブロックを多量に含む。(カマド以外の地の遺構層土か?)
- 5層 暗褐色土 炭化物粒子を多く、焼土粒子を少量、標名山起源の軽石を微量含む。灰白色土をやや多く含む。
- 6層 暗褐色土 暗灰褐色土ブロックを多量に、標名山起源の軽石を多めに、炭化物粒子を少量含む。
- 7層 黒色灰層 炭を極めて多量に含む。焼土粒子を少量含む。
- 8層 暗青灰色土 炭化物を少量含む。
- 9層 暗褐色土 黄白褐色土ブロックを多量に含む。
- 10層 暗褐色土 標名山起源の軽石を少量含む。やや砂質。
- 11層 暗青灰色土 黄白褐色土粒子を少量含む。

0 1 : 30 1m

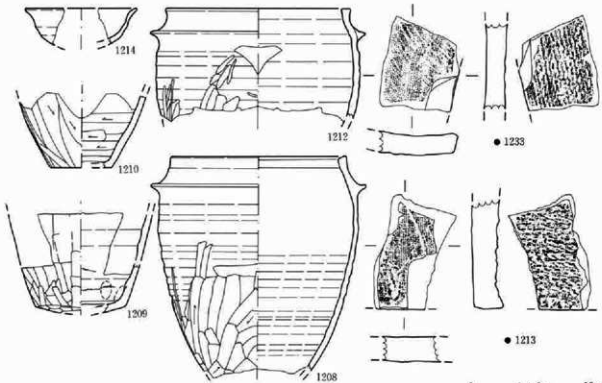


図121 115号住居カマドと出土遺物

第8章 住居の調査

119号住居 図122・123, PL27・128, 表P.23

位置 W・X-56グリッド

規模 縦0.35+αm 横2.1+αm 深0.12m

形状 隅丸方形と考えられる。

重複 52号溝に先行し、115号住居に後出する。

主軸方位 N-100°-E

埋没土 東壁と南東隅のみの残存であり、10-15cmの深さで榛名山起源の軽石を含む暗褐色土で埋まっている。

床面 掘り込んだ地山を床面としている。

貯蔵穴 なし

周溝 なし

柱穴 なし

掘り方 ほとんど確認できない。

遺物出土状態 カマド左袖付近から遺物が出土している。左袖付近からの遺物は床面上約2cmほどのと

ころで出土している。

カマド

位置 東壁であるが、ほぼ中央付近と考えられる。

規模 全長0.6m 屋外長0.27m

最大幅0.7m 焚き口幅0.25m

遺存状態 遺構の確認できた状態ではカマド上半部分は削平を多く受けている。袖は東壁から内側に0.4m張り出しており、黄褐色粘質土で構築している。右袖西側に接して長径0.3m、短径0.2m、深さ0.07mの楕円形のピットがある。

遺物出土状態 左袖付近から土師器杯形土器(1220)須恵器高台付碗形土器(1221)が出土した。

調査所見 本住居はカマド付近を中心とする東壁付近のみが残る。100号住居との直接の重複関係をとらえることは不可能であった。(相京)

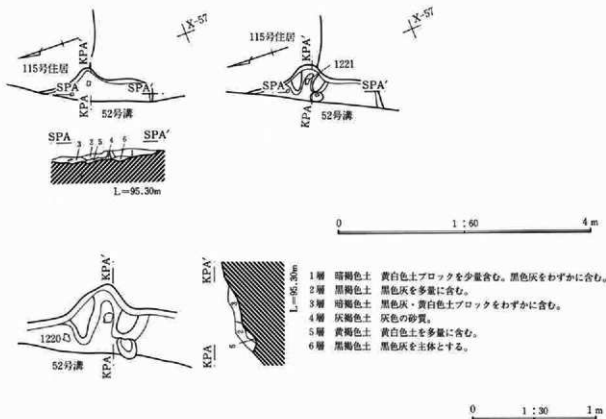


図122 119号住居

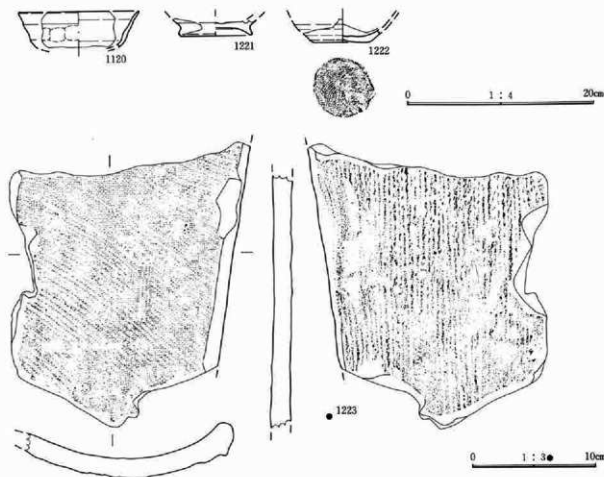


図123 119号住居出土遺物

## 120号住居 図124・125・PL27・128、表P.23

位置 W・X-55・56グリッド

規模 縦2.94m 横3.1+αm 深0.30m

形状 隅丸長方形と考えられる。

重複 52号溝に先行し、115号・132号住居に後出する。

主軸方位 N-105°-E

埋没土 榛名山起源の軽石と灰・炭化物を含む暗灰褐色土を主体とする。

床面 南壁側はわずかに高いが、全体としてはほぼ平坦な様相が窺える。

貯蔵穴 南東隅に長径0.34m、短径0.29m、深さ0.07mの楕円形の貯蔵穴を確認した。

周溝 なし

## 柱穴

柱穴No	長径	短径	深さ	備考
P1	0.8 m	0.38m	0.11m	

掘り方 なし

遺物出土状態 カマド内およびその周辺の遺構残存状況は把握できるが、住居中央を52号溝により多くが掘削されているため不明である。出土遺物は羽釜の破片が多く、床面及び埋没土内からの出土である。カマド

位置 東壁南寄り

規模 全長0.6m 屋外長0.5m

最大幅0.63m 焚き口幅0.42m

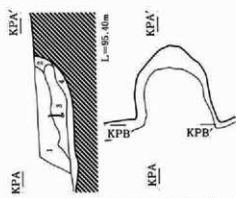
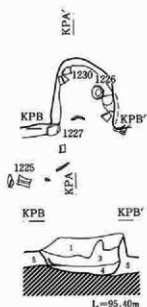
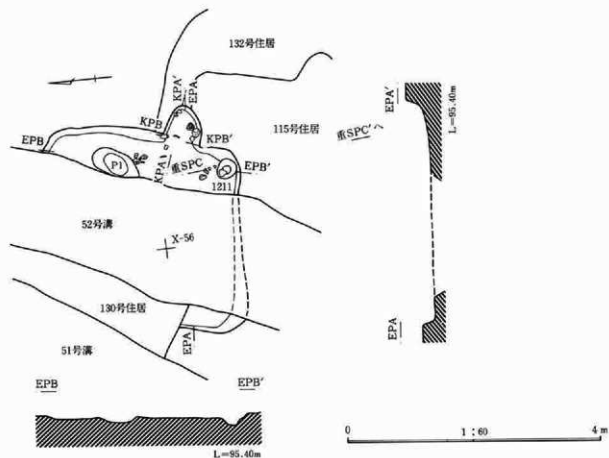
遺存状態 カマド上半部は不明である。袖は存在の有無は不明である。

第8章 住居の調査

遺物出土状態 カマド壁面やカマド埋没土内から須恵器杯形土器(1226・1227)、羽釜の破片(1225・1230)が出土している。

調査所見 本住居と130号住居との重複関係は、埋

没土と遺物からの判断では時期決定ができないので不明と言わざるを得ない。130号住居も東西を溝、北を住居で切られているため、全体的な傾向や特色を推定することが困難である。(相京)



- 1層 暗茶褐色土 白色鉱物をわずかに含む。黄白色土ブロックを少量含む。
- 2層 暗灰褐色土 白色鉱物をわずかに含む。黄白色土ブロックを多量に含む。
- 3層 黒褐色土 黒色灰を多量に含む。黄白色土ブロックをわずかに含む。
- 4層 黒色灰層
- 5層 暗褐色土 黄白色土ブロックをわずかに含む。

図124 120号住居

0 1:30 1m



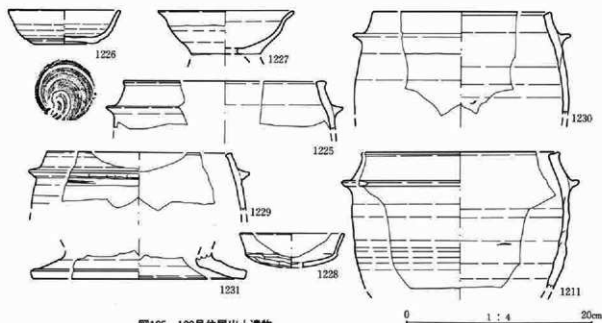


図125 120号住居出土遺物

## 130号住居 図126, PL28, 表P.23

位置 W・X-55・56グリッド

規模 縦3.32m 横1.2+ $\alpha$ m 深0.30m

形状 不明

重複 51号・52号溝に先行し、120号・131号住居に後出する。

主軸方位 N-110°-E

埋没土 榛名山起源の軽石を含む暗褐色土を主体とする。

床面 貼床が施されている。固くしまっている。

貯蔵穴 調査できた範囲の中では検出されなかった。

周溝 調査できた範囲の中では検出されなかった。

柱穴 調査できた範囲の中では検出されなかった。

掘り方 掘り方底面には大小の凹凸があり、直径0.3m、深さ3cmほどのピットが検出されている。

遺物出土状態 ほとんど認められないが、埋没土内から羽釜(1271)の出土がある。

カマド 調査できた範囲の中では検出されなかった。

調査所見 51号・52号溝の間にはさまった狭い部分での確認住居である。北側は131号住居と重複し、大半を失っている。(麻生)

## 131号住居 図126

位置 W・X-55・56グリッド

規模 縦1.08+ $\alpha$ m 横0.62+ $\alpha$ m 深0.32m

形状 不明

重複 51号・52号溝、130号住居に先行する。

主軸方位 N-87°-E

埋没土 榛名山起源の軽石を主体に含む暗褐色土層があり、床面付近では黒色土ブロックと炭化物粒を含む傾向になる。

床面 貼床が施されている。固くしまっている。

貯蔵穴 調査できた範囲の中では検出されなかった。

周溝 調査できた範囲の中では検出されなかった。

柱穴 調査できた範囲の中では検出されなかった。

掘り方 床面下には暗灰白褐色土層でHr-FAブロックや黒色土ブロックを多く、焼土粒を微量に含む粘性土が10cm前後あり、掘り方底面に達する。底面には凹凸がある。

遺物出土状態 遺物はほとんど認められない。

カマド 調査範囲の中では検出されなかった。

調査所見 51号・52号溝に大きく切られた住居であり、南壁で切り合う130号住居との関係は土層からの観察で明瞭のように本住居が古い。全体的な形状は不明である。(麻生)

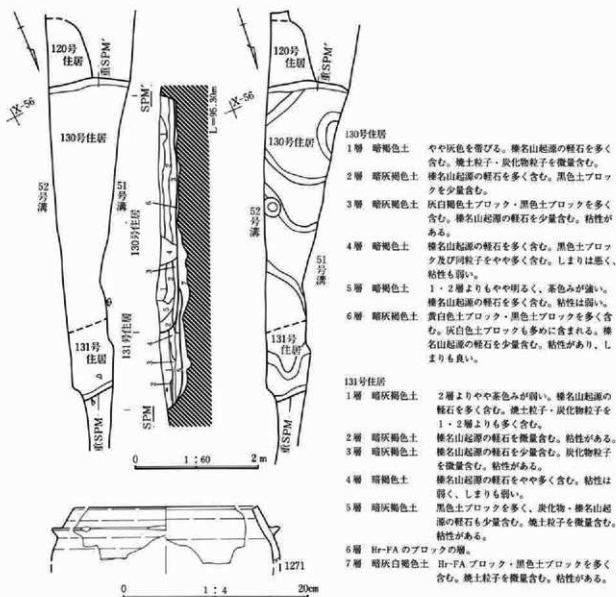


図126 130号・131号住居と出土遺物

132号住居 図127, FL28-128, 表P.24

位置 W-55・56グリッド

規模 縦2.5+αm 横2.1+αm 深0.14m

形状 隅九方形

重複 115号・120号・137号住居に先行する。

主軸方位 N-15°-E

埋没土 褐色粘質土であり、暗灰色粘質土・黄白褐色土ブロック・直径2cmほどのHr-FP粒を含む。

床面 厚さ5~7cmほどの貼床が施されている。

貯蔵穴 調査範囲の中では検出されなかった。

周溝 調査できた範囲の中では検出されなかった。

柱穴 調査できた範囲の中では検出されなかった。

掘り方 掘り方底面に楕円形の土坑が検出されている。

土坑No 長径 短径 深さ 備考

1 0.40m 0.20m 0.05m

2 0.50m 0.40m 0.05m

3 0.90m 0.32m 0.05m

遺物出土状態 ほとんど認められないが、1点蔵石 (S458) が出土している。

カマド 北壁に施設されていると考えられるが、左側部分を120号住居カマドに切られているために遺存状況は良好でない。詳細は不明である。

調査所見 本住居はその多くが重複する115号住居の床面とはほぼ高さを同一にする。また、北西部分を120号住居、西側を52号溝に切られており、不明部分が多い。(麻生)

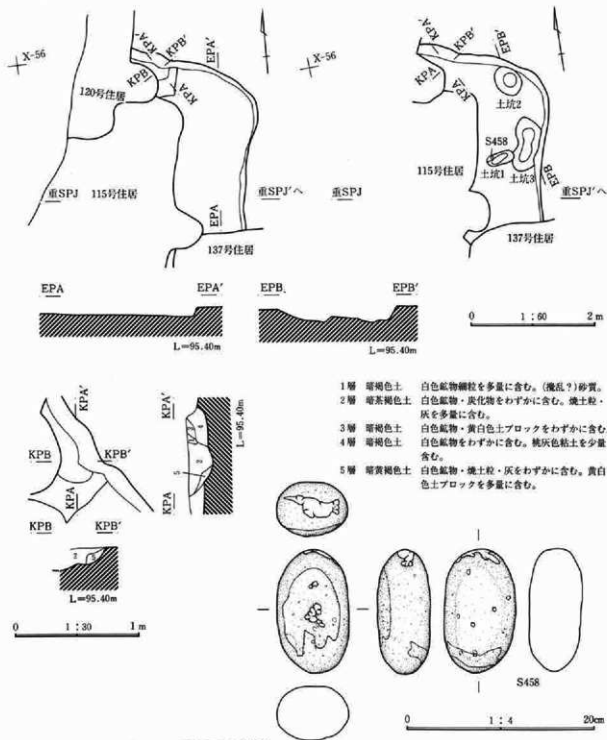
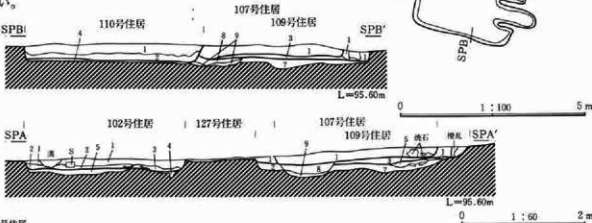
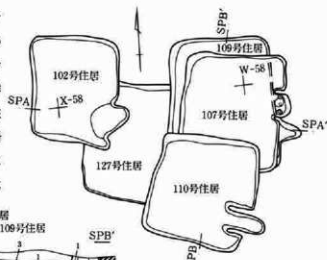


図127 132号住居と出土遺物

重複群G

重複群GはV・W・X-57・58グリッドに展開する。重複群Gは重複度の激しいF群の1～4支群のうち3群の南端の135号住居とG群の北に位置する109号住居によって群別の境としている。重複群Gには新しい順に110号住居→107号住居→109号住居→127号住居と直接の重複関係があり、102号住居→127号住居の直接の重複関係がある。127号住居に後出する109号住居と102号住居の直接の重複関係はない。



102号住居

- 1層 暗青灰褐色土 直径0.5～1cm程度の榛名山起源の軽石を含む。直径1～5mmの炭化物片をやや多く含む。黄褐色土粒子を少量含む。
- 2層 暗青灰色土 黄白褐色土(地山)ブロック・榛名山起源の軽石・炭化物粒子を少量含む。
- 3層 暗褐色土 炭を多量に含む。黄白褐色土粒子を少量含む。
- 4層 はげ沢層。若干の褐色土を含む。焼土粒子を微量含む。
- 5層 暗灰褐色土 黄白褐色土ブロックを多く含む。直径1cmほどの炭化物片を少量含む。やや砂質である。
- 溝 茶褐色砂質土層 榛名山起源の軽石を多く含む。青灰褐色土ブロックを含む。

107号住居

- 1層 暗褐色土 榛名山起源の軽石を多く、焼土粒子・炭化物片を少量含む。
- 2層 青灰褐色土 榛名山起源の軽石・黄褐色土粒子を少量含む。
- 3層 暗青灰色土 黄白褐色粘性土ブロックを多く含む。

109号住居

- 1層 暗褐色土 直径1mm未満の榛名山起源の軽石を少量含む。青灰褐色土ブロックと黄白褐色土ブロックを少量含む。
- 2層 暗褐色土 黄白褐色土ブロック及び青灰褐色土ブロックを多量に含む。粘性有り。
- 3層 茶褐色土 黄褐色土粒子を多く含む。榛名山起源の軽石を少量含む。
- 4層 黒褐色の炭と灰の層。
- 5層 褐色土 黄褐色土ブロック及び黄白色土ブロックを少量、青灰褐色土ブロックをやや多く、榛名山起源の軽石を少なめに含む。
- 6層 黒色の灰層 灰多量。
- 7層 暗褐色土 黄白色土粒子を多く、榛名山起源の軽石をやや多く、炭及び灰を少量含む。
- 7'層 暗褐色土 黄白色土ブロックを多く、榛名山起源の軽石粒子を多く、灰を7層よりも若干多めに含む。

110号住居

- 1層 暗褐色土 榛名山起源の軽石を多く含む。黄白褐色土ブロック及び同粒子を少量含む。
- 2層 暗褐色土 青灰褐色土ブロックの溶混を多量に含む。直径1～5mmの炭化物粒子を微量含む。榛名山起源の軽石を少量含む。
- 3層 暗青灰褐色土 黄白色土ブロックを多量に含む。粘性が強い。2層よりも黄色みが強く、明るい。
- 4層 暗青灰褐色土 黄白色土ブロックを多く含む。炭化物・焼土粒子を少量含む。しまりが良く、粘性がある。

127号住居

- 1層 明褐色土 黄白褐色砂質土粒子と榛名山起源の軽石を少量、炭化物粒子を微量含む。

図128 重複群Gと土層断面

## 102号住居 図129-131, PL28-29-128-129, 表P.24

位置 X・W-57・58グリッド

規模 縦2.3m 横2.85m 深0.20m

形状 隅丸方形

重複 127号住居に後出する。

主軸方位 N-95°-E

埋没土 暗青灰色土と暗褐色土であり、黄褐色土粒や榛名山起源の軽石、炭化物を含む。

床面 貼床が施されている。ほぼ平坦で、カマド前面部は固くしまっている。

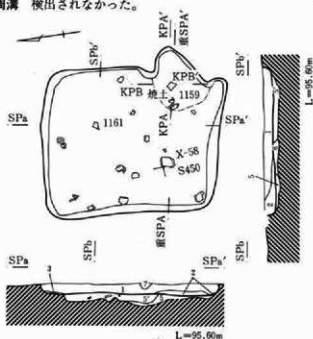
貯蔵穴 検出されなかった。

周溝 検出されなかった。

柱穴 南壁直下掘り方面にP1・P2が検出され、他に5本のピットがある。

柱穴No	長径	短径	深さ	備考
P 1	0.2 m	0.17m	0.17m	
P 2	0.3 m	0.3 m	0.2 m	
P 3	0.63m	0.3 m	0.1 m	
P 4	0.15m	0.13m	0.04m	
P 5	0.2 m	0.15m	0.07m	
P 6	0.18m	0.09+ $\phi$ m	0.09m	
P 7	0.54m	0.52m	0.05m	

掘り方 床面下10cmほどの掘り込みがある。特にカマド前面には約1m四方の床下土坑がある。また北



- 1層 暗青灰色土 直径0.5-1cm程度の榛名山起源の軽石を含む。直径1-5mmの炭化物粒をやや多く含む。黄褐色土粒子を少量含む。
- 2層 暗青灰色土 黄白褐色土(地山)ブロック・榛名山起源の軽石・炭化物粒子を少量含む。
- 3層 暗褐色土 炭を多量に含む。黄白褐色土粒子を少量含む。
- 4層 ほぼ脱層。若干の褐色土を含む。焼土粒子を微量含む。
- 5層 暗灰褐色土 黄白褐色土ブロックを多く含む。直径1cmほどの炭化物粒を少量含む。やや砂質である。
- 5'層 ほぼ5層と同じであるが、焼土ブロックを少量含む。
- 6層 暗灰褐色土 榛名山起源の軽石・炭化物粒子を微量含む。炭分を若干含む。やや粘性がある。
- 7層 暗褐色土 黒褐色土粒子・榛名山起源の軽石粒子を少量含む。
- 溝 茶褐色砂質土層 榛名山起源の軽石を多く含む。青灰褐色砂ブロックを含む。

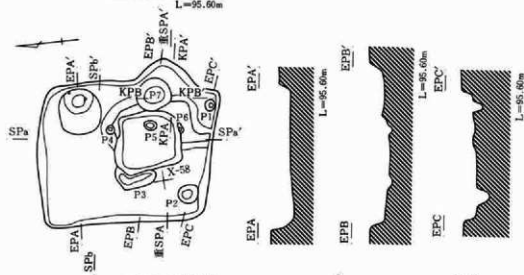


図129 102号住居

0 1:60 4m

第8章 住居の調査

東隅付近には楕円形で長径0.73m、短径0.65m、深さ0.10mの土坑がある。底面には10cm内外の不整形な凹凸がある。床下は黄白褐色土ブロックや焼土、炭化物を含む暗灰褐色土などで埋められている。  
**遺物出土状態** 床面直上の出土は少ない。埋没土中からは須恵器杯形土器・甕形土器・瓦(1161)や砥石(S450)などが出土している。破片を含めて18点の出土であった。

**カマド**

**位置** 東壁中央やや南寄り

**規模** 全長0.63m 壁外長0.44m

最大幅1.04m 突き口幅0.63m

**遺存状態** 形状はかなり崩れており、床面付近はわずかに残る。袖は明瞭な状態では残らない。

**遺物出土状態** 埋没土中から羽釜(1158・1159)が出土した。

**調査所見** カマド付近は崩れが大きかった。また、床面では確認できなかったP1・P2は床面で確認されるべきものであったとも考えられる。(相京)

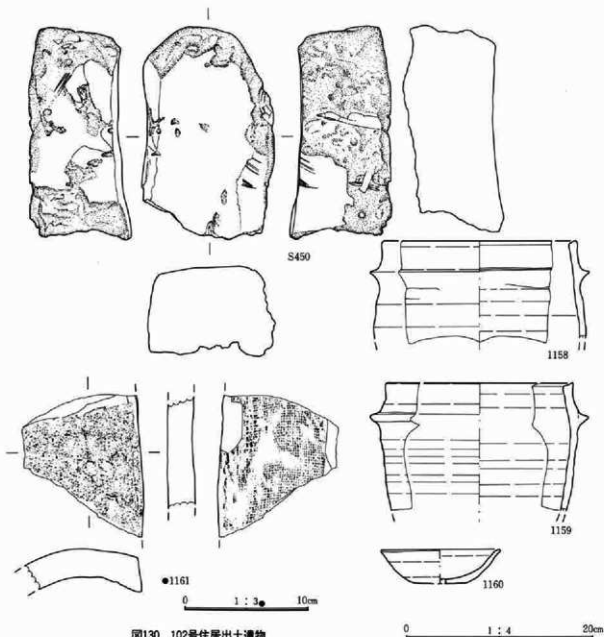


図130 102号住居出土遺物

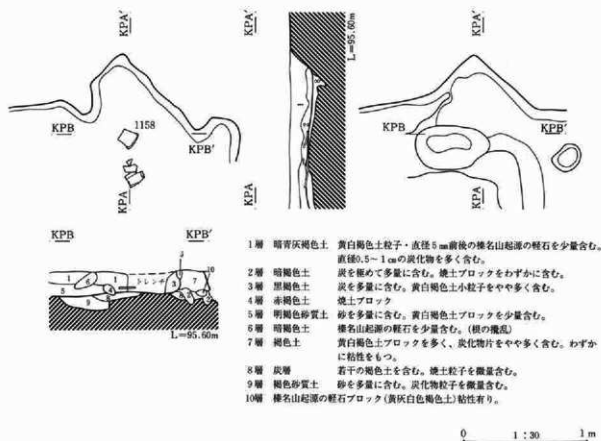


図131 102号住居カマド

## 107号住居 図132-133, PL29-128~130, 表P.24-25

位置 V・W-57・58グリッド

規模 縦2.67m 横3.07m 深0.18m

形状 隅丸方形

重複 110号住居に先行し、109号住居に後出する。

主軸方位 N-90°-E

埋没土 榛名山起源の軽石を多く含む他に焼土粒や炭化物を少量含む。

床面 貼床が施されている。床面にはかなり凹凸がある。西南部が下がっている。

貯蔵穴 南東隅に長軸0.98m、短軸0.84m、深さ0.43mの隅丸方形を呈する貯蔵穴が掘り方面で確認された。貯蔵穴内からは埋没土中より土器片が出土している。

周溝 検出されなかった。

柱穴 検出されなかった。

掘り方 床面下で土坑状の落ち込み3ヶ所、ピット

状の遺構5ヶ所が検出された。

No	長径	短径	深さ	備考
土坑	1.4 m	1.00m	0.08m	楕円形
P 7	0.18m	0.16m	0.06m	
P 8	0.17m	0.14m	0.06m	
P 9	0.24m	0.22m	0.07m	
P 10	0.08m	0.08m	0.11m	
P 11	0.39m	0.32m	0.07m	

遺物出土状態 カマド周辺その他、住居中央部分と南東隅付近からわずかに出土している。出土遺物は埋没土中から須恵器杯形土器(1180)・土器の破片(1179)、瓦(1181・2133)の出土もある。

## カマド

位置 東壁中央よりやや北寄り

規模 全長0.85m 屋外長0.16m

最大幅0.89m 焚き口幅0.63m

遺存状態 住居全体の残りが悪い。カマドもわずか

第8章 住居の調査

に底面の形状を残すにすぎない。両袖とも住居内に20cmほど壁から突出し、幅は約15cm、高さは7~8cm残存していた。カマドの底面で6本の小ピットを焼出した。

柱穴No	長径	短径	深さ	備考
P 1	0.32m	0.15m	0.12m	
P 2	0.2 m	0.17m	0.03m	
P 3	0.21m	0.2 m	0.07m	

P 4	0.18m	0.17m	0.10m
P 5	0.14m	0.11m	0.12m
P 6	0.16m	0.14m	0.06m

遺物出土状態・小片であるが、土器が少量出土している。

調査所見 109号住居の大部分を壊す状況で検出された他、本住居は南西部分を110号住居で壊されている。(相京)

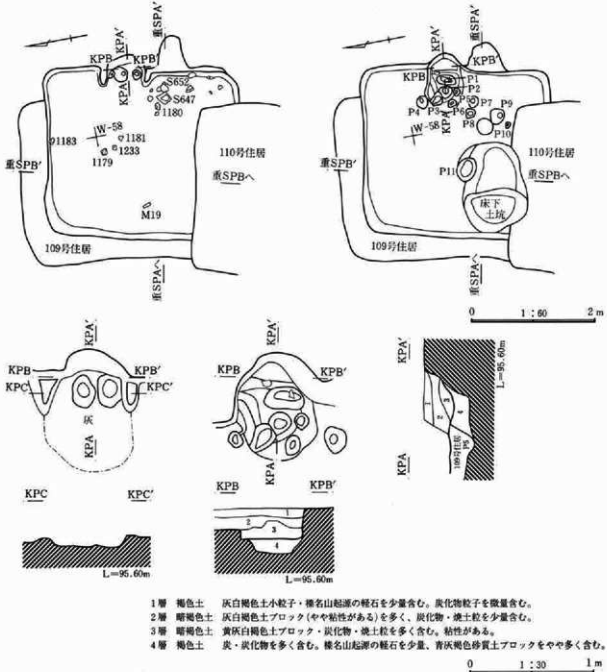


図132 107号住居



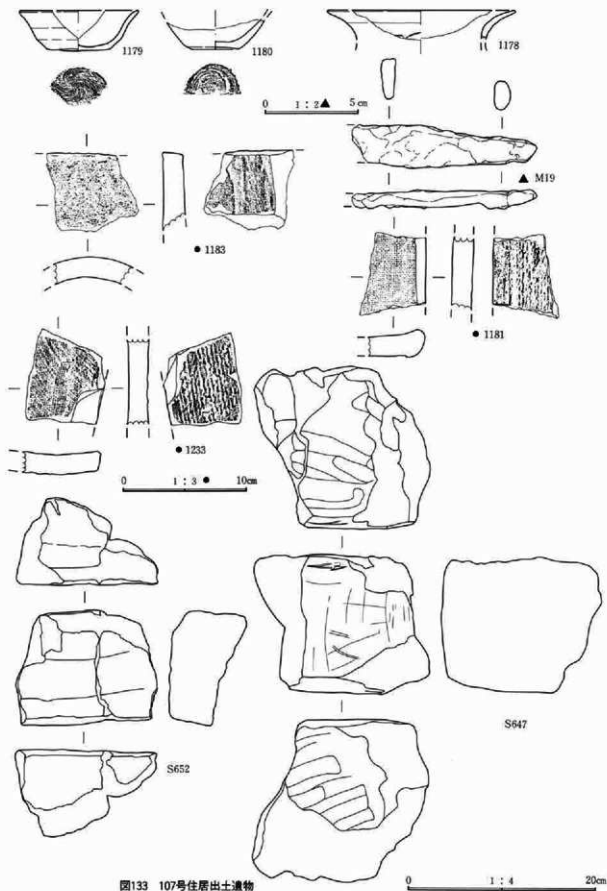


図133 107号住居出土遺物

第8章 住居の調査

109号住居 図134・135, PL29-30・129, 表P.25

位置 V・W-57, W-58グリッド

規模 縦2.73m 横3.54m 深0.18m

形状 隅丸方形

重複 107号・110号住居に先行する。

主軸方位 N-100°-E

埋没土 暗褐色土で埋没している。

床面 貼床が施されている。

貯蔵穴 南東隅に位置する。形状は隅丸方形を呈し、長軸1.06m、短軸0.84m、深さ0.12mである。貯蔵穴埋没土内からは土器(1182・1185)の出土がある。

周溝 検出されなかった。

柱穴 掘り方面で小ピット2本が検出された。

柱穴No	長径	短径	深さ	備考
P1	0.25m	0.16m	0.06m	

P2 0.45m 0.40m 0.08m

掘り方 床面下は0.1~0.15mの凹凸のある底面であり、床面との間に灰や炭を含む暗褐色土が入る。中央部北寄りに床下土坑がある。長径1.0m、短径0.78m、深さ0.1mの楕円形を呈する。

遺物出土状態 貯蔵穴からの出土が多い。

カマド

位置 東壁中央やや南寄り

規模 全長0.92m 屋外長0.42m

最大幅0.82m 焚き口幅0.36m

遺存状態 あまり良好ではない。袖の高まりが僅かに残る程度であり、構築材の石が点在している。

遺物出土状態 小片で少量の土師器が出土した。

調査所見 107号住居に大半が重複し、明瞭な部分が少ない。(相京)

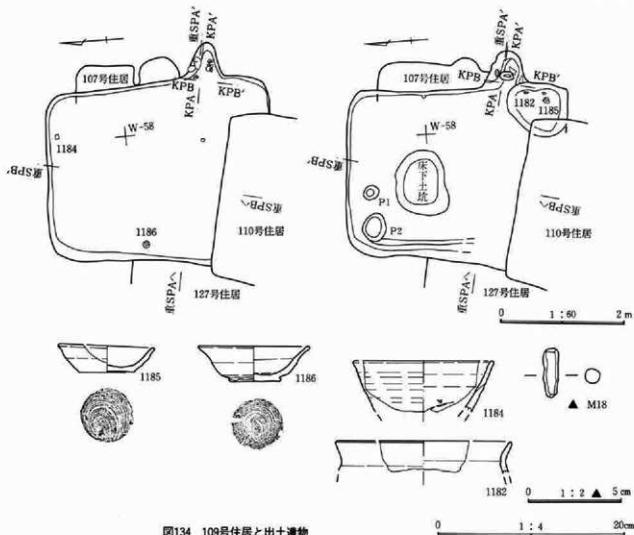
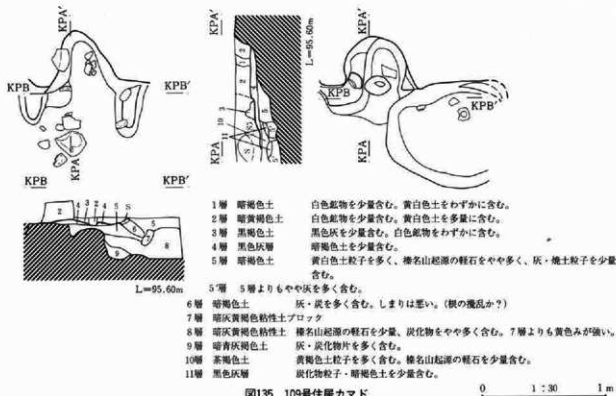


図134 109号住居と出土遺物



## 110号住居 図136-138, PL.30-31, 129-131, 表P.25-26

位置 V・W-58グリッド

規模 縦2.82m 横2.93m 深0.3m

形状 隅丸方形

重複 107号・109号・127号住居に後出する。

主軸方位 N-105°-E

埋没土 暗褐色土層である。榛名山起源の軽石を含む。下層には炭化物粒が含まれる。

床面 貼床が施されている。2~4cmの厚さである。ほぼ平坦であり、黄白色土ブロックや炭化物・焼土粒を含んでいる。

貯蔵穴 検出されなかった。

周溝 検出されなかった。

柱穴 2本の小ピットが検出された。

柱穴No	長径	短径	深さ	備考
P 1	0.55m	0.33m	0.63m	
P 2	0.31m	0.25m	0.23m	

掘り方 南西壁隅に直径0.69m、深さ0.17mの円形の床下土坑が検出された。

遺物出土状態 カマド内からの遺物出土が多い他、まばらに住居埋没土中からの出土がある。カマド内からは羽釜の破片が多く検出されている。

カマド

位置 東壁中央やや南寄り

規模 全長1.18m 屋外長0.43m

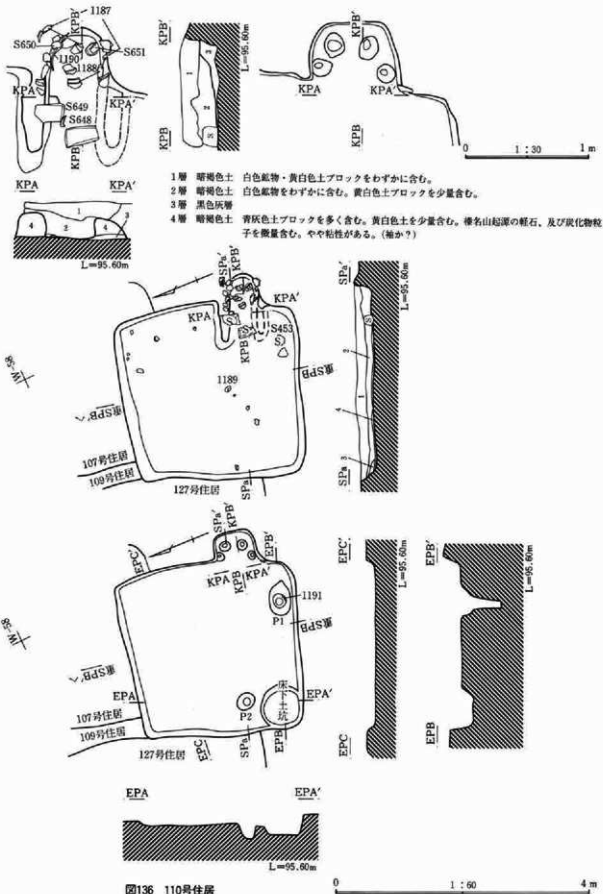
最大幅0.90m 焚き口幅0.42m

遺存状態 カマド左袖は残りが良い。焚き口付近には焼けた石があり、カマド構築に使われたものと考えられる。また住居壁とカマドの袖接合部分内側には自然石2つが各々立石状態で検出された。左袖は残るが、右袖は崩壊しているため、構築した跡が床面に残る。左袖の長さは0.8m、幅0.28m、高さは0.4mである。

遺物出土状態 カマド内や周辺から羽釜の破片(1187・1188・1190)が出土した。

調査所見 下群からの引き続きで重複が激しく、重複群の切れる部分の南端にあたる。重複群の中では住居の形状を良く残している方である。(相京)

第8章 住居の調査



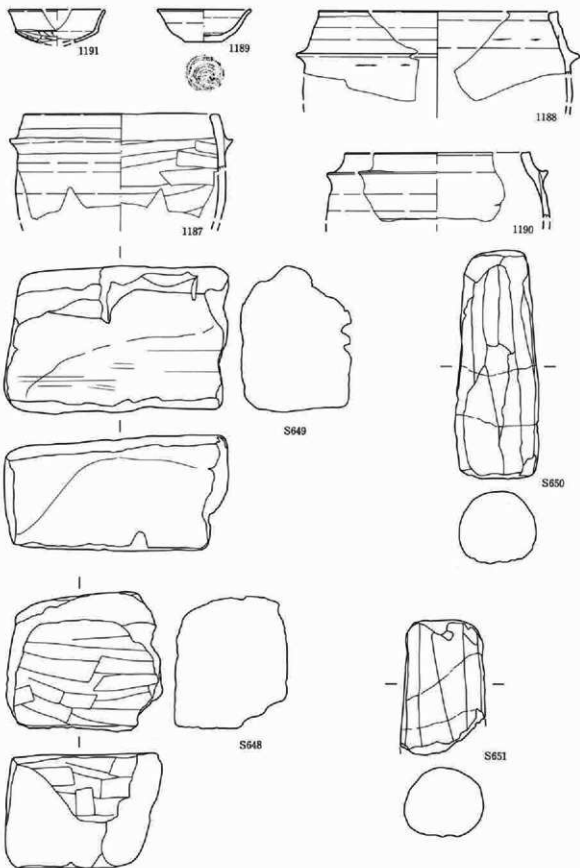


図137 110号住居出土遺物(1)

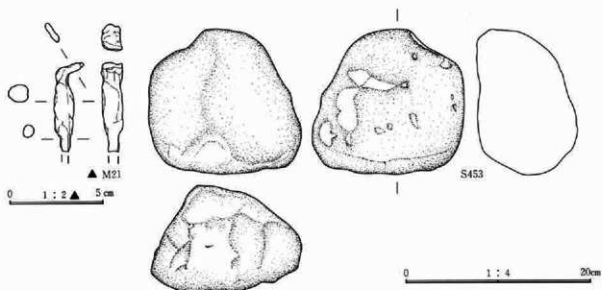


図138 110号住居出土遺物(2)

127号住居 図139-140、PL31-130、表P.26

位置 W-57・58グリッド

規模 縦3.1m 横2.0+ $\alpha$ m 深0.04m

形状 隅丸方形と推定される。

重複 102号・109号・110号住居に先行する。

西壁方位 N-0°-E

埋没土 明褐色土層である。黄白褐色砂質土粒や炭化物粒を含む。

床面 部分的に貼床が施されている。床面はわずかに北側に傾斜するが、ほぼ平坦である。

貯蔵穴 検出されなかった。

周溝 検出されなかった。

柱穴 床面では検出されなかった。

掘り方 床面下は南壁に沿って幅約1m前後で凹凸がある他は、平坦な底面となっている。床下土坑2基とピットが3本検出された。

No	長径	短径	深さ	備考
土坑1	0.95m	0.68m	0.07m	中央やや南
土坑2	0.68+ $\alpha$ m	0.62m	0.05m	中央やや西南
P1	0.22m	0.22m	0.28m	
P2	0.45m	0.3+ $\alpha$ m	0.10m	
P3	0.32m	0.31m	0.04m	

遺物出土状態 遺物は羽釜と須恵器の小破片が各1点と瓦(1264)が1点出土した。瓦は住居北東部の床面から2cm浮いて出土した。

カマド 調査できた範囲の中では検出されなかった。

調査所見 確認面から床面までが浅く、東西を重複住居に切られていることから、遺構の残りは悪い。

(相京)

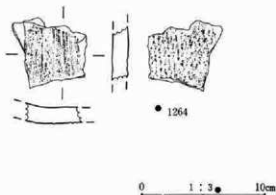


図139 127号住居出土遺物

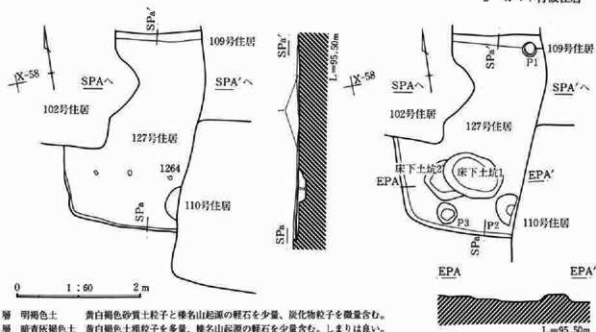


図140 127号住居

## 重複群J

重複群Jは、2A-60・61、2B-61グリッドに展開する。調査時点では121号住居から125号住居と呼称し、記録化した。しかし、記録を整理する段階で、明らかに住居となるものは、121号・124号・125号住居であり、122号・123号住居については不明瞭な状況下での判断を下ろして、結果として住居以外の不明な遺構とせざるを得ないものとした。重複関係は、平面形および土層の観察によったが、上層からの51号溝の掘り込みによってJ群の遺構は切られており、確認は難しかった。また、51号溝の西側は現在の善勝寺堀および現河川になるため遺構確認作業を行うことは不可能であった。

住居としてとり扱った121号・124号・125号住居については、カマドの確認が唯一の資料であり、確定した理由である。J群は遺跡西端に位置し、善勝寺堀や、いくつかの溝により切られ、現在の道路、染谷川等によって破壊の影響を受け、わずかに残存していた。以上のことから122号住居を3号竪穴状遺構、123号住居を4号竪穴状遺構とした。

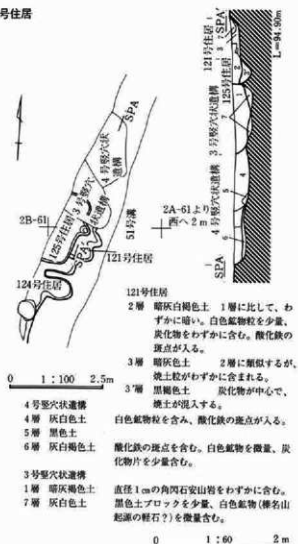


図141 重複群J

第8章 住居の調査

121号住居 図142、PL39-131、表P.26

位置 2A-60・61グリッド

規模 縦0.60+αm 横0.96+αm 深0.12m

形状 隅丸方形

重複 51号溝・125号住居および3号竪穴状遺構に先行し、124号住居に後出する。

主軸方位 N-110°-E

埋没土 灰褐色土系の土砂で埋没している。焼土粒や白色鉱物粒をわずかに含む。

床面 貼床は検出されなかった。

貯蔵穴 調査できた範囲の中では検出されなかった。

周溝 調査できた範囲の中では検出されなかった。

柱穴 調査できた範囲の中では検出されなかった。

掘り方 なし

遺物出土状態 カマド右袖前方に数点出土している。

カマド

位置 東壁南寄り

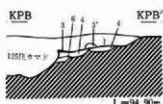
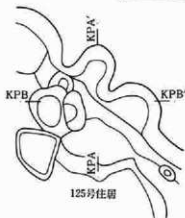
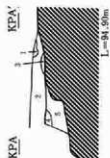
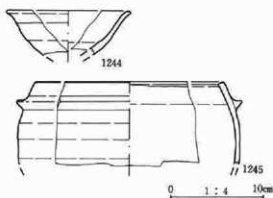
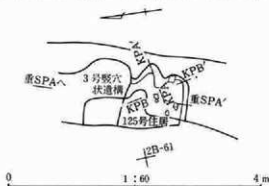
規模 全長0.36m 屋外長0.18m

最大幅0.55+αm 焚き口幅0.35m

遺存状態 確認面の地形が西に傾き、重複が多いため、全体像がつかめない。

遺物出土状態 右袖の着袖部分に須恵器羽釜形土器(1245)と須恵器椀形土器(1244)が埋没土中から出土している。

調査所見 重複関係が複雑であり、カマド周辺のみが残存する。(相京)



- |    |       |                                      |
|----|-------|--------------------------------------|
| 1層 | 暗灰褐色土 | 焼土ブロックを含む。                           |
| 2層 | 暗灰褐色土 | 榛名山起源の軽石を少量、焼土粒子及び灰白土ブロック及び同粒子を微量含む。 |
| 3層 | 黒褐色灰層 | 炭を多量に含む。                             |
| 3層 | 黒褐色土  | 炭と灰を多く含む。3層よりもやや炭の量は少ない。             |
| 4層 | 暗灰褐色土 | 炭化物を少量含む。白色小鉱物を微量含む。粘性がある。           |
| 5層 | 灰白褐色土 | 黒色土ブロック及び同粒子をやや多く含む。酸化鉄理を含む。粘性がある。   |
| 6層 | 灰白褐色土 | 炭化物を少量含む。Hr-FAが混じる。やや砂質である。          |

図142 121号住居と出土遺物

0 1:30 1m



124号住居 図143-144, PL33-34・131, 表P.26・27

位置 2A・2B-61グリッド

規模 縦0.9+ $\alpha$ m 横2.6+ $\alpha$ m 深0.15m

形状 不明

重複 73号溝・125号住居に先行する。

主軸方位 N-110°-E

埋没土 褐色系の土がカマド付近にある。標名山起源の洪水層のブロックや軽石を微量に含む。

床面 カマド焚き口付近であり、焼けた床面が一部確認できた。床面下には掘り方が存在した。

貯蔵穴 南東隅の床面下に検出された、長径0.52m、短径0.5m、深さ0.12mの円形の穴が貯蔵穴になる可能性がある。貯蔵穴内からは須恵器碗形土器(1256)の出土がある。

周溝 調査できた範囲の中では検出されなかった。

柱穴 調査できた範囲の中では検出されなかった。

掘り方 カマド内とその周辺にはP1-P4が掘り方底面で検出された。

柱穴No	長径	短径	深さ	備考
P1	0.18m	0.13m	0.08m	

P2 0.2m 0.16m 0.1m

P3 0.43m 0.3m 0.11m カマド内

P4 0.16m 0.16m 0.07m

他に床下土坑がカマド前方73号溝にかかり検出された。長径0.4+ $\alpha$ m、短径0.45m、深さ0.08mである。遺物出土状態 カマド周辺から多数出土している。

カマド

位置 東壁

規模 全長0.92m 屋外長0.36m

最大幅0.82m 焚き口幅0.64m

遺存状態 全体に残りが悪い。73号溝に西を切られ、東は51号溝が近接し、重複が多いため不明瞭である。遺物出土状態 周辺から出土している。特に左袖付近からの出土が多い。主な遺物は羽釜の破片や杯形土器、碗形土器、甕形土器などがある。

調査所見 本住居は73号溝、121号住居、125号住居と重複関係にあるが、明瞭な形で新旧関係をおさえることができなかった。文中で新旧関係を表現しているところは平面でおさえられた範囲である。

(相京)

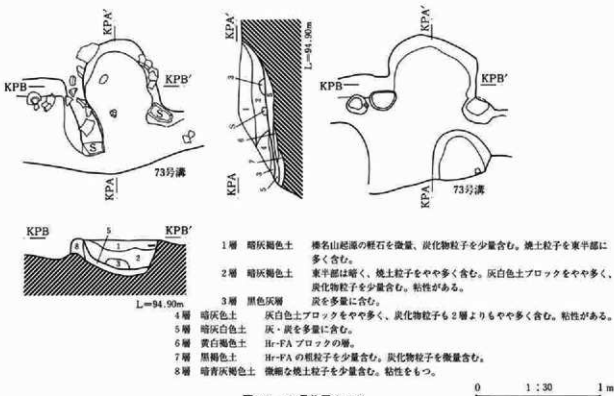
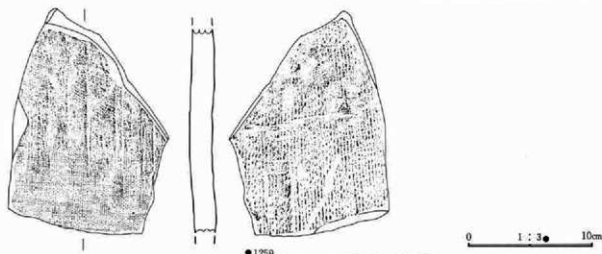
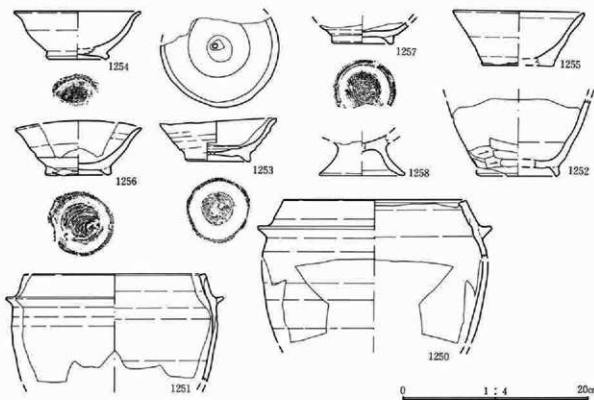
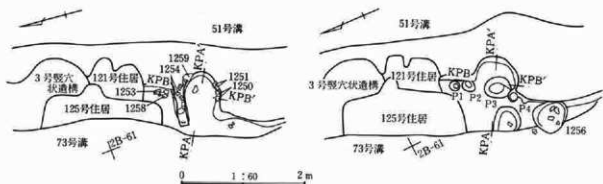


図143 124号住居カマド

第8章 住居の調査



●1259 図144 124号住居と出土遺物

125号住居 図145-146, PL34-35-131, 表P.27

位置 2A・2B-60・61グリッド

規模 縦0.8+ $\alpha$ m 横1.98m 深0.1m

形状 隅丸方形と考えられる。

重複 73号溝に先行する。

主軸方位 N-113°-E

埋没土 カマド付近では褐色系の土の中に角閃石安山岩や炭化物粒をわずかに含む層である。

床面 確認範囲が狭く、不明瞭である。

貯蔵穴 南東隅に長軸0.50m、短軸0.35+ $\alpha$ m、深さ0.07mの隅丸方形を呈する貯蔵穴が検出された。

周溝 調査できた範囲の中では検出されなかった。

柱穴 調査できた範囲の中では検出されなかった。

掘り方 底面は約20cmほど下がって検出された。

遺物出土状態 カマド内から遺物が出土する。

カマド

位置 東壁からわずかに北寄り

規模 全長0.25m 屋外長0.20m

最大幅0.3m 焚き口幅0.3m

遺存状態 カマドの袖部等の構築状況は不明であり、カマドは東方向に約20cm突出する。

遺物出土状態 カマド内出土遺物は瓦片(1263)である。

調査所見 床面等の施設は121号住居との切り合いで不明瞭である。本住居はプラン確認で121号住居よりも新しいと判断した。土層断面図では本住居のカマド掘り方だけが記載されている。カマド前には掘り方で落ち込みがある。(相京)

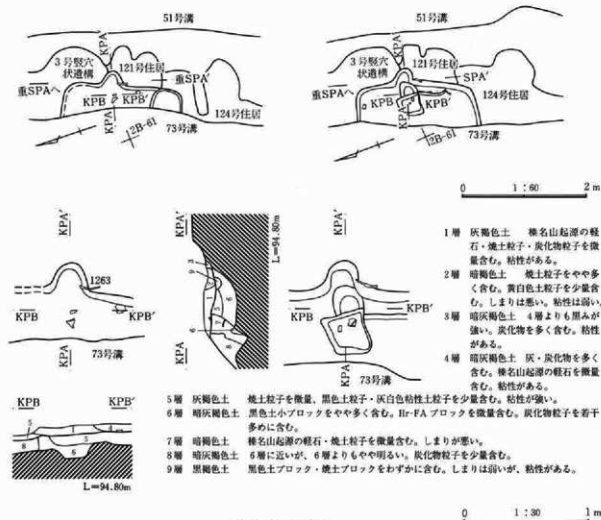


図145 125号住居

第8章 住居の調査

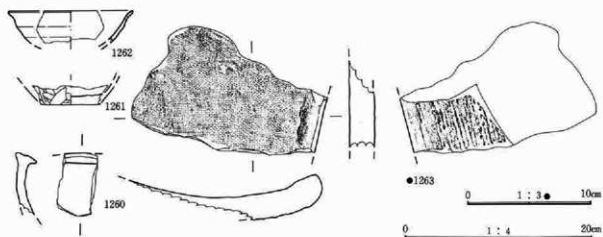


図146 125号住居出土遺物

## (2) 村前地区の重複しない住居

1号住居 図147-150, P135-36・132, 表P.27・28

位置 A・B-1・2グリット

規模 縦3.7m 横3.75m 深0.20m

形状 隅丸方形

重複 なし

主軸方位 N-123°-E

埋没土 粒子の細かい火山灰質の灰褐色土で埋没している。黒褐色粘質土のブロックを多く含むことから、人為的な埋め戻しの可能性もある。

床面 最大厚10cmの貼床をするが、叩き床状の堅固な面はない。

貯蔵穴 南東隅に0.5×0.5m、深さ0.2mの不整形の貯蔵穴が検出された。穴内は灰褐色土が堆積している。

周溝 なし

柱穴 南壁中央部付近より長径26cm、深さ8cmの小ピットが1本確認された。また、掘り方面でも径15cm、深さ9cmほどのピット2本が確認されているが、柱穴かどうかは不明である。

掘り方 南半部を中心として、わずかに掘り込む程度である。

遺物出土状態 カマド周辺を中心として須恵器の杯形土器、高台付碗形土器、土師器の甕形土器、丸瓦、釘、こも編み石などが出土している。737、738、858、

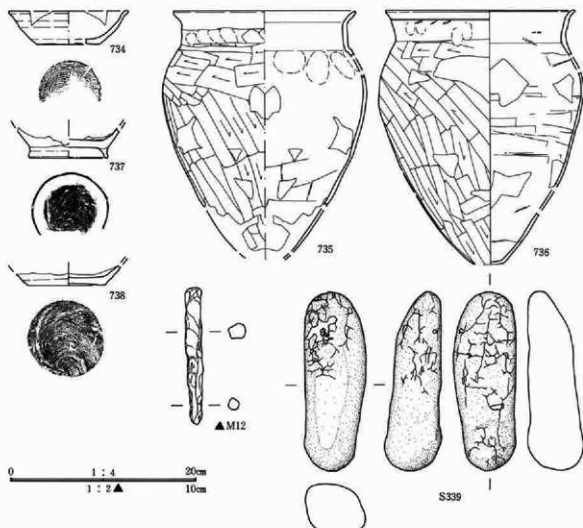


図147 1号住居出土遺物(1)

第8章 住居の調査

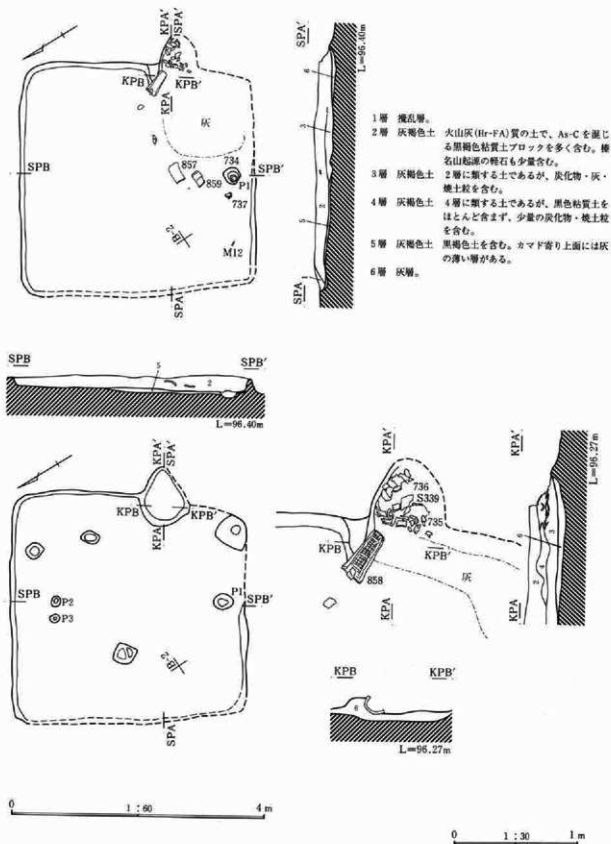


図148 1号住居

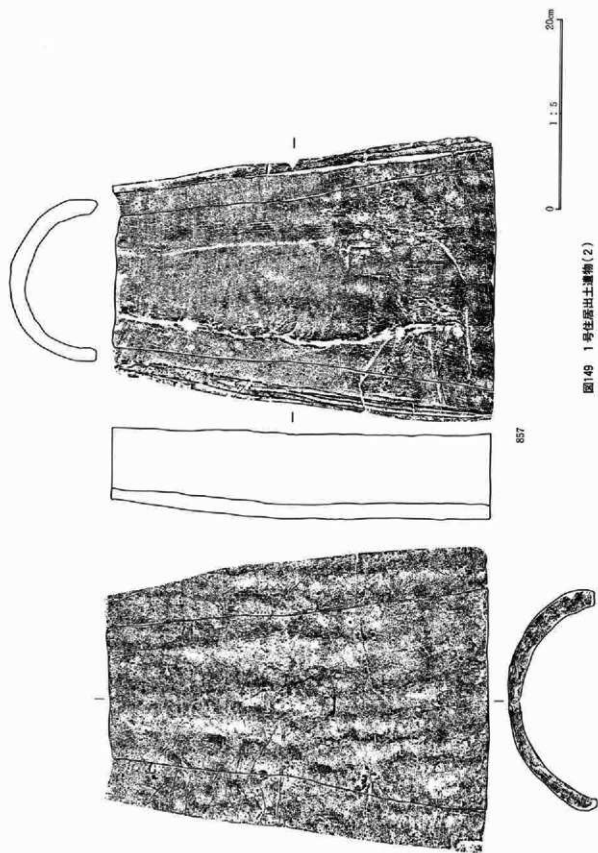


図149 1号住居出土遺物(2)

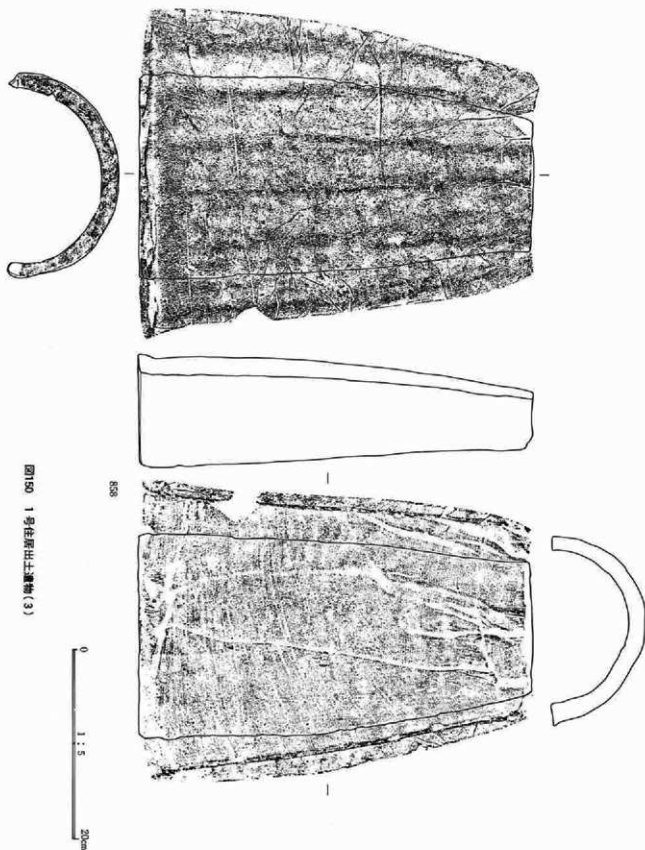


図150 1号住居出土遺物(3)



734等は床面に密着して、他は7cm以上浮いて出土した。丸瓦が2点出土しているが、カマドの左袖部に寄りかかった858の出土状態を考えると、ともにカマドの補強材として転用されたものであろう。

#### カマド

位置 東壁中央よりわずかに南に位置する。

規模 全長0.96m 屋外長0.52m

最大幅0.85m 焚き口幅0.85m

遺存状態 袖部は左袖の一部が残存するのみである。燃烧部は周壁より外側につくり出され、底面には最大厚6cmの灰層が堆積する。また、カマド右側から貯蔵穴にかけて、灰の散布が認められる。

遺物出土状態 燃烧部内より土師器の変形土器2点(735・736)が出土しているが、いずれも破損している。

調査所見 掘り込みの浅い住居となっているが、これは調査の段階で当時の生活面をとらえることができず、最終的な遺構確認面が下がったことも考慮しなければならない。また、試掘調査の段階で住居の平面形をとらえきれなかったため、南隅部を壊している。(石坂)

#### 3号住居 図151-153, PL.37-132-133, 表P.28

位置 K・L-27・28グリッド

規模 縦2.92m 横4.5m 深0.25m

形状 隅丸長方形

重複 なし

主軸方位 N-6°-E

埋没土 住居の立地する地点は河川の影響を強く受けており、住居埋没土は灰青色を帯び、最上層には榛名山起源の軽石を含む。

床面 ほぼ平坦である。貼床は認められなかった。

貯蔵穴 南東隅でカマド右袖に接して検出された。直径約0.6mの円形であるが、底部では楕円形になる。深さ約0.2mである。

周溝 なし

柱穴 柱穴は確認できなかったが、貯蔵穴に接し小穴が2本検出された。

柱穴No	長径	短径	深さ	備考
P 1	0.28m	0.23m	0.1m	
P 2	0.4 m	0.3 m	0.1m	

掘り方 カマド燃烧部の掘り方には灰・炭化物が混入している。

遺物出土状態 遺物は南西部に集中している。出土遺物は床面から3~4cm浮いた状態のものが多い。また、南西壁寄りにも棒状礫が2点並んだ状態で床面に接して検出された。

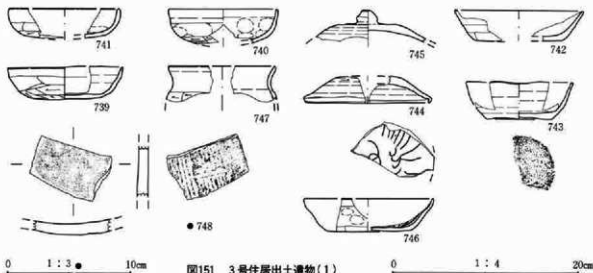


図151 3号住居出土遺物(1)

第8章 住居の調査

カマド

位置 東壁中央よりやや南側

規模 全長0.83m 屋外長0.55m

最大幅0.60m 焚き口幅0.4m

遺存状態 カマドの遺存状態は比較的良好で、両袖が約0.3~0.4m床に張り出して検出された。全面には焼土層が広がる。また掘り方面には壁材・袖材と思われる人頭大の石が検出された。カマド前面の焼

土層下には0.4×0.3m、深さ0.2mの小穴が検出された。

遺物出土状態 出土遺物は比較的少なく、燃焼部中央に構架材の一部と思われる石が検出された。

調査所見 総体的に壁の遺存は良好に検出されているが、遺物は少なく、床面から浮いた状態のものが多い。(友廣)

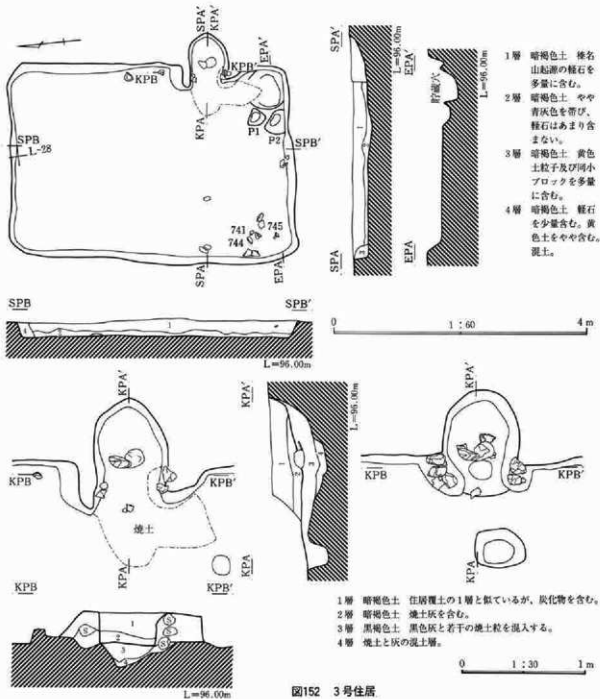


図152 3号住居

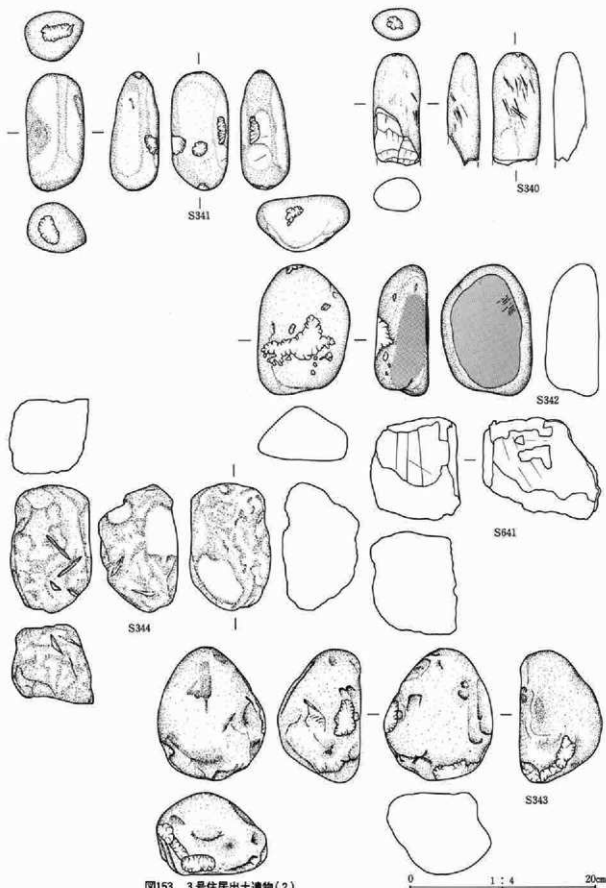


図153 3号住居出土遺物(2)

4号住居 図154-156, PL37-38-133-134, 表P.29

位置 L-30グリッド

規模 縦2.26m 横2.7m 深0.52m

形状 隅丸方形

重複 なし

主軸方位 N-110°-E

埋没土 4層に分かれ、上層は榛名山起源の軽石を多く含むが、下層にいくにつれて少なくなる。黄褐色土ブロックを含み、しまりの強い層(1・3層)と砂質の層(2・4層)が交互堆積している。床面 住居の東北部が深く西側が浅く傾斜している。全体に固く良好である。貼床はない。

貯蔵穴 なし

周溝 なし

柱穴 なし

掘り方 なし

遺物出土状態 埋没土からはカマド周辺および中央やや西側に集中する。床面直上からは須恵器碗形土器(750)、杯形土器(752・753)が出土している。土器の他に砥石(S345)が西壁から、瓦(758)が出土している。その他、本住居の埋没土中から出土した甍形土器破片が、9号・10号住居の出土遺物(10号住居841)と接合する。

カマド

位置 東壁中央より南側

規模 全長0.34+αm 屋外長0.3m

最大幅0.49m 焚き口幅0.21m

遺存状態 カマド東部はトレンチ溝により削平されているが、残存部の状態は良好であった。両袖石が残り、焚き口から奥へ影らむ。袖石が左右対で検出された。

遺物出土状態 使用面直上から土師器甍形土器の口

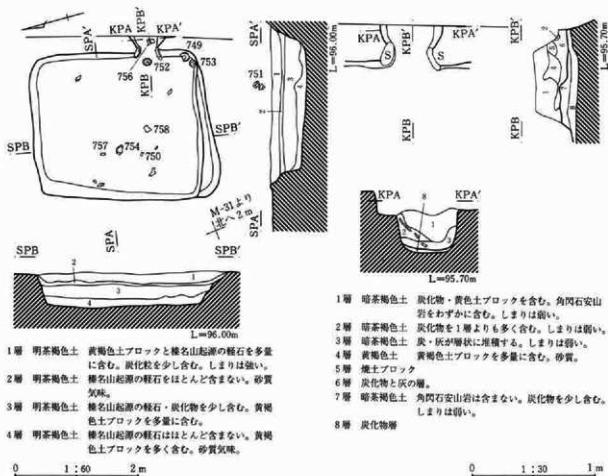


図154 4号住居

2 カマド付設住居

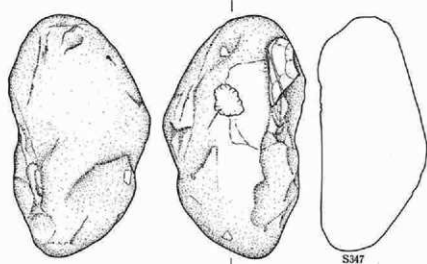
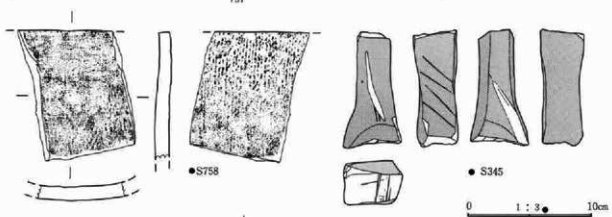
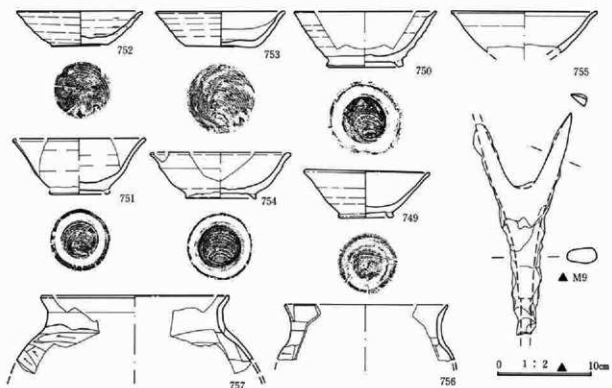


図155 4号住居出土遺物(1)

第8章 住居の調査

縁部が、使用面上8.5cmで同じく口縁部破片が出土した。

調査所見 当初2層下面を床面ととらえ調査を開始したが、後で掘り下がるのが判明し、4層下面が

床面であることが確認された。この誤認は地山がやや軟弱であること、土層の変化が顕著であることなどによるものであったが、本住居の検討は、その後の住居床面検出に役立つものとなった。(小林)

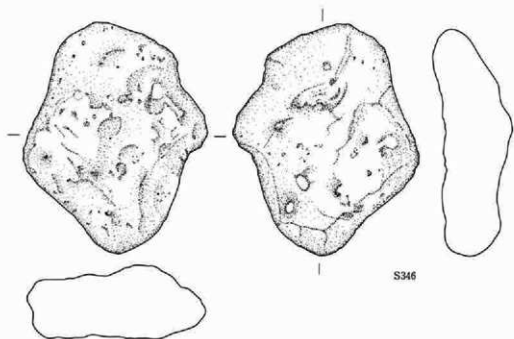
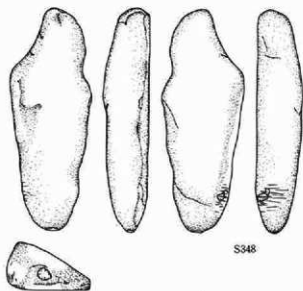


図156 4号住居出土遺物(2)

0 1 : 4 20cm

5号住居 図157-158, PL38-39-134, 表P.30

位置 K-32・33グリッド

規模 縦2.7m 横4.02m 深0.2m

形状 長方形

重複 12号住居と重複し、12号住居を削平して構築されている。

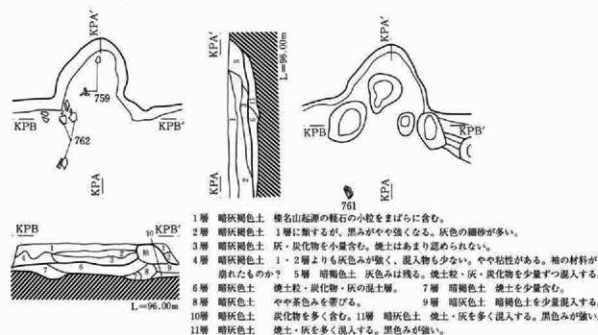
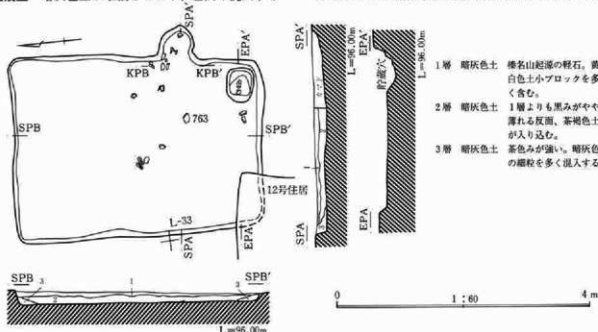
主軸方位 N-93°-E

埋没土 暗灰色土が堆積しており、色調や混入する

土粒の違いにより細分できる。壁際ではやや茶色みを帯びている。その他はやや黒みを帯びている。上層には榛名山起源の小粒の軽石が多く含まれている。

床面 はほぼ平坦である。あまり踏み固められた様子は見られなかった。

貯蔵穴 住居南東隅、カマド右前に0.53×0.43m、深さ0.18mの隅丸方形の貯蔵穴が検出された。貯蔵



- 1層 暗灰褐色土 榛名山起源の軽石の小粒をまばらに含む。
- 2層 暗灰褐色土 1層に類するが、黒みがやや強くなる。灰色の細砂が多い。
- 3層 暗灰褐色土 灰・炭化物を少量含む。焼土はあまり認められない。
- 4層 暗灰褐色土 1・2層よりも灰色みが強く、混入物も少ない。やや粘性がある。焼の材料が崩れたものか？
- 5層 暗褐色土 灰色みは残る。焼土・灰・炭化物を少量ずつ混入する。
- 6層 暗褐色土 焼土粒・炭化物・灰の混土層。
- 7層 暗褐色土 焼土を少量含む。
- 8層 暗褐色土 やや茶色みを帯びる。
- 9層 暗灰色土 暗褐色土を少量混入する。
- 10層 暗灰色土 炭化物を多く含む。11層 暗灰色土 焼土・灰を多く混入する。黒色みが強い。
- 11層 暗灰色土 焼土・灰を多く混入する。黒色みが強い。

\* 3層と6層の間に薄い炭化物の層がある。6層中に6厚さ5mmほどの炭化物の層がある。

図157 5号住居

0 1:30 1m

## 第8章 住居の調査

穴の埋没土は暗灰色土で、住居の埋没土よりも黒色みが強いが混入物は同じである。上層から炭化物の小片が出土したが、確認面ではカマド焚き口前から広がる灰層は貯蔵穴内へは続かずに途切れていた。

周溝 なし

柱穴 なし

掘り方 カマド周辺を除いては、特に顕著でない。

遺物出土状態 カマド内や貯蔵穴内からの出土がある他に、カマド前方の床面直上から須恵器杯形土器(762)が出土している。全体の遺物出土量は少量である。

カマド

位置 東壁中央よりわずかに南側

規模 全長0.6m 屋外長0.48m

最大幅0.75m 焚き口幅0.55m

遺存状態 燃焼部は壁外に0.45mほど突出している。壁面はあまり焼けていない。埋没土中の焼土・炭化物は少量であった。焚き口部には灰層が薄く広

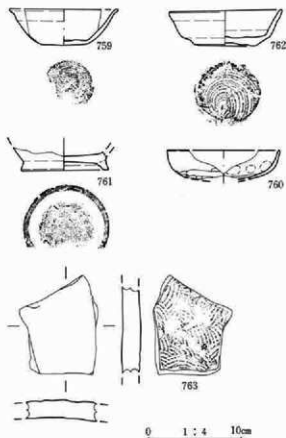


図158 5号住居出土遺物

がっていた。また、この当初の最終使用面と考えた面の下5cmほどのところに炭化物の層があり、この層はカマド構築時に袖あるいは袖石がおかれるべき位置にまで及んでいる。このことから本住居のカマドは使用時に補修が行われたと考えられる。実際、掘り方調査時には、焚き口基部の両側に袖石を据えたと考えられる小ピットと、焚き口内から支脚を据えた痕跡と思われるピットがそれぞれ検出されている。袖は明確に検出できなかった。焚き口部の右前に暗褐色土の混在する粘質土が残存しており、これが袖部を形成していた土粒の可能性もある。同様の土粒が焚き口前にも広がっていた。煙道部は削平されている。

遺物出土状態 最終使用面の直上から須恵器杯形土器(759)が、掘り方調査時に須恵器碗形土器(761)が出土した。

調査所見 後世の耕作等の擾乱により、壁面の残存は良好でない。柱穴の存在については、掘り方精査時に検出に努めたが、確認できなかった。(徳江)

### 6号住居 図159・160、PL29・134・135、表P.30・31

位置 L-26・27グリッド

規模 縦4.0+αm 横2.7m 深0.3m

形状 隅丸方形

重複 8号住居に先行し、7号住居に後出する。

住居東南部の土坑状の落ち込みは住居より古いと考えられる。

主軸方位 N-112°-E

埋没土 全体的には暗灰色土で、その中には鉄分の凝集が見られる。

床面 貼床が施設されている。貼床は厚さ1~2cmと薄く、中央部では硬化面が認められるが、壁際は明瞭ではない。

貯蔵穴 なし 周溝 なし 柱穴 なし

掘り方 住居南東隅、掘り方面のカマド右側には2.0×0.9m、深さ0.15mの長方形の落ち込みが認められた。

遺物出土状態 遺物の出土は床面に散在している。



遺物は床面よりやや浮いた状態で検出された。

カマド

位置 東壁中央

規模 全長1.10m 屋外長0.66m

最大幅0.6m 焚き口幅0.53m

遺存状態 カマドの遺存は良好であり、灰面が前面に広がるが、袖等の施設は明確には認められなかった。カマド内の燃焼部使用面の範囲を確定面として規模を測定したい。

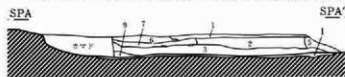
遺物出土状態 燃焼部内に散在している。

調査所見 本住居は南東部で土坑と重複している。

この土坑は長方形を呈し、壁面の傾斜は急である。埋没土は黄色土ブロックを多量に含み、一括埋没されていると考えられる。土坑の底面はほぼ平坦であるが、踏み固められたような痕跡は認められない。本住居との重複部では、遺物は検出されたが、床面は土坑埋没土中には確認できなかった。このため明確な新旧は不明である。しかし、7号住居の南東部分を大きく壊すことから、1号土坑は7号住居以降のものと考えられる。(左廣)



- 1層 暗灰色土 黄褐色土粒・鉄分の集積粒・標名山起源の軽石を多く含む。
- 2層 暗灰色土 1層よりも黒みは薄れ、鉄分も少なくなる。灰色土のブロックが目立つ。標名山起源の軽石は1層と同様の混入状態である。
- 3層 暗灰色土 2層と3層の間に鉄分の薄い層がある。標名山起源の軽石は2層に比して、極端に少なくなる。全体にザラつく。
- 4層 黄灰色土 5層 暗灰色土 黄褐色土の小ブロックを多く混入する。
- 6層 暗灰色土 1・2層よりも黒みが強い。炭化物片を少量混入する。
- 7層 暗灰色土 2層に類するが、灰色土のブロックはなくなる。 8層 (欠番) 9層 暗灰色土 炭化物・灰を少量含む。
- 10層 暗灰色土 標名山起源の軽石をまばらに混入する。鉄分集積粒を多く含む。茶色みを帯びる。



- 11層 暗灰色土 10層に類するが、鉄分の混入はより多くなり、標名山起源の軽石は少なくなる。
- 12層 暗灰色土 鉄分は少なくなり、標名山起源の軽石はほとんどみられない。
- 13層 暗灰色土 11層に近い層。標名山起源の軽石を極わずかに混入する。
- 14層 暗灰色土 灰色みが強い。全体にザラつく。
- 1層 暗灰色土 炭化物を含む。

図159 6号・7号・8号住居

0 1.10m 4m  
1:60

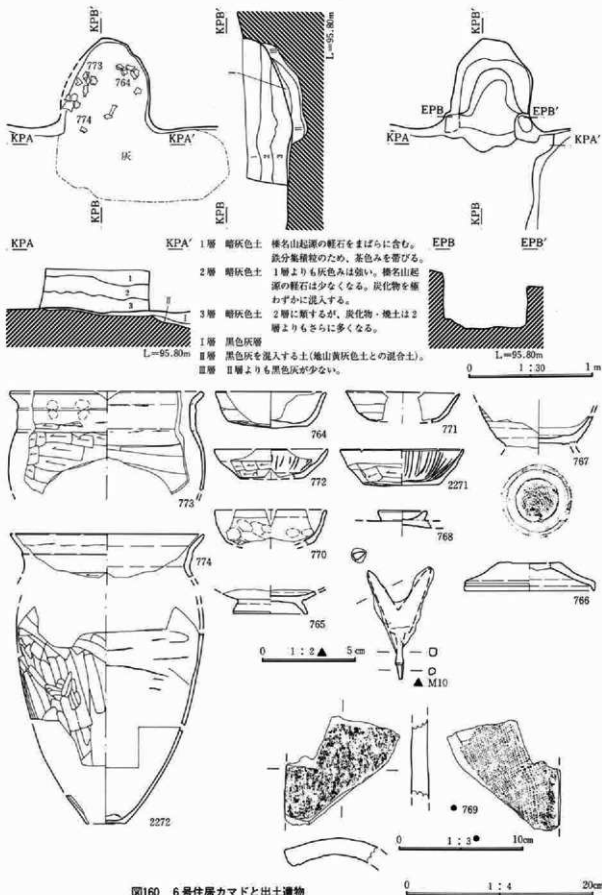


図160 6号住居カマドと出土遺物

## 7号住居 図159-161, PL135, 表P.31

位置 L-26・27グリッド

規模 縦1.9+ $\alpha$ m 横1.9+ $\alpha$ m 深0.45m

形状 隅丸方形 主軸方位 N-26°-E

重複 6号住居に先行する。

埋没土 全体的に暗灰色土に鉄分がみられ、榛名山起源の軽石が混入している。

床面 貼床が施設されているが、中央部の一部のみ認められ、厚さは2~3cmほどである。床面はほぼ平坦である。

掘り方 住居中央に2.4×1.3m、深さ0.1mの落ち込みが認められた。

遺物出土状態 遺物はほとんど床から浮いた状態で出土し、床面直上の出土遺物はなかった。

カマド 検出されなかった。おそらく1号土坑によって切り崩されたものと考えられる。1号土坑底面は7号住居床面より低く、1号土坑内の焼土は7号住居カマドの焼土である可能性が考えられる。

調査所見 本住居の北部は8号住居に、東部は1号土坑により壊されており、調査では西壁・南壁・1号土坑底面の焼土を検出したのみである。(友廣)

## 8号住居 図159-162-164, PL39-40-135-136, 表P.31-32

位置 L-25・26グリッド

規模 縦2.4+ $\alpha$ m 横3.4m 深0.26m

形状 隅丸方形 主軸方位 N-105°-E

重複 6号住居に後出する。

埋没土 暗灰色土に榛名山起源の軽石や青灰色土ブロックを含む。

柱穴 小穴が北壁西寄りと東壁北寄りに2本検出されたが壁面に接している。柱穴か否か明らかでない。

柱穴No 長径 短径 深さ 備考

P 1 0.44m 0.32m 0.10m

P 2 0.40m 0.36m 0.10m

掘り方 住居南東隅の壁沿いに約0.1mの深さの落ち込みが認められた。

遺物出土状態 南壁沿いに数点検出された。

カマド 位置 東壁中央やや南寄り

規模 全長0.6m 屋外長0.5m

最大幅0.6m 焼き口幅0.45m

遺存状態 カマドは燃焼部に石が検出され、石の下燃焼部中央に直径約0.13mの小穴が検出された。深さは0.1mほどで、支脚の痕跡と思われる。

遺物出土状態 カマド燃焼部内から土器の出土は見られないが燃焼部内に人頭大の石が集中して検出された。カマドの構築材と思われる。

調査所見 本住居は6号住居と7号住居に重複している。主軸方向(長軸)の辺が他の住居に比して長いのが特徴的である。特徴的な遺物は国分寺瓦の破片が出土している。

(友廣)

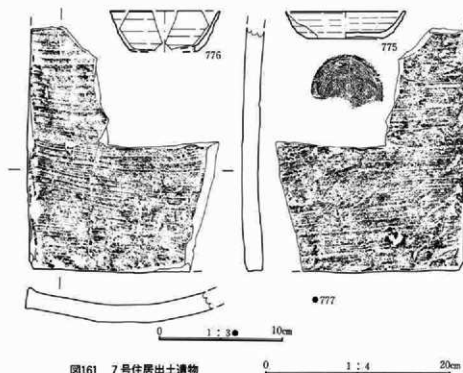


図161 7号住居出土遺物

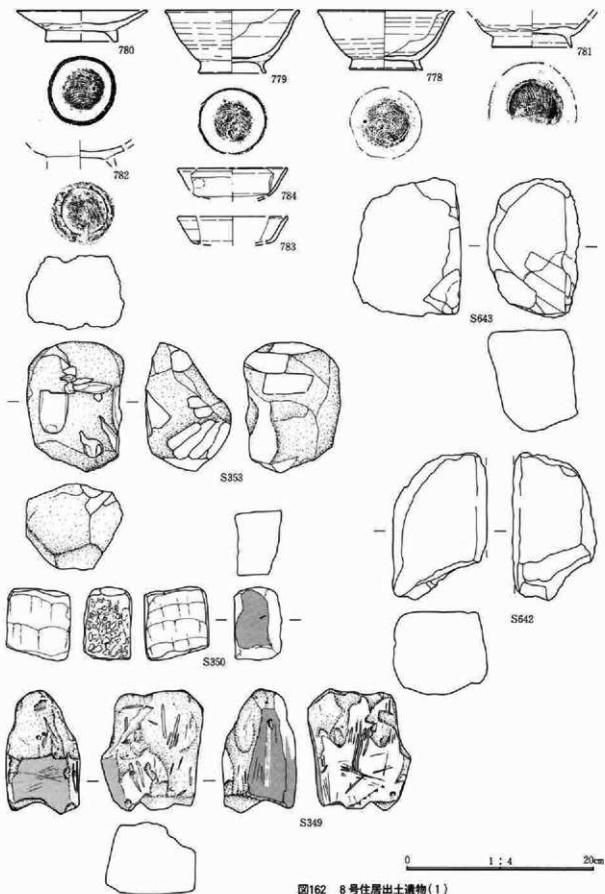


図162 8号住居出土遺物(1)

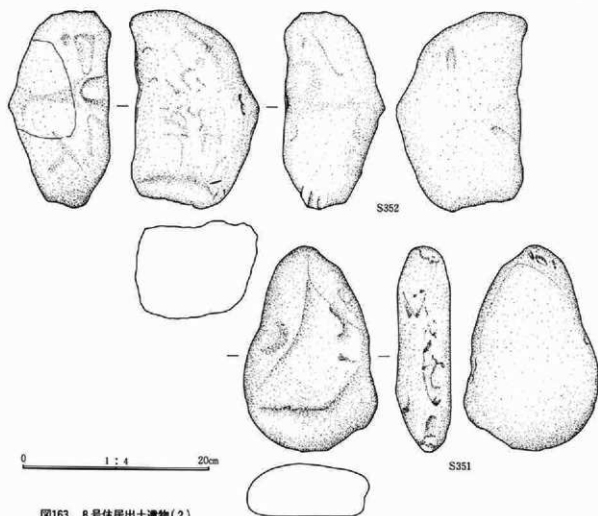


図163 8号住居出土遺物(2)

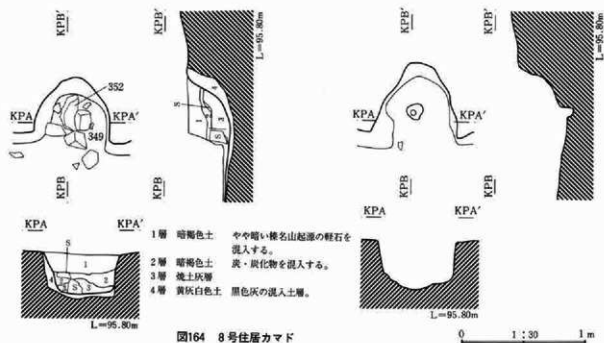


図164 8号住居カマド

9号住居 図165-168, PL40-41-137, 表P.32-33

位置 L・M-27・28グリッド

規模 縦2.9+αm 横3.7m 深0.5m

形状 隅丸方形

重複 30号・34号溝に先行し、26号土坑に後出する。

主軸方位 N-102°-E

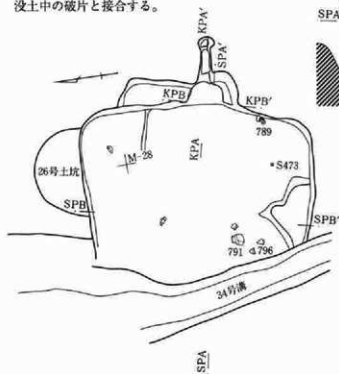
埋没土 埋没土は茶褐色土で、軽石・黄色土ブロック・黒色土ブロック等の多少により7層に分かれ、上層より下層にいくにつれて榛名山起源の軽石の含有量が少なくなる。

床面 中央部が深く壁際が浅く傾斜している。南壁に接してテラス状の高まりが見られる。

貯蔵穴 なし 周溝 なし 柱穴 なし

掘り方 床面をわずかに下げる。中央部が凹む。

遺物出土状態 全面から遺物が出土し、特にカマド内に集中している。床面直上からは須恵器杯形土器(787)、高台付椀形土器(789)が出土している。住居東南部床面7.5cm上から紡錘車(S473)が、埋没土から瓦(797・799)が出土している。787は10号住居埋没土中の破片と接合する。



5層 明茶褐色土 角閃石安山岩粒は4層よりも少ない(ほとんど含まない)。黄色土ブロック・黒色土ブロックも含まない。

6層 明茶褐色土 黄色土ブロックを多量に含む。7層 明茶褐色土 3・4層に比べ、混入物はわずかである。8層 暗褐色土

カマド

位置 東側中央やや南寄り

規模 全長1.40m 屋外長1.1m

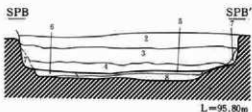
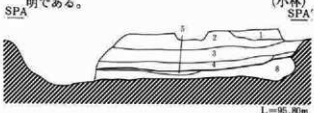
最大幅0.65m 焚き口幅0.55m

遺存状態 住居壁より外側に築かれ、南北に長い長方形の燃焼部に煙道が東に長く伸びている。カマド南側には高まりが見られる。支脚が燃焼部中央やや北よりに、袖石は南側に遺存する。カマド掘り方から推測すると北側にも袖石があったことが窺われる。

遺物出土状態 使用面直上から土師器壺形土器(792・795)が出土し、埋没土からも土師器壺形土器の破片が出土している。

調査所見 他の住居との重複は無いが、西側を30号・34号溝に切られているため、溝に近接する部分は崩れ易くなっていた。カマド南側の高まりは本住居に伴うものと理解しているが、カマド北側の緩やかな傾斜をもつ部分については不明瞭である。南壁に接した高まりは生活面ととらえられるが性格は不明である。

(小林)

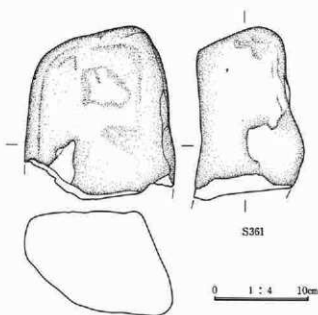
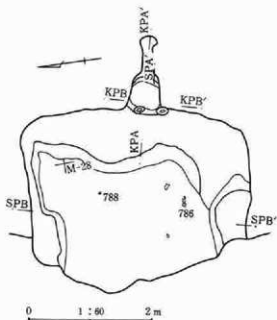


- 1層 暗茶褐色土 角閃石安山岩粒・黄色土ブロックを多く含む。しまりは強い。
- 2層 明茶褐色土 角閃石安山岩粒・黄色土ブロック・炭化物を少し含む。しまりは1層よりも弱い。
- 3層 明茶褐色土 角閃石安山岩粒は2層よりも少ない。黄色土ブロック・黒色土ブロックをやや多く含む。
- 4層 明茶褐色土 角閃石安山岩粒は3層よりも少ない。黄色土ブロック・黒色土ブロックを3層よりも多く含む。粘性は3層よりもある。

図165 9号住居

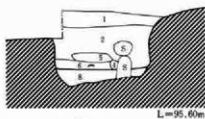
0 1:60 4m

2 カマド付設住居



- 1層 暗茶褐色土 炭化物・黄色土ブロックを多く含む。しまりは弱い。  
 2層 明茶褐色土 角閃石安山岩粒・炭化物を少量、黄色土ブロックを多く含む。しまりは1層よりも強い。  
 3層 明茶褐色土 角閃石安山岩粒・黄色土ブロック等の混入は1・2層よりも少ない。  
 4層 暗茶褐色土 焼土・黄色土ブロックを多く、炭化物は少ない。しまりは2層よりも弱い。

KPB



KPB'

- 5層 明茶褐色土 角閃石安山岩粒をほとんど含まない。黄色土ブロックを多く含む。  
 6層 暗茶褐色土 焼土・炭化物を多く含む。しまりは弱い。  
 7層 焼土小ブロックと炭化物を含む。  
 8層 黑色灰層

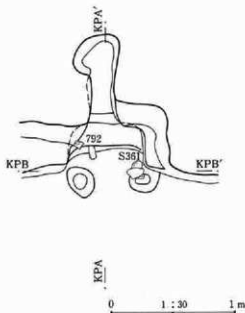
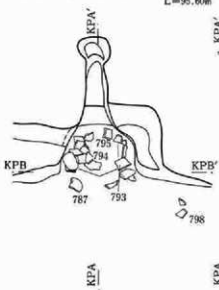
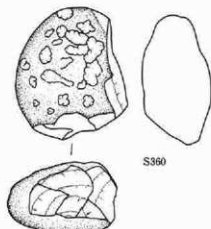


図166 9号住居掘り方・カマドと出土遺物

第8章 住居の調査

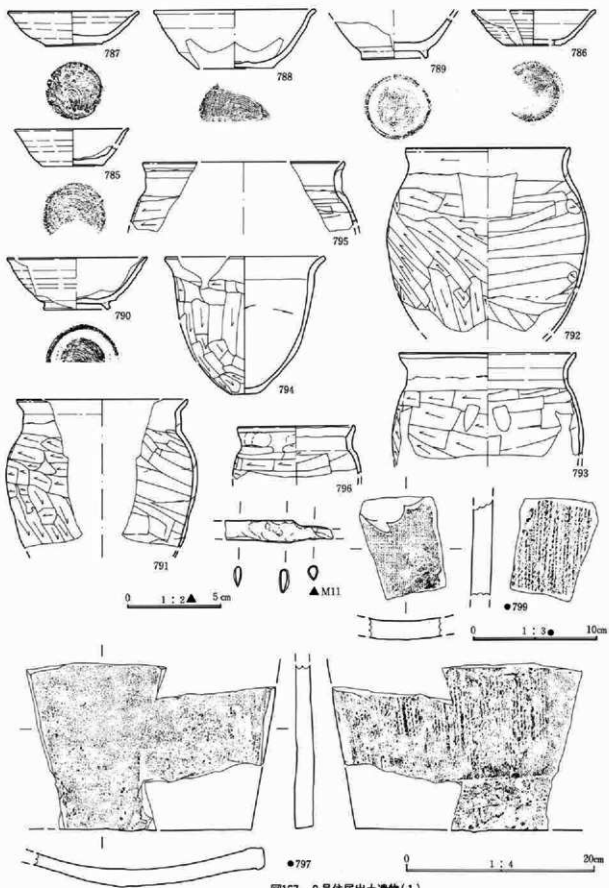


図167 9号住居出土遺物(1)



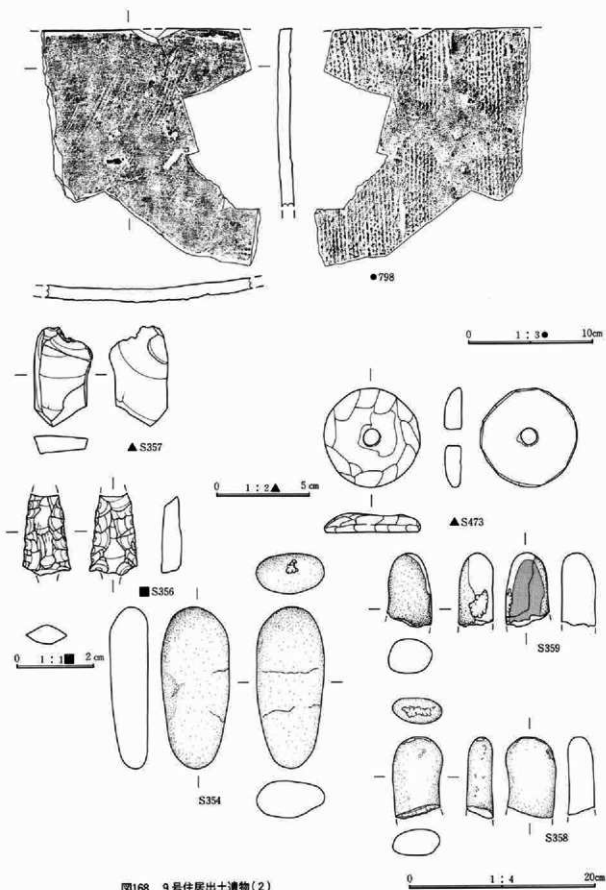


図168 9号住居出土遺物(2)

第8章 住居の調査

10号住居 図169-170, PL41-138, 表P.33

位置 M・N-28グリッド

規模 縦2.8m 横2.95m 深0.35m

形状 隅丸方形

重複 30号溝に先行する。

主軸方位 N-85°-E

埋没土 埋没土は茶褐色土で、鉄分を含む層、黄褐色土粒、黒色土ブロックを含む層など4層に分かれ、

上層から下層にいくにつれて椀名山起源の軽石が少なくなる。

床面 南西部が深く、やや凹凸がある。貼床はない。

貯蔵穴 なし 罅溝 なし 柱穴 なし

遺物出土状態 カマド内を中心に、土師器甕形土器の破片が出土するが、量はそれほど多くない。

カマド

位置 東壁南寄り

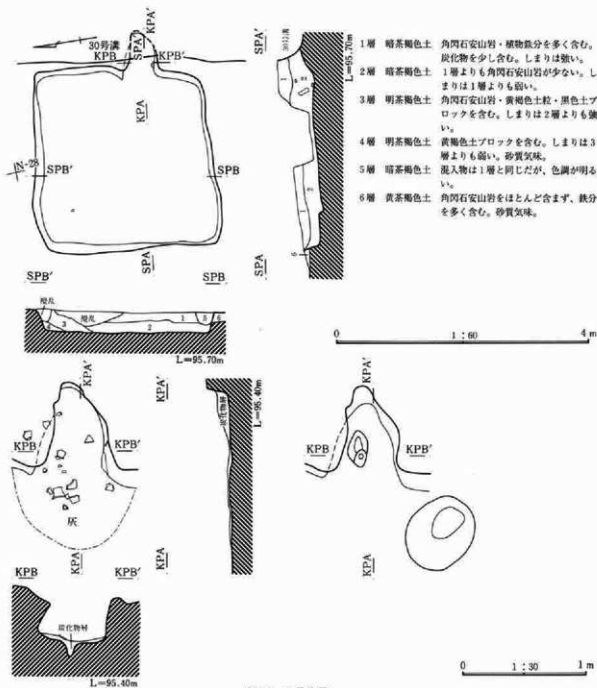


図169 10号住居

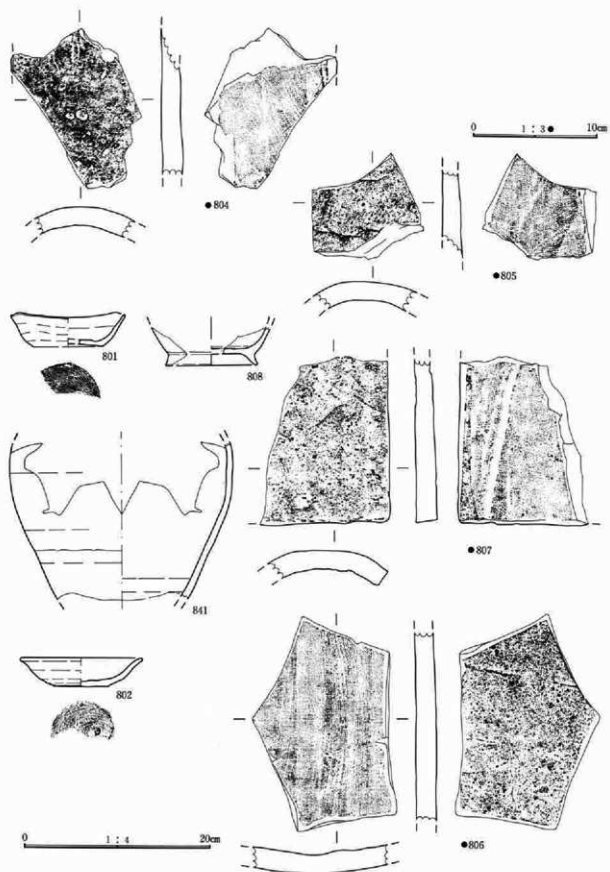


図170 10号住居出土遺物

規模 全長1.32m 屋外長0.7m

最大幅1.5m 焚き口幅0.45m

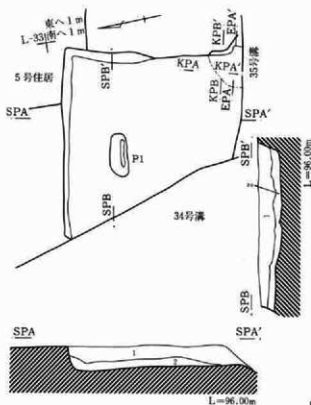
遺存状態 30号溝によって上部を削られていることもあって、全体的に崩れ気味である。住居壁の外側に築かれ、焚き口から中央にかけてやや膨らみ、奥にすぼまっていく。カマド中央やや左寄りに小ピットがあるが、そこに支脚があった可能性がある。

遺物出土状態 カマド使用面直上および埋没土中から土師器壺形土器破片が多数出土した。

調査所見 住居東側カマドは30号溝によって一部削られ、また所々攪乱を受けている住居である。中央から東半分にかけては床面・壁の遺存状態は良好であったが、西半分は埋没土と床面・壁の土の差異が不明瞭であったので、その検出がやや困難であった。その理由としては、河川に近く、傾斜しているため地山が軟弱であることが考えられる。(小林)

12号住居 図171-173, PL41, 表P.34

位置 K・L-33グリッド



規模 縦3.0+αm 横2.85+αm 深0.37m

形状 矩形?

重複 5号住居・35号溝に先行する。34号溝とも重複関係にあるが、前後関係は確認できなかった。溝よりも後出か。

主軸方位 N-101°-E

埋没土 暗灰色土が堆積していた。炭化物の混入はほとんど認められない。灰色味の度合・軽石の混入量の相違から二層に細分できる。

床面 カマドの前がやや踏み固められていたが、他はほとんど軟らかい。特に貼床は施されていない。

貯蔵穴 なし

周溝 なし

柱穴 北半部に長楕円形のP1を検出したが、柱穴であるかどうかは不明である。

柱穴No	長径	短径	深さ	備考
P1	0.68m	0.28m	0.12m	

掘り方 なし

遺物出土状態 少量の小破片が出土したのみである。円筒埴輪(814・813)は同様の遺物が34号溝から出土している。

カマド

位置 東壁

規模 全長1.05+αm 屋外長0.45+αm

最大幅0.52+αm 焚き口幅0.49+αm

遺存状態 燃焼部の左側の一部が残存していたが、その他は35号溝の掘削により欠失していた。煙道部

- 1層 暗灰色土 暗褐色土と灰白色土の小ブロックの混土层。棒名山起源の小軽石をまばらに含む。
  - 2層 暗灰色土 1層に繋がるが、灰色味が薄れ、軽石の混入量も少なくなる。
- 1・2層ともに炭化物等の混入はほとんどない。

0 1:60 4m

図171 12号住居

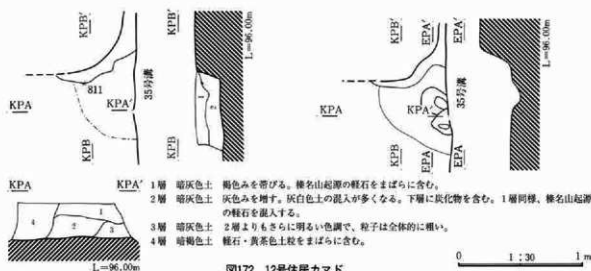


図172 12号住居カマド

も削平されていると考えられる。壁面はほとんど焼けていない。埋没土中の焼土や炭化物の混入は極めて少量である。焚き口前には炭化物混じりの灰層が広がり、これに少量の焼土粒が含入していた。袖は確認できなかった。

遺物出土状態 埋没土中から土師器杯形土器(810・811)が出土したがともに破片である。

調査所見 他の遺構との重複により全体形状の把握は困難であるが、5号住居同様南北方向に長軸を有する矩形を呈していたと考えられる。(徳江)

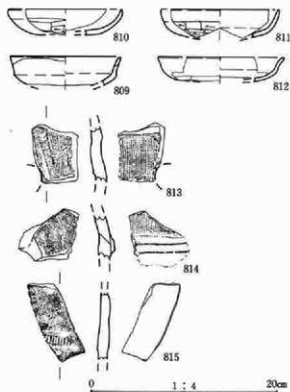


図173 12号住居出土遺物

## 13号住居 図174-175, PL41-42-138, 表P.34-35

位置 J-26・27グリッド

規模 縦1.55+ $\sigma$ m 横3.80+ $\sigma$ m 深0.25m

形状 隅丸方形?

重複 36号溝、28号井戸、22号土坑により削平される。

主軸方位 N-100°-E

埋没土 暗褐色土が堆積していた。残存が浅く、分層できない。

床面 カマド前は固く踏み締められていた。その他の部分は起伏も大きく、その残存が判然としない所もある。

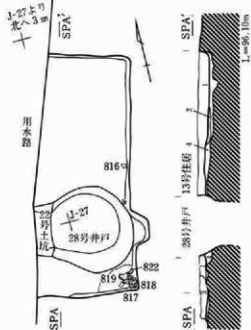
貯蔵穴 なし

周溝 なし

柱穴 なし

掘り方 部分的に床面の高さと比較して6-10cm程掘り込まれた部分もあるが、特に土坑状の掘り方等を確認することは無かった。埋没土は床面上の埋没

第8章 住居の調査



- 1層 暗褐色土 白色軽石・灰白色土粒を多く含む。白色みを帯びる(住居跡埋没土)。
- 2層 暗褐色土 1層よりも黒みが強い。軽石は少ない(住居跡の覆り方履土)。
- 3層 暗褐色土 溝の埋没土。1層よりも軽石が目立ち、全体にザラついた感じがする。
- 4層 暗褐色土 茶色みのある土粒を多く含む。炭化物を少量混入する。

図174 13号住居

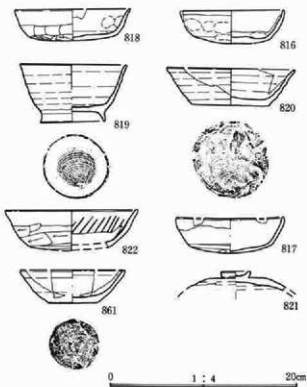


図175 13号住居出土遺物

土よりも黒味の強い土層と茶味をおびた土層の二層である。

遺物出土状態 南東隅の床面直上から土師器杯形土器(818)が、またこれに近接して土師器杯形土器(816・817・822)と須恵器椀形土器(819)が床面から2cm前後離れて出土している。その他に埋没土中からは須恵器杯形土器(820・861)の出土がある。

カマド  
位置 東壁南寄り  
規模 全長0.29m 屋外長0.20m  
最大幅0.50m 焚き口幅0.52m

遺存状態 削平が著しく、燃焼部の焚き口よりの一部分が残っていたのみである。袖部分の有無も判然としませんが、焚き口左脇にあった小竈は袖石の一部の可能性もある。住居の南東隅の土器出土部分には炭化物の層が広がっていた。

調査所見 西側部分は近年の用水路掘削時に削平されて残存しなかったが、南北方向に長軸を有する長方形を呈していたと考えられる。(徳江)

14号住居 図176-178, PL43-45-138-139, 表P. 35-36

位置 M・N-29グリッド  
規模 縦3.2m 横3.32m 深0.6m  
形状 方形  
重複 37号溝に先行する。  
主軸方位 N-121°-E  
埋没土 暗褐色土で、砂質気味の層と、粘性のある層などで3層に分かれ、上層から下層にいくにしたがって榛名山起源の軽石が少なくなる。  
床面 東側が浅く、西側がやや深い。貼床はない。  
貯蔵穴 カマド南西部に0.53×0.45mの楕円形を呈し、深さ15~20cmほどの貯蔵穴が検出された。上部から大量の土器が出土している。  
周溝 なし  
柱穴 なし  
掘り方 なし

遺物出土状態 南西隅周辺に集中して出土している。床面直上では須恵器杯形土器(825)、椀形土器

(827)、土師器台付寛形土器(831)などがある。埋没土中からは完形の須恵器杯形土器2点(823・824)をはじめ、馬歯・蔽石(S362)が出土している。

#### カマド

位置 南東部

規模 全長0.48m 屋外長0.34m

最大幅0.5+ $\alpha$ m 焚き口幅0.28+ $\alpha$ m

遺存状態 トレンチにより北側を削られているが、両袖の位置から形状を推定することができる。支脚を中心にして焚き口から中膨らみをし、奥はそれほどすばまらずに広がる平面形を呈すると思われる。

遺物出土状態 出土遺物は少なく、カマド内からは土師器寛形土器の破片が出土したのみである。

調査所見 地山と埋没土との差異が不明瞭な場所なので、サブトレンチを入れてから平面形の検出に当たった。結果として本住居の検出ができたが、カマドおよび住居中央部を壊すことにもなった。本住居は河川に向かう傾斜地にあり、また溝もあるため西側は調査途中にも崩落し、迅速な調査が必要であった。なお、本住居および10号住居の周辺に焼土・土器の分布が見られたが、それに伴う遺構は確認できなかった。(小林)

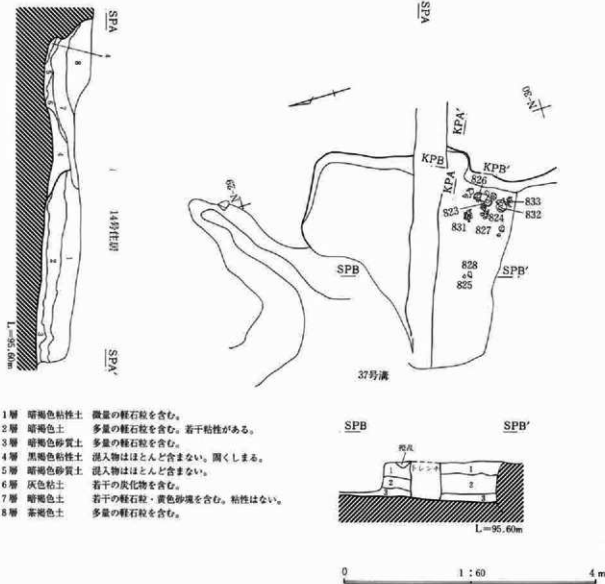


図176 14号住居

第8章 住居の調査

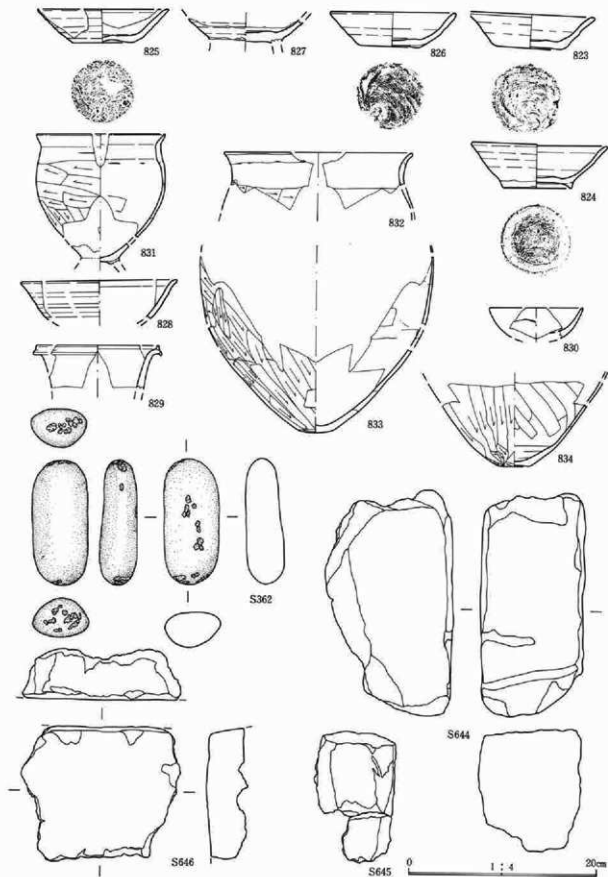


図177 14号住居出土遺物



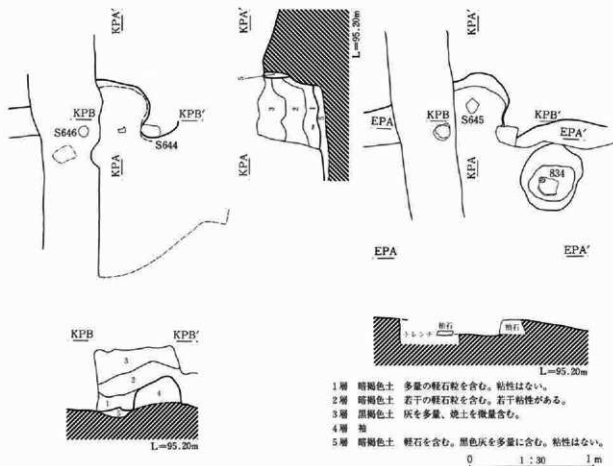


図178 14号住居カマド

15号住居 図179-180, PL43-139, 表P.36

位置 Q-48・49グリッド

規模 縦2.5m 横3.48m 深0.4m

形状 隅丸長方形

重複 なし

主軸方位 N-118°-E

埋没土 やや黄色を帯びる褐色土中に榛名山起源の軽石と浅間Bテフラを含む。

床面 貼床は認められない。床面はほぼ平坦で、中央部はやや高くなり、固い面が認められる。

貯蔵穴 なし

周溝 なし

柱穴 なし

掘り方 掘り方は床面から非常に浅く、カマド前面に床下土坑が検出された。形状は楕円形を呈し、規模は0.65×0.5m、深さ0.3mである。褐色土により埋没している。

遺物出土状態 遺物の出土はほとんどみられないが、床面北部中央、床面直上で緑釉陶器の皿形土器(839)が検出された。また南半中央部からは須恵器碗形土器(838)が床面から6.4cm浮いた状態で出土している。

カマド

位置 東壁中央やや北寄り

規模 全長0.64m 屋外長0.30m

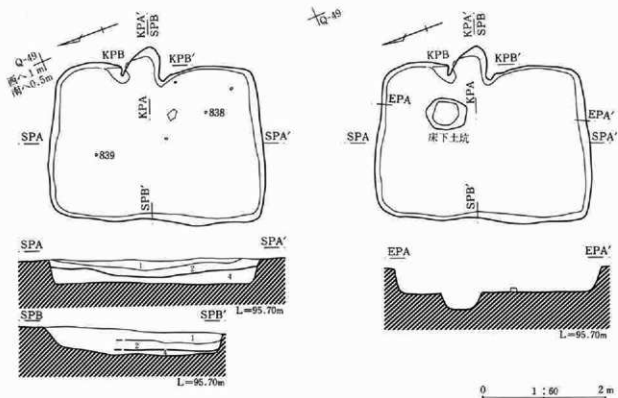
最大幅0.48m 焚き口幅0.4m

遺存状態 左右の軸は地山を掘り残した状態で認められる。燃焼部には焼土を含む層が認められたが、カマド前面には焼土の広がりは認められない。また左軸近くで人頭大の石が検出され、構築材の一部と考えられる。

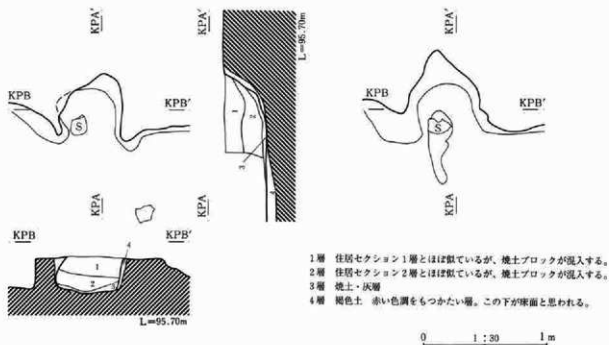
遺物出土状態 カマド埋没土中からは、土師器甕形土器破片と土鍾(840)が検出された。

調査所見 出土遺物から平安時代の住居と考えられ

第8章 住居の調査



- 1層 黄灰褐色土 埴名山起源の小軽石を多く混入する。  
 2層 黄灰褐色土 下面には黒色土ブロックが混入する。やや1層よりも黄色の度合いが強い。  
 4層 褐色土 やや赤みを帯びる。



- 1層 住居セクション1層とは似ているが、焼土ブロックが混入する。  
 2層 住居セクション2層とは似ているが、焼土ブロックが混入する。  
 3層 焼土・灰層  
 4層 褐色土 赤い色調をもつた1層。この下が床面と思われる。

図179 15号住居

る。

(友廣)

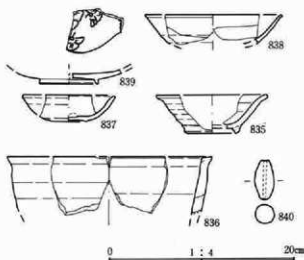


図180 15号住居出土遺物

16号住居 図181-182, PL43-139, 表P.36-37

位置 Q・R-49・50グリッド

規模 縦2.93m 横3.6m 深2.2m。

形状 隅丸方形

重複 57号溝に後出する。

主軸方位 N-106°-E

埋没土 暗褐色土に榛名山起源の軽石と浅間Bテフラを含む。

床面 貼床が施されている。カマド前面を中心に、中央部で厚さ数cmで認められた。

貯蔵穴 南東隅に0.9×0.77m、深さ0.2mの楕円形の貯蔵穴が検出された。この貯蔵穴は住居南壁面を約20cmほど張り出している。

周溝 なし

柱穴 なし

掘り方 床面より数cm-20cm掘り込む掘り方が検出された。掘り方埋没土は褐色土で、黒色土・黄色土ブロックを含む。

遺物出土状態 遺物は数点検出された。須恵器杯形土器(842)は床面に近く、高台付椀形土器(843)は5-6cm床から浮いている。

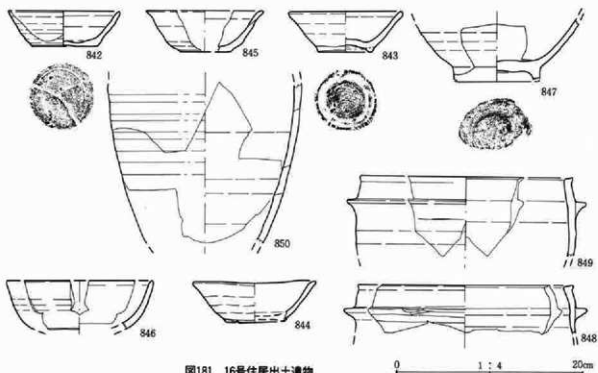


図181 16号住居出土遺物

第8章 住居の調査

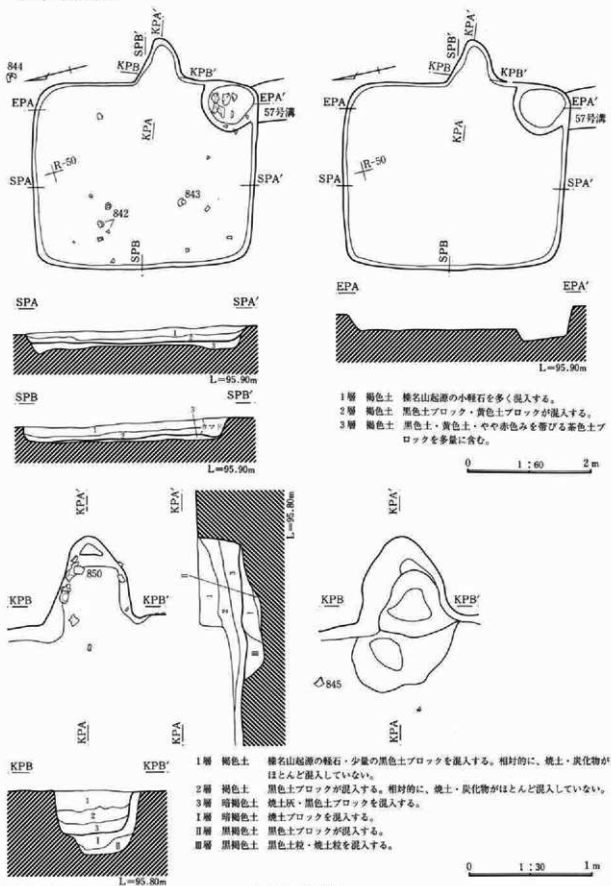


図182 16号住居

## カマド

位置 東壁中央

規模 全長0.9m 屋外長0.7m

最大幅0.82m 焚き口幅0.54m

遺存状態 カマド使用面には焼土・灰が検出されたが、混入はわずかである。煙道部につながると思われる燃焼部先端に段をもつ。掘り方埋没土は暗褐色土に焼土・灰のブロックを含む。

遺物出土状態 カマド燃焼部左壁際に土器片がまともに出土した。須恵器羽釜の破片が多い。

調査所見 本住居はカマド構築等の石材は出土していない。また、袖も検出されなかった。(友廣)

17号住居 図183-184, PL43-139, 表P.37

位置 R-51グリッド

規模 縦2.3m 横3.42m 深0.25m

形状 隅丸方形

重複 56号・61号溝に後出する。

主軸方位 N-105°-E

埋没土 黄褐色土に榛名山起源の軽石、浅間Bテフ

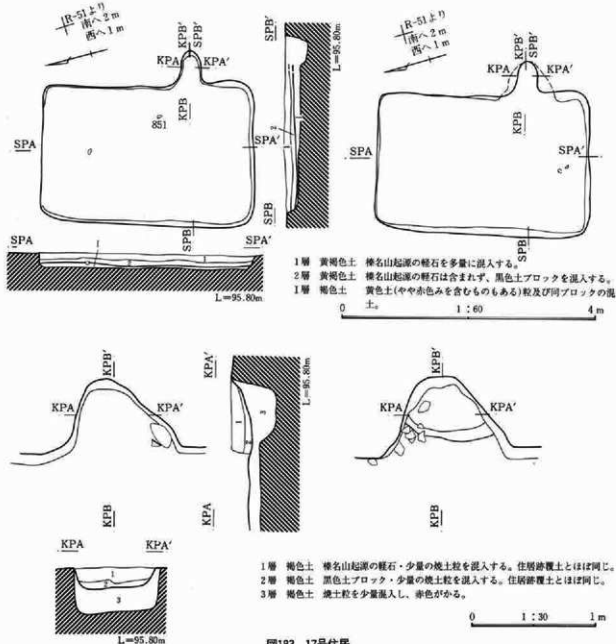


図183 17号住居

## 第8章 住居の調査

ラを含む。

**床面** 貼床が作られている。全体的によく踏み固められている。

**貯蔵穴** なし

**周溝** なし

**柱穴** なし

**掘り方** 床面から2cm、全体に掘り込まれている。掘り方面には土坑、落ち込み等は検出されていない。

**遺物出土状態** 住居内の遺物の検出は少ない。

**カマド**

**位置** 東壁やや南寄り。

**規模** 全長0.6m 屋外長0.5m

最大幅0.9m 焚き口幅0.8m

**遺存状態** カマドの形状は、燃烧部の幅が広く、長さはやや短い。袖は検出されなかった。燃烧部は床面よりもやや深く掘られている。

**遺物出土状態** カマド掘り方左壁より須恵器羽釜(852)が出土している。

**調査所見** 本住居のカマドはやや幅広で、袖は検出されていない。カマド使用面には焼土・灰の層は少量しか検出されていない。カマドの構築材も認められない。(友廣)

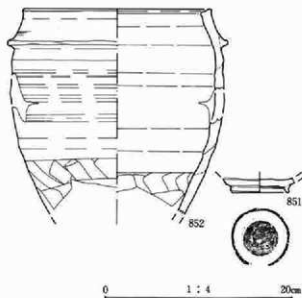


図184 17号住居出土遺物

**18号住居** 図185・186, PL44・139・140, 表P.37

**位置** T・U-52グリッド

**規模** 縦2.3+αm 横3.9+αm 深0.2m

**形状** 隅丸方形?

**重複** 45号溝に先行する。

**主軸方位** N-113°-E

**埋没土** 軽石粒を含む。

**床面** なし

**貯蔵穴** なし

**周溝** なし

**柱穴** 掘り方調査時にカマド左前に円形の小ビットが検出されたが、柱穴かどうかは確定的でない。

**柱穴No** 長径 短径 深さ 備考

P1 0.33m 0.23m 0.08m

**掘り方** 掘り方面には特に土坑・落ち込み等は検出されなかった。カマド左前に小穴が検出された。

**遺物出土状態** 遺物の出土はあまり多くない。住居中央部、床面直上で円筒埴輪が出土している。

**カマド**

**位置** 東壁中央やや南寄り

**規模** 全長1.5m 屋外長1.45m

最大幅0.9m 焚き口幅0.75m

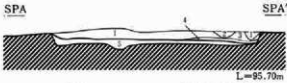
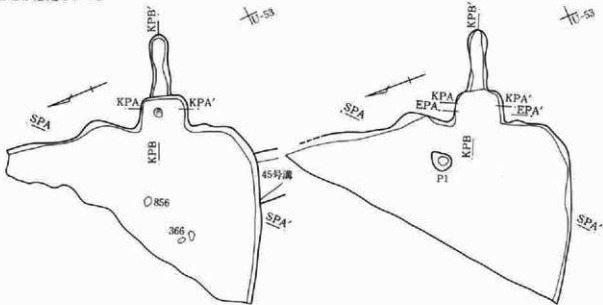
**遺存状態** カマドの遺存状態は良好で、左右袖部を検出した。左側袖部には構築材と思われる石(S365)が認められる。カマド使用面は横長方形を呈し、中央に支脚石が出土した。また、約20cmの段差をもち、奥に幅30cm、長さ90cmの煙道部が確認された。使用面からは焼土・灰が多量に認められた。

**遺物出土状態** カマド内から出土した遺物はほとんどないが、燃烧部中央から支脚と考えられる石(S364)が出土した。

**調査所見** 本住居南西半部は調査区外に伸び、一般道により壊されている。西壁にカマドを持ち、煙道が長く伸びる。床面から円筒埴輪が検出されたが、遺跡周辺では古墳の分布は希薄であり、古墳の所在も不明である。本遺跡南方にある新保遺跡でも多量の埴輪をまとめて捨てた状態で検出されている。これらのことから、本遺跡周辺にかつて古墳があった

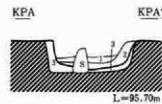
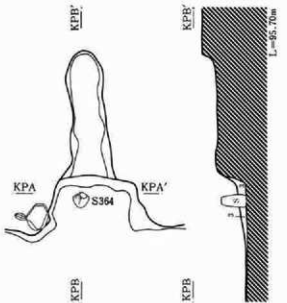
ことが想定される。

(友廣)



- 1層 暗褐色土 軽石粒を多量、焼土粒を若干含む。粘性はないが、堅軟である。
- 2層 暗褐色土 混入物はない。粘性がなく、もろい。
- 3層 暗褐色土 軽石粒・焼土粒を微量含む。灰色の粘土塊を含む。粘性はない。
- 4層 暗褐色土 混入物はない。粘性が若干ある。
- 5層 掘り方床面下。

0 1 : 60 4 m



- 1層 暗褐色土 焼土灰が混入する。
- 2層 暗褐色土 焼土粒・灰を多量に含む。粘性がなく、もろい。
- 3層 掘り方床面下。

図185 18号住居

0 1 : 30 1 m

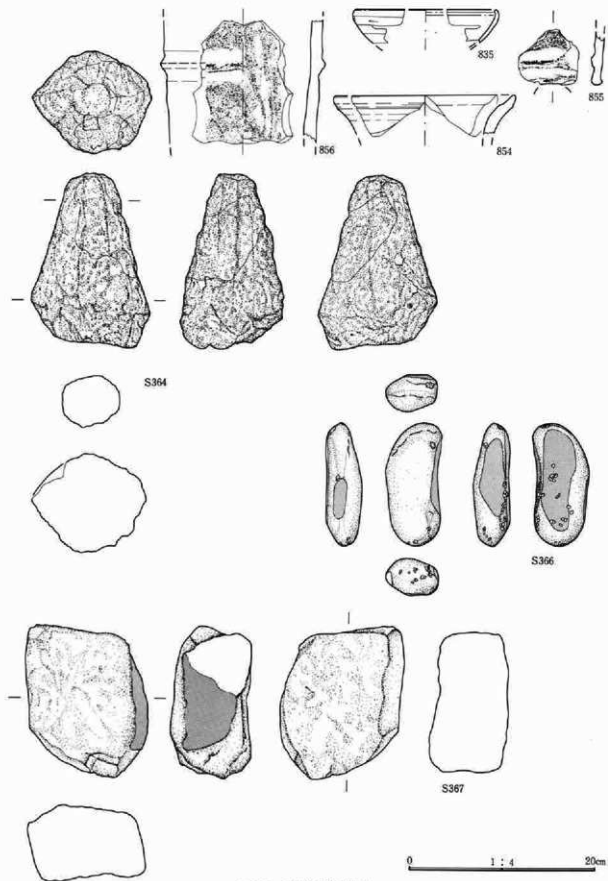


図186 18号住居出土遺物



21号住居 図187-190, PL44-45-141, 表P. 38-39

位置 U・V-53グリッド

規模 縦3.18m 横2.97m 深0.15m

形状 隅丸方形を呈すると推定されるが、住居北西隅部分は現水路の影響を受けて一部が崩壊している。

重複 43号溝に先行する。

主軸方位 N-103°-E

埋没土 暗褐色土に榛名山起源の軽石を含む。

床面 貼床あり

貯蔵穴 なし

周溝 なし

柱穴 なし

掘り方 床面から全体的に12cm掘り込まれている。

掘り方面には土坑・落ち込みは認められない。掘り方埋没土は暗褐色土に軽石を含む。

遺物出土状態 遺物の出土は多数認められ、西北部には土師器壺形土器(863)、甕形土器(864)、甕形

土器(862)、杯形土器(865-874)がまとまって床面直上から出土した。特に865-869の5個体の杯形土器は重なった状態で出土した。また、南西部にはいわゆるこも編み石8個(S371-378)が床面直上から検出された。これらの石の小口には敲打痕があるものがあり、多用途の石器であったと考えられる。

カマド

位置 東壁中央

規模 全長1.83m 屋外長1.18m

最大幅0.50m 焚き口幅0.30m

遺存状態 カマドの遺存は良好で煙道部も認められる。煙道部は幅30cm、長さ約1.2mで、燃焼部との間に約15cmの段がある。左右の袖は地山を掘り残してつくられている。

遺物出土状態 カマド内からはほとんど遺物は出土していない。燃焼部からはカマド支脚と考えられる石(S368)が出土している。

調査所見 本住居は壁高約10cmが確認された。確認

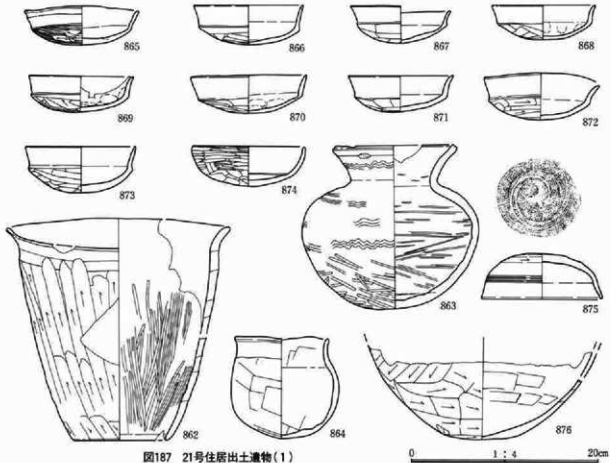


図187 21号住居出土遺物(1)

第8章 住居の調査

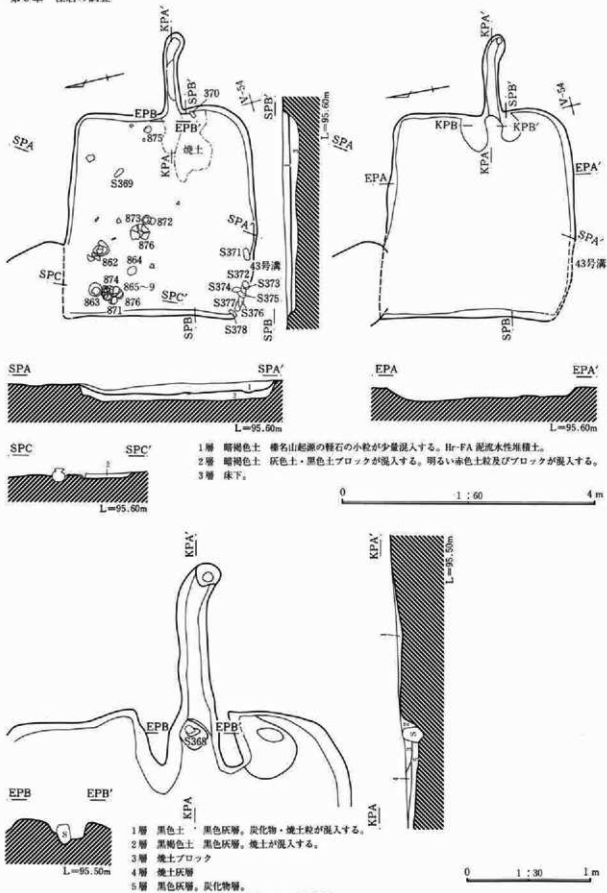


図188 21号住居

面の埋設土上部には水性堆積と考えられる榛名山起源の軽石層があり、その時期は榛名山のテフラであ

るFAの時期、古墳時代後期のものと考えられる。

(友廣)

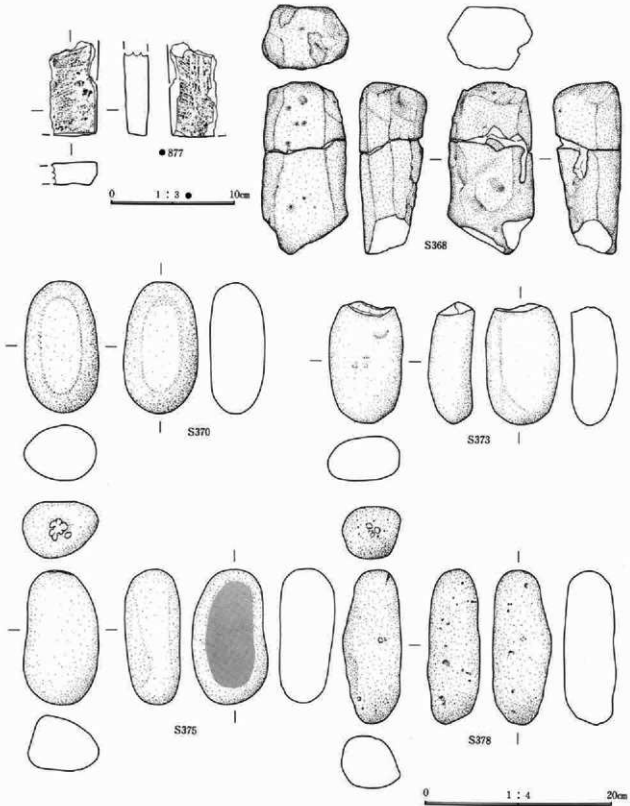


図189 21号住居出土遺物(2)

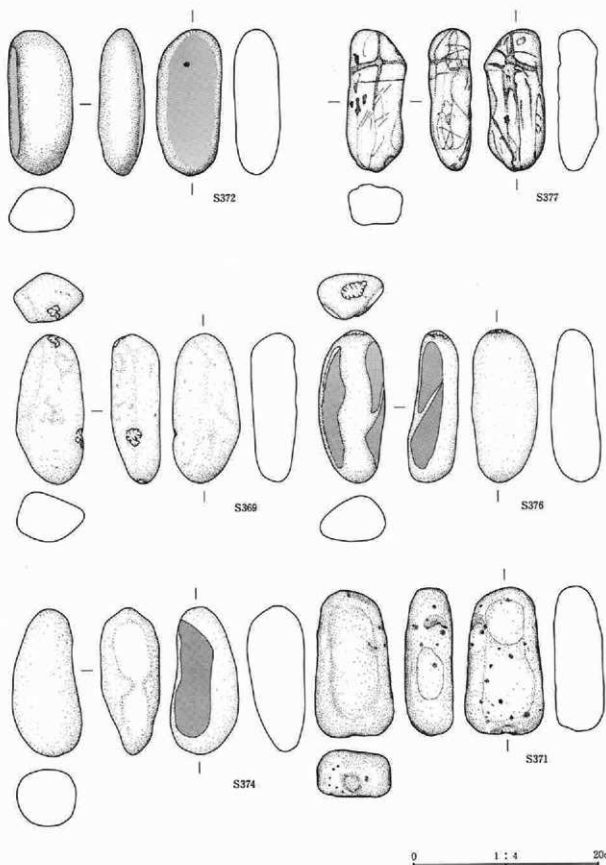


図190 21号住居出土遺物(3)

23号住居 図191-193, PL46-141-142, 表P.39-40

位置 V-58・59グリッド

規模 縦3.21m 横3.85m 深0.26m

形状 隅丸長方形

重複 なし

主軸方位 N-110°-E

埋没土 上層は白色軽石を多く含むやや砂質の褐色土で埋まっている。この土層は固くしまっていた。下層は焼土粒・炭化物粒と軽石を含む黒褐色粘質土で埋まっている。

床面 2~5cmの厚さで、住居全体に固く硬化した貼床がつくられていた。特に南半部の硬化が著しい。貯蔵穴 南東隅に長軸0.83m、短軸0.80m、深さ0.43mの隅丸方形の貯蔵穴が検出された。平面形は床面ではあまり明瞭でなかったが、掘り方調査時に確認することができた。

周溝 検出されなかった。

柱穴 検出されなかった。

掘り方 掘り方調査時に、カマド右側に貯蔵穴を検出したほか、カマド前と南西隅に床下土坑2基を検出した。床下土坑P1は長軸0.8m、短軸0.72m、

深さ0.12mの不整形で、黄色砂質土・焼土・炭化物粒を含む暗褐色土で埋まっていた。床下土坑P2は長軸0.82m、短軸0.60m、深さ0.15mの隅丸方形であった。

遺物出土状態 カマド周辺や住居南半を中心にして土器・石器が出土している。土師器杯形土器(878・880・885・897)はほぼ床面直上で出土した。また、大形の砥石(S379)が南半は中央の床面に据えられるように出土した。数点の石が住居内の床面近くに出土したが、ほとんど使用痕がみられず、石器とは考えにくい。

カマド

位置 東壁中央よりやや南寄り

規模 全長1.24m 屋外長0.97m

最大幅0.68m 焚き口幅0.37m

遺存状態 袖は検出されているが、左袖がやや住居内に突出している。カマド掘り方底面には直径20cm、深さ12cmと、直径10cm、深さ11cmの小ピットが掘り込まれている。袖は地山に土が貼り付けられたもので、わずかに左袖が残存していた。本住居のカマドは黒褐色土を掘り込んでつくられており、燃焼部壁

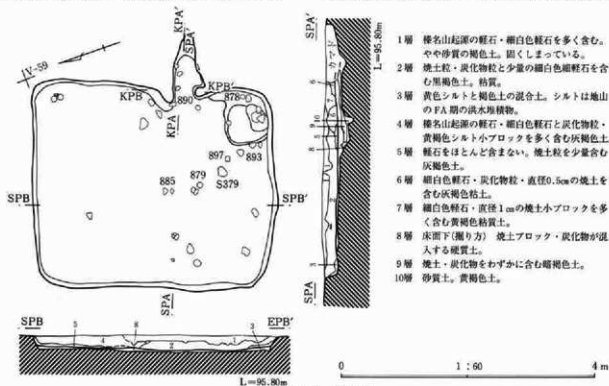


図191 23号住居

面などはあまり焼けた痕跡はみられない。

遺物出土状態 左袖前には須恵器甕形土器 (890) が袖を覆うように出土した。焼焼部使用面直上には須恵器甕形土器・羽釜形土器 (889+888・892) が、埋没土中から須恵器羽釜形土器 (893・894) が出土している。また、掘り方内からは土師器甕形土器・

杯形土器、須恵器羽釜形土器などの破片が多数出土している。

調査所見 柱穴は、掘り方底面でも検出できなかった。カマド掘り方面中央の小ピットは支脚痕と考えられるが、支脚自体は抜きとられて遺存していなかった。(小島)

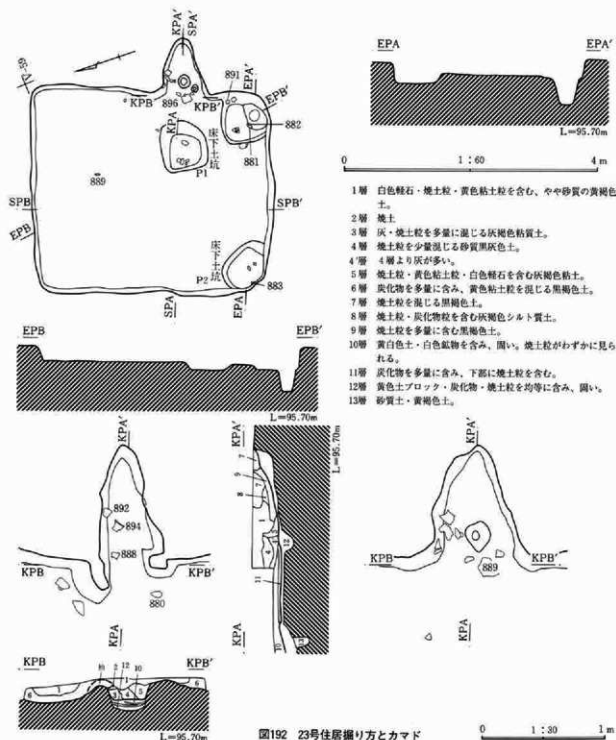


図192 23号住居掘り方とカマド

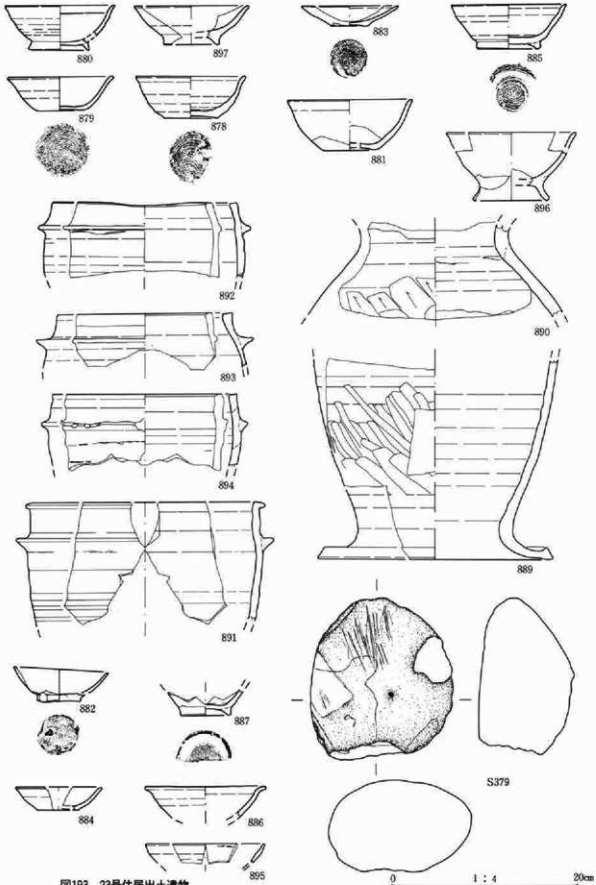


図193 23号住居出土遺物

26号住居 図194-195、PL47-142、表P.41

位置 U・V-56グリッド

規模 縦2.42m 横2.95m 深0.24m

形状 隅丸方形。南東隅に幅0.7m、長さ0.48mの隅丸方形の張り出し部がある。

重複 北東隅に55号土坑が重複するが、新旧関係は明らかでない。

主軸方位 N-87°-E

埋没土 上層は白色軽石・少量の焼土粒・灰色粘土小ブロックを含む灰褐色粘質土で、下層は軽石を含む灰褐色粘土で埋まっていた。床面上に榛名山起源の軽石と多量の焼土粒を含む褐色土が堆積している部分もあった。

床面 貼床がつくられている。

貯蔵穴 前述した張り出し部に長径0.42m、短径0.41m、深さ0.2mの不整形円形を呈する貯蔵穴と考えられるピットが検出された。出土遺物はない。

周溝 なし。

柱穴 掘り方面で、西壁から50cmほど中に入ったところで中央や北よりのところに小ピットが検出された。柱穴との確定はできない。

柱穴No	長径	短径	深さ	備考
P1	0.25m	0.20m	0.18m	

掘り方 床面から10cmほど下まで掘り込まれてい

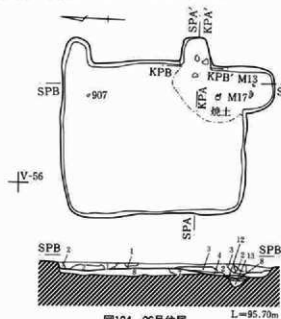


図194 26号住居

る。掘り方は黄白色土ブロックを含む暗褐色土で埋められていた。掘り方底面では前述のP1の他、2基の床下土坑が検出されている。北側の床下土坑1は長径0.76m、短径0.61m、深さ0.11mで楕円形を呈する。南側の床下土坑2は長径0.80m、短径0.41m、深さ0.20mで不整形円形を呈し、焼土・黄白色土ブロックを含む暗黄褐色土で埋まっていた。

遺物出土状態 出土遺物は少なく、カマドと張り出し部に偏っていた。北東部で床面直上で須恵器高台付椀形土器の底部(907)が出土している。また、埋没土中から埴輪破片(909)、瓦破片(908)が出土した。カマド

位置 東壁南寄り

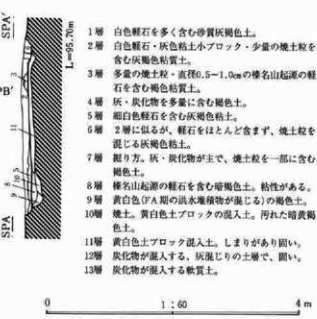
規模 全長0.51m 屋外長0.41m

最大幅0.52m 焚き口幅0.40m

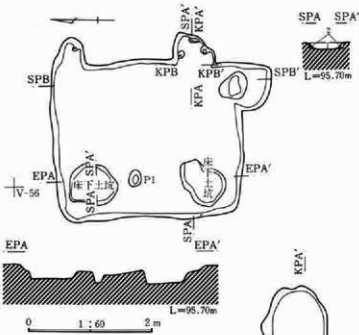
遺存状態 あまり顕著に焼けていない。使用面の灰層も確認できなかった。掘り方面には小ピットが3ヶ所検出されたが、構築材を想定させる位置ではない。

遺物出土状態 焚き口部で土師器・須恵器の破片が出土。

調査所見 確認面が2層上面であったので、埋没土と地山が類似しており、壁や床面の検出に手間取った。(小島)







- 1層 直径3cmの黄白色土ブロックを含む暗褐色土。  
2層 地山。掘り過ぎ。

- 1層 焼土・炭化粒を含む灰褐色土層。  
2層 床面の下。焼土・炭化粒を含む固い土層。

0 1 : 30 1m

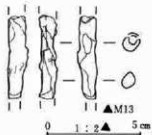
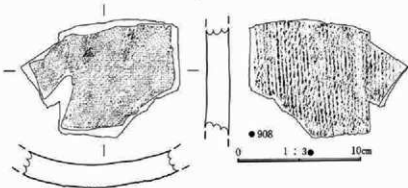
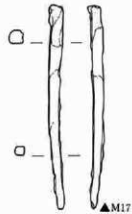
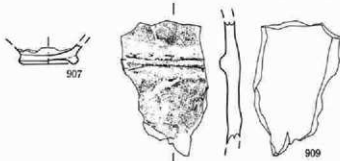
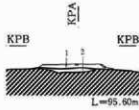
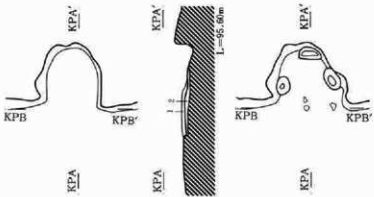


図195 26号住居掘り方・カマドと出土遺物

0 1 : 4 20cm

32号住居 国196-199, PL47-48-142, 表P.41

位置 O・P-49・50グリッド

規模 縦4.78+ $\alpha$ m 横4.60+ $\alpha$ m 深0.15m

形状 隅丸方形

重複 72号溝に先行し、33号・35号住居に後出する。

主軸方位 N-10°-W

埋没土 確認できた壁高は浅く、埋没土もほとんど一層である。大部分は青灰褐色砂・軽石を含む暗褐色土で、一部では青灰色砂質土が床面を覆っている。床面 3cmの厚さで掘り方を充填し、床面をつくっていた。

貯蔵穴 検出されなかった。

周溝 幅5~10cm、深さ10~20cmの周溝が、調査区外の東壁を除いて、検出された。

柱穴 9本の柱穴を検出した。

柱穴No	長径	短径	深さ	備考
P 1	0.40m	0.40m	0.41m	
P 2	0.32m	0.20m	0.27m	
P 3	0.32m	0.30m	0.33m	
P 4	0.22m	0.22m	0.24m	
P 5	0.22m	0.18m	0.34m	
P 6	0.25m	0.22m	0.34m	
P 7	0.31m	0.30m	0.18m	

掘り方 床面下5cmのところ掘り方面を検出した。掘り方は灰褐色砂壤土・茶褐色土粒・黄色シルト質泥土層で埋まっていた。掘り方底面は凹凸が激しく、床面で検出できなかった小ピットを検出した。南部はやや深く掘り込まれている。

遺物出土状態 遺物の出土はあまり多くない。床面から数cm浮いた状態で土師器杯形土器(926)、甕形土器(924)が出土している。また中央部底面直上で安山岩の蔽石(S381)が出土している。

カマド

位置 北壁中央

規模 全長0.95+ $\alpha$ m 屋外長0.15+ $\alpha$ m

最大幅0.92+ $\alpha$ m 焚き口幅1.10m

遺存状態 燃焼部の左右には、砂岩製の袖石が立てられている。燃焼面はあまり焼けていない。燃焼部奥の遺存状態はあまり良好でなく、形態もほとんど把握できなかった。

遺物出土状態 左脇で土師器甕形土器破片が出土している。

調査所見 本住居は、確認面から浅く、遺存状態はあまり良くない。4本主柱穴の住居と考えられるが、東側の2本は、床面でも掘り方底面でも検出できなかった。(小島)

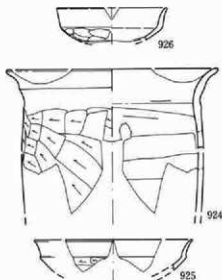
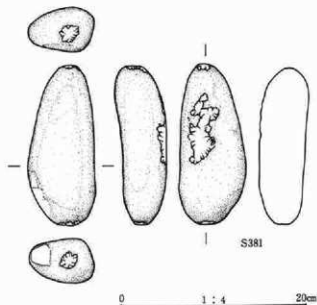
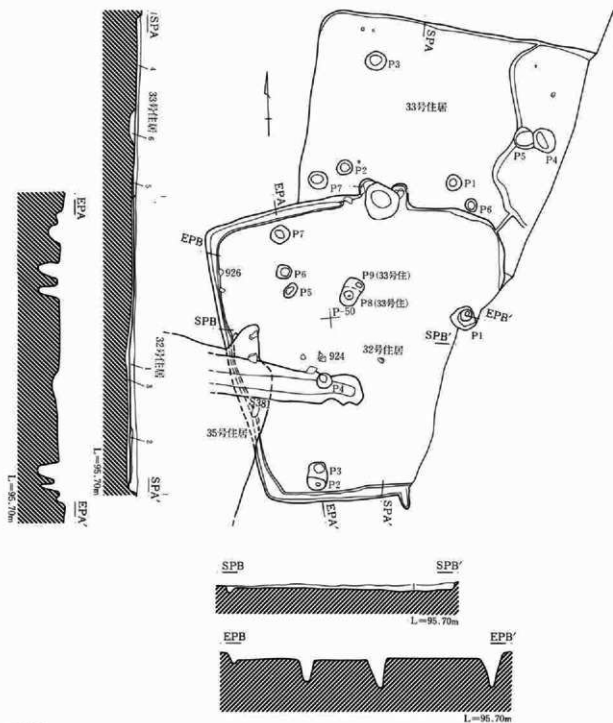


図196 32号住居出土遺物





## 32号住居

- 1層 暗褐色土 青灰色砂を少量含む。軽石(礫名山起源の軽石?)を極少量含む。しまりはやや良く、粘性がある。
- 2層 黄色みを帯びる青灰色砂質土層。黄白褐色土ブロックを含む。礫名山起源の軽石をやや多く含む。しまりは非常に良い。
- 3層 掘り方壇設土。灰褐色砂壤土・茶褐色土粒・黄色シルト質土粒の混土。

## 33号住居

- 4層 暗褐色土 直径1-2cmの黒色土ブロックを少量含む。直径1-2cmの白褐色土ブロックを多量に含む。直径1mm前後の白色軽石を少量含む。粘性がある。
- 5層 掘り方壇設土。黄色土粒を含む灰褐色土。
- 6層 直径5-8cmの黄白色砂壤土ブロック・直径1-2cmの黒色粘土小ブロックを多量に含む。灰褐色砂壤土・白色軽石を多く含む。

図197 32号・33号住居

0 1 : 60 4 m

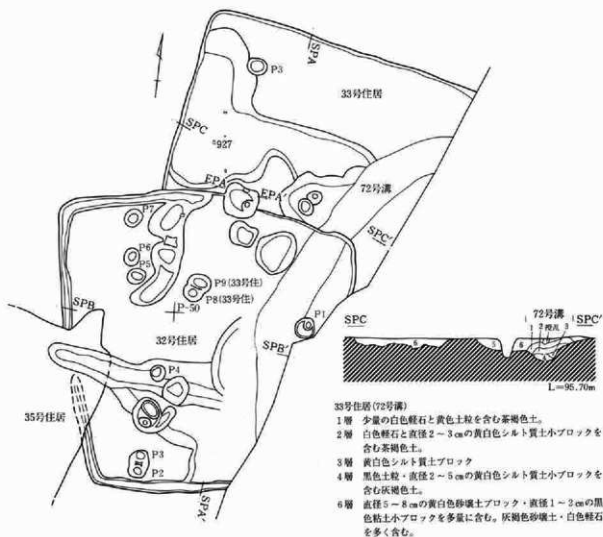


図198 32号・33号住居掘り方

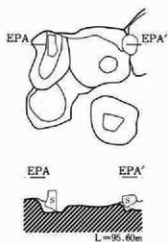


図199 32号住居カマド掘り方



図200 33号住居出土遺物

## 33号住居 図197-198-200, PL48, 表P.41

位置 O・P-49・50グリッド

規模 縦2.8+ $\alpha$ m 横4.2+ $\alpha$ m 深0.05m

形状 隅丸方形と推定されるが、西壁は明瞭に確認できていない。

重複 35号・32号住居・72号溝に先行する。

主軸方位 N-10°-E

埋没土 黒色土ブロック・軽石を含む暗褐色土で埋没している。

床面 貼床が施されている。床面はほとんど平坦である。東側は5cmほど低くなっていて段がある。

貯蔵穴 検出されなかった。

周溝 検出されなかった。

柱穴 床面および掘り方底面で9本のピットが検出された。住居の全体の大きさが判断できないので主柱穴は確定できない。

柱穴No	長径	短径	深さ	備考
P 1	0.22m	0.22m	0.30m	
P 2	0.23m	0.22m	0.11m	
P 3	0.32m	0.30m	0.14m	
P 4	0.40m	0.34m	0.17m	
P 5	0.32m	0.32m	0.36m	
P 6	0.18m	0.16m	0.09m	
P 7	0.30m	0.30m	0.08m	
P 8	0.32m	0.30m	0.31m	
P 9	0.30m	0.18m	0.48m	

掘り方 北部は掘り方がなく、掘り込みがそのまま平坦な床面となっている。西部は5~10cm掘り込まれており、その底面は凹凸が激しい。

遺物出土状態 出土遺物は少ない。床面直上で土師器甕形土器や須恵器杯形土器破片が出土しているが、図示できなかった。掘り方埋没土中より土師器杯形土器(927)が出土している。

カマド 調査できた範囲ではカマドは検出されなかった。

調査所見 平面図に図示したのは検出された壁ではなく、硬化面等で住居内と判断できる部分の範囲である。(小島)

## 40号住居 図201-203, PL48-49-142, 表P.41

位置 Y・Z-61・62グリッド

規模 縦1.66+ $\alpha$ m 横3.00m 深0.1m

形状 隅丸長方形と考えられる。

重複 52号溝に先行し、41号住居・66号溝に後出する。

主軸方位 N-108°-E

埋没土 上層は軽石や焼土を含むしまりのある茶褐色土で埋まっている。下層は軽石・焼土を含む灰褐色粘質土で埋まっていた。

床面 カマド前面は黄色砂壤土ブロックを含む茶褐色土を貼床としている。南東隅の床面上には灰が掻き出されて広範囲に残っている。

貯蔵穴 検出されなかった。

周溝 検出されなかった。

柱穴 検出されなかった。

掘り方 カマド前は4~5cmほど下げられているが、住居全体には及んでいない。

遺物出土状態 南壁周辺に多くの遺物が床面直上で出土している。須恵器杯形土器(939)、椀形土器(945)、甕形土器(947)、土師器杯形土器(940)が図示し得た。

カマド

位置 東壁中央よりやや南側

規模 全長1.3m 屋外長1.2m

最大幅0.7m 焚き口幅0.46m

遺存状態 カマドの残存は良好で、燃焼部の内壁もよく焼けていた。袖は残っていない。カマド燃焼部から住居南東隅にかけて、掻き出された灰が、床面に広がっていた。

遺物出土状態 燃焼部や煙道部に須恵器杯形土器、土師器甕形土器が出土している。

調査所見 本住居の床面は、比較的硬化しており、検出しやすかった。カマドは深い壁高を利用し、燃焼部から煙道部を屋外へ長く伸ばしている。(小島)

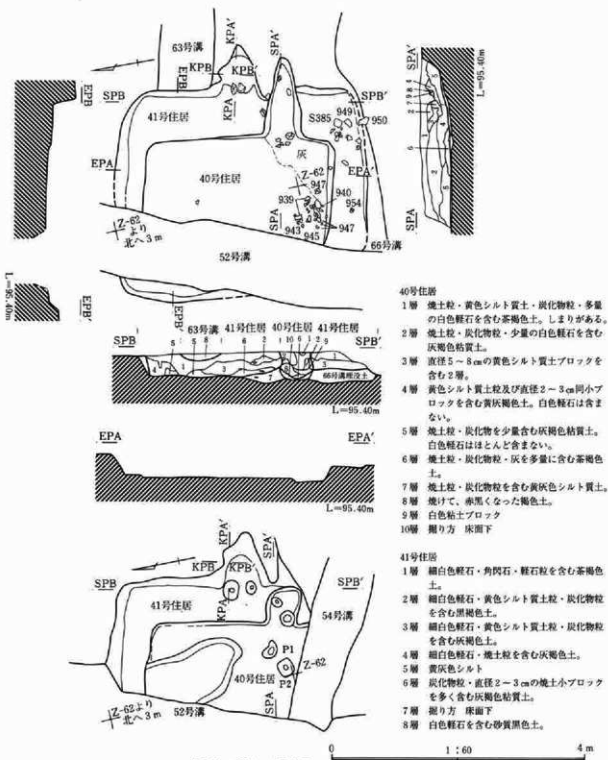


図201 40号・41号住居



図202 40号住居出土遺物(1)

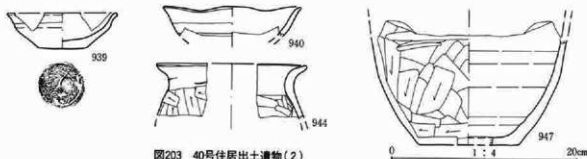


図203 40号住居出土遺物(2)

41号住居 図201・204・205, PL48-49-142-143, 表P.42

位置 Y-61・62グリッド

規模 縦3.32m 横3.98m 深0.33m

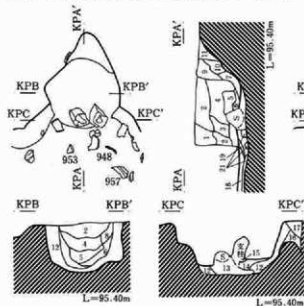
形状 隅丸長方形

重複 40号住居・52号溝に先行し、66号溝に後出する。

主軸方位 N-118°-E

埋没土 上層は軽石を含む茶褐色土で埋まっている。下層は軽石・焼土・炭化物粒を含む灰褐色土で埋まっており、床面の直上は黄灰色シルトが覆っている。

床面 掘り込んだ地山をそのまま床面としている。



13層 灰・焼土が混ざる暗褐色土。

14層 炭化物粒が混入する暗褐色土。砂質。

15層 14層とは同じだが、焼土が多い。

16層 焼けた壁である。暗褐色土。(40号住居跡のカマドともからむ)(掘り方)

17層 40号住居跡カマド上位の上。白色土粒子を含む灰白色砂質土層。(掘り方)

18層 炭化物・焼土・灰を含む。口部際と混ざる。

19層 炭化物のみを含む。(黒色を呈する)

20層 13層と同じ。

21層 地山。Hr-FA。

貯蔵穴 検出されなかった。

周溝 検出されなかった。

柱穴 検出されなかった。

掘り方 カマド部分を除いて掘り込まれていない。

遺物出土状態 カマド前周辺と南壁際に集中して出土している。カマド灰面直上では陶器破片(953)や須恵器高台付碗形土器(948)等が出土した。南壁際では須恵器羽釜(949・950)や台石(S385)が床面直上で出土している。

カマド

位置 東壁ほぼ中央

規模 全長0.84m 屋外長0.6m

1層 細白色軽・角閃石・軽石を含む茶褐色土。(埋没土セクション1層と同じ)

2層 細白色軽石・黄色シルト質土粒・炭化物粒を含む灰褐色土。(埋没土セクション3層と同じ)

3層 炭化物粒・褐色砂質土粒・細白色軽石を含む褐色土。

4層 灰褐色土をほとんど含まない灰褐色土。

5層 焼土粒・白色軽石を含む灰黄色粘質土。

6層 灰・焼土を多く含む褐色土。

7層 白色軽石を含む灰褐色粘質土。(掘り方)

8層 焼土粒を含む灰褐色粘質土。

9層 焼土粒・灰白粘土粒及び同小ブロックを含む黄褐色粘質土。

10層 直径0.5-1cmの焼土小ブロックを多量に含む褐色土。

11層 焼土粒を少量含む黄灰色粘質土。

12層 直径1mmの白色軽石を含む。10aに焼土塊を5-10個含む。(掘り方)

図204 41号住居カマド

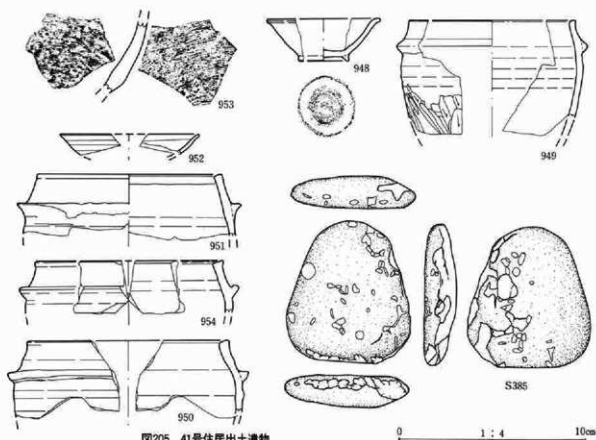


図205 41号住居出土遺物

最大幅0.7m 焚き口幅0.68m

**遺存状態** 燃焼部壁は良く焼けていたと思われるが、崩落が著しい。また灰の残存もなく、住居廃棄段階に片付けている可能性もある。

**遺物出土状態** 前述のようにカマド前に遺物が出土している。また長さ10cmほどの角礫が2個、焚き口の埋没土中から出土した。

**調査所見** 床面はカマド前が特に、硬化していた。カマドは地山を深く掘り込んでつくられており、中央の角礫は支脚と推定される。 (小島)

42号住居 図206～209, PL50～52・143, 表P.43

**位置** X・Y-61・62・63グリッド

**規模** 縦5.84m 横6.0m 深0.3m

**形状** 隅丸方形

**重複** 53号・54号・63号・66号溝に先行する。

**主軸方位** N-4°-E

**埋没土** 上層は軽石を多く含むしまりのある茶褐色

土で埋まっている。下層は炭化物・焼土が混ざる灰褐色土である。

**床面** 掘り方に黄色砂壤土が混ざる黒褐色土を充填し、床面をつくっている。カマド前面を中心に硬化面が残存していた。

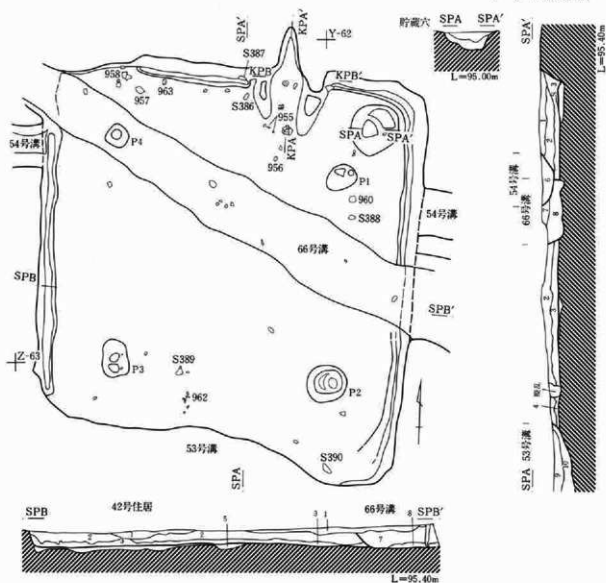
**貯蔵穴** 北東隅に、長径0.8m、短径0.75m、深さ0.28mのほぼ円形に近い楕円形の貯蔵穴が検出された。

**周溝** 上幅30cm、下幅10～12cm、深さ5cmの周溝が西・北・東壁に検出された。南壁は53号溝に壊されているため不明である。

**柱穴** 主柱穴とみられるP1～P4は床面で検出した。その他のビットは柱穴とは断定できないが、掘り方面で検出した。

柱穴No	長径	短径	深さ	備考
P1	0.48m	0.40m	0.3 m	
P2	0.60m	0.58m	0.48m	
P3	0.60m	0.42m	0.36m	





## 42号住居

- 1層 多量の白色軽石を含む、しまりのある粘質茶褐色土。
- 2層 二次堆積FA期の洪水堆積物(池山)のブロックと細白色軽石を含む茶褐色土。焼土粒・炭化物も含む。
- 3層 炭化物・焼土粒を含む灰褐色土。
- 4層 黄灰白色粘質土ブロックを含む2層。
- 5層 床面下

## 53号溝

- 9層 細白色軽石を多量に含む砂質の茶褐色土。
- 10層 細白色軽石・少量の焼土粒と炭化物を含む黒褐色土。

## 54号溝

- 6層 白色軽石を上層に多く含む。やや砂質の黒褐色土。

## 66号溝

- 7層 白色軽石・黄色土粒を含む灰褐色粘質土。
- 8層 黄灰白色シルト

図206 42号住居

0 1 : 60 4 m

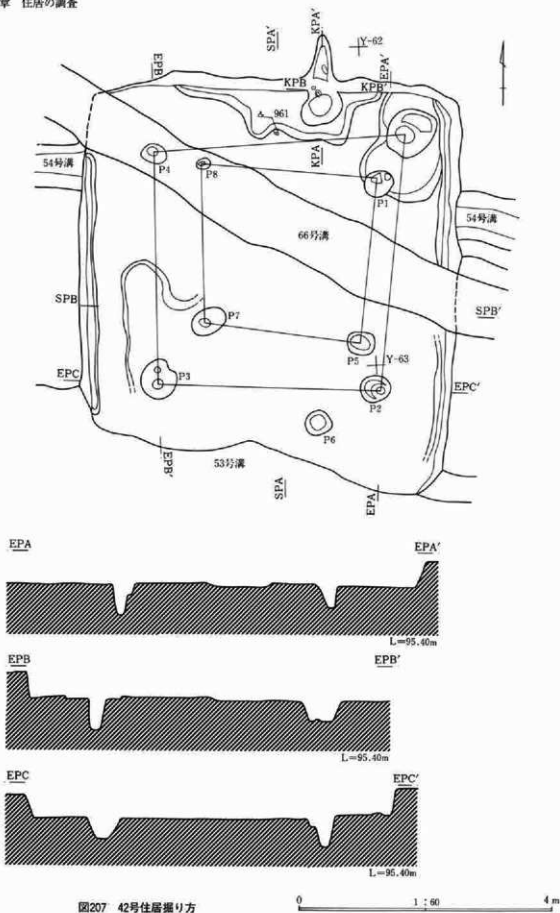


図207 42号住居掘り方

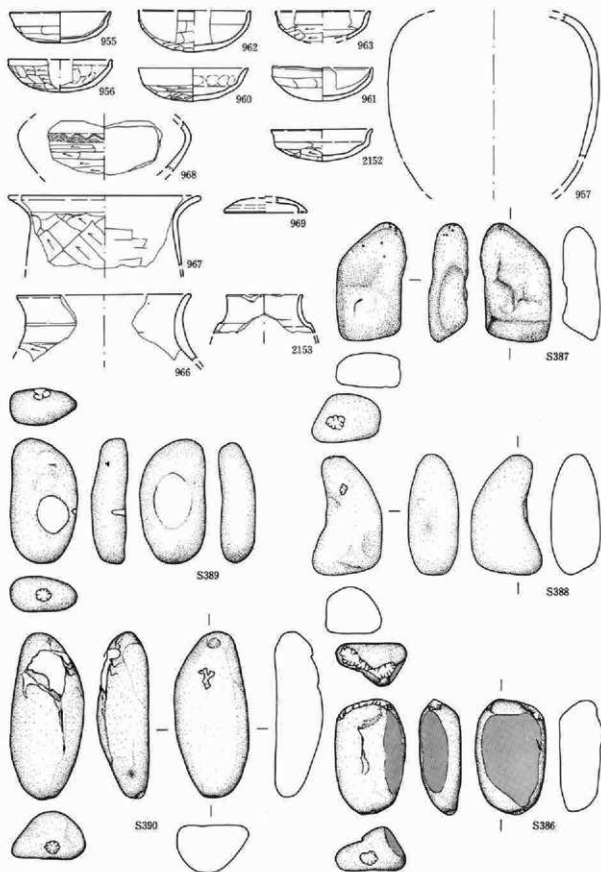
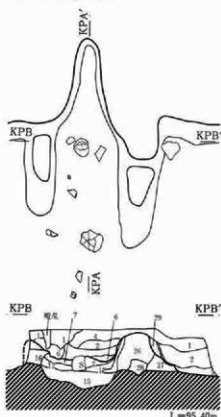
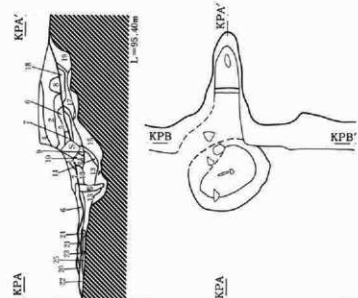


図208 42号住居出土遺物

第8章 住居の調査



- 13層 黄褐色土 Hr-FA 層の二次堆積。Hr-FA ブロック・土砂が混入する。砂質。 14層 黄褐色土 焼土を含まない。  
 15層 黄褐色土 掘り方内に敷き込んだ様相があり、焼土・灰・炭化物はない。土器が混入する。  
 16層 Hr-FA が傾を見ている。 17層 暗黄褐色土 わずかに炭化物を含む。 18層 暗黄褐色土 Hr-FA ブロックを含む。  
 19層 黄褐色土 FA 期の洪水堆積物の流入土。 20・21・22層 炭化物層が3層交互に見られる。(掻き出した灰)  
 23・24・25層 白色土粒子・焼土をわずかに含む黄褐色土。 地26層 褐色土 全体に直径0.1~1mの軽石を含む。  
 27層 褐色土 砂質で、軽石が少なくなる。 28層 褐色土 砂質で、軽石が少なくなる。29層 褐色土 砂質。住居跡層と同じ。



- 1層 埋没土セクションと同じ。 2層 々 3層 々  
 4層 角四石の入った直径0.5~0.8cmの白色軽石を含む。黄褐色シルト質土と褐色土の混土。 5層 焼土粒を含む黄灰色シルト質土。 6層 焼土と灰の混土。  
 7層 5層に転るが、焼土が直径1~2cmのブロック状である。 8層 灰  
 9層 焼土が混じる黒褐色土。支脚のすぐ脇のため、石の小片がある。焼けている。  
 10層 黄褐色土 数らかく擾乱(傾)を受けている。  
 11層 黄褐色土 砂質。Hr-FA が混入する。  
 12層 炭化物が厚く残る。焼土が一部に混じる。

図209 42号住居カマド

0 1:30 1m

P 4	0.40m	0.40m	0.50m
P 5	0.46m	0.34m	0.08m
P 6	0.43m	0.38m	0.04m
P 7	0.58m	0.40m	0.45m
P 8	0.22m	0.14m	0.15m

掘り方 西半を中心に5~10cmほど掘り込まれている。

遺物出土状態 床面に近い遺物は、壁から1mほどの範囲の中で出土しており、支柱穴を結んだ線の中ではほとんど出土していない。図示した土師器杯形土器(955・956・962・963)は床面直上で、960・961はやや浮いた状態で出土した。壘形土器は埋没土中の出土である。また、棒状の円礫の散石が住居内に散らばって出土している。

カマド

196

位置 北壁中央やや東寄り

規模 全長1.7m 屋外長0.7m

最大幅1.0m 焚き口幅0.5m

遺存状態 カマドの遺存状態は良好で、燃焼部の壁は良く焼けている。軸は掘り方の上にやや砂質の褐色土を貼り付けてつくっている。燃焼部中央に支脚と思われる石が埋められていた。

遺物出土状態 カマド燃焼部で土師器杯形土器(955)が出土している。土師器壘形土器も灰面直上で出土しているが、図示し得なかった。

調査所見 掘り方面で検出されたP5・P7・P8は位置からすると、P1~P4より一回り小規模な四隅を示し、本住居に拡張があったことも推定される。(小島)

## 43号住居 図210-211, PL52-53, 表P.44

位置 W・X-61・62グリッド

規模 縦4.3+ $\alpha$ m 横2.9+ $\alpha$ m 深0.17m

形状 隅丸方形

重複 44号住居・63号溝に先行する。54号溝に後出する。

主軸方位 N-15°-W

埋没土 軽石や黄色・灰色土粒を斑点状に含む茶褐色土で埋没している。第一次埋没土には軽石は含まれない。

床面 掘り込まれた地山をそのまま床面としている。

貯蔵穴 検出されなかった。

周溝 西壁のみに幅6cm、深さ8cmの周溝が検出された。

柱穴 掘り方面で2本のピットが検出された。P 1

## 43号住居

7層 黄色シルト質土粒・白色軽石・灰色土粒を斑点状に含む茶褐色土。

8層 黄色土粒を含む灰褐色土。

## 44号住居

1層 細白色軽石を含む砂質黒色土。

2層 白色軽石・少量の焼土粒を含む黒褐色粘質土。

3層 黄褐色粘質土

4層 黄褐色粘質土粒・黄色シルト質土粒・焼土粒・炭化物粒を含む茶褐色土。

5層 焼土粒・炭化物粒を含む灰褐色シルト質土。

10層 床面下

11層 灰白色粘土小ブロックを多く含む5層。

12層 灰白色粘土小ブロック・炭化物を塊状に混じる5層。

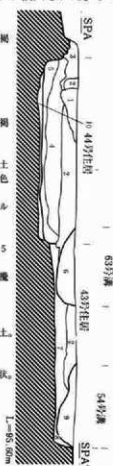
## 54号溝

9層 白色軽石を多量に含む砂質黒褐色土。

## 63号溝

6層 白色軽石を含む茶褐色砂質土。溝状。

0 1:60 2m



は主柱穴と考えられる。

柱穴No 長径 短径 深さ 備考

P 1 0.30m 0.30m 0.11m

P 2 0.32m 0.30m 0.20m

掘り方 検出されなかった。

遺物出土状態 遺物の出土は少ない。土師器の杯形土器の小破片等が出土している。

カマド 調査できた範囲の中では検出できなかった。

調査所見 本住居は、63号溝に壊されている。また、44号住居と重複する位置にはゴミ穴も掘られており、本住居の平面形は西壁と北壁の一部が検出できたにすぎない。また54号溝に切られているものの、当住居の床面までは達しておらず、周溝は残っている。(小島)

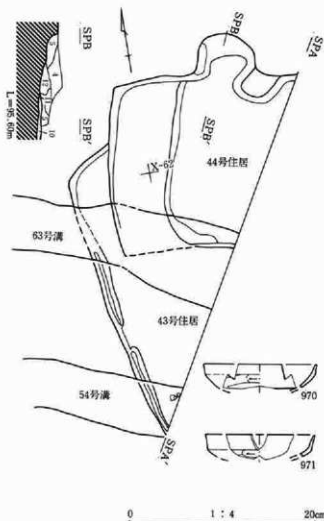


図210 43号・44号住居と43号住居出土遺物

44号住居 図210-211, PL52-53-144, 表P-44

位置 W・X-61・62グリッド

規模 縦2.78+αm 横2.90+αm 深0.30m

形状 隅丸方形

重複 63号溝に先行し、43号住居に後出する。

主軸方位 N-7°-E

埋没土 上層は黄色土粒・焼土粒・炭化物粒を含む茶褐色土、下層は焼土粒・炭化物粒を含む灰褐色シルト質土で埋まっている。

床面 掘り方を埋めて貼床をつくっている。西壁に沿って90cmの幅でベッド状遺構がつくられていた。

下段の床面は硬化していた。

貯蔵穴 検出されなかった。

周溝 検出されなかった。

柱穴 西壁の両端隣の壁から10cmほど中に入った地

点で、柱穴が検出された。

柱穴No	長径	短径	深さ	備考
P 1	0.23m	0.23m	0.10m	
P 2	0.40m	0.22m	0.11m	

掘り方 床面より4~10cm掘り込まれている。中央部の掘り込みは浅く、周辺部は深く掘られている傾向がある。

遺物出土状態 床面近くからの遺物の出土はほとんどない。埋没土中からは古墳時代のもものとみられる土師器杯形土器(973・974)と、平安時代の羽釜形土器(972)が出土している。

カマド 明確には検出されていない。

調査所見 北壁に幅1mほどの落ち込みが検出されているが、焼面はなく、右側の袖縁のものもテラス状の掘り残し面であり、カマドとは断定できない。

(小島)

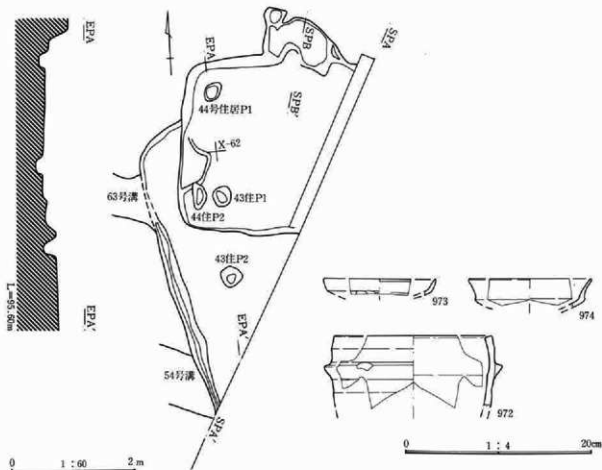


図211 43号・44号住居掘り方と44号住居出土遺物

## 45号住居 図212-213、PL53・144、表P.44

位置 Z・2A-62・63グリッド

規模 縦2.5+ $\alpha$ m 横2.1+ $\alpha$ m 深0.17m

形状 方形と推定される。

重複 52号・53号溝に先行し、46号住居に後出する。

主軸方位 N-1°-E

埋没土 地山の黄灰白色土ブロックを多く含む暗褐色土で埋まっていた。周溝内はこれよりやや黒味の強い土で埋まっていた。

床面 西壁周辺は黄灰色地山土と暗褐色土の混合土で掘り方を埋めて貼床としている。

貯蔵穴 北西隅に直径0.6m、深さ0.11mの円形の貯蔵穴が掘り方で検出された。

周溝 西壁・北壁沿いに幅20cm、深さ4-6cmの周溝を検出した。

柱穴 壁に寄った位置で4本の小ビットを掘り方で検出した。しかし、P1は土層断面A-A'の観察では住居に伴うものでないことは明らかである。またP2-P4も床面では確認できていないので住居に伴う確証はない。

柱穴No	長径	短径	深さ	備考
P 1	0.2 m	0.2 m	0.3 m	
P 2	0.21m	0.2 m	0.2 m	
P 3	0.26m	0.22m	0.2 m	
P 4	0.3 m	0.22m	0.1 m	

掘り方 西壁付近が3-4cm掘り込まれている。掘り方は平坦である。

遺物出土状態 北西隅にやや偏って床面近くに土師器甕形土器の破片が出土したが、図示し得なかった。埋没土中では須恵器杯形土器(975-977)が出土している。また、北西隅壁際で床面から4cmほど浮いた地点で斜位で刀子(M15)が出土した。

カマド 調査できた範囲の中では検出されなかった。

調査所見 北壁に重複するビットは住居より古いビットである。(小島)

## 46号住居 図212-213、PL54、表P.44

位置 2A-62・63グリッド

規模 縦2.6m 横2.2+ $\alpha$ m 深0.15m

形状 隅丸長方形

重複 53号溝に先行する。

主軸方位 N-5°-E

埋没土 炭化物を多く含む暗褐色土で埋まっている。

床面 掘り方充填土を硬化させて貼床としている。

貯蔵穴 検出されなかった。

周溝 53号溝に壊された南壁を除いて、幅14-25cm、深さ5cmの周溝が検出された。

柱穴 掘り方調査時に小ビットが検出されたが、柱穴であるかどうかは確定できない。

柱穴No	長径	短径	深さ	備考
P 1	0.18m	0.18m	0.06m	
P 2	0.25m	0.20m	0.08m	
P 3	0.36m	0.20m	0.06m	
P 4	0.27m	0.22m	0.16m	
P 5	0.21m	0.18m	0.06m	
P 6	0.75m	0.38m	0.16m	53号溝に先行

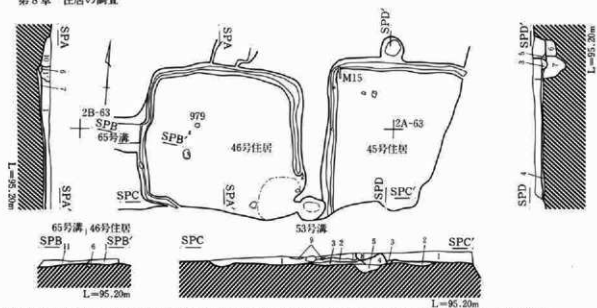
掘り方 掘り方は黄白褐色土・炭化物粒を含む茶褐色土で埋められている。掘り方底面では前述した各ビットの他、南西隅に長径1.0m、短径0.8m、深さ0.1mの不整形の床下土坑が検出された。また、底面には青灰褐色砂層が堆積する部分がある。

遺物出土状態 南東隅のカマド周辺と住居西半分で、床面近くに遺物が出土している。灰陶器高台部(979)は住居中央やや西寄り、床面から2.5cm浮いた状態で出土した。住居内床面近くから石が4点出土しているが、いずれも石器とはいえないものであった。

カマド 南東隅に存在したと推定されるが、全体形状は不明である。直径0.8mほどの範囲で床面に灰が残されている部分があった。

調査所見 45号住居との間に直径54×短径36×深0.28cmほどのビットが検出されているが、カマドの施設かどうかは不明である。(小島)

第8章 住居の調査



- 45号住居 1層 暗褐色土 直径5mmの黄灰白色土(地山)小ブロックを多く含む。直径1~2mmの炭化物粒子を少量含む。しまりは良い。
- 2層 黄灰白色土(地山)と暗褐色土の混合土。床面、やや粘性がある。
- 3層 暗褐色土 1層よりも黒みが強い。
- 4層 暗褐色土と灰白色土(地山)の混合土。灰白色土中に直径1mm程度の小軽石が含まれる。しまりは良い。
- 5層 暗褐色土と灰白色土(地山)ブロックの混合土。後者がやや多い。
- 6層 暗褐色土 灰白色土(地山)ブロック及び同粒子を多く含む。しまりはやや弱い。粘性は7層よりも弱い。
- 7層 黒褐色土 灰白色土(地山)ブロック及び同粒子を極少量含む。しまりは良く、粘性がある。
- 46号住居 1層 暗褐色土 直径2~3mmの炭化物粒子を多く含む。直径1~3mmの黄白褐色土粒子及び直径1~2cmの同ブロックを少量含む。鉄分を多く含む。しまりは良い。
- 1層 暗褐色土 1層よりもかなり黒みが強い。直径1cmほどの炭を含む。
- 2層 炭の層に、若干の暗褐色土が混じる。しまりは弱い。
- 3層 炭化物粒子
- 4層 茶褐色土 直径3~5mmの黄白褐色土粒子・直径1mm未満の炭化物粒子を少量含む。
- 5層 茶褐色土 黄白褐色土粒子を少量含む。暗褐色土が少量混じる。しまりは弱い。
- 6層 明褐色土 灰白色土(地山)ブロックを多く含む。しまりは悪い。
- 7層 明褐色土と灰白色土(地山)ブロックの混合土。鉄分を含む。直径1~2mmの白色小軽石を極少量含む。しまりは良い。
- 8層 暗褐色土 炭化物粒子及び直径1~2mmの焼土粒子を多く含む。1層よりもやや明るい。
- 9層 地山。腐植土。黄灰白色ブロック
- 10層 茶褐色砂質土層 白色軽石少量含む。直径5cmの黄白色地山大形ブロックを含む。
- 65号溝11層 暗褐色砂質土層 白色軽石を少量含む。直径3mmの黄褐色地山粗粒子を含む。

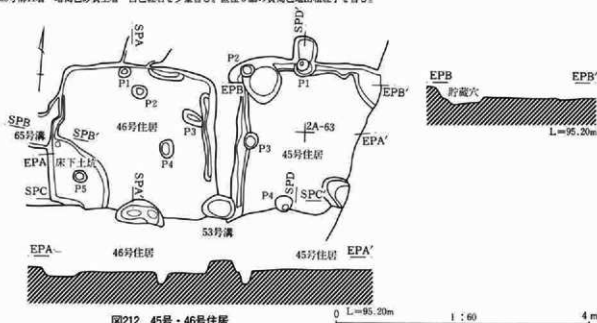


図212 45号・46号住居



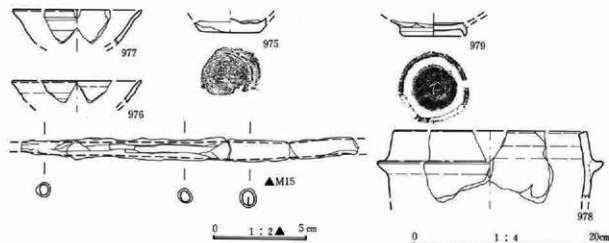


図213 45号・46号住居出土遺物

## 47号住居 図214・215、PL54-56、表P.44-45

位置 Z・2A-61・62グリッド

規模 縦3.65m 横3.3m 深0.32m

形状 隅丸方形

重複 51号・63号溝に先行する。

主軸方位 N-102°-E

埋没土 暗褐色土・榛名山起源の軽石・炭化物粒を部分的に含む。全体に鉄分の斑点が見える。

床面 カマド前面に2~3cmほどの厚さで貼床が施されている。住居中央部からカマド周辺には硬化面が広がっていた。

貯蔵穴 南東隅で、長径0.95m、短径0.6m、深さ0.17mの楕円形の貯蔵穴が検出された。

周溝 検出されなかった。

柱穴 掘り方面調査時に北壁近くで小ピット2本を検出したが、これらは浅いもので、位置的にも柱穴と断定できるものではない。

柱穴No	長径	短径	深さ	備考
P 1	0.30m	0.30m	0.03m	
P 2	0.47m	0.47m	0.06m	

掘り方 住居内の壁沿いの周縁部はほぼ平坦で、掘り方はないが、カマド前面には長径1.15m、短径0.85m、深さ0.08mの不整形の床下土坑が掘り込まれている。掘り方の充填土は灰褐色粘質土粒・黄色砂壤土粒・灰褐色土の混土である。

遺物出土状態 床面近くの遺物は東壁・南壁沿いに集中して出土した。掘り方埋没土中の遺物はカマド周辺に集中していた。北東隅には灰軸陶器壺形土器(985)や椀形土器(980)が出土した。南壁付近では、須恵器椀形土器(982)や灰軸陶器椀形土器(983)がやや床面から浮いて出土している。

## カマド

位置 東壁中央よりやや南寄り

規模 全長1.10m 屋外長0.75m

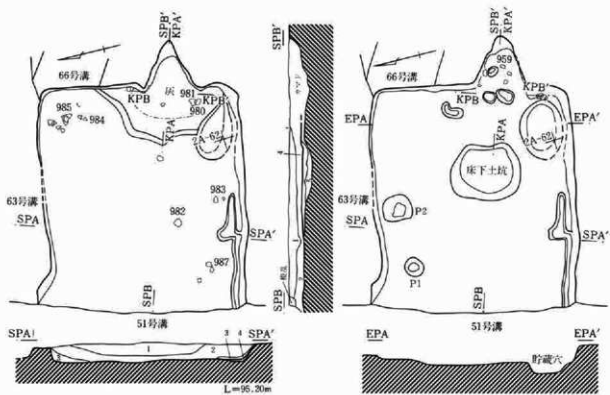
最大幅0.95m 焚き口幅0.70m

遺存状態 カマド前の床面は1~3cmほど高く作られており、掻き出された灰の面が広がっていた。灰面下には長軸0.65m、短軸0.55mの隅丸方形に顕著な掘り込みをもつ。

遺物出土状態 須恵器羽釜破片が多く出土している。図示した981がカマド灰面上6cm、959がカマド掘り方底面直上で出土している。

調査所見 住居は比較的残りがよい。掘り方底面での円形の土坑状の穴は、当地方によくみられるものである。出土遺物は高台付の椀形土器や、糸切底の椀形土器、羽釜や、甕形土器の底部付近の調整技法は平安時代の特徴がよく表現されている。(相京)

第8章 住居の調査



- 1層 褐色土 直径2mmの白色土粒子を多く含み、酸化バクテリアによる鉄分の斑点が含まれている。
- 2層 暗褐色土 Hr-FAブロック・炭化物を部分的に含む混入土である。部分的に、酸化バクテリアによる鉄分の斑点が多く見られるところがある。粘性がある。
- 3層 黄褐色土 壁からの流入土である。
- 4層 灰白色結質土粒・黄色砂礫土粒・灰褐色土粒の混土。白色軽石を含む。
- 5層 灰白色結質土粒・黄色砂礫土粒・白色軽石・炭化物粒を含む灰褐色土。

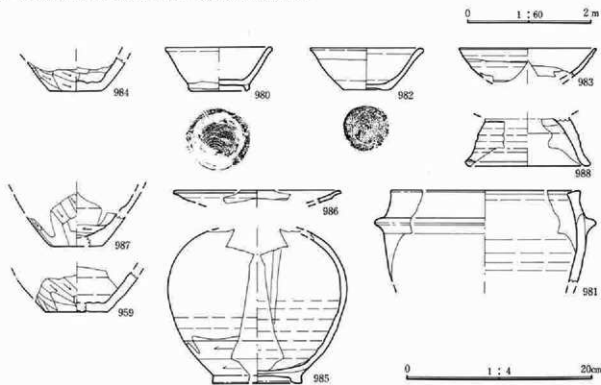
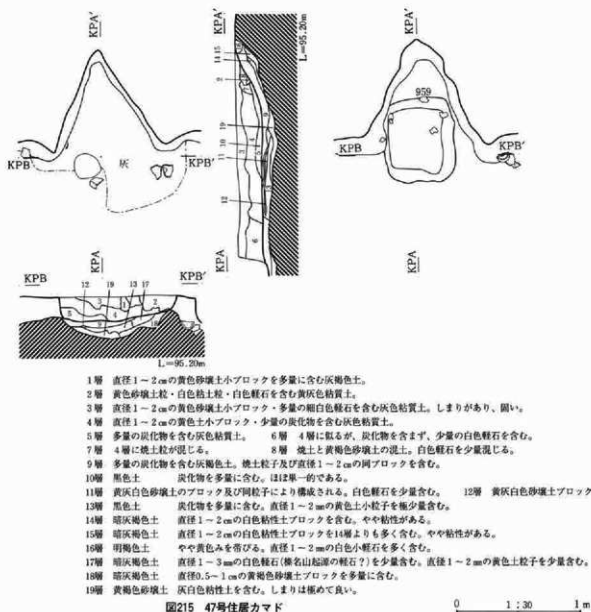


図214 47号住居と出土遺物



## 48号住居 図216、PL56-144、表P.45

位置 2B・2C-64・65グリッド

規模 縦2.72+αm 横2.64+αm 深0.2m

形状 東側は51号溝で壊され、南側は発掘区外であったので、北壁と西壁の一部を調査したにとどまったが、隅丸方形と推定される。

重複 51号溝に先行する。

主軸方位 N-12°-E

埋没土 上層は軽石を少量含む暗灰褐色土で、下層は黄白色土粒や炭化物粒を含む灰褐色土で埋まっていた。

床面 掘り方を暗褐色土粒を含む青灰色シルト質土で充填し、貼床としている。住居中央部の床面は硬化している。

貯蔵穴 検出されなかった。

周溝 北壁・西壁の一部に底面幅6cm、深さ1-3cmの周溝が検出された。

柱穴 掘り方面で4本の小ビットを検出したが、柱穴との確証はない。

柱穴No	長径	短径	深さ	備考
P 1	0.19m	0.18m	0.12m	
P 2	0.18m	0.16m	0.15m	

第8章 住居の調査

P 3 0.46m 0.44m 0.15m

P 4 0.31m 0.31m 0.18m

掘り方 床面より2~6cmほど掘り下げている。掘り方面はほぼ平坦であるが、小ピットが4本検出されている。

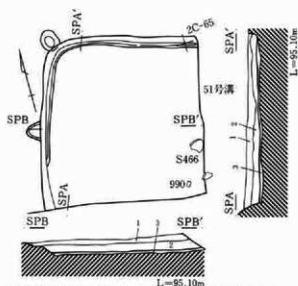
遺物出土状態 調査範囲の南東部に台石(S466)が床にやや埋め込まれた状態で検出された。他に土

師器杯形土器破片や須恵器羽釜破片が出土。

カマド 調査できた範囲の中では、明確にカマドと断定できる施設は検出されなかった。

調査所見 調査範囲の南東隅の51号溝に埋められているところで、若干床面が逃けている部分があった。989の羽釜は床面と掘り方出土の破片が接合した。

(小島)



- 1層 暗灰褐色土 直径1~2mmの白色軽石を少量含む。2層に比べて暗い。鉄分のため茶色みを帯びる。やや白っぽい。軽石はほとんど含まれない。直径5mmほどの炭を含む。直径2mmほどの黄白色土粒子及び直径1cmほどの同プロックを少量含む。鉄分のため茶色みを帯びる。
- 2層 灰褐色土
- 3層 青灰色シルト質土 暗褐色土を少量含む。

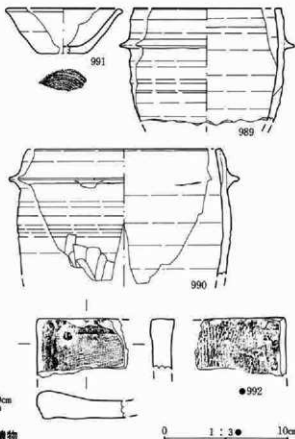
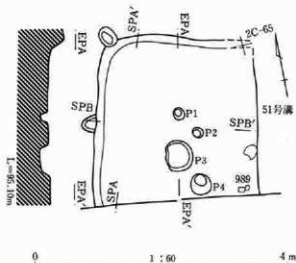
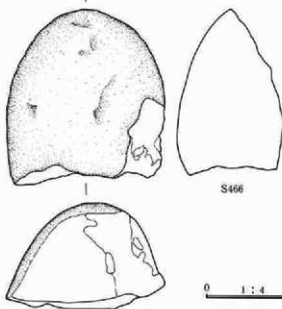


図216 48号住居と出土遺物

49号住居 図217・218、PL56～58・144、表P.46

位置 2B・2C-64グリッド

規模 縦1.92m 横2.70m 深0.18m

形状 長方形

重複 なし

主軸方位 N-105°-E

埋没土 上層は軽石・黄色土粒・黒色土粒を含む暗  
 灰褐色土で埋没している。下層は軽石や炭化物・焼  
 土粒を多量に含む暗褐色土で埋まっている。

床面 やや凹凸があり、北部・西部の貼床部分はあ  
 まり硬化していない。南東部は地山を床面としてい  
 る。

貯蔵穴 検出されなかった。

周溝 検出されなかった。

柱穴 検出されなかった。

掘り方 南東部を残して床面より10cmほど掘り下げ

られている。

遺物出土状態 遺物の出土はあまり多くなかった。  
 床面近くの遺物はカマドの左脇と住居中央部に出土  
 している。埋没土中から楕円形で一對の突起がつい  
 た金属器が出土している。

カマド

位置 東壁中央やや南寄り

規模 全長1.3m 屋外長0.6m

最大幅0.62m 焚き口幅0.5m

遺存状態 良好である。

遺物出土状態 周辺から出土している。

調査所見 埋没土中位に炭化物が集中する層があ  
 り、当初は床面の可能性も考えたが、下位に床面を  
 検出した。床面の調査時には住居内が漏水し、確定  
 が困難であった。(小島)

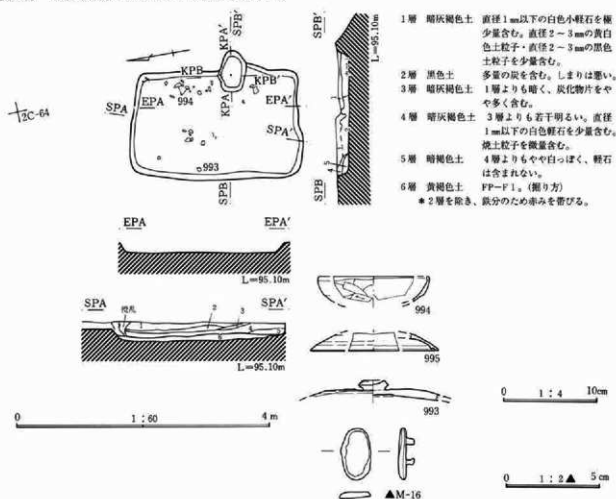
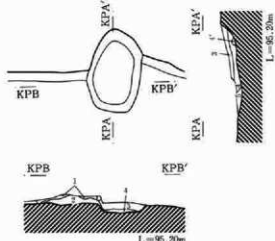


図217 49号住居と出土遺物

第8章 住居の調査



- |     |       |   |
|-----|-------|---|
| 1層  | 黒褐色土  | 炭を多量に含む。暗褐色土を少量含む。しまりは悪い。               |
| 2層  | 暗茶褐色土 | 直径1mm前後の軽石を少量含む。しまりは良い。やや粘性がある。         |
| 3層  | 暗褐色土  | 直径1-2mmの焼土粒子を少量含む。ややしまりは悪い。             |
| 4層  | 暗褐色土  | 炭を多く含む。灰が混じる。直径1-3mmの焼土粗粒子を多く含む。しまりは悪い。 |
| 4'層 | 暗褐色土  | 炭を多く含む。焼土粒子はあまり含まれない。                   |
| 5層  | 暗褐色土  | 炭を少量含む。ややしまりは良い。                        |

図218 49号住居カマド

0 1:30 1m

50号住居 図219-222, PL58-59-144-145, 表P.46

位置 Z・2A-60・61グリッド

規模 縦2.14+αm 横3.3m 深0.30m

形状 隅丸方形

重複 63号溝に先行する。

主軸方位 N-110°-E

埋没土 上層は軽石を含む褐色土で、下層は軽石を多く含む粘質の黄褐色土で埋まっていた。

床面 掘り込んだ地山をそのまま床面としている。

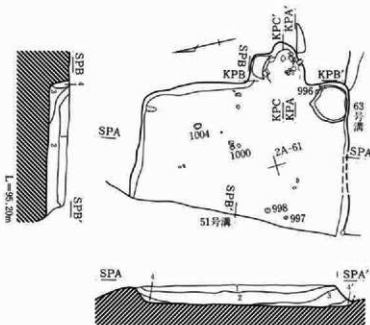
貯蔵穴 南東隅に長径0.65m、短径0.62m、深さ0.12mのやや楕円形の貯蔵穴を、掘り方底面で確認した。

周溝 検出されなかった。

柱穴 検出されなかった。

掘り方 カマドにのみ掘り方が検出された。

遺物出土状態 住居中央部に出土した須恵器碗形土器(997・998・1000・1004)は床面直上あるいは床面から2-4cm浮いて出土した。カマド周辺にも多



- |     |                   |  |
|-----|-------------------|--|
| 1層  | 褐色土               | 直径2-3mmの白色軽石を含む(10cm当たり3-5個混入)。鉄分の斑点が見られる。やや軟弱である。 |
| 2層  | 黄褐色土              | 砂粒子が粘性を帯びている。直径1mmほどの白色軽石を含む。鉄分の斑点が見られる。           |
| 3層  | 暗黄褐色土             | 粘性が強くなり、白色粒子が全面に混入する。鉄分の斑点が入る。(酸化バクテリア)            |
| 4層  | 黄白色混入土            | 住居跡の壁からの流入土と考えられる土層の流れ込み土。粘性が強い。                   |
| 4'層 | 黄白色混入土ブロック(Hr-FA) |  |

図219 50号住居

0 L=95.20m 1:60 4m

2 カマド付般住居

くの遺物が出土している。

カマド

位置 東壁中央よりやや南寄り

規模 全長0.90m 屋外長0.65m

最大幅0.75m 焚き口幅0.68m

遺存状態 袖は残りが悪いが掘り方はしっかりとしている。

遺物出土状態 右袖上層や燃焼部内に須恵器羽釜破片が出土している。

調査所見 床面検出で焼土や炭の散布がカマドの前から貯蔵穴周辺に広がっていた。(相京)

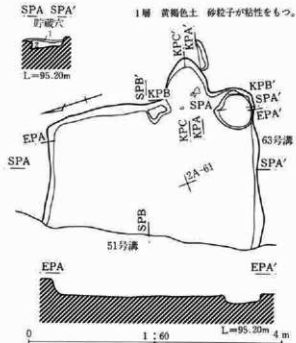


図20 50号住居掘り方

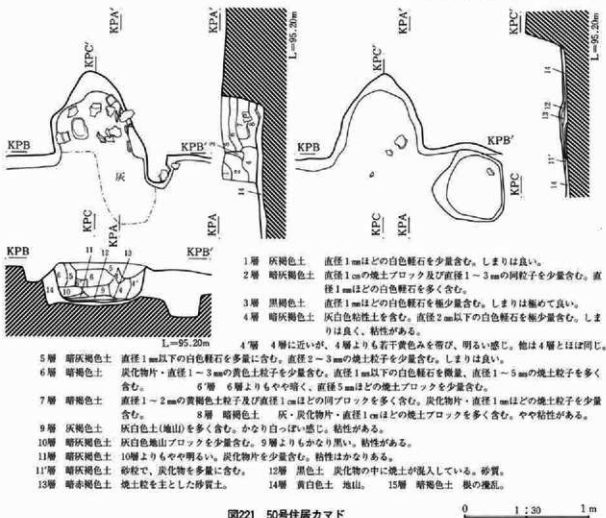


図21 50号住居カマド

第8章 住居の調査

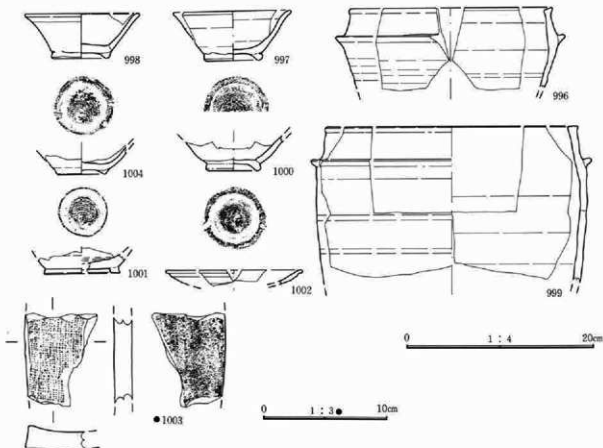


図222 50号住居出土遺物

51号住居 図223-225, PL59-60-145, 表P. 46-47

位置 X・Y-60グリッド

規模 縦2.40m 横3.10m 深0.14m

形状 長方形

重複 37号土坑に後出する。

主軸方位 N-111°-E

埋没土 上層は炭化物粒や黄灰色シルト質土ブロックを含む褐色粘質土で埋没しており、下層は黄灰色シルト質土小ブロックを多量に含む黄褐色土で埋まっている。

床面 掘り方面に黒色土ブロック混入の黄褐色土を貼り、床面としている。

貯蔵穴 南東隅に長径0.50m、短径0.43m、深さ0.08mの楕円形の貯蔵穴が検出された。

周溝 幅8~20cm、深さ2~4cmの周溝が各壁下に検出された。全周はしていない。

柱穴 床面・掘り方面で11本の小ピットを検出したが、主柱穴はない。P1・P2・P8・P9は壁柱穴とも考えられる。

柱穴No	長径	短径	深さ	備考
P1	0.23m	0.14m	0.11m	
P2	0.19m	0.14m	0.18m	
P3	0.23m	0.12m	0.07m	
P4	0.15m	0.12m	0.08m	
P5	0.10m	0.10m	0.04m	
P6	0.26m	0.12m	0.14m	
P7	0.19m	0.18m	0.13m	
P8	0.24m	0.24m	0.12m	
P9	0.2 m	0.20m	0.14m	
P10	0.45m	0.38m	0.19m	
P11	0.5 m	0.42m	0.28m	

掘り方 床面から平均1~2cm掘り込まれている。



南西部には、直径0.9m、深さ0.15mほどの円形の床下土坑が検出された。標名山起源の軽石や洪水堆積物のブロックを含む褐色土で埋まっていた。

**遺物出土状態** 床面近くの遺物はカマド周辺および住居東側に偏在する傾向がある。貯蔵穴内からは須恵器杯形土器(1009)、羽釜(1006)、砥石(S393)、砥石(S392)が出土している。

**カマド**

**位置** 東壁よりやや南寄り

**規模** 全長0.72m 屋外長0.65m

最大幅0.39m 焚き口幅0.29m

**遺存状態** あまり焼面は焼けていない。灰の広がりも顕著でなかった。掘り方面には5本の小ピット(P3-P7)が検出されたが、性格は不明である。

**遺物出土状態** カマド燃焼部からは羽釜破片が数点出土している。

**調査所見** 西壁沿いには小ピットが並ぶように検出されたが、それに対応する東側のピットは明確に検出できなかった。大形の砥石が出土しているが、それらの用途を示唆するような調査所見は得られなかった。(小島)

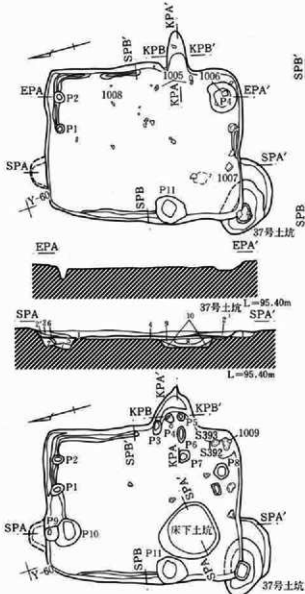


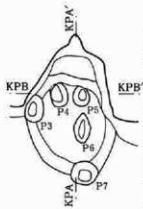
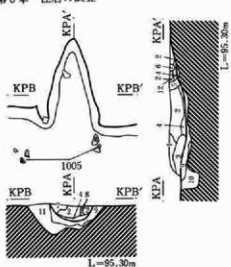
図223 51号住居

- 1層 炭化物粒・焼土粒を少量含み、直径2-3cmの黄灰色シルト質土ブロックを置く褐色粘質土。
- 2層 直径0.5-1cmの黄灰色シルト質土小ブロックを多量に含む黄褐色粘質土。
- 2層 直径0.5-1cmの黄灰色シルト質土小ブロックを多量に含む黄褐色粘質土。(黒色土を含む)
- 3層 炭化物粒・焼土粒を多量に含む黄褐色土。
- 4層 床面下(掘り方)。黒色土ブロックが混入する黄褐色土。固い。
- 5層 茶褐色土。焼土ブロックをわずかに含み、白色土粒子をまばらに混入する。
- 6層 Hr-FAブロックの流入。
- 7層 茶褐色土内にHr-FAブロックが混入する。砂質である。
- 8層 Hr-FAブロックが混入する茶褐色土。上位に焼土を含む。固い。
- 9層 茶褐色土。土器片・炭化物を含む。
- 10層 Hr-FA流入土。砂質。



0 1:60 4m

第8章 住居の調査



- 1層 白色軽石・炭化物粒・黄色土粒を含む茶褐色粘質土。
- 2層 白色軽石・炭化物粒を含む灰褐色粘質土。
- 3層 白色軽石・多量の炭化物粒・直径0.5-1cmの黄色土小ブロックを含む灰褐色粘質土。
- 4層 焼土ブロックと灰を多量に含む灰褐色土。
- 5層 白色軽石・黄色土粒を多く含む茶褐色土。
- 6層 黄褐色粘土ブロック
- 7層 白色軽石・炭化物粒を含む灰色粘質土。
- 8層 灰色粘土
- 9層 炭化物が主であり、わずかに焼土ブロックを含む。(黒色)
- 10層 黄褐色土。Hr-FAが主であり、わずかに上部に炭化物がある。
- 11層 Hr-FA
- 12層 Hr-FA+炭化物

図224 51号住居カマド

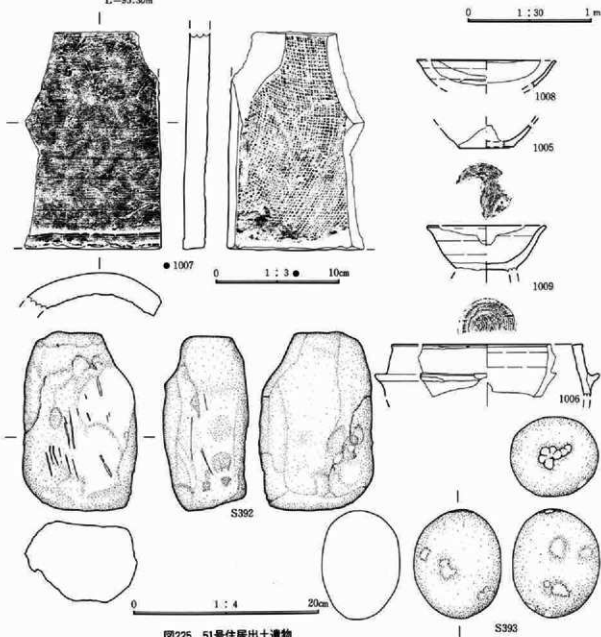


図225 51号住居出土遺物

52号住居 図226-228, PL60-61-145-146, 表P.47

位置 Y・Z-60グリッド

規模 縦2.5m 横2.37m 深0.25m

形状 隅丸方形

重複 52号溝に先行する。カマドの燃焼部奥が溝に埋されている。

主軸方位 N-106°-E

埋没土 上層は軽石や焼土粒を含む灰褐色土で埋没している。下層はあまり軽石を含まない灰色粘質土を含む。

床面 茶褐色土粒・黄色土粒が混ざる灰色シルト質土を掘り方に充填し、床面としている。中央部の床面は硬化していた。

貯蔵穴 検出されなかった。

周溝 検出されなかった。

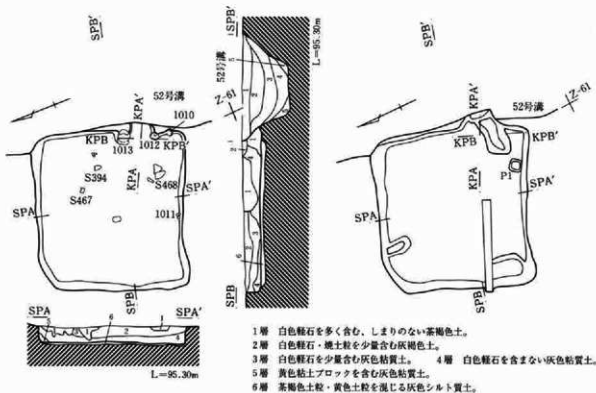
柱穴 掘り方面で南壁に接して1本のビットを検出したが、柱穴とは確定しがたい。

柱穴No	長径	短径	深さ	備考
P 1	0.2m	0.18m	0.03m	

掘り方 床面より4~6cm掘り下げている。掘り方面はほぼ平坦であるが、南西隅には床下土坑が検出された。床下土坑は長径0.8m、短径0.5m、深さ0.04mの楕円形である。

遺物出土状態 出土遺物の量はあまり多くない。南壁際の床面直上で土師器杯形土器(1011)が、南西隅で床面から8cm浮いて土師器杯形土器(1010)が出土した。また、磨石等(S394・S467・S468)が埋没土中から出土している。M42の金環はカマド右前の床面からやや浮いた状態で出土した。

カマド



## 52号溝

- 1層 暗茶褐色砂質土層 直径1mm前後の白色軽石を多く含む。しまりは強い。  
 2層 黒褐色砂質土層 直径1mm前後の白色軽石をわずかに含む。標名山起源の軽石・黄褐色小粒子を微量含む。  
 3層 黒褐色土層 やや粘性有り。白色軽石をわずかに含む。  
 4層 暗灰褐色土層 直径1cm前後の黒色小ブロックが全体に含まれる。標名山起源の軽石・1cm前後の黄褐色小ブロックをわずかに含む。粘性は強い。  
 5層 標名山起源の軽石の黄色ブロックが流入再堆積。黒色小ブロックも少量含まれる。

図226 52号住居

0 1:60 4m

第8章 住居の調査

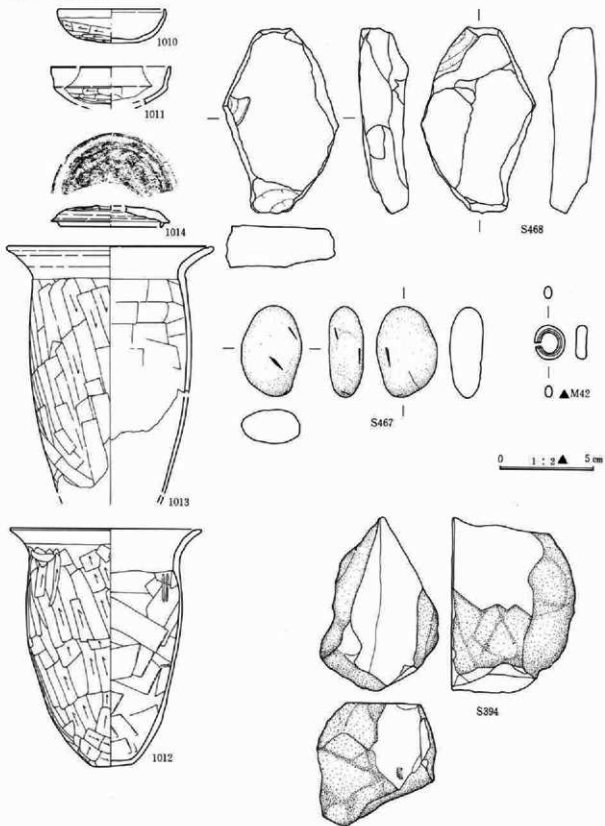


図227 52号住居出土遺物

0 1:4 20cm

位置 東壁南寄り

規模 全長 $0.25 + \alpha$  m 屋外長不明

最大幅 $0.90$  m 焚き口幅 $0.28$  m

遺存状態 燃焼部の中央部から煙道部にかけては52号溝に破壊されている。遺存している燃焼部はよく焼けており、掻き出した灰も、カマド前の床面に広がっていた。袖は $18$  cmほど住居内に張り出しており、土器を芯にして粘土を貼り付けて作られている。

遺物出土状態 袖の芯に土師器甕形土器（1012・1013）が使われていた。燃焼部埋没土中にも土師器甕形土器破片が出土している。

調査所見 柱穴は、掘り方を精査したが、P 1を除いて検出できなかった。本住居ではカマド袖の芯に土師器甕形土器が、使用されているが、本遺跡ではあまり類例がない。（小島）

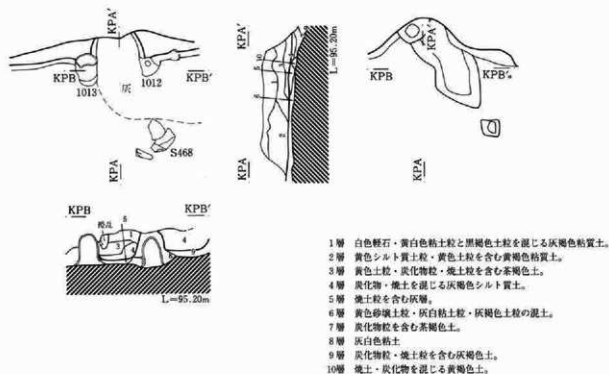


図228 52号住居カマド

0 1:30 1 m

53号住居 図229-231, PL60-61, 146, 表P.48

位置 2 B・2 C-63・64グリッド

規模 縦 $4.84 + \alpha$  m 横 $2.85 + \alpha$  m 深 $0.22$  m

形状 方形と推定されるが、北・西・東の三方に重複遺構があり、南壁の一部しか確認できなかったの、全体像は不明である。

重複 51号・53号・73号溝に先行する。

南壁方位 N-102°-E

埋没土 軽石を少量含む褐色土で埋まっていた。

床面 掘り込んだ地山をそのまま床面としている。

床面はほぼ平坦であるが、あまり硬化していない。

貯蔵穴 検出されなかった。

周溝 検出されなかった。

柱穴 検出されなかった。

掘り方 なし。

遺物出土状態 南壁付近にやや集中して床面近くの遺物が出土した。図示し得た遺物はほとんど埋没土中の出土である。

カマド 調査・確認できた範囲の中では検出されなかった。

調査所見 調査時に住居内に滞水し、床面の状況などの詳細は不明である。（小島）

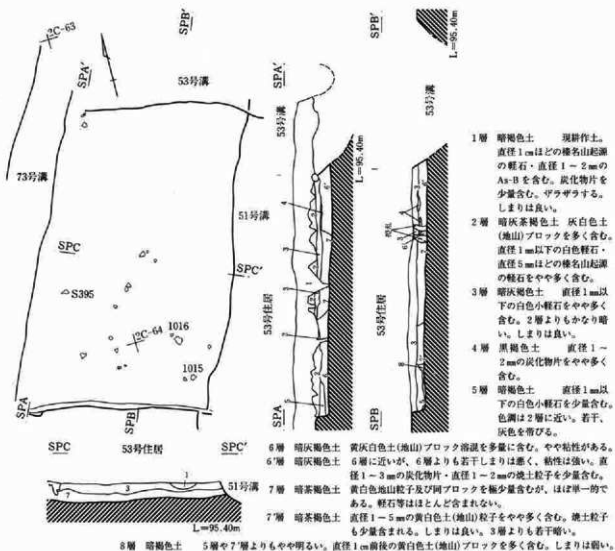


図229 53号住居

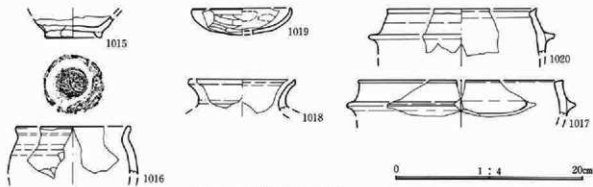


図230 53号住居出土遺物(1)

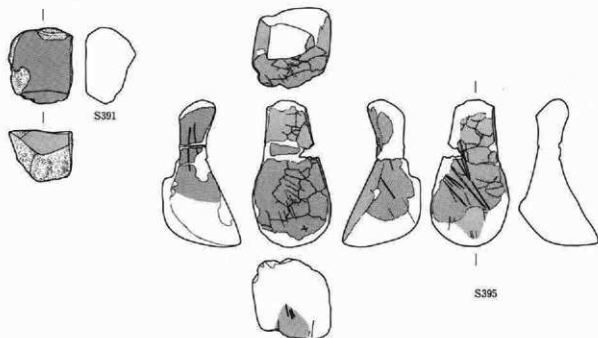


図231 53号住居出土遺物(2)

0 1 : 3 10cm

## 58号住居 図232

位置 K・L-39グリッド

規模 縦2.77m 横2.75m 深0.10m

形状 隅丸正方形

重複 なし

主軸方位 N-11°-W

埋没土 確認できた壁高が4-10cmと非常に低く、  
 焼土粒・炭化物粒を含む褐色土が遺存するにすぎない。

床面 掘り込んだ地山をそのまま床面としている。

あまり硬化していない。

貯蔵穴 検出されなかった。

周溝 検出されなかった。

柱穴 検出されなかった。

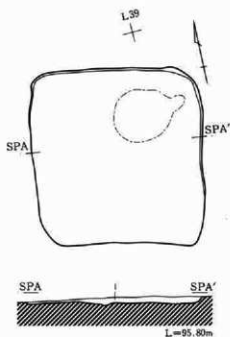
掘り方 なし

遺物出土状態 ほとんど遺物は出土していない。

カマド 北東部床面に炭化物が広がる部分があったが、壁につくりつけのカマドは検出されなかった。

調査所見 住居としての情報は極めて少なく、住居以外の機能も考えなければならない遺構であるが、

ここでは便宜上住居として報告した。(小島)



1層 茶褐色土・焼土粒・黄色粘土・炭化物粒を含む。

0 1 : 60 4m

図232 58号住居

## 第8章 住居の調査

### 59号住居 図233

位置 K・L-36・37グリッド

規模 縦3.56+ $\alpha$ m 横2.15+ $\alpha$ m 深0.12m

形状 隅丸方形と推定されるが、東半分は発掘調査区域外である。

重複 なし

主軸方位 N-10°-W

埋没土 焼土粒や炭化物粒を含む褐色土で埋まっている。

床面 掘り込んだ地山をそのまま床面としている。

北西隅の床面はやや高くなっている。

貯蔵穴 検出されなかった。

周溝 西壁沿いの一部に幅18cm、深さ1~4cmの周溝が検出された。

柱穴 北西部に1本のみ検出された。位置的には主柱穴とも考えられるが、やや浅いので断定できない。

柱穴No	長径	短径	深さ	備考
P1	0.20m	0.20m	0.10m	

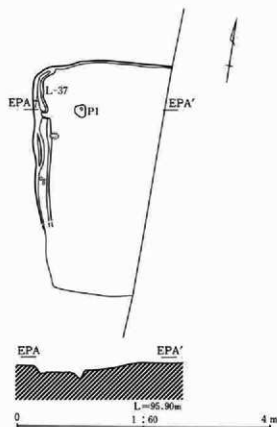


図233 59号住居

掘り方 なし

遺物出土状態 遺物の出土はほとんどない。西周溝内に円礫が出土したが、石器ではない。

カマド 調査できた範囲の中では検出されなかった。

調査所見 本住居も、住居としての情報は少ない。東半分が、未調査であるので、断定はできないが、隣接する58号住居同様、住居以外の遺構である可能性もあろう。(小島)

### 60号住居 図234、PL61・62、表P.48

位置 K・L-35・36グリッド

規模 縦3.2+ $\alpha$ m 横3.2+ $\alpha$ m 深0.04m

形状 隅丸方形と推定される。北壁は調査年次の違う調査区の境にあたり、確認できなかった。

重複 34号溝に後出する。

主軸方位 N-103°-E

埋没土 確認面からの深さは非常に浅い。軽石や黄褐色土粒を含むやや砂質の褐色土で埋まっている。床面 貼床が施されており、床面にはやや凹凸があるが、硬化していた。

貯蔵穴 南東隅カマド右横に検出された直径0.6mの円形の小ピットが、位置関係からすると貯蔵穴の可能性はある。

周溝 検出されなかった。

柱穴 検出されなかった。

掘り方 床面から4~6cmほど掘り下げられた掘り方が検出された。カマド前面はやや深くなっていた。炭化物粒・黄褐色土粒を含む褐色土が充填されている。

遺物出土状態 住居内から出土する遺物は少ない。南壁に沿った後出する溝から土師器杯形土器(1034)が出土しているが、住居にともなう可能性は少ない。

カマド

位置 東壁南隅寄り

規模 全長0.4m 屋外長0.35m

最大幅0.5m 焚き口幅0.5m



遺存状態 確認面から燃焼面までは浅く、5cmほどである。焼土粒を多く含んだ褐色土で埋没している。あまり焼けていない。

遺物出土状態 出土遺物はほとんどない。

調査所見 本住居のなかで確実に検出できたのは、カマドとその周辺の硬化した床面のみである。東壁

は一部で確認できたが、西壁は未確認であり、61号住居との新旧関係は不明である。また南壁には幅30cmほどの溝があり、南壁は不明確であった。この溝が住居に伴うかどうかは判然としなない。東壁は先行する34号溝との判別がつかず、同時に掘ってしまっているため不明確な部分が多い。(小高)

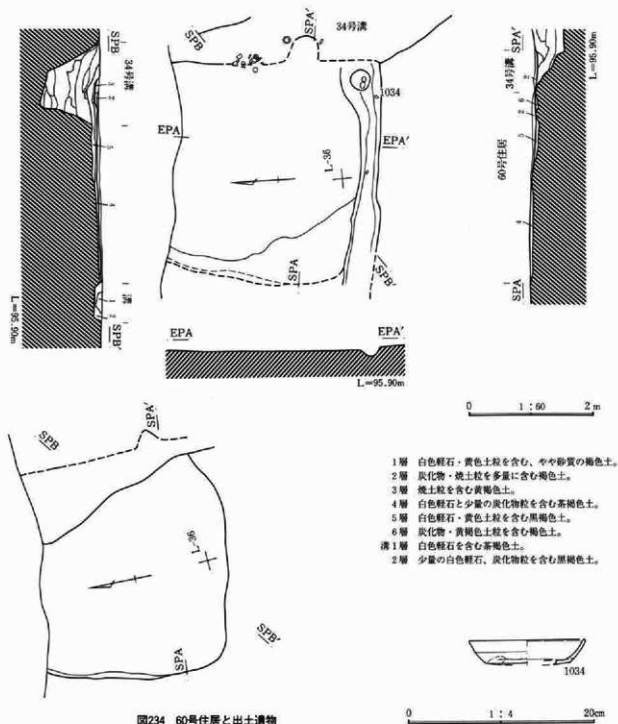


図234 60号住居と出土遺物

## 第8章 住居の調査

### 61号住居 図235-237, PL62-146, 表P.48

位置 L・M-35グリッド

規模 縦3.45+ $\alpha$ m 横2.65+ $\alpha$ m 深0.03m

形状 隅丸方形と推定されるが、西壁は調査区外、北壁は前年度調査区との境のために確認できなかったので全体像は不明である。

重複 62号住居に先行する。

主軸方位 N-110°-E

埋没土 確認面からの深さは浅く4~5cmである。軽石・黄色土粒を含む黒褐色土で埋没している。床面 掘り込んだ地山をそのまま床面としている。カマド周辺には硬化した面がある。

貯蔵穴 検出されなかった。

周溝 東壁と南壁に周溝が検出された。東壁はカマドの両脇のみで幅4cm、深さ2cmである。南壁は調査できた範囲では途切れることなく確認でき、幅6cm、深さ2cmであった。

柱穴 床面で4本のビットと掘り方で1本のビットが検出されたが、柱穴との確認はない。

柱穴No	長径	短径	深さ	備考
P 1	0.30m	0.30m	0.35m	
P 2	0.30m	0.30m	0.35m	
P 3	0.20m	0.20m	0.12m	
P 4	0.25m	0.22m	0.08m	
P 5	0.22m	0.12m </td <td>0.17m</td> <td></td>	0.17m	

掘り方 なし

遺物出土状態 南壁近くや北西部に、床面近くの遺物が集中して出土している。北西部では土師器杯形土器(1036・1037)が床面直上で、南東部では土師器杯形土器(1038)が3cmほど浮いて出土した。

カマド

位置 東壁中央

規模 全長0.75m 屋外長0.7m

最大幅1.10m 焚き口幅0.7m

遺存状態 遺存状態は不良で、袖や焼部壁も削平されている。焼土や灰の残存範囲の記録にとどまった。

遺物出土状態 ほとんど遺物の出土はない。

調査所見 確認面から床面までが数cmであり、住居の遺存状態は良くない。床面の精査で住居中央寄りにビットを数本検出したが、住居の構造を推定できるような柱穴は確定できなかった。(小島)

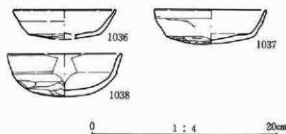


図235 61号住居出土遺物

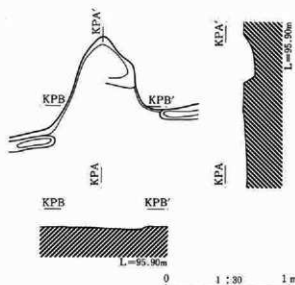


図236 61号住居カマド

### 62号住居 図237-238, PL62-146, 表P.48-49

位置 M-35・36グリッド

規模 縦1.62+ $\alpha$ m 横3.85+ $\alpha$ m 深0.17m

形状 住居の西部は染谷川の現河道があり調査不可能であった。カマド付近と南東部のみの調査にとどまったので、隅丸方形と推定されるが断定できない。

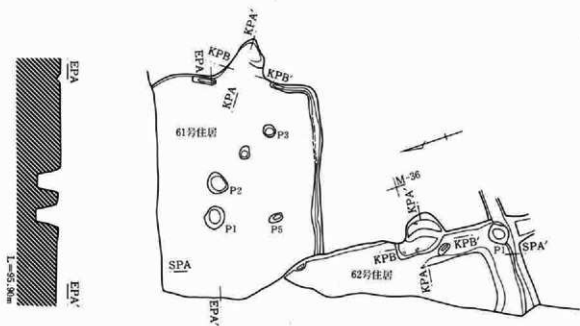
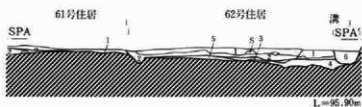
重複 61号住居に後出する。

主軸方位 N-97°-E

埋没土 上層は多量の軽石と焼土粒・炭化物粒を含

2 カマド付設住居

- 61号住居 1層 白色軽石・黄色土粒・焼土粒を含む黒褐色土。  
 2層 掘り方 床面下  
 62号住居 1層 多量の白色軽石と焼土粒・炭化物粒を含む灰褐色土。  
 2層 焼土粒と少量の白色軽石を含む茶褐色土。  
 3層 焼土粒と炭化物を含む黒褐色土。  
 4層 白色軽石・黄色土粒・焼土粒を含む黒褐色土。  
 5層 砂礫土(黄色)  
 6層 白色軽石を多量に含む茶褐色砂質土。



0 1 : 60 4 m

図237 61号・62号住居

第8章 住居の調査

む灰褐色土で、下層は焼土粒・軽石を含む茶褐色土で埋没している。

床面 掘り方充填土で床面がつくられているが、顕著な硬化面はない。

貯蔵穴 検出されなかった。

周溝 検出されなかった。

柱穴 検出されなかった。

掘り方 南壁付近は10~18cm、北部で3~4cmほど床面から掘り下げている。中央部は掘り残された形となっている。南部は軽石・黄色土粒・炭化物を含む黒褐色土で、北部は黄色の砂壤土で充填されている。

遺物出土状態 カマド周辺に集中して遺物が出土している。特にカマド前面には角閃石安山岩の礫が8個集中して出土したが、使用痕・整形痕等が残るも

のではなかった。

カマド

位置 東壁中央やや南寄り

規模 全長0.9m 屋外長0.4m

最大幅0.6m 焚き口幅0.5m

遺存状態 カマド前に礫が多く出土している。これらは石器ではないが、熱を受けたものもみられ、カマド構築材が崩落した可能性がある。

遺物出土状態 燃焼部で灰面からやや浮いた状態で、土師器杯形土器 (1039・1040) が出土している。

調査所見 カマド付近と南東隅のみ、調査可能であった。西側のほとんどは染谷川現河道で削平されている。南壁は60号住居の南壁に沿う新しい溝によって破壊されている。 (小島)

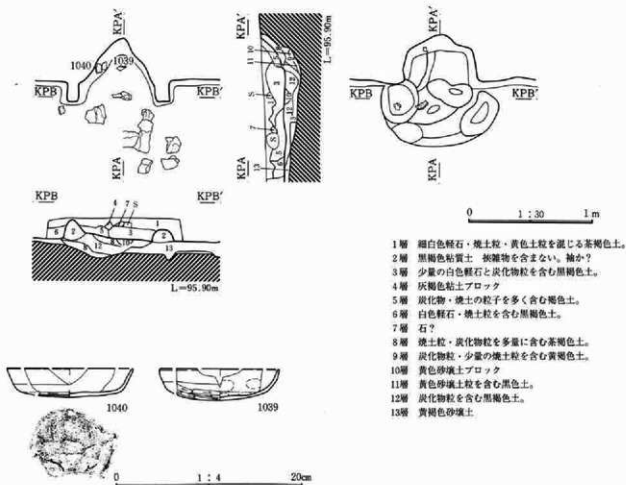


図238 62号住居カマドと出土遺物

65号住居 図239-240, PL62-146, 表P.48

位置 O・P-48グリッド

規模 縦3.35m 横3.20m 深0.10m

形状 隅丸方形と推定されるが、南東隅は68号溝によって壊されており、形状は不明である。

重複 61号・68号・69号溝に先行する。

主軸方位 N-87°-E

埋没土 上層は軽石・炭化物粒・黄色土粒を含む茶褐色土で、下層は黄色砂壤土・黒色粘土のブロックの混土で埋まっている。

床面 掘り込んだ地山をそのまま床面としている。中央部は硬化している。

貯蔵穴 検出されなかった。

周溝 検出されなかった。

柱穴 検出されなかった。

掘り方 なし

遺物出土状態 東壁付近や西北部の床面近くに遺物が出土した。カマド右前には6.6cmほど床面から浮いた状態で、土師器杯形土器(1053)が、左前から土師器甕形土器(1054)が床面直上で出土している。北西部では土師器杯形土器・甕形土器の破片が床面直上で出土している。

カマド

位置 東壁南寄り

規模 全長0.6+αm 屋外長0.52+αm

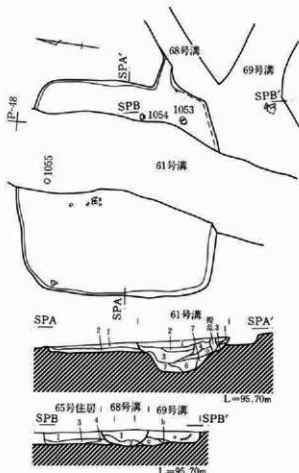
最大幅0.40+αm 焚き口幅0.32m

遺存状態 わずかに燃焼部の灰面が残存していた。

燃焼部の側面の壁もあまり焼けていない。

遺物出土状態 燃焼部の右脇で土師器杯形土器が床面直上で出土している。

調査所見 住居中央部を後出する61号溝が貫き、南東隅を68号・69号溝が壊しており、特にカマド周辺に不明な部分が多い。柱穴は床面を精査したが検出できなかった。(小島)



- 61号溝 1層 細白色軽石・炭化物粒・焼土粒を含む茶褐色土。  
2層 白色軽石・炭化物粒を含む黒褐色土。  
3層 白色軽石・少量の炭化物粒を含む灰色粘質土。  
4層 少量の白色軽石と焼土粒を含む黒褐色粘質土。  
5層 少量の白色軽石と焼土粒を含む黒灰色粘質土。  
6層 直径1~2cmの黒褐色粘土小ブロック・白色軽石を含む茶褐色土。  
7層 直径3~5cmの黒褐色粘土ブロックと直径1~2cmの黄色土小ブロックを多量に混じる茶褐色土。
- 68号溝 1層 白色軽石を多量に含み、少量の焼土粒・黄色土粒を混じる黒褐色土。  
2層 白色軽石・黄色土粒を含む灰褐色土。
- 69号溝 a層 白色軽石を多量に含み、黄色土粒を多く含む黄褐色土。  
b層 a層に黒色土粒を混じる。  
c層 白色軽石・黄色土粒を混じる黒褐色土。

図239 65号住居

0 1:60 2m

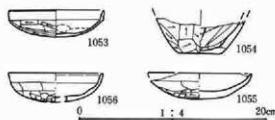


図240 65号住居出土遺物

- 65号住居 1層 細白色軽石・炭化物粒・黄色土粒を含む茶褐色土。  
2層 黄色砂壤土・黒色粘土ブロックの混土。  
3層 炭化物を多量に含み、焼土粒を混じる黒褐色土。  
4層 焼土粒・炭化物粒を少量混じる灰色粘質土。

67号住居 図241・242, PL146, 表P.49

位置 O・P-46グリッド

規模 縦3.6m 横2.15+αm 深0.15m

形状 西部の平面形は確認面が現河道に向かって下がっているため、削平されて不明である。隅丸方形と推定されるが、全体像は不明である。

重複 42号土坑・61号・70号・71号溝に先行する。

主軸方位 N-5°-W

埋没土 上層は軽石・焼土粒を含む黒褐色土で埋まっている。下層は炭化物粒を含む黄褐色土砂壤土で埋まっている。

床面 掘り込んだ地山をそのまま床面としている。

貯蔵穴 検出されなかった。

周溝 検出されなかった。

柱穴 検出されなかった。

掘り方 なし

遺物出土状態 床面近くの遺物はほとんどない。東壁付近に土師器杯形土器(1060)が、床面から7cmほど浮いて出土している。

カマド

位置 北壁中央やや東寄り

規模 全長0.5m 屋外長0.45m

最大幅0.45m 焚き口幅不明

遺存状態 カマド前面は70号溝によって破壊されており、焚き口部や袖の状況は明確でない。

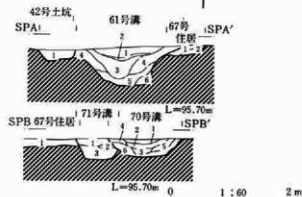
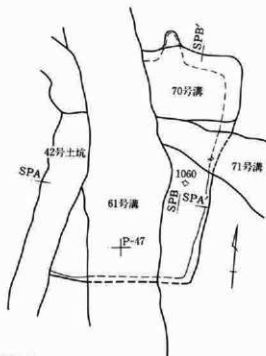
遺物出土状態 遺物は出土しなかった。

調査所見 61号・70号・71号溝、42号土坑に寸断され、北壁のカマド東側や東南部の壁を検出できたにとどまった。42号土坑の西側まで床面は続いていると推定されるが、やや確認面が下がっているため、床面はすでに削平されたと考えられる。(小島)



図241 67号住居出土遺物

図241 67号住居出土遺物



- 67号住居 1層 白色軽石・焼土粒を含む黒褐色土。  
2層 炭化物粒を含む黄褐色砂壤土。
- 61号溝 1層 白色軽石・焼土粒・炭化物粒を含む茶褐色粘質土。  
2層 焼土粒を含む炭化物層。  
3層 少量の白色軽石・焼土粒を含む灰褐色砂質土。  
4層 細白色軽石・黄色土粒・炭化物粒を含む灰褐色土。  
5層 直径1-2cmの黒色粘土小ブロック・黄色土粒を含む灰色シルト質土。  
6層 黄色砂壤土粒・直径2-3cmの小ブロックを多量に含む灰色土。
- 42号土坑 1層 細白色軽石を多量に含む茶褐色砂質土。  
70号溝 1層 直径0.5-1cm黄色砂壤土小ブロック・白色軽石・直径0.5-1cmの黒色粘土粒を混じる黒褐色粘質土。  
2層 少量の黒色土粒・直径1-2cmの黄色土小ブロックと白色軽石を含むやや粘質の茶褐色土。  
3層 灰色粘質土。4層 細白色軽石を多量に含む粘質茶褐色土。  
5層 白色軽石と黄色土粒を含む灰褐色粘質土。  
6層 直径2-3cmの黒色粘土小ブロックを含む5層。
- 71号溝 1層 白色軽石・黄色土粒・黒色土粒を含む茶褐色土。  
2層 白色軽石・黄色土粒を含む灰褐色砂壤土。  
3層 白色軽石・直径3-4cmの黄色砂壤土ブロック・砂利・砂を混じる灰褐色砂壤土。

図242 67号住居

78号住居 図243-245, PL63-146, 表P.49-50

位置 2B-62・63グリッド

規模 縦0.6+ $\alpha$ m 横4.1m 深0.17m

形状 隅丸方形と推定されるが、重複遺構によって全体像は不明である。

重複 53号・65号・73号溝に先行する。

主軸方位 N-115°-E

埋没土 上層は多量の焼土ブロック・焼土粒・炭化物粒を含む暗褐色土で、下層は灰白色(地山)ブロック・焼土粒を含む暗褐色土で埋まっている。

床面 貼床が施されている。

貯蔵穴 南隅で、長径0.68m、短径0.6m、深さ0.23mの不整楕円形を呈する貯蔵穴を検出した。

周溝 検出されなかった。

柱穴 検出されなかった。

掘り方 南半部は床面から15cmほど掘り凹められていた。

遺物出土状態 カマド周辺および貯蔵穴内に遺物が出土した。カマド前ではほぼ床面近くで葎石(S435)、磨石(S434)が出土している。貯蔵穴埋没

土中からは須恵器杯形土器(1109)、椀形土器(1111)羽釜(1113)が出土している。カマド左脇東壁際で須恵器小形壺形土器が床面から7cmほど浮いて出土した。

カマド 東壁にカマドを2基検出。

カマド1

位置 東壁中央やや北寄り

規模 全長0.5m 屋外長0.3m

最大幅0.5m 焼き口幅0.33m

遺存状態 比較的良好に残っている。

遺物出土状態 須恵器の破片が出土。

カマド2

位置 東壁中央

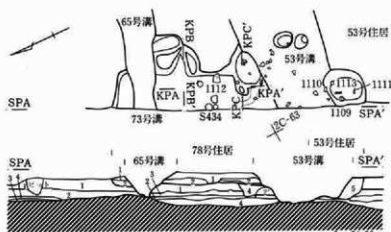
規模 全長0.7m 屋外長0.37m

最大幅0.55+ $\alpha$ m 焼き口幅0.40+ $\alpha$ m

遺存状態 53号溝によって削平されている。

遺物出土状態 土器片や石が出土している。

調査所見 西部を73号溝と善勝寺堀、南部を53号溝で削平されており、東壁のカマド周辺のみしか検出できなかった。(小島)

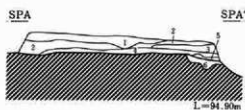
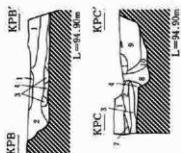
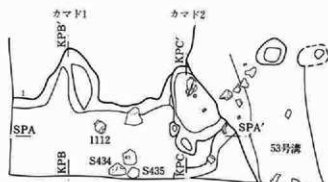


- 1層 暗褐色土 極めて多量の焼土ブロック及び同粒子を含む。炭化物も多く含まれる。
  - 2層 暗褐色土 灰白色土(地山)ブロック及び同粒子を多く含む。
  - 3層 暗褐色土 炭を多く含む。灰白色土(地山)粒子を少量含む。しまりは良い。
  - 4層 暗褐色土・灰白色土・黄褐色土の混土。しまりは弱い。
  - 5層 暗褐色土 FA粒子・炭化物・灰褐色土粒子を含む。しまりは良い。
- 地山1層 灰白色粘性土(シルト質) 若干、黄色みを帯びる。ラミナが認められる。
- 2層 灰褐色粘性土 1層よりも砂質の部分が多い。ラミナがある。
  - 2'層 2層とはほぼ同じであるが、2層よりもやや乱れがある。黒色土粒子・灰白色土粒子が若干混じる。
  - 3層 黄褐色砂質土 (Hr-FA)粘性をもつ部分も認められる。
  - 4層 黒色土 粘性土(粘土に近い)。単一的。

図243 78号住居

0 1:60 4m

第8章 住居の調査



- 1層 暗褐色土 焼土ブロック及び同粒子を極めて多量に含む。炭を多量に含む。白色軽石を少量含む。
- 2層 暗褐色土 炭化物・白色軽石を少量含む。
- 3層 黒褐色土 多くの炭を含む。灰白色土(地山)ブロックを含む。焼土粒子を少量含む。
- 4層 暗褐色土 多くの灰白色土(地山)ブロックを含む。炭はほとんど含まれない。
- 5層 暗褐色土 3層よりも、若干少なく炭を含む。灰白色土(地山)粒子を少量含む。
- 6層 灰褐色土 灰白色土(地山)粒子を多量に、直径1mm以下の炭化物を少量含む。
- 7層 明褐色土 灰白色土(地山)ブロックを極めて多量に含む。
- 8層 褐色土 茶褐色土(地山)粒子を少量含む。しまりは悪く、粘性もない。攪乱?
- 9層 灰褐色土 灰白色土(地山)ブロックの溶混を含む。炭・白色軽石を少量含む。
- 10層 灰白色地山ブロック・黄褐色地山ブロック・灰褐色土の混合土。炭化物粒子を少量含む。

図244 78号住居カマド

0 1:30 1m

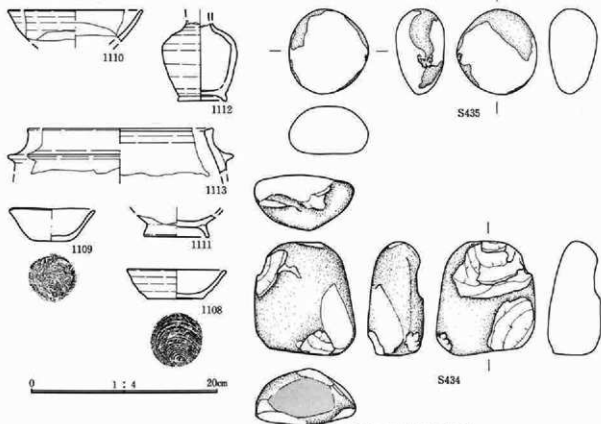


図245 78号住居出土遺物



79号住居 図246-247, PL63-64-146-147, 表P.50

位置 2C-64グリッド

規模 縦0.6+αm 横3.05+αm 深0.17m

形状 不定形

重複 73号・74号溝に先行する。

主軸方位 N-113°-E

埋没土 焼土や炭化物粒を含む暗褐色土で埋没している。

床面 貼床が施されている。

貯蔵穴 検出されなかった。

周溝 検出されなかった。

柱穴 検出されなかった。

掘り方 住居の全体を調査していないので、全体の傾向が把握できない。土層断面の観察によれば、カマド左脇には褐色土ブロックを含む黄褐色砂壤土層があり、掘り方が掘られていたとみられる。

遺物出土状態 南側のカマドを中心に遺物が出土している。

カマド 東壁に2基のカマドが検出された。埋没土層の観察では両者の新旧関係は明確でなく、同時に

使われていた可能性もある。

カマド1 位置 東壁南寄り

規模 全長0.7m 屋外長0.45m

最大幅0.9m 焚き口幅0.8m

カマド2 位置 東壁北寄り

規模 全長0.6m 屋外長0.55m

最大幅0.6m 焚き口幅0.48m

遺存状態 両カマドとも燃焼部内には炭化物を主体とする層が3~5cmほど残っている。

遺物出土状態 カマド内からは須恵器杯形土器(1114)、羽釜(1115~1118)が出土したが、ほとんど破片である。また、南側のカマド内には砂岩の礫が多数出土している。カマドの構築材の可能性があり、支脚として燃焼面に埋め込まれたものもある。

調査所見 73号・74号溝に破壊され、東壁のカマド周辺のみしか検出されていない。狭い範囲の調査であったので、平面的に本住居を確認できず、溝の法面の土層観察によって住居の範囲を確認し、平面的に掘り下げた。

(小島)

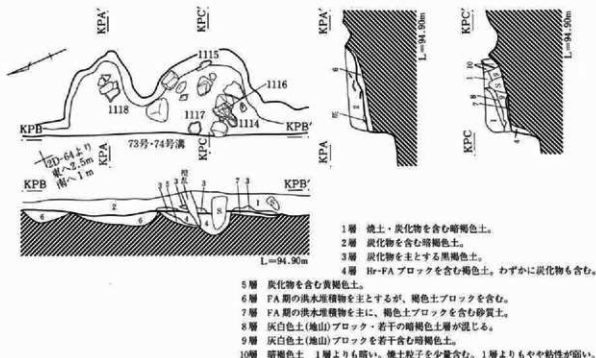


図246 79号住居カマド

0 1:30 1m

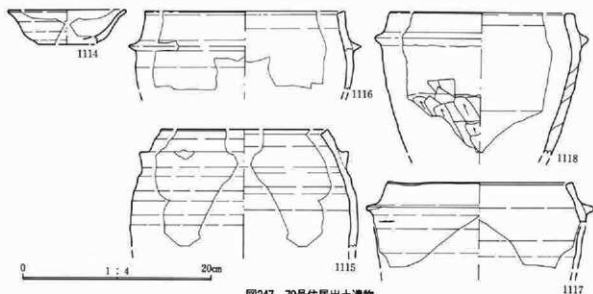


図247 79号住居出土遺物

80号住居 図248-249, PL64-146, 表P.50

位置 L・M-43・44グリッド

規模 縦2.9m 横2.68+ $\alpha$ m 深0.12m

形状 隅丸方形と推定されるが、東壁が78号溝に壊されているため確認できず、全体像は不明である。

重複 78号溝に先行し、86号住居・80号溝に後出。

主軸方位 N-100°-E

埋没土 上層は榛名山起源の軽石と黄灰白色砂質土のブロックを含む明黄白褐色砂質土で、床面直上は榛名山起源の軽石を少量含む暗褐色土である。

床面 掘り方を、軽石・黄灰白色砂質土ブロック・灰褐色土ブロックを含むやや黄色みを帯びた暗褐色粘土で埋めて貼床がつくられている。カマド前や西半部には硬化面があった。

貯蔵穴 南東隅に長径0.4m、短径0.37m、深さ0.11mの楕円形の貯蔵穴が検出されている。

周溝 検出されなかった。

柱穴 床面の中央やや東寄りに小ピットが検出されたが、柱穴かどうかは判然としない。

柱穴No	長径	短径	深さ	備考
P 1	0.23m	0.16m	0.09m	
P 2	0.20m	0.16m	0.26m	

掘り方 床面から下へ1~6cmほど掘り込まれている。底面はほぼ平らであるが、北西隅には掘り残さ

れた部分があり、カマド前には長径1.5×短径1.15m 深さ0.01~0.07mの不定形の凹地がある。

遺物出土状態 カマドや住居の埋没土中から遺物が出土しているが、あまり多くはない。カマド埋没土中から須恵器甕形土器(1121)、土師器杯形土器(1119)が出土している。また1122の埴輪が埋没土中から出土した。

カマド

位置 東壁中央

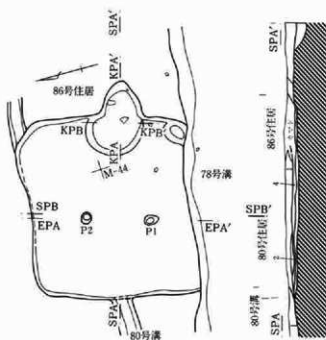
規模 全長1.21m 屋外長0.54m

最大幅0.55m 焚き口幅0.58m

遺存状態 袖や袖の残存と思われる部分は遺存していない。焼土の崩落は目立たず、しっかり焼けたカマドではないと思われる。掘り方内には直径0.4mほどの範囲で2~5cmほどの凹みが掘られている。掘り方を軽石・炭化物・少量の焼土を含む灰褐色土で埋めて燃焼面をつくっている。支脚等の付設された痕跡はない。カマド掘り方焚口の前面では0.2×0.19mの円形の浅いピットがある。

遺物出土状態 燃焼部で灰面より13cm浮いて須恵器甕形土器の破片が出土している。

調査所見 埋没土内からの出土遺物が多く、直接遺構に関係するものは1121がカマド内からの出土である。(小高)



## 80号住居

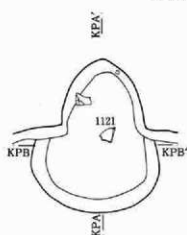
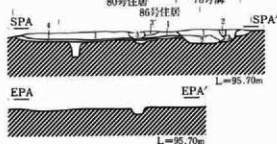
- 1層 明黄白褐色土 樺名山起源の軽石をやや多く含む。黄灰白色砂質土(地山)ブロックを多く含む。1層よりも色調は明るい。砂質。
- 2層 暗褐色土 樺名山起源の軽石を少量含む。しまりは1層よりも良い。
- 3層 暗褐色土 しまりが悪く、バサバサする。樺名山起源の軽石を少量含む。
- 3'層 暗褐色土 やや黄色みを帯びる。樺名山起源の軽石を少量含む。黄灰白色砂質土(地山)ブロックを少量含む。
- 4層 暗褐色土 黄褐色土ブロックをやや多く含む。わずかに粘性がある。

## 78号溝

- 1層 暗褐色土 直径1mm前後の樺名山起源の軽石を多く含む。直径1~3mmの黄褐色土(地山)粒子を少量含む。1層よりもやや暗い。
- 2層 暗褐色土 青灰色土ブロックを多く含む。樺名山起源の軽石を極少量含む。1層よりもやや明るい。
- 3層 暗青灰色砂質土 黄褐色土粒子を少量含む。しまりは悪い。

## 80号溝

- 1層 明赤褐色土 樺名山起源の軽石粒子を多く含む。黄灰白色砂質土(地山)ブロックを多く含む。やや砂質。バサつく。1層よりも色調は暗い。



- 5層 褐色土 やや黄色みを帯びる。黄灰白色土(地山)ブロックを多く含む。直径1mmほどの灰化物粒子をわずかに含む。
- 6層 褐色土 5層よりも暗い。直径2~3mmの黒褐色土粒子を多く含む。黄灰白色土(地山)ブロックと樺名山起源の軽石を少量含む。
- 7層 明褐色土 灰白色砂質土(地山)・黄灰白色土(地山)ブロックを多く含む。樺名山起源の軽石の円礫を少量含む。しまりは良い。
- 8層 灰褐色土 軽石・灰化物粒・灰・少量の焼土粒を含む。

図248 80号住居

0 1:60 2m

0 1:30 1m

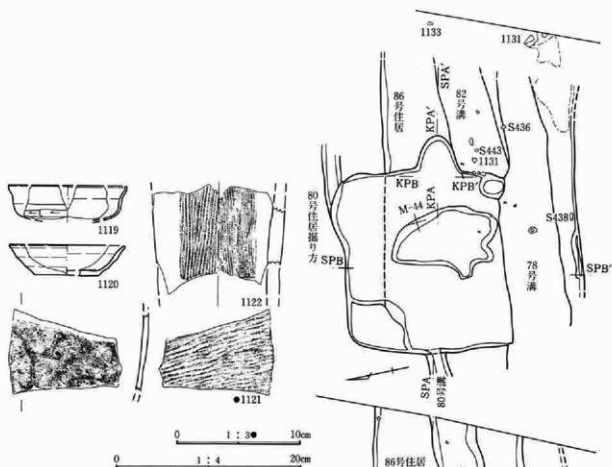


図249 80号住居出土遺物

86号住居 図250・251、PL147、表P.50・51

位置 L・M-43・44グリッド

規模 縦2.0+αm 横3.2+αm 深0.1m

形状 方形と推定されるが、北壁の一部しか確認されなかったため全体像は不明である。

重複 80号住居・78号・86号溝に先行し82号溝に後出する。

主軸方位 N-100°-W

埋没土 灰褐色土ブロックや榛名山起源の軽石を含む暗褐色土で埋まっている。

床面 掘り込んだ地山を床面としている。

貯蔵穴 調査できた範囲の中では検出されなかった。

周溝 調査できた範囲の中では検出されなかった。

柱穴 調査できた範囲の中では2つのピットが検出

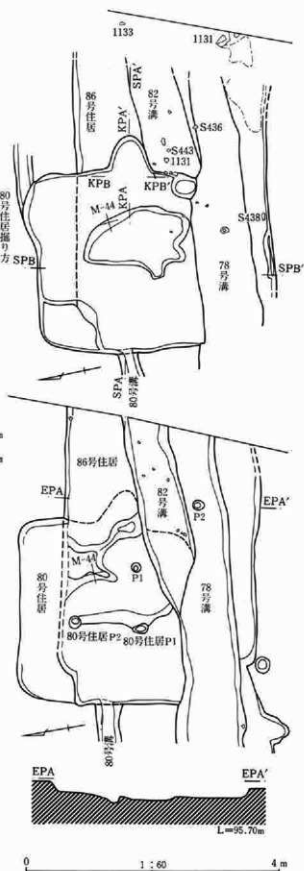


図250 86号住居

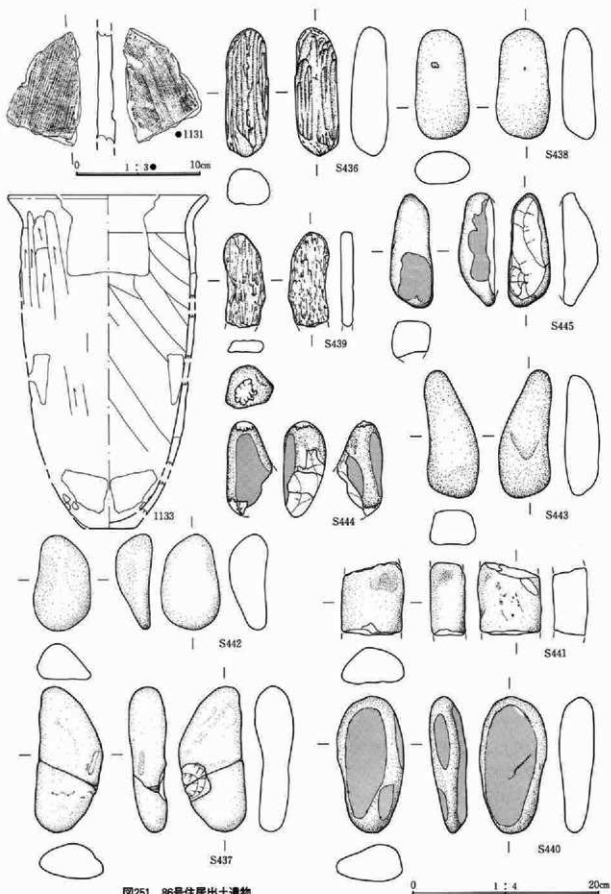


図251 86号住居出土遺物

## 第8章 住居の調査

された。

柱穴No	長径	短径	深さ	備考
P 1	0.24m	0.16m	0.04m	
P 2	0.20m	0.16m	0.08m	

掘り方 明確な掘り方は確認できなかった。

遺物出土状態 中央部で埴輪片が多く出土した。また南東部の床面直上で土師器甕形土器（1133）が出土した。

カマド 調査できた範囲の中では検出されなかった。

調査所見 発掘区内ではカマドが検出されていないが、1133の周辺の床面上には灰が広がっており、東壁にカマドが作られていることが推定される。

（小島）

### 82号住居 図252-254、PL65-147、表P.51

位置 L-44グリッド

規模 縦1.65+ $\alpha$ m 横2.20+ $\alpha$ m 深0.2m

形状 隅丸方形と考えられるが、東側は発掘区域外であったので全体像は不明である。

重複 81号住居・78号溝に先行する。

主軸方位 N-4°-E

埋没土 黄褐色土粒・炭化物粒を含む暗褐色土で埋没していた。

床面 貼床が施されている。床面は平坦である。

貯蔵穴 検出されなかった。

周溝 検出されなかった。

柱穴 検出されなかった。

掘り方 床面より10-18cmほど掘り下げられた部分がある。黄褐色土ブロックを少量含む青灰褐色土で埋まっている。底面は凹凸が著しい。81号住居と接する地点には長径0.53m、短径0.35m、深さ0.04mの楕円形の床下土坑が掘られている。

遺物出土状態 遺物の出土量は少ない。床面では南東部で土師器杯形土器（1130）が出土している。掘り方では北西壁際底面直上で須恵器杯形土器（1129）が出土している。

カマド 調査できた範囲の中では検出されなかつ

た。

調査所見 部分的な調査であったので、住居の全体については不明な点が多い。調査は後出する81号住居と一緒に進めた。81号住居の南壁際には床面下に掘り込みがあり、その西側は本住居の西壁に一致している。したがってこの落ち込みは81号住居の掘り方である可能性もある。

（小島）

### 81号住居 図252-253、PL64-65-147、表P.51

位置 L・M-44・45グリッド

規模 縦2.88m 横3.60+ $\alpha$ m 深さ0.18m

形状 東壁沿いは発掘区域外であるので調査できなかった。隅丸方形と推定されるが、全体像は不明である。

重複 82号住居に後出する。

主軸方位 N-180°-E

埋没土 榛名山起源の軽石を含むしまりの良い暗褐色土で埋まっている。一部南東部には暗青灰褐色土が床面を覆っている。

床面 掘り込んだ地山をそのまま床面としている。

貯蔵穴 調査できた範囲の中では検出されなかったが、カマドの右脇に小ピットが検出されている。

周溝 検出されなかった。

柱穴 カマドの右脇に小ピットが2本検出されているが、柱穴とは考えられない。

柱穴No	長径	短径	深さ	備考
P 1	0.35m	0.30m	0.06m	
P 2	0.5m	0.23+ $\alpha$ m	0.04m	

掘り方 なし

遺物出土状態 床面上ではカマド前床面直上で円筒埴輪の体部破片が出土したが、多くの遺物が住居中央部で出土した。図示した須恵器甕形土器（1127）、円筒埴輪（1125・1126）は床面直上の出土である。南壁際の凹地には円筒埴輪の体部破片や土師器杯形土器が底面直上で出土した。

カマド

位置 南壁中央

規模 全長0.67m 屋外長0.1m

最大幅0.76m 焚き口幅0.40m

遺存状態 袖は左右とも高さ3cmほどの基部が残存していた。右袖は屋内に56cm張り出している。左袖は発掘区外のため不明である。

遺物出土状態 カマド内の前面には円筒埴輪の体部破片が出土しているが、燃焼部での遺物の出土はなかった。

調査所見 本住居の南壁沿いには楕円形の2つの皿状の落ち込みがある。ひとつは長径0.88m、短径0.57m、深さ0.05m、もうひとつは長径0.5+ $\alpha$ m、短径0.7m、深さ0.05mであったが、これらは床面下層の掘り込みに影響されて沈んだものと考えられる。この掘り込みは先行する81号住居の掘り方である可能性がある。(小島)

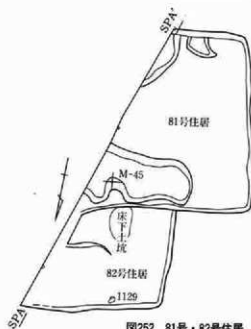
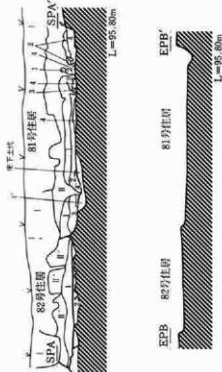
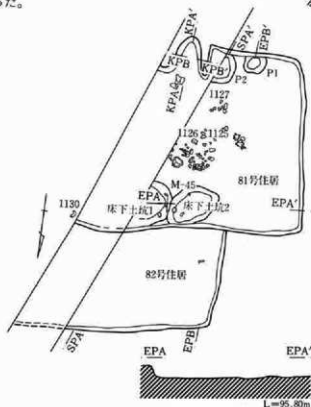


図252 81号・82号住居

- |               |   |
|---------------|---|
| 81号住居 1層 暗褐色土 | II層よりも黄褐色土(地山)を少なく含む。標名山起源の軽石の量はほとんど変わらない。しまりは良い。           |
| 2層 暗青灰褐色土     | 標名山起源の軽石を少量含む。しまりは良く、粘性がある。                                 |
| 3層 青灰褐色土      | 粘性は2層よりも強く、しまりも強い。  |
| 4層 青灰褐色土      | 多くの黄褐色土(地山)ブロック及び同粒子を含むため、やや黄色みを帯びる。標名山起源の軽石を少量含む。しまりは最も強い。 |
| 4'層 青灰褐色土     | 4層よりも、黄褐色土(地山)ブロック及び同粒子の量は少ない。しまりは強い。                       |
| I層 暗褐色土       | しまりは悪く、ボンボンする。(現耕作土)  |
| II層 褐色土       | 標名山起源の軽石を多く含む。黄褐色土(地山)粒子・ブロックを含み、全体にやや黄色みを帯びる。しまりは良い。       |
| II'層 褐色土      | II層に劣いが、II層ほど黄色みは弱い。しまりは良い。                                 |
| 82号住居 1層 暗褐色土 | 全体にやや青灰色を帯びる。黄褐色土粒子を少量含む。炭化物粒子を微量含む。                        |
| 2層 青灰褐色土      | 黄褐色土粒子及び同ブロックを少量含む。   |

0 1:60 4m

第8章 住居の調査

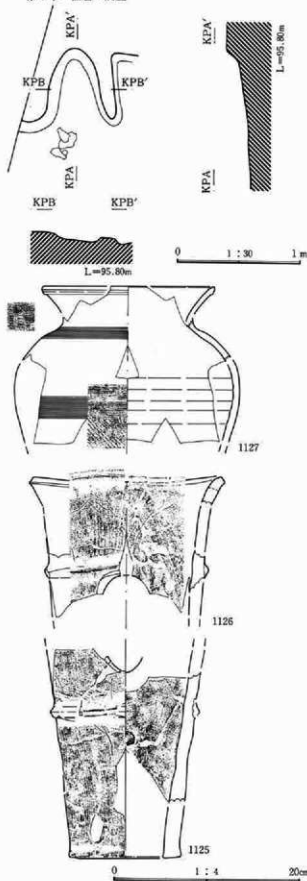


図253 81号住居カマドと出土遺物



図254 82号住居出土遺物

89号住居 図255-256, P.65, 表P.51

位置 M-46グリッド

規模 縦 $3.27 + \alpha$  m 横 $1.8 + \alpha$  m 深0.12 m

形状 住居の大半は発掘区域外で、西壁は79号溝に壊されており、北壁の一部しか確認できなかったため、全体形状は不明である。

重複 70号・79号溝に先行する。

北壁方位 N-89°-E

埋没土 黄褐色土粒・ブロックを含む青灰褐色土で埋まっていた。

床面 掘り方が、多量の黄褐色土・榛名山起源の軽石を含む暗青灰褐色土で埋められ、床面がつくられていた。

貯蔵穴 調査できた範囲の中では検出されなかった。

周溝 調査できた範囲の中では検出されなかった。

柱穴 調査できた範囲の中では検出されなかった。

掘り方 調査できた範囲の内、北半分を中心に、床面より3cmほど掘り下げられている。

遺物出土状態 床面での遺物の出土はなく、埋没土中から数十片の土器片が出土した。図示した遺物は埋没土中から出土したものである。

カマド 調査できた範囲の中では検出されなかった。

調査所見 調査できたのは住居の一部であり、全体像は不明である。 (小島)

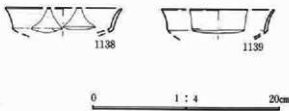
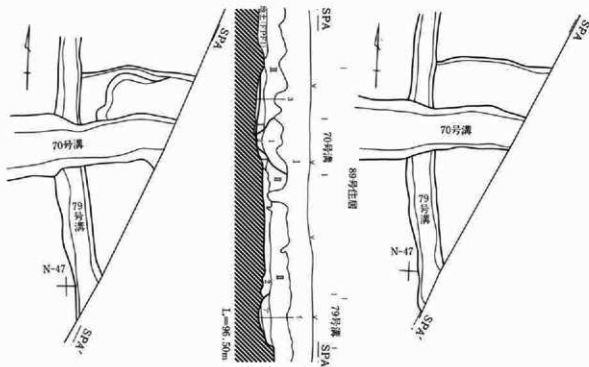


図255 89号住居出土遺物





- 89号住居 1層 暗青灰褐色土 黄褐色土粒子・標名山起源の軽石を少量含む。粘性があり、しまりは良い。  
 2層 青灰褐色土 黄褐色土ブロックを多く含む。標名山起源の軽石を少量含む。しまりは良い。  
 3層 暗青灰褐色土 多量の黄褐色土を含む(2層よりもやや量が多い)。標名山起源の軽石を少量含む。しまりは非常に良い。  
 表土I層 暗褐色土(現耕作土)しまりは悪く、ボソボソする。構成粒子は粗い。  
 II層 褐色土 青灰色土及び黄褐色土を少量含む。しまりは良い。わずかに黄色みを帯びる。  
 70号溝 1層 暗褐色土 II層よりもわずかに黒い。II層よりも標名山起源の軽石をやや多く含む。直径5mm以下の黄白色粗粒子をわずかに含む。しまりは非常に良い。  
 2層 暗青灰褐色土 黄褐色粒子を少量含む。炭化物粒子微量。わずかに砂質。79号溝A層 2層よりもやや明るい。褐色土。  
 青灰色土の溶混を多く含む。黄褐色粗粒子をわずかに含む。  
 4層 明褐色土 黄灰白色土(地山)ブロックを多量に含む。

図256 89号住居

0 1:60 4m

## 108号住居 図257

位置 T-57グリッド

規模 縦1.7+αm 横1.1+αm 深0.44m

形状 隅丸方形と推定される。

重複 58号土坑に先行する。

主軸方位 N-3°-E

埋没土 暗褐色土層であり、標名山起源の軽石や炭化物粒、焼土粒を少量含む。他に灰白褐色土ブロック・暗青灰色砂質土ブロックを多量に含んでいる。

床面 貼床が施されている。固くしまりがあり、わずかに凹凸がある。

貯蔵穴 検出されなかった。

周溝 検出されなかった。

柱穴 検出されなかった。

掘り方 床面下に約5cm掘り込まれている。灰白色土ブロックを多量に含むしまりのある褐色土で埋まっている。

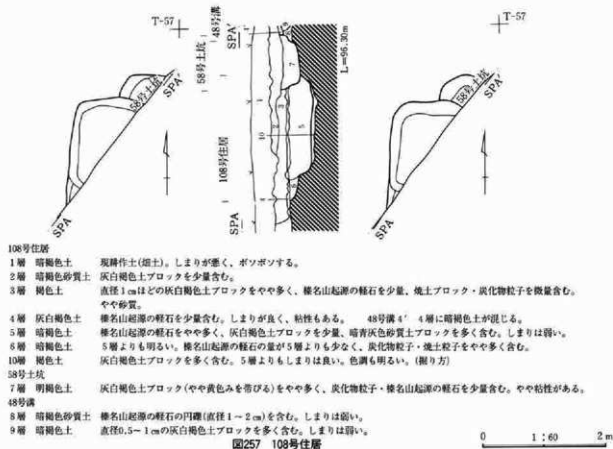
遺物出土状態 遺物は出土していない。

カマド 検出されなかった。

調査所見 遺構の大部分は、東側の調査区外へ伸びるため、遺構の性格は推定の域を出ない。このため関連施設のカマド・柱穴・貯蔵穴等の存在や状態は判明しない。

(相京)

## 第8章 住居の調査



### 116号住居 図258-259, PL66-148, 表P.52

位置 S-56グリッド

規模 縦2.2+αm 横0.9+αm 深0.1m

形状 隅丸方形と推定されるが、北西隅しか調査できなかったため、全体形状は不明である。

重複 南ピットに切られている。このピットの規模は長径0.5+αm×短径0.9×深さ0.16m。

主軸方位 N-20°-E

埋没土 褐色系の土で埋没している。上層は黄白褐色土のブロックを多く含み、焼土粒を微量含む。下層では黄白色土ブロックがより多く含まれ、炭化物粒を微量含む。

床面 掘り込んだ地山をそのまま床面としている。中央付近がわずかに凹むが、全体としてはほぼ平坦であり、わずかな凹凸がある。床面は硬化している。

貯蔵穴 調査できた範囲の中では検出されなかった。

周溝 調査できた範囲の中では検出されなかった。

柱穴 調査できた範囲の中では検出されなかった。

掘り方 なし

遺物出土状態 1215の土師器杯形土器が埋没土内から出土している他に、1216の羽釜形土器が出土。

カマド 調査できた範囲の中では検出されなかった。

調査所見 住居の東は調査区外であり、未調査である。調査区外に2/3以上が存在する可能性がある。このため、カマドや柱穴・貯蔵穴などの附属施設については不明な点が多い。(相京)

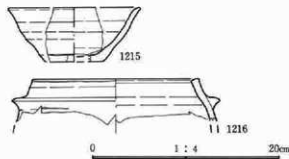
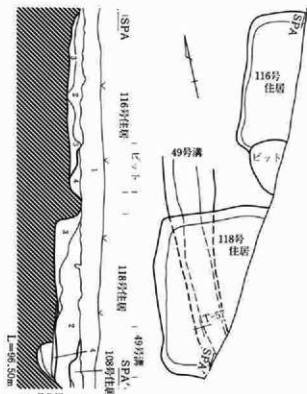


図258 116号住居出土遺物



## 116号住居

- 1層 暗褐色土 耕作土。椋名山起源の軽石を少量含む。しまりは悪い。
- 2層 暗褐色土 1層よりもやや明るく、青みを帯びる。黄白褐色土ブロックをやや多く含む。焼土粒子を微量含む。1層よりも粘性はあるが、2層よりも少ない。
- 3層 褐色土 黄白褐色土ブロックを多量に含む。炭化物粒子を微量含む。粘性がある。

## ピット

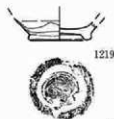
- 4層 黒褐色土 黒色土粒子を極めて多量に含む。

## 118号住居

- 2層 暗褐色土 椋名山起源の軽石を多く含む。砂質。
- 3層 褐色土 黄白色土ブロックを少量、焼土粒子を微量含む。
- 4層 暗褐色土 黄白色土ブロックを多量に含む。暗青灰色土ブロックをやや多く含む。しまりは良く、粘性がある。

0 1:60 2m

図259 116号・118号住居



1219

0 1:4 20cm

図260 118号住居出土遺物

## 118号住居 図259-260, PL66-146, 表P.52

位置 S・T-56・57グリッド

規模 縦2.6m 横1.4+αm 深0.40m

形状 隅丸方形と推定される。

重複 49号溝に後出する。

主軸方位 N-10°-E

埋没土 椋名山起源の軽石を多量に含む暗褐色土が埋没土の大半を占める。床面に接して黄白色土ブロックを少量と、焼土粒を微量含む褐色土が流れ込んだ様相を呈している。

床面 床面はほぼ平坦である。49号溝の上層部分は貼床状にして構築している。

貯蔵穴 調査できた範囲の中では検出されなかった。

周溝 調査できた範囲の中では検出されなかった。

柱穴 調査できた範囲の中では検出されなかった。

掘り方 49号溝の上層にあたる住居中央から南側にかけてわずかに貼床状の暗褐色土が認められる。黄白色土のブロックを多量に含み、暗青灰色土ブロックをやや多く含む。しまりのよい粘性土である。

遺物出土状態 須恵器高台付碗形土器 (1219) が埋没土中から出土している。

カマド 調査できた範囲の中では検出されなかった。

調査所見 住居の東側は調査区外であり、未調査である。また、本住居は49号溝の埋没土を切り込み構築されている。床面下に49号溝の下部が残っている。

(相京)

## 133号住居 図261

位置 V・W-54グリッド

規模 計測不能

形状 不明

重複 52号溝に後出する。

主軸方位 N-124°-E

カマド

位置 東壁の一部に位置するものと考えられる。

規模 全長0.75+αm 屋外長0.75+αm

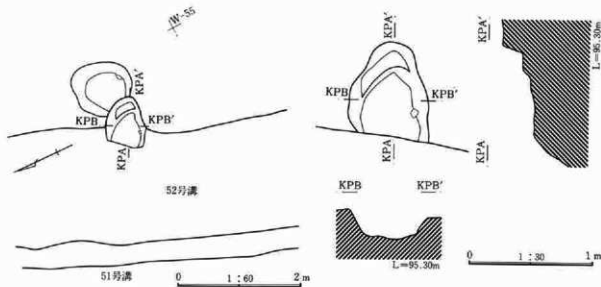


図261 133号住居

最大幅0.63+ $\epsilon$ m 焚き口幅0.44+ $\epsilon$ m

**遺存状態** カマド煙道部分によって北東部に位置する不整形のピット（長径1m、短径0.85m、深さ0.1m）を切っている。

**遺物出土状態** カマド内使用面直上に土師器甕形土器の底部が1点出土した。

**調査所見** 本住居は、V・W-54グリッドにおいてカマドの一部（煙道部付近）が検出された。その他は52号溝によって切られたと考えられ、形状その他は不明である。また51号溝も52号溝の西側に平行して存在することや、確認面の高さが西側に傾いて低くなっているため、住居の残っていることは考えにくく、削られた可能性が高い。（相京）

141号住居 図262～264、PL66～68、148、表P.52

**位置** X-59グリッド

**規模** 縦2.96m 横3.46m 深0.22m

**形状** 隅丸方形

**重複** なし

**主軸方位** N-95°-E

**埋没土** 床面直上の一部には暗灰色土層が堆積し、炭化物を多量に含む。本住居の主たる埋没土は暗灰褐色土層であり、黄白色土ブロックと粒を多量に含

み、榛名山起源の軽石も含んでいる。上層には暗褐色土が堆積している。多量の軽石を含む他、灰褐色土ブロック・黄白褐色土を多めに含む。

**床面** 貼床が施されている。床面はしっかりしていて、ほぼ平坦である。

**貯蔵穴** 掘り方調査時に南西隅で、長径0.69m、短径0.61m、深さ0.17mの楕円形の貯蔵穴を検出した。

**周溝** 検出されなかった。

**柱穴** 検出されなかった。

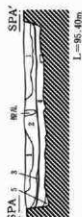
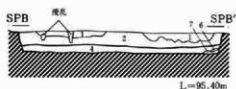
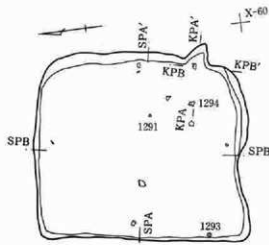
**掘り方** 床面下約10cmで掘り方に違する。多少の凹凸はあるもののほぼ平坦に掘られている。北壁ほぼ中央には南北に長さ約1m、幅約0.4m、深さ0.05mの溝状の落ち込みがある。掘り方を埋めているのは少量の黄白色土ブロックと炭化物粒、多量の軽石を含む。

**遺物出土状態** 床面からは南西壁下から1293の須恵器高台付椀形土器が出土している。他にカマド前面付近で、床面から1.5cm浮いて1291の須恵器の杯形土器、9cm浮いて1294の瓦破片が出土している。貯蔵穴内からは敲石（S463）が出土している。掘り方には須恵器杯形土器（1292）が出土している。

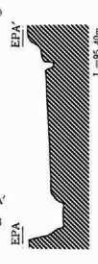
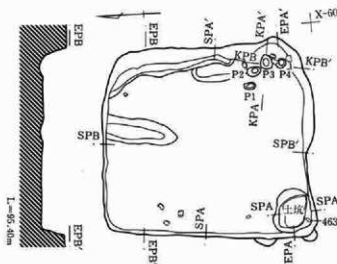
**カマド**

**位置** 東壁南寄り

## 2 カマド付設住居



- 1層 暗褐色土 多量の権名山起源の軽石を含む。灰褐色土ブロック・黄白褐色土粒子を多めに含む。2層に比べてやや砂質。
- 2層 暗灰褐色土 黄白褐色土ブロック及び同粒子を多量に含む。権名山起源の軽石を多めに含む。1層に比べてやや粘性がある。
- 3層 暗灰色土 炭化物を多量に含む。しまりも良い。2層よりも粘性が強い。
- 4層 暗灰色土 黄白褐色土ブロック・炭化物粒子を少量含む。権名山起源の軽石をやや多く含む。
- 5層 灰褐色土 4層よりもかなり明るい。灰白色土粒子を多量に含む。
- 6層 灰褐色土 5層よりも明るく、やや茶色みを帯びる。
- 7層 暗灰色土 4層よりも黒みが強い。灰白色土粒子を少量含む。



- 1層 暗灰色土 炭化物粒子を多く含む。灰白色土ブロックを少量含む。
- 2層 黒色炭化物・灰層 暗灰色土ブロックを多く含む。炭・灰を多量に含む。

図262 141号住居

0 1:60 4m

規模 全長0.35m 屋外長0.25m

最大幅0.35m 焚き口幅0.20m

遺存状態 明瞭に袖をとらえることはできなかった。使用面は焼土化しており、その下層は約20~30cm掘り込んで掘り方としている。掘り方面には4本の小ビットが確認された。

柱穴No	長径	短径	深さ	備考
P 1	0.20m	0.11m	0.12m	
P 2	0.20m	0.14m	0.01m	

P 3 0.25m 0.17m 0.06m

P 4 0.15m 0.15m 0.14m

遺物出土状態 使用面から16cm浮いて土器片が出土している。

調査所見 本住居は比較的しっかりとした形状で検出された。カマドは住居の東南の隅に位置し、貯蔵穴は南西部において検出された。掘り方をしっかりとっており、周溝状のわずかな落ち込みが最終段階でわずかに確認できた部分がある。(相京)

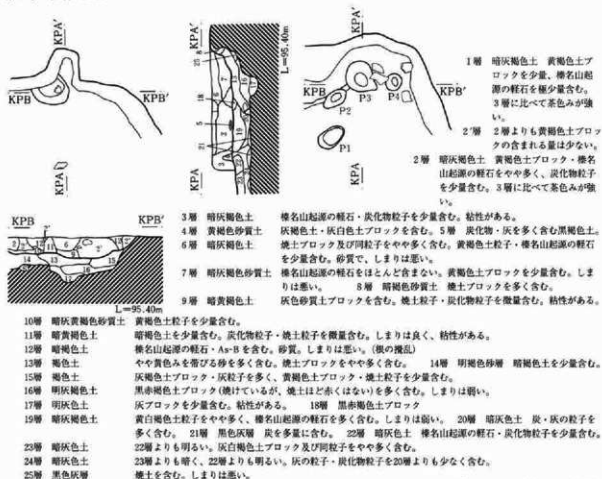


図263 141号住居カマド

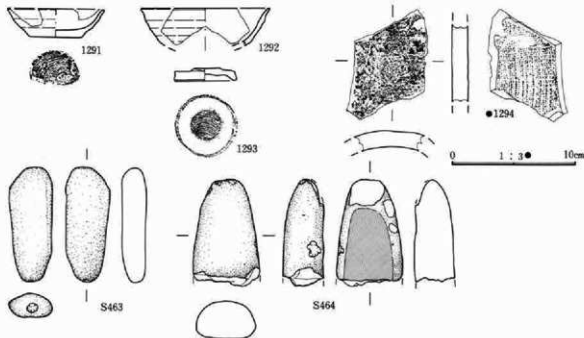


図264 141号住居出土遺物

## 142号住居 図265-266, PL67-68-148, 表P.52

位置 Y-58・59グリッド

規模 縦 $2.75 + \alpha$ m 横 $3.1 + \alpha$ m 深 $0.12$ m

形状 隅九方形

重複 52号溝に先行する。

主軸方位 N-101°-E

埋没土 カマドの粗没土の状況の記録しかない。

床面 掘り込んだ地山をそのまま床面としている。

床面は平らであるが、わずかに北に傾斜する傾向がある。

貯蔵穴 検出されなかった。

周溝 検出されなかった。

柱穴 検出されなかった。

掘り方 なし

遺物出土状態 カマド前の床面直上で1295の土師器変形土器が出土した。

カマド

位置 東壁中央

規模 全長 $0.68 + \alpha$ m 屋外長 $0.43$ m最大幅 $0.90 + \alpha$ m 焚き口幅 $0.40 + \alpha$ m

遺存状態 カマドの遺存状態はあまり良好ではない。袖等も未検出である。カマド右壁は平瓦によって壁面の崩落を防ぐ構築を行っている。カマドの使用面は焼土化し、深さ12cmで掘り方底面に達する。遺物出土状態 使用面より5.5cm浮いて1296の瓦が出土した。

調査所見 本住居の中央は南北に52号溝によって切られている。西壁は72号土坑や南北に細い溝が走り、これらによって切られている。本住居の調査は、現農道の下層がほとんどである。農道以外は畑地として長く使用されている。前年度調査で北壁周辺を調査しているが、本住居を確認できなかった。周辺でも同様な結果が出ており、農道下層の遺構の方が残存が良かったことを裏付けている。したがって本住居に関しては、カマド周辺部・西壁と両端の隅を検出したにとどまった。北壁は畑等の耕作によって削られ、南東隅は52号溝によって切られている。

(相京)

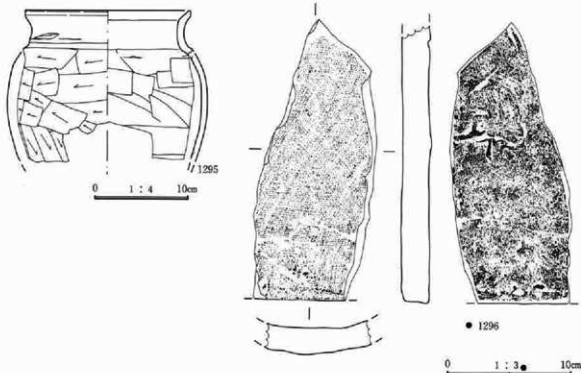
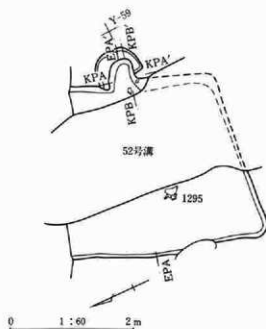
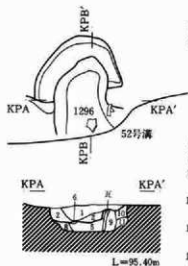


図265 142号住居出土遺物

第8章 住居の調査

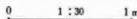


- 1層 暗灰褐色土 灰白色土ブロック・黄白色土ブロックを多量、焼土ブロックをやや多く、炭化物片を少量含む。粘性がある。  
 2層 暗褐色土 炭片を極めて多量に含む。焼土粒子を少量含む。  
 3層 暗灰色土 灰白色土粒子を多く含む。焼土粒子・炭化物粒子を少量含む。粘性がある。



- 4層 暗灰褐色土 炭化物粒子を多量に含む。焼土粒子を少量含む。1-3層に比べてやや黒みが強い。  
 5層 黄灰褐色粘性土 榛名山起源軽石を微量、炭化物粒子・焼土粒子を少量含む。しまりは良い。  
 6層 灰色粘性土  
 7層 暗灰褐色土 炭化物粒子をやや多く含む。しまりは弱い。  
 8層 暗黄灰褐色土 灰白色土をわずかに含む。  
 9層 暗灰色土 灰白色土を多量に含む。炭化物を少量含む。白色軽石(榛名山起源の軽石)を少量含む。焼土粒子をわずかに含む。  
 10層 暗灰色土 灰白色土を多量に含む。黄褐色土ブロックを少量含む。白色軽石(榛名山起源の軽石)をわずかに含む。  
 11層 暗灰褐色土 灰白色土を少量含む。黄褐色土ブロックを多量に含む。白色軽石(榛名山起源の軽石)をわずかに含む。  
 12層 暗黄褐色土 灰白色土・灰を少量含む。 13層 黄褐色土 灰白色土をわずかに含む。

図266 142号住居



144号住居 図267-269, PL67-68, 表P.52-53

位置 Y-59グリッド

規模 縦3.55m 横2.6+αm 深0.24m

形状 隅丸方形と推定される。

重複 52号溝に先行する。

主軸方位 N-91°-E

埋没土 埋没土の多くは暗灰褐色土層である。黒褐色土・榛名山起源の火山灰や軽石を少量含んでおり、しまり・粘性のある細かな土質である。上層は

暗褐色土で、灰白色・黄褐色土ブロックを少量、榛名山起源の軽石を多量に含んでいる。

床面 掘り込んだ地山をそのまま床面としている。硬化した床面を把握できた地点は、住居の北西部である。床面は比較的平坦ではあるが、中央部寄りで凹凸部分がある。東壁沿いの南部分に楕円形の小ピットがあるが、本住居に伴うものかははっきりしない。土層観察によるとカマド周辺の埋没土を切り込んで掘られている。



**貯蔵穴** 北西隅に、長軸1m、短軸0.85m、深さ0.14mの隅丸方形の貯蔵穴が検出された。貯蔵穴底面には直径15cm、深さ18cmの小さなピットが1本ある。

**周溝** 検出されなかった。

**柱穴** 検出されなかった。

**掘り方** カマド部分で一部ピット状の掘り方と考えられる落ち込みを確認した。

**遺物出土状態** 遺物は住居の西側から出土している。土師器甕形土器(1309)は北西隅の貯蔵穴東壁に密着して、住居の床面より4cm下位から出土している。1310は須恵器高杯形土器脚部、1311は須恵器甕形土器である。いずれも埋没土中から検出された土器である。

**カマド**

**位置** 東壁中央部

**規模** 全長0.50m 屋外長0.40m

最大幅0.22m 焼き口幅0.16m

**遺存状態** 煙道部分を除いて52号溝により切られている。カマドの燃焼部の一部は52号溝の法面から検出された。このため、袖や使用面の状態は不明瞭な部分が多い。カマド前面には長径0.35m、短径0.25m、深さ0.15mの楕円形ピットがある。

**遺物出土状態** カマド内からの出土遺物なし。

**調査所見** 本住居の調査は、農道部分を含んでおり、調査年度を異にして調査を行った。このため住居の南側にあたる現畑地部分は耕作によって削られ、住居の平面形をとらえることができなかった。道路部分下層の調査により検出できた住居の状況は前述したとおりである。また、住居のカマド付近は52号溝の法面上端付近に位置し、カマドの使用面と掘り方の一部は土層断面で見ることができ。52号溝の両側の住居床面にレベル差があることからカマド焼き口付近も52号溝に切れ、未検出であることがわかる。

(相京)

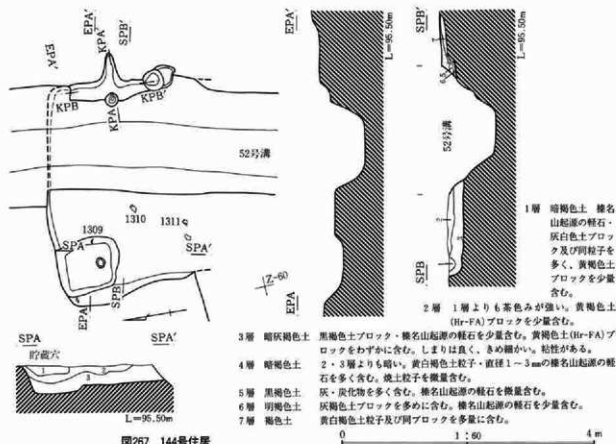


図267 144号住居

第8章 住居の調査

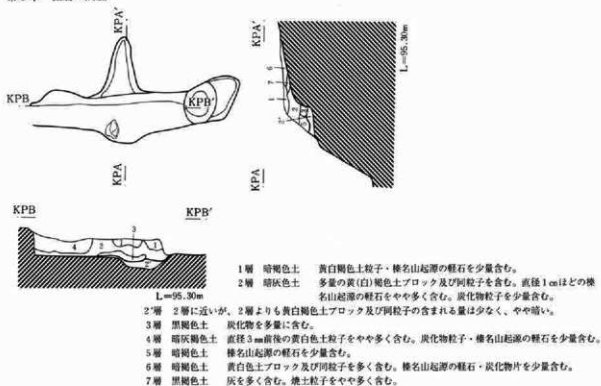


図268 144号住居カマド

0 1:30 1m

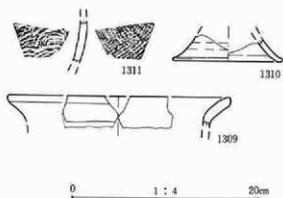


図269 144号住居出土遺物

## (3) 下り柳地区の住居

1号住居 図270-272, PL68-70-148, 表P.53

位置 K-28・29グリッド

規模 縦2.8m 横3.8m 深0.26m

形状 隅丸長方形

重複 27号溝に先行する。

主軸方位 N-90°-E

埋没土 黄白色粘質土ブロックや榛名山起源の軽石・火山灰等を含む灰褐色土である。一時的・人為的に埋められたものと考えられる。

床面 貼床が施されている。床面はほぼ平坦で、部分的に硬化した部分があった。

貯蔵穴 掘り方面の南東隅で検出された土坑は、床面の写真を見ると、その部分がわずかに汚れた状況が判断できるため、床面から掘り込まれている貯蔵穴になる可能性がある。この貯蔵穴の位置はカマドの横にあたる。貯蔵穴は長軸1.15m、短軸0.95m、深さ0.2mの隅丸方形を呈する。

周溝 検出されなかった。

柱穴 検出されなかった。

掘り方 床面下10cmほどのところに掘り方底面が確認された。掘り方底面には凹凸があり、床下土坑やピットが検出されている。床下土坑2はほぼ円形と推定されるが、新しい溝によって2/3ほど切られているため全体は不明である。床下土坑3もほぼ円形である。小形のピットも2本検出されている。

床下土坑No	長軸	短軸	深さ	備考
P 1	0.6+*m	不計測	0.07m	
P 2	0.85m	0.75m	0.2m	
P 3	0.15m	0.1m	0.05m	
P 4	0.32m	0.25m	0.1m	

遺物出土状態 遺物の出土量は少ないがカマドの前面から比較的まとまって出土している。出土遺物は杯形土器が多く、甕形土器の体部下半部が一点ある。

カマド

位置 東壁中央よりやや南側

規模 全長0.7m 屋外長0.3m

最大幅0.8m 焚き口幅0.42m

遺存状態 焼けた砂岩などがカマド前に出土し、袖の形状なども崩れた状況を示している。また、カマドの前面には炭化物粒や焼土粒が分布する。

遺物出土状態 カマド内埋没土中から杯形土器の小破片が出土している。

調査所見 住居跡西壁外に南北に3本柱穴がある。本遺構との関係は不明瞭である。下り柳2号住居出土の杯形土器の破片との接合関係がある。遺物の実測図は2号住居跡の出土遺物として扱った。

(相京)

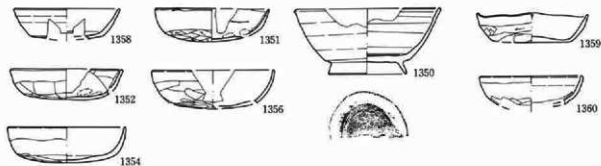
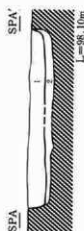
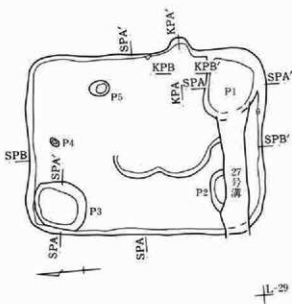
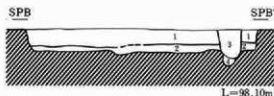
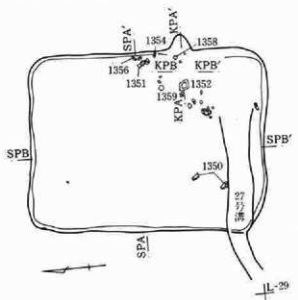


図270 1号住居出土遺物

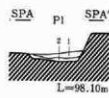


1号住居

- 1層 灰褐色土 黒色粘性土ブロック・黄白色～黄灰色粘性土ブロック・白色岩片結子を多量に含む。Hr-FAブロックを少量含む。上半部の方が下半部に比べて、黒色粘性土ブロックの含まれる量は多い。一時期に人為的に埋められたものと思われる。
- 2層 黄褐色土 黒色粘性土ブロックを少量含む。黄褐色粘性土を主体とする。

27号溝

- 3層 暗褐色土 As-Bを多量に含む(As-B以後の遺構)
- 4層 暗褐色土 As-Bを多量に含む(As-B以後の溝)。暗褐色粘質土ブロックを少量含む。



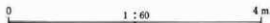
1号住居内土坑

- 1層 黄褐色土 黄褐色粘性土を主体とする。
- 2層 暗黄褐色土 黄褐色粘性土ブロックをわずかに含む。暗褐色土を主体とする。

1号住居内貯蔵穴

- 1層 暗褐色土 黄褐色粘性土ブロックをわずかに含む。
- 2層 暗褐色土 暗褐色粘性土を主体とする。

図271 1号住居



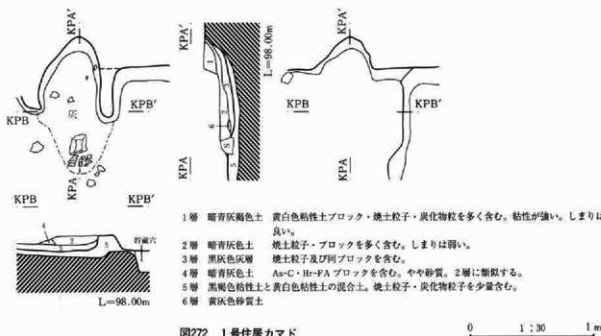


図272 1号住居カマド

## 2号住居 図273-274, PL70-148, 表P.53

位置 K・L-25・26グリッド

規模 縦2.7+αm 横3.95m 深0.25m

形状 隅丸方形

重複 現水路によって西壁部分が切られている。

主軸方位 N-87°-E

埋没土 少量の浅間C軽石と多量の灰白色粘土ブロックを含む。一時点で埋めたものと考えられる。

床面 貼床が施されている。床面はわずかに北に傾斜している。住居中央部分が周辺部に比して硬化している。

貯蔵穴 検出されなかった。

周溝 検出されなかった。

柱穴 掘り方底面に小ピットを検出した。

柱穴No	長径	短径	深さ	備考
P 1	0.3 m	0.3 m	0.23m	
P 2	0.10m	0.1 m	0.07m	
P 3	0.35m	0.22m	0.35m	
P 4	0.20m	0.15m	0.06m	
P 5	0.12m	0.09m	0.06m	

掘り方 床面下約0.2m掘り下げた掘り方底面に達

する。掘り方の充填土は黄褐色粘質土で、暗褐色土ブロックが混入している。底面では小ピットが5本検出された。

遺物出土状態 床面下から9点の破片が出土した。復元できたものは1号住居の遺物と接合できたものを合わせて2点の杯形土器であった。

## カマド

位置 東壁中央やや南側

規模 全長0.9m 屋外長0.6m

最大幅1.03m 焚き口幅0.6m

遺存状態 カマドは崩れていたが、掘り方底面に薄く焼土粒を含む黒色の灰層が残存していた。

遺物出土状態 右袖付近から土器の小破片が出土した。

調査所見 下り柳1号住居出土の杯形土器と接合関係がある。(相取)

第8章 住居の調査

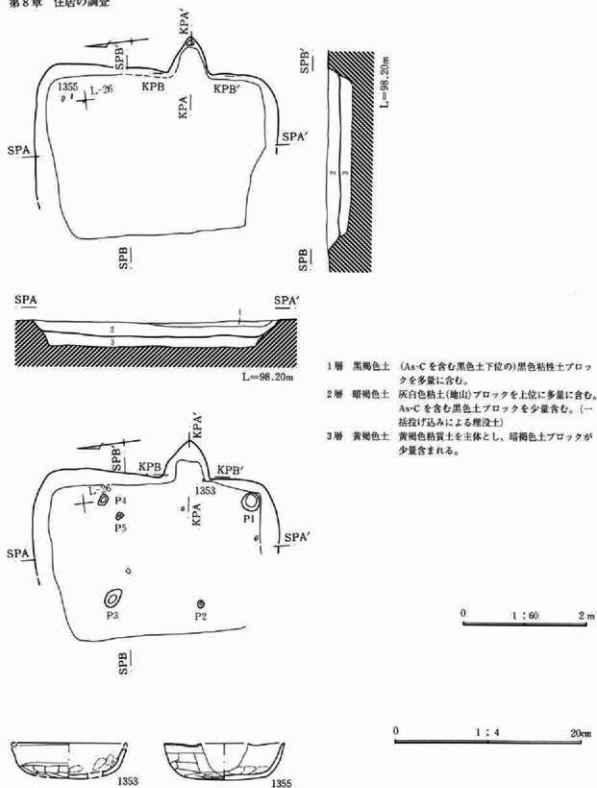
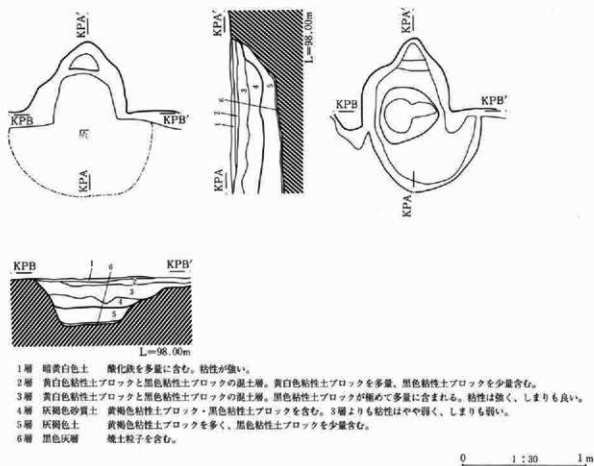


図273 2号住居と出土遺物



- 1層 暗黄白色土 酸化鉄を多量に含む。粘性が強い。
- 2層 黄白色粘性土ブロックと黒色粘性土ブロックの混土层。黄白色粘性土ブロックを多量、黒色粘性土ブロックを少量含む。
- 3層 黄白色粘性土ブロックと黒色粘性土ブロックの混土层。黒色粘性土ブロックが極めて多量に含まれる。粘性は強く、しまりも良い。
- 4層 灰褐色砂質土 黄褐色粘性土ブロック・黒色粘性土ブロックを含む。3層よりも粘性はやや弱く、しまりも弱い。
- 5層 灰褐色土 黄褐色粘性土ブロックを多く、黒色粘性土ブロックを少量含む。
- 6層 黒色灰層 焼土粒子を含む。

図274 2号住居カマド

### 3. 炉付設住居

2号住居 図275・276、PL70-71-149、表P.54

位置 I・J-22・23グリッド

規模 縦5.1m 横5.2+ $\alpha$ m 深0.04m

形状 隅丸方形 主軸方位 N-7°-W

重複 中央よりやや西を深さ30cmの新しい落ち込みに切られている。

埋没土 上層は榛名山起源の軽石を含む。下層にい

くにつれて浅間C軽石が少なくなる。

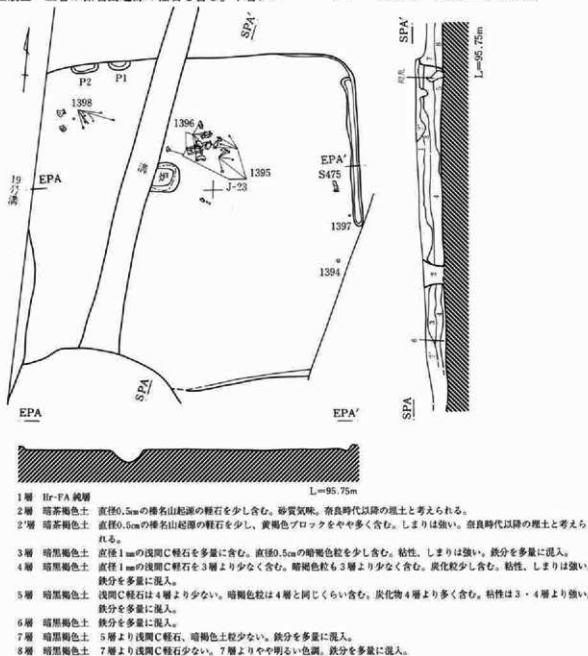
床面 あまりはっきりしない床面の状態である。中央がやや低い。

貯蔵穴 なし

周溝 東壁に幅14cm、深さ7cmの周溝が検出された。

柱穴 2本の柱穴が検出されている。

柱穴No	長径	短径	深さ	備考
P 1	0.34m	0.13+ $\alpha$ m	0.04m	
P 2	0.44m	0.13+ $\alpha$ m	0.04m	



- 1層 II-F-A 純層 L=95.75m
- 2層 暗茶褐色土 直径0.5cmの榛名山起源の軽石を少し含む。砂質気味。奈良時代以降の埋土と考えられる。
- 2'層 暗茶褐色土 直径0.5cmの榛名山起源の軽石を少し、黄褐色ブロックをやや多く含む。しまりは強い。奈良時代以降の埋土と考えられる。
- 3層 暗黒褐色土 直径1mmの浅間C軽石を多量に含む。直径0.5cmの暗褐色粒を少し含む。粘性、しまりは強い。鉄分を多量に混入。
- 4層 暗黒褐色土 直径1mmの浅間C軽石を3層より少なく含む。暗褐色粒も3層より少なく含む。炭化粒少し含む。粘性、しまりは強い。鉄分を多量に混入。
- 5層 暗黒褐色土 浅間C軽石は4層より少ない。暗褐色粒は4層と同じくらい含む。炭化物4層より多く含む。粘性は3・4層より強い。鉄分を多量に混入。
- 6層 暗黒褐色土 鉄分を多量に混入。
- 7層 暗黒褐色土 5層より浅間C軽石、暗褐色土粒少ない。鉄分を多量に混入。
- 8層 暗黒褐色土 7層より浅間C軽石少ない。7層よりやや明るい色調。鉄分を多量に混入。

図275 2号住居

0 1:60 4m



入口施設 なし

遺物出土状態 炉の周辺および東壁寄りにある。

炉

位置 中央やや北西寄り

規模 長軸0.46+ $\alpha$ m 短軸0.40m 深-m

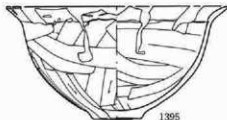
遺存状態 わずかに凹みがあり方形を呈する。



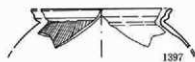
1394



1396



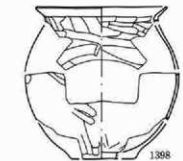
1395



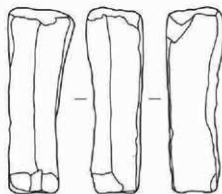
1397



1399



1398



●S475

0 1:3 10cm

0 1:4 20cm

図276 2号住居出土遺物

19号住居 図277, PL71-72-149, 表P.54

位置 J・K-26・27グリッド

規模 縦3.7+ $\alpha$ m 横3.0m 深0.3m

形状 隅丸長方形

重複 28号井戸が北東隅を切っている。

主軸方位 N-9°-E

埋没土 2層に分かれる。基本的には鉄分・浅間C

軽石を含むが、西壁近接部は浅間C軽石を含まず、粘質灰黒色土となる。

床面 西側がやや深い。

貯蔵穴 なし 周溝 なし

柱穴 なし 入口施設 なし

遺物出土状態 なし

調査所見 南西部で本住居を切る状態で確認された半円形の落ち込みは15号土坑であり、平安時代に降下した浅間Bテフラの純層が最下層に堆積している。埋没開始期は12世紀前半であるが、掘削時期は不明である。(小林)

遺物出土状態 本住居の中央から西側部分にかけてはトレンチにより試掘調査段階で貫かれている状態である。このため住居中央部よりも壁寄りに遺物が床面付近から出土している。床面直上出土の遺物は土師器壺形土器(1429)、ミニチュア土器(1417)、甍形土器(1419)がある。他に埋没土中からは1415・1416・1418が出土した。

炉 不明

調査所見 出土遺物から古墳時代前期の住居と判断できる。炉はトレンチの幅内にあったと考えられる。

(小林)

第8章 住居の調査

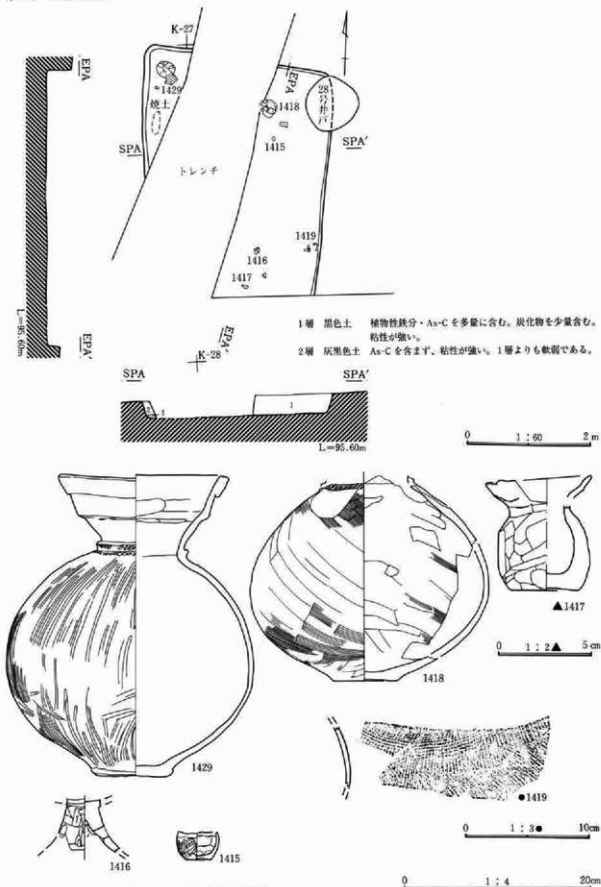


図277 19号住居と出土遺物

20号住居 図278-280, PL72-74-149-150, 表P.55-56

位置 I・J-25・26グリッド

規模 縦3.85+ $\alpha$ m 横3.85m 深0.3m

形状 隅九長方形

重複 北壁の一部がHr-FAに埋まっている溝に切られている。

主軸方位 N-9°-E

埋没土 2層に分かれる。上層は浅間C軽石を含む。

下層は浅間C軽石は含まず、炭化材・焼土粒を多量に含む。

床面 北側が浅く南側が深い。凹凸はあるが比較的しっかりした床面である。

貯蔵穴 なし 周溝 なし

柱穴 15本のピットが確認されたが、主柱穴は下記のP1~P3の3本と調査区外の1本と推定できる。

柱穴No	長径	短径	深さ	備考
P 1	0.28m	0.26m	0.19m	
P 2	0.23m	0.22m	0.53m	
P 3	0.35m	0.34m	0.53m	
P 4	0.25m	0.21m	0.1 m	

P 5	0.25m	0.22m	0.09m	
P 6	0.3 m	0.3 m	0.54m	
P 7	0.25m	0.21m	0.16m	
P 8	0.35m	0.3 m	0.04m	焼土A同位置
P 9	0.22m	0.15+ $\alpha$ m	0.15m	
P 10	0.25m	0.2 m	0.3 m	
P 11	0.2 m	0.14m	0.36m	
P 12	0.25+ $\alpha$ m	0.22m	0.59m	
P 13	0.2 m	0.15+ $\alpha$ m	0.22m	

入口施設 なし

遺物出土状態 中央から南半分に多く炭化材・焼土の上・下から出土する。床面直上からは壺形土器(1428)がある。その他北西部には壺形土器(1421・1423・1427・1632)が埋没土中から出土している。また壺形土器(1424)が床面よりわずかに浮いて出土した。掘り方面埋没土中から南東部から壺形土器(1425)、敲石(S476)がある。

炉 床面直上層の炭化材・焼土・遺物等を取りあげる前には、A付近を炉と考えていたが、遺物取りあげ後、精査すると、焼土が残る凹みが3ヶ所あり、Aは軟らかい焼土、Bは焼土の下に炭化物があり、

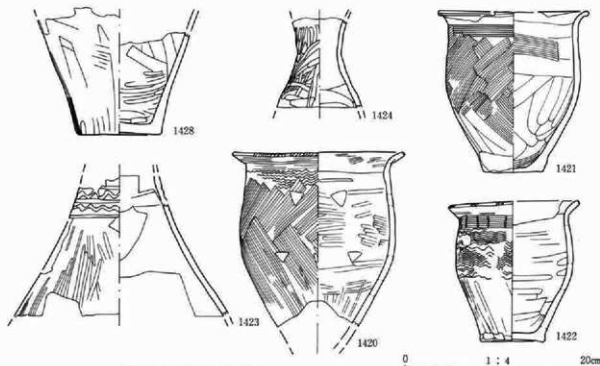


図278 20号住居出土遺物(1)

第8章 住居の調査

Cは非常に固い焼土が残されていた。どれが炉であるか決定できないが、B・Cである可能性が高い。

焼土Aからは壺形土器(1420・1422)が床面から4～5cm上位で出土した。

規模 A焼土 長軸0.35m 短軸0.29m 深さ0.04m

B焼土 長軸0.21m 短軸0.21m 深さ0.01m

C焼土 長軸0.40m 短軸0.28m 深さ0.08m

調査所見 本住居は東壁を調査区外に出す。住居西壁から西側付近にかけて10～15cmほど円形に高まりがある。(小林)

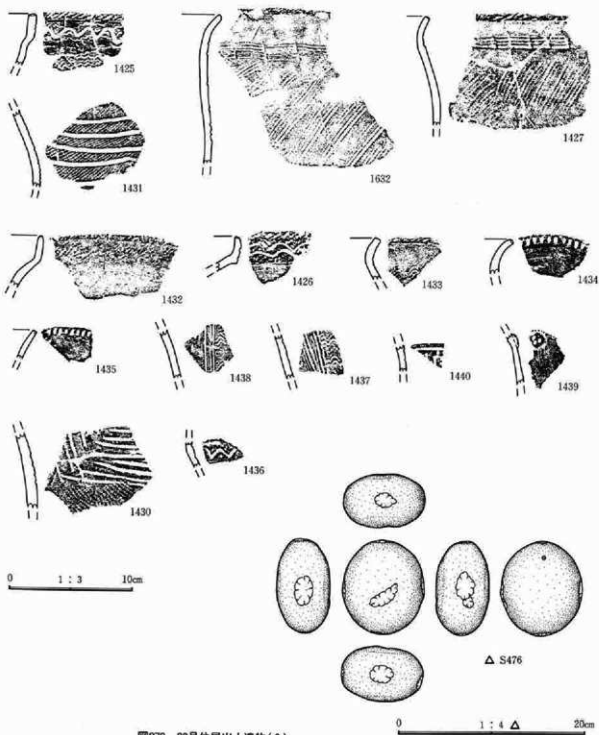


図279 20号住居出土遺物(2)

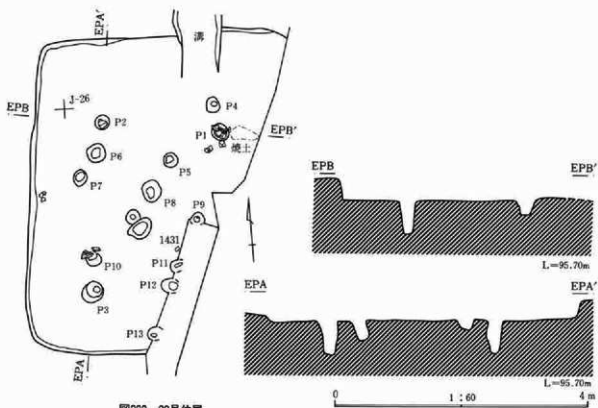
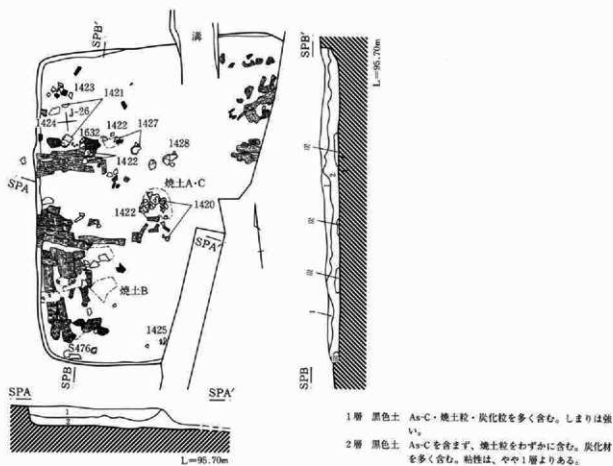


図280 20号住居

第8章 住居の調査

93号住居 図281-285, PL74-75-150-151, 表P. 57-58

位置 U・V-52・53グリッド

規模 縦7.1+α m 横6.4 m 深0.14 m

形状 小判形

重複 45号土坑に先行し、94号・98号住居に後出する。

主軸方位 N-20°-W

埋没土 白色粒を多く含み、灰白褐色土ブロックおよび粒を少量含む黒色粘性土である。94号住居内の埋没土と比べて白色粒が少なく、焼土や炭化物粒がない。

床面 床面はほぼ平坦である。94号住居と重複関係にあるが、床面の高さはほぼ同じである。94号住居の床面を周溝が切っていることから新旧関係をおさえることができる。

貯蔵穴 南壁下中央よりわずかに東寄りに長径0.5 m、短径0.40+α m、深さ0.43 mの壺んだ円形を呈する貯蔵穴が検出された。

周溝 住居全体に回っている。幅は0.14~0.26 m、深さ0.04~0.1 mである。

柱穴 19本のピットが検出されている。P 1~P 7は主柱穴である。

柱穴No	長径	短径	深さ	備考
P 1	0.40 m	0.35 m	0.64 m	
P 2	0.60 m	0.24 m	0.48 m	
P 3	0.64 m	0.45+α m	0.72 m	
P 4	0.47 m	0.26 m	0.64 m	
P 5	0.27 m	0.25 m	0.56 m	
P 6	0.38 m	0.34 m	0.57 m	
P 7	0.26 m	0.25 m	0.47 m	
P 8	0.51 m	0.40 m	0.42 m	
P 9	0.25 m	0.22 m	0.22 m	
P 10	0.43 m	0.29 m	0.13 m	
P 11	0.30 m	0.22+α m	0.30 m	
P 12	0.45 m	0.23 m	0.36 m	
P 13	0.41 m	0.32 m	0.49 m	
P 14	0.46 m	0.27 m	0.61 m	
P 15	0.33 m	0.30 m	0.39 m	

P 16 0.40 m 0.38 m 0.65 m

P 17 0.30 m 0.29 m 0.47 m

P 18 0.30 m 0.29 m 0.27 m

P 19 0.56 m 0.50 m 0.73 m

入口施設 南壁寄りに入口ピットが2本検出されている。

柱穴No 長径 短径 深さ 備考

P I 0.40 m 0.33 m 0.61 m

P II 0.30 m 0.3 m 0.54 m

遺物出土状態 出土遺物の多くは埋没土中からのものである。壺形土器の破片では床面出土の1445がある他は埋没土からの出土である。壺形土器は埋没土中から1449がある。

炉

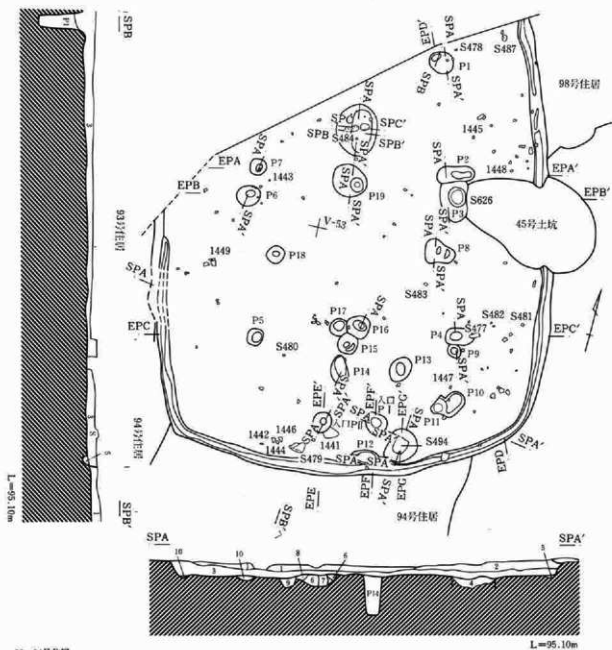
位置 中央北寄り

規模 長軸0.82 m 短軸0.62 m 深さ0.06 m

遺存状態 南北方向に主軸をもち、鍋底状を呈す。中央部分には礫が2個残っている。使用面は硬く焼けて焼土化しており、礫も焼けている。また、炉内外周寄りには黒色粘性土ブロックの出土がある。

遺物出土状態 炉内からは土器片と骨片が出土している。

調査所見 C・D区の集落の中では、北端に位置する。住居の北西部分は52号溝に切られると同時に西側は現水路の善勝寺堀に接する。道路および現桑谷川に近接してつくため北西隅を検出することは不可能であった。(相京)



## 93・94号住居

- 1層 暗灰白色土
- 2層 黒褐色土
- 3層 黒色土
- 4層 暗灰褐色土
- 5層 黒褐色土
- 6層 灰白色砂質土
- 7層 黒褐色土
- 8層 暗褐色土
- 9層 黒色土
- 10層 暗褐色土

白色の灰・焼土粒子を多く含む。炭化物片を少量含む。

白色土小粒子を含む。2層よりも茶色みを帯びる。粘性がある。

1層よりも黒い。白色土小粒子を多く、灰白色砂質土(地山)ブロック及び同粒子を少量含む。粘性が強い。

黄褐色シルト質土(地山)ブロック及び同粒子・灰白色砂質土ブロックを多く含む。粘性が強い。

灰白色砂質土ブロックを多く含む。粘性は3層よりも強い。

黒色粘性土ブロックを含む。

黄白色シルト質土(地山)ブロック及び同粒子を多量に含む。粘性がある。

炭化物粒を極わずかに、灰白色砂質土ブロックと黄白色シルト質土ブロックを極少量含む。

灰白色砂質土粒子を多く、黄白色シルト質土ブロックをわずかに含む。粘性が強い。

灰白色砂質土(地山)粒子を多量に含む。粒子はあるが、やや砂質。

## 94号住居

- 1層 黒色土

3層よりもわずかに明るい。白色土小粒子をやや多く含む。焼土粒子と炭化物粒子をわずかに含む。粘性があり、しまりも強い。

0 1:60 4 m

図281 93号住居

第8章 住居の調査

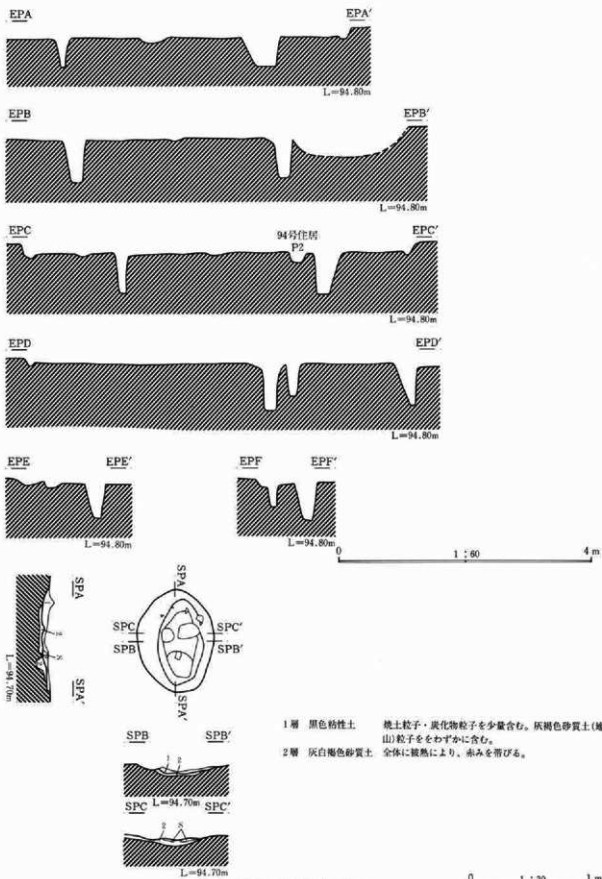


図282 93号住居断面と炉



3 炉付設住居



図283 93号住居柱穴・貯蔵穴断面

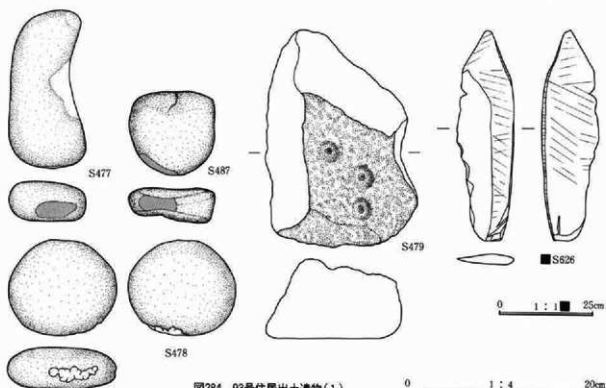
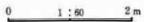


図284 93号住居出土遺物(1)



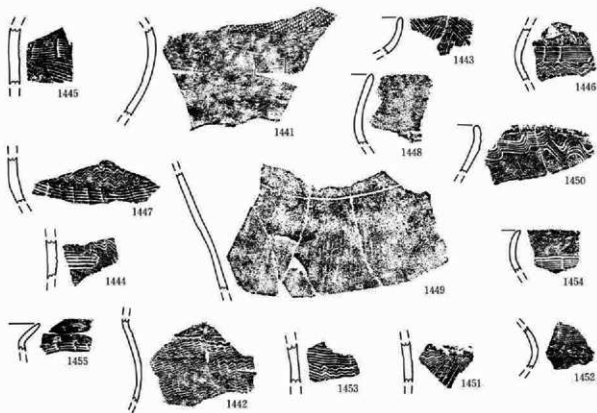
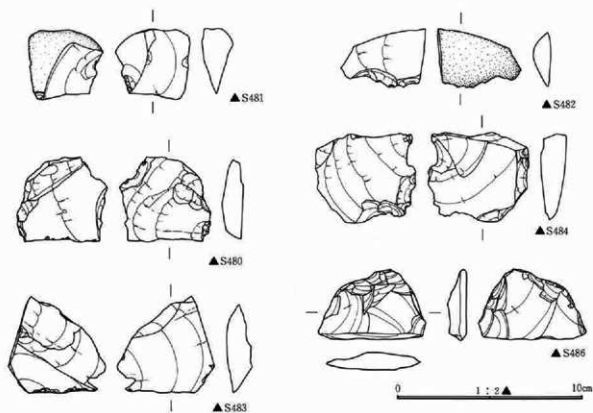


図285 93号住居出土遺物(2)

94号住居 図286～289, PL75・151, 表P.58・59

位置 U・V-53・54グリッド

規模 縦5.4+ $\alpha$ m 横4.9m 深0.19m

形状 隅丸方形

重複 93号住居に先行する。

主軸方位 N-0°-E

埋没土 白色土粒を含み、焼土粒と炭化物粒をわずかに含む黒色粘性土である。

床面 床面は後出する93号住居とはほぼ同一面である。93号住居の周溝が94号住居の床面を切っている状態で検出された。西壁下にある周溝と同規模で約1m東側に平行して溝が検出された。確認範囲は南壁付近からP6・P7につづきP8の北に一部確認できた。間仕切り状の遺構と考えることができようか。

貯蔵穴 なし

周溝 本住居の東側・南側は壁沿いに、西側は93号住居内の床面に周溝が残っていることが確認できた。幅は20～30cm、深さ7cm前後で断面形はU字状を呈している。周溝内埋没土は住居の壁の流入土と考えられる土砂の堆積である。

柱穴 明確な状況での判断はできなかったが、重複部分を整理した結果、P1～P14がピットとして確認できた。P1～P10は柱穴と考えられるが、P2・P1はP9・P10・P3・P4はP7・P8と対の関係にあることも推測できる。

柱穴No	長径	短径	深さ	備考
P 1	0.52m	0.36m	0.65m	
P 2	0.38m	0.36m	0.45m	
P 3	0.50m	0.45m	0.43m	
P 4	0.40m	0.35m	0.51m	
P 5	0.70m	0.62m	0.59m	
P 6	0.69m	0.60m	0.71m	
P 7	0.39m	0.32m	0.51m	
P 8	0.46m	0.40m	0.53m	
P 9	0.34m	0.30m	0.66m	
P 10	0.30m	0.30m	0.41m	
P 11	0.23m	0.18m	0.09m	

P 12 0.20m 0.20m 0.07m

P 13 0.30m 0.16m 0.13m

P 14 0.18m 0.18m 0.62m

入口施設 入口施設と考えられるP1とP2は上端が連結している。各々の上端の長径は推定値を記入した。

柱穴No	長径	短径	深さ	備考
P 1	0.38m	0.25m	0.44m	
P 2	0.24m	0.15m	0.62m	

遺物出土状態 埋没土からの変形土器(1459)の出土がある。他に埋没土内や床面からの出土土器があるが、本遺構よりも古い時期の土器(1456・1461・1462・1464)が混入している。

炉

位置 中央わずかに南でP4・P5・P6・P7の中間に位置する。

規模 長軸0.5+ $\alpha$ m 短軸0.5m 深さ0.07m

遺物出土状態 北東部分に焼けた礫が1個出土した。

遺存状態 93号住居の南壁部分が炉の北端を切っている。炉の北寄りに長さ12cm、幅7cmの角礫が出土している。炉は中央部分が固くしっかりと焼け、鍋底状を呈し、焼土化している。

調査所見 本住居は北側を93号住居によって切られている。このため北側については不明瞭なことが多い。床面や掘り方底面で柱穴を整理すると、対の関係が推定される。(相京)

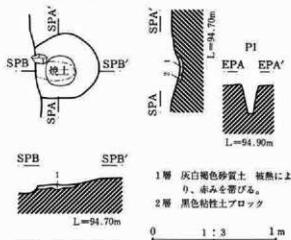
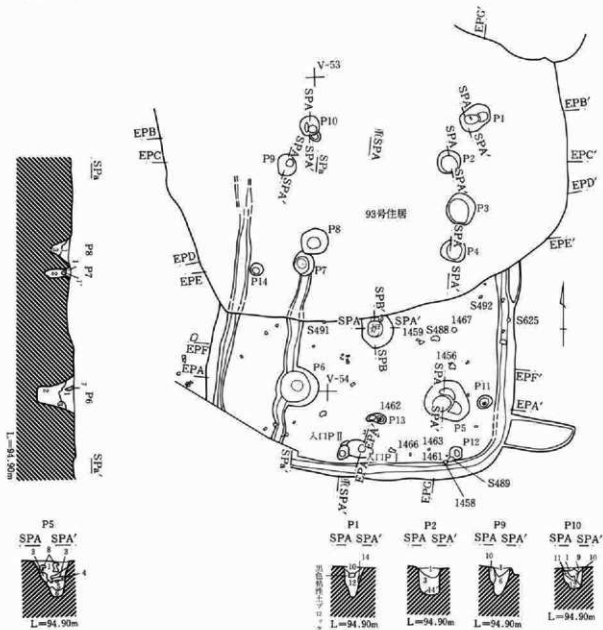


図286 94号住居の炉



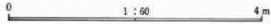
94号住居 P5・6・7

- 1層 黒色粘性土 黄白褐色粒子をわずかに含む。しまりは良い。炭化物粒子を極わずかに含む。
- 1層 黒色粘性土 1層よりも黄白褐色粒子の量はわずかに多い。1層よりもやや黒みが強く、粘性もある。
- 2層 暗灰褐色粘性土 黒色粘性土ブロックを少量含む。黄白褐色粒子・ブロックを多く含む。水分を多く含む、粘性がある。
- 3層 灰褐色砂質土 黄白褐色粒子を極わずかに含む。
- 4層 暗灰褐色土砂質土 炭化物粒子をわずかに含む。
- 5層 灰褐色砂質土 鉄分の凝集を多く含む、しまりは強い。
- 6層 暗褐色砂質土 黄褐色土粒子をわずかに含む。3層よりも暗い。
- 7層 雜土
- 8層 黄褐色土(地山)ブロック

94号住居 P1・2・9・10

- 1層 黒色粘性土 炭化物粒子を少量含む。微細な白色粒子を極少量含む。
- 3層 黒褐色粘性土 2層よりも明るく、灰白褐色砂質土粒子・黄褐色粘性土粒子を多く含む。
- 6層 暗褐色土 5層よりもわずかに暗い。5層同様なや砂質。黄白褐色粘性土及び灰白褐色砂質土をやや多めに含む。
- 9層 灰褐色砂質土 黄褐色粘性土粒子を8層よりも少なく含む。
- 10層 黒褐色粘性土と黄褐色粘性土の混合土。しまりは良い。
- 11層 黄褐色粘性土ブロックの層。しまりは良い。
- 12層 暗灰白褐色砂質土 粘性有り。地山の砂質土を多く含む。
- 14層 暗灰褐色砂質土 粘性有り。黄白褐色粘性土粒子をわずかに含む。灰白褐色砂質土粒子をわずかに含む。
- 14層 しまりは悪く、水分を多く含む。

図287 94号住居と柱穴



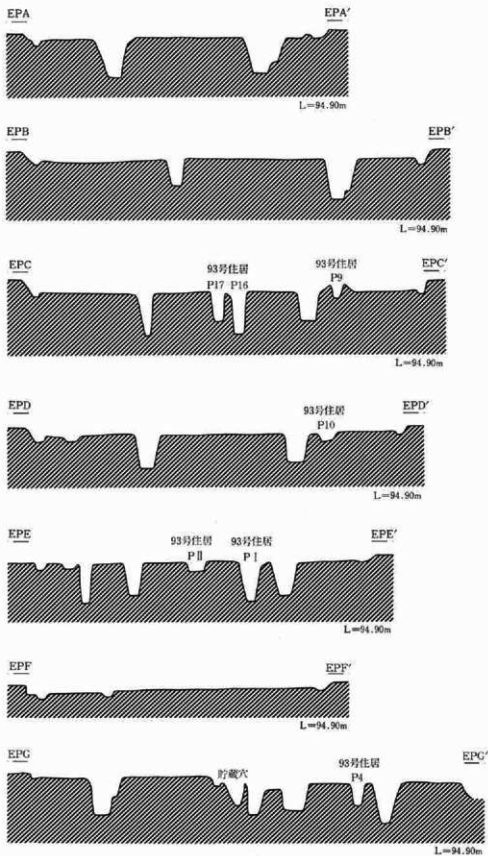


図288 94号住居断面

0 1 : 60 4 m

第8章 住居の調査

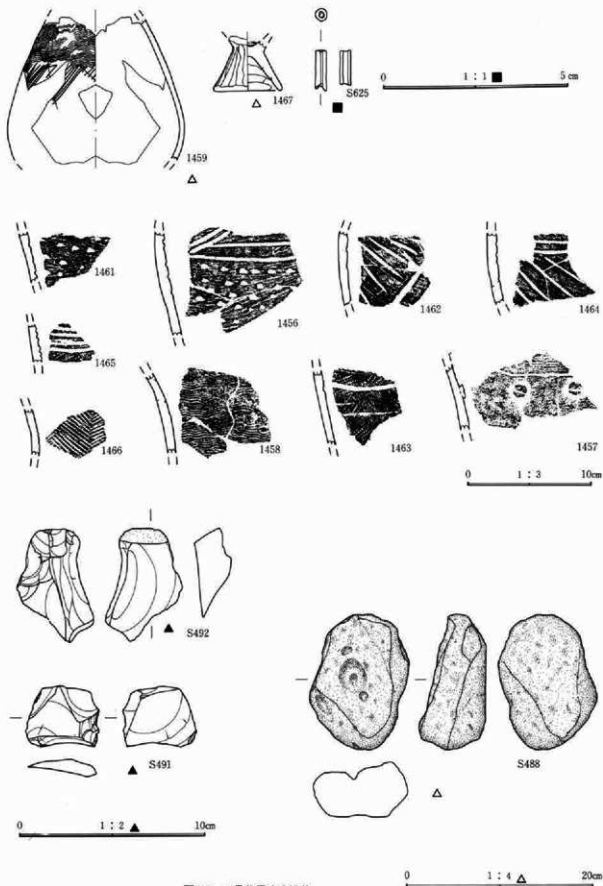


図289 94号住居出土遺物

## 98号住居 図290, PL75

位置 T・U-51・52グリッド

規模 縦2.15+ $\alpha$ m 横2.35+ $\alpha$ m 深0.07m

形状 隅丸方形

重複 西側は善勝寺堀、南側は93号住居に切られている。

主軸方位 N-18°-W

埋没土 焼土粒を微量、炭化物粒・灰白色粘土ブロックを少量含む、わずかに粘性のある暗灰褐色砂質土である。

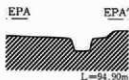
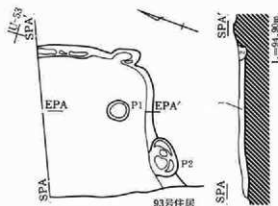
床面 確認した面では平坦であるが、善勝寺堀寄りがわずかに下がる。

貯蔵穴 なし

周溝 東壁際に幅8cm、深さ3cmの周溝が検出された。

柱穴 床面からP1、南壁際にP2が確認された。

柱穴No	長径	短径	深さ	備考
P1	0.33m	0.33m	0.24m	
P2	0.60m	0.45m	0.27m	



- 1層 暗灰白褐色砂質土 灰褐色砂質土(焼土)ブロックを多量に含む。灰白色粘性土ブロックを少量、焼土粒子を極微量含む。岩片粒子をやや多く含む。若干の粘性がある。
- 2層 暗褐色土 若干の灰褐色砂質土ブロックを含む。岩片粒子を少量含む。粘性がある。

0 1:60 2m

図290 98号住居

入口施設 調査できた範囲の中では検出されなかった。

遺物出土状態 なし

炉 調査できた範囲の中では検出されなかった。

調査所見 遺構の一部だけの確認であり、全体像をつかむことはできなかった。(相京)

## 99号住居 図291-295, PL76-77-151-152, 表P.60-61

位置 S・T-54・55グリッド

規模 縦6.1m 横5.3m 深0.30m

形状 隅丸長方形

重複 なし

主軸方位 N-4°-W

埋没土 白色・褐色粒(岩片)や炭化物粒を少量含む黒褐色粘質土が主に埋没土になっているが、北東部分ではさらに粘性の強い黒色土層がある。住居の平面形は、Hr-FA下の3層(As-Cを多量に混入した黒褐色土)を取り除いた時点において確認された。床面 床面はしっかりしているが、わずかに凹凸がある。炉跡の西側から北側にかけては白色粘土が厚さ3~10cm、幅約50cm、長さ約2.3mにわたって残っている。炉跡の南東部分には東西約1.4m、南北約0.7mの範囲に炭化物粒が分布する地点がある。

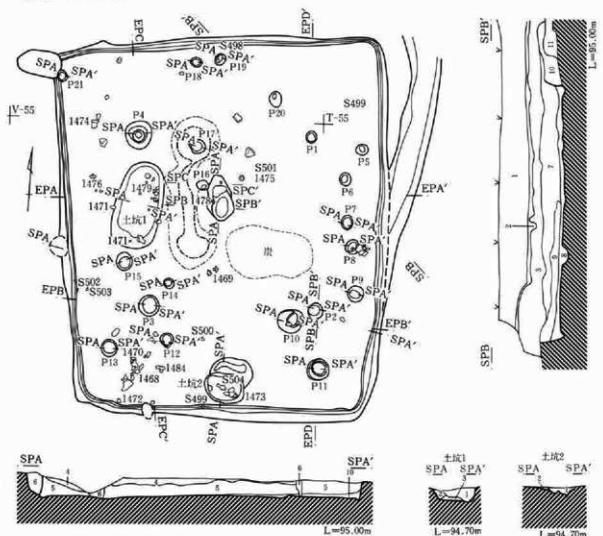
貯蔵穴 南壁に長径0.6m、短径0.45m、深さ0.18mの楕円形を呈する貯蔵穴が検出された。中央よりやや西寄りに長径1.39m、短径0.75m、深さ0.25mの長楕円形の土坑が検出された。この土坑は一般的にみられる貯蔵穴とは位置が異なっている。床下土坑とも考えられるが、性格については不明である。出土遺物は住居と同時期のものと考えられる。

周溝 幅0.1~0.2m、深さ0.1~0.05mの周溝が全周する。

柱穴 21本の柱穴を検出した。

柱穴No	長径	短径	深さ	備考
P1	0.18m	0.16m	0.26m	
P2	0.25m	0.23m	0.64m	
P3	0.32m	0.32m	0.50m	
P4	0.42m	0.42m	0.40m	

第8章 住居の調査



99号住居

1層 FA期の洪水堆積物

- 2層 Br-FA
- 3層 As-Cを多量に含む黒褐色土。炭化物粒子をやや多く含む。
- 4層 黒褐色土 白色土小粒子・炭化物を少量含む。粘性がある。2層よりもややしみが悪い、若干明るい。
- 5層 黒粘性土 1層よりも黒みが強い。白色土小粒子・炭化物・灰褐色土ブロックを多く含む。
- 6層 黒褐色土 As-Cを多量に含む。やや砂質である。
- 7層 黒褐色粘性土 白褐色土小粒子(岩片?)を極わずかに含む。炭化物粒子を少量含む。
- 8層 黒褐色土 炭化物粒子を少量含む。7層よりもさらに粘性が強い。
- 9層 暗灰褐色粘性土 7・8層よりも明るく、白みを帯びる。炭化物粒子を少量、直径2-3mmの炭白色土粒子をやや多く含む。
- 10層 黒色粘性土 8層よりもやや明るい。炭化物粒子を多く含む。直径1mm以下の白色土・褐色土粒子(岩片?)をわずかに含む。
- 11層 暗茶褐色土 直径1mm以下の白色土・褐色土小粒子(岩片)をわずかに含む。10層に比べて、粘性は弱い。

99号住居内土坑No. 1

- 1層 黒褐色粘性土 灰褐色砂質土ブロック及び同粒子を少量、炭化物片を微量含む。
- 2層 暗褐色粘性土 灰褐色砂質土ブロックを多量に含む。
- 3層 灰褐色砂質土 暗褐色粘性土を含む。

99号住居内土坑No. 2

- 1層 黒褐色粘性土 灰褐色砂質土ブロック・白色土粒子を少量、直径1-2cmの炭化物片を少量含む。
- 2層 灰褐色砂質土 地山を盛り上げたもの。地山よりも若干粘性をもち、やや暗い。黄白褐色土ブロック・黒褐色粘性土ブロックを少量含む。

図291 99号住居

0 1:60 4m



P 5	0.22m	0.18m	1.08m
P 6	0.20m	0.18m	0.46m
P 7	0.20m	0.16m	0.38m
P 8	0.22m	0.20m	0.10m
P 9	0.28m	0.23m	0.23m
P 10	0.40m	0.35m	0.39m
P 11	0.36m	0.32m	0.41m
P 12	0.25m	0.24m	0.23m
P 13	0.22m	0.18m	0.36m
P 14	0.18m	0.16m	0.05m
P 15	0.30m	0.26m	0.21m
P 16	0.20m	0.16m	0.37m
P 17	0.26m	0.22m	0.20m
P 18	0.17m	0.14m	0.12m
P 19	0.20m	0.15m	0.34m
P 20	0.26m	0.20m	0.08m
P 21	0.16m	0.14m	0.24m

入口施設 なし

遺物出土状態 甕形土器 (1479) は西側土坑底面、  
甕形土器 (1474・1476) は西北部分床面直上の出土

である。甕形土器 (1477) は西側土坑西端と北西隅部分に近いところから出土している。他に埋没土内からの遺物は住居南西部で1468・1472・1484があり、1470は西側土坑内の遺物と接合関係にある。

炉

位置 中央よりやや北寄り

規模 長軸0.75m 短軸0.38m 深さ0.10m

遺存状態 比較的残存が良い。西側には3～10cmの白色粘土混りの高まりがあり、炉に付属する施設の可能性がある。

遺物出土状態 炉付近からはわずかに甕形土器の破片が出土している。

調査所見 99号住居は、62年度後半の調査計画が組まれていたが、62年度当初に一部工事による掘削の可能性があると判明し、急速北東部分のみ調査した。したがって北東部分と他の部分は年度を分けて調査を行ったため、写真では全景状態に不足が生じている。  
(相京)

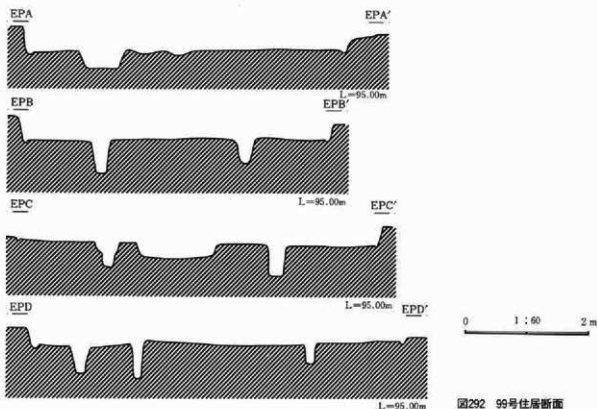
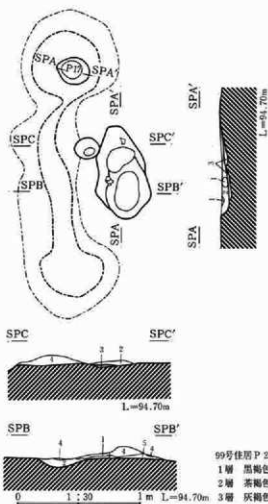


図292 99号住居断面

第8章 住居の調査



- 99号住居 P 3
- 1層 黒褐色粘性土 As-Cを微量含む。
  - 2層 暗灰褐色土 灰褐色砂質土ブロックを多く含む。粘性がある。しまりは弱い。
- 99号住居 P 4
- 1層 黒褐色粘性土 灰褐色砂質土小ブロック及び同粒子を少量、炭化物粒子・焼土粒子をやや多く含む。
  - 2層 暗黄灰褐色土 黄白褐色粘性土ブロック・灰褐色砂質土ブロックを多量に含む。砂質。
  - 3層 暗灰褐色土 2層よりも暗い。砂質土。
  - 4層 暗灰褐色土 黄白褐色粘性土ブロック・暗灰褐色粘性土を含む。
- 99号住居 P 7
- 1層 黒褐色粘性土 黄褐色土ブロックを少量含む。しまりは弱い。
- 99号住居 P 8
- 1層 黒褐色粘性土 白色岩片粒子と焼土粒子を少量含む。
- 99号住居 P 9・N面P
- 1層 黒褐色土 As-Cを多く含む。しまりは弱い。
  - 2層 黒褐色土 灰白色粘性土を含む。粘性がある。
  - 3層 黒褐色土 粘性がある。単一的。
- 99号住居 P 10
- 1層 黒褐色粘性土 灰褐色砂質土粒子を少量含む。炭化物片をやや多く含む。

- 1層 黄灰白色砂質土 住居の地山の土。黒褐色土ブロックを含む。
- 2層 黒色灰層 炭を極めて多量に含む。焼土粒子を微量含む。
- 3層 淡赤褐色土 地山が焼けて変化したもの。3層は強く焼けているが、7層は上半部が強く焼けているところがある。
- 4層 灰褐色砂質土 黄褐色土ブロックを含む。地山の土の盛り上げたもの。1層に近い。
- 5層 黒色粘性土 炭化物を多く含む。2層に近い。



99号住居 P 2

- 1層 黒褐色粘性土 灰褐色土を少量含む。白色岩片粒子を微量含む。
- 2層 赤褐色砂質土ブロック(鉄分のため赤みを帯びる)。(地山を盛り上げたもの)地山よりも若干粘性をもち、やや暗い。黄白褐色土ブロック及び黒褐色粘性土ブロックを少量含む。

99号住居 P 11

- 1層 黒色粘性土 黄白褐色粘性土ブロックを少量含む。炭化物片を微量含む。

99号住居 P 12

- 1層 黒褐色粘性土 灰褐色土ブロックを多く含む。
- 2層 暗灰褐色砂質土 黄褐色土粒子・暗褐色土小ブロックを少量含む。

99号住居 P 13

- 1層 黒褐色粘性土 灰褐色土を少量含む。しまりは弱い。

99号住居 P 14

- 1層 黒褐色粘性土 灰褐色砂質土ブロック・黄白色粘性土ブロックを少量含む。

99号住居 P 15

- 1層 黒褐色土 As-Cを多量に含む。粘性がある。

99号住居 P 17

- 1層 黒褐色粘性土 灰褐色砂質土粒子を少量含む。
- 2層 灰褐色砂質土ブロック

99号住居 P 18

- 1層 黒褐色粘性土 鉄分を多く含み、赤みを帯びる。黄白褐色土粒子を少量含む。

99号住居 P 19

- 1層 黒褐色粘性土 炭化物片を含む。黄白褐色粘性土ブロック・灰褐色砂質土を多く含む。

99号住居 P 21

- 1層 黒褐色粘性土 灰褐色砂質土ブロック・黄白色粘性土ブロックを少量含む。

図293 99号住居の炉と柱穴

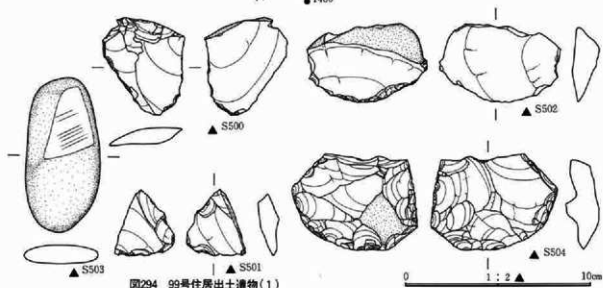
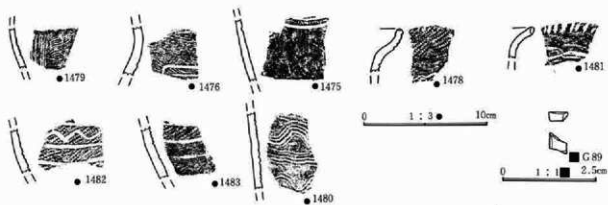
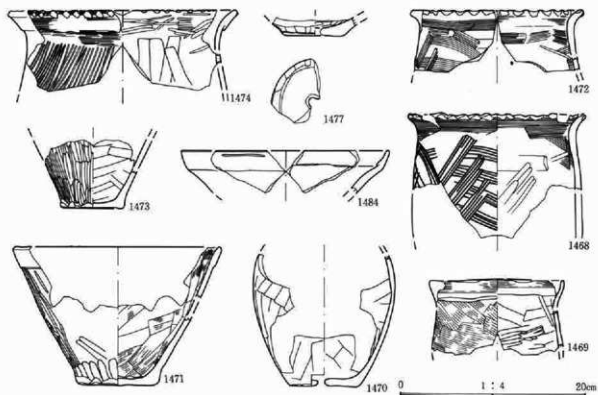


图294 99号住居出土遺物(1)

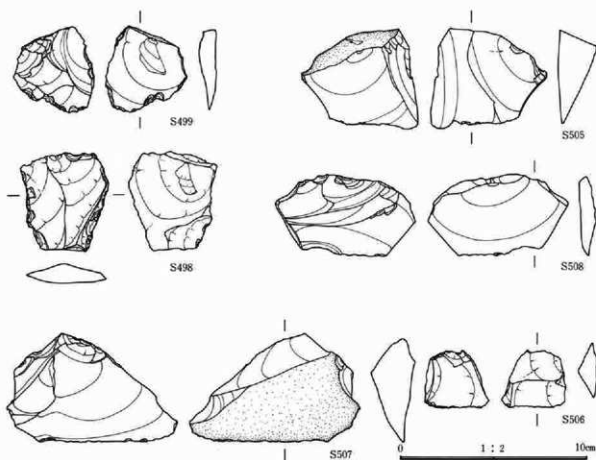


図295 99号住居出土遺物(2)

147号住居 図296-298, PL78-79-152, 表P.61-62

位置 T・U-57・58グリッド

規模 縦6.90m 横4.36m 深0.30m

形状 後述するように柱穴等の位置から隅丸正方形と推定されるが、東半分は148号住居に壊されているため、断定できない。

重複 148号住居に先行し、160号・177号住居に後出する。

主軸方位 N-19°-E

埋没土 上層は浅間C軽石と少量の炭化物が混入する茶褐色土で、下層は少量の浅間C軽石と炭化物を含む暗褐色粘質土で埋まっていた。

床面 前述した埋没土上層茶褐色土(9層)の下位に床面とも考えられる面が確認できたが、炉や柱穴が検出できないことから床面の可能性は少ない。10

層の下位には掘り込んだ灰褐色粘質土(地山)の硬化面があり、床面と考えられる。中央部が壁際より10cm前後凹んでおり、他も多少の凹凸がある。

貯蔵穴 西壁ほぼ中央に長径0.74m、短径0.54m、深さ0.08mの楕円形の掘り込みが床面に検出されたが、規模等からして貯蔵穴とは断定できない。

周溝 検出されなかった。

柱穴 床面上に大小8本のピットが検出されている。やや大型のP2・P3・P4・P7は主柱穴とも考えられるが、壁との位置関係などから考えると断定できない。

柱穴No	長径	短径	深さ	備考
P 1	0.43m	0.32m	0.09m	
P 2	0.30m	0.23m	0.23+ $\epsilon$ m	
P 3	0.38m	0.30m	0.48m	

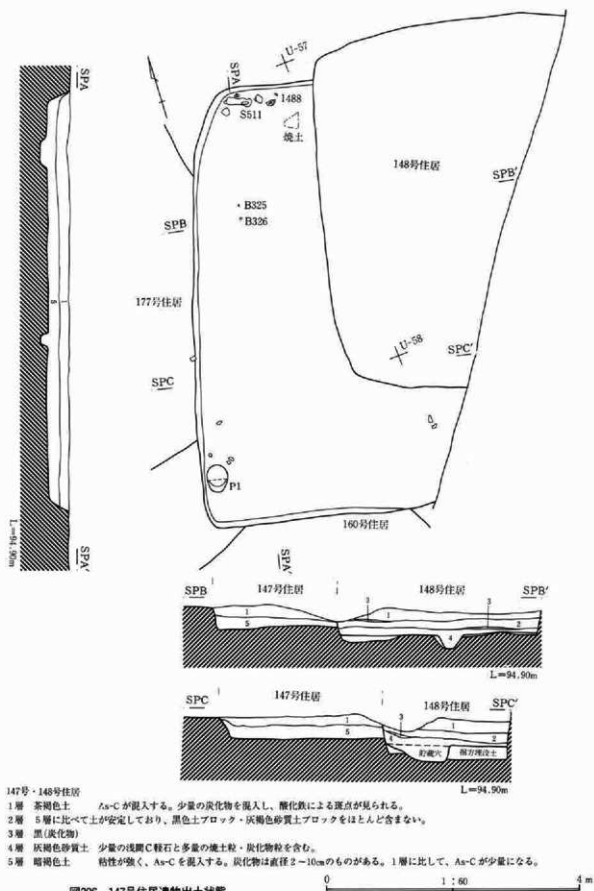


図296 147号住居遺物出土状態

第8章 住居の調査

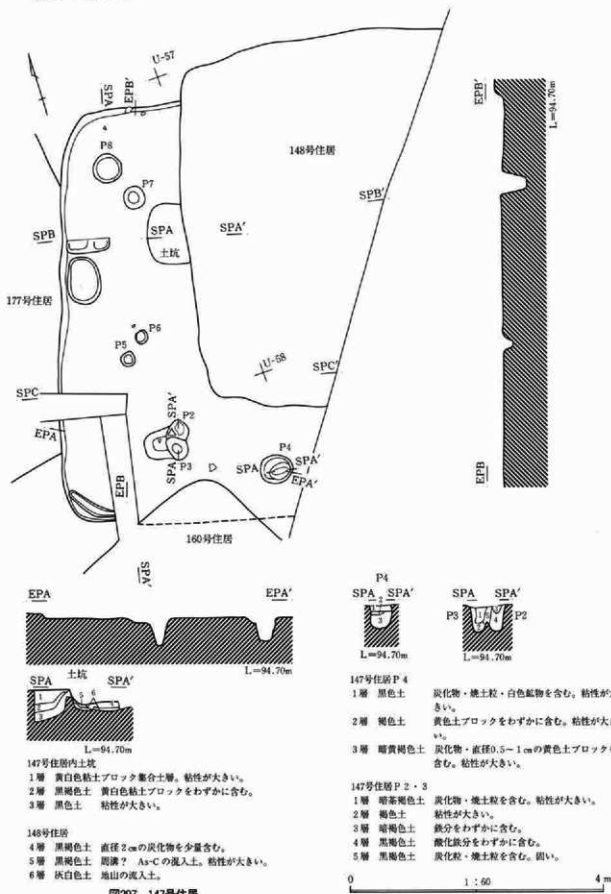


図297 147号住居

P 4	0.51m	0.44m	0.37m
P 5	0.23m	0.21m	0.11m
P 6	0.20m	0.18m	0.20m
P 7	0.36m	0.31m	0.43m
P 8	0.46m	0.45m	0.10m

入口施設 検出されていない。

遺物出土状態 9層下位の面で北東隅に遺物が集中して出土するところがある。そこでは炭化物の集中も見られる。床面での遺物は散在しているが、ほとんど床面直上で出土している。

炉 調査できた範囲の中では検出されなかった。

調査所見 床面の確定が遅れたので、先行する160

号住居を調査してから、本住居の床面の調査を実施した。したがって深く掘り込んでいた160号住居によって南壁の一部を失ってしまい、記録することができなかった。また、148号住居との境の床面で長軸0.9m、短軸 $0.6+\alpha$ m、深さ0.5mの隅丸長方形の掘り込みを検出した。この掘り込みは、黄白色粘土ブロックを含む黒褐色土と黒色土で埋設しており、住居埋設土とは異なっている。したがって住居にともなう施設とは考えにくい。位置的には10号周溝墓の主体部の可能性がないことはないが、他の周溝墓の主体部にともなっている炭化物や土器等は検出できなかった。(小島)

#### 148号住居 図298-302、P.178-79-152、表P.62-63

位置 T・U-57・58グリッド

規模 縦5.75m 横 $4.0+\alpha$ m 深0.33m

形状 隅丸方形と推定されるが、東半分は調査区域外であるので、断定できない。

重複 147号住居に後出する。

主軸方位 N-13°-E

埋設土 上層は少量の浅間C軽石と炭化物を含む黒褐色粘質土で埋まっている。下層は多量の焼土粒・炭化物粒を含む灰褐色粘質土で埋まっていた。北壁付近はやや砂質の土が堆積していた。これらの層には炭化物の層が形成されていた。

床面 埋設土の中位で焼土や炭が面的に確認できる場所があった。焼土の集中区は4ヶ所ほどあった。当初はこの面を床面として焼土や遺物出土状態の記録を行った。しかし、この面では明確な炉や柱穴をとらえることができなかったので下層を精査したところ、10cmほど下層で床面を検出した。床面には貼床が施設されており、硬化が顕著である。また、西壁中央部付近には炭化物が薄く広がっていた。

貯蔵穴 南西隅に長径1.0m、短径0.75m、深さ0.27mの不定楕円形の貯蔵穴と考えられる掘り込みが検出された。南側にテラスがあるような形態を示している。下層は白色粘土ブロックや炭化物粒・軽石ブロックを含む暗褐色粘質土、上層は浅間C軽

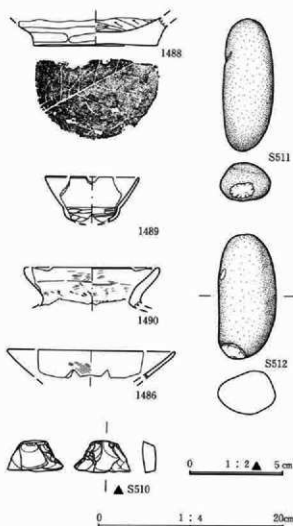


図298 147号住居出土遺物

石・炭化物粒を含む黒褐色土で埋まっている。

周溝 検出されなかった。

柱穴 床面で5本、掘り方で2本のピットが検出された。また、掘り方面では6本ほどの小ピットが見つかっているが、小規模で不定形である。これらは柱穴とは考えにくいので計測から除外した。P 1・P 2は主柱穴と考えられる。

柱穴No	長径	短径	深さ	備考
P 1	0.5 m	0.33m	0.52m	床面確認
P 2	0.47m	0.47m	0.50m	床面確認
P 3	0.66m	0.43m	0.21m	床面確認
P 4	0.39m	0.35m	0.08m	床面確認
P 5	0.45m	0.30m	0.62m	床面確認
P 6	0.36m	0.30m	0.07m	掘り方面確認
P 7	0.45m	0.29m	0.04m	掘り方面確認

入口施設 調査範囲の中では検出されなかった。

掘り方 壁に沿って幅1mほどが帯状に掘り込まれ

ている。その内側の住居中央部は地山面をそのまま床面としていた。掘り方内には焼土粒や炭化物粒を含む黒褐色粘質土ブロックや灰褐色砂質土ブロックで埋められて、貼床が作られていた。

遺物出土状態 上層遺物は灰・炭化物や焼土の分布に重なるように分布の集中が見られた。またこの集中区からははずれ、北西部床面直上から土師器小形S字状口縁台付甕形土器(1485)がほぼ完形で出土している。床面近くでは遺物は西壁中央部沿いや南西隅の貯蔵穴周辺に多く出土していた。

炉 明確に使用面をとらえることはできなかったが、P 3は炉使用面下のピットとも考えられる。このピットは炭化物と焼土を含む黒褐色粘土で埋まっていた。

調査所見 本住居は掘り方をもつ古墳時代前期の住居である。県内でもあまり例がないと考えられるが、本遺跡では当該期の住居にこの例が多い。(小島)

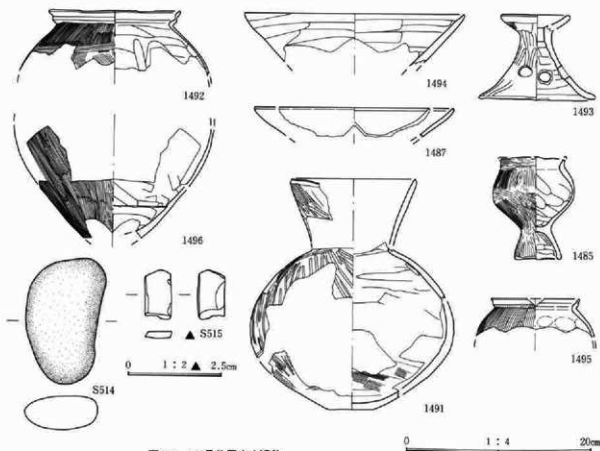
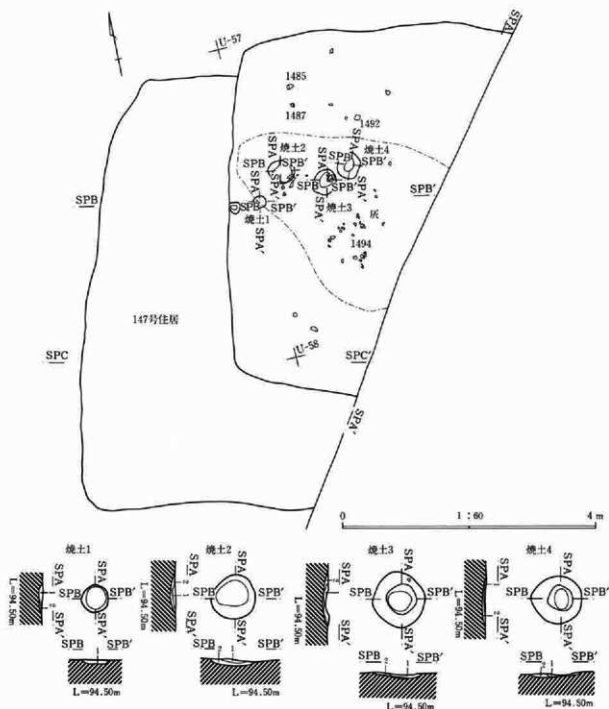


図299 148号住居出土遺物





148号住居炉 焼土1 焼土2 焼土3 焼土4

1層 赤褐色土 焼土。As-Cを多く含む。床が焼けている。表面は硬質である。

2層 暗灰褐色土 やや赤みを帯びる。焼け方は弱い。As-Cをやや多く含む。

0 1:30 1m

図300 148号住居上層遺物出土状態・焼土

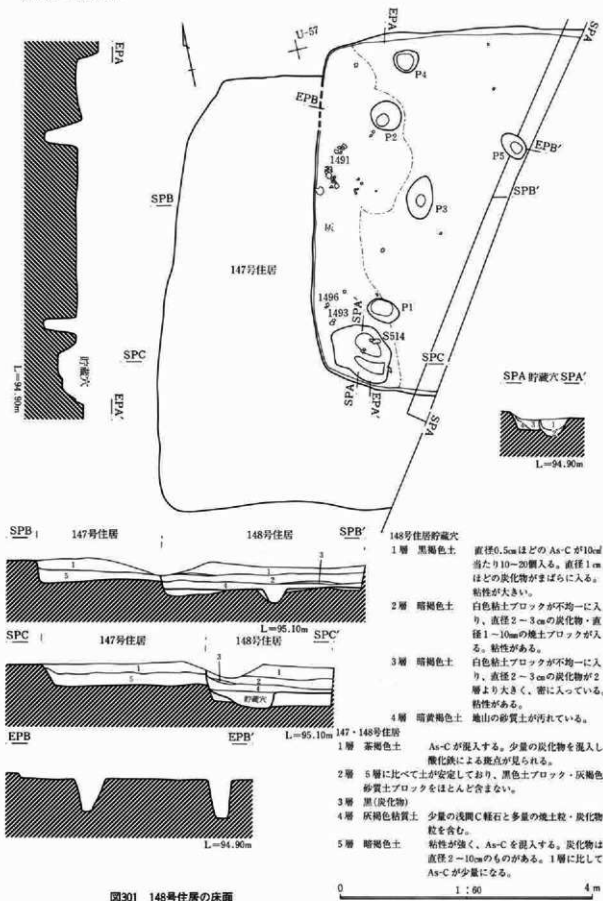
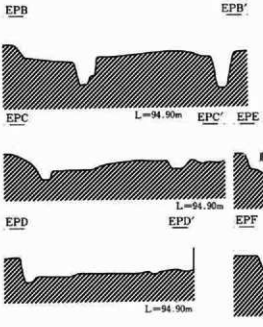
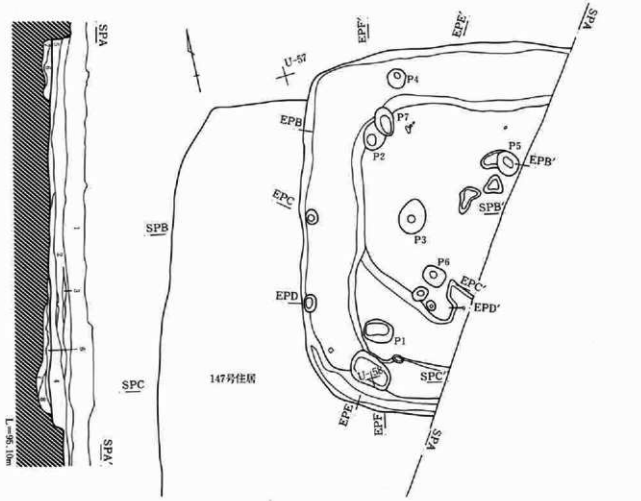


図301 148号住居の床面



- 1層 As-Cを多量に含む黒褐色粘質土。
- 2層 少量のAs-Cと多量の炭化物を含む黒褐色粘質土。
- 3層 炭化物層。 \*148号住居は一度2層直下で平面記録したが、床面は4・5層直下と考えられる。
- 4層 少量のAs-Cと多量の焼土粒・炭化物粒を含む灰褐色粘質土。
- 5層 炭化物粒・焼土粒を含む灰褐色粘質土。
- 6層 炭化物粒を含む黒褐色粘土と灰褐色粘質土ブロックの混在。
- 7層 炭化物粒・焼土粒を多く含む黒褐色粘質土。
- 8層 灰褐色粘質土小ブロックと炭化物粒・焼土粒を含む黒褐色粘質土。

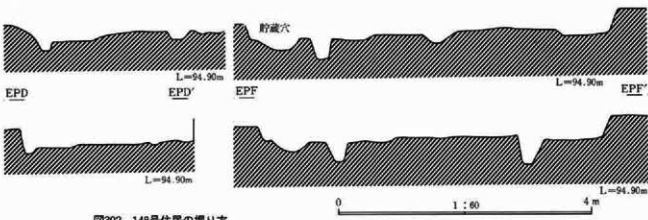


図302 148号住居の掘り方

第8章 住居の調査

149号住居 図303-306, PL80-81・152-153, 表P.63

位置 U・V-55・56グリッド

規模 縦5.4m 横5.36m 深0.2m

形状 隅丸方形

重複 10号周溝墓に先行し、159号住居に後出する。

主軸方位 N-4°-E

埋没土 炭化物粒や浅間C軽石を含む黒褐色粘質土である。床面は3層上面であり、固くしまっている。床面下は灰褐色砂質土を多く含み、炭化物を少量含む黒褐色土層である。

床面 貼床が施されている。床面は中央部分がわずかに高く、壁際が少し落ちる。床面は固くしまっている。床面には薄く炭が分布する。

貯蔵穴 なし

周溝 なし

柱穴 床面で確認できたピットはP1～P8である。P9～P15は掘り方で確認し、P16～P18はさらに下位で検出された。

柱穴No	長径	短径	深さ	備考
P 1	0.48m	0.35m	0.41m	
P 2	0.28m	0.25m	0.25m	
P 3	0.28m	0.25m	0.28m	
P 4	0.34m	0.25m	0.30m	
P 5	0.20m	0.20m	0.17m	
P 6	0.30m	0.27m	0.43m	
P 7	0.43m	0.40m	0.26m	
P 8	0.20m	0.17m	0.33m	
P 9	0.44m	0.38m	0.30m	

P10 0.30m 0.27m 0.28m

P11 0.35m 0.32m 0.10m

P12 0.54m 0.49m 0.04m

P13 0.90m 0.47m 0.03m

P14 0.20m 0.19m 0.26m

P15 0.30m 0.26m 0.09m

P16 0.24m 0.22m 0.16m

P17 0.26m 0.25m 0.37m

P18 0.25m 0.19m 0.40m

入口施設 なし

遺物出土状態 床面直上からは1501のS字状口縁台付甕形土器口縁部の出土がある。床面から3～5cm浮いた状態で1497と1500の甕形土器体部破片の出土がある。

炉

位置 南東部分のP2・P10・P11に囲まれた地点  
規模 長径0.32m 短径0.32m 深さ0.05m

遺存状態 歪んだ円形を呈し、炉床は地山が焼けている。炉床直上には黒褐色土を主体とした埋没土があり、粗い浅間C軽石・炭化物粒・焼土ブロックを多く含む。

遺物出土状態 炉に直接伴うと考えられる土器はない。

調査所見 本住居出土遺物は古墳時代前期に相当する。床面の状況は中央がわずかに高く、床面と掘り方底面までの間は約12cmあり、2層の堆積土層がある。(相京)

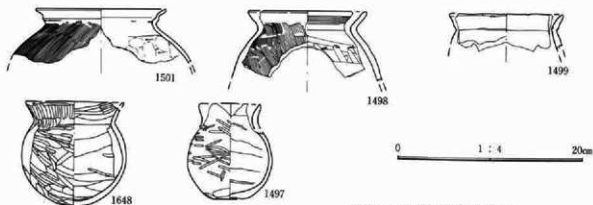
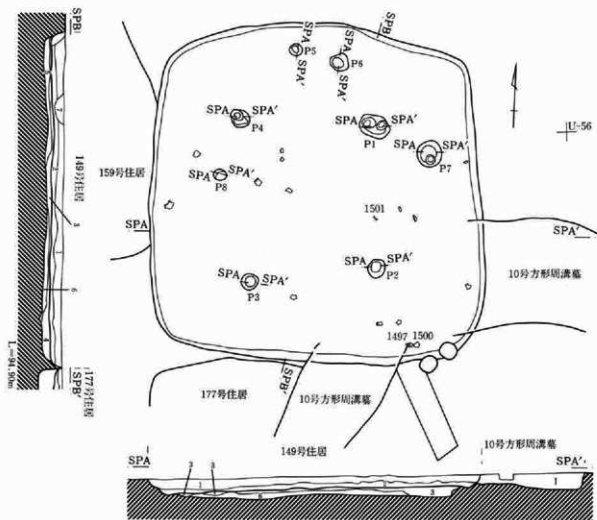


図303 149号住居出土遺物(1)



149号住居

L=94.50m

- 1層 黒褐色粘性土 炭化物片を少量含む。As-Cを多量に含む。
- 2層 黒褐色粘性土 As-Cの量はやや少ない。炭化物片(1層よりも小さい)を少量含む。しまりは1層よりも良く、粘性も1層より強い。
- 3層 黒褐色粘性土 As-Cを少量含む。灰褐色粘性土ブロックを多く含む。しまりは強い、粘性も2層より強い。色調は1・2層よりも明るい。床面には薄く炭が分布する。そのすぐ下にはC粒石層が入る。
- 4層 黒褐色粘性土 2層よりも色調は暗く、炭化物粒子をやや多く含む。As-Cを多量に含む。粘性・しまりは2層とほぼ同じである。
- 5層 黒褐色土 灰褐色砂質土を多量に含む。As-Cを少量、炭化物粒子を微量含む。粘性がある。
- 6層 黒褐色粘性土 As-Cをほとんど含まない。粘性が強く、しまりも良い。
- 7層 黒褐色土 C粒石を多量に含む。砂質で、1層よりもしまりは弱い。
- 10号炭溝墓
  - 1層 黒褐色土 As-Cを極めて多量に含む。炭化物粒子を少量含む。砂質。
  - 2層 黒褐色土 As-Cを多量に含む。炭化物粒子を少量含む。1層よりもやや砂質であるが、1層よりも粘性がある。 3層 黒褐色土 As-Cを1層よりも多く含む。炭化物粒子をやや多く含む。
  - 4層 As-C堆積層。ほぼ純埋積層。砂質。
  - 5層 黒褐色土 1・2層に比べて、色調は暗い。炭化物粒子をやや多く、焼土粒子を少量含む。As-Cを多量に含む。粘性がある。 6層 黒褐色土 5層よりも若干色調は明るい。As-Cを多量に含む。 6層 黒褐色土 As-Cを多量に含む。6層に比べてしまりは弱く、やや砂質。
  - 7層 6層よりも色調はやや明るく、As-Cの量も多い。やや砂質。
  - 8層 黒色粘性土 As-Cは極少量含まれる。灰褐色粘性土ブロックをわずかに含む。
  - 9層 黒褐色土 As-Cを極めて多量に含む。やや砂質。
  - 10層 黒色粘性土 焼土粒子・炭化物粒子をやや多く含む。As-Cはほとんど含まれない。
- 149号住居外
  - I層 黒褐色土 As-Cを多量に含む。炭分を含み、赤みを帯びる。やや砂質。

図304 149号住居

0 1:60 4m

第3章 住居の調査

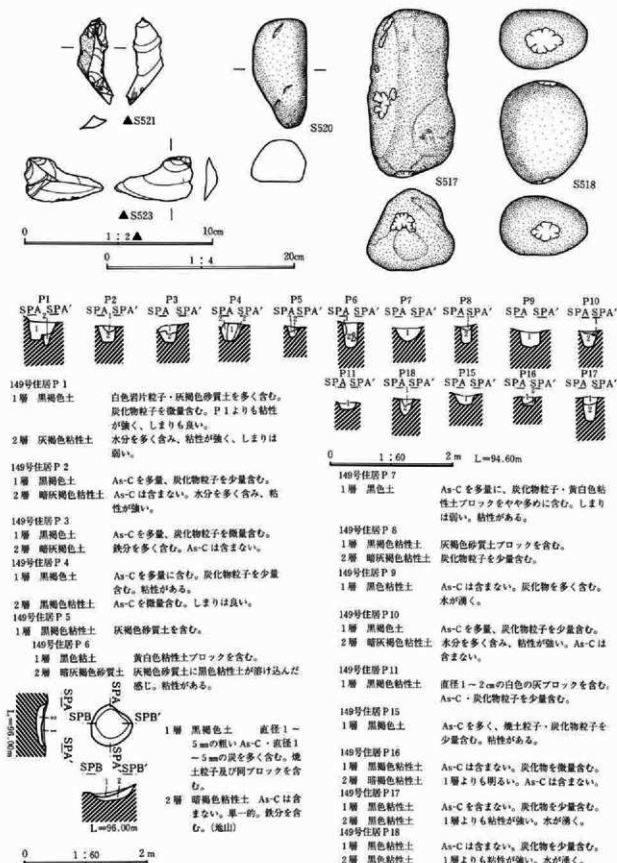


図305 149号住居出土遺物(2)と柱穴・炉

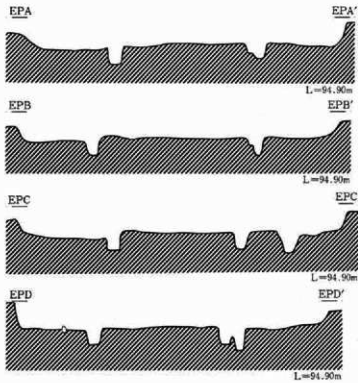
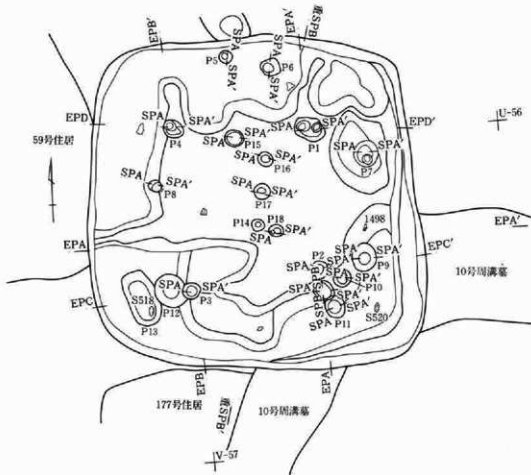
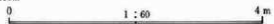


図306 149号住居掘り方



第8章 住居の調査

150号住居 図307-308, PL81, 表P.63

位置 S-56グリッド

規模 縦1.6+αm 横0.9+αm 深0.15m

形状 隅丸方形 重複 なし

主軸方位 N-15°-W

埋没土 炭化物粒を少量含む。粘性のある黒色土層である。

床面 床面は多少の凹凸がみられるが、しっかりとしている。

貯蔵穴 調査範囲の中では検出されなかった。

周溝 調査できた範囲の中では検出されなかった。

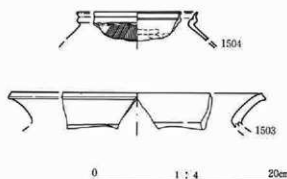
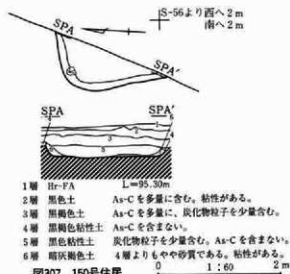
柱穴 調査できた範囲の中では検出されなかった。

入口施設 調査範囲の中では検出されなかった。

遺物出土状態 北西部隅の壁付近から石が出土した他に、土師器甕形土器胴部片が出土した。埋没土内からの出土遺物は古墳時代前期のS字状口縁台付甕形土器(1503)の口縁部と弥生土器甕形土器(1504)の口縁部がある。

炉 調査できた範囲の中では検出されなかった。

調査所見 隅丸方形の北西隅部分が検出できたが、全体の形状は推定である。深さや床面の状況から住居跡として取り扱った。時期を決定する有力な遺物はないが、土層図からはHr-FAが1層としてとらえられ、埋没土中からは古墳時代前期の遺物が出土しているため、古墳時代前期と推定した。(相京)



151号住居 図309-311, PL81-82-153, 表P.63-64

位置 V・W-57・58グリッド

規模 縦5.2m 横4.5m 深0.08m

形状 隅丸方形

重複 172号・178号住居に後出する。

主軸方位 N-10°-E

埋没土 確認面から床面までの深さは浅く、2層がわずかに堆積している状態である。上層は浅岡C経石を多量に含む暗褐色土であり、下層は白色土粒をわずかに含む粘性土のある黒褐色土である。

床面 床面はほぼ平坦であり、一部で多少の凹凸がある。住居の4本の支柱穴で囲まれた範囲の中には4ヶ所、床面が焼けている部分がある。また、その中央部には炭の散布が見られる。

貯蔵穴 検出されなかった。

周溝 検出されなかった。

柱穴 7本のビットが検出された。P1-P4は支柱穴である。

柱穴No	長径	短径	深さ	備考
P 1	0.23m	0.20m	0.12m	
P 2	0.23m	0.20m	0.10m	
P 3	0.20m	0.16m	0.16m	
P 4	0.15m	0.13m	0.08m	
P 5	0.25m	0.20m	0.05m	
P 6	0.23m	0.21m	0.21m	
P 7	0.30m	0.28m	0.23m	

入口施設 検出されなかった。



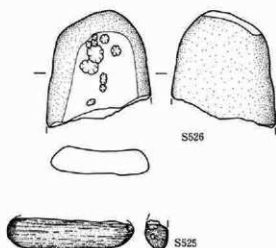
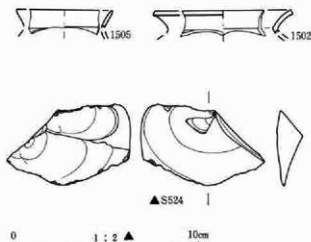
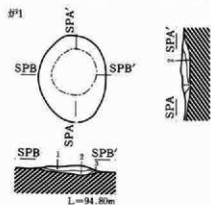
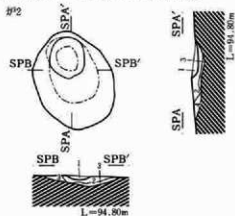


図309 151号住居出土遺物

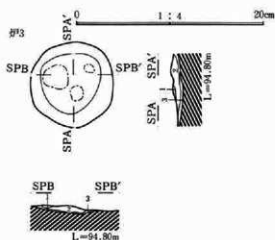


- 1層 赤褐色土 As-Cを少量含む。床面が焼けたものと思われる。  
 2層 暗灰褐色土 やや赤みを帯びる。As-Cは含まれない。  
 3層 黒褐色土 As-Cを少量含む。やや砂質。

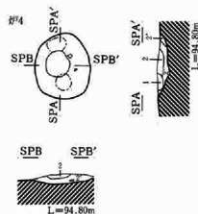


- 1層 黒褐色土 As-Cを多く含む。焼土粒子・炭化物粒子をやや多めに含む。  
 2層 赤褐色土 As-Cを極めて多量に含む。  
 3層 暗灰褐色土 やや赤みを帯びる。As-Cを含まない。  
 4層 暗灰褐色土 やや赤みを帯びる。As-Cを多く含む。

図310 151号住居の炉



- 1層 赤褐色土 As-Cを多く含む。  
 2層 淡赤褐色土 As-Cをブロック状に含む。  
 3層 暗灰褐色土 やや赤みを帯びる。As-Cを少量含む。



- 1層 赤褐色土 As-Cを少量含む。  
 2層 黒褐色土 As-Cを多く含む。  
 2層 黒褐色粘性土 As-Cをブロック状に含む。2層より6若干異なる。

0 1:30 1m

第8章 住居の調査

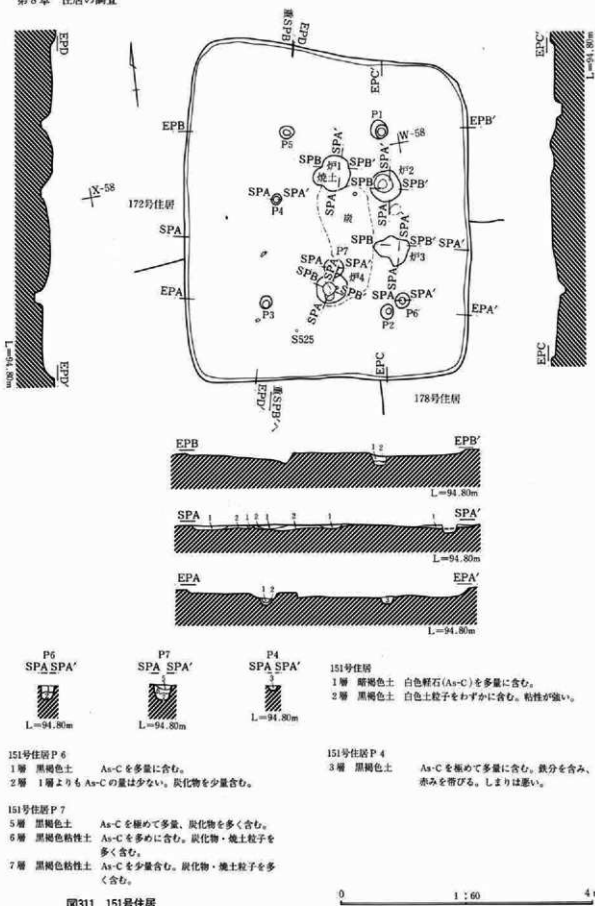


図311 151号住居

**遺物出土状態** 土器器底形土器の体部小破片が床面直上より出土している。図示した1502・1505の變形土器口縁部は埋没土中からの出土である。

**炉** 床面に4ヶ所、焼けた部分が検出された。

- 炉1 位置 中央やや北寄り  
規模 長軸0.68m 短軸0.50m 深さ—m
- 炉2 位置 中央やや南東寄り  
規模 長軸0.50m 短軸0.46m 深さ0.06m
- 炉3 位置 中央やや南東寄り  
規模 長軸0.60m 短軸0.50m 深さ0.02m
- 炉4 位置 中央やや南東寄り  
規模 長軸0.50m 短軸0.44m 深さ0.06m

**遺存状態** 炉2・4は良好な状態を保っている。

**遺物出土状態** 炉4の埋没土内から3点の土器片が出土しているが、図化できない。

**調査所見** 本住居の壁はほとんどが削られており、わずかに残る程度である。床面には炉跡が残る。古墳時代前期の住居に特有な炉状の焼土部分が4ヶ所ある。(相京)

#### 152号住居 Ⅱ312-313, PL82-153, 表P.64

**位置** W・X-55・56グリッド

**規模** 縦4.37m 横4.0m 深0.09m

**形状** 隅丸長方形

**重複** 52号・95号・96号溝、11号周溝墓に先行する。

**東壁方位** N-19°-E

**埋没土** 浅間C軽石・焼土粒・炭化物粒を少量含む黒褐色粘質土で埋まっていた。

**床面** 顕著な床面は検出されなかった。

**貯蔵穴** 検出されなかった。

**周溝** 検出されなかった。

**柱穴** 大小10本のピットが検出されている。このうちP1-P3の3本は主柱穴と考えられる。もう1本の主柱穴は52号溝に切られている位置にあったと推定される。他の小ピットの用途は不明である。

柱穴No	長径	短径	深さ	備考
P 1	0.3 m	0.27m	0.52m	
P 2	0.36m	0.34m	0.35m	
P 3	0.37m	0.3 m	0.25m	
P 4	0.3 m	0.23m	0.33m	
P 5	0.26m	0.23m	0.34m	
P 6	0.24m	0.24m	0.10m	
P 7	0.30m	0.30m	0.27m	
P 8	0.26m	0.22m	0.10m	
P 9	0.20m	0.18m	0.47m	
P 10	0.28m	0.24m	0.18m	

**入口施設** 壁沿いにはいくつか小ピットが検出されたが、明確に入口施設ととらえられるものは検出されなかった。

**遺物出土状態** 遺物の出土はきわめて少ない。図示した弥生土器器底形土器(1506・1509)は住居中央部の床面近くから出土したものである。

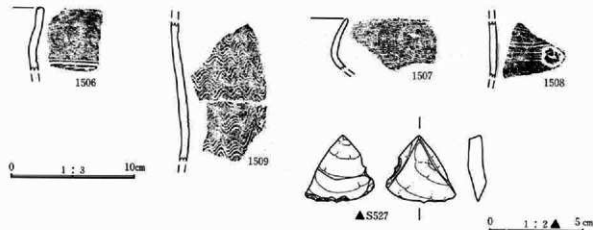


図312 152号住居出土遺物

第8章 住居の調査

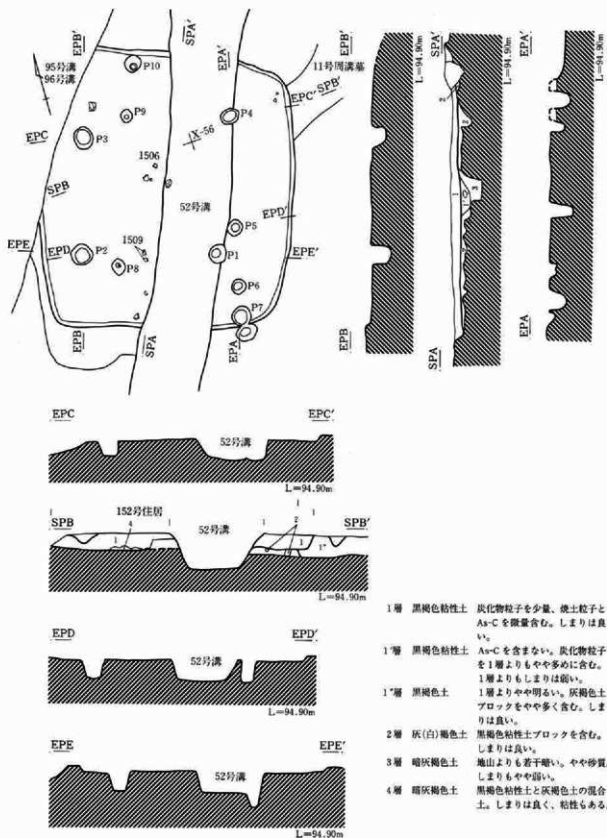


図313 152号住居

0 1:60 4m

炉 検出されなかった。位置的には52号溝に壊された可能性がある。

調査所見 本住居は中央を南北に52号溝、北西部分を95号・96号溝によって切られている。また、11号周溝墓に切られている。埋没土中から弥生時代後期の土器片が出土している。(小高)

#### 153号住居 図314-319, PL82-84, 153-154, 表P.64-67

位置 V-X-59-61グリッド

規模 縦6.6m 横6.9m 深0.21m

形状 隅丸方形

重複 168号・172号住居に後出する。

主軸方位 N-37°-E

埋没土 浅間C軽石を混入した黒褐色土層であり、上層はクラックが入りやすい。下層は炭化物を含む暗黒灰色土である。

床面 貼床が施されている。しっかりとした平坦な床面である。床面には3ヶ所焼けた部分があり、炉跡と考えられる。

貯蔵穴 北東隅に長径1.0m、短径0.86m、深さ0.39mの楕円形の貯蔵穴が検出された。掘り込み面付近は一部が崩れている。貯蔵穴内には土層が2層あり、上層では浅間C軽石が多く、下層では少なくなる黒色土である。

周溝 西壁では幅10cm、深さ4cm、南壁では幅18cm、深さ3cmの周溝が検出された。

柱穴 8本の柱穴が検出された。P1～P4は主柱穴である。P5～P8は掘り方で確認した。

柱穴No	長径	短径	深さ	備考
P 1	0.38m	0.36m	0.45m	
P 2	0.44m	0.43m	0.58m	
P 3	0.41m	0.34m	0.59m	
P 4	0.40m	0.28m	0.53m	
P 5	0.60m	0.48m	0.10m	
P 6	0.29m	0.22m	0.48m	
P 7	0.70m	0.33m	0.28m	
P 8	0.63m	0.43+ $\sigma$ m	0.10m	

入口施設 なし

遺物出土状態 床面から7～10cm上位で埋没土中にはほぼ全面から出土し、北西壁に沿って幅約2.5mほどに集中している。S字状口縁台付甕形土器(1511)が貯蔵穴内で、甕形土器(1520)が床面直上で出土している。埋没土内からは器台形土器(1515)や甕形土器(1510・1530)等が出土した。

また、床面から6～7cm上位で、南東壁と北東壁下において焼土が出土し、住居中央付近では小片ではあるが、炭化材や炭化物粒が多く検出された。

炉 床面に3ヶ所の焼けた地点が検出された。

炉1 位置 中央やや東寄り

規模 長軸0.8m 短軸0.55m 深さ0.10m

炉2 位置 中央やや北寄り

規模 長軸0.45m 短軸0.37m 深さ0.05m

炉3 位置 中央やや北寄り

規模 長軸0.60m 短軸0.40m 深さ0.05m

遺存状態 炉1・2はほぼ連続した状態で検出された。炉1にあるピットは長径0.27m、短径0.2m、炉2にあるピットは長径0.25m、短径0.14mで、深さはともに5～10cmであり、しっかりと焼土化している。炉3も含めて深さ5～10cmほどの凹みがあり、しっかりと焼土化している。

遺物出土状態 なし

調査所見 本住居の床面下5～10cmには、一回り小さなほぼ相似形の掘り込みがあった。この掘り込みについては、調査時にも1. 同一住居の段差、2. 拡張住居、3. 別の住居の重複等いくつかの可能性を考えながら、調査を実施したが、最終的には本住居に伴うもので掘り方とすることとした。

本住居床面付近には炭化物が多く見られたが、下層の掘り込みには見られない。また、土層間からも本住居の床面が、下層の掘り込みの上につくられていることは明らかである。この下層の掘り込みの埋没土はほぼ水平堆積で、周囲から流れ込んだ自然堆積とは考えにくい。また、下層の掘り込みの底面には独自の炉や主柱穴が確認できなかった。したがって基本的にはこの下層の掘り込みは、本住居の掘り方と考えたい。(相京)

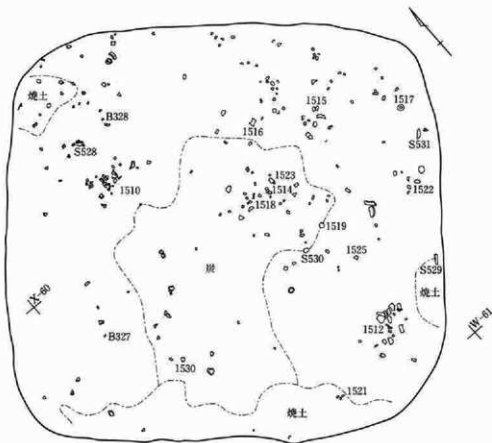
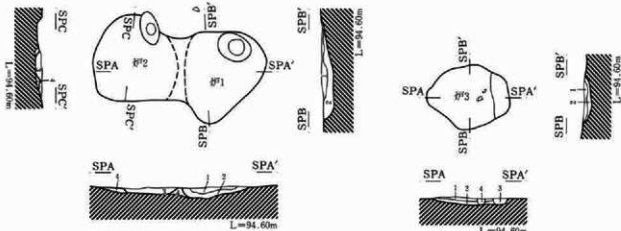


図314 153号住居上層遺物出土状態

0 1:60 2 m



- 1層 黒色土 炭化物層。焼土ブロックをわずかに含む。
- 2層 灰褐色土 地山ブロック、白色粘土が混入する。
- 3層 1号炉の1層と同じ。
- 4層 褐色土 地山。わずかに焼けている。

- 1層 赤褐色土 焼土(しっかり焼けている)。
- 2層 黒褐色土 漸移的に焼けている。直径1-7mm(平均2-3mm)のAs-Cが混入する(1㎡当たり3個位)。
- 3層 黄白色土 粘土。
- 4層 黒色土 焼土粒が混入する。As-Cがわずかに入る。

図315 153号住居の炉

0 1:30 1 m

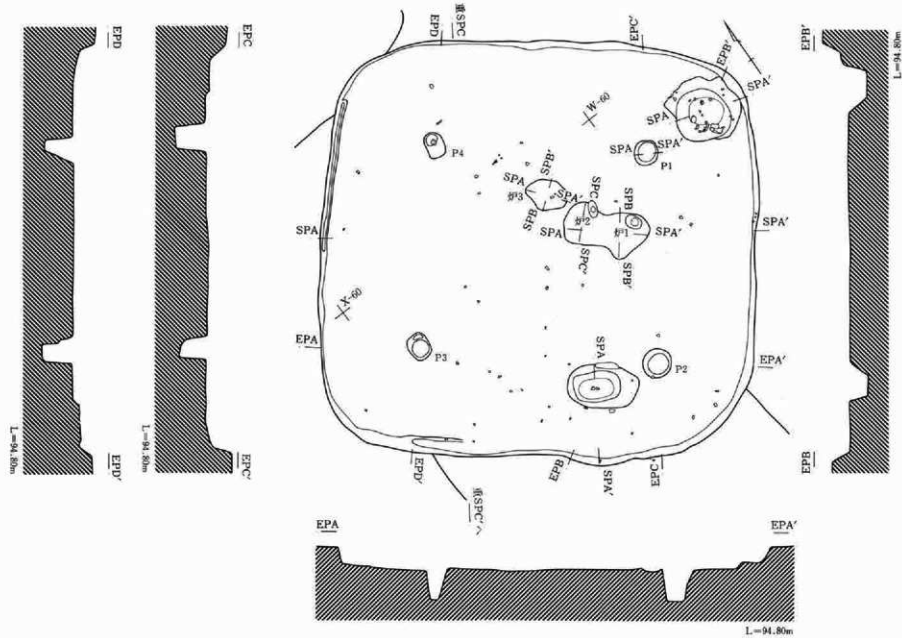
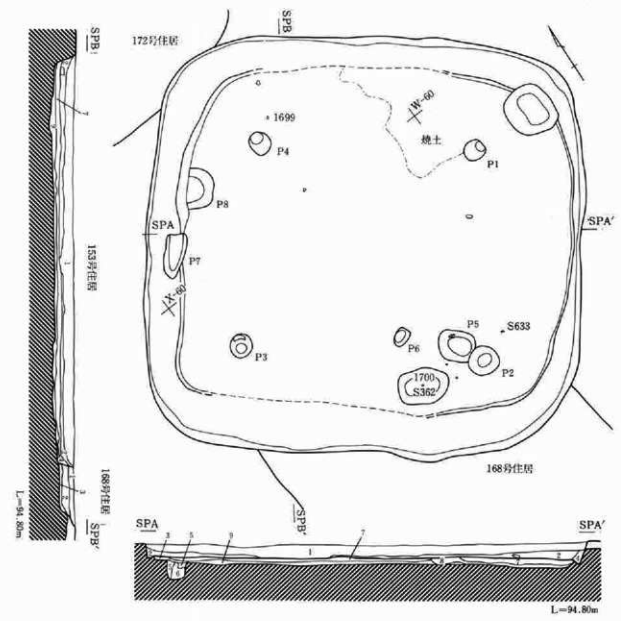


図316 153号住居の床面



- 153号住居(170号住居)**
- 1層 黒褐色土 As-Cが混入する(1.0m当たり2〜3個)。クラックが入りやすい。
  - 2層 暗黒灰色土 As-Cがわずかに混入する。下部に炭化物を含む。粘性が大きい。
  - 3層 白色粘土ブロック
  - 4層 黒色土 As-Cが混入する。粘性がある。
  - 5層 黒色土 酸化鉄分を含む。粘性が大きい。
  - 6層 白色粘土ブロック
  - 7層 黒褐色土 酸化鉄を多量に含む。一部As-Cが混入する。10.0m当たり20個位。クラックが入りやすい。
  - 8層 黒褐色土 As-Cの混入が多い。
  - 9層 黒褐色土 直径1.0mの白色粘土ブロックがわずかに混入。酸化鉄を含む。わずかに粘性がある。極少量30mlに1個As-Cが入る。
- 168号住居**
- 1層 As-Cを多量に含む黒褐色土。
  - 2層 炭化物・焼土粒・As-Cを含む黒褐色粘質土。
  - 3層 炭化物・焼土粒を含む黒褐色粘質土。

図317 153号住居掘り方





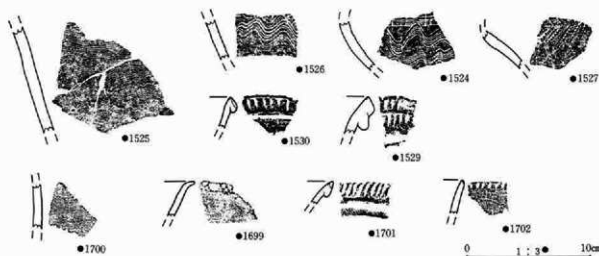
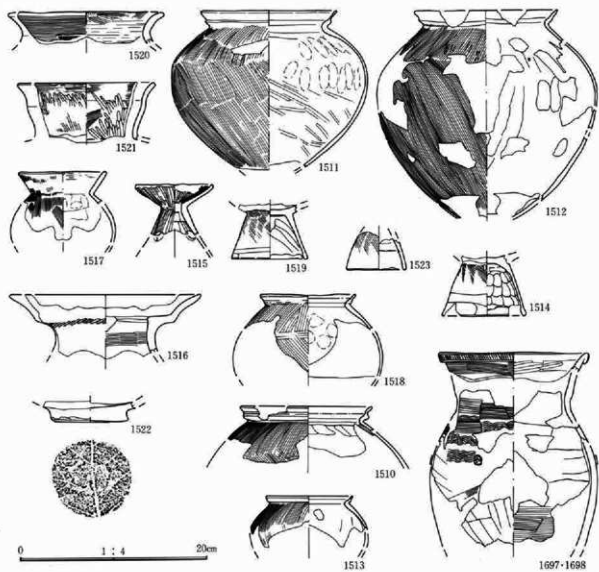


图318 153号住居出土遗物(1)

第8章 住居の調査

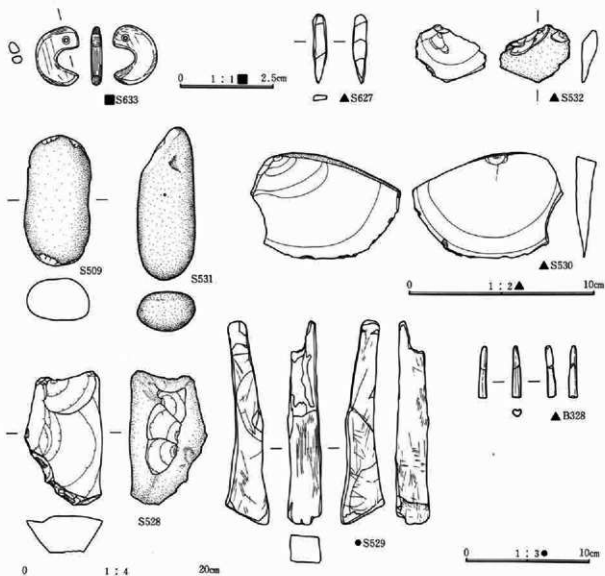


図319 153号住居出土遺物(2)

154号住居 図320-324・328-329, PL84-85-154-156, 表P.67-70

位置 2A・2B-62-64グリッド

規模 縦10m 横6.2+αm 深0.36m

形状 隅丸方形

重複 32号井戸・169号住居に先行する。

主軸方位 N-0°-E

環状土 白色土粒や粘土を含む褐色土。床面直上は炭化物を多量に含むので火災住居と考えられる。

床面 東壁から住居中央付近まではしっかりとした平坦な固い床面であるが、西壁は善勝寺堀や現河川により壊されている。

貯蔵穴 南壁東寄りに長径1.18m、短径0.56m、深さ0.56mの楕円形の貯蔵穴が検出された。貯蔵穴は2段に掘られている。中段は床面から5cmのところであり、円形状の落ち込みは、直径0.60mを呈する。周溝 東壁下の一部に検出された。幅10-26cm、深さ約4cmである。

柱穴 22本のピットが検出されている。そのうち柱穴はP2-P5と考えられる。

柱穴No	長径	短径	深さ	備考
P1	0.50m	0.32m	0.33m	
P2	0.52m	0.50m	0.48m	

P 3	0.80m	0.60m	0.61m	
P 4	0.32m	0.28m	0.07m	
P 5	0.30m	0.23m	0.06m	
P 6	0.42m	0.27m	0.48m	
P 7	0.36m	0.32m	0.19m	
P 8	0.37m	0.34m	0.28m	
P 9	0.50m	0.44m	0.30m	
P 10	0.30m	0.24m	0.50m	
P 11	0.33m	0.30m	0.66m	
P 12	0.49m	0.40m	0.09m	
P 13	0.58m	0.34m	0.57m	入口施設
P 14	0.36m	0.22m	0.59m	入口施設
P 15	0.20m	0.14m	0.11m	
P 16	0.58m	0.46m	0.41m	
P 17	0.45m	0.27m	0.35m	
P 18	0.49m	0.39m	0.13m	
P 19	0.60m	0.57m	0.57m	
P 20	0.30m	0.22m	0.07m	
P 21	0.43m	0.37m	0.33m	
P 22	0.60m	0.34m	0.19m	

**入口施設** 南壁中央付近から北へ約50cmに位置する。入口施設のピット番号はP13とP14にあたる。長軸は、2本のピット（P13・P14）とも南北に長い。P13は底面が中央より北寄りにある。

**遺物出土状態** 遺物はほぼ全体から出土している。住居は火災に遭った状況を呈しており、炭化材の下からの遺物の出土が多い。遺物の集中地点は南東隅部分に多く見られる。

#### 炉

**位置** 東壁中央より0.6m西側

**規模** 長軸1.0m 短軸0.53m 深さ0.01m

**遺存状態** 焼土の確認がなされている。この部分は床面がしっかり焼けていることから火災に遭った焼土とは異なる。

**遺物出土状態** 床面直上からは小形台付甕形土器(1535)、壺形土器(1534・1545)、高杯形土器(1533)の他、埋没土中からは多くの土器が出土している。

**調査所見** 169号住居に切られていることにより本

住居の床面は重複部分で約15cm削られて低くなっている。このためP1・P4の支柱穴およびP5はP1・P2を軸とするP5・P6・P7は直線上で等間隔配列・同規模であり、本住居の所産と考えることにした。

また、炉は本来P1・P4の間付近に位置することが当該期の特色であるが、169号住居によって切られているため検出不可能であった。また、P10・P11は壁柱穴であり、掘り方面より掘り込み、床面からP10は15cm、P11は33cmの深さまで達している。

(相京)

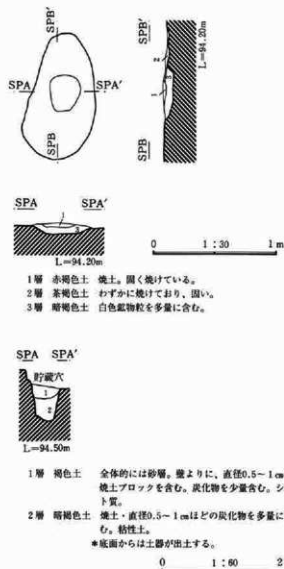


図320 154号住居の炉と貯蔵穴

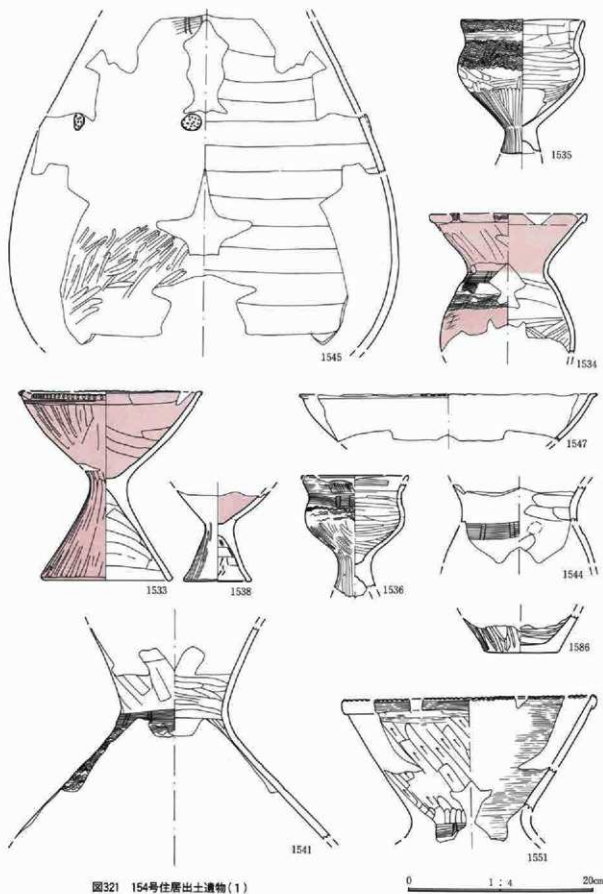


図321 154号住居出土遺物(1)

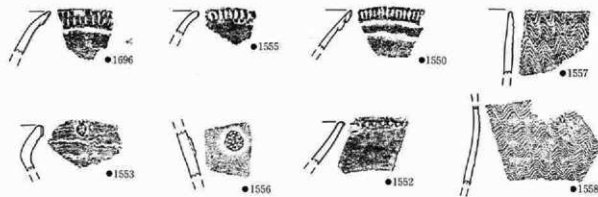
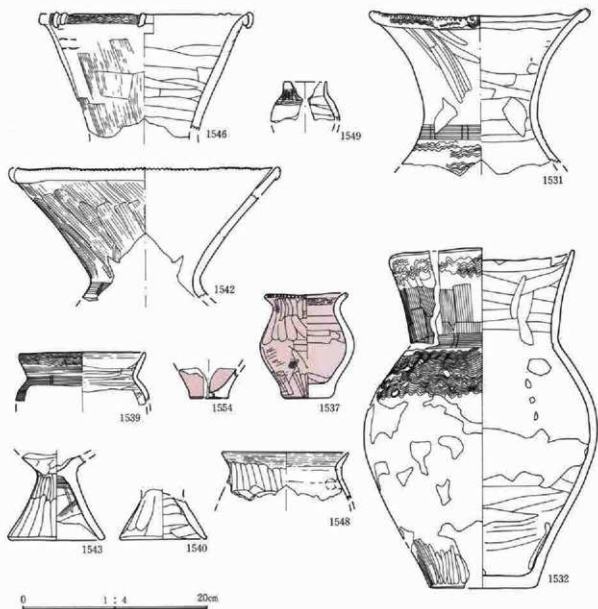


图322 154号住居出土遗物(2)

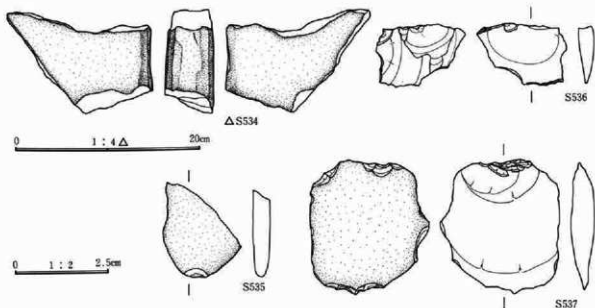
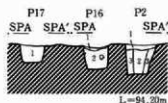


図323 154号住居出土遺物(3)



154号住居 P17

1層 灰褐色土 シルト質。上部に炭化物をわずかに含む。

154号住居 P16

1層 黄色砂質土小ブロック・炭化物粒を含む灰褐色シルト質土。  
2層 炭化物粒を多量に含む灰褐色粘質土。

154号住居 P2

1層 炭化物粒・少量の焼土粒を含む灰褐色シルト質土。  
2層 多量の炭化物粒と焼土粒を含む灰褐色粘質土。  
3層 少量の炭化物粒を含む灰褐色砂質土。

\*底面に土器がある。



1層 少量の焼土粒・炭化物粒・多量のAs-Cを含む黒灰色土。

2層 炭化物粒を含む灰褐色粘質土。

3層 少量の炭化物粒を含む灰褐色砂質土。ザラザラしている。



1層 黒褐色土 炭化物を含むシルト質。  
2層 灰褐色土 シルト質。



1層 灰褐色土 炭化物・焼土粒をわずかに含む粘質土。



1層 灰褐色土 粘質土。炭化物がわずかに含まれる。



1層 褐色土 粘土質。炭化物をわずかに含む。  
2層 灰褐色土 シルト質。わずかに炭化物を含む。



1層 暗褐色土 酸化鉄を含む。この上に鑿の定形(削れている)が田土した所。粘性が大きい。



1層 灰褐色土 炭化物を多量に含む。わずかに直径0.5cmほどの焼土粒を含む。粘質土。  
2層 灰褐色土 シルト質。わずかに炭化物を含む。



1層 黒褐色土 直径0.5-1cmほどの炭化物を含む。  
2層 黒灰褐色土 炭化物粒を多量に含む。  
3層 灰褐色土 炭化物粒を多量に含む。

L=94.20m 0 1:60 2m

図324 154号住居の柱穴

169号住居 西325-330, PL85-87-156-157, 表P.70-73

位置 2A・2B-62・63グリッド

規模 縦6.2m 横4.8m 深0.43m

形状 隅丸方形

重複 154号住居に後出する。

主軸方位 N-15°-E

埋没土 直径2～3mmの浅間C軽石を10cmあたり1～2個混入し、炭化物粒や酸化鉄分をわずかに含む。白色土粒は埋没土中位から床面付近までの間で検出される。

床面 床面は部分的に多少凹凸があるが、全体にはほぼ平坦である。

貯蔵穴 南東隅寄りわずかに北側に長径0.78m、短径0.50m、深さ0.50mの垂んだ楕円形を呈する貯蔵穴が検出された。

周溝 なし

柱穴 19本のピットが検出された。主柱穴はP1～P4と考えられる。

柱穴No	長径	短径	深さ	備考
P 1	0.45m	0.36m	0.59m	
P 2	0.33m	0.23m	0.67m	
P 3	0.35m	0.32m	0.59m	
P 4	0.38m	0.30m	0.53m	
P 5	0.40m	0.35m	0.23m	
P 6	0.48m	0.43m	0.46m	
P 7	0.32m	0.22+ $\epsilon$ m	0.08m	
P 8	0.22m	0.19m	0.44m	
P 9	0.75m	0.32m	0.06m	
P10	0.38m	0.30m	0.18m	
P11	0.37m	0.22m	0.05m	
P12	0.20m	0.18m	0.07m	
P13	0.30m	0.28m	0.38m	
P14	0.27m	0.16m	0.07m	
P15	0.53m	0.29m	0.46m	上端連結
P16	0.53m	0.21m	0.69m	上端連結
P17	0.32m	0.23m	0.60m	
P18	0.68m	0.48m	0.40m	上端連結
P19	0.68m	0.16m	0.21m	上端連結

P20 0.30m 0.16m 0.28m

入口施設 南壁下中央付近に不整形な落ち込みがある。南東隅から約1.5mのところ長軸0.60m短軸0.35m、床面からの深さ0.30mの隅丸方形の落ち込みがある。

遺物出土状態 ほぼ全面から遺物が出土している。特に南西隅部分にかけてと北西部付近に集中地点がある。床面および埋没土中からは弥生時代後期の甕形土器(1663)、高杯形土器(2170)などの出土がある。他に埋没土中から獣骨の出土があり、2号河川跡の埋没土との関係もあり、遺跡西側の低地部へ獣骨を捨てたかのような状態を呈す。

炉 3ヶ所の炉が検出されている。

炉1 位置 中央よりやや北寄り

規模 長軸0.30m 短軸0.28m 深さ0.02m

炉2 位置 中央よりやや南寄り

規模 長軸0.26m 短軸0.20m 深さ0.04m

炉3 位置 中央よりやや南西寄り

規模 長軸0.32+ $\epsilon$ m 短軸0.21m 深さ0.02m

遺存状態 炉1は本住居の炉の中では最もしっかりしており、炉2・炉3は焼土の広がりをもつみである。

遺物出土状態 炉1・炉2の周辺から遺物の出土が多い。

調査所見 154号住居を切って本住居をつくっているため、本住居の床面で確認されたピット群の中には154号住居を構築していた柱穴も含まれていると考えられる。したがって本住居の床面で検出されたピットのうち、154号住居の平面形と合致する3柱穴を154号住居の柱穴として報告した。(154号住居P1・P4・P5) この他にも154号住居の柱穴や炉に付属するピットになるものが含まれている可能性があると思うが不明と言わざるを得ない。

(相京)

第8章 住居の調査

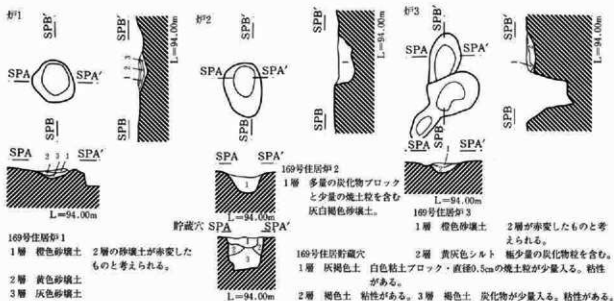


図325 169号住居炉と貯蔵穴

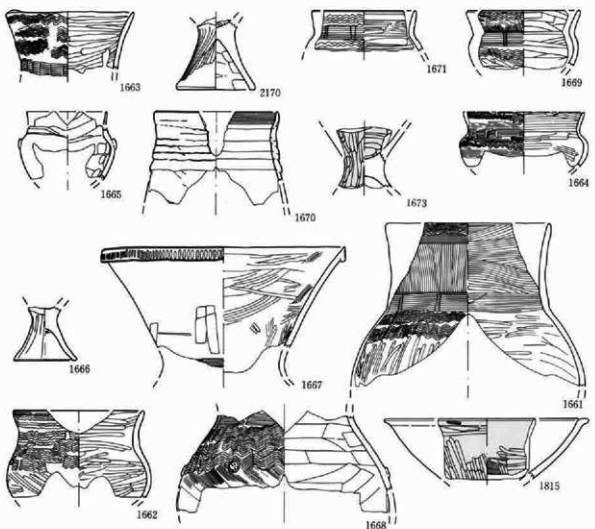


図326 169号住居出土遺物(1)



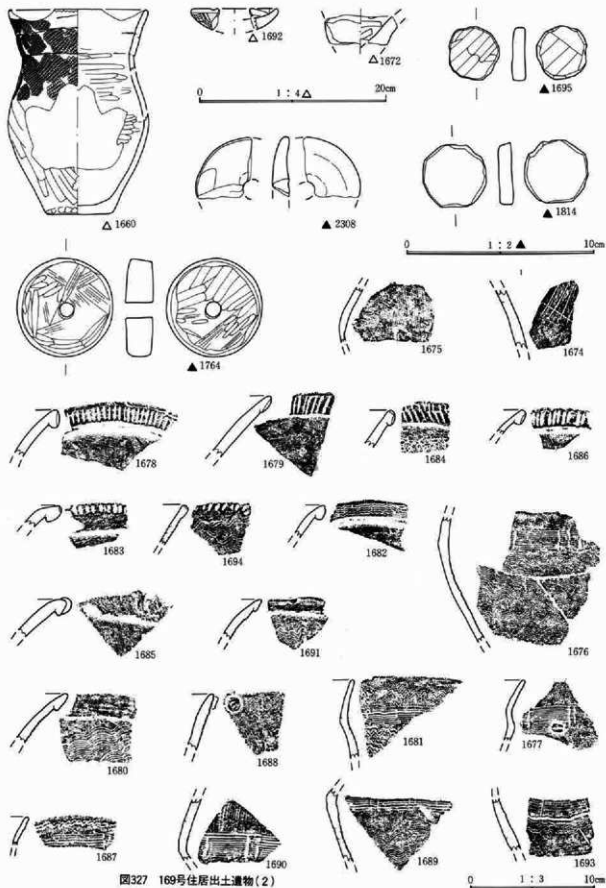


図327 169号住居出土遺物(2)

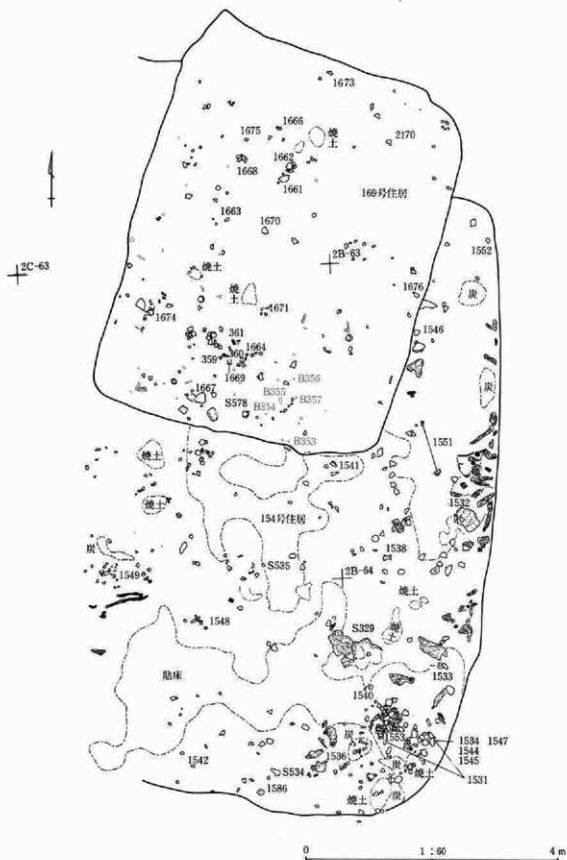
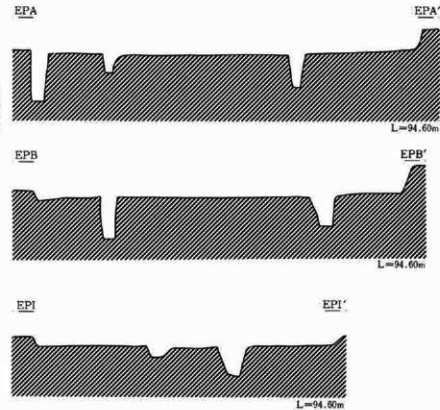


図328 154号・169号住居上層遺物出土状態



- 154号住居**
- 1層 灰褐色土 砂を主としており、直径1-10mmのAs-Cが、10㎡当たり20顆混入する。わずかに炭化物を含む。
  - 2層 褐色土 直径1mmの白色土粒を多量に含む。粘性がある。
  - 3層 褐色土 直径1mmの白色土粒をわずかに含む。直径2mmの炭化物が点々と入る。酸化鉄分が多い。粘性がある。
  - 3層 褐色土 直径1mmの白色土粒をわずかに含む。炭化物がない。酸化鉄分が多い。粘性がある。
  - 4層 褐色土 白色粘土が入る。粘性が大きい。
  - 5層 褐色土 白色粘土・炭化物が混入する。酸化鉄分が多い。
  - 6層 褐色土 炭化物を多量に含む。(火災住居)
  - 7層 黒褐色土 粘性が高い。
- 169号住居**
- 1層 灰褐色土 北面に広がる溝状の遺構の覆土。シルト質。赤褐色の鉄分を含む。
  - 2層 褐色土 直径2-3mmのAs-Cが多く混入している。
  - 3層 暗灰褐色土 As-Cをわずかに混入する。
  - 4層 暗褐色土 炭化物をわずかに含む。As-Cが10㎡に1-2個混入する。酸化バクテリア層がわずかに入る。粘性がある。
  - 5層 黒褐色土 わずかに白色粘土が入る。粘性が高い。

図329 154号・169号住居



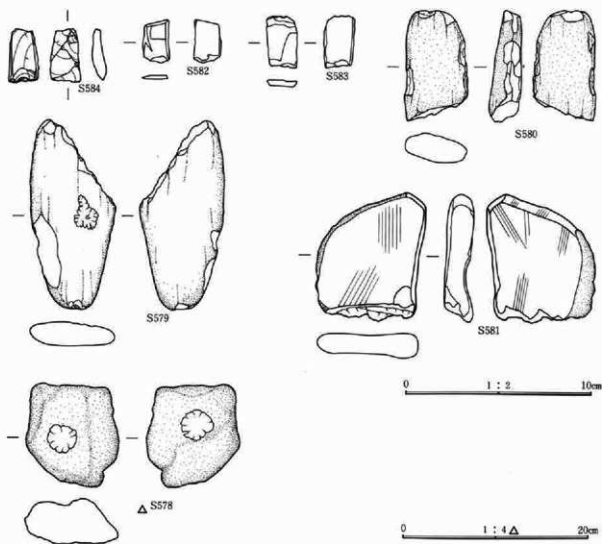


図330 169号住居出土遺物(3)

## 155号住居 図331-333, PL87-88-157, 表P.73-74

位置 W-Y-61・62グリッド

規模 縦5.2m 横5.2m 深0.2m

形状 隅丸方形

重複 166号住居に後出する。

主軸方位 N-24°-E

埋没土 浅間C軽石を含む褐色土層であり、上層は黒くクラックが入りやすく、下層は暗灰色で粘性がある。

床面 床面よりわずかに凹凸をもつが、全体的に平坦である。炉の周辺から北側にかけて幅約1.5mの範囲に炭化物の散布範囲がある。

貯蔵穴 南東隅に長軸1.25m、短軸1.25m、深さ0.20mの隅丸長方形の区画をもつ貯蔵穴が検出された。このなかには長軸0.58m、短軸0.50m、深さ0.29mの掘り込みがある。貯蔵穴内の埋没土には2層が確認され、上層の浅間C軽石や焼土粒・炭化物粒を含む黒褐色土と、下層の灰褐色土からなる。

貯蔵穴の北辺は幅45cm、高さ2cmの周堤状の高まりがある。

周溝 なし

柱穴 4本の主柱穴が検出された。

柱穴No	長径	短径	深さ	備考
P1	0.45m	0.45m	0.27m	

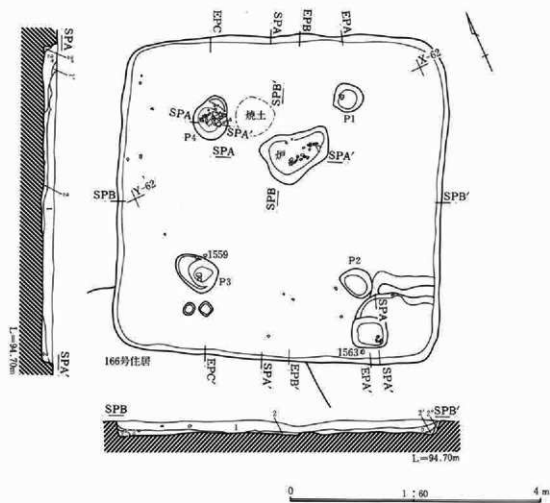
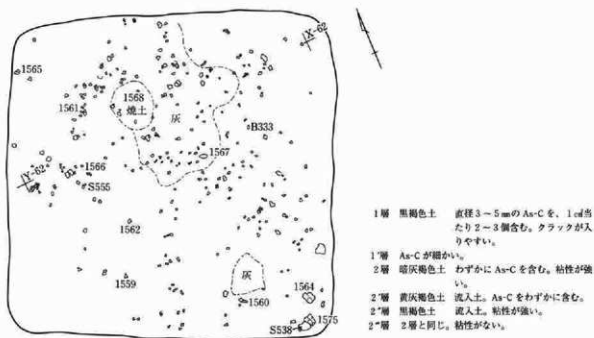


図331 155号住居上層遺物と床面

P 2	0.55m	0.44m	0.47m
P 3	0.70m	0.50m	0.40m 中段がある
P 4	0.70m	0.55m	0.43m

入口施設 なし

遺物出土状態 全体に散布する破片は、約250点の出土である。埋没土中から出土している甕形土器(1559)はP3付近から北壁中央付近までの散布状況がある。貯蔵穴区画内の床面からは甕形土器(1575)、ミニチュア土器(1563・1564)などの出土遺物の他、埋没土中より種類は不明であるが骨片(B333)の出土がある。床面出土遺物には土師器

S字状口縁台付甕形土器もあることから古墳時代前期の住居である。

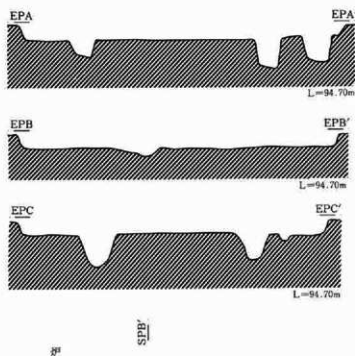
炉

位置 中央よりやや北寄り

規模 長軸1.13m 短軸0.80m 深さ0.07m

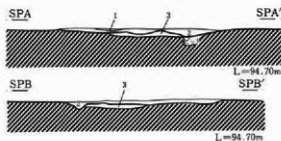
遺存状態 炉はやや変形している。東寄りの床面にピットがある。

遺物出土状態 炉の周辺からも土器片が出土している。主に小破片である。弥生土器甕形土器が多い。調査所見 本住居はしっかりとした形で検出された。また、貯蔵穴も明瞭である。(相京)



- 1層 茶褐色土 直径1～5mm(平均2mm)のAs-Cを、1㎡当たり1個混じる。ボツボツとした感じがある。酸化鉄分を多く含む。上にS字状口縁台付甕の破片が入る。しまりがない。
- 2層 暗褐色土 柱灰、灰白色土ブロック(粘性)を斑点状に含む。
- 3層 灰白色土 地山が流れ込んでいる。地山が汚れた感じ。

0 感じ。 1:60 2m



- 1層 灰褐色土 直径0.1～1cm(平均0.2cm位)のAs-Cが混じる(1㎡当たり1個位)。他に炭化物・焼土粒が含まれている。
- 2層 赤褐色土 焼土層。
- 3層 暗褐色土 わずかに焼けている。

0 1:30 1m

図332 155号住居の炉・貯蔵穴・柱穴

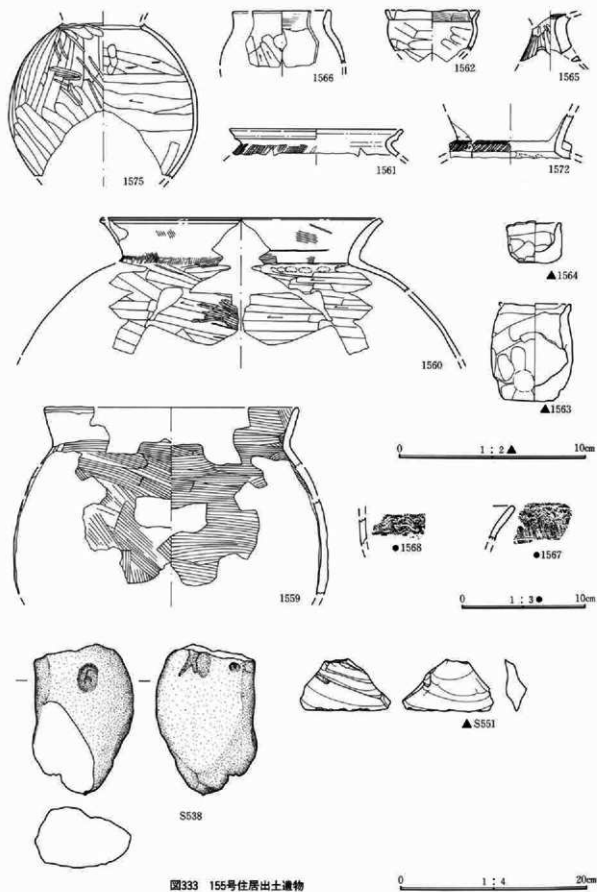


図333 155号住居出土遺物



156号住居 図334-336, PL88-157-158, 表P.75

位置 X・Y-63・64グリッド

規模 縦6.7m 横2.4+ $\alpha$ m 深0.32m

形状 住居の東部分は大半が調査区外であるが、隅丸方形と推定される。

重複 167号住居、76号土坑に後出し、31号井戸に先行する。

西壁方位 N-24°-E

埋没土 径0.5~10mmの浅間C軽石を1cm当たり3~7個混入した茶褐色土で大半が埋まっている。壁際は黒褐色土で浅間C軽石を含む量が少なくなる。

床面 床面は多少の凹凸があり、凹地は地山を削り床面下に掘り方をもつ部分である。地山をそのまま床面としている部分は固くしっかりしている。

貯蔵穴 調査できた範囲の中では検出されなかった。

周溝 西壁に沿って幅30cm、深さ25cmの周溝が掘り方面で検出された。

柱穴 P1・P2は主柱穴と考えられ、この2本は床面で確認できたが、他は掘り方面での確認である。

柱穴No	長径	短径	深さ	備考
P 1	0.46m	0.40m	0.42m	中段あり
P 2	0.28m	0.28m	0.33m	
P 3	0.52m	0.24+ $\alpha$ m	0.40m	
P 4	0.34m	0.34m	0.29m	
P 5	0.38m	0.26m	不計測	
P 6	0.43m	0.35m	0.29m	
P 7	0.22m	0.20m	0.13m	
P 8	0.30m	0.24m	0.12m	
P 9	0.20m	0.18m	0.08m	
P 10	0.39m	0.20m	0.12m	
P 11	0.30m	0.13m	0.07m	
P 12	0.15m	0.14m	0.13m	
P 13	0.18m	0.16m	0.11m	
P 14	0.20m	0.08+ $\alpha$ m	0.10m	
P 15	0.43m	0.22+ $\alpha$ m	0.16m	

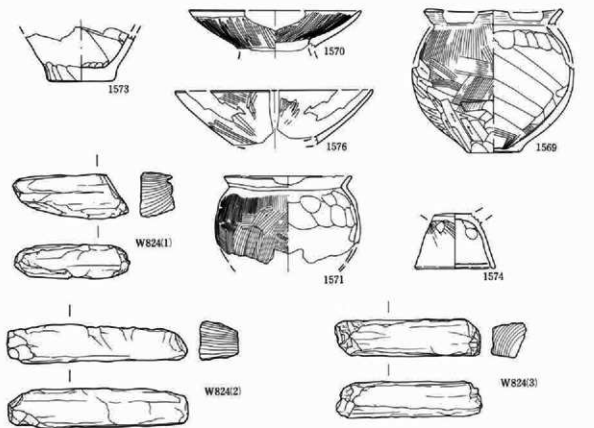


図334 156号住居出土遺物

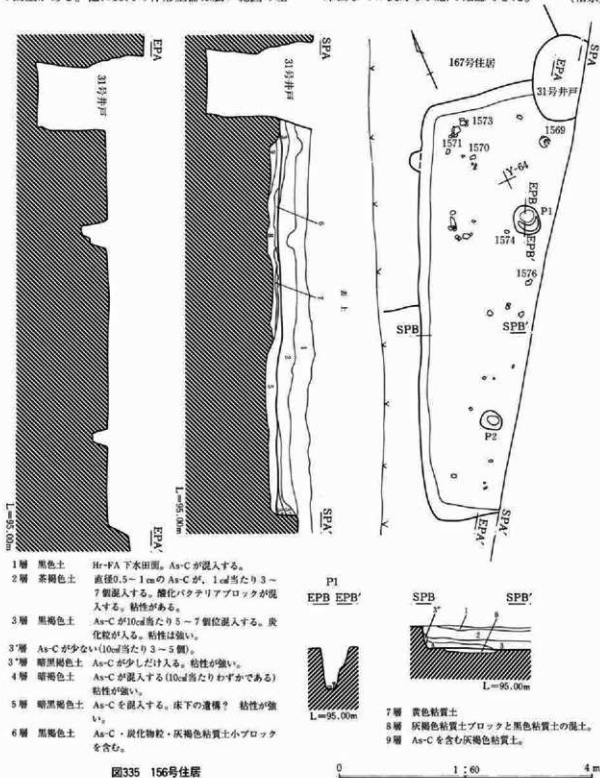
入口施設 調査範囲の中では検出されなかった。

遺物出土状態 全体にまばらな感じで出土している。北西部隅では1573の甕形土器が床面直上から出土している。その他埋没土中からも同様な甕形土器の出土がある。他に1570の杯形土器は広い範囲の埋

没土からの出土である。

炉 調査できた範囲の中では検出されなかった。

調査所見 本住居の西側の一部が検出された。大半は東側の調査区域外に入っている。遺構確認面から床面までは良好な状態で確認できた。(相京)



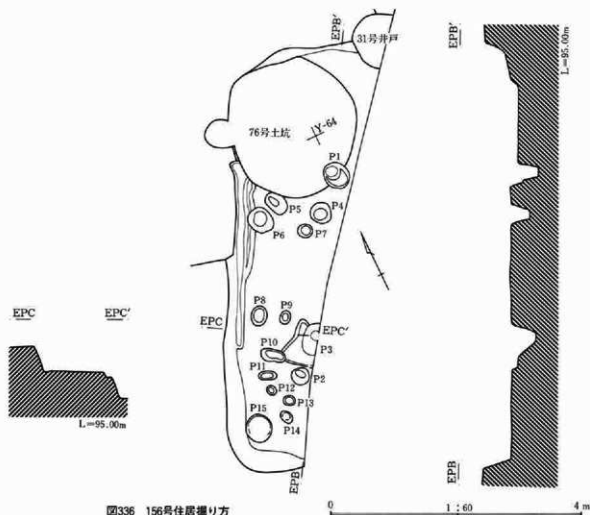


図336 156号住居掘り方

157号住居 図337-339, PL88-90-158-159, 表P. 75-76

位置 Y~2 A-63-65グリッド

規模 縦5.8m 横6.9m 深0.19m

形状 隅丸方形

重複 165号・167号住居に後出する。

東壁方位 N-0°-E

埋没土 直径0.5~5mmの浅間C軽石を含む。床面付近では炭化物が直径2~3cmになる。中層では炭化物がわずかに入り、直径3cmほどの酸化バクテリアブロックの土層となり、暗灰褐色土で粘性をもつ。上層は浅間C軽石が1cm当たり3~5個混入する黒褐色土である。

床面 床面は平坦である。炉跡付近から北は貯蔵穴、西は壁際までの間に炭化材が分布し、床面は黒くになっている。

貯蔵穴 北西隅に長径1.04m、短径0.65m、深さ0.19mの東西に長い楕円形の貯蔵穴が検出された。東側は床面がわずかに凹んでいる。

周溝 なし

柱穴 15本のビットが検出された。

柱穴No	長径	短径	深さ	備考
P 1	0.58m	0.44m	0.56m	
P 2	0.78m	0.66m	0.38m	
P 3	0.70m	0.48m	0.38m	
P 4	0.74m	0.40m	0.66m	
P 5	0.40m	0.38m	0.68m	
P 6	0.15m	0.09m	0.37m	
P 7	0.42m	0.24m	0.07m	
P 8	0.50m	0.48m	0.05m	
P 9	0.20m	0.18m	0.38m	

## 第8章 住居の調査

P10	0.34m	0.30m	0.18m
P11	0.15m	0.13m	0.11m
P12	0.20m	0.18m	0.05m
P13	0.18m	0.16m	0.15m
P14	0.22m	0.12m	0.09m
P15	0.34m	0.16m	0.10m

入口施設 なし

**遺物出土状態** 住居全体に遺物分布がみられるが、集中地点は炉跡から西側の炭化材の集中地点にある。床面直上からは甕形土器（1577・1582）、壺形土器（1578）が出土している。床面よりわずかに浮いた状態で、シカ白歯片（B334）や種は不明であるが四肢骨片（B335）、器台形土器（1579）が出土している。

**炉**

**位置** 中央やや西寄り

**規模** 長軸0.65m 短軸0.52m 深さ0.07m

**遺存状態** 炉の中央部は7cmほど掘り込まれている。埋没土層は黒褐色土に焼土が混じり、中央付近の床面上には赤褐色の焼土ブロックと焼土粒があり、床面は白っぽく焼け、周縁付近になると灰白色土であり、わずかに焼けて炭化物をわずかに含む、しっかりとした炉跡である。

**遺物出土状態** 炉内からは甕形土器の破片が出土している。周辺部は西側で多くの出土遺物がある。

**調査所見** 本住居は隅丸方形で主柱穴をしっかりともち、明瞭な状態で検出された。西壁付近に遺物が集中し炭化材の出土もある。（相京）

**165号住居** 図337-338-340、PL90-159、表P.76

**位置** Z・2A-63グリッド

**規模** 縦1.9+αm 横4.0+αm 深0.14m

**形状** 南部分が失われているが、隅丸方形と推定される。

**重複** 157号住居に先行する。

**主軸方位** N-3°-E

**埋没土** 炭化物粒を含む灰褐色粘質土が床面に堆積する。遺構確認面は焼土粒と炭化物粒を含んだ黒褐

色土であり、レンズ状の堆積を浅間C軽石・焼土粒・炭化物粒を含んだ灰褐色土層で確認できるが、この灰褐色土層は157号住居の北壁掘り込み時に切られている。また、全体に炭化物が多い住居跡となっている。

**床面** 床面には全体に焼土や炭化材などが見られる。しっかりとした焼土は北壁中央下に位置している。

**貯蔵穴** 調査範囲の中では検出されなかった。

**周溝** 調査できた範囲の中では検出されなかった。

**柱穴** 15本のピットが検出された。

柱穴No	長径	短径	深さ	備考
P1	0.20m	0.18m	0.13m	
P2	0.43m	0.32m	0.22m	
P3	0.20m	0.18m	0.46m	
P4	0.28m	0.22m	0.25m	
P5	0.44m	0.24m	0.21m	
P6	0.28m	0.22m	0.41m	
P7	0.23m	0.20m	0.11m	
P8	0.45m	0.44m	0.02m	
P9	0.22m	0.22m	0.06m	
P10	0.40m	0.26m	0.02m	
P11	0.20m	0.18m	0.15m	
P12	0.70m	0.34m	0.18m	
P13	0.42m	0.36m	0.13m	
P14	0.28m	0.24m	0.15m	
P15	0.14m	0.10m	0.08m	

**入口施設** 調査範囲の中では検出されなかった。

**遺物出土状態** 床面から2～4cm浮いた状態でまばらに遺物が出土している。甕形土器（1618-1620）がある他に、埋没土中より1621が出土している。

**炉** 調査できた範囲の中では検出されなかった。

**調査所見** 157号住居に多くを切られた状態で検出された。P3・P4は165号住居の床面で検出したが、位置的には本住居の主柱穴であることが推定されるために本住居のピットとして報告した。（相京）

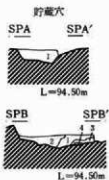
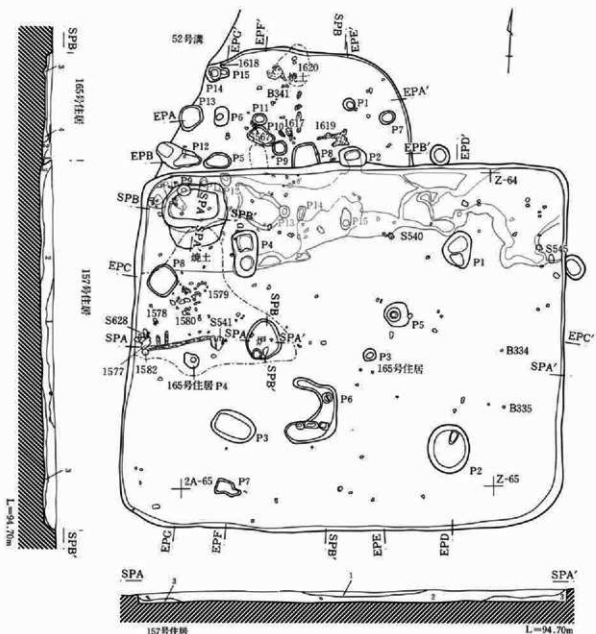


図337 157号・165号住居

## 157号住居

- 1層 黒褐色土 直径0.5～5mmのAs-Cが、1cf当たり3～5個混入する。
- 2層 暗灰褐色土 直径0.5～5mmのAs-Cが、1cf当たり1～2個混入する。直径3cmの茶褐色の酸化バクテリアのブロックが密に入る。灰白色の汚れた地山ブロックが入る。炭化物がわずかに入る。粘性が強い。
- 3層 暗灰褐色土 As-Cが10cf当たり3～5個混入する。直径2～3cmの炭化物を含む。粘性が強い。

## 165号住居増設土

- 1層 As-C 焼土粒・炭化物粒を含む灰褐色土。
- 2層 炭化物粒 焼土粒を含む黒褐色粘質土。
- 3層 炭化物粒を含む灰褐色粘質土。
- 4層 炭

## 157号住居貯蔵穴

- 1層 黒褐色土 直径2～5mmのAs-Cが上位に多く含まれている(10cf当たり10～20個)。炭化物がわずかに混入する(10cf当たり1～2個)。
- 2層 暗褐色土 As-Cが上位に多く含まれている。
- 3層 暗灰褐色土 酸化鉄分を含む。粘性がある。
- 4層 暗灰褐色土 粘性が強い。

0 1:60 4m

第8章 住居の調査

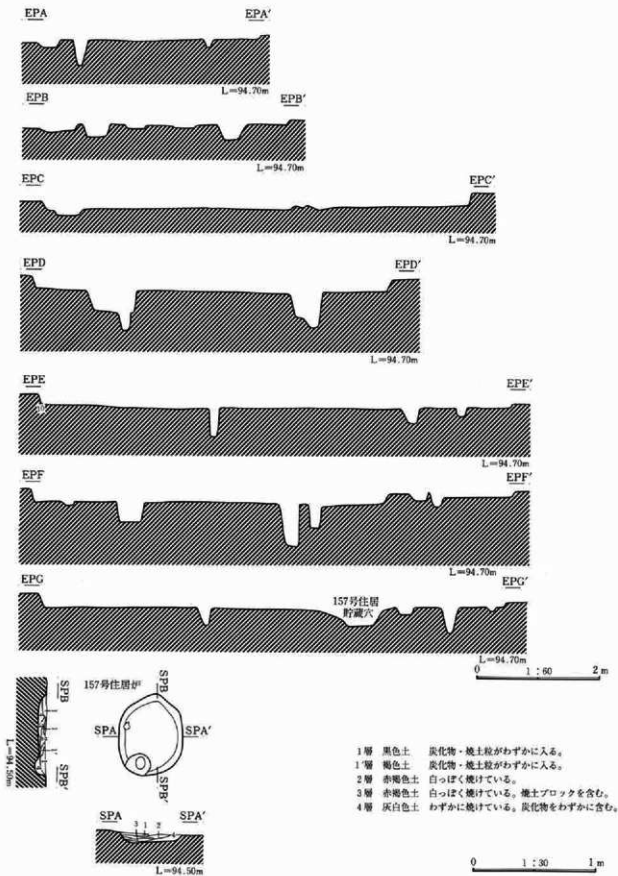


図338 157号・165号住居の断面と157号住居の炉

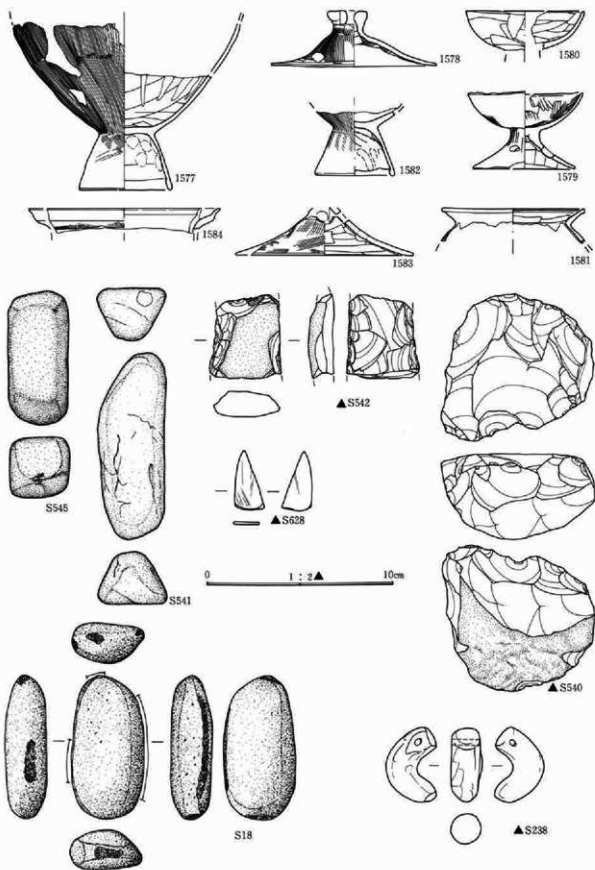


图339 157号住居出土遺物

第8章 住居の調査

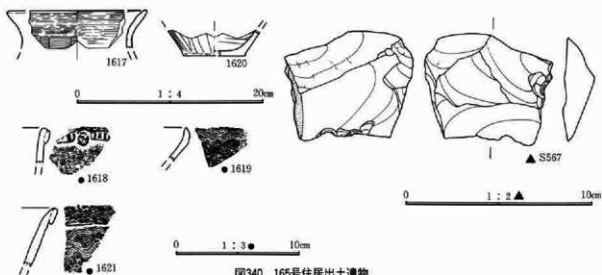


図340 165号住居出土遺物

158号住居 図341-345, PL90-91-159-160, 表P.76-79

位置 W-57・X-56・57グリッド

規模 縦4.1m 横5.5m 深0.3m

形状 隅丸方形

重複 52号溝に先行する。

主軸方位 N-48°-W

埋没土 炭化物を少量と直径2~10mmの浅間C軽石が10cmあたり3~5個入る黒褐色土であり、下層になるにしたがい粘性が強くなる。

床面 床面は平坦であり、灰跡の部分が10cmほど炉床面まで下がる。床面上における柱穴は規則的に配置されている。南東壁下中央にはやや歪んだピットがある。

貯蔵穴 東壁中央よりやや南に長軸0.53m、短軸0.36m、深さ0.27mの隅丸長方形の貯蔵穴が検出された。貯蔵穴は底面が段状を呈しており、浅い。底面までの深さは0.14mである。

周溝 南西壁中央付近から北西壁にかけてと、北東壁中央付近に幅10cm、深さ2~5cmで検出された。

柱穴 10本のピットが検出された。

柱穴No	長径	短径	深さ	備考
P 1	0.36m	0.32m	0.57m	
P 2	0.54m	0.44m	0.25m	
P 3	0.52m	0.42m	0.54m	
P 4	0.44m	0.4 m	0.56m	

P 5 0.44m 0.38m 0.49m

P 6 0.42m 0.32m 0.07m

P 7 0.56m 0.48m 0.28m

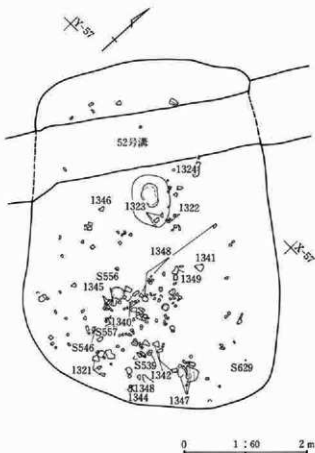
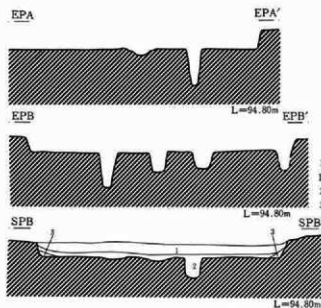
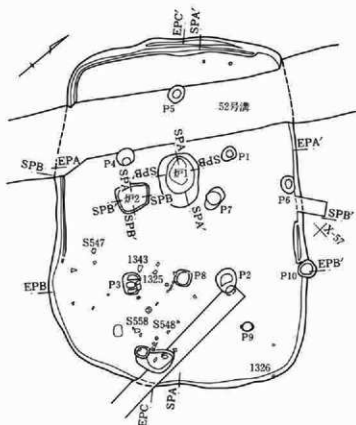
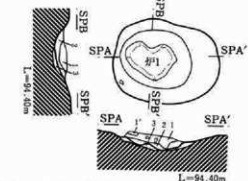
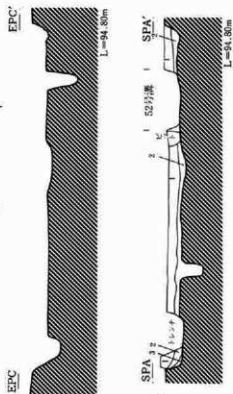


図341 158号住居遺物出土状態

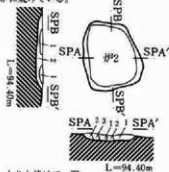




- 1層 黒褐色土 As-Cが上位に混入する。直径2～10mmの炭化物を少量含む(10㎡当たり3～5個位)。
- 2層 黒褐色土 直径1mmのAs-Cが混入し、散らばっている。直径1～3mmの炭化物の小粒がわずかに入る(10㎡当たり5～10個混じる)。粘性が強い。
- 3層 暗褐色土 地山の白色土粒の入る粘性土が流入土として入る。粘性が大きい。



- 1層 黒色土 上面には白色粘土がほぼ全面に広がっている。
- 1'層 白色粘土 ブロック状に入る。
- 2層 灰赤褐色土 わずかに焼かれた様子である。漸移的な境上。
- 3層 黒褐色土 わずかに焼けている。



- 1層 赤褐色土 焼土。しっかりと焼けて、固い。
- 2層 わずかに焼けている。(漸移的)白っぽい。
- 3層 黒褐色土 根による機込みか？



図342 158号住居

第8章 住居の調査

P 8 0.42m 0.36m 0.31m

P 9 0.28m 0.22m 0.25m

P 10 0.46m 0.42m 不計測

入口施設 検出されなかった。

遺物出土状態 全体的に遺物の出土があるが、中央から南隅部分にかけて多量に遺物の出土がある。南東部床面から甕形土器(1347)が出土した。

炉 2 基の炉が近接して検出された。

炉 1 位置 中央よりやや西寄り

規模 長軸0.85m 短軸0.65m 深さ0.05m

炉 2 位置 中央よりやや南西寄り

規模 長軸0.55m 短軸0.46m 深さ0.03m

遺存状態 炉1は良好に残り、深さ7cmの中央部付近には焼土がしっかりと残っていた。焼土の上には黒色土に混じり、白色粘土がのっていた。炉2は上層は赤く焼土が見られ、下層はわずかに焼けた痕跡がある。

遺物出土状態 炉1からは弥生土器甕形土器(1322・1323)が出土し、炉2からは弥生土器高杯形土器(1346)が出土した。

調査所見 住居の主軸方位を北西から南東方向にもつ例は本遺跡内においては数少ない。(相京)

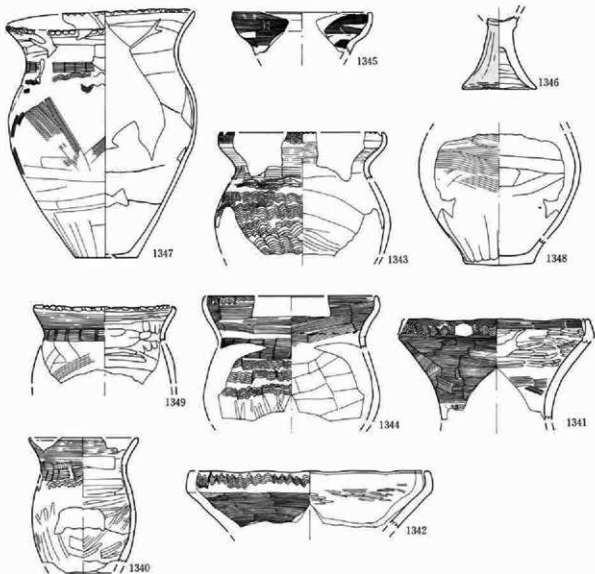


図343 158号住居出土遺物(1)

0 1 : 4 20cm

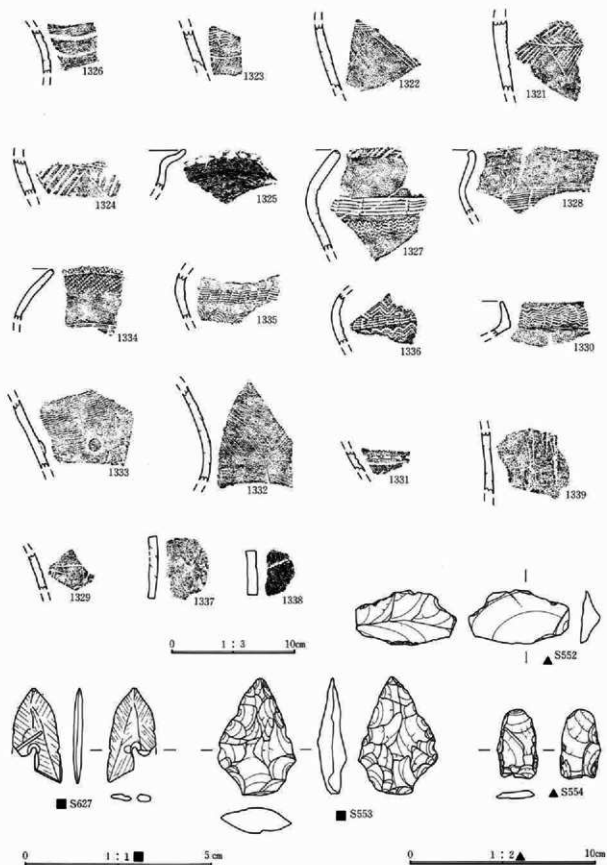


图344 158号住居出土遺物(2)

第8章 住居の調査

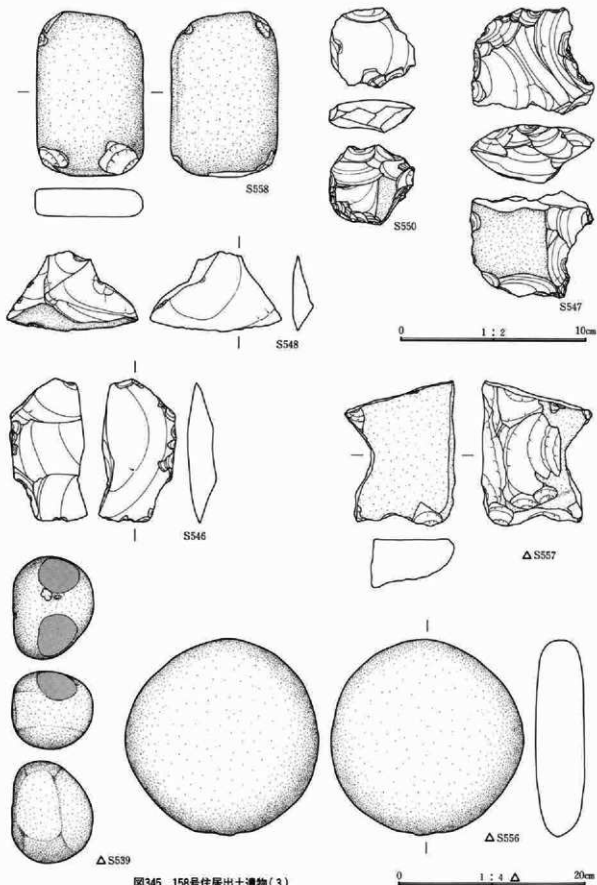


図345 158号住居出土遺物(3)

159号住居 図346-348, PL91-160, 表P. 80

位置 V・W-55・56グリッド

規模 縦5.4m 横5.1m 深0.4m

形状 歪んだ隅丸方形

重複 149号住居に先行し、11号周溝墓に後出する。

西壁方位 N-10°-W

埋没土 上層は直径0.1mmの浅間C軽石粒を1㎢あたり5-10個を均一に含む。クラックの入る黒色土であり、下層になるにしたがって褐色土になり粘性が強くなる。

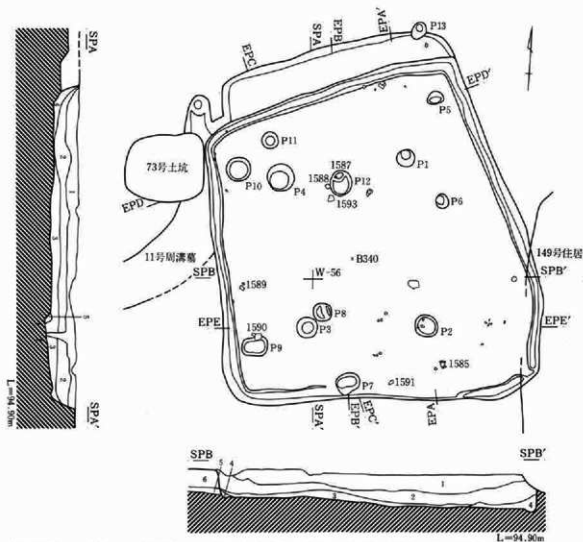
床面 床面は南と東に傾斜している。床面自体は平たい。旧地形が落ち込んでいるため床面が下がったものと考えられる。

貯蔵穴 なし

周溝 南壁の中央部分では不明であるが、その他は幅15-20cm、深さ1-6cmの周溝が検出された。

柱穴 12本のピットが検出された。

柱穴No	長径	短径	深さ	備考
P 1	0.29m	0.27m	0.26m	
P 2	0.36m	0.34m	0.19m	



- 1層 黒色土 直径0.1mmの白色鉱物(A-Cの細かいもの)を均一に含む(1㎢あたり5-10個)。クラックが入りやすい。
- 2層 暗褐色土 構成物は1層と同じ。粘性は強くなる。
- 3層 褐色土 直径0.1mmの白色鉱物をわずかに含む。粘性が強い。  
\* 2層と3層の間はベッド状遺構になるとされる。
- 4層 暗灰褐色土 壁の流れ込み土。粘性が強い。
- 5層 地山 灰白色土。粘性が強い。
- 6層 黒褐色土 白色鉱物をわずかに含む。

図346 159号住居

0 1:60 4m

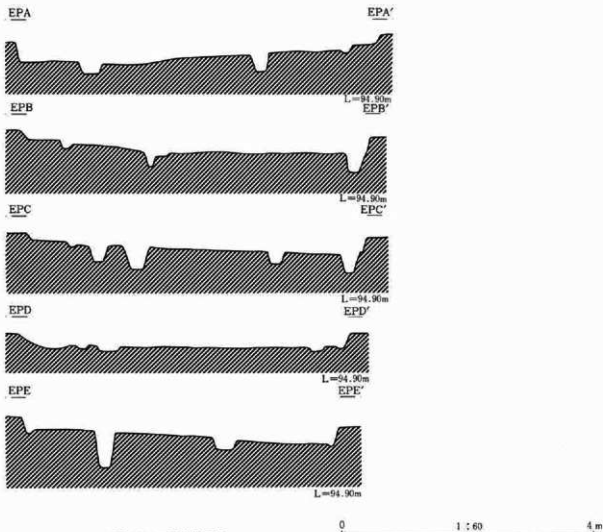


図347 159号住居断面

P 3	0.34m	0.34m	0.46m
P 4	0.43m	0.42m	0.36m
P 5	0.27m	0.21m	0.09m
P 6	0.22m	0.20m	0.36m
P 7	0.38m	0.30m	0.27m
P 8	0.30m	0.30m	0.18m
P 9	0.42m	0.33m	0.29m
P 10	0.38m	0.37m	0.07m
P 11	0.27m	0.24m	0.25m
P 12	0.40m	0.35m	0.24m

入口施設 なし

遺物出土状態 遺物はまばらな出土状況である。P12隣の床面直上から出土した甕形土器1593以外は埋

没土からの出土遺物である。P12内からの出土遺物は甕形土器の口縁部破片である。

炉 検出されなかった。

調査所見 南東部分は地山の地形が落ち込むため、住居跡の床面や壁のレベルが下がっている。一部掘り過ぎのきらいがあるが、周溝が確認できたことから原形をとどめている可能性もある。北壁側は一段テラス状になってから床面になるが、周溝等がある内側で住居の規模を計測すると、東壁は5.4m、西壁は4.3mである。北壁の北側では掘り方を確認中に本住居の掘り込み面より約14cm掘り下げた位置で平面形を確認したため、159号住居跡よりも古い遺構と考えられる。(相京)

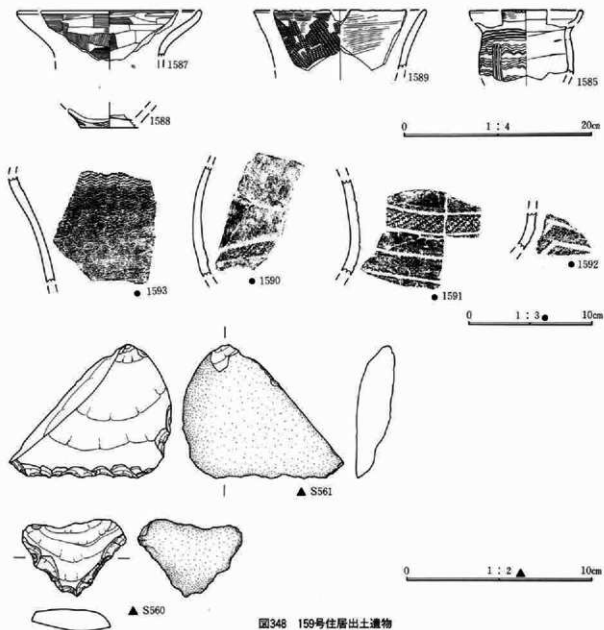


図348 159号住居出土遺物

## 160号住居 図349-351, PL.91-92-160, 表P.80-81

位置 U-58・59, V-58グリッド

規模 縦4.45+ $\alpha$ m 横4.8m 深0.32m

形状 隅丸方形と推定されるが南東部は調査区域外のため断定できない。

重複 147号住居に先行し、176号住居に後出する。

主軸方位 N-30°-W

埋没土 上層は多量の浅間C軽石と炭化物粒・焼土粒を含む黒褐色粘質土で、下層はごく少量の浅間C

軽石と炭化物粒を含む黒色粘質土で埋まっている。埋没土中位には灰層が確認できたが、これは床面というよりは埋没途中で形成されていると考えられる。

床面 やや不安定な部分もあったが、住居中央部を中心に硬化した面がとらえられた。

貯蔵穴 北東隅に長径0.88m、短径0.72m、深さ0.57mの楕円形の貯蔵穴と考えられる掘り込みが検出された。中央部は断面図A-A'のようにピット

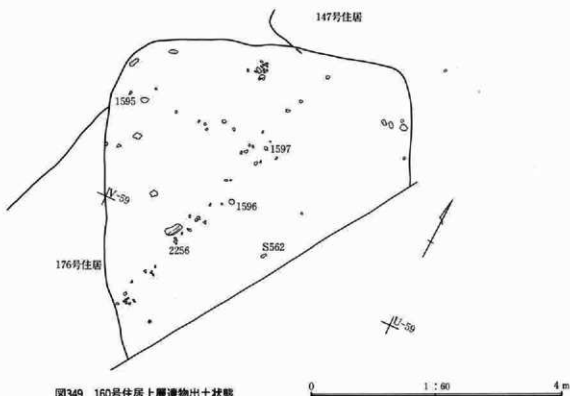


図349 160号住居上層遺物出土状態

状に掘られており、特徴的である。貯蔵穴の周囲の床面は5~10cm凹んでいた。

**周溝** 検出されなかった。

**柱穴** 本住居にともなうと考えられるピットは7本検出されている。P1・P2・P3は主柱穴と考えられるが、P1の位置がやや中央部に寄っていることは否めない。また、本住居の床面が不安定であったところでは先行する176号住居の貼床を剥がしてしまったことから、176号住居のピット2本も掘ってしまっている。この2本については176号住居の項で計測値を掲載している。

柱穴No	長径	短径	深さ	備考
P1	0.27m	0.25m	0.26m	
P2	0.2+ $\alpha$ m	0.3m	0.39m	
P3	0.27m	0.25m	0.44m	
P4	0.30m	0.30m	0.23m	
P5	0.25m	0.25m	0.07m	
P6	0.40m	0.29m	0.14m	段あり
P7	0.19m	0.15m	0.04m	

**入口施設** 検出されなかった。

**遺物出土状態** 前述した埋没土中位のところで出土した遺物はかなり多いが、ほとんど破片である。床面近くの遺物は、住居中央部には少なく、貯蔵穴周辺や壁際に偏在する傾向がある。

#### 炉

**位置** 住居のほぼ中央部やや西壁寄りに炉1、これより南西部に炉2が検出された。

**規模** 炉1 長軸0.6m 短軸0.20m 深さ0.03m

炉2 長軸0.67m 短軸0.30m 深さ0.06m

**遺存状態** やや扁平な楕円形の範囲で床面が焼けており、炉と考えられる。上層には2cmほどの灰層があり、下に4cmほどの焼土層が形成されていた。石や使用面下のピット等は検出されなかった。また、P2北側に焼土粒・炭化物粒を多量に含んだ黒色土で埋まった皿状の掘り込みが検出されたが、炉であるかどうかは判然としない。炉2は炉の可能性が強く、埋没土内からは炭化物粒を多量に含む黒褐色土である。

**遺物出土状態** 遺物は出土しなかった。

**調査所見** P2の南側の掘り込みについては炉の可



能性も考えたが、ややP2に接近しすぎているように見える。また、この掘り込みの南脇に棒状の礫が出土している。これを掘り込みにともなうと考え、

この掘り込みを炉とすることも可能性としてはあるが、この石は掘り込みの確認面から6cmほど浮いており、決定的でない。(小島)

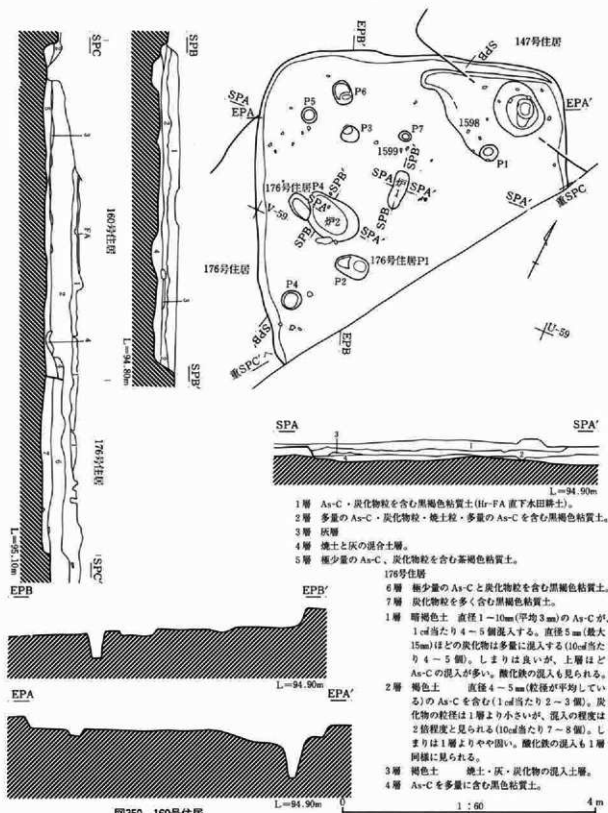


図350 160号住居

第8章 住居の調査

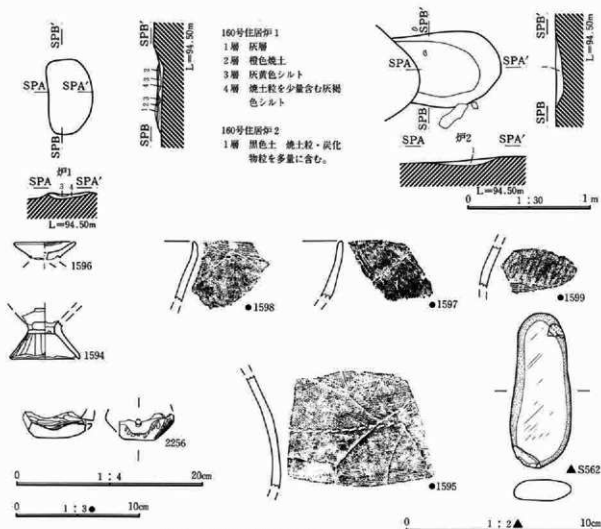


図351 160号住居炉と出土遺物

161号住居 図352、PL92-160、表P.81

位置 Y・Z-62グリッド

規模 縦(4.6)m 横 $2.8 + a$ m 深0m

形状 不明

重複 166号・167号住居に後出する。

主軸方位 N-5°-W

埋没土 不明

床面 硬化した床面の広がりを検出した。床面は平坦であるが、部分的な確認である。

貯蔵穴 調査できた範囲の中では検出されなかった。

周溝 調査できた範囲の中では検出されなかった。

柱穴 11本のピットが検出されたが、主柱穴は特定できない。

柱穴No	長径	短径	深さ	備考
P 1	0.55m	0.50m	0.16m	
P 2	0.35m	0.35m	0.29m	
P 3	0.50m	0.36m	0.24m	
P 4	0.40m	0.32m	0.07m	
P 5	0.45m	0.40m	0.07m	
P 6	0.40m	0.33m	0.08m	
P 7	0.26m	0.25m	0.25m	
P 8	0.25m	0.25m	0.16m	
P 9	0.34m	0.26m	0.14m	
P 10	0.39m	0.34m	0.20m	
P 11	0.31m	0.28m	0.28m	

入口施設 調査できた範囲の中では検出されなかった。

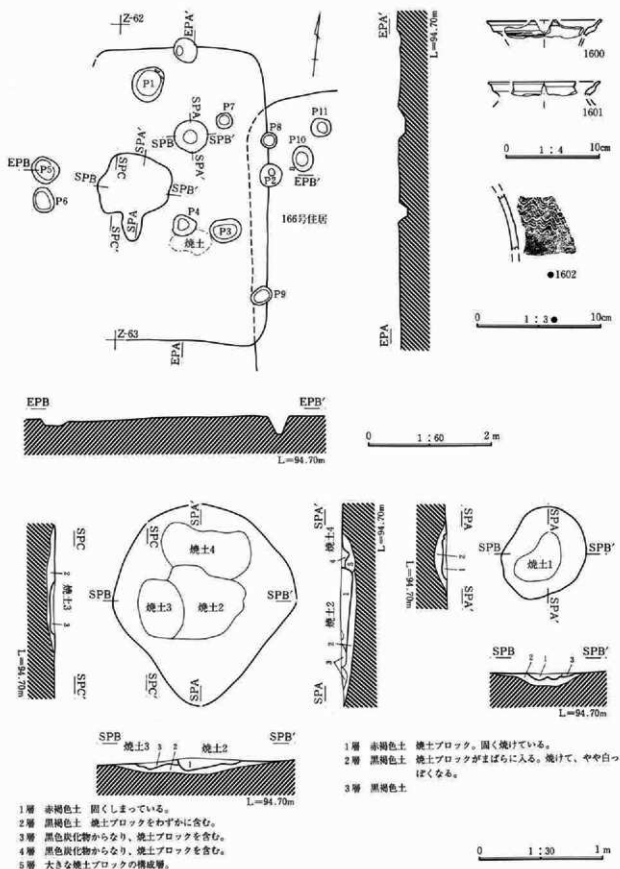


図352 161号住居と出土遺物

**遺物出土状態** P5からS字状口縁台付甕形土器の口縁(1600・1601)が出土している。

**炉** 小規模に床面が焼けている部分が4ヶ所あるが、炉とは断定できない。住居内の位置については住居全体の形状が明確でないのではっきりしない。

**焼土1** 規模 長軸0.76m 短軸0.70m 深さ0.06m

**焼土2** 規模 長軸0.52+ $\alpha$ m 短軸0.56m 深さ0.10m

**焼土3** 規模 長軸0.45m 短軸0.35m 深さ0.03m

**焼土4** 規模 長軸0.72m 短軸0.36+ $\alpha$ m 深さ0.05m

**遺物出土状態** なし

**調査所見** 住居と考えられるが、一部の床面を検出したにすぎない。他の住居は同じ面で平面形を確認できたが、本住居の壁は上層の遺構によって削平されているために、床面の一部のみが残存したものと考えられる。出土遺物からは古墳時代前期と推定される。(相京)

**162号住居** 図353-354, PL92-93-160-161, 表P.81-82

**位置** 2A・2B-64・65グリッド

**規模** 縦3.04+ $\alpha$ m 横3.03+ $\alpha$ m 深0.09m

**形状** 隅丸方形と推定されるが、完掘できなかったので詳細は不明である。

**重複** 163号住居に先行する。

**主軸方位** N-5°-E

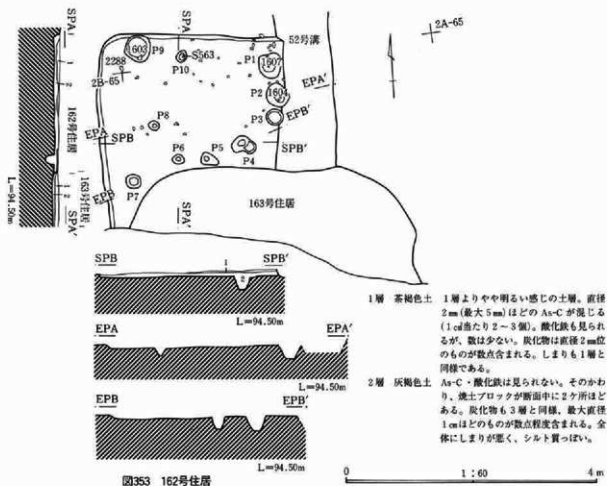
**埋没土** 鉄分を含み、浅間C軽石を含まない灰褐色土が堆積している。上層には軽石と炭化物粒を含む茶褐色土が堆積していた。

**床面** 掘り込んだ地山をそのまま床面としている。顕著な硬化面は検出されなかった。

**貯蔵穴** 検出されなかった。

**周溝** 検出されなかった。

**柱穴** 10本のピットが検出されたが、主柱穴は明確でない。



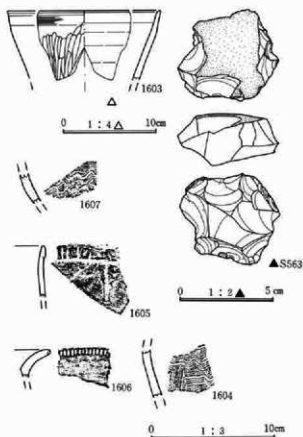


図354 162号住居出土土物

柱穴No	長径	短径	深さ	備考
P 1	0.40m	0.38m	0.18m	
P 2	0.38m	0.32m	0.11m	
P 3	0.27m	0.24m	0.10m	
P 4	0.31m	0.20m	0.22m	2段に掘る
P 5	0.27m	0.19m	0.09m	
P 6	0.19m	0.14m	0.15m	
P 7	0.21m	0.20m	0.20m	
P 8	0.16m	0.15m	0.13m	
P 9	0.42m	0.41m	0.12m	
P 10	0.19m	0.15m	0.22m	

入口施設 なし

遺物出土状態 壁際を中心に破片が多く出土した。P 1・P 2・P 9からは遺物が比較的出土している。P 1からの出土は変形土器(1607)であり、底

面直上である。

炉 検出されなかった。

調査所見 南半分が発掘区外であること、残存壁高が低かったことなどから、住居の形状や各施設を確認することが困難であった。(小島)

163号住居 図355, PL92-93-160-161, 表P, 82

位置 2A・2B-65グリッド

規模 縦1.9+ $\alpha$ m 横4.2+ $\alpha$ m 深0.08m

形状 小判形に近い隅丸方形と推定されるが、調査できた範囲が北壁周辺のみであるので、詳細は不明である。

重複 162号住居に後出する。

主軸方位 N-3°-E

埋没土 上層は浅間C軽石・炭化物粒を含む暗褐色土で埋まっていた。下層は軽石を含まず、炭化物粒を含む暗褐色土で埋まっていた。

床面 掘り込んだ地山を床面としている。中央部に近いほうに硬化面が残っていた。

貯蔵穴 検出されなかった。

周溝 壁沿いに幅12cm、深さ6~8cmの周溝が検出された。

柱穴 小ピットが7本検出されているが、やや浅い。柱穴と考えられるのはP 1・P 2である。P 2は主柱穴の可能性もある。

柱穴No	長径	短径	深さ	備考
P 1	0.28m	0.24m	0.13m	
P 2	0.37m	0.30m	0.15m	
P 3	0.16m	0.16m	0.06m	
P 4	0.19m	0.16m	0.05m	
P 5	0.19m	0.17m	0.06m	
P 6	0.26m	0.17m	0.06m	
P 7	0.22m	0.17m	0.09m	

入口施設 検出されなかった。

遺物出土状態 P 1周辺の北東隅やP 3周辺の床面近くで遺物が多く出土している。図示した弥生土器変形土器(1609)はP 2内出土のものとP 3西側で出土したものが接合している。

第8章 住居の調査

炉 検出されなかった。

調査所見 周溝は当初の床面検出の際には検出されず、やや掘り下げて床面の施設の精査を実施した時

に検出した。当初に確認した平面形よりも内側に周溝が検出されたが、最終的に住居の平面形は周溝の位置になるものと考えられる。(小島)

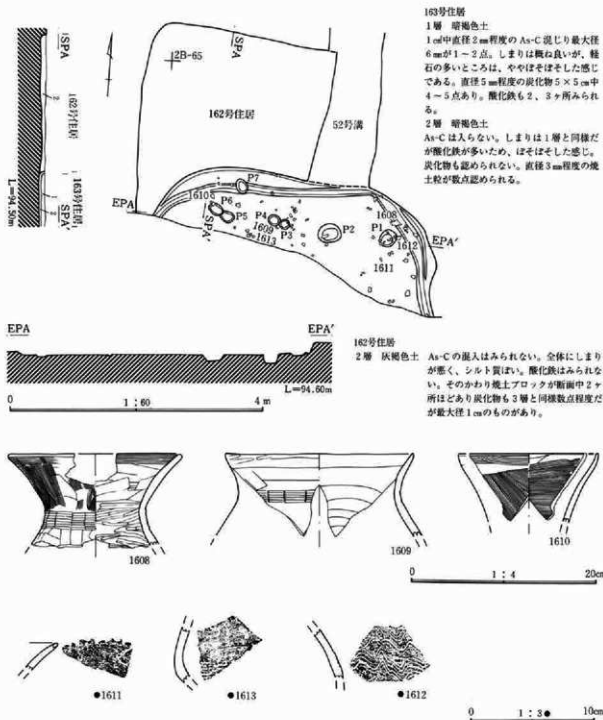


図355 163号住居と出土遺物

## 164号住居 図356、PL53-161、表P.82

位置 Z・2A-65・66グリッド

規模 縦1.1+αm 横4.68+αm 深0.25m

形状 隅丸方形と推定されるが、調査できた範囲が北壁周辺のみであるので詳細は不明である。

重複 なし

北壁方位 N-78°-W

埋没土 記録不備のため不明。

床面 壁沿いであるので顕著な硬化面は検出されなかった。

貯蔵穴 検出されなかった。

周溝 検出されなかった。

柱穴 検出されなかった。

入口施設 検出されなかった。

遺物出土状態 出土遺物は少ない。土器は少量の出土であり、埋没土中から甕形土器（1614）の肩部の柳指波状文施文の破片が出土した。その他に石器の出土量が多い。床面直上から剃片石器（S564）、北西部では床面からわずかに浮いた状態で剃片石器（S565）が出土した。壁際を中心に炭化物の塊が多く遺存していた。

炉 検出されなかった。

調査所見 発掘区南端に検出された住居であり、北壁の一部を検出できたにとどまった。（小高）

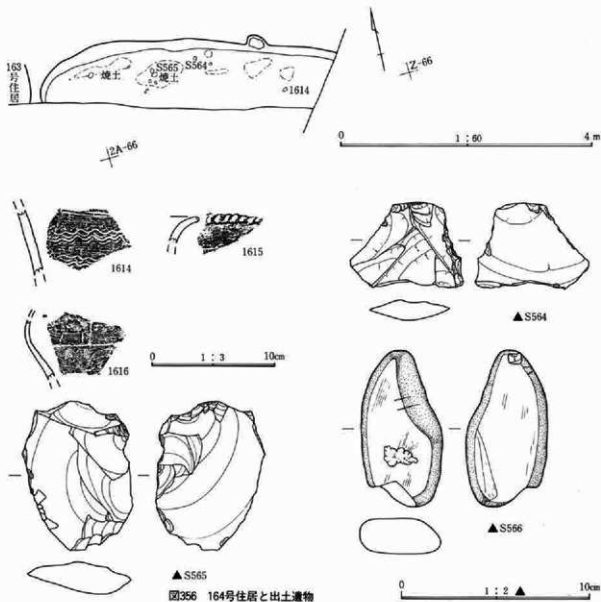


図356 164号住居と出土遺物

## 166号住居 BE357-362、PL93-97・161、表P-83・84

位置 X・Y-62・63グリッド

規模 縦6.72m 横4.3m 深0.35m

形状 隅丸長方形

重複 155号住居に先行し、167号住居、84号・87号土坑に後出する。

主軸方位 N-6°-W

埋没土 上層は多量の浅間C軽石・炭化物粒・焼土粒を含む黒褐色粘質土で、下層は少量の浅間C軽石・炭化物粒・焼土粒を含む黒色粘質土で埋まっていた。167号住居と重複する土層断面では、埋没土の分離が難しく、本住居の南壁の把握は数次におよんだ。

床面 掘り込んだ地山をそのまま床面としている。

住居南東部には顕著な硬化面が残存していた。

貯蔵穴 検出されなかった。

周溝 検出されなかった。

柱穴 大小あわせて14本のピットが検出されている。P1～P4は主柱穴と考えられる。他は規格的な配置ではなく、柱穴とは断定できない。

柱穴No	長径	短径	深さ	備考
P 1	0.37m	0.37m	0.34m	
P 2	0.54m	0.43m	0.60m	
P 3	0.49m	0.42m	0.63m	
P 4	0.40m	0.35m	0.36m	
P 5	0.26m	0.26m	0.04m	
P 6	0.20m	0.20m	0.14m	
P 7	0.28m	0.23m	非計測	
P 8	0.22m	0.20m	非計測	
P 9	0.25m	0.17m	0.20m	
P10	0.24m	0.18m	0.37m	
P11	0.29m	0.24m	0.37m	
P12	0.23m	0.23m	非計測	
P13	0.25m	0.25m	0.46m	
P14	0.20m	0.20m	0.21m	

入口施設 南壁の中央やや西の壁内側に一對の小ピットが検出された。東側の入口P1は底面が中央に掘られているが、西側の入口P2は底面が北側に

偏って掘られている。

柱穴No	長径	短径	深さ	備考
P 1	0.28m	0.25m	0.37m	
P 2	0.32m	0.27m	1.01m	

遺物出土状態 床面近くから多くの遺物が出土しているが、破片が多い。図示した土器は南半部の壁際に出土したものがほとんどである。1813の土製勾玉は北西部のP2北側で床面から3cmほど浮いた状態で出土した。また、本住居のP2北側の床面上10cmほどの所に集中して、ガラス小玉と人歯が出土した。この遺物集中部では掘り込みを確認することができなかった(Ⅲ9号墓塚参照)が、本住居にはこれとは別に6号墓塚が本住居埋没土を掘り込んでいる。

(Ⅲ6号墓塚参照)166号住居A地点の遺物の出土状況は、6号墓塚と酷似しており、墓塚と考えられる可能性が高い。したがって本稿ではA地点と6号墓塚の位置を併せて示すにとどめ、遺物の出土位置や遺物実測図は6号墓塚とともに後述した。

炉 本住居床面で6ヶ所ほど床面が焼けている地点が検出された。このうちP3北側の3基は、規模・形態や位置の検討から、先行する167号住居の炉および焼土と考えられる。本住居の炉は、図示したP1・P4間の1基であり、他の2ヶ所は位置と断面を図示したが、積極的に炉と判断できなかった。これらはみな同様に床面が3～5cmほど焼土化していたが、床面が掘り凹められてはいない。

位置 P1・P4間中央部やや北寄り

規模 長軸0.66m 短軸0.58m 深さ0.09m

遺存状態 床面から5～9cm掘り凹められており、使用面までは炭化物粒・焼土ブロックを含む黒褐色土で埋まっていた。使用面は赤く焼けており、焼土化した厚さは3cm、さらに下層は2～3cmが漸移的に赤化している。炉の一隅には焼土を切ってP16が掘り込まれていた。また、焼土1はP2の南東、焼土2は南壁下に位置する。規模は、

	長径	短径
焼土1	0.25m	0.20m
焼土2	0.35m	0.33m



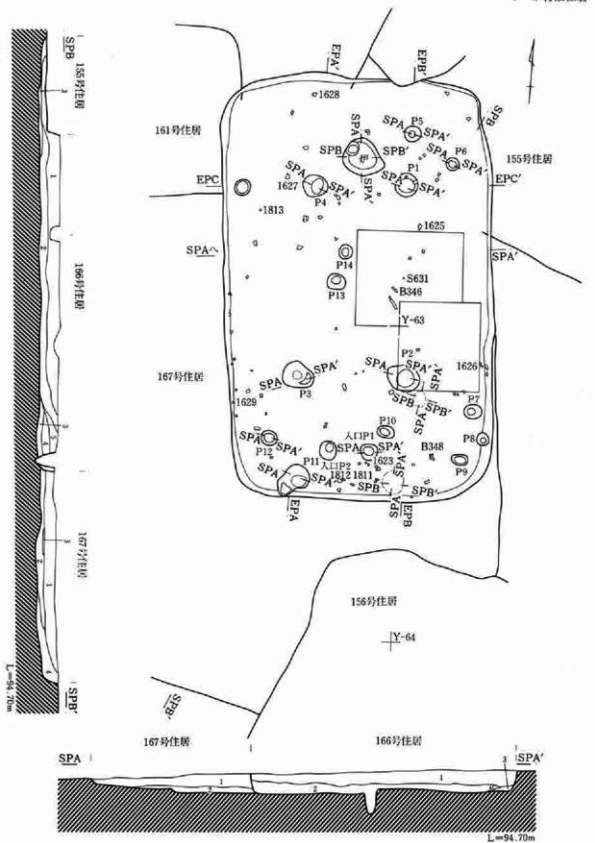


図357 166号住居

0 1:60 4m

## 第8章 住居の調査

### 166号住居

- 1層 炭化物粒・焼土粒・多量のAs-Cを含む黒褐色粘質土。
- 2層 炭化物粒・焼土粒・少量のAs-Cを含む黒色粘質土。
- 3層 炭化物粒・焼土粒・灰褐色粘質土小ブロックを含む黒褐色粘質土。
- 4層 炭化物粒・焼土粒を含む黒灰色粘質土。
- 5層 黄色砂質土ブロック・炭化物粒を含む黒色粘質土。

### 167号住居

- 1層 黒褐色土 As-C・炭化物粒・焼土粒を含む。砂質。
- 2層 黒灰色粘質土 炭化物粒・焼土粒を含む。
- 3層 黒褐色土 黄色粘土小ブロックを多量に含む。
- 4層 黒色粘質土 灰白褐色シルトの小ブロックを含む。

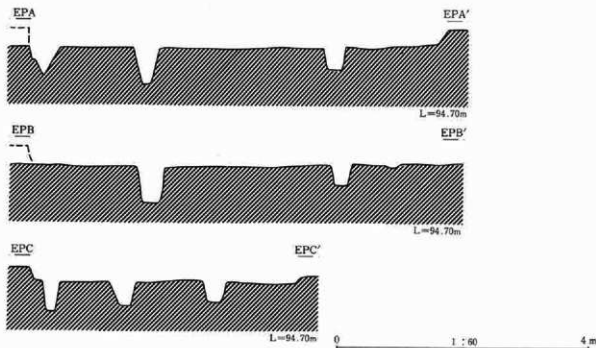
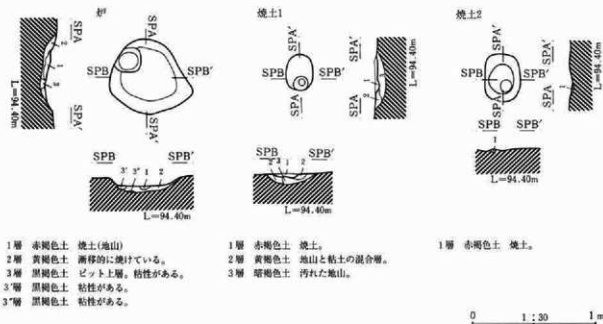


図358 166号・167号住居土層断面



- 1層 赤褐色土 焼土(地山)
- 2層 黄褐色土 漸移的に焼けている。
- 3層 黒褐色土 ビット上層。粘性がある。
- 3\*層 黒褐色土 粘性がある。

- 1層 赤褐色土 焼土。
- 2層 黄褐色土 地山と粘土の混合層。
- 3層 暗褐色土 汚れた地山。

- 1層 赤褐色土 焼土。

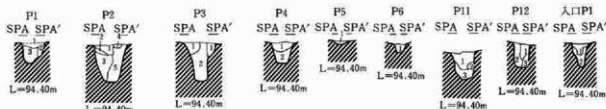
図359 166号住居の断面と炉・焼土

である。

遺物出土状態 炉に伴う遺物の出土はなかった。

調査所見 本住居は南壁を決定するのに期間を要した。167号住居とほとんど同じ軸方位で住居が掘られており、埋没土の分離も困難であった。最終的

には、入口ピットと壁との関係および出土遺物の時期から、図示した平面図のような調査結果となった。埋没土もこの地点で変化するような堆積状況であり、平面図での検討と一致している。(小島)



166号住居 P 1

- 1層 黒褐色土 焼土粒を含む。
- 2層 黒褐色土 焼土粒を含む。粘性が強い。
- 3層 黒褐色土 直径0.5～3cmの黄白色粘土ブロックを含む。粘性が強い。

166号住居 P 2

- 1層 黒褐色土 焼土粒が混入する。
- 2層 褐色土 黄白色粘土ブロックを多量に含む。粘性が強い。
- 3層 黒褐色土 直径0.5～3cmの黄白色粘土ブロックを含む。焼土粒を含む。粘性がある。
- 4層 黒色土 焼土粒・炭化粒が入る。粘性が強い。
- 5層 黒褐色土 焼土粒・炭化粒を含む。焼土粒をわずかに含む。粘性が強い。

166号住居 P 3

- 1層 褐色土 焼土・粘土ブロックを含む。
- 2層 褐色土 わずかに黄白色粘土ブロックを含む。粘性が強い。

166号住居 P 4

- 1層 黒褐色土 わずかに黄白色粘土粒子が入る。粘性がある。
- 2層 黒褐色土 黄白色粘土ブロックが塊状に入る。粘性が強い。

166号住居 P 5

- 1層 黒褐色土 炭化物を多量に含む。焼土粒をわずかに含む。粘性あり。

166号住居 P 6

- 1層 褐色土 焼土・炭化物粒をわずかに含む。粘性が強い。

166号住居 P11

- 1層 炭化物小ブロック・焼土粒・黄色砂質土粒を含む灰褐色粘質土。
- 2層 灰色砂壤土ブロック
- 3層 少量の炭化物と黄色砂壤土小ブロックを含む灰褐色粘質土。

166号住居 P12

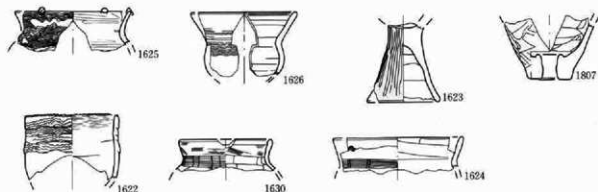
- 1層 褐色土 直径1cmの炭化物を10cm当たり4～5個入る。
- 2層 褐色土 焼土粒をわずかに含む。粘性強。
- 3層 黄褐色土 黄白色粘土ブロック層。

166号住居入口 P 1

- 1層 黒褐色土 粘性が強い。
- 2層 黄褐色土 黄白色粘土ブロック層。

0 1:60 2m

図360 166号住居の柱穴



0 1:4 20cm

図361 166号住居出土遺物(1)

第8章 住居の調査

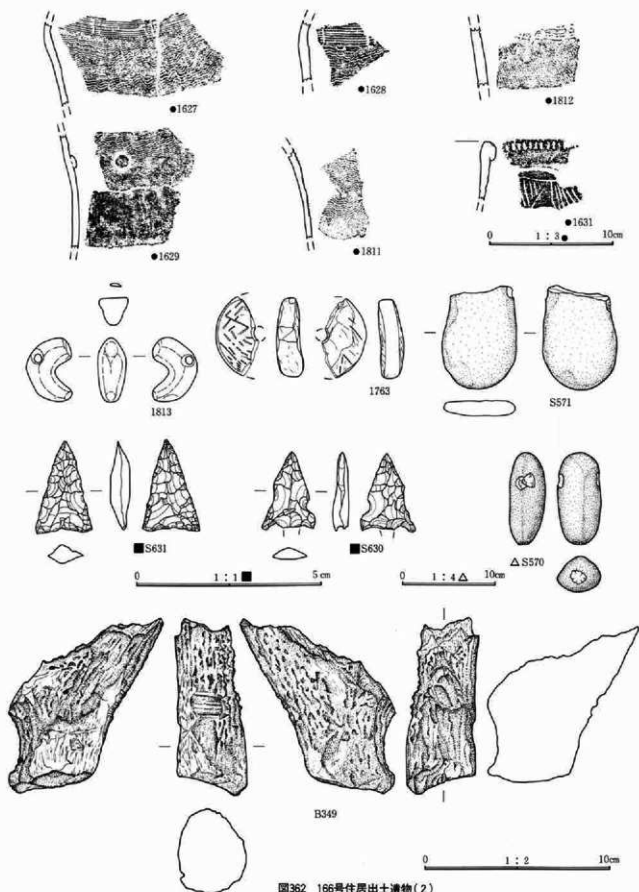


図362 166号住居出土遺物(2)

167号住居 図358-393-396, PL96-97-161-162, 表P. 85-86

位置 X-Z-62-64グリッド

規模 縦7.84m 横7.06m 深0.25m

形状 正方形に近い隅丸長方形

重複 156号・157号・161号・166号住居に先行する。

主軸方位 N-5°-W

埋没土 上層は焼土粒・炭化物粒・黄色粘土小ブロックを多く含む黒褐色粘質土で、下層は焼土粒・炭化物粒・黄色砂質土ブロックを多量に含む黒褐色粘質土で埋まっていた。

床面 本住居の床面は基本的には掘り込んだ面を床面としているが、西壁に沿って幅2mほどの帯状の掘り込みが床面の下層にあって、住居の床面は貼床が施されていた。しかし、下層の掘り込みの影響で大きいところでは10-13cm床面が沈んでいた。この下層の掘り込みは85号・91号土坑であることが判明した。

貯蔵穴 検出されなかった。

周溝 検出されなかった。

柱穴 本住居床面では8本のピットを検出した。この中で主柱穴と考えられるのはP4のみである。他の主柱穴は他の重複遺構の底面で確認した。P1は後出する166号住居の床面、P2は76号土坑の底面、P3は85号土坑の底面での確認である。他のピットは小形のものが多く、性格は不明である。

柱穴No	長径	短径	深さ	備考
P 1	0.36m	0.26m	0.23m	
P 2	0.24m	0.22m	0.34m	
P 3	0.23m	0.20m	0.22m	
P 4	0.57m	0.55m	0.17m	
P 5	0.24m	0.19m	0.20m	
P 6	0.20m	0.20m	0.20m	
P 7	0.35m	0.30m	0.23m	
P 8	0.30m	0.12+ $\sigma$ m	不計測	
P 9	0.27m	0.22m	0.42m	
P 10	0.22m	0.20m	0.15m	
P 11	0.37m	0.15m	0.60m	

入口施設 明確には検出できなかった。南壁沿いにあるP11が入口ピットの可能性があるかもしれない。

遺物出土状態 遺物の出土はあまり多くない。西南部を中心に床面近くから弥生土器変形土器等が出土している。埋没土中から土製円盤が一点出土している他、石器の出土も多い。

炉 本住居の炉は、P1と同様に166号住居の床面で検出した。焼土化した部分は3ヶ所あったが、北側のものは床面が掘り凹められており、炉と判断した。一方、南側の2ヶ所は床面が焼けて焼土化したような形状で、炉として施設されたものかどうかは確定できない。それぞれの規模は、焼土1長径0.50m、短径0.45m、深さ0.10m、焼土2長径0.50m、短径0.45m、深さ0.10mであり楕円形の範囲である。これらには弥生土器破片が出土している。以下は炉と判断したものについて報告する。

## 炉

位置 P1・P4間のやや北側

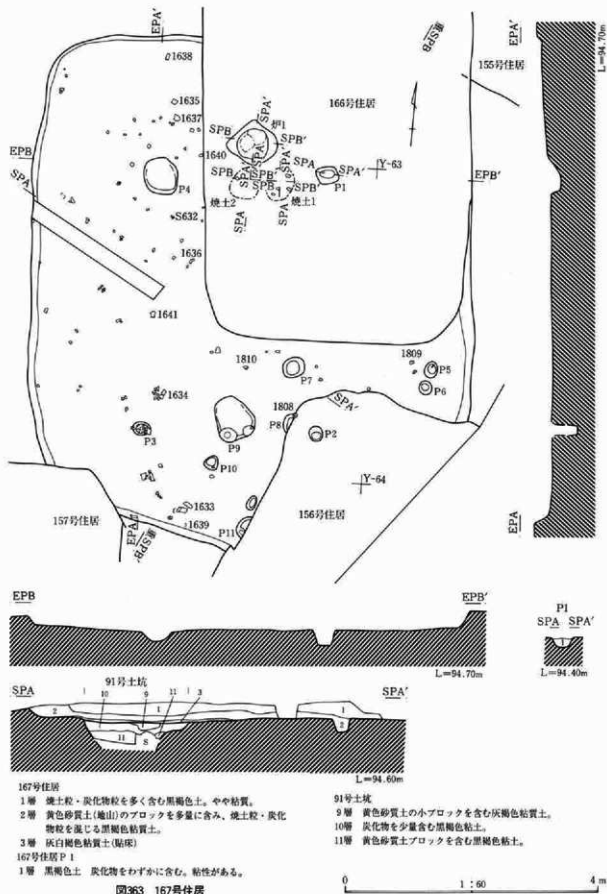
規模 長軸0.81m 短軸0.73m 深さ0.05m

遺存状態 床面を5cmほど掘り凹めている。使用面は赤化している部分と炭化物の遺存する部分がある。中心部では7cmの厚さで地山が焼土化しており、最も火が焚かれたと思われる中心部ではさらに白く変色していた。

遺物出土状態 炉に伴う遺物の出土はなかった。

調査所見 本住居は当初、床面が沈んでいる西側と、166号住居の南側の部分は別の遺構と考え、調査を進めた。しかし、調査後に主柱穴と炉の位置の検討をおこなった結果、全体を同一住居と考えた時の平面形に合致する主柱穴の痕跡が重複遺構から検出された。したがって、この範囲は一軒の住居とした方がよいとの結論に達した。しかし、南壁はその平面形とは合致しない方向になってしまっており、調査時の精査が足らなかった可能性がある。しかし、北東部から南西部に166号住居との関連土層図があり、住居南壁の存在の確認から新旧関係や、床面の高さなど知ることができる。(小島)

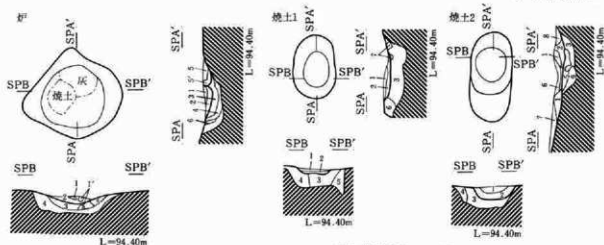
第8章 住居の調査



- 167号住居
- 1層 焼土粒・炭化物粒を多く含む黒褐色土。やや粘質。
  - 2層 黄色砂質土(埴山)のブロックを多量に含み、焼土粒・炭化物粒を多量含む黒褐色粘質土。
  - 3層 灰白褐色粘質土(粘床)
- 167号住居 P1
- 1層 黒褐色土 炭化物をわずかに含む。粘性がある。

- 91号土坑
- 9層 黄色砂質土の小ブロックを含む灰褐色粘質土。
  - 10層 炭化物を少量含む黒褐色粘土。
  - 11層 黄色砂質土ブロックを含む黒褐色粘土。

図363 167号住居



## 167号住居炉1

- 1層 白色粘土
- 1'層 白色粘土 混じりけがある(砂)。
- 2層 赤褐色土 焼土。
- 3層 地山 焼土が見られなくなる。砂質。
- 4層 地山
- 5層 灰黒色土 炭化物・焼土ブロックを含む。
- 5'層 黒色土 炭化物を含む。
- 6層 褐色土 焼土粒・炭化物を含む。粘性がある。

## 167号住居焼土1

- 1層 黒褐色土 炭化物が混入する。
- 2層 焼土
- 3層 黄褐色土 漸移焼土
- 4層 灰黒褐色土 粘性がある。柔らかい。

## 5層 黄白色粘土ブロック層

- 6層 暗褐色土 地山が汚れた状況。
- 7層 黒色土 炭を含む。

## 167号住居焼土2

- 1層 赤褐色土 焼土。
- 2層 赤黄褐色土
- 3層 褐色土 砂地山。
- 4層 地山ブロックの混じる土。
- 5層 黒褐色土 粘性がある。
- 6層 炭化層(黒)
- 7層 黒褐色土 焼土粒が混入する。
- 8層 暗褐色土 汚れた地山?
- 9層 黒色土 わずかに焼土粒を含む。粘性がある。

図364 167号住居の炉・焼土

0 1:30 1 m

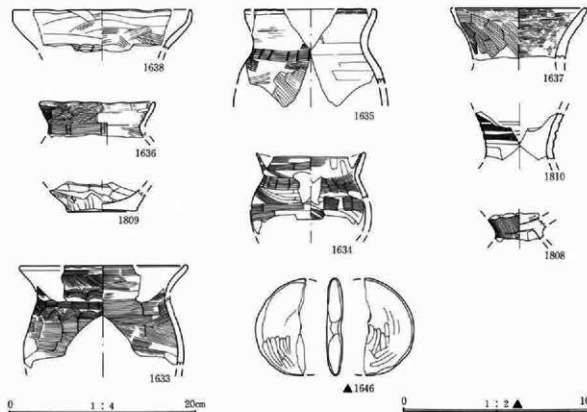


図365 167号住居出土遺物(1)

0 1:2 10cm

第8章 住居の調査

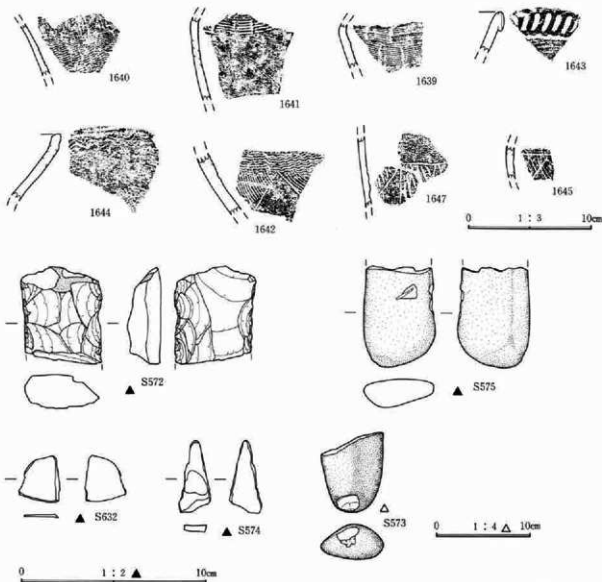


図366 167号住居出土遺物(2)

168号住居 図367-369, PL97-99-162, 表P.86-87

位置 W・X-60・61グリッド

規模 縦4.47+αm 横4.65m 深0.22m

形状 隅丸長方形

重複 153号住居に先行する。

主軸方位 N-2°-W

埋没土 炭化物粒・焼土粒を含む黒褐色粘質土で埋まっている。浅則C軽石は上層には多量に含まれているが、床面上5cmほどの埋没土には含まれていない。

床面 住居中央部に硬化面が顕著に残っているが、

周縁部はやや高くなっており、地山はそのままに硬化していない。

貯蔵穴 検出されなかった。

周溝 検出されなかった。

柱穴 大小あわせて16本のピットが検出されているが、うち2本は入口施設のピットと考えられる。主柱穴はP1-P6の6本で、北側には2本ずつ2組4本が検出されている。これらの北側の4本の柱穴は後出する153号住居床面で検出したので、深さの計測は床面レベルからの推定値である。配置から考えるとP3とP4、P5とP6が同時に立てられて



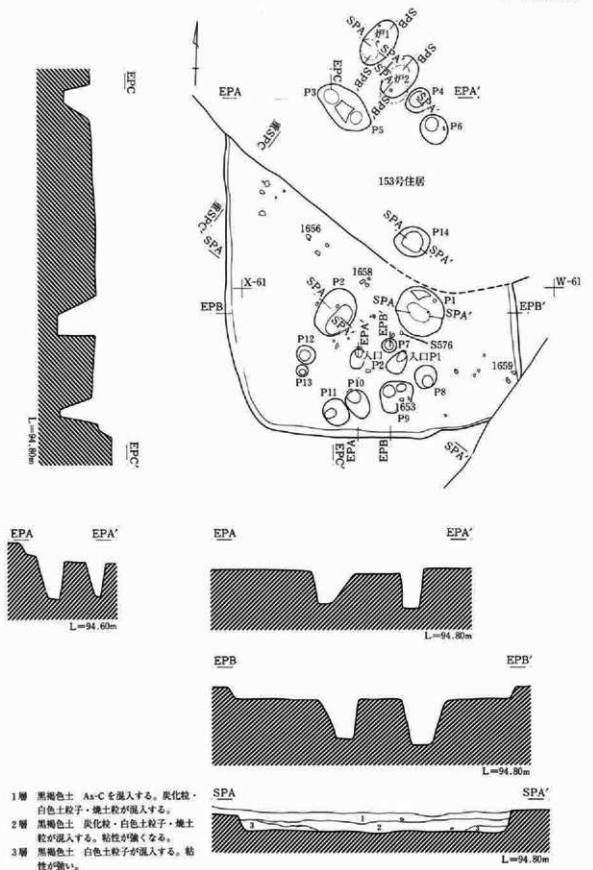


図367 168号住居

第8章 住居の調査

いたと考えられる。南壁際にあるP8～P11の4本は、入口の施設がはしごであるとすると、その下になってしまう位置である。機能については不明である。P14は上層に焼土が堆積しており、ピットをともなう炉の可能性も考えられる。

柱穴No	長径	短径	深さ	備考
P 1	0.8 m	0.75m	0.73m	
P 2	0.77m	0.57m	0.62m	
P 3	0.42m	0.38m	(0.51m)	
P 4	0.42m	0.35m	(0.62m)	
P 5	0.47m	0.45m	(0.67m)	
P 6	0.47m	0.40m	(0.80m)	
P 7	0.22m	0.22m	0.16m	
P 8	0.35m	0.35m	0.41m	
P 9	0.55m	0.50m	0.57m	
P10	0.48m	0.36m	0.61m	
P11	0.44m	0.37m	0.59m	
P12	0.32m	0.28m	0.39m	
P13	0.18m	0.18m	0.11m	

P14 0.57m 0.47m (0.38m)

入口施設 南壁中央部で内側に1.32m入った位置に2本の楕円形のピットが検出された。これらは底面が内側にずれており、斜方向に柱が立てられたピットと考えられ、入口昇降用のはしごの設置痕と考えられる。

柱穴No	長径	短径	深さ	備考
P 1	0.38m	0.26m	0.59m	
P 2	0.32m	0.24m	0.62m	

遺物出土状態 住居の約半分が153号住居に壊されていたために遺物の全体量はあまり多くない。床面に近い遺物は数cm浮いた状態で出土したものがほとんどである。

炉 住居北側の柱穴P3～P6の外側に2基の炉が検出された。これらはP3～P6と同様に153号住居床面で検出した。また、配置もP3～P6と同じに住居の立て替えによって位置が移動したものと考えられ、P3・P4に対応する炉は炉1、P5・P6に対応する炉は炉2と考えられる。

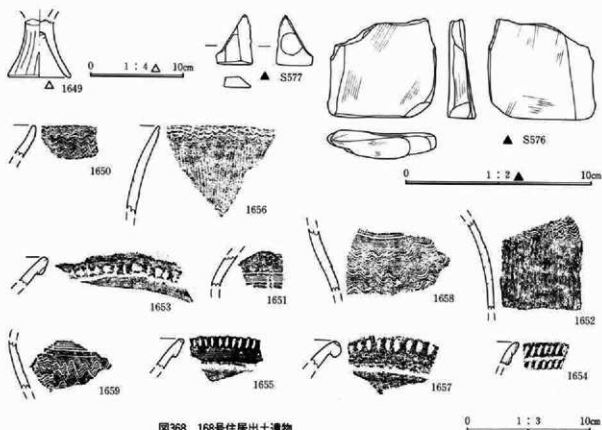


図368 166号住居出土遺物

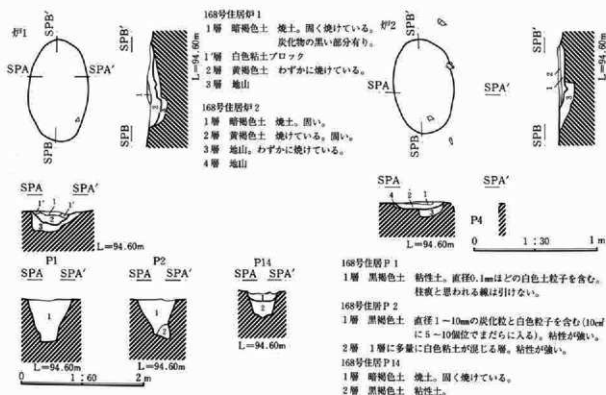


図369 168号住居の炉と柱穴

炉1位置 P3・P4間の中央、北0.4m

規模 長軸0.80m 短軸0.46m 深さ0.11m

遺存状態 厚さ3cmほど床面が焼土化していた。

石等の施設はない。

遺物出土状態 弥生土器の破片が2片出土した。

炉2位置 P5・P6間の中央、北0.3m

規模 長軸0.80m 短軸0.50m 深さ0.06m

遺存状態 厚さ2cmほど床面が焼土化していた。

P4との重複があるが、新旧関係は不明である。したがって立て替えの順序は明確でない。

**調査所見** 調査時には炉1・炉2を153号住居の炉と考えていたので、P3~P6との関連を確実にとらえられなかった。したがって本住居の北側の主柱と炉の移動が住居の拡張によるものか、縮小によるものかは判断できない。(小島)

171号住居

**調査所見** 171号住居は当初1軒の住居として調査を開始したが、調査の進捗にともなって、主軸方位を37°ずらして立て替えられている2軒の住居ということが判明した。上層の住居は焼失住居であり、炭化物や焼土の遺存が著しく、焼けている部分が発見として確認できる。これは上層の住居の床面と考えられる。また、この炭化物や焼土の遺存範囲が限定できることから、上層の住居の平面形を判断することが可能である。この平面形は、下層の住居の床面で検出できた柱穴のうち、下層の住居の平面形とずれるピットの位置と対応しており、2軒の住居の重複であることを裏付けている。したがって、本住居のうち、上層の住居を171A号住居、下層の住居を171B号住居として報告する。柱穴はすべて171B号住居の床面で検出しており、平面形との検討から主柱穴と入口ピットのみ171A号住居のものとして判断できた。他のものは判断がつかないので一括171B号

住居で報告する。また、掘設土一括取り上げの遺物もどちらのものか判断できないので、報告からは除外している。

171A号住居 図370-373, P189-100-162-163, 表P.87-89

位置 X・Y-59-61グリッド

規模 縦(7.18)m 横5.25+ $\alpha$ m 深0.18m

形状 小判形に近い隅丸長方形

重複 171B号住居に後出する。

主軸方位 N-7°-W

埋没土 上層は浅間C軽石・炭化物粒・焼土粒を含む砂質黒褐色土で埋まっていた。床面の直上には軽石をほとんど含まず、多量の焼土粒と炭化物粒を含む灰褐色粘質土が堆積していた。

床面 床面は焼土化している。貼床の施設が火を受けてそうなったものかどうかは不明であるが、単に黒色土が焼土化したようでもなかった。

貯蔵穴 検出されなかった。

周溝 検出されなかった。

柱穴 171B号住居の床面で確認した柱穴のうち、図示したP1-P4が本住居の主柱穴と考えられる。これらのうち西側の2本には柱根が残っている。

P3のものは遺存状態が不良で、断面図作成および樹種同定はできなかった。P4に遺存していた柱根は樹種同定の結果、クリであることが判明した。

柱穴No	長径	短径	深さ	備考
P1	0.50m	0.40m	0.72m	
P2	0.38m	0.35m	0.67m	
P3	0.48m	0.36m	0.67m	柱根遺存
P4	0.44m	0.41m	0.67m	柱根遺存

入口施設 入口施設も柱穴と同様に171B号住居床面で検出したものうち本住居の平面形に適應するピットを入口施設とした。P2・P3間の南壁寄りに2本の小ピットである。

柱穴No	長径	短径	深さ	備考
P1	0.24m	0.18m	0.62m	
P2	0.40m	0.30m	0.57m	

遺物出土状態 壁沿いを中心に遺物が出土している。南東部床面からは壺形土器胴下半部(1710)、北東部床面からは甕形土器(1717)の出土がある。他に埋没土内からは高杯形土器(1715)などの出土がある。

炉 ほとんどの床面が焼けているので、炉を特定することができなかった。(小島)

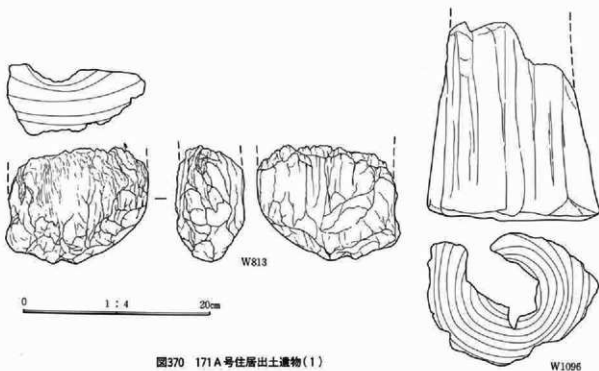


図370 171A号住居出土遺物(1)

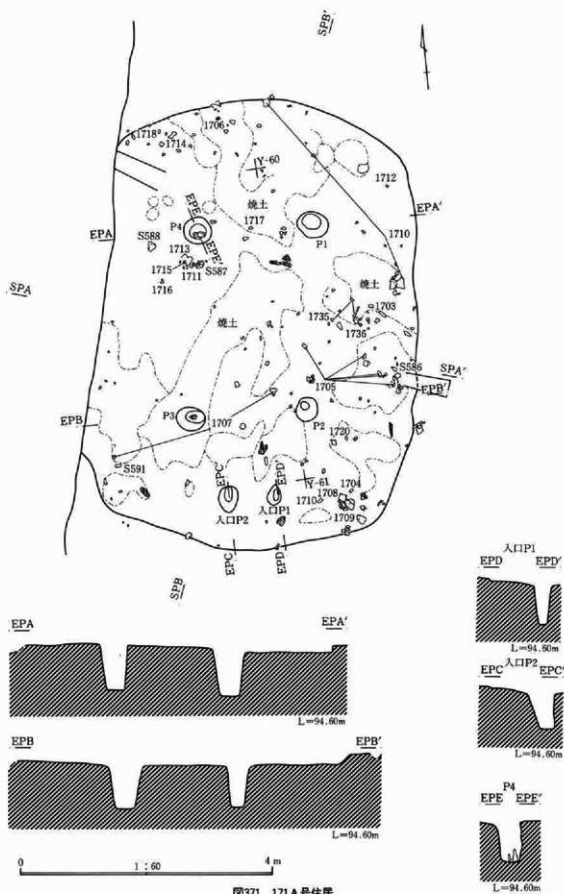


图371 171A号住居

第8章 住居の調査

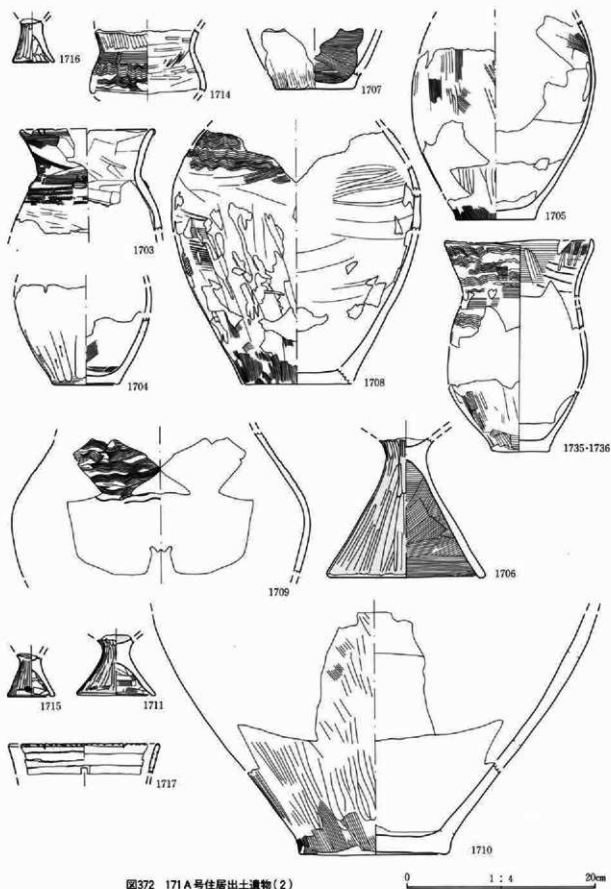


図372 171A号住居出土遺物(2)

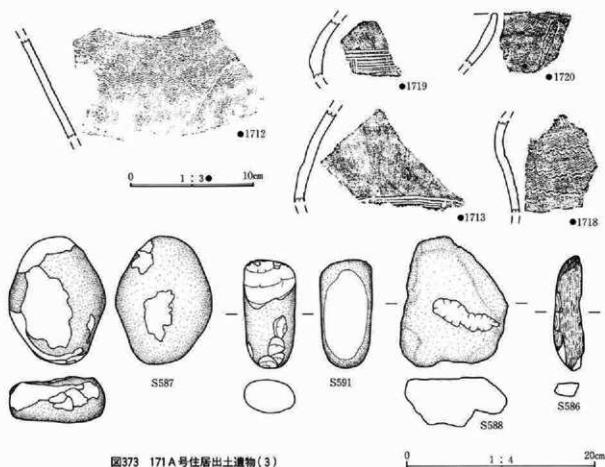


図373 171A号住居出土遺物(3)

## 171B号住居 IR374-378, PL100-102, 163-165, 表P.80-92

位置 X・Y-59-61グリッド

規模 縦9.14m 横6.84m 深0.16m

形状 小判形に近い隅丸長方形

重複 171A号住居に先行する。

主軸方位 N-30°-E

埋没土 上層は炭化物粒を多量に含む黒褐色粘質土で、下層は炭化物をごく少量含む灰褐色粘質土で埋まっていた。

床面 床面はほぼ平坦で、掘り込んだ地山を床面としている。中央部を中心に硬化面が残存していた。

貯蔵穴 検出されなかった。

周溝 幅8-10cm、深さ3-7cmほどの周溝が住居の壁沿いに全周している。

柱穴 床面で39本のピットを検出したが、前述したように、このうち6本は171A号住居のピットと判

断できた。本住居で報告するピットは33本である。

P1-P6は主柱穴と考えられる。P7もその可能性がある。P8・P9は深さや位置から主柱穴と同様の機能を有するとも考えられる。

柱穴No	長径	短径	深さ	備考
P 1	0.42m	0.32m	0.61m	
P 2	0.41m	0.34m	0.25m	
P 3	0.30m	0.22m	0.67m	
P 4	0.32m	0.29m	0.61m	
P 5	0.32m	0.32m	0.69m	
P 6	0.33m	0.31m	0.56m	
P 7	0.40m	0.32m	0.22m	
P 8	0.22m	0.22m	0.62m	
P 9	0.50m	0.40m	0.64m	
P 10	0.34m	0.20m	0.09m	
P 11	0.40m	0.32m	0.57m	

第8章 住居の調査

P12	0.28m	0.23m	0.22m
P13	1.02m	0.72m	0.41m
P14	0.30m	0.23m	0.44m
P15	0.46m	0.40m	0.32m
P16	0.50m	0.40m	0.41m
P17	0.24m	0.20m	0.49m
P18	0.20m	0.20m	0.38m
P19	0.30m	0.26m	0.10m
P20	0.32m	0.28m	0.22m
P21	0.24m	0.20m	0.41m
P22	0.44m	0.36m	0.06m
P23	0.34m	0.28m	0.51m
P24	0.40m	0.30m	0.58m
P25	0.40m	0.36m	0.75m
P26	0.44m	0.32m	0.34m
P27	0.28m	0.28m	0.07m
P28	0.24m	0.24m	0.61m
P29	0.24m	0.23m	0.07m
P30	0.24m	0.22m	0.61m
P31	0.30m	0.30m	0.23m
P32	0.46m	0.26m	0.18m
P33	0.28m	0.18m	0.62m

**入口施設** 主柱穴P3・P4間の南壁寄りにピットが2本検出されている。入口昇降用の施設を掘えつけたものと考えられる。

柱穴No	長径	短径	深さ	備考
P1	0.42m	0.42m	0.47m	
P2	0.35m	0.24m	0.44m	

**遺物出土状態** 床面近くの遺物は柱間より外側の周辺部に多く出土している傾向がある。西壁沿いにはあまり出土していない。1738は住居東壁南端部外で出土したものである。石器の出土が多い。磨製石鏃(S634・S637・S660)が出土した。

**炉** 床面で2ヶ所の焼土化した部分が発出された。同様な在り方をしたおり、どちらも炉と考えられるが、P4内側にあるものは補助的な炉であろう。P1・P4間やや内側に検出された方を炉1、他を炉2として報告する。

炉1

**位置** P1・P4間やや内側

**規模** 長軸1.7m、短軸0.9m、深さ0.23mにわたって床面が焼けて焼土化しているが、形状は不定形で大きくは二つの楕円形がくの字についたような形をしている。

**遺存状態** 床面から数cm下がった位置で焼土化した面を検出した。焼土中央部の下層には長径0.38m、短径0.23m、深さ0.4mのピットが発出された。このピットは少量の焼土粒と炭化物粒を含む黒褐色土で埋まっていた。

**遺物出土状態** 焼土直上には1739の弥生土器高杯形土器が発出している。

炉2

**位置** P26北東

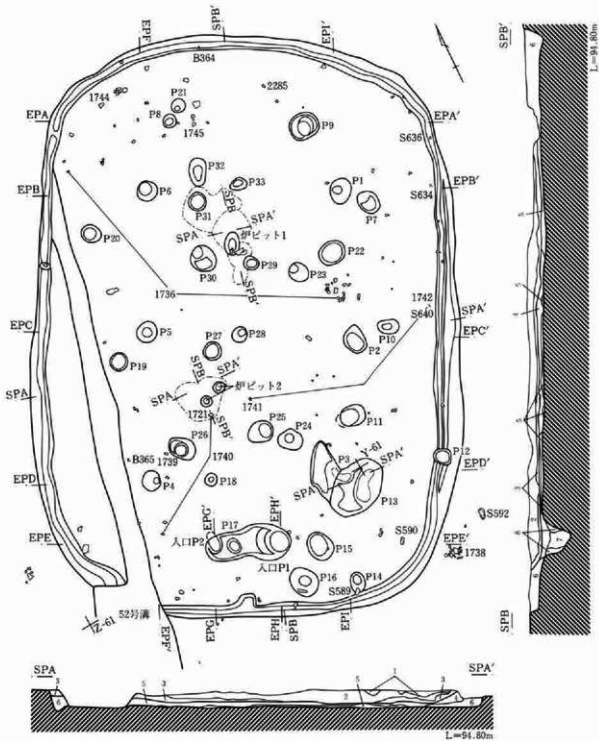
**規模** 長軸0.6m 短軸0.6m 深さ0.06m

**遺存状態** 炉2も不定形に床面が焼けている。炉の表面は数cmの厚さで焼土化していた。炉2の焼土下層にも直径20cm、深さ36cmの小ピット2本が掘られている。

**遺物出土状態** 南縁で焼土面から2cmほど浮いて1721の弥生土器甕形土器が発出した。

**調査所見** 171B号住居は本遺跡で検出された住居のうちでは最も大型のものひとつである。本住居の埋没途中で上面が焼かれたものとみられるが、その面を住居床面としてよいかどうかは確定的でない。しかし、171B号住居床面で検出したピットの中に、焼土面の平面形に合致する配置のものがあつたので、171A号住居を想定した。171A号住居の立ち上がりは不明確であるが、炭化物が斜上方へ立ち上がるのを土層断面で確認している。(小島)





## 171A号・B号住居

- 1層 多量のAs-Cを含む砂質茶褐色土。
- 2層 As-C・炭化物粒・焼土粒を含む黒褐色土。やや砂質。
- 3層 As-Cはほとんど含まず。多量の焼土粒と炭化物粒を含む灰褐色粘質土。
- 4層 炭化物粒を多量に含む黒褐色粘質土。
- 5層 炭化物粒を極少量含む灰褐色粘質土。
- 6層 細かい軽石と炭化物粒を含む灰褐色粘質土。粘性が強く、しまりが強い。
- 7層 黄色砂質土アロクと灰褐色粘質土の混土。
- 8層 灰褐色粘質土。

図374 171B号住居

0 1 : 60 4m

第8章 住居の調査

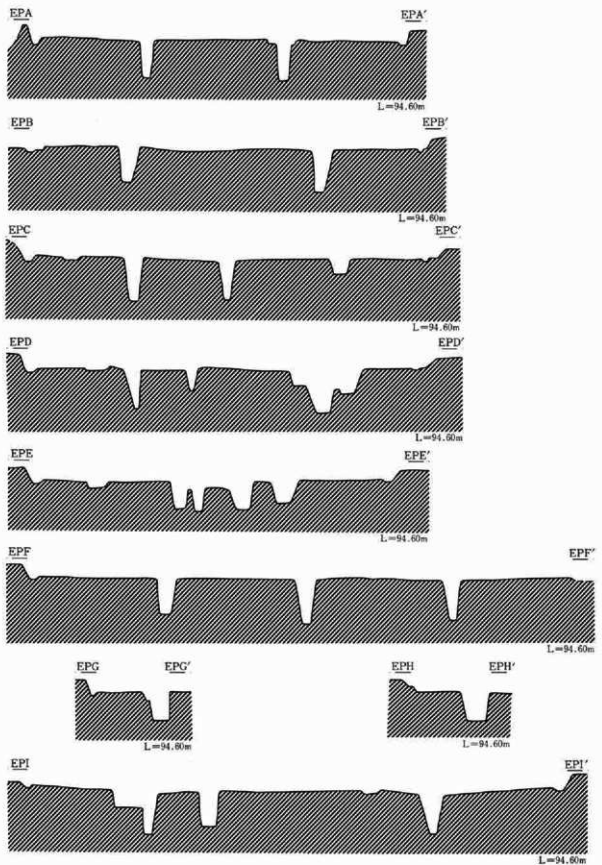
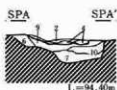
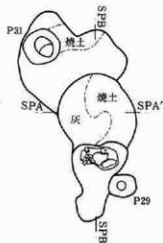
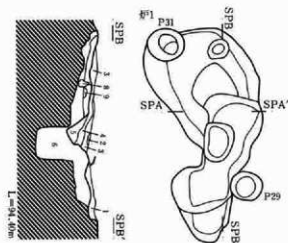


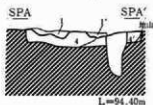
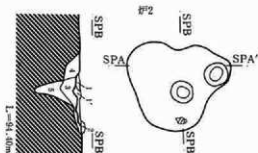
図375 171B号住居の断面

0 1 : 60 4 m



## 171B号住居炉1

- 1層 灰黄色砂質シルト 焼土粒を含む。
- 2層 灰層
- 3層 灰と焼土の互層。
- 4層 褐色焼土
- 5層 焼土粒を含む黒灰色粘質土。
- 6層 少量の焼土粒と炭化物粒を含む黒褐色土層。
- 7層 灰黄色粘質シルト
- 8層 黄灰色シルトブロック
- 9層 黄色シルト
- 10層 焼土粒・炭化物粒・灰褐色粘土粒を含む黒灰褐色粘質シルト。



## 171B号住居炉2

- 1層 赤褐色土 焼土。固い。
- 1層 炭化物・焼土粒の混入土。
- 2層 赤白色に焼けている。炭化物を含む。
- 3層 暗褐色土 わずかに焼けている(漸移的)。
- 4層 褐色土 わずかに焼けている(漸移的)。白色鉱物を含む。
- 4層 褐色土
- 5層 褐色土

## 171A号住居 171B号住居

入口P1 P13  
SPA SPA'



## 171A号住居入口P1

- 1層 黄色粘土ブロックを含む黒灰色粘質土。

## 171B号住居P13

- 2層 炭化物を多量に含む灰色粘土。
- 3層 黄色砂質土ブロック・炭化物を多量に含む灰褐色粘質土。

0 1:60 2m

図376 171B号住居の炉と柱穴

第8章 住居の調査

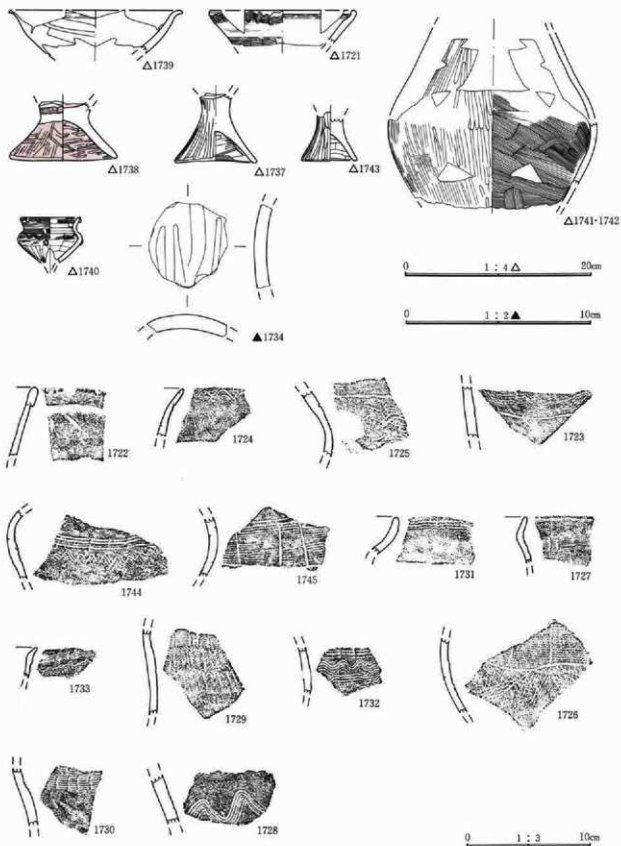


図377 171B号住居出土遺物(1)

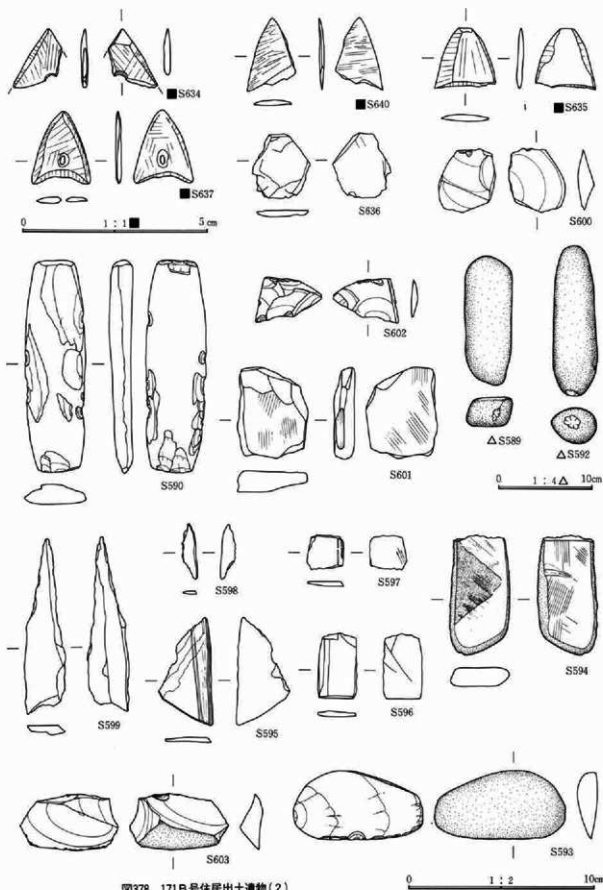


図378 171B号住居出土遺物(2)

172号住居 図379-384、PL102-105-165、表P.92-94

位置 W・X-58・59グリッド

規模 縦6.22m 横5.20m 深0.24m

形状 隅丸長方形

重複 151号・153号住居に先行し、178号住居に後出する。

主軸方位 N-1°-E

埋没土 上層は浅間C軽石と炭化物粒を含む黒色粘質土で、下層は焼土や炭化物を多量に含む黒色粘質土・灰褐色粘質土で埋まっていた。特に4層下位の壁際には炭化材が多量に出土し、南壁中央部際には板材が出土している。

床面 中央部に部分的な硬化面があったが、全体には及んでいない。支柱穴P1の東側の小ピットP12の北側1.1m、南側1.1mの長さにわたって幅15~20cm、床面からの深さ3~6cmの溝が検出されている。P12の北側の溝はやや東に湾曲しているが、ほ

は東壁に平行し、北壁に直交する方向にこの溝は掘られている。

貯蔵穴 検出されなかった。

周溝 検出されなかった。

柱穴 大小21本のピットが床面で検出された。このうちP1~P4は支柱穴と考えられる。南壁中央部の内側にある2本は入口施設と考えられる。P19は、炉の使用面の焼土を切って掘り込まれている。

柱穴No	長径	短径	深さ	備考
P 1	0.26m	0.24m	0.43m	
P 2	0.43m	0.36m	0.30m	
P 3	0.40m	0.36m	0.46m	
P 4	0.36m	0.27m	0.44m	
P 5	0.30m	0.28m	0.31m	
P 6	0.36m	0.20m	0.06m	
P 7	0.40m	0.29m	0.37m	
P 8	0.31m	0.31m	0.24m	

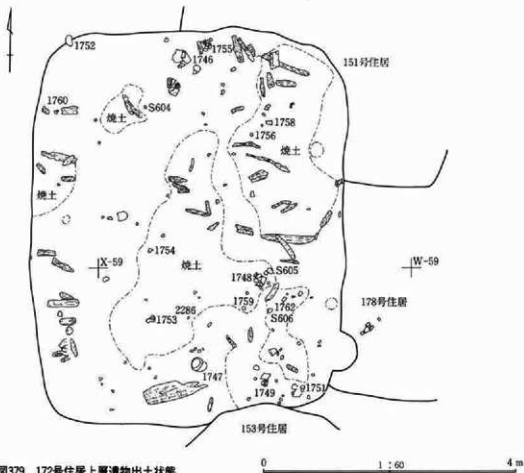
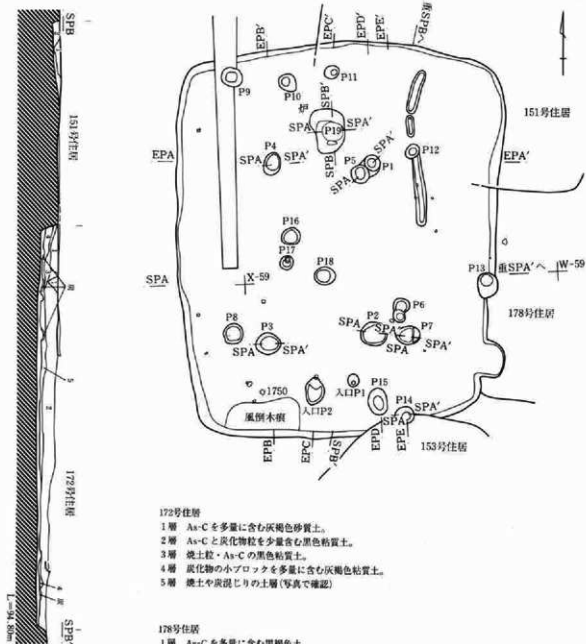
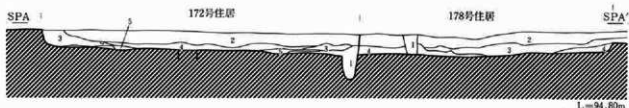


図379 172号住居上層遺物出土状態



## 172号住居

- 1層 A<sub>3</sub>-C を多量に含む灰褐色砂質土。
- 2層 A<sub>3</sub>-C と炭化物粒を少量含む黒色粘質土。
- 3層 焼土粒・A<sub>3</sub>-C の黒色粘質土。
- 4層 炭化物の小ブロックを多量に含む灰褐色粘質土。
- 5層 焼土や炭混じりの土層 (写真で確認)

## 178号住居

- 1層 A<sub>3</sub>-C を多量に含む黒褐色土。
- 2層 炭化物粒を少量含む黒色粘質土。
- 3層 炭化物粒・焼土粒を含む黒褐色粘質土。しまりは良く、固い。
- 4層 炭化物粒・灰褐色粘土粒を含む黒褐色粘土。

図380 172号住居

0 1 : 60 4 m

第8章 住居の調査

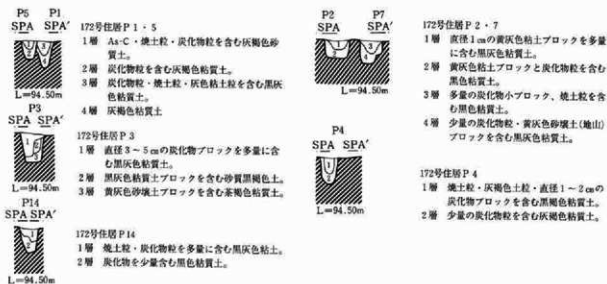
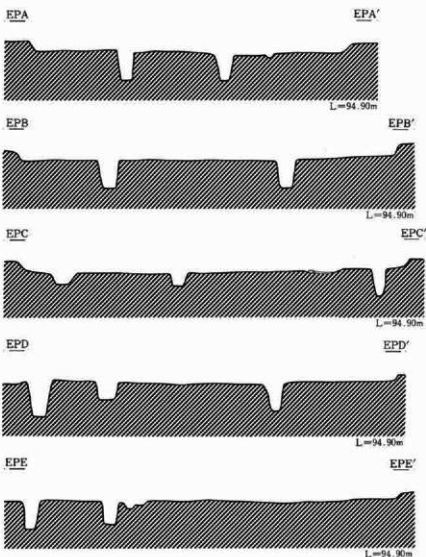


図381 172号住居の断面と柱穴





P 9	0.32m	0.30m	0.39m
P 10	0.30m	0.25m	0.30m
P 11	0.24m	0.20m	0.44m
P 12	0.25m	0.19m	0.28m
P 13	0.36m	0.31m	0.45m
P 14	0.30m	0.25m	0.43m
P 15	0.42m	0.3 m	0.59m
P 16	0.32m	0.27m	0.16m
P 17	0.22m	0.2 m	0.18m
P 18	0.35m	0.28m	0.25m
P 19	0.32m	0.3 m	0.43m

**入口施設** 南壁中央部、内側にそれぞれ0.41m、0.7m入った位置に小ビット2本が検出された。入口P1は底面が北側に偏った楕円形のビットで、壁の方から斜方向に掘り込まれていた。入口P2は入口P1の偏った北端の位置に掘られた小ビットである。斜方向の掘り込みは確認できなかった。写真ではP15を入口ビットとしているが、位置的には入口P1にならぶ入口P2の方が妥当と考えられる。これらの入口ビットの上層には幅0.26m、長さ1.0mの板が出土した。

柱穴No	長径	短径	深さ	備考
P 1	0.19m	0.18m	0.53m	

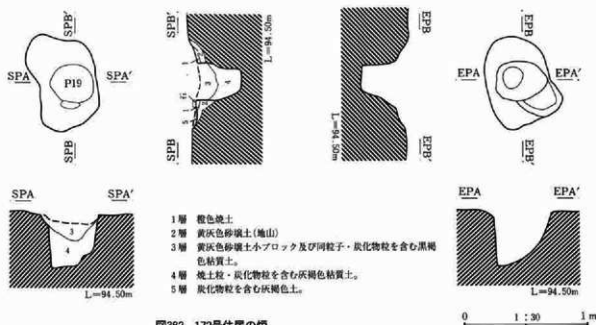


図382 172号住居の炉

P 2	0.43m	0.31m	0.59m
-----	-------	-------	-------

**遺物出土状態** 遺物は5層中に多量に出土した。壁周辺に出土した炭化材が、土器等にかぶさるように出土している。炭化材は壁に直交する方向で出土しているものが多いが、屋根材であるのか、床面の施設であるのか判断しなかった。

#### 炉

**位置** 主柱穴P1・P4の間中央、35cmほど北側  
**規模** 長軸0.78m 短軸0.5m 深さ0.06m  
**遺存状態** 床面が10cmほど、不定楕円形に掘り込まれ、厚さ2cm程度の焼土が溜まっていた。炉の中央は、溜まった焼土を切ってP19が掘り込まれている。遺物出土状態 中央よりやや南側には棒状の礫が1点出土した。

**調査所見** 床面を直接覆う土層は、炭化材を多量に含んでおり、遺物もこの層から出土している。本住居は焼失住居と考えられるが、炭化材の下には部分的に若干の住居埋没土が確認できるところと、炭化材が直接床面についている部分があって、いつの時点で焼失したものかは明らかでない。(小島)

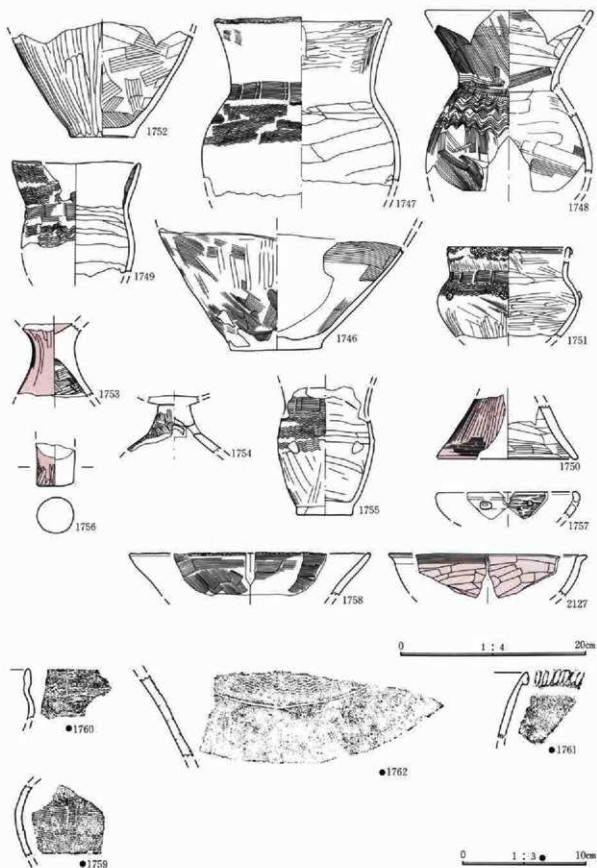


図383 172号住居出土遺物(1)

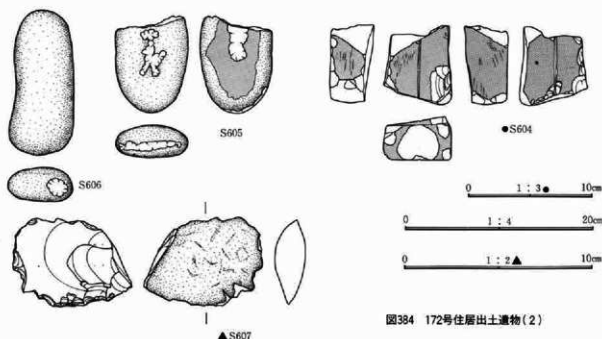


図384 173号住居出土遺物(2)

## 173A号住居 B0385-387, PL105-107-166, 表P.94-95

位置 Z・2A-60・61グリッド

規模 縦6.5m 横5.6+αm 深0.38m

形状 隅丸方形

重複 173B号住居に先行する。西壁は善勝寺堀に切られている。

主軸方位 N-27°-E

埋没土 暗褐色土層であり、10cmあたり3個の炭化物粒や、直径0.5mmの焼土粒を含む。東側の壁は残りが良く、西側は傾斜に沿って掘り込み面が削られて浅くなる。

床面 北側は173B号住居に切られており、周溝や北壁が検出できなかった。173B号住居のP4付近に本住居の炉があることが予想されるが、173B号住居に壊されたものであろう。

貯蔵穴 南壁中央やや東寄りに長径0.75m、短径0.63m、深さ0.35mの楕円形を呈する貯蔵穴が検出された。

周溝 西壁は善勝寺堀に切られており不明であるが、他の壁沿いに幅13cm、深さ約3cmの周溝が検出されている。北壁は173B号住居跡に至るまでは東壁下からの続きで確認できる。南壁は住居入り口付

近で途切れる。東壁は一部がくずれて広くとらえられる。

柱穴 12本のピットが検出された。

柱穴No	長径	短径	深さ	備考
P 1	0.55m	0.45m	0.70m	
P 2	0.55m	0.50m	0.13m	
P 3	0.65m	0.50m	0.49m	
P 4	0.67m	0.65m	0.68m	
P 5	0.35m	0.25m	0.31m	
P 6	0.35m	0.30m	0.24m	
P 7	0.18m	0.18m	0.17m	
P 8	0.17m	0.14m	0.13m	
P 9	0.15m	0.15m	0.13m	
P 10	0.38m	0.38m	0.26m	
P 11	0.21m	0.20m	0.04m	
P 12	0.24m	0.24m	0.44m	

入口施設 南西に入口ピットが2本検出された。

柱穴No	長径	短径	深さ	備考
P 1	0.30m	0.28m	0.20m	
P 2	0.33m	0.15m	0.12m	

遺物出土状態 全面に遺物が多量に出土している。

南西壁際床面直上からは1372、南東部からは1371の

第8章 住居の調査

菱形土器、P1～P6の埋没土中からも菱形土器が出土している。

炉 2ヶ所の炉が検出されている。

炉1 位置 中央よりやや南西寄り

規模 長軸0.72m 短軸0.45m 深さ0.04m

遺存状態 焼土・炭化物が厚さ約4cm堆積。

遺物出土状態 炉内からは出土なし。

炉2 位置 中央よりやや南西寄り。炉1に切られている。

規模 長軸0.40m 短軸0.39m 深さ0.02m

遺存状態 厚さ約4cmの焼土面を確認。

遺物出土状態 炉内からは出土なし。

調査所見 調査当初は段状に掘り込んだ173B号住居と一体の可能性があると考えていたが、付属施設等のありかたから173号住居としたものをA・Bとに分けて考えることとした。新旧関係を明瞭にとらえられる土層がなく、床面の状況や遺物出土状態等から考慮した結果の判断である。(相京)

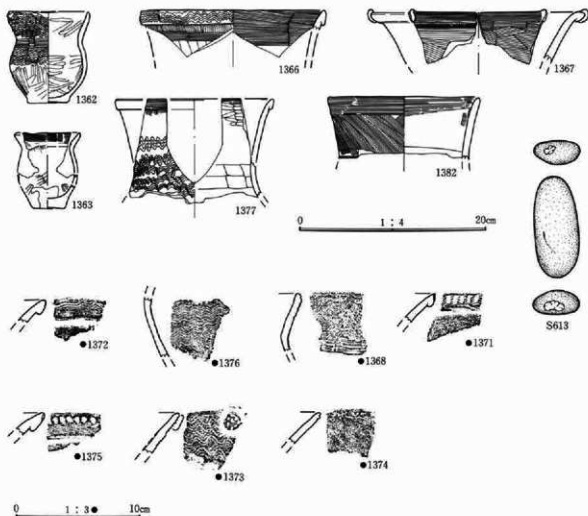


図385 173A号住居出土遺物

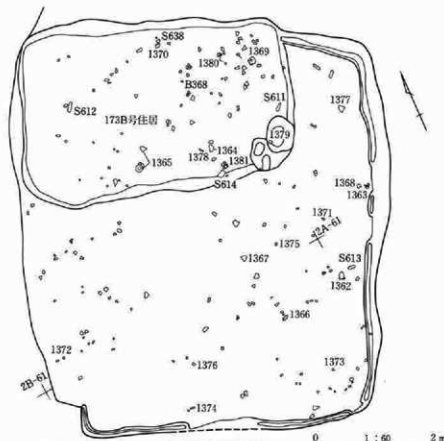
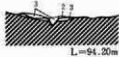
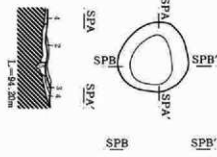


図386 173A号・173B号住居原遺物出土状況

- 1層 褐色土 直径0.3-0.5cmの炭化粒・焼土ブロックを含む。粘性がある。
- 2層 褐色土 直径0.5-1cmの炭化物を含む。直径0.5cmの焼土ブロックをわずかに含む。粘性がある。
- 3層 黒褐色土 炭化物が稀に入る。
- 4層 黄褐色土 地山が流れ込んでいる。
- 5層 褐色土 わずかに地山ブロック・炭化物を含む。

- 1層 褐色土 直径0.5-0.8mmのAa-Cが混入する(1㎡あたり2-3個)。
- 2層 褐色土 直径0.1-0.3mmのAa-Cが混入する(1㎡あたり1個)。
- 3層 暗褐色土 焼土粒・直径0.1-1mmの炭化物を含む(10㎡あたり3個入る)。粘性がある。
- 4層 暗褐色土 直径0.5cmほどの炭化物と焼土粒が均一に含まれる。他、白色粘土ブロックを含む。粘性が強い。
- 5層 褐色土 炭化物が多い。砂の混入土層。粘性が高い。



- 1層 炭化物粒・焼土粒を含む黒褐色粘質土。
- 2層 褐色焼土
- 3層 黄色少土
- 4層 黒褐色粘質土
- 5層 焼土粒を含む黒褐色土。

173号住居 P1

- 1層 褐色土 直径0.5cmの炭化粒を含む。粘性がある。
- 2層 地山ブロックの露れ。
- 3層 暗褐色土 白色粘土ブロックと直径1cmの炭化物を極少量含む。粘性が強い。
- 4層 褐色土 白色土粒子・炭化物粒子をわずかに含む。

173号住居 P2

- 1層 褐色土 炭化粒・焼土粒をわずかに含む。粘性がある。
- 2層 褐色土 粘性がある。

173号住居 P3

- 1層 褐色土 直径0.5-0.8mmのAa-Cが混入する(1㎡あたり2-3個)。
- 2層 褐色土 直径0.1-0.3mmのAa-Cが混入する(1㎡あたり1個)。
- 3層 暗褐色土 焼土粒・直径0.1-1mmの炭化物を含む(10㎡あたり3個入る)。粘性がある。
- 4層 暗褐色土 直径0.5cmほどの炭化物と焼土粒が均一に含まれる。他、白色粘土ブロックを含む。粘性が強い。
- 5層 褐色土 炭化物が多い。砂の混入土層。粘性が高い。

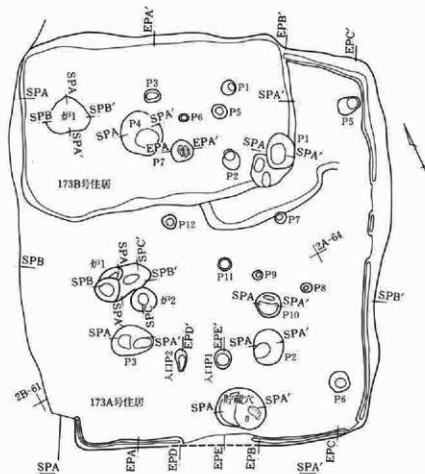
173号住居 P4

- 1層 褐色土 炭化物粒子を含む。粘性がある。
- 2層 暗褐色土 炭化物を多く含む。粘性がある。軟らかい。
- 3層 黒褐色土 炭化粒を含む。粘性が強く、束状している。
- 4層 褐色土 炭化物をわずかに含む。固い。
- 5層 黒褐色土 粘性が強い。

173号住居 P5

- 1層 炭化物粒・焼土粒・灰褐色粘土を含む黒褐色粘質土。
- 2層 黄褐色粘質土 極少量の炭化物を含む。
- 3層 焼土粒・炭化物粒を含む灰褐色土。

図387 173A号・173B号住居



173号住居 P3 (1・2・3層は新しいP6, 4・5層は古いP6)

- 1層 褐色土 炭化粒・直径5mmほどの白色土ブロックをわずかに含む。粘性がある。
- 2層 黒褐色土 粘性が強い。3層 灰褐色土 砂質。
- 4層 褐色土 炭化物をわずかに含む。固い。
- 5層 黒褐色土 粘性が強い。

173号住居 P4

- 1層 褐色土 炭化物粒子を含む。粘性がある。
- 2層 暗褐色土 炭化物を多く含む。粘性がある。軟らかい。
- 3層 黒褐色土 炭化粒を含む。粘性が強く、束状している。
- 4層 褐色土 炭化物をわずかに含む。固い。
- 5層 黒褐色土 粘性が強い。

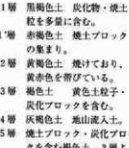
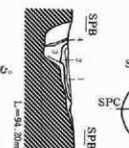
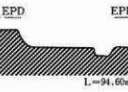
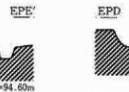
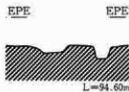
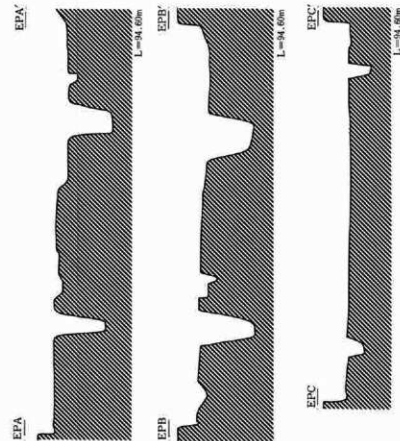
173号住居 P5

- 1層 炭化物粒・焼土粒・灰褐色粘土を含む黒褐色粘質土。
- 2層 焼土粒・炭化物粒を少量含む灰褐色粘土。

173号住居貯蔵穴

- 1層 炭化物粒・灰褐色粘土・少量の焼土粒を混じる黒褐色粘質土。
- 2層 黄褐色粘質土 極少量の炭化物を含む。
- 3層 焼土粒・炭化物粒を含む灰褐色土。

0 1:60 4m



- 1層 黒褐色土 炭化物・焼土粒を多量に含む。
- 1層 赤褐色土 焼土ブロックのみ。
- 2層 黄褐色土 焼けており、黄褐色を帯びている。
- 3層 褐色土 黄色土粒子・炭化ブロックを含む。
- 4層 灰褐色土 地山混入土。
- 5層 焼土ブロック・炭化ブロックを含む褐色土。3層より層が厚い。
- 6層 褐色土 白色土粒子を含む。
- 7層 褐色土 炭化物層
- 8層 赤褐色土 焼土。

3層 灰褐色土 砂質。

L=94.20m

L=94.20m

L=94.20m

L=94.20m

L=94.20m

L=94.20m

L=94.20m

L=94.20m

L=94.20m

L=94.20m

L=94.20m

L=94.20m

L=94.20m

L=94.20m

L=94.20m

L=94.20m

L=94.20m

L=94.20m

L=94.20m

L=94.20m



173B号住居 図386-389, PL106-107-166, 表P.96-96

位置 Z・2A-60グリッド

規模 縦2.9m 横4.4m 深0.33m

形状 隅丸方形

重複 173A号住居に後出する。

主軸方位 N-70°-W

埋没土 褐色土が入る。直径3~5cmの炭化物粒や粘土ブロックを含む。下層では炭化物が大きくなる。

床面 ほほ平坦である。

貯蔵穴 なし

周溝 なし

柱穴 7本のピットが検出された。P7の底面からは礎板が検出された。

柱穴No	長径	短径	深さ	備考
P 1	0.24m	0.24m	0.35m	
P 2	0.30m	0.26m	0.40m	
P 3	0.25m	0.20m	0.14m	
P 4	0.60m	0.55m	0.34m	
P 5	0.25m	0.22m	0.40m	

P 6 0.15m 0.12m 0.05m

P 7 0.35m 0.34m 0.23m

入口施設 なし

遺物出土状態 全面から遺物の出土がある。床面直上から、1365・1369・1381の甕形土器や1380の塗彩された高杯形土器が出土した。

炉

位置 西北部中央

規模 長軸0.70m 短軸0.55m 深さ0.02m

遺存状態 炉内には焼土があり残りは良い。

遺物出土状態 炉内西側使用面直上より石器(S612)の出土がある。

調査所見 本住居は、本来は173A号住居より先行調査をするべきであったが、173A号住居と同一の住居として平面形確認時に判断したため、173A号住居の床面に達したところで調査方法の誤りに気付いた。したがって両住居の埋没土を通して実測すべき土層図がなく、173B号住居確認後に土層観察用のベルトを東西方向に設定した。(相京)

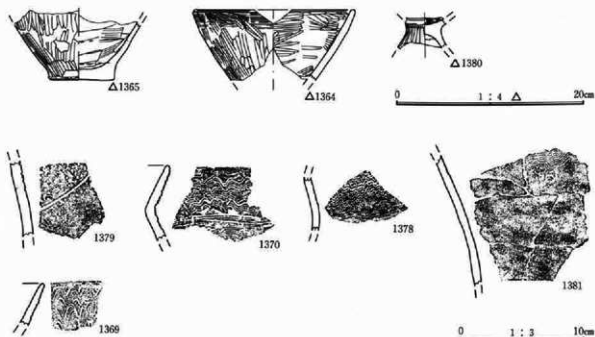


図388 173B号住居出土遺物(1)

第8章 住居の調査

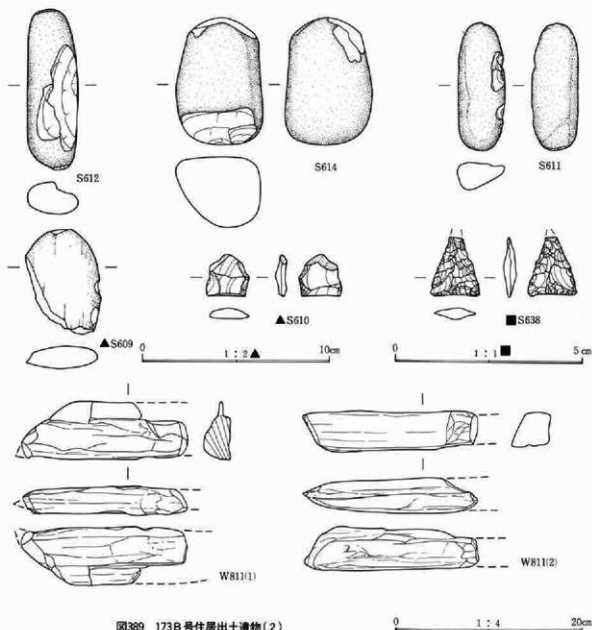


図389 173B号住居出土遺物(2)

174号住居 図390-391, PL107-108・165, 表P.96-97

位置 Z-59・60グリッド

規模 縦3.82m 横3.1+αm 深0.16m

形状 隅丸方形

重複 51号溝・善勝寺堀に先行し、175号住居に後出する。

主軸方位 N-8°-E

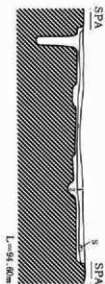
埋没土 上層は黒色土であり、下層になるにつれて灰褐色粘質土へと変わる。上層には多量の浅間C軽石

石や炭化物粒・焼土粒を含み、下層になると、含有量が減少する。

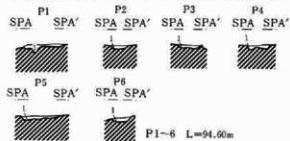
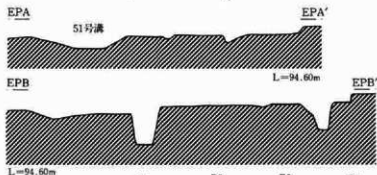
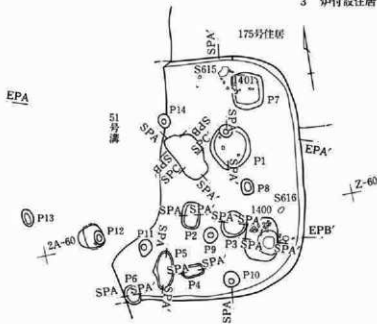
床面 中央南寄り部分がわずかに硬い。西側は善勝寺堀や2号河川跡へと近付くため、わずかに床面が下がり、西壁は検出できなかった。

貯蔵穴 南東隅に長径0.70m、短径0.5m、深さ0.40mの貯蔵穴が検出された。貯蔵穴内は上層に多量の浅間C軽石・炭化物粒を含み、下層では焼土粒や炭化物粒を含む黒褐色土である。中間層では灰褐





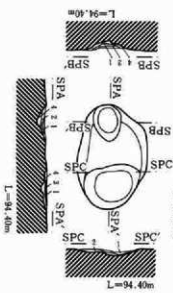
- 1層 炭化物粒・焼土粒・多量のAs-Cを含む黒褐色土。
- 2層 炭化物粒・焼土粒・極少量のAs-Cを含む灰褐色粘質土。



- 174号住居 P 1  
1層 褐色土 As-Cを混入する。
- 174号住居 P 2  
1層 褐色土 As-Cを混入する。
- 174号住居 P 3  
1層 褐色土 鉄分を含む。
- 174号住居 P 4  
1層 黒褐色土 As-Cを混入する。
- 174号住居 P 5  
1層 黒褐色土 わずかに落ち込む。As-Cを混入。
- 174号住居 P 6  
1層 灰褐色土 As-Cを混入する。鉄分を多く含む。



- 1層 多量のAs-C、炭化物粒を含む黒褐色砂質土。
- 2層 雑物のほとんどない灰褐色粘質土。
- 3層 焼土粒・炭化物粒を含む黒褐色砂質土。



- 1層 灰層
- 2層 焼土粒を含む茶褐色土。
- 3層 焼土
- 4層 黄灰白色シルト 上面は焼けて橙色である。

図390 174号住居

0 1:30 1m

0 1:60 2m

第8章 住居の調査

色粘質土が入る。

周溝 なし

柱穴 14本のピットが検出された。床面として確認したところより西側でもピットは検出されている。

主柱穴や支柱穴の関係は不明である。

柱穴No	長径	短径	深さ	備考
P 1	0.70m	0.65m	0.06m	
P 2	0.40m	0.26m	0.06m	
P 3	0.40m	0.40m	0.07m	
P 4	0.35m	0.17m	0.08m	
P 5	0.60m	0.32m	0.05m	
P 6	0.30m	0.26m	0.06m	
P 7	0.55m	0.50m	0.08m	
P 8	0.23m	0.19m	0.18m	
P 9	0.22m	0.22m	0.05m	
P10	0.24m	0.24m	0.58m	
P11	0.25m	0.20m	0.06m	

P12 0.39m 0.33m 0.59m 中段あり

P13 0.25m 0.18m 0.23m

P14 0.22m 0.19m 0.06m

入口施設 なし

遺物出土状態 貯蔵穴埋没土と周辺から小形丸底土器(1400)が出土している。他にP7からS字状口縁台甕形土器(1401)の出土がある。小破片はP7周辺からの出土がある。

炉

位置 中央よりやや東寄り

規模 長軸0.83m 短軸0.44m 深さ0.06m

遺存状態 炉の主軸は北西から南東に向いている。

炉内は2ヶ所に凹地をもち、焼土が堆積している。

遺物出土状態 炉内からの遺物の出土はない。

調査所見 古墳時代前期の住居であり、175号住居の南西部分を切っており、西側は51号溝に切られている。地形は西側へと傾斜している。(相京)

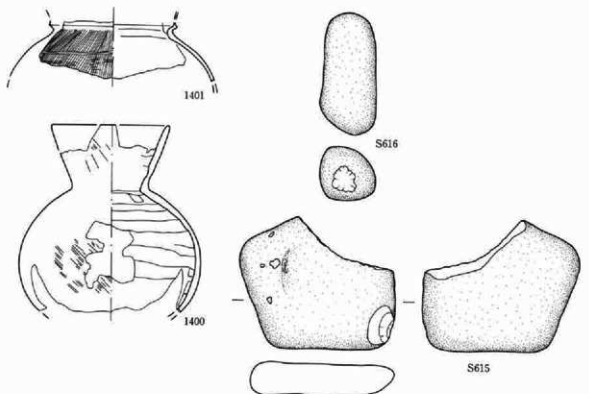


図391 174号住居出土遺物

175号住居 図392-395, PL108-110, 166-167, 表P. 97-98

位置 Y・Z-58・59グリッド

規模 縦8.90m 横5.78m 深0.25m

形状 隅丸長方形

重複 174号住居に先行する。

主軸方位 N-19°-E

埋没土 上層は炭化物粒・軽石・焼土粒を含むしまりの良い茶褐色粘質土で、下層は炭化物粒・軽石・焼土粒を多量に含む黒褐色粘質土で埋まっていた。一次埋没土は焼土粒・炭化物粒を含む灰褐色シルト質土であった。

床面 住居中央部の床面は硬化していたが、周縁部特に南部の床面はあまり硬化していなかった。

貯蔵穴 検出されなかった。

周溝 検出されなかった。

柱穴 大小あわせて35本のピットが検出された。P1～P6の6本は主柱穴と考えられる。また、東壁沿いには1.5～1.7mのほぼ等間隔で、P11・P14・P15・P16・P17の5本のピットが並んで検出された。住居構築に関係する柱穴と考えられる。西壁沿いにもピットが検出されているが、東壁沿いの柱列ほどの規則性は看取できない。

柱穴No	長径	短径	深さ	備考
P 1	0.73m	0.60m	0.87m	
P 2	0.68m	0.59m	0.68m	
P 3	1.05m	0.89m	0.64m	
P 4	0.96m	0.90m	0.82m	
P 5	0.58m	0.55m	0.64m	
P 6	0.78m	0.73m	0.94m	
P 7	0.23m	0.20m	0.40m	
P 8	0.42m	0.40m	0.14m	
P 9	0.35m	0.15m	0.34m	
P10	0.18m	0.14m	0.06m	
P11	0.39m	0.33m	0.37m	
P12	0.59m	0.30m	0.13m	
P13	0.20m	0.14m	0.04m	
P14	0.34m	0.30m	0.39m	
P15	0.43m	0.30m	0.12m	

P16	0.30m	0.27m	0.40m	
P17	0.30m	0.20m	0.32m	
P18	0.79m	0.78m	0.49m	二重。
P19	0.4 m	0.55m	0.56m	二重。
P20	0.30m	0.25m	0.48m	
P21	0.30m	0.23m	0.52m	
P22	0.55m	0.41m	0.41m	
P23	0.15m	0.17m	0.08m	
P24	0.30m	0.26m	0.35m	
P25	0.42m	0.40m	0.38m	
P26	0.25m	0.23m	0.25m	
P27	0.68m	0.42m	0.54m	
P28	0.34m	0.26m	0.11m	
P29	0.57m	0.40m	0.11m	
P30	0.24m	0.24m	0.27m	
P31	0.24m	0.20m	0.06m	
P32	0.31m	0.28m	0.45m	
P33	0.29m	0.21m	0.04m	
P34	0.32m	0.29m	0.09m	
P35	0.46m	0.25m	0.44m	

入口施設 南壁はほぼ中央の、壁から0.8mほど入った地点に入口昇降施設と考えられるピットが2本検出された。

柱穴No	長径	短径	深さ	備考
P 1	0.50m	0.37m	0.42m	
P 2	0.55m	0.35m	0.53m	

遺物出土状態 床面近くの遺物は主柱穴の外側に集中する傾向がある。特に南壁沿いに多く出土している。また本住居では、炉2の中からイノシシ後肢中節骨、埋没土中からニホンシカ臼歯が出土している。  
炉 本住居の床面には2ヶ所の焼けた地点があり、P1・P6間にあるものを炉1、P3の北側にあるものを炉2として報告する。

炉1

位置 P1・P6の中央やや北側

規模 長軸0.67m 短軸0.34m 深さ0.02m

遺存状態 細長い楕円形を呈する。南側がやや細くなっている。床面が2cmほど掘り凹められており、

第8章 住居の調査

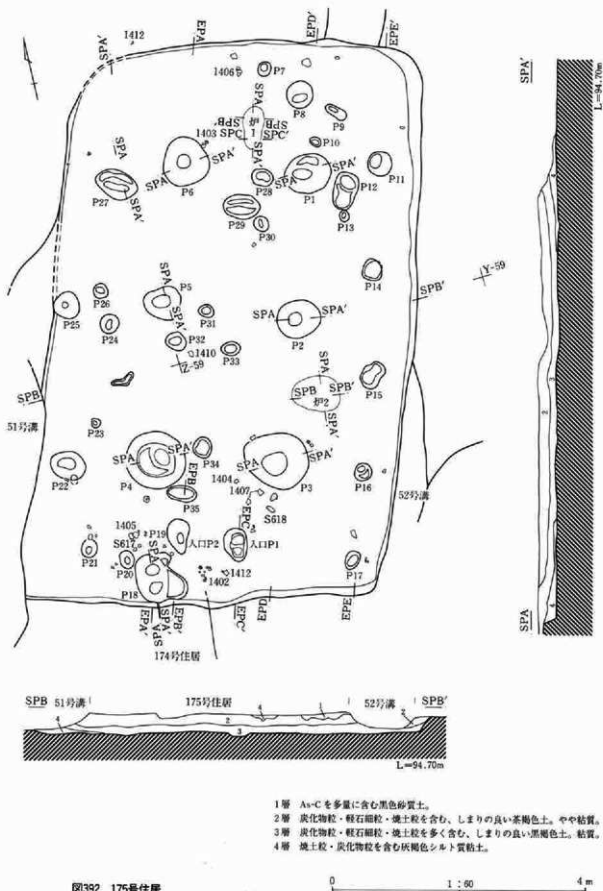
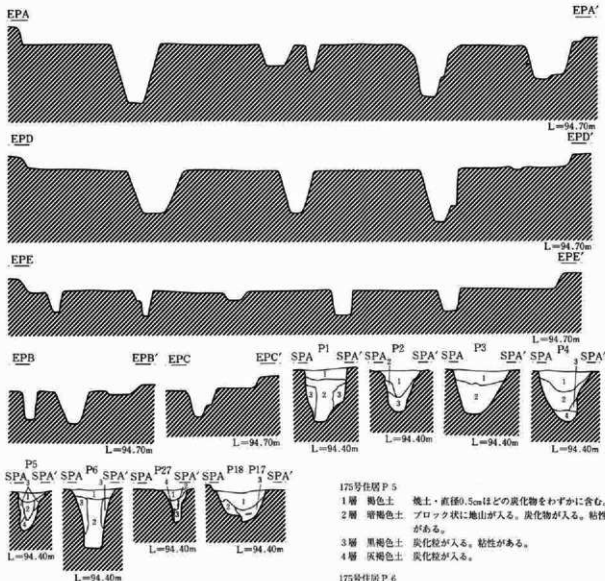


図392 175号住居



- 175号住居 P 1
- 1層 褐色土 焼土粒をわずかに含む。粘性が強い。
  - 2層 暗褐色土 焼土粒・炭化粒をわずかに含む。
  - 3層 褐色土 粘性が強い。

- 175号住居 P 2
- 1層 暗褐色土 白色炭化物粒・直径1cmほどの炭化物を少量含む。粘性がある。
  - 2層 暗褐色土 炭化物を少量含む。粘性がある。
  - 3層 暗褐色土 地山の流入土がある。粘性がある。

- 175号住居 P 3
- 1層 褐色土 焼土・直径0.5～1cmの炭化物を含む。粘性がある。
  - 2層 暗褐色土 炭化物がわずかに入る。粘性が強い。

- 175号住居 P 4
- 1層 炭化物粒・焼土粒を含む黒褐色粘質土。
  - 2層 炭化物粒・焼土粒を少量含む灰褐色粘質土。
  - 3層 炭化物粒を含む灰褐色砂質土。
  - 4層 炭化物ブロックを多量に含む灰褐色粘質土。

- 175号住居 P 5
- 1層 褐色土 焼土・直径0.5cmほどの炭化物をわずかに含む。
  - 2層 暗褐色土 ブロック状に地山が入る。炭化物が入る。粘性がある。
  - 3層 黒褐色土 炭化粒が入る。粘性がある。
  - 4層 灰褐色土 炭化粒が入る。

- 175号住居 P 6
- 1層 褐色土 白色土粒子が混入する。粘性が強い。
  - 2層 暗褐色土 焼土粒・炭化粒をわずかに含む。
  - 3層 褐色土 粘性が強い。

- 175号住居 P 27
- 1層 黒褐色土 焼土・直径1cmほどの炭化物ブロックを混入する(10cm当たり2～5個)。
  - 2層 褐色土 地山ブロック・炭化物・焼土粒を少量含む粘質土。
  - 3層 褐色土 粘性がある。
  - 4層 地山の流入土。

- 175号住居 P 18・19
- 1層 多量の焼土粒・炭化物粒・少量のAs-Cを含む黒褐色粘質土。
  - 2層 多量の炭化物粒を含む灰褐色砂質土。
  - 3層 少量の炭化物粒を含む灰褐色粘質土。

図393 175号住居断面と柱穴

0 1 : 60 4 m

第8章 住居の調査

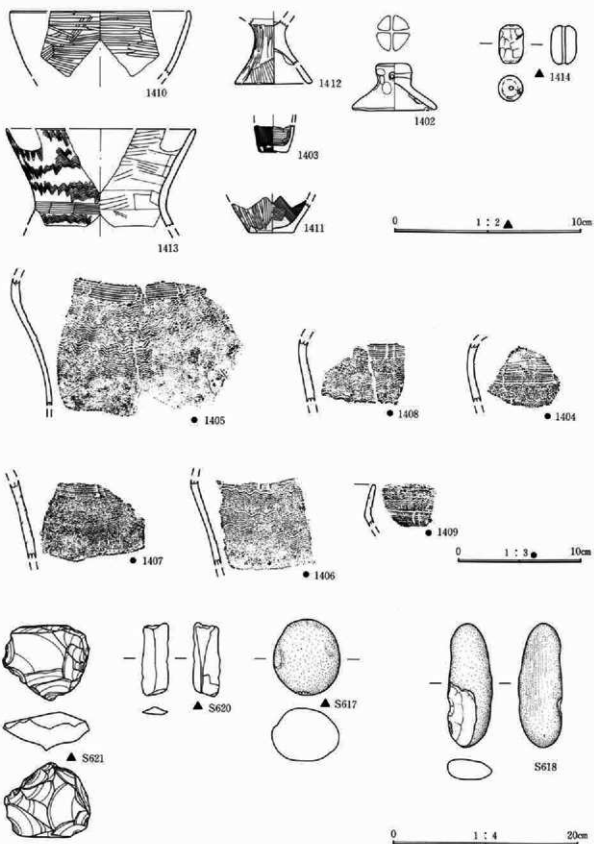
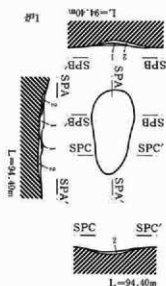
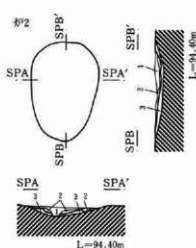


図394 175号住居出土遺物



- 1層 暗褐色土 焼土。焼けて、固い。  
2層 明黄褐色土 地山が漸移的に焼けている。



- 1層 黒褐色土 炭化物を多く含む。  
2層 赤褐色土 焼土。固い。  
2'層 まだらに焼けている。  
3層 明黄褐色土 地山。漸移的に焼けている。

図395 175号住居の炉

0 1:3 1m

厚さ2～8cmの厚さで焼土化していた。さらに地山は漸移的に焼けている。石等の施設は遺存していない。

遺物出土状態 遺物は出土しなかった。

#### 炉2

位置 P3の北東

規模 長軸0.78m 短軸0.55m 深さ0.04m

遺存状態 卵形を呈する。床面を2～8cmほど掘り凹めて使用面としている。焼土は厚さ2cmほど形成されており、固くしまっていた。さらに下層は漸移的に焼けている。

遺物出土状態 炉の埋没土中からニホンシカ臼歯片が1点出土した。

調査所見 6本柱穴の細長い住居である。真ん中の一対の柱穴は四隅の柱穴よりも小形で浅くなっている。(小島)

#### 176号住居 BH396-397, PL110-167, 表P.98-99

位置 U・V-58・59グリッド

規模 縦6.20m 横3.58+αm 深0.15m

形状 北壁の形態が不明確であったので、断定はできないが隅丸長方形と推定される。

重複 160号住居に先行する。

主軸方位 N-17°-E

埋没土 上層はごく少量の浅間C軽石と炭化物粒を含む黒褐色粘質土で、下層は炭化物粒を多く含む黒褐色粘質土で埋まっている。

床面 住居南半部の炉やP3の周辺には硬化面が残っている。

貯蔵穴 調査できた範囲の中では検出されなかった。

周溝 調査できた範囲の中では検出されなかった。  
柱穴 4本のピットを検出した。これらは規模や配置から考えると主柱穴と考えられる。なお、北側のP1とP4は、後出する160号住居の床面調査時に確認して掘り下げている。P3の埋没土層は、柱根

第8章 住居の調査

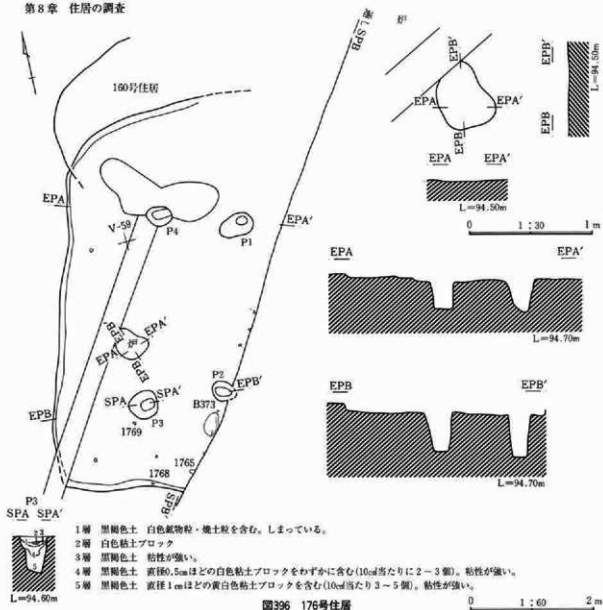


図396 176号住居

を想定させる。

柱穴No	長径	短径	深さ	備考
P 1	0.56m	0.35m	0.52m	
P 2	0.39m	0.30m	0.69m	
P 3	0.47m	0.44m	0.61m	
P 4	0.40m	0.30m	0.48m	

入口施設 調査できた範囲の中では検出されなかった。

遺物出土状態 遺物の出土量は少ない。P 2の南側、床面直上でシカの白歯片が出土している。

炉

位置 P 3北側。住居平面形の確認のためのトレン

チで北端を欠損した。

規模 長軸0.53m 短軸0.33-0.46m 深さ0.01m  
 遺存状態 炉の掘り込みはほとんどされていない。  
 使用面の焼土の遺存もあまりなかった。  
 遺物出土状態 遺物は出土しなかった。

調査所見 後出する160号住居によって北半分の遺存状態は良くなかったため、平面形や床面が確認できなかったところがあった。なお、全景写真のなかでP 2の南側に写っている大形の礫は、直下にHr-FAが堆積しており、住居に伴うものではない。

(小島)



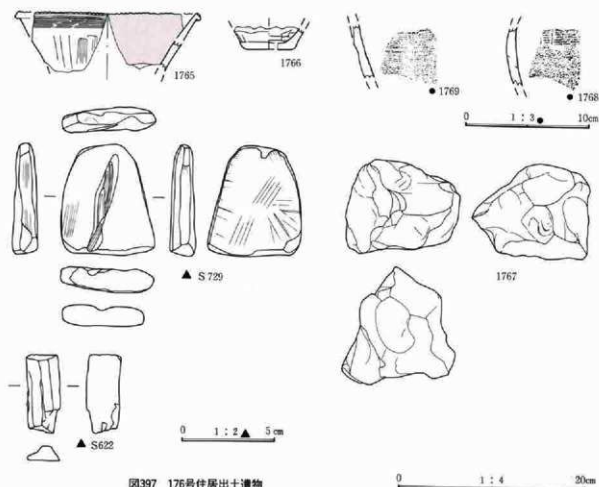


図397 176号住居出土遺物

## 177号住居 国398-402, FL110-112-167-168, 表P.99-101

位置 U・V-56~58グリッド

規模 縦6.75m 横5.0m 深0.22~0.4m

形状 隅丸長方形

重複 147号住居・10号周溝墓に先行する。

主軸方位 N-3°-W

埋没土 上層は炭化物粒と細かい白色軽石を含む黒褐色粘質土で、下層は黄灰褐色粘土小ブロックを含む灰褐色粘質土で埋まっている。

床面 顕著な硬化面は検出されなかった。地山の灰白褐色粘質土をそのまま床面としている。

貯蔵穴 北東隅に長径1.2m、短径1.1m、深さ0.16~0.19mのほぼ円形の皿状の落ち込みが検出された。底面には炭が堆積していた。遺物は破片が出たのみである。

周溝 検出されなかった。

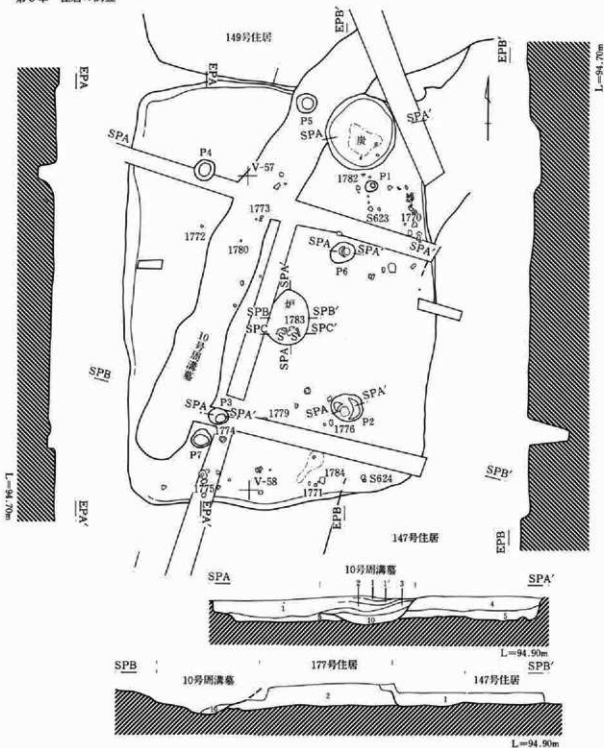
柱穴 床面で大小7本の柱穴が検出された。P1は位置や規模が他の3本と異なっているが、P2~P4とともに主柱穴と考えられる。

柱穴No	長径	短径	深さ	備考
P 1	0.19m	0.17m	0.06m	
P 2	0.52m	0.45m	0.67m	
P 3	0.32m	0.25m	0.63m	
P 4	0.35m	0.31m	0.29m	
P 5	0.33m	0.30m	0.43m	
P 6	0.38m	0.32m	0.60m	
P 7	0.32m	0.29m	0.06m	

入口施設 北壁中央やや東側の壁際にP5が検出されているが、入口施設とは断定できない。

遺物出土状態 北東隅の貯蔵穴付近や南壁沿いにや

第8章 住居の調査



147号住居

1層 As-C・炭化物粒を多量に含む黒色粘質土。

177号住居

2層 炭化物粒・焼土粒を含む黒褐色粘土。しまりが良く固い。

4層 炭化物粒・細かい軽石を含む黒褐色粘質土。しまりが良い。

5層 黄灰褐色粘土小ブロックを含む灰褐色粘質土。

10号周溝墓

1層 黒褐色土 As-Cを極めて多量に含む。炭化物粒子を少量含む。砂質。

2層 黒褐色土 As-Cを多量に含む。炭化物粒子を少量含む。

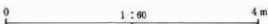
1層よりもやや砂質であるが、1層よりも粘性がある。

3層 黒褐色土 As-Cを1層よりも多く含む。炭化物粒子をやや多く含む。

10層 黒色粘質土 焼土粒・炭化物粒子をやや多く含む。As-Cはほとんど含まれない。

1層 As-Cと炭化物粒を多量に含む黒褐色粘土。

図398 177号住居



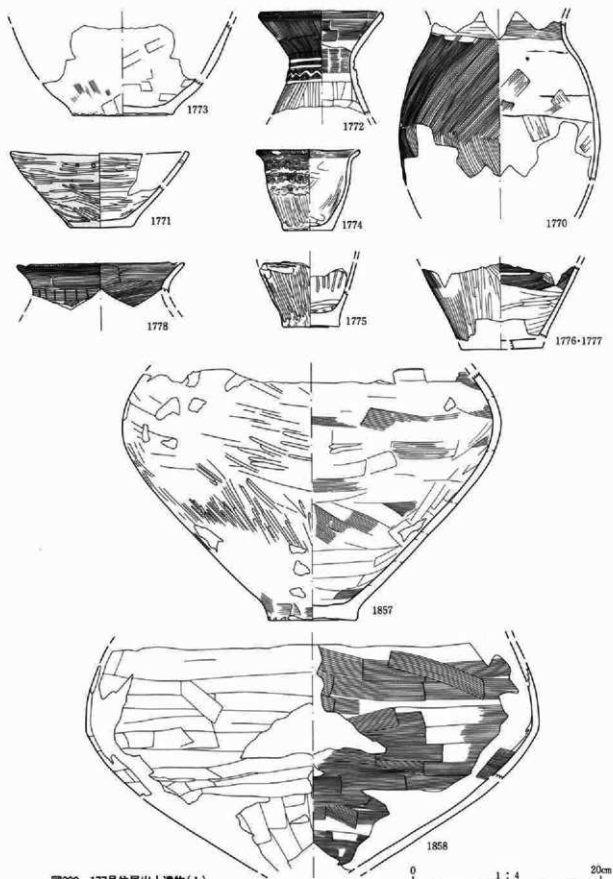


图399 177号住居出土遺物(1)

第8章 住居の調査

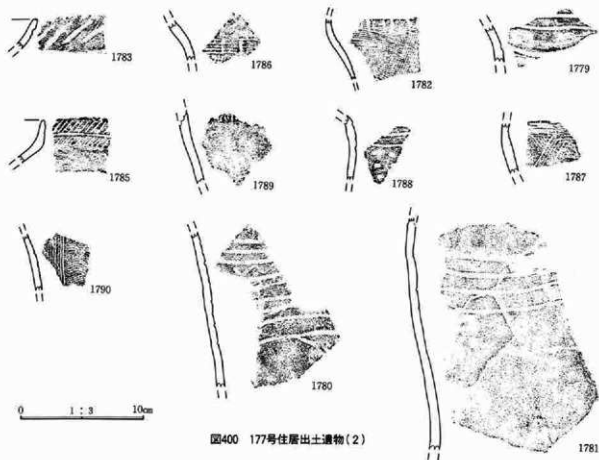


図400 177号住居出土遺物(2)

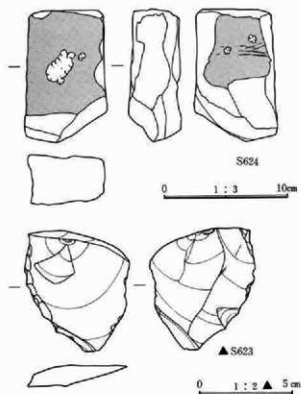


図401 177号住居出土遺物(3)

や集中して床面近くから遺物が出土している。

炉

位置 住居中央やや南側

規模 長軸0.87m 短軸0.63+ $\alpha$ m

深さ 燃焼面まで0.06m 掘り方で0.1m

遺存状態 燃焼面の焼土はほとんどない。炭化物粒を多量に含む黒褐色粘質土で埋まっていた部分を炉とした。

遺物出土状態 燃焼面の南側に礫が据えられている。土器片も出土している。

調査所見 他の弥生時代の遺構確認面では確認できず、10号周溝墓を調査するのと一緒に土層断面で確認したので、10号周溝墓と同時に掘り下げている。本遺跡内で検出された住居の中では最も古い時期の住居のひとつである。

(小島)

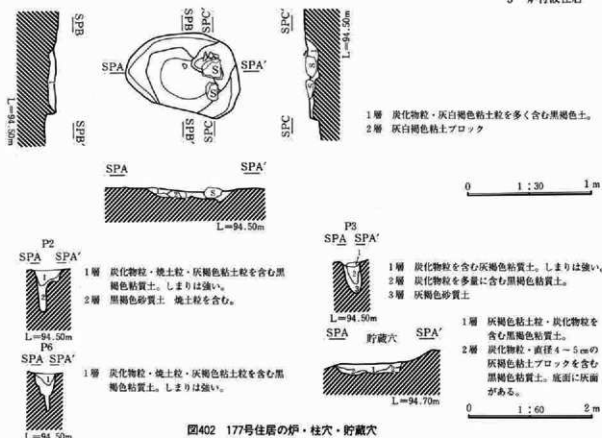


図402 177号住居の炉・柱穴・貯蔵穴

## 178号住居 図403-404, PL112-113-168, 表P.101-102

位置 V・W-58・59グリッド

規模 縦5.75m 横4.5+ $\epsilon$ m 深0.30m

形状 隅丸長方形と推定されるが、後出する151号・172号住居によって西壁と北西隅を壊されているため、北西隅の形態がやや不定形である。

重複 151号・172号住居に先行する。

主軸方位 N-3°-E

埋没土 上層は炭化物粒を少量含む黒色粘質土で、下層は炭化物粒・焼土粒・灰褐色土粒を含む黒褐色粘質土で埋まっていた。

床面 顕著な硬化面がなく、調査時には地山の土が露出し、ピットの確認ができる面を床面とした。遺物は後述するようにこの面からは浮いて出土した。

貯蔵穴 検出されなかった。

周溝 検出されなかった。

柱穴 壁際から検出されたものを含めて23本の小ピットが検出されている。P1～P3の3本は主柱穴と考えられる。この3本と対応する北東部の主柱

穴は検出できなかった。他の小ピットについては本住居床面で検出されたものがほとんどであるが、詳細は不明である。P20・P21・P22は掘り方調査の際に確認した。

柱穴No	長径	短径	深さ	備考
P 1	0.2 m	0.2 m	0.2 m	
P 2	0.21m	0.19m	0.17m	
P 3	0.25m	0.22m	0.29m	
P 4	0.39m	0.27m	0.03m	
P 5	0.22m	0.15m	0.26m	
P 6	0.17m	0.17m	0.26m	
P 7	0.29m	0.25m	0.15m	
P 8	0.22m	0.20m	0.07m	
P 9	0.22m	0.22m	0.21m	
P 10	0.35m	0.32m	0.12m	
P 11	0.17m	0.12m	0.1 m	
P 12	0.24m	0.23m	0.32m	
P 13	0.22m	0.18m	0.1 m	
P 14	0.32m	0.25m	0.16m	

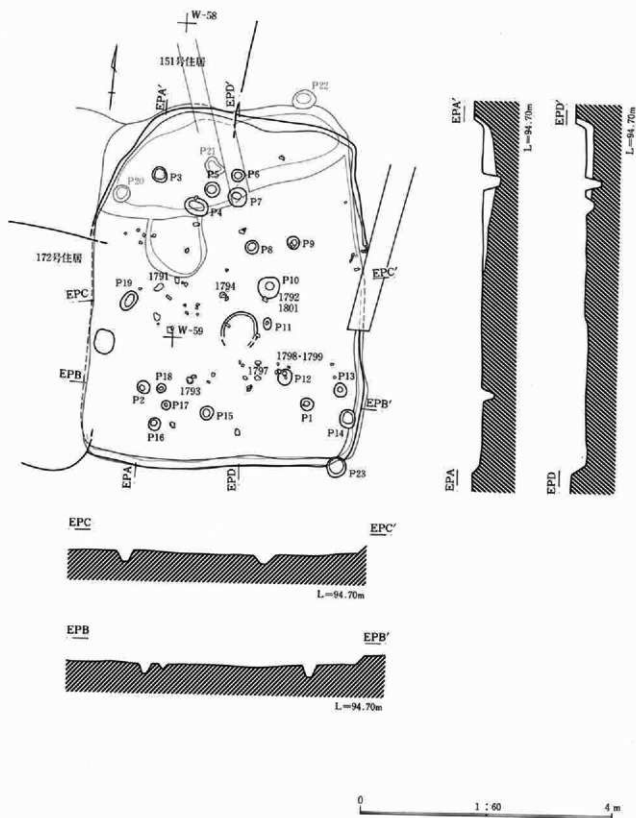


図403 178号住居

P15	0.21m	0.2 m	0.08m
P16	0.2 m	0.2 m	0.22m
P17	0.14m	0.14m	0.06m
P18	0.14m	0.12m	0.07m
P19	0.30m	0.21m	0.17m
P20	0.29m	0.25m	0.26m
P21	0.32m	0.22m	0.09m
P22	0.37m	0.29m	0.23m
P23	0.34m	0.30m	0.14m

入口施設 なし

掘り方 北壁沿いに幅1.3m、床面からの深さ8～15cmほどの掘り込みが検出された。灰白褐色粘土粒を含む粘性の強い黒褐色粘質土で埋まっていた。出土遺物は全くなかった。

遺物出土状態 遺物が集中して分布することから住居の存在を確認した。遺物は、住居中央やや南側に集中していたが、住居の南部のものを中心に、床面とした面から約20cm浮いて出土した。

炉 明確に炉と確認できたものはない。住居中央やや南側に直径55cm、深さ2～5cmの円形の皿状の掘り込みが床面で確認されている。焼土等の残存はなく、積極的に炉と断定できない。

調査所見 本住居は、本遺跡で検出された住居の中では古い住居である。後出する住居に壁等が壊されて平面形の確認が困難であった。北西隅ががや歪んでしまった。北東の主柱穴については見逃した可能性が高い。(小島)

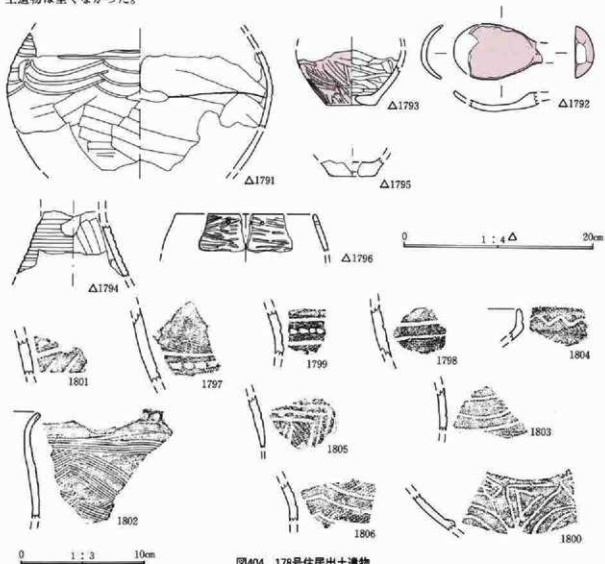


図404 178号住居出土遺物

#### 4. 竪穴状遺構の調査

##### (1) 村前地区の竪穴状遺構

###### 1号竪穴状遺構 図405, PL114

位置 U-57・58グリッド

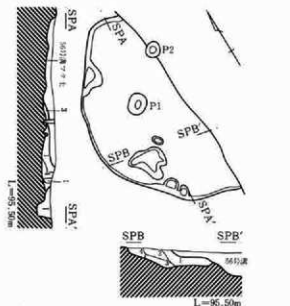
規模 縦3.4m 横1.6+αm 深0.3m

形状 隅丸方形か

重複 56号溝に先行する。

主軸方位 不明

埋没土 褐色系の土層堆積であり、上層は焼土ブロックや炭化物を多量に含む他、砂質土が堆積している部分もある。



- 1層 黒色灰層 焼土ブロックを多量に含む。炭を極めて多量に含む。
- 2層 明褐色土 やや砂質。灰白色砂ブロックを多く含む。
- 3層 茶褐色土 灰白色砂ブロックを多く含む。砂質。
- 4層 暗褐色土 焼土粒子および炭化物を少量含む。灰を多く含む。
- 5層 明褐色炭 2・3層に含まれる砂よりも粒子は粗い。
- 6層 暗黄灰褐色土 粘性あり。黄白色粘性土を多量に含む。
- 7層 暗青灰褐色土 砂質。黄褐色土粒子を少量含む。

0 1:60 2m

図405 1号竪穴状遺構

床面 凹凸があり、不安定である。

柱穴 明瞭なピットはないがP1・P2はある程度の形状を保つ。他の小ピット3本は深さ2-3cmほどであり、性格は不明である。また、不整形な落ち込み2ヶ所があるが、いずれも深さ7-9cmほどであり、底面も安定していない。

柱穴No	長径	短径	深さ	備考
P1	0.35m	0.28m	0.07m	
P2	0.27m	0.24m	0.09m	

遺物出土状態 ほとんど出土していない。

調査所見 土層堆積状況から、56号溝に先行することは明瞭である。このため東側はすべて切り取られており、全体を把握することは困難であった。また、ピット等も検出しているが、住居になる可能性はないと考えられる。(相京)

###### 2号竪穴状遺構 図405, PL114, 表P.104

位置 2B-62グリッド

規模 縦2.5m 横1.3m 深0.2m

形状 不整形

重複 73号溝と重複するが、先後関係不明。

主軸方位 不明

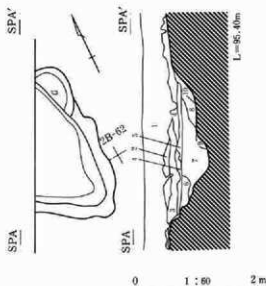
埋没土 暗褐色系の土層である。浅間Bテフラを上層で含み、下層では炭化物を少量含む粘性土になる。床面下の土層堆積は埋没谷の埋没土であると考えられ、埋没谷内の土層堆積を呈している。

床面 平坦である。

遺物出土状態 埋没土中から羽釜(1021)が出土した。

調査所見 本遺構の床面の状況から、住居の可能性を考えたが、カマドや柱穴など遺構付属施設を検出することができなかった。地形的には西側が73号溝に切られており、当時も現在と変わりなく、西に傾斜していたことが考えられる。現在の染谷川や古い溝との重複が多く、本遺構の東側の一部を確認したにすぎない。(相京)





- 1層 暗褐色土 白色軽石を多く含む、粘性弱く、サラサラする。榛名山起部の礫を少量含む。しまりは弱い。
- 2層 暗茶褐色土 白色軽石を多く含む。しまりは1層より良い。
- 3層 暗褐色土 1層よりも黒味が強い。浅間B軽石をやや多く含む。2層よりも粘性はある。
- 4層 暗褐色粘性土 少量の砂もしくは浅間B軽石を含む。
- 5層 暗褐色粘性土 炭化物を少量含む。ほぼ単一的。4層よりも粘性は強い。
- 6層 明褐色土 直径1mm未満の白色粒子を少量含む。しまりは良い。
- 7層 暗褐色土 黒色土ブロック・粒子を少量含む。直径1-2mmほどの炭化物を少量含む。極めてしまりは良い。
- 8層 明褐色土 灰白色粒子・白色軽石を少量含む。しまりは良い。
- 9層 黒褐色土ブロックの間を暗褐色土が埋めている。ややしまりは弱い。
- 10層 灰褐色土 多量の黒色土ブロックを含む。黒色土ブロックの中には浅間C軽石が含まれる。しまりは良い。



図406 2号竪穴状遺構と出土遺物

## 3号竪穴状遺構 図407-408、PL114-168、表P.104

位置 2A-60グリッド

規模 縦1.42+ $\alpha$ m 横1.06+ $\alpha$ m 深0.30m

形状 不整形

重複 4号竪穴状遺構・121号住居に後出する。

主軸方位 N-115°-E

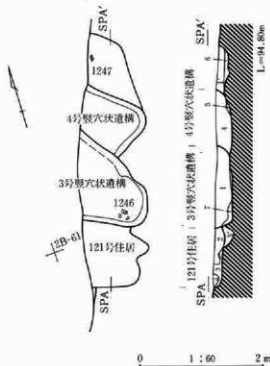
埋没土 暗灰褐色土層であり、軽石と白色鉱物粒を

含む。

床面 ほぼ平坦であるが、全体形状が不明瞭であり、床面から性格付けは不可能である。

遺物出土状態 南東隅部分から、須臾器耳皿(1246)が出土している。図示できなかったが、小片で床面下より羽釜片が出土したことから平安時代の遺構と考えられる。

調査所見 4号竪穴状遺構と切り合い関係にある他、121号住居や溝等により遺構の一部の確認しかできなかった。このため形状や規模等不明な点が多く、遺構の性格付けは困難であった。(相京)



## 3号竪穴状遺構

1層 暗灰褐色土 榛名山起部の軽石をわずかに含む。他に白色鉱物粒子が混入する。

7層 灰白色土 黒色土ブロックを少量、白色鉱物を微量含む。

## 4号竪穴状遺構

4層 灰白色土 白色鉱物粒子を含む、酸化鉄の斑点が入る。

5層 黒色土

## 121号住居

2層 暗灰白褐色土 1層に比べて暗い。白色鉱物を少量、炭化物をわずかに含む。酸化鉄の斑点が入る。

3層 暗灰色土 2層に類するが焼土粒子がわずかに含まれる。

3層 黒褐色土 炭化物・焼土粒子を含む。

1層 灰白色土 酸化鉄の斑点が入る。

6層 灰白褐色土 酸化鉄の斑点が入る。白色鉱物を微量、炭化物を少量含む。

図407 3号・4号竪穴状遺構

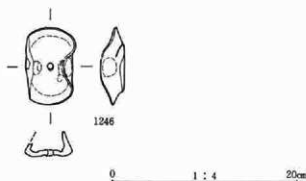


図408 3号竪穴状遺構の出土遺物

4号竪穴状遺構 図407-409, PL114-168, 表P.104

位置 2A-60グリッド

規模 縦0.8m 横1.0m 深0.28m

形状 隅丸方形か

重複 3号竪穴状遺構・73号溝に先行する。

主軸方位 N-63°-E

埋没土 灰白色土層。白色鉱物粒を含む。

床面 わずかな凹凸はあるが、ほぼ平坦である。

遺物出土状態 北東部分から高台付椀(1247)が床面にもぐり込むように出土した。埋没土中より須恵器杯形土器(1248)、カマド支脚(1249)と考えら

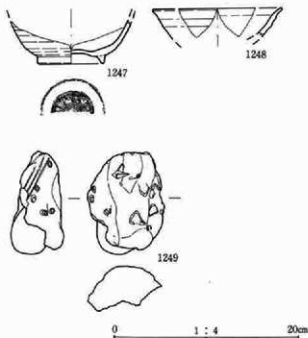


図409 4号竪穴状遺構の出土遺物

れる遺物の出土がある。

調査所見 当初住居の可能性を考えていたが、住居としての決め手はない。近接してカマドをもつ住居などが重なり合っているため、他の住居跡の支脚等も混入していたのかもしれない。住居・溝により切られている部分が多いため、性格付けは困難である。

(1247)は本竪穴の掘り込み確認面とした部分よりも北東方向に約80cmで落ち込みがあり、埋没土も類似することから同一遺構と考えることもでき、同遺構の中に出土遺物を挿入した。(相京)

(2) 下り柳地区の竪穴状遺構

1号竪穴状遺構 図410, PL114, 表P.104

位置 G-59グリッド

規模 縦3.58m 横3.06m 深0.3m

形状 隅丸方形か

重複 小さな溝状の掘り込みと重複している。

主軸方位 N-25°-W

埋没土 平面形の確認は浅間Bテフラを剥いだ段階で検出された。

床面 ほぼ平坦である。

柱穴 東壁北寄りに小ピットが1ヶ所検出された。

形状は円形である。

柱穴No 長径 短径 深さ 備考

P1 0.07m 0.06m 0.14m

遺物出土状態 北東隅付近より数点の破片の出土がある。

調査所見 形状はほぼ方形を呈しているが、南壁付近は不安定であり、はっきりとした性格付けができない。また床面は掘り込み面からの深度も浅く、東西に比して、南北方向の床面は中央がやや高く、わずかに不安定である。出土遺物から年代は概ね平安時代後期である。(相京)

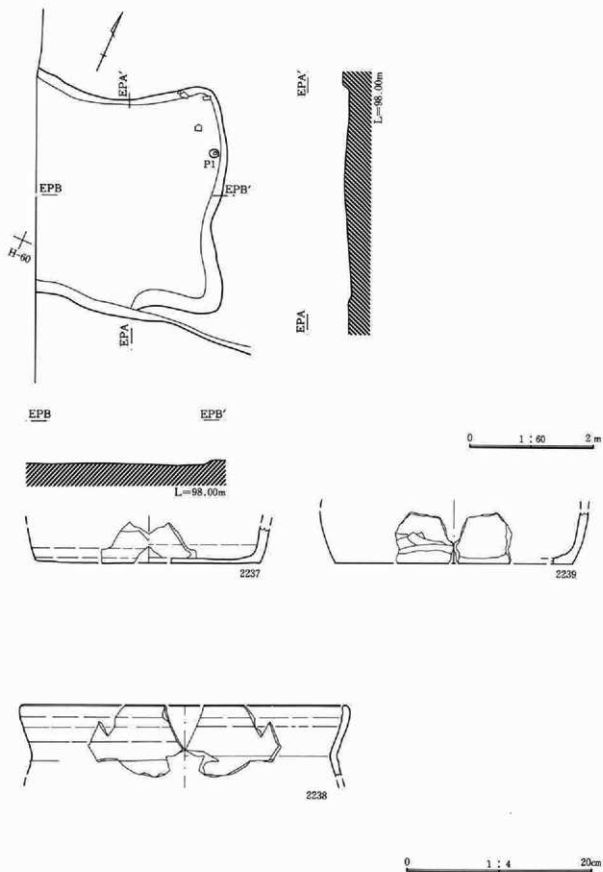


図410 1号竪穴状遺構と出土遺物

第8章 住居の調査

2号竪穴状遺構 0411, PL114

位置 F・G-53・54グリッド

規模 縦4.5m 横1.8m 深0.12m

形状 隅丸方形か

重複 南北方向に細く浅い溝状の掘り込みがある。

主軸方位 N-20°-W

埋没土 記録なし。

床面 ほぼ平坦である。

柱穴 2本検出された。

柱穴No	長径	短径	深さ	備考
P 1	0.46m	0.26m	0.13m	
P 2	0.46m	0.22±σm	0.12m	

調査所見 掘り込み面周辺の状況は全体的に2号竪穴状遺構の中心に向かいわずかに傾斜している。

(相京)

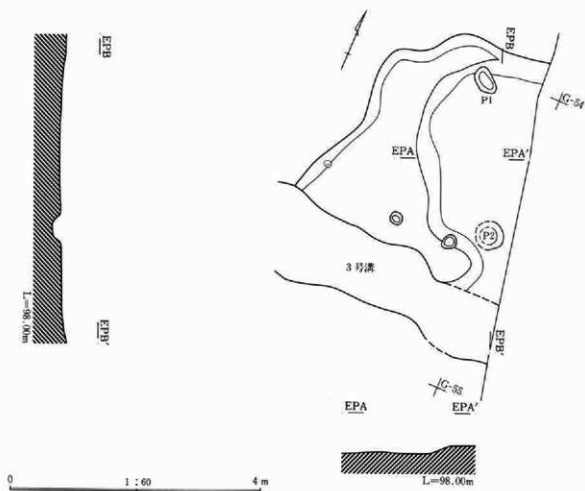


図411 2号竪穴状遺構

## 3号整穴状遺構 図412

位置 G-52・53グリッド

規模 縦5.75+ $\alpha$ m 横1.05m 深0.2m

形状 隅丸方形か

重複 25号土坑に後出する。

主軸方位 N-3°-E

埋没土 白色軽石を少量含むやや砂質の暗褐色土で埋没している。

床面 ほぼ平坦ではあるが、わずかに南側が低い。

柱穴 1本検出された。

柱穴No	長径	短径	深さ	備考
P1	0.35m	0.25m	0.2m	

調査所見 形状としては住居跡状を呈するが、細部が未検出であるため不明である。(相京)

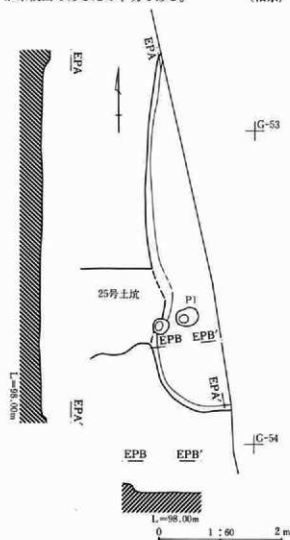


図412 3号整穴状遺構

## 5. 焼土跡

村前地区のⅢ面=Hr-FA直下の水田の調査が終了し、下層の遺構を確認するために水田耕作土であるAs-Cを含む黒色粘質土を掘り下げた際に27カ所の焼土跡が検出された。(図413) 焼土跡を確認した面では畚のサク状の遺構も多数検出されている。焼土跡は黒色土の表面に褐色に変色して検出されたもので、それぞれの規模は直径50cm、焼土の厚さ10cmほどの円形あるいは楕円形を呈していた。これらの分布はS-X-54~58グリッドに集中しており、他よりAs-Cを含む黒色土の堆積が厚く残っている地点である。

焼土跡が検出された層位は、浅間C軽石を含む黒色土の中心で、古墳時代前期の住居の掘り込みを確認できる面よりやや上になる。焼土跡が集中して検出された地点は、5cmほど下層に古墳時代前期の住居、さらに数cm下層に弥生時代の住居が確認できる。遺構面を少しずつ違えて重層的に検出できるのである。焼土跡を検出した浅間C軽石を含む黒色土の中から古墳時代前期の土器が多く出土しており、これらの焼土跡は住居の炉の遺存であると考えられることも可能であろう。上層に作られた畚の耕作の際に下層の住居の壁が破壊された可能性は否定できない。

しかし、焼土跡を検出した地点の周囲には硬化した床面や柱穴・貯蔵穴等の住居を想定させる施設は調査時にも留意したが、決定的には検出されなかった。ここでは、Hr-FA直下畚開墾以前、古墳時代前期以降の住居が遺存した可能性のあることを指摘するにとどまる。

一方、Y-62グリッドでは同様の焼土跡が、V層上面で6カ所検出された。これについては周辺に硬化面があり、柱穴と考えられるピットも存在したことから、住居と考えた。(161号住居)掘り込み面や掘り込みの深さが異なる住居が重層的に存在したと考えられる。このような例からも、前述したS-X-54~58グリッドの焼土跡が、住居の炉の遺存である可能性はあると考えられる。(小島)

第8章 住居の調査

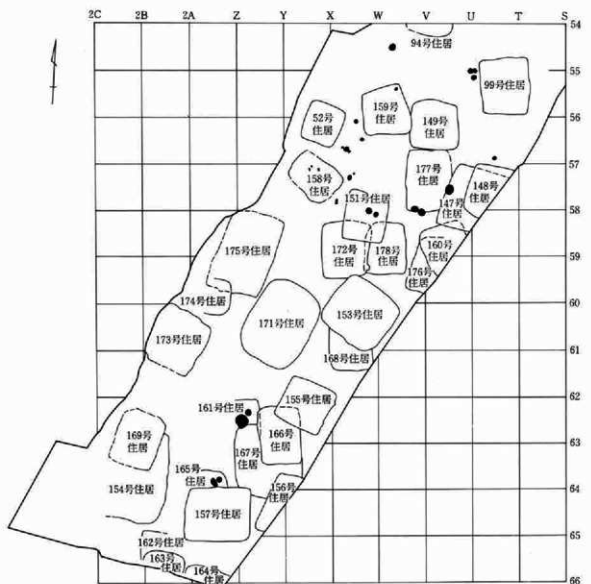
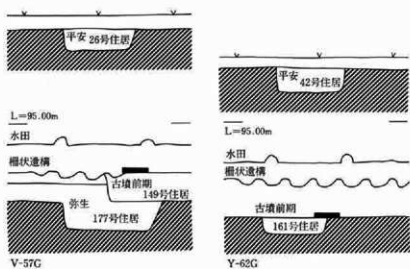
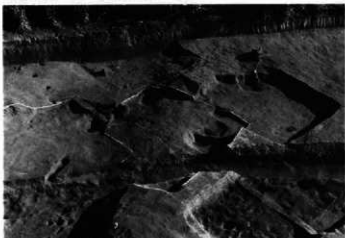


図413 焼土跡の確認面模式図と分布

写 真 图 版







1. 重複群A全景



2. 重複群A全景



3. 30号住居全景(南から)



4. 30号住居土層断面(南から)



5. 30号住居土層断面(南から)



1. 30号住居内須恵器廃棄場



2. 30号住居掘り方



3. 31号住居全景(西から)



4. 31号住居土層断面



5. 31号住居カマド掘り方土層断面



1. 31号住居カマド土層断面



2. 31号住居貯蔵穴(西から)



3. 31号住居貯蔵穴土層断面



4. 31号住居掘り方全景(西から)



5. 31号住居カマド掘り方全景(西から)



6. 35号住居全景(南から)



7. 35号住居カマド掘り方全景(南から)



8. 35号住居掘り方全景(南から)



1. 63号住居全景(北から)



2. 63号住居カマド遺物出土状態(北から)



1. 63号住居掘り方全景(北から)



2. 63号住居カマド全景



3. 63号住居カマド掘り方土層断面



4. 63号住居カマド掘り方全景(北から)



5. 64号住居全景(西から)



1. 64号住居土層断面



2. 64号住居こもづり石出土状態



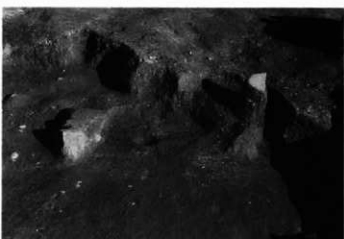
3. 64号住居土層断面



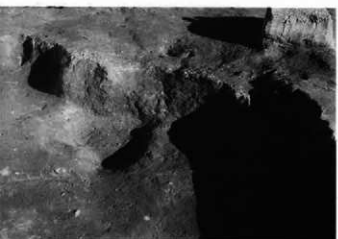
4. 66号住居掘り方全景(西から)



5. 66号住居全景(西から)



6. 66号住居カマド全景(西から)



7. 66号住居カマド掘り方全景



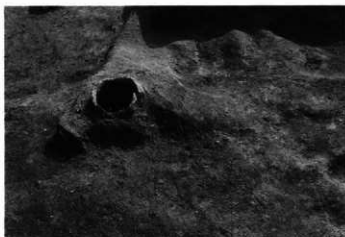
8. 56号・57号住居全景(西から)



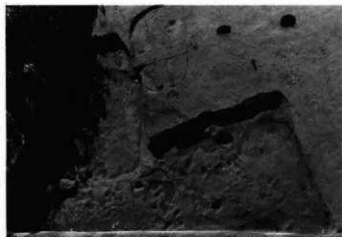
1. 55号・56号・57号住居掘り方全景(西から)



2. 56号住居カマド掘り方全景(北から)



3. 56号住居カマド全景(北から)



4. 55号・56号・57号住居全景(北から)



5. 57号住居カマド全景



6. 57号住居全景(西から)



7. 141号～143号住居全景(西から)



8. 143号住居全景(西から)



1. 143号住居掘り方全景(西から)



2. 143号住居掘り方土層断面(西から)



3. 143号住居カマド全景(西から)



4. 143号住居カマド全景(西から)



5. 143号住居カマド掘り方全景(西から)



6. 149号住居全景(西から)



7. 145号住居全景(西から)



8. 145号住居掘り方土層断面(西から)





1. 145号住居カマド全景(西から)



2. 145号住居カマド掘り方全景(西から)



3. 146号住居掘り方全景(西から)



4. 68号住居全景(西から)



5. 68号住居全景(南から)



1. 68号住居掘り方全景(南から)



2. 68号住居掘り方全景(西から)



3. 68号住居カマド全景(東から)



4. 68号住居カマド遺物出土状態(東から)



5. 68号住居カマド土層断面(南から)



1. 68号住居カマド土層断面(北から)



2. 68号住居カマド土層断面(北東から)



3. 68号住居カマド土層断面(南西から)



4. 68号住居カマド掘り方全景(東から)



5. 71号住居全景(西から)



6. 71号住居土層断面(西から)



7. 71号住居掘り方全景(西から)



8. 72号住居全景(西から)



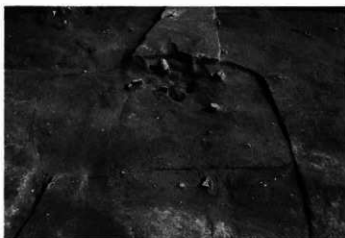
1. 72号住居・70溝南北土層断面(東から)



2. 72号住居掘り方全景(西から)



3. 73号住居南北土層断面(南東から)



4. 73号住居掘り方全景(西から)



5. 73号住居カマド掘り方(西から)



6. 73号住居カマド袖たち割り土層断面(西から)



7. 74号住居全景(西から)



8. 74号住居全景(西から)



1. 74号住居掘り方全景(西から)



2. 74号住居掘り方全景(西から)



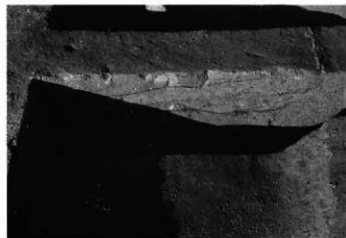
3. 74号住居カマド全景(西から)



4. 74号住居カマド掘り方全景(西から)



5. 83号住居全景(西から)



6. 83号住居A-A'土層断面(南から)



7. 83号住居土層断面(南から)



8. 84号住居全景(西から)



1. 84号住居東西土層断面(南から)



2. 84号住居掘り方全景(西から)



3. 88号住居全景(西から)



4. 88号住居全景(西から)



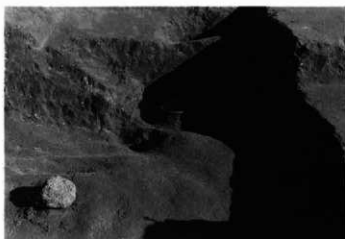
5. 88号住居カマド全景(西から)



6. 88号住居掘り方全景(西から)



7. 88号住居掘り方全景(西から)



8. 88号住居貯蔵穴全景(西から)



1. 90号住居全景(西から)



2. 90号住居土層断面(東から)



3. 90号住居土層断面(南から)



4. 90号住居掘り方全景(西から)



5. 90号住居掘り方土層断面(東北から)



6. 91号住居全景(西から)



7. 91号住居カマド全景(西から)



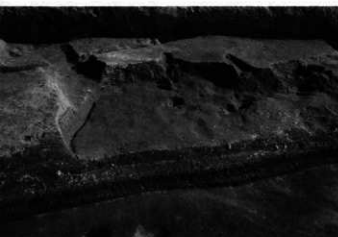
8. 91号住居カマド土層断面



1. 91号住居カマド土層断面(西北から)



2. 91号住居掘り方全景(西から)



3. 91号住居掘り方全景(西から)



4. 91号住居カマド掘り方土層断面(北西から)



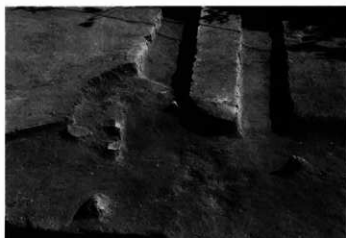
5. 92号住居全景(西から)



6. 92号住居掘り方全景(西から)

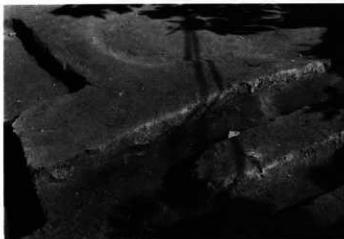


7. 75号住居全景(西から)



8. 75号住居カマド全景(西から)





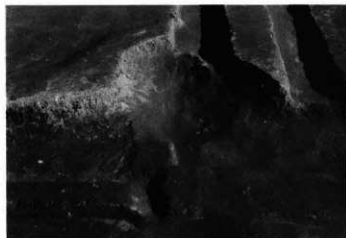
1. 75号住居カマド土層断面(南から)



2. 75号住居掘り方全景(西から)



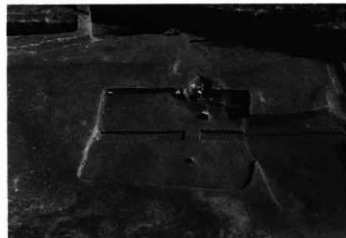
3. 75号住居掘り方土層断面(西から)



4. 75号住居カマド掘り方全景(西から)



5. 76号住居カマド全景(西から)



6. 76号住居全景(西から)



7. 76号住居土層断面(西から)



8. 76号住居土層断面(南から)



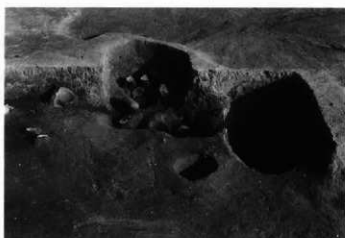
1. 76号住居カマド土層断面(北東から)



2. 76号住居カマド土層断面(南西から)



3. 76号住居掘り方全景(西から)



4. 76号住居カマド掘り方全景(西から)



5. 76号住居カマド掘り方土層断面(東カマド)



6. 76号住居貯蔵穴土層断面(西から)



7. 76号・75号・77号住居掘り方全景(西から)



8. 77号住居掘り方全景(西から)



1. 77号住居掘り方土層断面(西から)



2. 77号住居掘り方土層断面(南から)



3. C区、I・II面住居群全景



4. 101号住居遺物出土状態全景(西から)



5. 101号住居カマド全景(西から)



1. 101号・126号住居掘り方全景(西から)



2. 101号住居カマド掘り方全景(西から)



3. 101号住居土層断面(西から)



4. 111号住居全景(西から)



5. 111号住居カマド全景(南から)



6. 111号・134号住居掘り方全景(西から)



7. 111号住居カマド掘り方全景(南から)



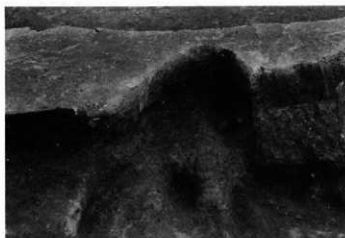
8. 111号・134号住居全景(西から)



1. 126号住居全景(北から)



2. 126号住居カマド全景(西から)



3. 126号住居カマド掘り方全景(西から)



4. 134号住居全景(西から)



5. 134号住居カマド掘り方全景(西から)



6. 134号住居掘り方全景(西から)



7. 105号住居カマド掘り方全景(西から)



8. 105号・114号・117号・112号住居全景(西から)



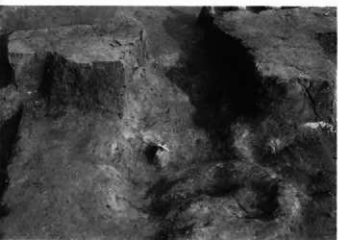
1. 105号・114号・117号・112号住居全景(北から)



2. 112号住居全景(北から)



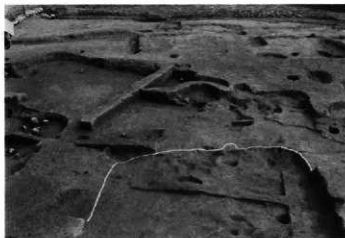
3. 112号住居カマド土層断面(西から)



4. 112号住居カマド掘り方全景(西から)



5. 112号住居掘り方全景(西から)



1. 112号住居掘り方全景(西から)



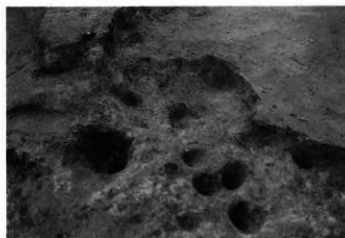
2. 113号住居全景(西から)



3. 113号住居掘り方全景(西から)



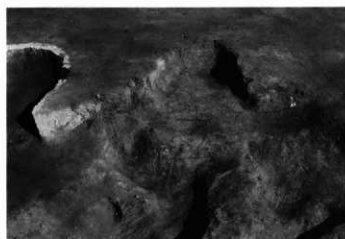
4. 113号住居カマド全景(西から)



5. 113号住居カマド掘り方(西から)



6. 114号住居カマド全景(西から)



7. 114号住居カマド掘り方全景(西から)



8. 129号住居全景(西から)



1. 129号住居掘り方全景(西から)



2. 129号住居カマド掘り方全景(西から)



3. 106号住居全景(西から)



4. 106号住居カマド全景(西から)



5. 106号住居掘り方全景(西から)



6. 106号住居カマド掘り方全景(西から)

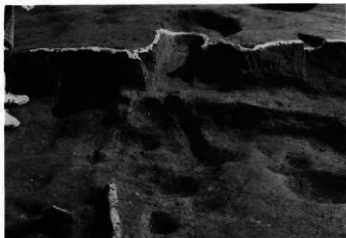


7. 106号住居カマド土層断面(南から)



8. 128号住居全景(西から)

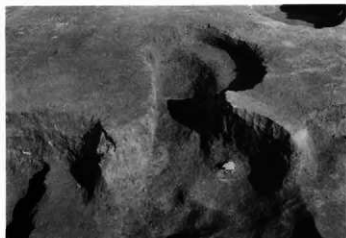




1. 128号住居カマド掘り方全景(西から)



2. 128号住居カマド掘り方全景(西から)



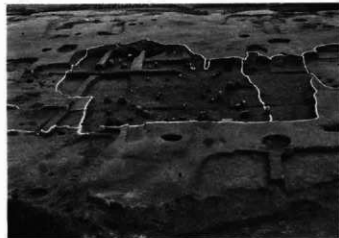
3. 135号住居カマド全景(西から)



4. 135号住居カマド掘り方全景(西から)



5. 135号住居遺物出土状態(北から)



6. 136号・137号・135号住居全景(西から)



7. 138号・136号住居カマド全景(北から)



8. 137号住居カマド掘り方全景(西から)



1. 138号・136号住居カマド掘り方全景(139号も同じ)



2. 100号住居全景(東から)



3. 100号住居掘り方全景(東から)



4. 115号住居全景(西から)



5. 115号住居カマド全景(西から)



6. 115号住居カマド掘り方全景(西から)



7. 115号住居掘り方全景(西から)



8. 115号住居カマド掘り方土層断面(西から)



1. 115号住居カマド土層断面(西から)



2. 119号住居全景(西から)



3. 119号住居カマド土層断面(西から)



4. 119号住居カマド土層断面(南から)



5. 120号住居全景(西から)



6. 120号住居カマド全景(西から)



7. 120号住居掘り方全景(西から)



8. 120号住居カマド掘り方全景(西から)



1. 130号住居全景(南から)



2. 132号住居掘り方全景(東から)



3. 132号住居カマド掘り方全景(南東から)



4. 132号住居カマド掘り方土層断面(南から)



5. 132号住居カマド掘り方土層断面(西から)



6. 102号住居掘り方全景



7. 102号住居カマド全景(西から)



8. 102号住居掘り方全景(西から)



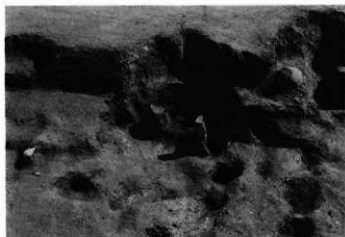
1. 102号住居カマド掘り方全景(西から)



2. 107号住居全景(西から)



3. 107号住居カマド全景(西から)



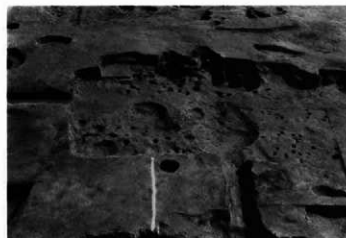
4. 107号住居カマド掘り方全景(西から)



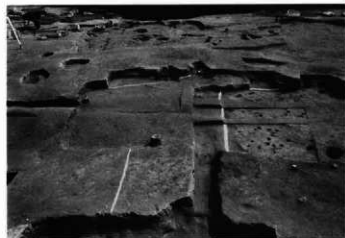
5. 107号住居カマド土層断面(北西から)



6. 107号住居カマド土層断面(南東から)



7. 107号・109号住居掘り方全景(西から)



8. 109号住居全景(西から)



1. 109号住居坏出土状態(西から)



2. 109号住居カマド全景(西から)



3. 109号住居貯蔵穴全景



4. 109号住居カマド掘り方全景



5. 110号住居全景(西から)



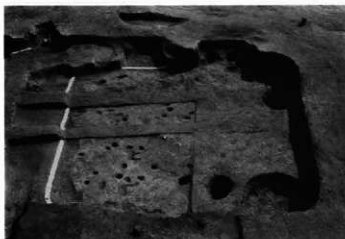
6. 110号住居カマド遺物出土状態(西から)



7. 110号住居カマド全景(西から)



8. 110号住居カマド全景(西から)



1. 110号住居掘り方全景(西から)



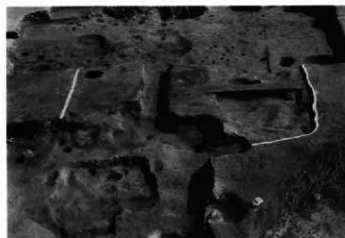
2. 110号住居カマド掘り方全景(西から)



3. 110号住居カマド掘り方・土層断面(西から)



4. 127号住居掘り方全景(西から)



5. 127号住居全景(西から)



6. 127号住居土層断面



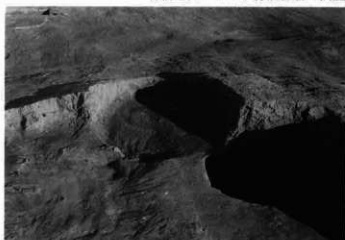
7. 127号住居掘り方土層断面



8. 24号住居全景(西から)



1. 24号住居貯蔵穴遺物出土状態(南西から)



2. 24号住居貯蔵穴全景(西から)



3. 103号・104号住居土層断面(北から)



4. 103号・104号住居掘り方全景(西から)



5. 103号住居カマド全景(西から)



6. 103号住居カマド掘り方全景



7. 103号住居遺物出土状態(南から)



8. 104号住居全景(西から)





1. 121号住居カマド全景(西から)



2. 121号住居掘り方全景(西から)



3. 121号住居カマド掘り方全景(西から)



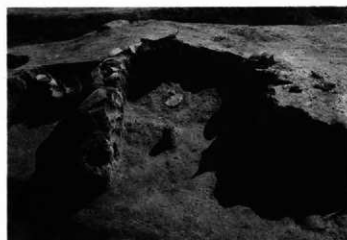
4. 121号住居全景(東から)



5. 121号住居掘り方土層断面(東から)



6. 121号住居掘り方全景(西から)



7. 124号住居カマド全景(西から)



8. 124号住居カマド遺物出土状態(西から)



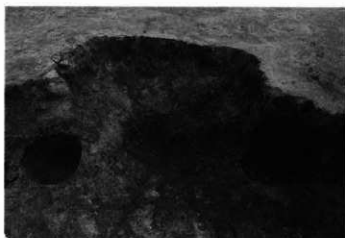
1. 124号住居カマド遺物出土状態(西から)



2. 124号住居掘り方全景(西から)



3. 124号住居掘り方遺物出土状態(西から)



4. 124号住居カマド掘り方全景(西から)



5. 124号住居カマド土層断面(南西から)



6. 125号住居全景(西から)



7. 125号住居カマド全景(西から)



8. 125号住居掘り方全景(西から)



1. 125号住居カマド掘り方土層断面(西から)



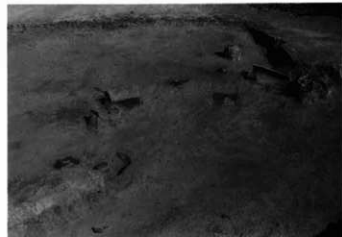
2. 36号・37号住居全景(東から)



3. 36号・37号住居掘り方全景(東から)



4. 1号住居土層断面(南から)



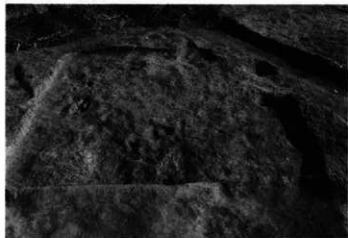
5. 1号住居遺物出土状態(南から)



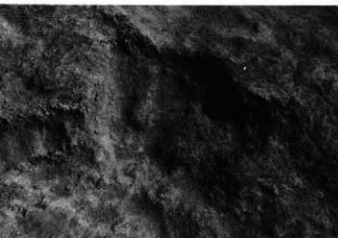
1. 1号住居全景(西から)



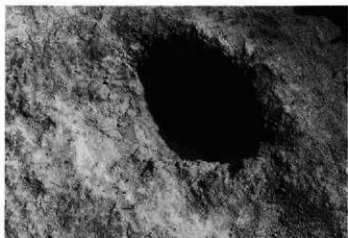
2. 1号住居遺物出土状態(西から)



3. 1号住居掘り方全景(西から)



4. 1号住居カマド掘り方全景(西から)



5. 1号住居貯蔵穴全景



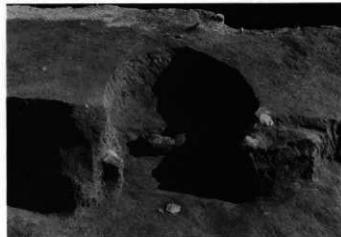
1. 3号住居全景(西から)



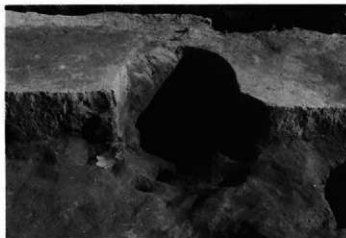
2. 3号住居貯蔵穴全景(西から)



3. 3号住居遺物出土状態(南西から)



4. 3号住居カマド全景(西から)



5. 3号住居カマド掘り方全景(西から)



6. 4号住居全景(西から)



7. 4号住居全景(東から)



8. 4号住居カマド全景(西から)



1. 4号住居南土器群出土状態



2. 4号住居南土器群



3. 4号住居遺物出土状態



4. 4号住居カマド遺物出土状態



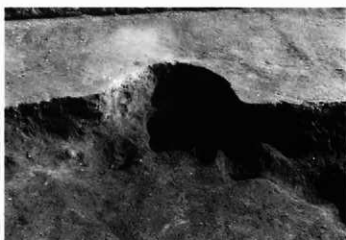
5. 4号住居南土器群下土坑



6. 4号住居全景(西から)



7. 5号住居カマド全景(南から)



8. 5号住居カマド掘り方全景(南から)



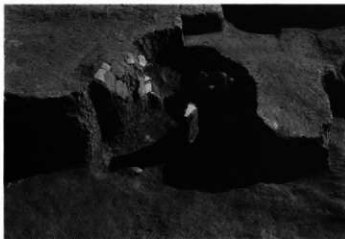
1. 5号住居全景(南から)



2. 6号住居全景(東から)



3. 6号・7号・8号住居全景(南から)



4. 6号住居カマド全景(西から)



5. 8号住居カマド全景(西から)



1. 8号住居全景(東から)



2. 8号住居カマド掘り方全景(西から)



3. 8号住居遺物出土状態



4. 9号住居全景(西から)



5. 9号住居カマド全景(西から)





1. 9号住居土層断面



2. 9号住居カマド掘り方全景(西から)



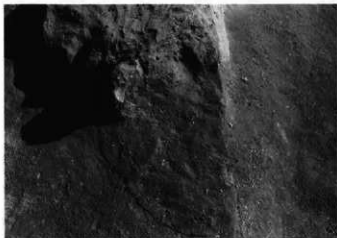
3. 10号住居全景(西から)



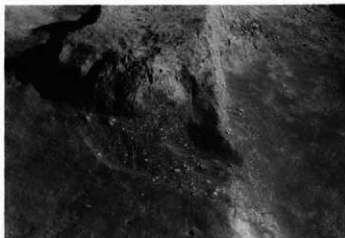
4. 10号住居カマド全景(西から)



5. 12号住居全景



6. 12号住居カマド全景



7. 12号住居カマド掘り方全景



8. 13号住居全景(西から)



1. 13号住居遺物出土状態



2. 14号住居全景



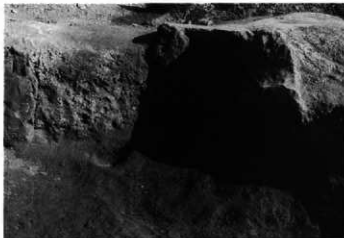
3. 14号住居遺物出土状態



4. 14号住居遺物出土状態



5. 14号住居遺物出土状態



1. 14号住居カマド掘り方全景



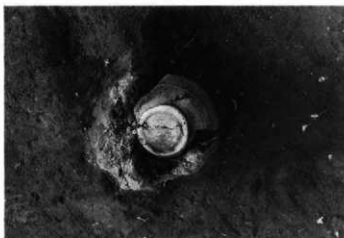
2. 15号住居全景



3. 15号住居カマド全景



4. 16号住居全景



5. 16号住居遺物出土状態



6. 16号住居カマド全景



7. 17号住居全景



8. 17号住居カマド掘り方全景



1. 18号住居全景



2. 18号住居カマド掘り方全景



3. 21号住居全景



4. 21号住居カマド全景



5. 21号住居遺物出土状態



1. 21号住居遺物出土状態



2. 21号住居遺物出土状態



1. 23号住居土層断面(南から)



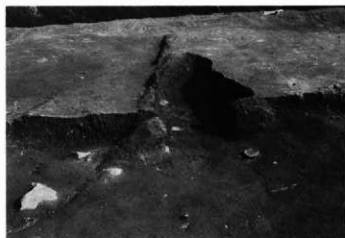
2. 23号住居土層断面(東から)



3. 23号住居全景(西から)



4. 23号住居遺物出土状態



5. 23号住居カマド全景(西から)



1. 23号住居カマド掘り方全景(西から)



2. 23号住居掘り方全景(西から)



3. 26号住居全景(西から)



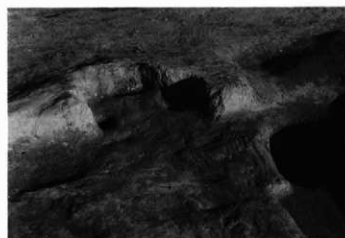
4. 26号住居土層断面(東から)



5. 26号住居カマド全景(西から)



6. 26号住居掘り方全景



7. 26号住居カマド掘り方全景(西から)



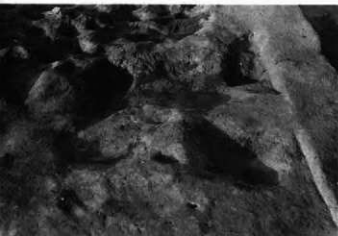
8. 32号住居全景(西から)



1. 32号住居カマド全景(南から)



2. 32号住居掘り方全景(南から)



3. 32号住居カマド掘り方全景



4. 33号住居全景(西から)



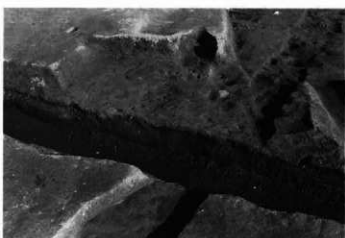
5. 33号住居掘り方全景(南から)



6. 40号住居全景(西から)



7. 40号・41号住居全景(西から)



8. 41号住居掘り方全景(西から)

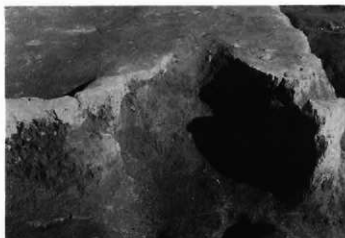




1. 40号住居カマド全景(西から)



2. 40号住居カマド掘り方全景



3. 41号住居カマド掘り方全景(西から)



4. 41号住居カマド土層断面(北から)



5. 41号住居カマド土層断面



6. 41号住居カマド土層断面



7. 41号住居掘り方全景(西から)



8. 41号住居カマド掘り方全景(西から)



1. 42号住居全景(東から)



2. D区住居群全景



1. 42号住居・66号溝土層断面(東から)



2. 42号住居・66号溝土層断面(南から)



3. 42号住居カマド遺物全景(南から)



4. 42号住居カマド土層断面(南西から)



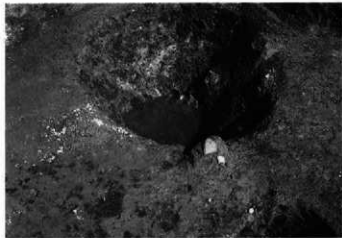
5. 42号住居カマド遺物出土状態



6. 42号住居貯蔵穴土層断面(南から)



7. 42号住居貯蔵穴遺物出土状態



8. 42号住居貯蔵穴遺物出土状態(東から)



1. 42号住居掘り方全景(東から)



2. 42号住居カマド掘り方全景(南から)



3. 42号住居カマド掘り方全景(南から)



4. 42号住居カマド掘り方土層断面(南から)



5. 43号・44号住居土層断面



1. 43号・44号住居全景(西から)



2. 44号住居北壁上層落ち込み



3. 44号住居土層断面



4. 45号・46号住居東西土層断面(南から)



5. 45号住居南北土層断面(西から)



6. 45号住居全景(南から)



7. 45号住居刀子出土状態全景(南から)



8. 45号住居掘り方全景(南から)



1. 46号住居全景(南から)



2. 46号住居掘り方全景(南から)



3. 46号住居南北土層断面(西から)



4. 47号住居南北土層断面(西から)



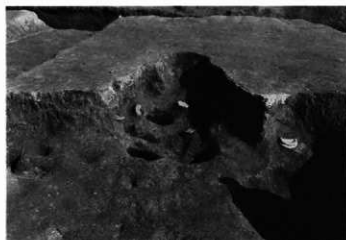
5. 47号住居全景(西から)



1. 47号住居カマド全景



2. 47号住居カマド掘り方土層断面



3. 47号住居カマド掘り方全景(西から)



4. 47号住居床下土坑土層断面(南から)



5. 47号住居掘り方全景(西から)



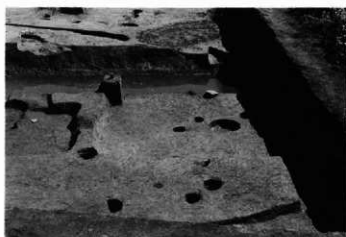
1. 47号住居掘り方土層断面



2. 48号住居全景(東から)



3. 48号住居土層断面



4. 48号住居掘り方全景(西から)



5. 49号住居全景(西から)



6. 48号・49号住居全景(東から)



7. 49号住居全景

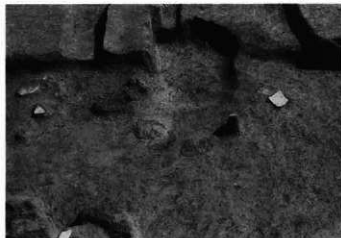


8. 49号住居土層断面(南から)

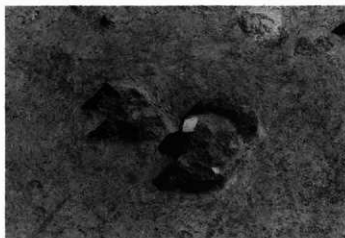




1. 49号住居土層断面



2. 49号住居全景



3. 49号住居遺物出土状態(西から)



4. 49号住居遺物出土状態



5. 49号住居カマド全景(西から)



6. 49号住居カマド土層断面



7. 49号住居カマド土層断面



8. 49号住居隅り方全景



1. 49号住居カマド掘り方全景



2. 49号住居掘り方土層断面(東西から)



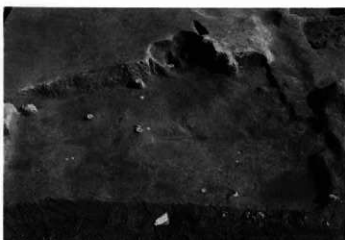
3. 49号住居掘り方土層断面(南北から)



4. 50号住居南北土層断面(西から)



5. 50号住居東西土層断面(南から)



6. 50号住居全景(西から)



7. 50号住居カマド全景(西から)



8. 50号住居貯蔵穴土層断面(西から)



1. 50号住居掘り方全景(西から)



2. 50号住居カマド掘り方全景(西から)



3. 51号住居全景(西から)



4. 51号住居南北土層断面(西から)



5. 51号住居東西土層断面(南から)



6. 51号住居遺物出土状態(西から)



7. 51号住居遺物出土状態(西北から)



8. 51号住居掘り方全景(西から)



1. 51号住居カマド掘り方全景(西から)



2. 52号住居土層断面(南から)



3. 52号住居全景(西から)



4. 52号住居土層断面(西から)



5. 52号住居耳環出土状態(北西から)



1. 52号住居カマド全景(西から)



2. 52号住居掘り方全景(西から)



3. 53号住居南北土層断面(東から)



4. 53号住居全景(東から)



5. 58号住居全景(西から)



6. 58号住居全景(南から)



7. 59号住居全景(南から)



8. 60号住居全景(西から)



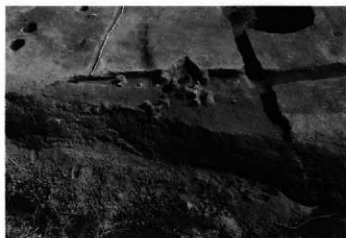
1. 60号住居土層断面(東から)



2. 61号住居全景(西から)



3. 61号住居掘り方全景(北から)



4. 62号住居全景(西から)



5. 62号住居カマド全景(西から)



6. 62号住居カマド掘り方全景(西から)



7. 65号住居カマド全景(西から)



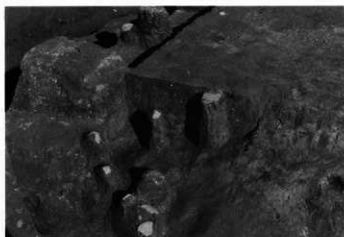
8. 65号住居全景(西から)



1. 78号住居掘り方全景(西から)



2. 78号住居土層断面(西から)



3. 78号住居カマド土層断面(南から)



4. 78号住居遺物出土状態(東壁付近)



5. 78号住居貯蔵穴全景



6. 78号住居カマド掘り方全景(西から)



7. 79号住居土層断面(西から)



8. 79号住居東カマド土層断面



1. 79号住居カマド土層断面



2. 79号住居カマド掘り方全景(西から)



3. 80号住居全景(西から)



4. 80号住居土層断面(南西から)



5. 80号住居カマド全景(西から)



6. 80号住居掘り方全景(西から)



7. 80号住居カマド掘り方全景(西から)



8. 81号住居掘り方全景(西から)





1. 81号住居カマド全景(北から)



2. 81号・82号住居全景(西から)



3. 82号住居掘り方全景(西から)



4. 86号住居全景(西から)



5. 86号住居カマド付近遺物出土状態(西から)



6. 86号住居掘り方全景(西から)



7. 89号住居全景



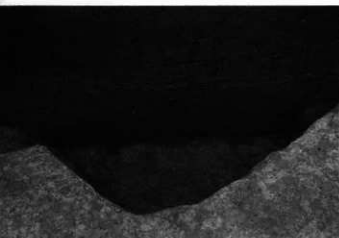
8. 89号住居掘り方全景(西から)



1. 133号住居カマド掘り方全景



2. 108号住居全景



3. 108号住居全景



4. 116号住居全景



5. 118号住居全景(西から)



6. 141号住居掘り方全景(西から)



7. 141号住居カマド全景(西から)



8. 141号住居掘り方全景(西から)



1. 141号住居全景(西から)



2. 142号住居全景(西から)



3. 142号住居カマド全景(西から)



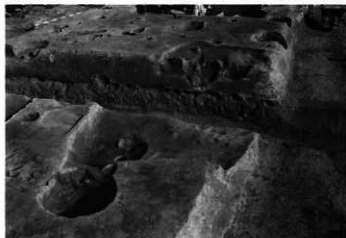
4. 142号住居カマド掘り方全景(西から)



5. 144号住居カマド掘り方全景(西から)



1. 144号住居カマド掘り方全景(西から)



2. 144号住居全景(西から)



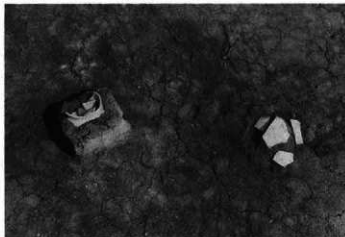
3. 141号～145号住居全景(西から)



4. 下り柳地区1号住居全景(西から)



5. 下り柳地区1号住居遺物出土状態(西から)



1. 下り柳地区1号住居遺物出土状態(西から)



2. 下り柳地区1号住居カマド土層断面(南西から)



3. 下り柳地区1号住居カマド土層断面(北東から)



4. 下り柳地区1号住居掘り方全景(西から)



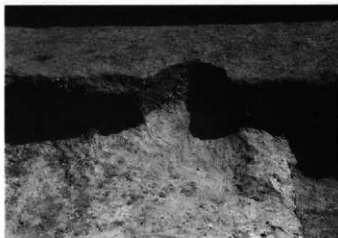
5. 下り柳地区1号住居貯蔵穴土層断面(南から)



6. 下り柳地区1号住居貯蔵穴土層断面(西から)



7. 下り柳地区1号住居カマド全景(西から)



8. 下り柳地区1号住居カマド掘り方全景(西から)



1. 下り柳地区1号住居掘り方及び西側ピット(西から)



2. 下り柳地区2号住居全景(北西から)



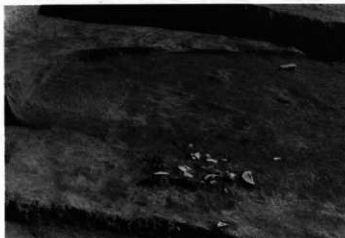
3. 下り柳地区2号住居カマド掘り方全景



4. 下り柳地区2号住居全景(北から)



5. 2号住居全景



1. 2号住居遺物出土状態



2. 2号住居遺物出土状態



3. 2号住居炉全景



4. 2号住居炉全景



5. 10号住居全景(南から)



1. 19号住居遺物出土状態



2. 19号住居遺物出土状態



3. 19号住居遺物出土状態



4. 19号住居遺物出土状態



5. 20号住居全景(西から)





1. 20号住居全景(西から)



2. 20号住居遺物出土状態



3. 20号住居遺物出土状態



4. 20号住居遺物出土状態



5. 20号住居炭化材出土状態



1. 20号住居炭化材出土状態



2. 20号住居遺物出土状態



3. 20号住居炭化材出土状態



4. 20号住居遺物出土状態



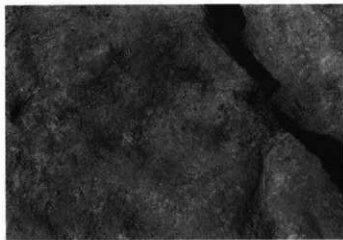
5. 93号住居全景(東から)



1. 93号・94号住居全景(東から)



2. 93号住居炉全景(東から)



3. 94号住居炉全景(東から)



4. 93号・94号住居全景(西から)



5. 98号住居全景(南東から)



1. 99号住居全景(西から)



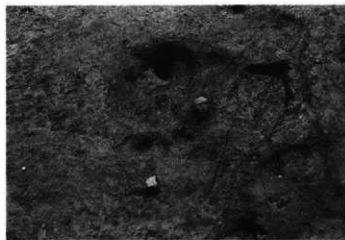
2. 99号住居遺物出土状態(西から)



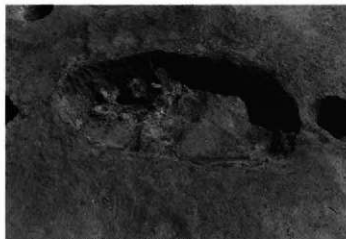
1. 99号住居全景(西から)



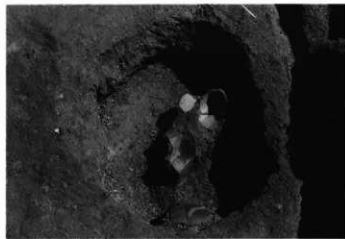
2. 99号住居遺物出土状態



3. 99号住居炉全景(北から)



4. 99号住居貯蔵穴1 遺物出土状態



5. 99号住居貯蔵穴2 遺物出土状態



1. 147号住居上層遺物出土状態全景(西から)



2. 147号住居土層断面(手前)148号住居上層遺物出土状態(西から)



3. 148号住居全景(西から)



4. 148号住居貯蔵穴土層断面(東から)



5. 148号住居台付楽型土器出土状態(東から)



1. 147号・148号住居全景(西から)



2. 148号住居掘り方全景(西から)

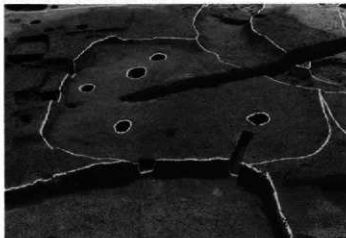


1. 149号住居全景



2. 149号住居掘り方全景





1. 149号住居掘り方全景



2. 149号住居炉土層断面



3. 150号住居全景及び南北土層断面



4. 151号住居全景



5. 151号住居全景



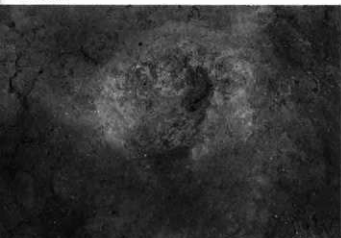
6. 151号住居周辺遺構検出作業



7. 151号住居焼土1



8. 151号住居焼土1



1. 151号住居焼土2



2. 152号住居全景(東から)



3. 152号住居全景(西から)



4. 152号住居土層断面(東から)



5. 152号住居土層断面(南から)



6. 153号住居全景(西から)



7. 153号住居全景(西から)



8. 153号住居遺物出土状態



1. 153号住居掘り方全景



2. 153号住居遺物出土状態



3. 153号住居白玉出土状態



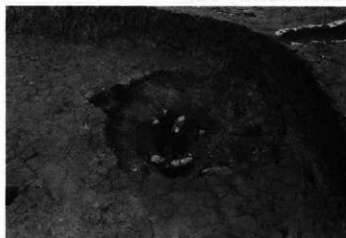
4. 153号住居炉全景



5. 153号住居炉土層断面



1. 153号住居南壁寄り



2. 153号住居貯蔵穴遺物出土状態



3. 154号住居東西土層断面



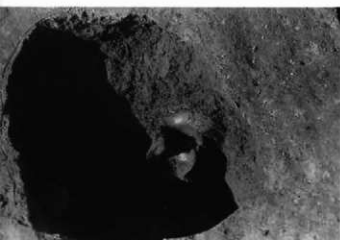
4. 154号住居全景



5. 154号住居遺物出土状態



6. 154号住居遺物出土状態



7. 154号住居ピット16遺物出土状態



8. 154号住居貯蔵穴土層断面



1. 154号・169号住居全景



2. 169号住居全景



1. 169号住居全景



2. 169号住居遺物出土状態



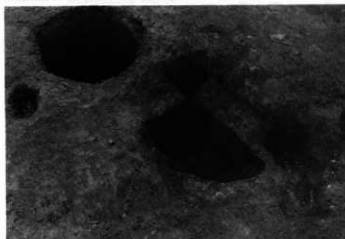
3. 169号住居遺物出土状態



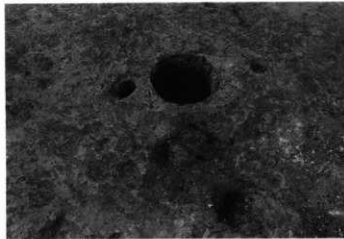
4. 169号住居炉1土層断面



5. 169号住居炉1全景



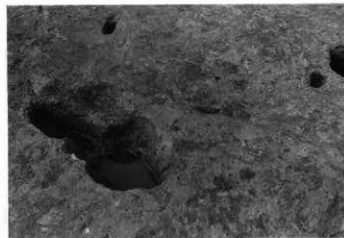
1. 169号住居炉2土層断面



2. 169号住居炉2全景



3. 169号住居炉3土層断面



4. 169号住居炉3全景



5. 155号住居全景



6. 155号住居全景



7. 155号住居遺物出土状態



8. 155号住居炉全景



1. 155号住居貯蔵穴土層断面



2. 156号住居全景



3. 156号住居全景



4. 156号住居遺物出土状態



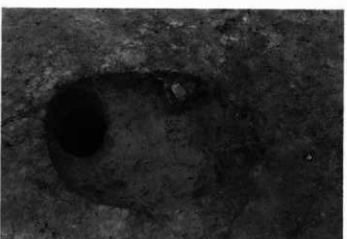
5. 156号住居ピット 碓板出土状態



6. 157号住居東西土層断面



7. 157号住居炉土層断面



8. 157号住居炉全景





1. 157号住居全景(西から)



2. 157号住居全景(西から)



1. 157号住居貯蔵穴全景



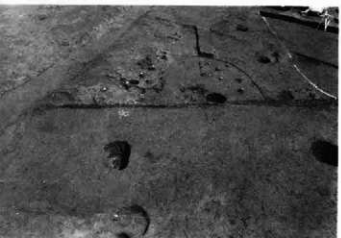
2. 157号住居遺物出土状態



3. 157号住居遺物出土状態



4. 165号住居全景



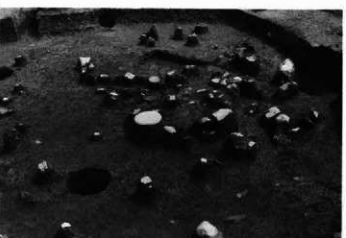
5. 165号住居全景



6. 158号住居全景(南から)



7. 158号住居全景(東から)



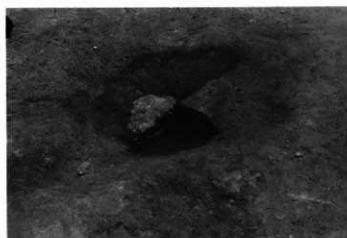
8. 158号住居遺物出土状態



1. 158号住居炉全景



2. 158号住居炉土層断面



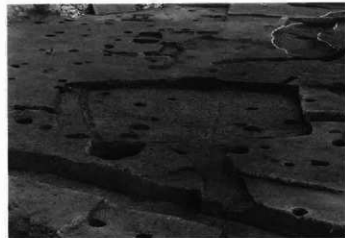
3. 158号住居炉土層断面



4. 159号住居全景



5. 159号住居土層断面



6. 159号住居全景



7. 159号住居遺物出土状態



8. 160号住居床下土層断面(南から)



1. 160号住居全景(南西から)



2. 160号住居炉土層断面(南西から)



3. 160号住居全景(西から)



4. 161号住居全景(西から)



5. 162号・163号住居土層断面



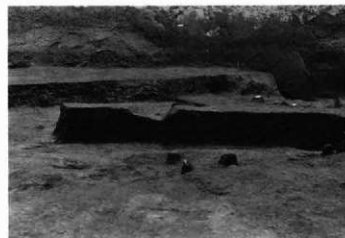
1. 162号・163号・164号住居全景(西から)



2. 162号・163号・164号住居全景(西から)



3. 166号住居全景(西から)



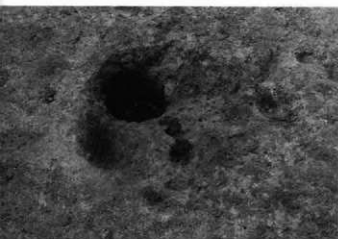
4. 166号住居勾玉出土状態(南から)



5. 166号住居遺物出土状態(西から)



1. 166号住居全景(西から)



2. 166号住居炉1全景(南から)



3. 166号住居炉1土層断面(南東から)



4. 166号住居炉1土層断面(北西から)



5. 166号住居炉2全景(南から)



1. 166号住居炉2土層断面(南西から)



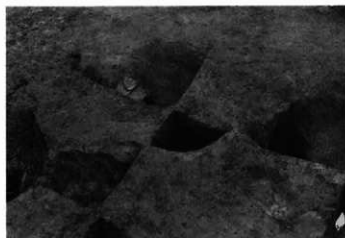
2. 166号住居炉2土層断面



3. 166号住居炉3全景(南から)



4. 166号住居炉3土層断面(南西から)



5. 166号住居炉3土層断面(北東から)



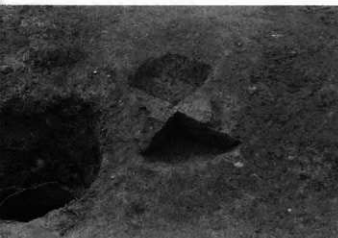
6. 166号住居炉4全景(南から)



7. 166号住居炉4土層断面(南西から)



8. 166号住居炉4土層断面(北東から)



1. 166号住居炉5土層断面(南西から)



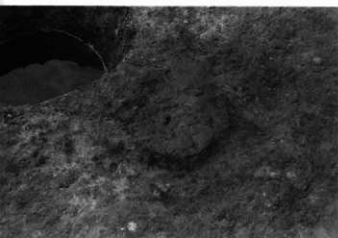
2. 166号住居炉5土層断面(北東から)



3. 166号住居炉6土層断面(南西から)



4. 166号住居炉6土層断面(北東から)



5. 166号住居炉5全景(南から)



6. 166号住居炉6全景(南から)

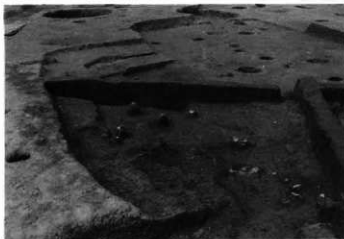


7. 166号住居炉5土層断面(南から)



8. 166号・167号住居土層断面(西から)





1. 166号・167号住居土層断面(南から)



2. 167号住居床下自然堆積谷断面(南東から)



3. 166号・167号・177号住居周辺の住居分布



4. 168号住居遺物出土状態(南から)



5. 168号住居炉全景(南から)



1. 168号住居全景(西から)



2. 168号住居全景(西から)



1. 168号住居炉土層断面(北から)



2. 171号住居東西土層断面(南から)



3. 171号住居全景(西から)



4. 171A号住居遺物出土状態(西から)



5. 171A号住居遺物出土状態(西から)



1. 171A号住居遺物出土状態(西から)



2. 171A号住居遺物出土状態(西から)



3. 171A号住居南北土層断面(西から)



4. 171A号住居ピット5柱根



5. 171A号住居ピット4礎板出土状態(南西から)



6. 171A号住居ピット4礎板出土状態



7. 171B号住居炉1全景(西から)



8. 171B号住居炉1土層断面(南西から)



1. 171B号住居全景(西から)



2. 171B号住居全景(西から)



1. 171B号住居炉1土層断面



2. 171B号住居炉2土層断面(南西から)



3. 171B号住居炉2土層断面(北東から)



4. 171B号住居炉掘り方全景(北から)



5. 171B号住居 ビット土層断面(西から)



6. 171B号住居ビット10横板出土状態(南西から)



7. 172号住居全景(西から)



8. 172号住居東西土層断面(南から)



1. 172号住居南北土層断面(西から)



2. 172号住居全景(西から)



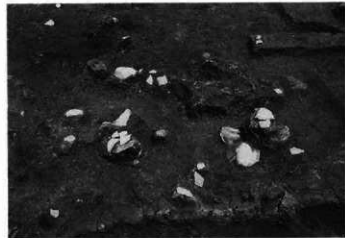
3. 172号住居遺物出土状態(北から)



4. 172号住居遺物出土状態(北から)



5. 172号住居遺物出土状態(南東から)



6. 172号住居遺物出土状態(南から)



7. 172号住居遺物出土状態(南東から)



8. 172号住居ビット1土層断面(南から)



1. 172号住居ピット2・3土層断面(南から)



2. 172号住居ピット4・17土層断面(南から)



3. 172号住居ピット4土層断面(南から)



4. 172号住居ピット5土層断面(南から)



5. 172号住居ピット7土層断面(南から)



6. 172号住居ピット8土層断面(南から)

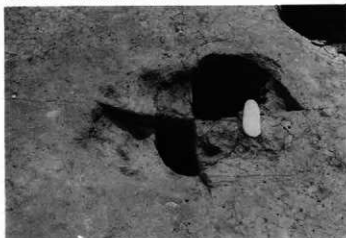


7. 172号住居ピット9土層断面(南から)



8. 172号住居炉土層断面(北西から)





1. 172号住居炉土層断面(北東から)



2. 172号住居炉ピット12土層断面(北から)



3. 172号住居炉全景(西から)



4. 172号住居炭化材出土状態(西から)



5. 173A号住居全景(北から)



1. 173A号・B号住居全景(南から)



2. 弥生時代住居群の調査



1. 173A号・B号住居全景(西から)



2. 173B号住居遺物出土状態



3. 173B号住居ピット7 礎板出土状態



4. 173B号住居ピット7 土層断面



5. 173A号住居炉全景



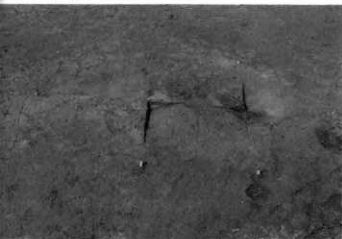
6. 173A号住居土層断面



7. 173B号住居炉土層断面



8. 174号住居全景



1. 174号住居伊土層断面



2. 174号住居貯蔵穴土層断面



3. 175号住居南北土層断面(東から)



4. 175号住居東西土層断面(南から)



5. 175号住居全景(西から)



1. 175号住居炉1土層断面(南から)



2. 175号住居炉1土層断面(西から)



3. 175号住居炉2土層断面(北東から)



4. 175号住居炉2土層断面(南西から)



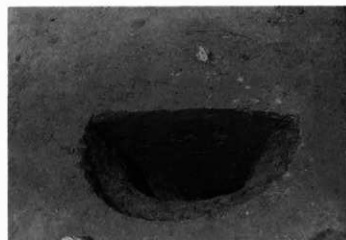
5. 175号住居ピット1土層断面(南から)



6. 175号住居ピット2土層断面(南から)



7. 175号住居ピット3土層断面(南から)



8. 175号住居ピット4土層断面(南から)



1. 175号住居ピット6土層断面(南から)



2. 175号住居ピット10土層断面(南から)



3. 175号住居ピット11土層断面(南から)



4. 175号住居ピット12土層断面(南から)



5. 176号住居全景(西から)



6. 176号住居ピット1土層断面



7. 177号住居南北土層断面(西から)



8. 177号住居遺物出土状態(南から)



1. 177号住居全景(西から)



2. 177号住居炉全景(南から)



3. 177号住居炉全景(北東から)



4. 177号住居炉全景(西から)



5. 177号住居炉土層断面(北から)



1. 177号住居炉土層断面



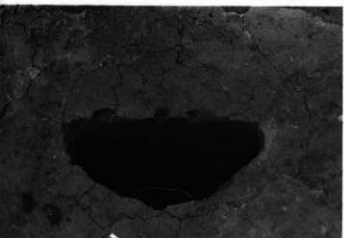
2. 177号住居炉掘り方全景(西から)



3. 177号住居ピット1土層断面(南から)



4. 177号住居ピット2土層断面(南から)



5. 177号住居ピット3土層断面(南から)



6. 177号住居貯蔵穴土層断面(北から)



7. 177号住居貯蔵穴全景(南から)

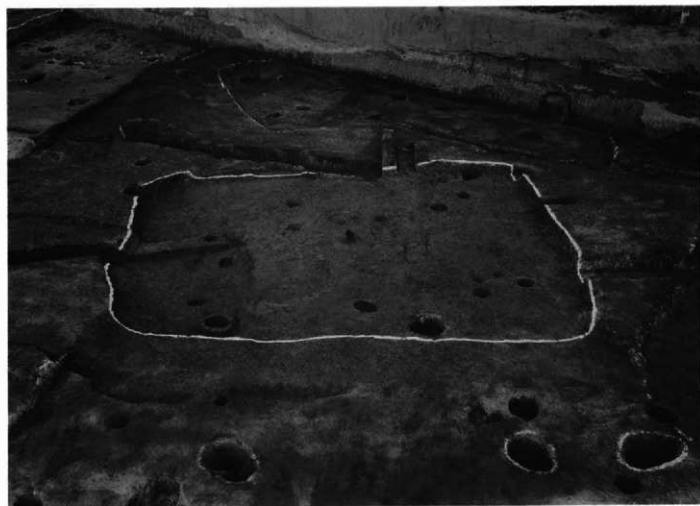


8. 178号住居土層断面(南から)





1. 178号住居全景(西から)



2. 178号住居全景(西から)



1. 1号竪穴状遺構全景(東から)



2. 1号竪穴状遺構土層断面(南から)



3. 1号竪穴状遺構土層断面(西から)



4. 2号竪穴状遺構全景(東から)



5. 3号・4号竪穴状遺構土層断面(東から)



6. 3号・4号竪穴状遺構全景(西から)

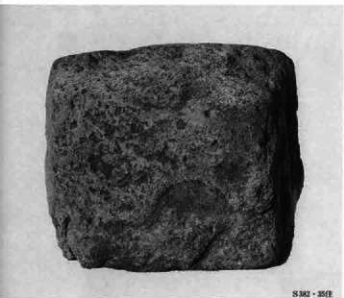


7. 下り柳地区1号竪穴状遺構全景(西から)



8. 下り柳地区2号竪穴状遺構全景(西から)





S.382・35E



S.383・35E



1042・63E



1043・63E



1044・63E



1045・63E



1048・63E



1046・63E



1045・63E



1050・64E



1123・64E



1051・64E





S 416・64E



S 417・64E



S 420・64E



S 419・64E



S 415・64E



S 418・64E



S 421・64E



S 422・64E



1059・66E



1058・66E



901・36E



S 384・39E



1022・50E



1023・57E



1030・56E



1029・56E



S 390・56E

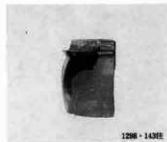
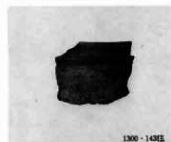


S 397・56E



S 398・56E







1062・68E



1063・68F



1069・68E



S 425・68E



1064・68E



1061・68E



1066・68E



S 423・68E



S 424・68E



S 426・68E



1071・71F



1072・71B



1073・71E



1076・73E



1077・73B



1065・74E



1066・74E



1080・74E



1079・74E







1144・90E



S 446・90E



S 470・90E



1091・75E



1090・75E



S 433・76E



S 469・90E



1100・76E



1097・76E



1096・76E



1095・76E



1101・76E



1104・76E



1099・76E



1098・76E

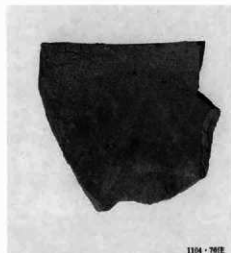
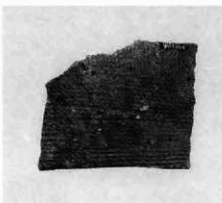


1107・77E



1106・76E









1107・114E



1208・114E



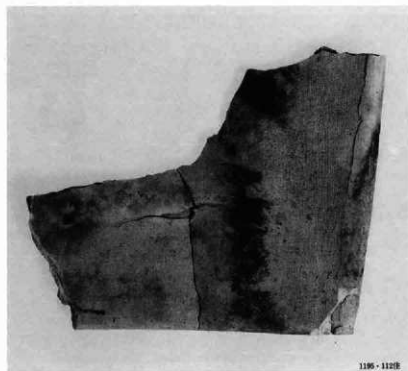
1196・112E



1205・114E



1204・114E



1196・112E



S 457・129E



S 456・129E



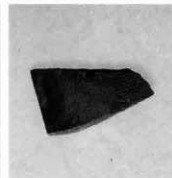
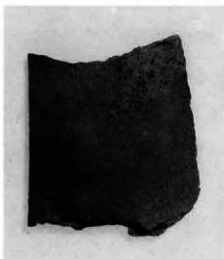
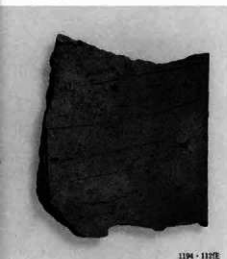
S 455・129E

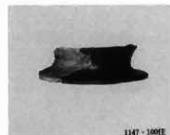
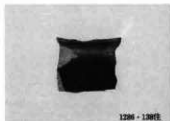
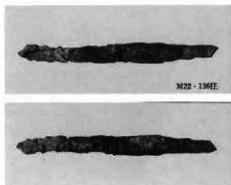


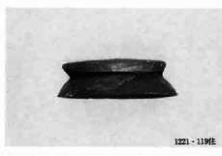
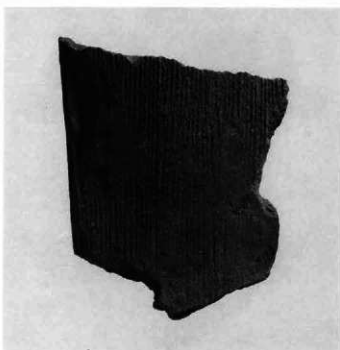
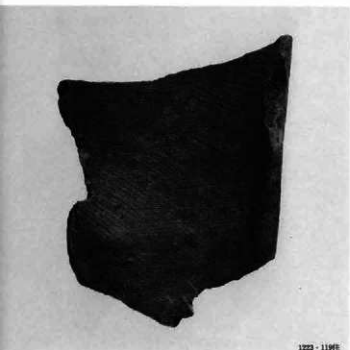
S 454・129E



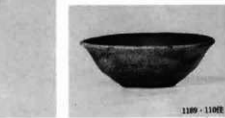
1208・129E

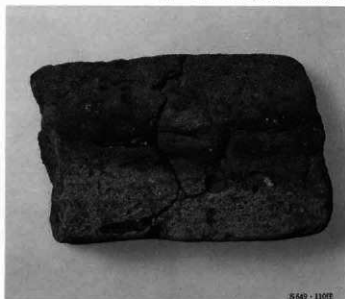












S649・110E



S647・107E



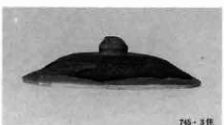
S648・110E

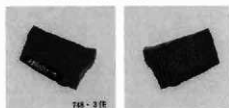


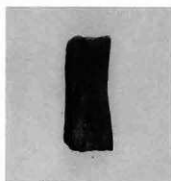
1264・127E

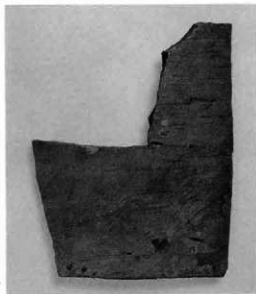
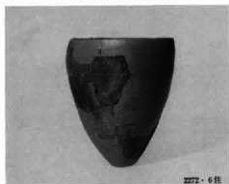


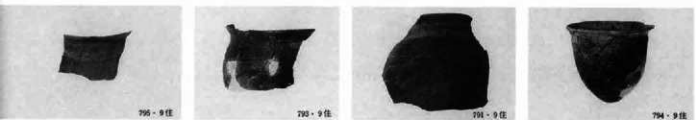
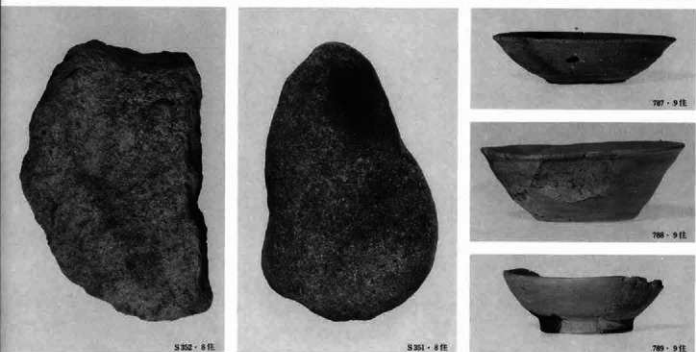
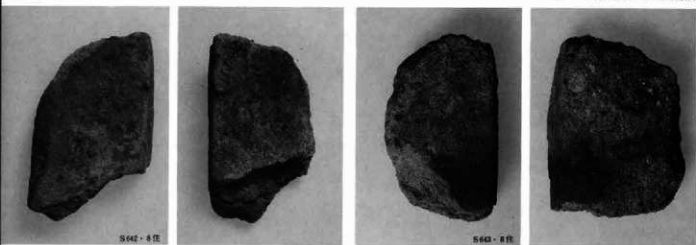








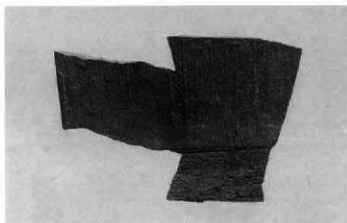




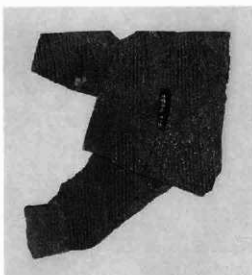




797 - 9住



798 - 9住



S473 - 9住



M11 - 9住



S356 - 9住



S357 - 9住



S358 - 9住



S360 - 9住



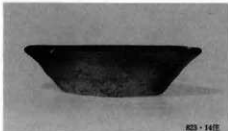
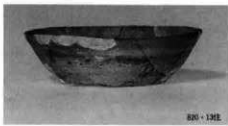
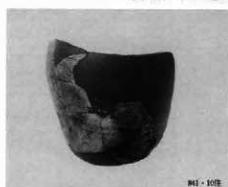
S359 - 9住

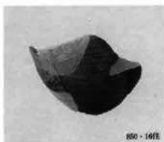
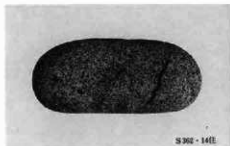


S361 - 9住



S364 - 9住







856・18E



S 364・18E



S 367・18E



865・21E



866・21E



867・21E



868・21E



869・21E



870・21E



871・21E



872・21E



873・21E



874・21E



875・21E



876・21E



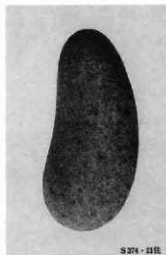
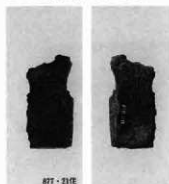
884・21E



885・21E



888・21E





878・23E



882・23E



886・23E



881・23E



S 379・23E



909・34E



M13・36E



908・36E



M17・36E



945・40E



939・40E



940・40E



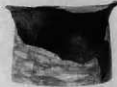
947・40E



S.381・32E



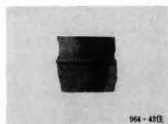
948・40E

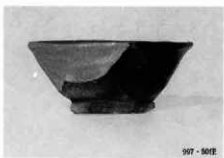
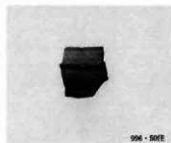
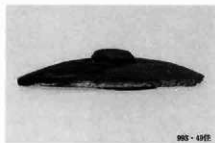
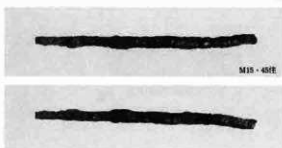


904・30E

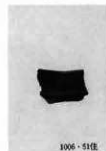


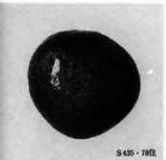
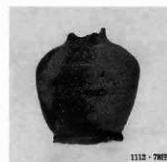
900・41E













1114・79E



1116・79E



1115・79E



1117・79E



1127・81E



1127・81E



1126・81E



1125・81E



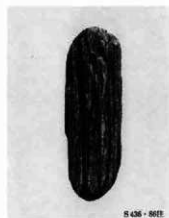
1129・80E



1130・80E



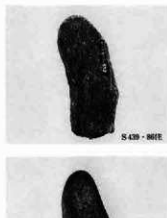
1133・80E



S 436・80E



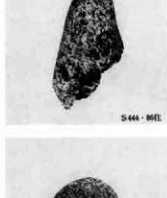
S 438・80E



S 439・80E



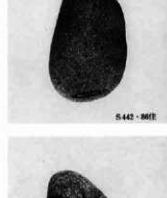
S 440・80E



S 441・80E



S 443・80E



S 442・80E



S 441・80E



S 440・80E



S 427・80E





1215・116E



1219・118E



1291・141E



1294・141E



S463・141E



S464・141E



1295・142E



1296・142E



1301・下り柳1住



1308・下り柳1住



1302・下り柳1住



1304・下り柳1住



1306・下り柳1住



1309・下り柳1住



1300・下り柳1住



1305・下り柳2住



1350・下り柳1住

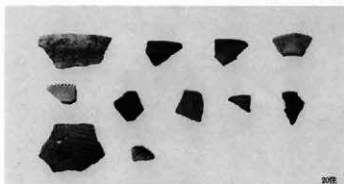


1353・下り柳2住





20E



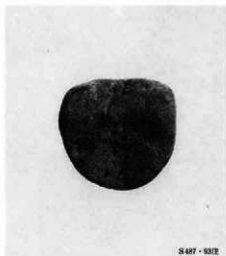
20E



30E



S 476・92E



S 487・93E



S 636・93E



S 477・92E



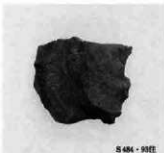
S 479・92E



S 481・92E



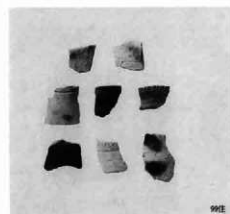
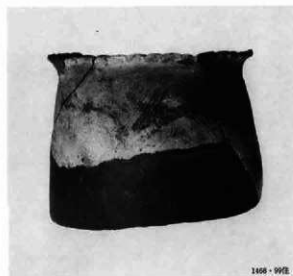
S 480・92E



S 484・92E



S 483・92E





S 498・99E



S 500・99E



S 499・99E



S 502・99E



S 507・99E



S 504・99E



S 506・99E



S 508・99E



S 510・147E



S 505・99E



S 531・147E



S 512・147E



1491・148E



1495・148E



1493・148E



S 514・148E



1492・148E



1648・149E



1497・149E





S 500・149E



S 517・149E



S 518・149E



S 523・149E



S 524・151E



S 521・149E



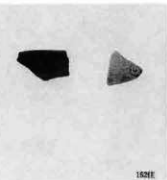
151E



S 526・151E



152E



S 527・152E



1510・152E



1511・152E



1513・152E



1514・152E



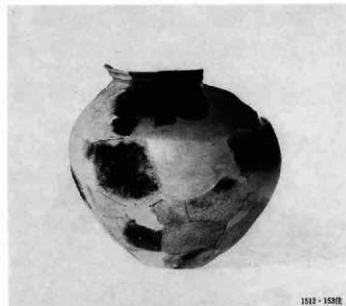
1515・152E



1519・152E



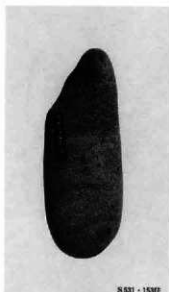
1523・152E

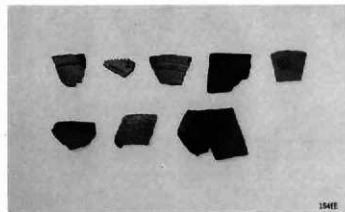
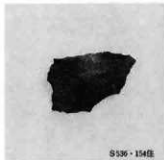
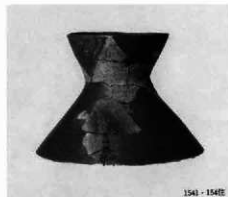


1522・152E



1607・1608・153E







S534・154B



2170・149E



1402・149E



1463・149E



1467・149E



1784・149E



1814・149E



1806・149E



1466・149E



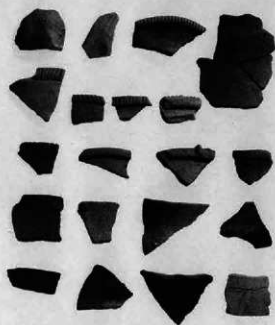
1445・149E



1401・149E



1400・149E



149E



1468・149E



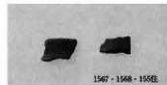
S544・149E

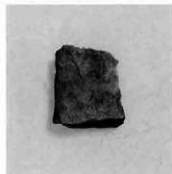
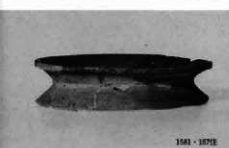


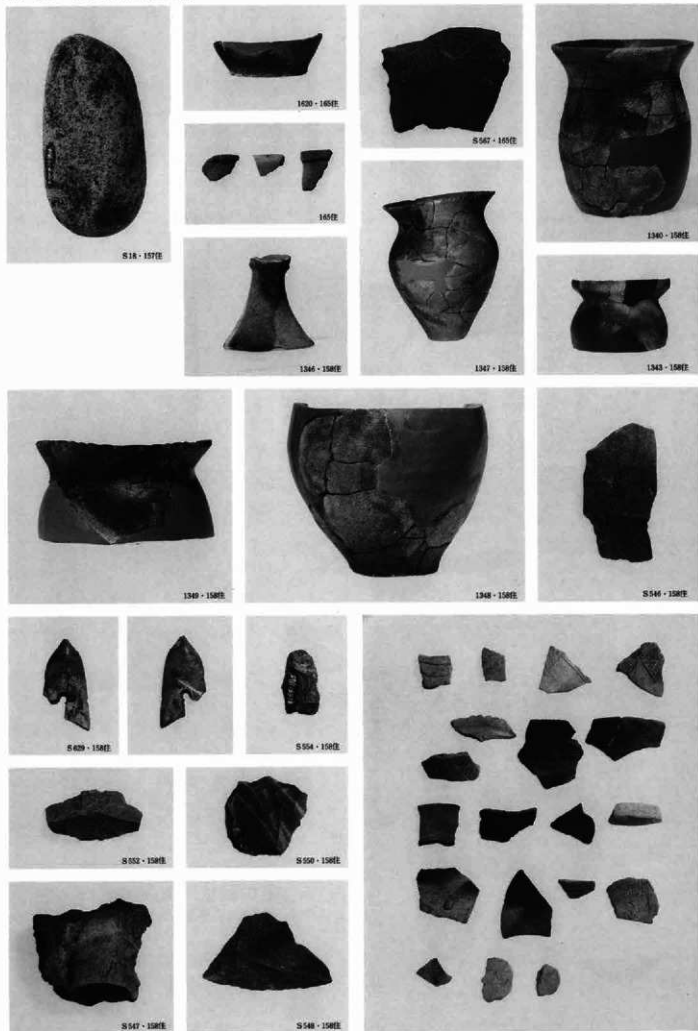
S542・149E

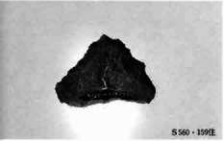
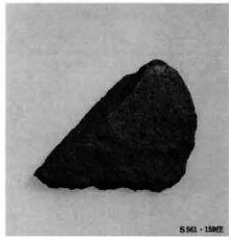
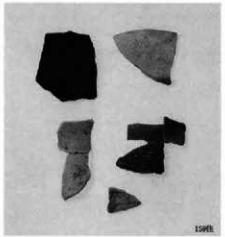


S543・149E

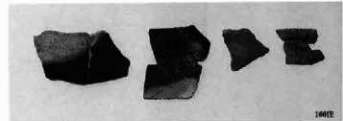
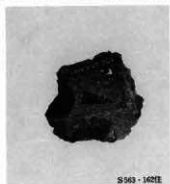


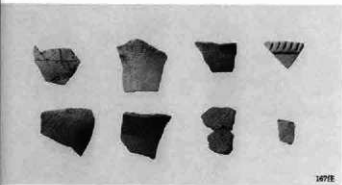












167E



S572・167E



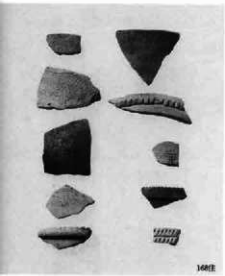
S575・167E



S573・167E



1648・168E



168E



S577・168E



S576・168E



1716・171A E



1715・171A E



1708・171A E



W1096・171A E



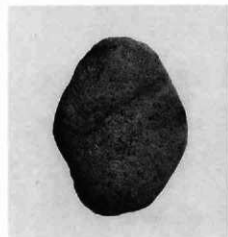
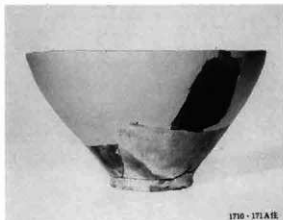
1704・171A E

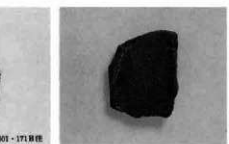
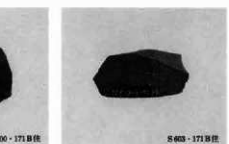
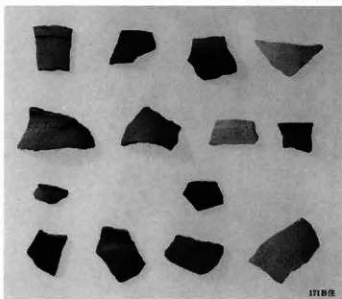


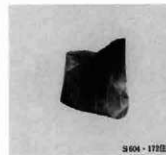
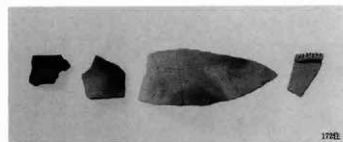
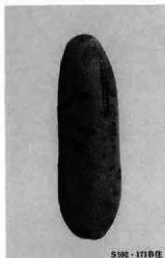
1708・171A E



W812・171A E









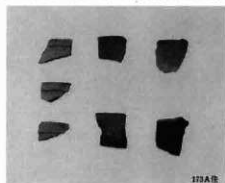
1303・173A住



1302・173A住



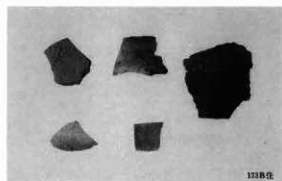
S613・173A住



173A住



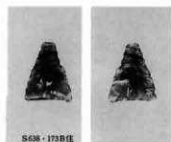
1305・173B住



173B住



S400・173B住



S408・173B住



S612・173B住



S611・173B住



S614・173B住



1400・174住



W611(1)・173B住



W611(2)・173B住



S605・174住



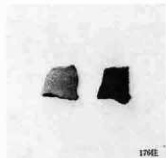
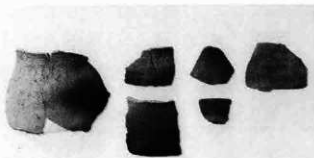
S615・174住



1402・175住



1412・175住

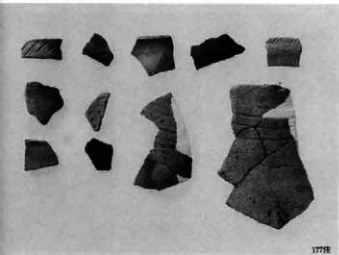




S623・177E



S624・177E



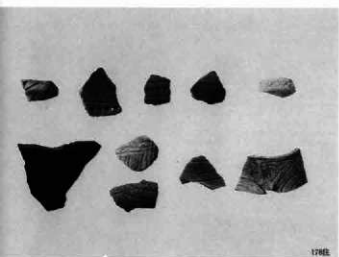
177E



1783・178E



1782・178E



178E



1791・178E



1346・3 壺穴



1347・4 壺穴



723・ピット85



724・ピット87



# 新保田中村前遺跡Ⅱ

〈本文編〉

一級河川桑谷川河川改修工事に伴う  
埋蔵文化財発掘調査報告書第2分冊

平成4年3月16日 印刷

平成4年3月26日 発行

編集／財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団  
勢多郡北橋村大字下箱田784番地の2  
電話 (0279) 52-2511(代表)

発行／群馬県考古資料普及会  
勢多郡北橋村大字下箱田784番地の2  
電話 (0279) 52-2511(代表)

印刷／株式会社 前橋印刷所